



TOHOKU  
UNIVERSITY

2020年度

東北大学 災害科学国際研究所  
活動報告書

Annual Report

International Research Institute of Disaster Science

Tohoku University



IRIDES

# 目次

1	巻頭言	1
2	研究所の概要	
(1)	基本理念	3
(2)	沿革・設置目的	3
(3)	中期目標・中期計画	4
(4)	組織運営活動	5
(5)	研究活動	6
(6)	教育活動	12
(7)	社会貢献活動	12
(8)	自己評価	16
3	組織運営活動	
(1)	研究組織、人員配置及び会議・委員会	21
A	研究組織	21
B	研究所長・副研究所長・教育研究評議員・研究所長補佐等	22
C	教員数	22
D	教員等の配置	23
E	研究所内会議・委員会	28
(2)	研究資金	
A	歳出決算	31
B	研究者一人あたりの研究費	32
C	科学研究費補助金採択状況	33
D	外部資金受入状況	34
E	寄附金の受入状況	36
4	研究活動	
(1)	研究部門・研究分野の研究活動	39
(2)	プロジェクトエリア・ユニットの研究活動	63
(3)	共同研究プロジェクトの研究活動	75
(4)	専任教員の研究・教育・社会活動	147
①	災害リスク研究部門	147
②	人間・社会対応研究部門	183

③地域・都市再生研究部門	227
④災害理学研究部門	251
⑤災害医学研究部門	261
⑥情報管理・社会連携部門	312
⑦寄附研究部門	340
⑧広報室	353
<b>5 教育活動</b>	<b>355</b>
<b>6 研究成果の社会発信</b>	
（1）刊行物	357
（2）IRIDeS 金曜フォーラム	358
（3）展示	362
（4）各種メディアでの紹介	363
<b>7 国際交流</b>	<b>373</b>
<b>8 関係・協力団体</b>	<b>379</b>

# 1 卷頭言

## 巻頭言

2021年3月11日、東日本大震災から10年を迎えました。この日、当時を振り返り、これまでに得られた経験と教訓をもとに新たに活動を進めていくことを誓いました。コロナ禍のため、昨年度は対面でのシンポジウムなどの実施は限られましたが、オンライン等を活用して広くご参加いただき、現状や課題に関する議論を広く行うことができました。キーワードの一つが「10年の節目」でした。

「節目」(ふしめ)は複数の意味がある興味深い言葉です。第一に、「一段落」(いちだんらく)と同じ意味があり、これは「物事が片付いて終わる、忘れて新しい方向に進む」ということになります。第二は、「物事における区切り(通過点)となる大切なところ」という意味です。「節目」には、材木や竹の節(ふし)がありますが、それらの節は、柔軟な中に強さを形成する要点です。節とは、樹木が成長していく過程で、元々あった枝が木の中に巻き込まれることで生まれるものであり、成長に必要な要素となります。第三は、「節目」(せつもく)と読む場合で、これは「細目」(さいもく)を意味します。「細目」とは、細かい点について定めた項目のことで、例えば、規則におけるひとつひとつの項目などがこれにあたります。

東日本大震災から10年の「節目」については、上記の第二の意味と捉えています。当時の経験や教訓を忘れずに、この区切りを、柔軟さと強さを併せ持つための、そして今後の発展にとって欠かせない要素とするためです。その認識のもと、東北大学災害科学国際研究所は、震災から10年の節目に、編著『東日本大震災からのスタート―災害を考える51のアプローチ』(東北大学出版会)を発売いたしました。同書は、本研究所の研究者を中心とする災害に携わってきた関係者が、工学・理学・医学・社会科学等、それぞれの専門分野に即し、東日本大震災が明らかにした問題、その後10年間の進展、今日も残る課題を総括するものです。人類が初めて経験する広域複合災害の実像を紹介しつつ、震災が破壊したパラダイムと課題解決のための新しいアプローチを示す熱い文章が寄せられています。

東日本大震災の経験と教訓を未来に伝え、国内外に発信し続ける活動に終わりはありません。震災を風化させず、着実に被災地の復興・創成を進め、レジリエント社会を構築するための必要な取り組み・関係者との連携を継続することが重要です。特に、福島における原子力災害からの復興には長期間を要します。国内外の様々な機関と連携しながら、必要な研究と人材育成を息長く続けなければなりません。今後も、被災地の皆様、関係者・協力者の方々と一緒に、震災復興と新しい社会の実現を目指し、歩みを進めて参りたいと思います。

今年4月からは本研究所の新部門分野体制が発足しました。従来の6研究部門は、3つの研究部門および1つの実践推進部門に融合され、さらなる学際研究の発展と社会実装が期待されます。そこでのテーマは「災害レジリエンス学際研究」であり、今後、この研究の拠点化を目指します。事前リスク評価とマネジメントに加え、人間および社会が持つ対応力を強化する中でクライシス

マネジメントを充実させ、回復力を向上させるための「災害科学」を発展させていきたいと考えております。COVID-19 に代表される大規模感染症を含めたリスクも対象に、個人の心身の健康を維持できる社会システムも不可欠になります。そこには、自然科学に人文・社会科学さらには医学を含めた「総合知」が必要であり、その研究と教育・人材育成、そして社会貢献が大切です。これは、まさに現在社会が求めている大学等の役割の一つであると考えます。

加えて、東北大学では、東日本大震災の復興や防災・減災に関わる研究を進めてきた災害復興新生研究機構などが「東北大学グリーン未来創造機構」に改組いたしました。[\(http://www.ggi.tohoku.ac.jp/\)](http://www.ggi.tohoku.ac.jp/)。これまでの研究に基づき、防災や脱炭素社会への研究の取り組みをさらに加速することを目指しています。同機構の3本柱の1つが **Recovery & Resilience** であります。東北大学が東日本大震災から10年かけて積み上げてきた基盤を、未来社会の実現に役立てたいと考えております。

今村文彦

東北大学災害科学国際研究所長

## 2 研究所の概要

## (1) 基本理念

東日本大震災という未曾有の災害を経験した東北大学は、2012年4月に新たな研究組織「災害科学国際研究所」を設立した。大学の英知を結集して被災地の復興・再生に貢献するとともに、国内外の大学・研究機関と協力し、災害科学に関する世界最先端の研究を推進することが、研究所に与えられた使命である。

本研究所の設立理念は、東日本大震災の経験と教訓を踏まえた上で、わが国の災害対策・災害対応策や国民・社会の災害への処し方そのものを刷新し、巨大災害への新たな備えとレジリエンスへのパラダイムを作り上げることにある。このことを通じて、国内外の巨大災害の被害低減に向けて社会の具体的な問題解決を指向する実践的防災学の礎を築くことを目標とする。

本研究所が推進する災害科学研究とは、事前対策、災害の発生(直前の避難等の対応を含む)、被害の波及、緊急対応、復旧・復興、将来への備えを一連の災害サイクルにとらえ、それぞれのプロセスにおける事象を解明し、その知見と教訓を一般化・統合化することである。

東日本大震災における調査研究、復興事業への取り組みから得られる知見や、世界をフィールドとした災害科学研究の成果を社会に組み込み、複雑化する災害サイクルに対して人間・社会が賢く対応し、苦難を乗り越え、教訓を活かしていく社会システムを構築するための学問を「実践的防災学」として体系化し、その学術的価値を創成することを災害科学国際研究所のミッションとする。

## (2) 沿革・設置目的

### 沿革

2012年4月 本研究所は7部門36分野で発足した。その後何度かの分野の再編を経て、2020年度は下記の7部門34分野で活動を行った。

- 災害リスク研究部門(6分野)
- 人間・社会対応研究部門(5分野)
- 地域・都市再生研究部門(4分野)
- 災害理学研究部門(7分野)
- 災害医学研究部門(8分野)
- 情報管理・社会連携部門(4分野)
- 寄附研究部門(2部門)

東日本大震災から10年にあたる2020年度には、今後の本研究所のさらなる発展を見据え、これまでの先端的基盤研究の強固な推進を継続しつつ、多様化する災害過程の解明と減災の実現に向けた研究体制強化を図るため、下記の4部門26分野および寄附研究部門に2021年4月に組織再編を行うことを決定した。

- 災害評価・低減研究部門(8分野)
- 災害人文社会研究部門(6分野)
- 災害医学研究部門(8分野)
- 防災実践推進部門(4分野)
- 寄附研究部門(2部門)

### 設置目的

災害科学国際研究所は、東日本大震災の経験と教訓を踏まえ、わが国の自然災害対策や国民・社会の自然災害への処し方そのものを刷新し、巨大災害に備える新たなパラダイムを作り上げること設立理念とし、国内外の巨大災害の被害軽減に向けて社会の具体的な問題解決を指向する実践的防災学の礎を築くことを目的として設置された。



### (3) 中期目標・中期計画

本研究所の理念に則り、以下の重点戦略・展開施策を中期目標・計画に掲げ、活動を行っている。

#### 1. 災害科学研究の世界的拠点

昨今の多様化、多発化する災害を受け、地震・津波のメカニズムの解明、東日本大震災による被災実態の把握、土木・構造物の耐震性強化、災害と人間社会、復興地域づくり、災害医療研究の展開、震災アーカイブの構築など、分野ごとの先端的研究を推進し、災害科学研究の世界的拠点となることを目指す。

#### 2. 文理連携および多様な学際連携による研究の推進

社会が必要とする災害研究とその成果は、従来の学問の専門領域を超えて幅広く多様である。それに応えるため、分野横断的・学際融合的な研究を促進し、既存にはない新規の分野を開拓する。

#### 3. 実践的防災学の構築

災害サイクルに対応した実践的防災学の研究を推進し、被災地復興や災害対策に取り組むとともに、日本および世界の防災対策にも積極的に貢献する。

#### 4. 防災知識を身に付けた人材の育成

防災科学研究の成果を教育課程で積極的に展開する。学部教育では、全学教育を通じて体系的な防災教育を実施し、災害発生のメカニズムや発災時の対処の仕方などを基礎知識として身に付けさせる。大学院の専門教育やリーディングプログラムでは、地域防災の中心となる人材の育成や、防災技術の開発と普及促進および新しい技術ニーズを発掘できる人材の育成に取り組む。関係機関と連携し、行政職や教員、医療従事者、福祉施設、企業などの専門性をもつ人材への防災・災害対応教育・訓練を行う。

#### 5. 防災教育の社会的展開

災害への備えを強めるためには、防災知識の社会的普及が不可欠である。学校教育を起点に家庭や地域が防災への取り組みを進めることができるよう、小中学校および高等学校への出前教育を実施し、防災教育教材の開発を行うとともに、市民向け・企業向けのセミナーやシンポジウム等を積極的に開催して、防災知識の普及や対応能力の向上を図る。

#### 6. 産官学および地域社会と連携した防災対策の強化

実践的防災学の社会実装と普及を図るためには、産官学と連携した共同研究や広報活動が不可欠である。地方自治体との間では災害に関する包括的連携協定を積極的に締結して、自治体のニーズに対応した研究成果の還元を図り、産業界との間では防災技術の共同開発や震災アーカイブに関する新たなシステムの開発、企業組織や事業拠点の防災・事業継続力向上等に取り組む。また社会の諸団体・組織と連携して、防災力向上のために多面的な取り組みを進める。

#### 7. 国際社会との連携強化

2015年に仙台市で開催された国連防災世界会議で採択された「仙台防災枠組」を推進する。また環太平洋大学協会(APRU: Association of Pacific Rim Universities)との共催で「APRU-IRIDeS Multi-hazard program」を運営し、海外との研究交流を活発化させる。また、世界防災フォーラムを支援し、国内外および地元東北の多様な防災関係者らと「仙台防災枠組」の実施に向け、活発な議論を行う。さらに災害対策技術の標準化に取り組む国際機関(国連等)や国内外の公的組織、研究機関、企業等との連携を通じて防災に関する国際標準化(防災ISO)を推進し、本研究所が世界の減災対策向上へ先導的な役割を果たすことを目指す。

#### 8. 共同利用・共同研究への取り組み

本研究所が有する資料、施設などを有効に利用するため、他機関との共同利用・共同研究を推し進める。本研究所のリソースを利用した共同研究プロジェクトを公募・実施し、卓越した実績および研究ネットワークの構築にも不断に取り組む。全国共同利用・共同研究拠点となり、「災害レジリエンス学際研究」を推進する。

#### 9. 指定国立大学「災害科学・世界トップレベル研究拠点」に向けた取り組み

東北大学が文部科学省より指定国立大学に指定されたことを受け、その中の災害科学・世界トップレベル研究拠点の中核機関の一つとして、学際連携を基盤とした「災害科学」の学問研究領域を創成し、体系化を図る。

## (4) 組織運営活動

本研究所の組織運営としては、最高意志決定機関である教授会、組織運営の企画・調整を担う運営会議の下に、安全衛生委員会、予算委員会、広報戦略委員会、国内連携委員会、評価委員会、消防・防災委員会、教務委員会、施設環境委員会、総務委員会、ハラスメント防止対策委員会、男女共同参画委員会、研究企画委員会、国際連携委員会、倫理委員会、構成研究活動推進委員会などを設置し、それぞれの所掌事項毎に所内ルールや制度・方針の案を策定し、教授会または運営会議で決定する仕組みを確立している(3章(1)E 研究所内会議・委員会構成 p.28 参照)。

毎月、執行部会議と翌週の運営会議を開催した後に、(1)専任教員、兼任教員、事務スタッフが対象の「全体会議」、(2)専任の講師・准教授以上が対象の「拡大教授会」、(3)専任の教授による「教授会」、という3つの会議を開催している。全体会議を効果的な情報交換、課題の共有化の場として活用するよう努めるとともに、これら3つの会議は本年度も3回の休会の月を設けて、効率的な運用を図った。

なお、本年度は2020年1月から続く新型コロナウイルス感染症パンデミックの影響により、活動の多くが制限された。東北大学本部とも緊密に連携しながら、毎週、新型コロナウイルス感染症対策の災害対策本部幹事会を関係の医学教員を加えて開催し、出張や来訪者受け入れ、学生の他所への訪問、多数の外部者が参加する会合について、事前承認または事前届出および事後報告を求めるなど、きめ細やかな行動管理と、所内へのメーリングリストや配布物による情報共有、定期的な教員および事務部職員によるモニタリング等による感染防止対策の徹底を行った。また、「災害科学国際研究所防災・業務継続計画」(災害研BCP)も、新型コロナウイルス感染症への対応等のために改定した。

本感染症の影響で本研究所も集客を伴うイベント開催や、海外はもちろん国内への出張も大きく制限される中、オンラインまたはオンラインと限られた参加者によるハイブリッド形式によるシンポジウム等の行事開催や情報交換のための会議を積極的に行った。医学教員等から得られる最新の知見を踏まえて、パンデミックを災害として捉えて研究活動を広げるとともに、刻々と変化する状況に応じたレジリエントな活動を行う取り組み例となったものと認識している。

2020年度の重点的な取り組みを以下に記す。

### 1) 広報室による社会発信機能の拡大・強化

広報室(専属准教授1、技術職員(限定)1、技術補佐員2)は、社会発信の対外窓口・広報業務を集約し、広報・出版・図書委員会、社会連携オフィス、国際連携推進オフィス、緊急調査ワーキンググループ(WG)、所内研究者等と緊密に連携しつつ、効果的・戦略的に社会発信・メディア対応等を行った。以下が主要な活動実績である。

1. 2019年度末に全面改定した本研究所のウェブサイト(日本語)は、利便性・安全性が向上し、2020年度に広く活用された。2020年度には英語版ウェブサイトの全面改定も進め、年度末に公開した。日・英ウェブサイト改定に伴い、全体の構成、日々のアクティビティレポートをはじめとする過去に蓄積された情報、個々の教員情報が見やすく整理され、異なる閲覧者のニーズに応じて必要な情報を得られやすくなった。またこの改定により、甚大な災害発生時には、緊急モードへ切り替えて迅速に情報発信できる仕様となった。
2. 2020年度は、国際研究連携の活動状況を世界地図によって視覚的に示す新たなページを公開した。
3. ウェブサイトを通じ、本研究所の全教員のアクティビティ(学会発表、受賞、取材、災害現地調査報告等)の発信を行った(2020年度はトピックス116件を掲載)。また、記者会見・説明会4件、プレスリリース(本研究所を筆頭発出者としたもの)15件を実施した。
4. 本研究所は、災害発生時に緊急特設ウェブサイトを開設し、公開報告会も行つて積極的な社会発信につとめてきた。2020年度は、「令和2年7月豪雨」および「令和3年2月福島県沖の地震」に応じ、特設ページを新たに2サイト開設した。令和2年7月豪雨は新型コロナウイルスによるパンデミック下での台風による甚大な被害となった。8月20日に調査報告会をオンラインで開催し、所内教員が水害、地盤災害、避難行動等について報告した。令和3年2月13日の福島県沖の地震についても同様に速報会をオンラインで開催し、所内教員が断層メカニズム、地震動、現地の被害等に加え、コロナ禍での病院状況についても報告を行った。これらの特設サイトにおいては、本研究所が実施した調査報告、報道発表資料などを現在に至るまで随時更新し続けており、「コロナ禍での災害避難」に関する情報も掲載している。

また、「2019 年台風 19 号」に対して土木学会、地盤工学会、日本地すべり学会の各東北支部と本研究所は、東北学術合同調査団として連携し、被害実態やメカニズムの解明に当たってきた最終報告会を、2020 年 11 月 20 日にオンラインで開催した。

5. IRIDeS NEWS 2021 の冊子版を日本語・英語で作成するとともに、PDF 版をウェブサイトで公開し、広く情報発信を行った。また、これまでの IRIDeS NEWS のオンライン版全記事を、旧サイトからより安全性の高いサイトへと移行した。
6. 本研究所のキャラクター「さいがい犬イリ」は、一般公開イベント等さまざまなシーンで積極的に活用されている。
7. 本年度の東北大学オープンキャンパスはオンライン開催となり、東北大学のオープンキャンパスオンラインサイトに参加し、本研究所および災害科学に関する情報を発信した。
8. 2019 年度から 1 階と 2 階の展示スペースを整備し、見学ルールと展示レイアウト等を工夫し常時一般公開を軌道に乗せることができたが、2020 年度は新型コロナウイルス感染症に対応するため、見学団体の受け入れは休止した。国内外からの訪問・見学者受け入れも休止することとなったが、学校の希望に応じ、教員が中学生にオンラインで講義・対話する場を設けた。
9. 2018 年度～2019 年度にかけて朝日小学生新聞「地球防災ラボ」紙上において、災害研研究者を中心にリレー連載を行い、同連載全記事の A0 パネルが完成した。パネルは本研究所の公開イベントやスリーエム仙台市科学館、そなエリア東京などで展示され、次世代へ災害科学を伝える良質のツールとなっている。

## 2) コンプライアンス推進体制の整備と強化

研究所として適切な研究が実施されるように、研究活動の不正防止や、個人情報の管理など、コンプライアンスを推進するための体制を整備・強化している。

1. 研究費管理運用の適正化、研究活動の不正防止のための全学的体制構築の方針を全体会議時に全教職員に説明・周知(計 2 回)した。また、公的な研究資金の意義と公正な資金運用をふくめた研究倫理教育として、CITI—Japan が提供する遠隔教育プログラムを全教員および博士課程後期の大学院生が受講できる体制を整え、少なくとも外部資金を管理する立場にある研究者については年度内の受講を促した。
2. 2015 年度から研究所倫理委員会により開始された倫理審査を月 1 回の頻度で開催しており、事前申請により人に関わる研究活動が円滑に行えるよう配慮するとともに、倫理委員会細則の遵守を全体会議において所員全員に周知した。
3. 「東北大学における公正な研究推進のための共同研究等実施指針」に基づき、本研究所の構成員が責任著者となる論文等の成果発表が公正なものであることを組織責任として担保するため、「研究成果発表確認シート」の提出を求めている。また、研究データの保存および管理状況の定期点検のため、研究分野単位で、点検表の提出を徹底させた。
4. 研究活動に対するコンプライアンスの徹底およびハラスメント防止に向け、全学の教育 FD の受講を促し、所内企画としては所内新任教員および所内教員が指導する大学院生などを対象とした研究倫理教育セミナーを、7 月にオンライン開催した。

## (5) 研究活動

本研究所の使命は、東日本大震災における調査研究、復興事業への取り組みから得られる知見や、世界をフィールドとした災害科学研究の成果を社会に組み込み、複雑化する災害サイクルに対して人間・社会が賢く対応し、苦難を乗り越え、教訓を活かしていく社会システムを構築するための「実践的防災学」の体系化とその学術的価値の創成である。

主たる研究活動は、本研究所の正式組織である部門・分野単位で行うとともに、2016 年度からニーズオリエンテッド型のプロジェクトエリア・ユニット制のもと、部門・分野の枠組を超えても行われた。このエリアは、場、もの(施設や構造物)、人と社会集団、情報、生命と健康という 5 つの要素に関する研究エリアと、それらを総合して災害に強い地域社会システムの構築を目指す実践的研究エリアにより構成されている。2021 年度の組織再編に伴い、本年度末でプロジェクトエリア・ユニット制は終了となった。

前年度に引き続き、7 月の共同利用成果報告会(オンライン)の際に、プロジェクトエリア・ユニットの報告も併せて行

い、新たな活動の状況を広く他の研究機関や一般の人に紹介した。

2020年度の取り組みや達成状況の概要は以下の通りである。

## 1) 災害科学研究の世界的拠点として

地震・津波のメカニズム解明、東日本大震災の被災実態の把握、構造物の耐震性強化、災害と人間社会、復興地域づくり、災害医療・医学研究の展開、震災アーカイブの構築、防災人材育成など、分野毎の先端的研究を推進した。本年度中の成果として、289編の学術論文、著書25冊、総説・解説84編、学会における発表・講演271件(うち基調講演・招待講演30件)を行った(表1、p.19)。これらの成果は量だけでなく質的にも優れており、国際誌査読有論文の比率が63%に達するとともに、学会等での受賞も17件を数えた(表2、p.20)。

東北大学のScopusにおける2016-2020年の論文総数では、災害科学分野が世界4位、津波研究が世界1位、災害医療が世界6位、災害教育が世界1位、地震関係で世界8位となるなど、中核的な研究施設として、世界の有力大学・研究機関と伍していく学術的先進性を有している。Scopusにおける2016-2020年のキーワードによる論文総数からみた中核性は以下のとおりである。

- ・ 災害科学 Q値14.4%、国際共著41.4% 1位:中国科学院、2位:中国教育省、3位:中国科学大学、4位:**東北大学**
- ・ 津波関係 Q値12.6%、国際共著35.5% 1位:**東北大学**、2位:東京大学、3位:シャクアラ大学、4位:京都大学、5位:チリ国立科学院
- ・ 災害医学 Q値3.4%、国際共著3.4% 1位:ハーバード公衆衛生学、2位:米国CDC、3位:ジョンズ・ホプキンス公衆衛生学、4位:米軍保健医療大学、5位:ハーバード医学部、6位:**東北大学**
- ・ 災害と教育 Q値5.7%、国際共著34.3% 1位:**東北大学**、2位:ハーバード大学、3位:米国CDC、4位:中国科学院、5位:ジョンズ・ホプキンス公衆衛生学
- ・ 地震関係 Q値11.0%、国際共著36.1% 1位:中国地震局、2位:中国教育省、3位:中国地質科学院地質研究所、4位:東京大学、5位:中国科学院、6位:同済大学、7位:イタリア国立地球物理学火山学研究所、8位:**東北大学**、9位:京都大学

また、メディア報道への出演・執筆なども853件あり、年度内の災害発生度合にある程度左右される件数となっている。

## 2) 文理医連携および多様な学際連携による研究の推進

部門・分野の枠組みを超え、ニーズオリエンテッド型のプロジェクトエリア・ユニット制のもと、変化する社会からのニーズに対応した文理医連携の成果も出ている。例えば、災害医学と津波工学の連携により宮城県警から提供された東日本大震災における犠牲者情報を用いて、津波による犠牲パターンを示した研究は大きな成果を上げた。災害医療活動や感染症対策のシミュレーションシステムに工学的な手法を取り入れ基盤研究(S)として実施された。構造物、地盤、斜面、土、水など複数の研究領域にまたがる構造の被害を統一的に扱えるマルチステージ災害シミュレーション手法の開発に取り組んだ。津波襲来時のバーチャルリアリティ映像とバイオセンシングを用いたシミュレーション実験を開始し、津波避難に影響する心理・生理学的特徴の研究を推進した。津波被災地域とそれ以外でがん検診の受診率に地域格差があることを明らかにした。

臨床心理学の観点から被災した史料所蔵者の類型化と、レジリエンス涵養への意義を明らかにした成果がユネスコ「世界の記憶」部門発行の報告書に掲載された。「災害を生きる力」8因子(人をまとめる力、問題に対応する力、人を思いやる力、信念を貫く力、気持ちを整える力、きちんと生活する力、人生の意味の自覚、生活を充実させる力)を活用して、基礎認知科学研究と質問紙の災害教育応用が進んでいる。

新型コロナウイルスのパンデミックを災害として捉え、新たに感染症リスクを考慮した災害対応についての研究も学際的に進められた。医療施設のBCPが被災地の地域医療継続に重要であることを発信し、また新型コロナウイルスに対応して疫病文化の事例収集と文医融合型の研究分析をおこなう「疫病退散プロジェクト」を展開し、「歴史が導く災害科学の新展開IV—先人の疫病文化に学ぶ—」をオンラインで開催した。避難所での感染対策、パンデミックの企業への影響をアンケートおよび面談により調査し、災害時の感染症BCPに関する学際研究が推進された。東日本大震災を経験した母親と地域ヘルスケア従事者へのインタビュー調査、新型コロナウイルスの罹患者、濃厚接触者、医療従事者、保健

所職員を対象としアンケート調査、インタビュー調査、東北大学学生のメンタルヘルスの実態把握のための全学アンケート調査をそれぞれ実施した。

福島第一原子力発電所事故の前後や他の地域との比較においても、福島県の子供達の脱落乳歯の放射線量が高くないことが確認された。宮城県内の仮設住宅の入居者の健康状態の推移を明らかにした。災害公営住宅では健康状態の悪い者の割合が高く、今後も入居者の健康状態をフォローアップし介入する必要があることを明らかにした。

国際共同研究としては、MJEED(モンゴルー日本・高度工学教育向上プログラム)における地震工学関連プロジェクト、バングラデシュ工科大学との早期地震警報の研究、ネパールの山岳地帯に高耐震性能を有する小学校を建築するための組積造を対象とした安価なすべり免震機構の開発とその実装を目指した国際共同研究が開始された。気候変動の流域土砂環境への影響評価と適応策に関する研究を行い、タイやエジプトにおける気候変動への適応戦略、山地から海岸までの流域一貫土砂動態モデルの開発、崖海岸長期侵食モデルの開発を行った。UAV-SfMを用いた中小河川管理のための三次元点群データの可視化手法、洪水氾濫数値解析と衛星画像解析技術を用いた浸水家屋推定の高度化、バングラデシュ農村地域における水防災と環境共生技術の開発に関する研究を行なった。ドイツ航空宇宙センター(部局間協定、リモートセンシング研究)、ワシントン大学(津波研究、リモートセンシング研究)、ペルー国立工科大学日本ペルー地震防災センター(部局間協定)との連携研究を推進した。また、メキシコ、コロンビアでの津波リスク評価に関する共同研究(SATREPS)を推進した。インドネシア、フィリピン、米国(NY)の災害復興過程を引き続き研究し、東北の復興過程との比較やガバナンスの国際比較研究を行った。ダッカの耐震性補強の効率的実施のため SATREPS に参加し、GISを用いた建物の脆弱性推定を行った。APRUでは新型コロナウイルスを含むマルチ・ハザードによる災害に対して高等教育機関・大学のレジリエンスを調査報告した。アルゼンチンの Domuyo、Maule 両火山において、ここ数年継続している火山性地殻変動について干渉 SAR 時系列解析を行い、両火山体直下の圧力源の時間的推移を調べた。40年以上にわたる海氷データと海洋・大気再解析データの解析により、ベーリング海の海氷面積の減少が、アラスカの海面気圧変動を介して、北米の強烈な寒波と結びついていることを明らかにした。熊本地震と同様の前震一本震シーケンスを示した 2019 年カリフォルニア州リッジレスト地震の連鎖的地震活動について、応力伝播を考慮した地震活動評価を行い、活断層の連動性における共役断層の役割について明らかにした。WHO の H-EDRM コアメンバーとして、健康危機・災害リスク管理の研究ガイドラインの日本の災害医療研究に関するケーススタディを執筆した。香港中文大学、ハーバード大学、ピエモンテ大学などととも災害保健医療人材育成について論文化した。2019 年 11 月に開催された第 2 回世界防災フォーラム(WBF2019)での成果を取り纏めた Journal of Disaster Research (JDR) の特集号 Vol.15 No.7 を公刊し、13 篇の査読付き論文を収録した。University College London (UCL)、University of Washington (UW)、Syiah Kuala University 等との国際共著論文を発信した。

災害科学に特化した査読付き国際学術雑誌 Progress in Disaster Science を Elsevier 社から発刊し、年間 4 冊の頻度で順調に版を重ねている。国連ジュネーブ本部で開催された「仙台防災枠組実現のための科学・政策フォーラム」でも、この雑誌の発刊に関するセッションが設けられ、今後の活発な投稿、引用が期待できる。2020 年の cite score(過去 3 年分の引用数/論文数)は 2.4 で、発刊 2 年にして関係領域の雑誌の中で 50 パーセンタイルに位置している。

### 3) 実践的防災学の構築

令和 2 年 7 月豪雨による災害について、広域被害予測(土砂生産量予測)を行い、本研究所の災害対応ホームページにて公開した。また、同時期に発生した山形豪雨に際して、最上川水系白水川、大旦川、五十沢川周辺で現地調査を行い、緊急調査報告会にて情報提供した。豪雨災害が発生した際に、被災地周辺の河川水位・累積降雨等の情報を収集して緊急調査 WG で共有した。災害をもたらした豪雨事象を、数値気象予報モデルにより再現し、近未来(2040 年ころ)においても、現在の気候の年々変動の標準偏差を超える気温上昇が予測され、特に冬季の積雪期間の減少が影響し、内陸部の盆地・平野での昇温量が大きい可能性を指摘した。Argo データを用いた全球的な調査により、海面水温の変動に対する亜表層からの熱流入の寄与が大きい海域を特定し、この熱輸送の変化が 2014 年に北太平洋北東部で発生した海洋熱波と関係していたことを示唆した。令和元年の台風 19 号が日本に接近した際の海面の異常高温現象についても、大気による海面加熱よりも、亜表層への低温水塊流入過程の弱体化が原因である可能性を指摘した。

令和 3 年 2 月 13 日深夜に福島県沖を震源として発生した地震に対し、速報会で情報提供した。宮城県・福島県で被害状況調査を実施し、史料レスキューを実施して地域の史料を救援できた。

M9クラスの巨大地震の発生が危惧される北海道根室沖でのGNSS-Aによる海底地殻変動観測を継続させ、変位速度および固着状態に関する解析が可能になりつつある。東北沖の大規模なGNSS-A海底地殻変動観測を維持するため、無人観測装置(ウェーブグライダー)の導入を進め、実運用と並行してハードとソフトの両面から改良を重ね、より信頼できるプラットフォームへと進化させた。日本列島の火山と地震の成因および地殻変動を理解する重要な手がかりとして、太平洋プレートの沈み込み、ならびにスラブそれ自体の変形が日本列島下のマントル対流のパターンを支配することや、青森県東部での2011年東北地方太平洋沖地震の発生による影響を明らかにした。「災害の軽減に貢献するための地震火山観測研究計画(第2次)」および「次世代火山研究・人材育成総合プロジェクト」が目指す防災・減災を意識した研究を進め、仙台管区气象台とともに1965年以降の火山活動に伴う諸観測量の整理・再検討を行い、火口直下深部から浅部に至る流体供給系の活動推移パターンを明らかにした。磐梯山噴火記念館等における準リアルタイム火山情報表示システムの展示を継続している。国土地理院が展開するGEONETと東北大学の持つ宮城-山形、福島-新潟の稠密観測によって、粘弾性緩和の詳細な評価が余効すべりの評価にも必要であることを明らかにした。過去の地震、土砂災害などにおいて現地調査を行い、被害の分析を行うための新しい手法を開発した。2016年熊本地震において阿蘇カルデラ内の宮地地区での小断層について、同程度の誘発すべりが2千年前に発生した証拠を突き止め、また日奈久断層帯で熊本地震後に最大20cmの余効すべりが生じたことを明らかにした。

企業と共同で変位検知機構を有する性能可変型オイルダンパーを開発し、実物大ダンパーを試作し実地検証するとともに、開発した技術の特許申請準備中である。また、企業と共同で東京や仙台の高層建築物を対象とした構造ヘルスマニタリング研究や制振システムの地震時応答制御性能評価を実施した。災害によるインフラの機能喪失およびその後の劣化が加速される影響を統計学的に把握することで、インフラマネジメントに防災の考え方を導入した。

リアルタイム津波浸水被害予測技術は、内閣府の総合防災システムの機能として採用され、我が国の太平洋岸全体をカバーするNation-wideの予測システムとして我が国の津波災害のレジリエンス向上に対して大きな貢献を果たしている。そのシステム運用は、大学発ベンチャーとして設立されたRTi-castが一役を担っており、研究と社会実装の両輪がうまく機能している。

中小企業のBCPに必須な要素を「中小企業向け事業継続力簡易チェックシート」として作成し、普及を推進した。中央省庁のBCPの評価・改善のヒアリングに有識者委員として参画し、内閣府の防災スペシャリスト養成研修の企画と講師を務めた。気仙沼市 東日本大震災遺構・伝承館の展示リニューアルおよび周年企画を全面的に支援し、被災自治体における災害救助法等の執行の実情と課題を明らかにした。

災害対応におけるロボットの役割を追求し、火元消火ロボット、サイバー救助犬スーツ、球殻ヘリによる老朽化インフラ点検、瓦礫内を探索する小型ロボットのハードウェア、多数の防災用ドローンが次々と離発着できるドローンポートなどの研究・開発を行った。東日本大震災連続ワークショップ、防災未来フォーラムなどを通じて知見の社会実装を推進した。

ニュー・ノーマル社会下での避難行動・避難所運営支援教育ツールの開発に取り組んだ。国際的にも国際防災機関(UNDRR)、国連開発計画(UNDP)と連携し、コロナ禍の津波避難・避難所運営ガイドラインの作成に貢献した。

厚生労働省の病院事業継続計画(BCP)の班研究に参加し、東北大学病院のBCP、BCM(リスク抽出と改善)を行い、新型コロナウイルス感染症に対する改訂も含めてBCP第3版に更新した。新型コロナウイルス存在下において、実働訓練は中止となったが、病院幹部によるオンラインとハイブリッド型の机上訓練をBCP訓練として実施し、巨大な病院組織の部門間連携に関する訓練を行った。特定機能病院としての機能評価において、防災対策がS評価を受けた。「防災・業務継続計画(BCP)」導入ガイドを活用して作成された本研究所のBCPに関し、組織・メンバーを変更し、前年度の災害対策本部訓練を受けて見直し、改訂を行っている。

放射線障害防止法や医療法等の改正等へ向けた活動、原子力規制庁の水晶体被曝ガイドライン作成・出版に貢献した。仙台市防災会議専門委員、JST研究成果最適展開支援専門委員、JSTマッチングプランナー専門委員、放射線教育のための多数の講演活動等やパンフレット作成等を継続して行い、電子教材も開発改良した。COVID-19流行下におけるメンタルヘルス対策として、日本精神神経学会を含む関連5学会の合同指針および日本脳科学関連連合の緊急提言、宮城県精神科医療機関における新型コロナウイルス感染症対策指針、精神科医療現場における新型コロナウイルス感染症対策事例集をそれぞれ策定、発出した。災害後の婦人科がんを中心としたがん検診事業を再構築すべく、積極的に活動し県全体のがん検診政策に関与している。厚生労働大臣に対し、新型コロナウイルス感染症の患者および検査陽性者の生体試料・情報を集積するデータベースの在り方に関して政策提言を行った。みやぎ医療福祉情報ネ

ネットワーク協議会(MMWIN)に継続して協力し、宮城県における診療情報のバックアップを促進し災害時に失われない医療情報システムを推進している。全国の国立大学病院情報バックアップシステムの非常時運用WGとして参画した。

東日本大震災からの10年の記録の再整理を行うとともに、熊本大学「ひのくに災史録」や岐阜大学「災害アーカイブぎふ」などのデジタルアーカイブの構築支援を行った。ハーバード大学との共同で震災デジタルアーカイブを用いた授業をオンラインで実施し、語り部シンポジウム「かたりつぎ」を2021年3月6日に宮城県多賀城市文化センターで開催した。東日本大震災アーカイブシンポジウム、三陸津波ウェビナーなどを実施した。

宮城県教育委員会と共催した「未来へつなぐ学校と地域の安全フォーラム」や学校教員向けの研修動画「学区の地図を活用した災害リスクの理解」などのオンライン配信を行った。また、石巻市の災害復興／防災教育プログラムの普及と高度化に取り組むとともに、宮城県内への実践モデルの普及を継続し、学校の災害安全の推進に取り組んだ。宮城県から受託した「自主防災組織育成・活性化支援モデル事業」の4年間の成果を「みやぎ地域防災のアイデア集～持続可能な防災まちづくりのために～」として監修した。福島大学の防災教育プロジェクトに参画し、避難所運営に関する教材開発と人材育成に努めているほか、北海道胆振東部地震の被災地厚真町に継続的に関わり、心のケアと防災教育や復興計画(第三期)策定の支援を行った。厚真町社会福祉協議会生活支援相談員のスーパーバイザーとして、仮設住宅からの住まいの移行期における被災者支援体制の構築に寄与した。石巻市の復興事業に関して、個別具体の施設デザインから包括的な都市戦略まで、市内部や県との調整を行いながら、実践的・実務的な復興まちづくりに貢献した。女川町でも実践的・実務的な復興まちづくりに貢献している。災害教訓の継承の知見を生かし、仙台市(震災復興メモリアル等検討委員会)・山元町(震災伝承検討委員会)において震災伝承への助言を行っている。「誰ひとり取り残さない防災」を目指し、地域別・世帯別のリスクアセスメントによる災害リスクの把握、ピンポイントアラートシステムによる効果的な情報提供の方策等について研究開発を進め、岩手県陸前高田市を対象地域として社会実装をめざしている。

新型コロナウイルスへの対応は、まさに防災学の実践とも言えるものであった。災害感染症学分野の教授が大学本部の新型コロナウイルス対策班に加わり、全学レベルで流行状況に応じた感染対策について助言、提案した。具体的には、各部署で行われる感染対策のモニタリング体制の導入や新型コロナウイルスに関する知識の提供、課外活動を含めた学生への感染対策教育を行った。各部署からの依頼で、教授等に対するの対面講義、web講義なども行い、学内の感染症対策強化に貢献した。さらに、長期化する新型コロナウイルス流行によるメンタルヘルスへの影響を緩和するため、精神科医、心理士などと連携して多層的な支援体制に取り組むと同時に、コロナ対策を含むAMED研究開発課題で6件(代表2件)、科学研究費助成事業で2件(基盤研究B、若手研究B)、学内研究事業「ポストコロナ社会構築研究スタートアップ支援」で分担3件が採択された。また、他学部や他施設と共同で実施した治療薬開発研究で高い成果(Nat Commun、2報)を挙げた。

さらに、避難所での感染対策学際研究、災害時の感染症BCP(熊本大学と共同研究)に関する研究成果を論文化した。基本的な感染予防対策を普及するため「感染対策ABC」を掲げ、報道メディア、ポスターやE-learningによる啓発を行った。東北大学病院DMATを中心に新型コロナウイルスのドライブスルーPCR検査、患者受け入れ調整、ホテル宿泊施設におけるX線検査の実施、高齢者施設に対する感染制御・業務継続支援などがなされた。東北大学病院BCPには感染症BCPとの連動が明記された。

#### 4) 国際社会との連携強化

2020年度、新たに3大学と部局間学術交流協定を締結した(6月1日、ドイツダルムシュタット工科大学エマージェンシティーセンター; 8月5日、エジプトアイン・シャムス大学医学部; 9月14日、フランスクレルモン・オーベルニュ大学)。ベルリン自由大学との連携で、2020 Berlin Science Weekにおける科学セッション「Learning from disasters for a resilient society: Experiences from the Great East Japan earthquake and tsunami and COVID-19 pandemic」を共催した。UCLA、日本科学未来館とArcDR3イニシアチブ(Architecture and Urban Design for Disaster Risk Reduction and Resilience)のオンラインフォーラムを開催した。インドネシアジャクアラ大学と連携しAIWEST-DR2019の会議議事録を出版した。University College London(UCL)、University of Washington(UW)、Syiah Kuala University等とは共同研究を行い、国際論文を出版した。国連大学・環境と人間の安全保障研究所(ドイツ・ボン)との連携を推進した。国内の東日本大震災関連の震災デジタルアーカイブとハーバード大学ライシャワー日本研究所との間でメタデータ連携を継続的に実施し、国際津波博物館(ハワイの太平洋津波博物館、岩手県の東日本大震災津波伝承館と本研究所との連携体制

構築、インドネシアのアチェ津波博物館)の国際ウェビナーを行った。

国連開発計画(UNDP)との学術交流協定更新、インドネシア シャクアラ大学との部局間協定更新など活発な交流が続いている。仙台防災枠組に謳われている防災技術の標準化のため、防災に関する国際認証制度「防災 ISO」の取得を目指し、仙台市、日本規格協会、経済産業省らとの国内準備委員会や関連する活動が本格化した。

災害統計グローバルセンターでは、国連開発計画(UNDP)、富士通株式会社、パシフィックコンサルタンツ株式会社らと定例会議を開催した。

環太平洋大学協会(APRU)マルチハザードプログラムにおいて、研究成果および科学技術を実践として活かすため、多くの国際機関や NGO などとの連携を強化し、意見交換をした。7 月には恒例のサマースクールをオンラインで開催した。

英語版ウェブページを刷新し、多岐にわたる国際活動に国際研究推進オフィスが積極的に関与することで、本研究所のプレゼンスを高めることができた。今後も国際誌投稿論文や出版物の発刊数を戦略的に増やすことを目的として、特集号・会議議事録などの企画も立案していく予定である。

## 5) 共同利用・共同研究の取り組み

本研究所は、部局ビジョンおよび第 3 期中期目標・中期計画のいずれにおいても、全国共同利用・共同研究拠点の認定に向けた取り組みを計画として掲げてきた。2016 年度から申請に向けた準備を進め、2017 年度共通政策課題(全国共同利用・共同実施分)の獲得に至ったが、最終的な全国共同利用拠点への採択は見送られた。2020 年度は第 4 期中期目標・中期計画における採択を目指して「災害レジリエンス学際研究拠点」として単独型での拠点申請を行った。本研究所が「災害レジリエンス学際研究拠点」になることに対して、以下のような学協会から支持と要望が表明された。

- 会員 1 万名以上:土木学会、日本機械学会、日本建築学会
- 会員 5 千~1 万名:計測自動制御学会、日本地球惑星科学連合、日本環境感染学会、日本都市計画学会、日本災害医学会 他
- 会員 1 千~5 千名:日本地震学会、日本気象学会、日本ロボット学会、日本地震工学会、日本災害看護学会、文化財保存修復学会 他
- 会員数百名:日本災害情報学会、日本放射線影響学会、日本自然災害学会、科学技術社会論学会、地域安全学会、災害復興学会
- 国際学会:IEEE RAS、世界災害医学会(WADEM)、米国災害医学会(SDMPH) 他
- 国際学術誌:Progress in Disaster Science
- 連携体:防災学術連携体、防災減災連携研究ハブ、環太平洋大学協会(APRU)

また、2017 年に本研究所との間で部局間学術協力協定を締結し、「Science for Resilience」を掲げる国立研究開発法人・防災科学技術研究所からも熱い期待が寄せられ、災害レジリエンスの研究拠点を形成していくことに関してさらに発展的に連携・協力していくことが合意された。

本研究所の財産ともいべき災害に関する多くの資料、設備、人的リソースを被災地や全国の研究者らに共有してもらうため、本年度も引き続き共同利用研究の公募を実施し、新規 23 件、継続 18 件、計 41 件の応募のうち 34 件を採択した。採択の審査は、所内のプロジェクト実施委員会と共同研究委員会が行った後、外部委員を含む共同利用共同研究委員会によって最終的に決定された。6 月 1 日から 2020 年度の共同利用・共同研究が開始され、7 月には 2019 年度採択分の成果報告会をオンラインにて開催した。

## 6) 指定国立大学「災害科学・世界トップレベル研究拠点」

東北大学が文部科学省より指定国立大学に指定され、災害科学・世界トップレベル研究拠点の中核機関の一つとして、次の目標のもと、災害科学を「実践防災学研究領域」・「自然災害研究領域」・「災害人文学研究領域」・「災害医学研究領域」の 4 つの研究領域に分け、それぞれに関連部局からのコアメンバーが中心となって活動が行われた。コアメンバー会議を隔月で開催し、研究活動の報告、領域間の調整を行った。

活動目標として、災害対応サイクル理論の適用による 4 つの科学分野の融合、学内での学際連携を基盤とした「災害科学」の学問研究領域の創成、さらに、APRU 組織などで始まりつつある災害科学研究ネットワークの発展による、国際



共同研究の強化や国際学会議の開催を通じての「災害科学」の体系化が挙げられる。

拠点活動のひとつとして 2019 年度に発刊した査読付き国際的なジャーナルである *Progress in Disaster Science* は、災害に関する多くの論文の投稿を得て版を重ねている。

拠点の数値的な目標となる重要業績評価指標(KPI)について、掲載論文の本数・被引用数、アーカイブデータベースの点数、拠点ネットワーク機関数などの現状を取りまとめ、今後の活動戦略を検討した。

共通の連携フィールド研究としての七ヶ浜町とのワークショップは、新型コロナウイルス感染症の影響によりオンラインで実施された。ワークショップには七ヶ浜町役場からも参加いただき、東北大学として地域にどのような貢献が可能かを、七ヶ浜町の各地区の視察も交えつつ、集中的に討論した。七ヶ浜町と共同で第 10 次被災者健康調査を実施し、七ヶ浜町と本研究所の共同ワークショップや町民向けセミナーの開催、町報での健康コラム連載等を行った。メソスケールのピンポイントの気象状況を把握・予測するための「七ヶ浜気象観測計画」を立ち上げた。このような狭い範囲内に特化した観測データを蓄積することで、農業や漁業に対しきめ細かな情報提供が可能になる。災害科学研究拠点と七ヶ浜町役場の相互理解を得、共同・協働研究の基盤が作られた。これは、東日本大震災からの復旧・復興だけでなく、地球規模の温暖化の中での地域生活・産業のあり方について考えていくものである。七ヶ浜のもつ「強み」と「課題」を数多く挙げて必要な情報を抽出し、地域に根ざした実践的な研究の展開を議論し、次年度に向けた計画を検討した。

## (6)教育活動

2020 年度の教育活動の成果に関しては、「5 教育活動」を参照されたい。

## (7)社会貢献活動

災害対策先進国として、これまで特に地震・津波対策で国際貢献を果たしてきたわが国が、東日本大震災後、どのように社会の安定を取り戻し復興を果たしていくかは、世界的にも注目されている。事前対策、発災時の緊急対応、被災後の復旧・復興の一連の災害サイクルにおいて、世界で最も緻密かつ徹底した総合調査・研究を行い、その知見を普遍化して次世代の防災・減災技術を構築し、レジリエント社会の先導を果たすことが本研究所の責務である。被災地にある総合大学としての特徴を最大限に活かし、災害における社会問題の具体的解決のための実践的研究を指向するために、社会との連携や人材育成は必須である。

2020 年度の取り組みや達成状況は以下の通りである。

### 1) 防災知識を身に付けた人材の育成

2019 年度よりスタートした「災害科学・安全学 国際共同大学院プログラム(GP-RSS)」および「変動地球共生学卓越大学院(SyDE)」への中心的な参画を継続し、本研究所の教員による多くの授業等を通して、多層的な視点からの課題・プロジェクト解決型学習能力が備わった人材育成を図った。また、学内の附置研究所・センター連携体で進められている「研究所若手アンサンブルプロジェクト」にも積極的に参画し、本年度のアンサンブルグラントとして、本研究所教員が代表する課題 2 件が採択された。これらの活動は、2021 年 2 月に完全オンラインで開催された若手研究者アンサンブルワークショップ、アンサンブルグラント審査会で発表された。同プロジェクトではニュー・ノーマル社会下での避難行動・避難所運営支援教育ツールの開発に取り組んだ。

スリーエム仙台市科学館において、本研究所教員と朝日学生新聞社が協働で作成した小学生向け災害科学解説パネルを展示した。また、2020 年 7 月～8 月には、「そなエリア東京」においても同パネルを展示した。

「被災地での学びを地域や世代を超えて伝える災害伝承・防災教育システムの開発」を進め、東北大学にて震災や復興について学び、被災地を訪問して現場実習を行った学生が、自分たちの力で災害伝承・防災教育の出前授業を企画する「東北大生が考えた防災教育プログラム」が「ひらめき☆ときめきサイエンス」に採択され、10 月に宮城県内の小中学生 27 名を招いて実施された。また石巻市の災害復興／防災教育プログラムの普及と高度化、宮城県内への実践モデルの普及を継続し、学校の災害安全の推進に取り組んだ。宮城県から受託した「自主防災組織育成・活性化支援モデル事業」の 4 年間の成果を「みやぎ地域防災のアイデア集～持続可能な防災まちづくりのために～」

として監修した。福島大学の防災教育プロジェクトに参画し、避難所運営に関する教材開発と人材育成に努めている。

新型コロナウイルスの影響により、対面式での教育は大きな制限を受けた。宮城県教育委員会と共催した「未来へつなぐ学校と地域の安全フォーラム」や学校教員向けの研修動画「学区の地図を活用した災害リスクの理解」などのオンライン配信を行った。各部局で行われる感染対策のモニタリング体制の導入や新型コロナウイルスに関する知識の提供、課外活動を含めた学生への感染対策教育を行った。ハーバード大学との共同で震災デジタルアーカイブを用いた授業をオンラインで実施した。俳優竹下景子さんを招いて語り部シンポジウム「かたりつぎ」を2021年3月6日に宮城県多賀城市文化センターで開催した。新型コロナウイルス感染拡大防止のために参加者を制限して、会場の半分以下の400人で実施した。仙台市と宮城県と共同で実施している「防災観光」については、コロナ禍の影響でモデルツアー等は実施せず、新たに完成した伝承施設等の連携を検討した。「コングクター型災害保健医療人材の養成プログラム」をオンラインで3回実施した。緊急被ばく医療や放射線に関する講義をオンラインで実施した。

前年度に引き続き、実践的防災学を学ぶためのオンライン学習教材である東北大学MOOC「東日本大震災の教訓を活かした実践的防災学へのアプローチ」を提供し、一般に広く公開した。新型コロナウイルスの影響により、東北大学オープンキャンパスがオンラインで実施され、本研究も参加した。

## 2) 産官学・地域社会との連携および共同研究体制

本研究所は、東日本大震災の被災地での復興や防災・減災対策の推進に貢献するため、産官学と連携し、また被災された地方自治体と包括的連携協定を締結し、地域連携の取り組みを強化している。

### a. 寄附研究部門

寄附研究部門は、本研究所と産業界が連携する重要な活動の一つである。研究所発足当初から設置されている「地震津波リスク評価(東京海上日動)寄附研究部門」は、津波ハザード評価・津波フラジリティに関する研究、津波避難訓練支援、防災教育の取り組み等に関して成果を挙げてきた。従来手法を高度化した津波ハザードの確率論的評価手法を用いて、東北地方太平洋沿岸における確率津波波高やその不確実性を定量的に評価し、さらに再現期間別の津波ハザードマップから津波リスクを定量化する手法を提案した。また東北地方太平洋沖地震津波における石巻市の建物被災データに基づいて高い精度の津波被害関数を構築した。行政・地域が取り組む津波避難対策や避難計画、避難訓練の現場に深く関わり、被災地の避難計画の再構築や、避難訓練の企画と避難行動の調査・検証に取り組んでいる。

2019年度に応用地質株式会社との連携により設置された「都市直下地震災害(応用地質)寄附研究部門」は、産学の得意な分野を活かし、発生が懸念される都市部直下型の内陸活断層大地震について、地形学・地質学・地震学・地震工学の知見から、具体的かつ実践的な防災・減災案を提示する研究を進めている。

### b. 産官学との連携

セコム財団からの外部資金として助成を受けて活動を開始した「南海トラフ地震の事前情報発表時における組織の対応計画作成支援パッケージの開発」プロジェクトは、毎月、現象評価研究班・対応行動体系化班・社会影響研究班各班の進捗報告や活動の方向性に関する活発な議論の場を設け、いわゆる大震法に代わる南海トラフ地震の臨時情報が発表された際の、キー組織(自治体・企業等)のとるべき対応について検討を進めた。南海トラフの後発地震の発生確率について過去100年間の世界の地震統計データをベースとして、南海トラフ固有の発生履歴も考慮する方法を考案した。進捗状況およびこれまでの成果は、「南海トラフ地震臨時情報への対応に関する学際プロジェクト2年目成果報告会」(3月12日)、および「セコム科学技術振興財団特定領域研究助成・防災分野 意見交換会・オンラインワークショップ」(3月31日)において発表された。

2018年より開始された日本電信電話株式会社(NTT)とのビジョン共有に基づく共同研究では、リアルタイム津波浸水被害予測情報を用いた災害対応システムの高度化等の研究テーマを設け、取り組みを深化させている。この技術は内閣府の災害対応システムとしても採用されており、大学発ベンチャーであるRTi-castが運用の一部を担っている。

また、同予測手法の海外への展開も視野に入れている。

国内では、名城大学、東洋英和女学院大学とのクロスアポイントメント制度に関する協定を結び、研究者の移動を容易にして研究交流の活発化を図った。

#### c. 地方自治体との連携

連携協定・覚書等は、本研究所発足以来の累計で民間企業と19件、地方自治体・学校・独法等とが33件を数え、地域社会への実装も着実に進展した。気仙沼市との協定に基づくサテライトオフィス(分室)を拠点として、最新の研究成果等の発信(定期的な防災文化講演会の開催や、調査研究成果の展示等)と、復興や防災・減災対策に関わる実務者・住民・研究者等との人的交流・情報共有を推進している。2019年7月より、気仙沼市 東日本大震災遺構・伝承館内に移転し、新型コロナウイルスの影響により限られた内容ではあるが、活動を継続している。2020年11月9日、東日本大震災津波伝承館(岩手県)と東北大学災害科学国際研究所との連携に関する協定を締結した。岩手大学とも連携しながら、本研究所の複数の研究者が資料提供および展示の監修を行っている。

#### d. 国際連携

MJEED(モンゴルー日本・高度工学教育向上プログラム)における地震工学関連プロジェクトのカウンターパートとして、構造物ヘルスマonitoring機能を持つ早期地震警報システムのウランバートルへの展開と技術協力も行なっている。また、バングラデシュ工科大学と早期地震警報の予備研究に着手しているほか、ネパールの山岳地帯に高耐震性能を有する小学校を建築することを目的に、組積造を対象とした安価なすべり免震機構の開発とその実装を目指した国際共同研究を開始した。大使館(イギリス、フランス、タイ)、国連機関(UNDRR、UNDP)、大学(チューラーロンコーン、シャクアラ、ワシントン、UCL)、海外の学会(AOGS、EGU)等と連携を強化し、複数の共同セミナー(オンライン)を開催した。オランダ、カナダ、エジプト、タイ、バングラデシュ、中国等の研究者と、オンラインを中心に研究打ち合わせを行った。コロンビアにおいて、津波浸水被害予測手法の標準化、新しい津波警報システムの開発に貢献した。インドネシア中部スラウェシ地震の復興について、インドネシア政府やインドネシア側の大学とのディスカッションを続けた他、学会を通じたウェビナーを開催した。ダッカの耐震性補強の効率的実施のためのSATREPSに参加し、GISを用いた建物の脆弱性推定を行った。ArcDR3(Architecture and Urban Design for Disaster Risk Reduction and Resilience)イニシアチブに参加し、その一環として、宮城県仙台市荒浜、名取市閑上、丸森町における国際ワークショップを実施した。国連防災事務所が組織する「アジア太平洋科学技術アカデミア諮問委員会」の委員を務め、「Virtual 2020 Asia Pacific Science and Technology Conference for Disaster Risk Reduction: Science and Technology for Building Resilience of Communities and Infrastructure」に出席した。WHOの健康危機・災害リスク管理枠組(H-EDRM framework)コアメンバーとして災害保健医療の人材育成、knowledge hubの形成を推進した。米国マウントシナイ大学と共同で、レジリエンス向上に向けた自習とレジリエンス向上との関連に関する国際研究を実施した。ベルリン自由大学との連携で、2020 Berlin Science Weekにおける科学セッション「Learning from disasters for a resilient society: Experiences from the Great East Japan earthquake and tsunami and COVID-19 pandemic」を共催した。AIWEST-DR2019の会議議事録を出版し、AIWEST-DR2021を企画した。

ハーバード大学、ワシントン大学、UCLAの教員とのクロスアポイントメント制度に関する協定を結び、特に研究に対する協力を得た。また、イギリス・フランス・タイの大使館、UNISDR・UNDP等の国連機関、タイ チューラーロンコーン大学・インドネシア シャクアラ大学・米国 ワシントン大学・英国 UCLなどとの連携を強化した。

### 3) 防災教育の社会的展開のためのシンポジウム等の開催

プロジェクト連携研究センターである「防災教育国際協働センター」を中心に、防災教育に関わる国内外の多様なステークホルダーとのネットワークを構築し、研究と実務の距離を縮め、防災教育の普及と高度化の実現をめざしている。被災地では、防災対策・津波避難計画への協力、防災教育への協力、防災文化講演会の開催等の活動により、地元に着した拠点の形成を強化した。また、自治体等の復興計画委員会委員やアドバイザー等として、防災・減災の研究成果を政策や地域計画に反映するとともに、研究所公開、模擬講義、IRIDeS 金曜フォーラム等を継続的に開催し、地域の社会教育へ貢献した。新型コロナウイルスによる影響で開催が見送られたものもあるが、オンラインを積極的に活用し、

工夫しながら実施されたものも多い。

本研究所設立から月に1回の頻度で続けている「IRIDeS 金曜フォーラム」は、今年度よりテーマを精査し、年間で5回の開催とした。今年度のテーマは、「新任教員が携わる災害科学研究」(2回)、「被災地のバトン・支援のリレー ～令和元年東日本台風から1年～」、「災害科学研究者 ～それぞれの原点、それぞれの3.11～」であった。オンラインに変更したが、一般の参加者も加え、多様な研究者らとより近い距離で討論が行われ、問題点を共有できた。7月の開催は共同利用共同研究成果報告会を兼ねており、研究者と一般参加者が情報交換する貴重な場を提供している。

2016年度から月1回開催している「災害と健康」学際研究推進セミナーは、新型コロナウイルスのため開催が見送られてきたが、2020年12月にオンラインで再開され、災害と復興法学、災害対策基本法などの法律と医療に関するテーマで開催された。

開催・参加したシンポジウムやイベントの一部を以下に列挙した。

- ・第26・29回「災害と健康」学際研究推進セミナー(オンライン、12/4、3/1)
- ・第67～71回「IRIDeS 金曜フォーラム」(オンライン、5/15、7/18、10/2、11/20、2/19)
  - ※7/18は2019年度共同研究成果報告会およびプロジェクトエリア・ユニット報告会と合同
- ・第1～2回 Arc DR3 フォーラム「New Agendas for Regenerative Urbanism」(ライブストリーミング配信、6/27、3/6)
- ・コロナ時代の不確実性と地震リスク(オンラインワークショップ、10/2、10/16、10/30)
- ・災害研の減災デザイン:実装の成果と活動の展望(オンライン、11/30)
- ・東日本大震災アーカイブシンポジウム(オンライン、1/11)
- ・東日本大震災から10年～復興の教訓と未来への展望(オンライン、1/21)
- ・第3回北海道・東北地区の歴史資料保全に関するワークショップ(オンライン、1/30)
- ・かたりつぎ in 多賀城(入場制限、インターネット配信、3/6)
- ・東日本大震災シンポジウム「東日本大震災から10年とこれから」(入場制限、オンライン同時配信、3/7)

#### 4) 社会へのプレゼンスの強化

本研究所が主導して2019年にElsevier社から発刊した国際ジャーナル「Progress in Disaster Science」は多くのすぐれた論文を掲載し、2020年のcite score(過去3年分の引用数/論文数)は2.4で発刊2年にして関係領域の雑誌の中で50パーセンタイルに位置している。

本研究所は、国際的な動向・ニーズを踏まえた上で、防災分野の国際標準化(防災ISO)に向けた取り組みを開始した。具体的には防災ISOに仙台防災枠組グローバルターゲットの「用語」「指標」を盛り込むことに加え、経済産業省と連携し「地産地防」の概念を提案してきた。被災地で培われたレジリエンスの知恵や人材・技術を基に、街・人(行動)・食料・医療・エネルギー・情報等に関する最低限必要な国際標準を定めた上で、各地域の実情に合わせて仕様を変更し備えに役立てていく。本活動は防災科学技術研究所からも支援を受けており、既に多くの企業が関心を示している。防災ISO規格の交渉はこれから4年程度必要となる見込みであるが、本研究所には既に国際的なレジリエンス向上に関する知見ならびに地域の防災産業に資する情報が蓄積されており、特に災害科学研究・レジリエンス学のグローバル化、防災関連産業の育成・サービスの国内外展開を目指す研究機関・企業に対し、有益なプラットフォームを提供できる。

災害統計グローバルセンターはJournal of Disaster Research誌に2018年度から災害被害統計に関する特集「Special Issue on the Development of Disaster Statistics」を刊行し、仙台防災枠組が設定する災害による人的・物的損失の削減に向けた結果目標のモニタリングについて、災害統計の立場から各国政府による科学的根拠に基づく政策立案に資する知見の提供に貢献した。

2021年は東日本大震災から10年が経過する節目の年である。仙台市と本研究所は協力し、新型コロナウイルスに対する十分な感染対策をおこなった上で「仙台防災未来フォーラム2021」を開催し(3月6～7日)、その中で「東日本大震災から10年とこれから」と題してシンポジウムを開催し、オンラインでも同時配信した(3月7日午後)。第1部は「災害研設立後の実績と今後10年」として、2021年4月から組織再編されるのに合わせて4つの研究部門からの報告と展望がなされた。第2部は「災害研の今後の10年への期待」として、気仙沼市長、メディア、クロスアポイント教員それぞれの立場から本研究所への期待が寄せられた。パネルディスカッションによる意見交換では、次世代を担う本研究所の研究者からの発表に対してパネリストからさまざまな要望が寄せられた。

また、東日本大震災 10 年出版『東日本大震災からのスタート―災害を考える 51 のアプローチ』を東北大学出版会から刊行した。同書では、本研究所の全部門・分野に加えて連携部局からも執筆者を迎え、あらゆる角度から捉えた防災・減災の提言をわかりやすく伝える書籍として 2021 年 3 月 11 日に刊行された。高校生から一般向けに、震災直後、あるいは震災から数年後では把握されず論じられることもなかった新たな論点もふんだんに盛り込み、震災後 10 年経った「今(いま)」から震災を照射することで、今後新たな災害が起きた時、その 10 年後に生じる課題を先取りし、発生から 1 年後、3 年後、5 年後に有効な復旧・復興策をもってより計画的な再生を果たす道標となることを目指したものとなった。研究者、実務者、一般に広く読まれ重版に至っている。

## (8) 自己評価

### 1) 2020 年度活動の総括

2020 年度は、2020 年 1 月から続く世界的な新型コロナウイルスのパンデミックにより、本研究所の活動も非常に大きな影響を受けた。2020 年 4 月に緊急事態宣言が全国に拡大され、東北大学本部の行動指針に基づき研究活動であっても出勤が限定され、海外出張は特段の許可を要することとなり、国内出張は部局長許可が条件となった。その後、感染の波の状況に応じ本学の行動指針のレベルも緩和と強化が繰り返されたが、本年度末には宮城県の感染者が急増し、行動規制が強化された。

本研究所では、執行部と関係医学教員による本感染症対応の災害対策会議幹事会を毎週開催し、大学本部の方針に従い感染防止を確実にするため、出張や来訪者の受け入れ、多数の外部者が参加する会合について事前承認または事前届出を必要とする対応を続けた。このため海外出張はほぼ不可となり、国内でも人と接触する研究出張も大部分が取りやめとなり、多くの研究計画が延期を余儀なくされた。

一方、本研究所は災害感染症学分野を含めた災害医学研究部門を持ち、他部門でも感染症を研究対象のハザードと認識してきたため、各部門で新型コロナウイルス感染症に関わる研究に積極的に取り組んだ。大学本部の同感染症関係のスタートアップ研究助成を本研究所の 2 グループが獲得したほか、本研究所独自で 8 件の研究助成(1 件数十万円)を、所員を含む研究グループに対して行った。

このような感染症の蔓延の中、「令和 3 年 2 月福島県沖の地震」など本年度においても自然災害が発生し、その災害調査・研究を行うことに加え、その災害における避難所での感染防止対策の支援など、災害時の感染防止の活動にも取り組んだ。さらに、オンラインの会合・会議に本研究所員も相手方も習熟し、研究成果の発信をオンラインで行うことで日本全国および世界各国からの参加がむしろ得やすいメリットに気づき、有効な活用が図られた。本研究所の主催行事でもオンラインでの出席を含めた参加者数が従来に比べ増加することが多く、新たな研究成果の発信方法の手応えも得られた。

組織・研究体制に関しては、本研究所の今後のさらなる発展を見据え、これまでの基盤研究の推進を継続しつつ、多様化する災害過程の解明と減災の実現に向けた研究体制強化を図るため、2021 年度当初に、既存の部門を 3 つの研究部門と防災実践推進部門および寄附研究部門へ組織再編を行うこととした。これと同時に、2016 年から導入したニーズオリエンテッド型のプロジェクトエリア・ユニット制は終了とした。これらの組織体制の変更は、2022 年度に始まる国の大学の第 4 期中期計画を見据えたものであるとともに、組織体制を簡潔で外部からよりわかりやすいものとし、所員相互の連携もより行いやすくする効果も意図したものである。

### 2) 活動水準の向上度の評価

設立以降の 9 年間に、本研究所を取り巻く状況には様々な変化があったが、研究成果の状況は、おおむね安定した傾向を示している。過去 5 年間の年間の研究成果の推移(2016~2020 年度)をみると、学術論文(471 編→327 編→304 編→273 編→290 編)、著書(33 冊→38 冊→19 冊→20 冊→25 冊)(単著、共著、分担執筆含む)、総説解説(63 編→51 編→39 編→34 編→84 編)、学会における招待講演(75 件→53 件→71 件→44 件→30 件)、受賞(26 件→25 件→25 件→20 件→17 件)、特許(5 件→5 件→9 件→4 件→8 件)と毎年着実に実績をあげていることがわかる。学術論文の内訳では、国際誌では査読有論文比率が 63%(51%→49%→50%→54%→63%)と半分以上が査読有論文であり、国内誌査読有論文比率(18%→24%→19%→16%→17%)と合わせて、質の高い水準を保っている。また、受賞件数は

例年同様の水準を保っているが、その内訳を見ると、濱口梧陵国際賞(国土交通大臣賞)、建設工学研究奨励賞、日本消化器がん検診学会一般演題優秀賞、Lucy Mair Medal & Marsh Prize for Applied Anthropology、復興デザイン会議「復興政策賞」など、文・理・医学分野の研究から社会貢献と広範な領域に跨っており、それぞれが確実に実績を挙げ、社会的な評価に結び付いていると考えられる。

一方、過去5年間のメディア報道への出演・執筆・企画協力・資料提供は、842件→680件→722件→869件→853件となっており、災害発生の度合に左右される件数となっている。プレスリリースも15件行い、社会への発信に引き続き努力した。2019年度末に全面改訂した本研究所のウェブサイト(日本語)において、本年度には2災害について緊急特設ウェブサイトを設けた。また、国際研究連携の活動状況を世界地図で視覚的に示すページを追加した。さらに、英語版ウェブサイトの全面改訂も進め、本年度末に公開した。このように広報体制の充実を進めた。

また産官学および社会地域との連携に関しては、連携協定・覚書が本研究所発足以来の累計で、民間企業20件、地方自治体等とが34件となっており、地域社会への実装もさらに進展しつつある。

### 3) 世界トップレベル研究拠点

災害科学研究拠点では、「実践防災学研究領域」「自然災害研究領域」「災害人文学研究領域」「災害医学研究領域」の4つの研究領域を設け、本研究所および関連部局からのコアメンバーを中心に活動を推進した。共通の連携フィールド研究としての七ヶ浜町とのワークショップは、新型コロナウイルス感染症の影響によりオンラインで実施され、七ヶ浜町と共同で第10次被災者健康調査を実施し、「七ヶ浜気象観測計画」を立ち上げた。地域に根ざした実践的な研究の展開を議論し、次年度に向けた計画を検討した。今後とも世界トップレベル研究拠点としての活動が重要と認識している。なお、災害科学研究拠点に関する詳細は、拠点のHP(<http://dsmca.irides.tohoku.ac.jp>)を参照されたい。

### 4) 共同利用共同研究

本研究所は、全国共同利用・共同研究拠点の認定に向けた取り組みを設立当初から計画として掲げていた。2018年度認可に向けた申請では認可には至らなかった。これまで本研究所では、共同利用共同研究体制強化のため、共同利用共同研究助成公募を2016年度から行っている。2016年度13件、2017年度34件、2018年度33件、2019年度32件と、4年間で計112件を採択し、広範な共同利用共同研究活動を展開することで、継続的な研究者コミュニティの発展に寄与している。2020年度も同様の公募を行い、34件を採択した(2020年6月)。今後、将来の全国共同利用・共同研究拠点を目指し、共同利用・共同研究の方向性と実績を着実に積み上げていく必要がある。2020年3月に新潟大学災害・復興研究所と包括連携協定を締結するなど、共同利用研究体制強化に向けての体制整備は着実に進んでいると考えている。

### 5) 社会貢献活動

災害対策先進国日本における主要な災害研究機関として、また東日本大震災の被災地にある総合大学として、本研究所は社会貢献として各主体との連携や人材育成を担うことは必須であり、本年度も活発に活動を行った。特徴的な取り組みを再掲すれば、防災人材育成については、学内での学生教育に加え、作成した小学生向け災害科学解説パネルの活用、宮城県受託の自主防災組織育成事業の実施、災害保健医療人材養成、地方自治体と連携した防災教育の協力などを行った。産学連携・地域社会連携では、2つの寄附研究部門での研究、セコム財団の助成による南海トラフ地震に関する対応の研究、NTTとのビジョン共有に基づく共同研究などを行った。地方自治体との連携では、気仙沼市との協定に基づくサテライトオフィス(分室)での定期的発信、東日本大震災津波伝承館(岩手県)との連携等を行った。国際連携では、モンゴル、バングラデシュ、ネパール、コロンビア、インドネシアなどの場で多様な取り組みを行い、災害統計グローバルセンターも継続的に活動した。これらは一定の成果を上げ、また引き続き社会からの期待も大きいと考えられるため、今後、新部門・分野の体制の下で社会的貢献活動を推進することが必要と考えている。

### 6) 東日本大震災から10年の活動

東日本大震災から2021年3月で10年が経過する節目となり、本研究所も大震災の経験・教訓と復興の現状・課題を発信する機会として積極的な活動を行った。具体例として、仙台市の震災10年の中心的な行事である「仙台防災

未来フォーラム 2021」に全面的に協力するとともに、同フォーラム内で本研究所主催の「東日本大震災から 10 年とこれから」と題したシンポジウムを会場およびオンライン配信のハイブリッド形式で開催し、全国から多くの参加者を得た。また、東日本大震災 10 年出版『東日本大震災からのスタートー災害を考える 51 のアプローチ』を本研究所メンバーの分担執筆で東北大学出版会から刊行し、重版となるなど注目を得ることができた。

表1 災害科学国際研究所の研究成果(2020年度)の概要

学術論文	289 編
単著	24
共著(うち筆頭)	265(52)
著書	25 冊
単著	37
共著(うち筆頭)	36(11)
監修・編集・共編	2
総説・解説	84 編
学会発表	271 件
単独・筆頭	141
共同(連名)	130
うち基調講演・招待講演・特別講演	30
特許	8 件
受賞	17 件
科研費(代表)	37 件
その他の競争的資金(代表)	44 件
学術会議等の主催・共催・運営	96 件
シンポジウム	19
講演会・セミナー	26
研究会・ワークショップ	44
その他	7
セミナー・講演等の主催・共催・運営	95 件
シンポジウム	15
講演会・セミナー	35
研究会・ワークショップ	24
その他	21
講演・講義等	230 件
公開講座	23
講演会・セミナー	156
小中高との連携	21
展示会	2
ボランティア・その他	28
うち行政・企業との連携	121
うち基調講演・招待講演・特別講演	100



表2 2020年度 研究成果等への受賞リスト

受賞者名は本研究所所属教員のみ記載

受賞名・学術賞名 <授与機関>	受賞者(関係者)氏名	授与日
2020年日本建築学会教育賞(教育貢献)<日本建築学会>	村尾修・目黒公郎(グループ)	2020/4/17
論文賞 <日本地震工学会>	今村文彦(グループ)	2020/4/23
学術賞(研究論文) <デジタルアーカイブ学会>	柴山明寛・ボレー セバスチャン・ 今村文彦(グループ)	2020/5/1
年間優秀論文賞 <地域安全学会>	佐藤翔輔	2020/5/22
建設工学研究奨励賞 <一般財団法人建設工学研究振興会>	内田典子	2020/6/8
土木学会論文賞 <土木学会>	水谷大二郎(グループ)	2020/6/12
一般演題優秀賞 <日本消化器がん検診学会>	稲葉洋平	2020/10/1
Breast Cancer Reviewer 賞 <日本乳癌学会>	三木康宏	2020/10/9
Lucy Mair Medal & Marsh Prize for Applied Anthropology <英国 Royal Anthropological Institute>	ボレー セバスチャン	2020/10/16
濱口梧陵国際賞(国土交通大臣賞) <国土交通省>	今村文彦	2020/11/4
2020年度日本活断層学会論文賞 <日本活断層学会>	遠田晋次(グループ)	2020/11/22
若手優秀講演賞 <日本活断層学会>	石澤堯史	2020/11/22
若手優秀講演賞 <日本活断層学会>	吉見瑤子	2020/11/23
復興デザイン会議「復興政策賞」 <復興デザイン会議>	今村文彦(グループ)	2020/12/5
若手アンサンブルポスター賞 <東北大学>	ゲルスタ ユリア(グループ)	2021/3
第2回学会賞 学術賞 <デジタルアーカイブ学会>	今村文彦・柴山明寛・ボレー セバスチャン(グループ)	2021/3/17
発表優秀賞 <日本自然災害学会>	門廻充侍	2021/3/19

### 3 組織運営活動

(1) 研究組織、人員配置及び会議・委員会

A 研究組織

2021年3月31日現在

研究部門	研究分野	
災害リスク研究部門	地域地震災害研究分野	津波工学研究分野
	環境変動リスク研究分野	広域被害把握研究分野
	最適減災技術研究分野	低頻度リスク評価研究分野
人間・社会対応研究部門	災害認知科学研究分野	被災地支援研究分野
	歴史資料保存研究分野	防災社会システム研究分野
	災害文化研究分野	
地域・都市再生研究部門	都市再生計画技術分野	計算安全工学研究分野
	災害対応ロボティクス研究分野	国際防災戦略研究分野
災害理学研究部門	海底地殻変動研究分野	地震メカニズム研究分野
	火山ハザード研究分野	長期地殻変形・地質構造研究分野
	気象・海洋災害研究分野	宙空災害研究分野
	活断層研究分野	
災害医学研究部門	災害医療国際協力学分野	災害感染症学分野
	災害放射線医学分野	災害精神医学分野
	災害産婦人科学分野	災害公衆衛生学分野
	災害医療情報学分野	災害口腔科学分野
情報管理・社会連携部門	災害アーカイブ研究分野	災害復興実践学分野
	社会連携オフィス	国際研究推進オフィス
地震津波リスク評価(東京海上日動) 寄附研究部門		
都市直下地震災害(応用地質) 寄附研究部門		

## B 研究所長・副研究所長・教育研究評議員・研究所長補佐等

研究所長	今村 文彦	教授
副研究所長 (総務・規程・人事評価担当)	丸谷 浩明	教授
教育研究評議員	丸谷 浩明	教授
研究所長補佐(諸委員会・教育担当)	五十子幸樹	教授
研究所長補佐(広報・共同研究・共共拠点担当)	江川 新一	教授
研究所長補佐(研究推進・部局評価担当)	寺田 賢二郎	教授
研究所長補佐(将来構想・研究推進担当)	越村 俊一	教授
部門長		
災害リスク研究部門	五十子幸樹	教授
人間・社会対応研究部門	奥村 誠	教授
地域・都市再生研究部門	村尾 修	教授
災害理学研究部門	遠田 晋次	教授
災害医学研究部門	児玉 栄一	教授
情報管理・社会連携部門	佐藤 健	教授

## C 教員数

2021年3月31日現在

	教員数	教員数における性別内訳		教員数における 外国人教員数(%)
		男(%)	女(%)	
教授	18人	18人(100%)	0人(0.0%)	0人(0.0%)
准教授	22人	18人(81.8%)	4人(18.1%)	4人(18.1%)
講師	2人	2人(100%)	0人(0.0%)	0人(0.0%)
助教	17人	9人(52.9%)	8人(47.0%)	4人(23.5%)
助手	4人	2人(50.0%)	2人(50.0%)	0人(0.0%)
計	63人	49人(77.7%)	14人(22.2%)	8人(12.6%)

## D 教員等の配置

2021年3月31日現在

### 災害リスク研究部門

分野名	職名	氏名
地域地震災害研究分野	准 教 授	大 野 晋
	准 教 授	榎 田 竜 太
	事 務 補 佐 員	後 藤 由 美
津波工学研究分野	教 授	今 村 文 彦
	准 教 授	Suppasri Anawat
	助 教	門 廻 充 侍
	学 術 研 究 員	Pakoksung Kwanchai
	学 術 研 究 員	Somphong Chatuphorn
	事 務 職 員 ( 限 定 )	伊 藤 智 栄 子
	事 務 補 佐 員	小 野 千 亜 希
	技 術 補 佐 員	村 山 真 由 美
環境変動リスク研究分野	技 術 補 佐 員	申 畑 真 悠
	教 授	越 村 俊 一 ( 兼 務 )
	准 教 授	有 働 恵 子
	助 教	橋 本 雅 和
広域被害把握研究分野	学 術 研 究 員	武 田 百 合 子
	教 授	越 村 俊 一
	教 授	佐 藤 源 之 ( 兼 務 )
	准 教 授	Mas Samanez Erick Arturo
	准 教 授	太 田 雄 策 ( 兼 務 )
	学 術 研 究 員	阿 部 孝 志
最適減災技術研究分野	技 術 補 佐 員	遠 江 美 紀
	教 授	五十子 幸 樹
	助 教	郭 佳
低頻度リスク評価研究分野	事 務 職 員 ( 限 定 )	石 野 友 恵
	准 教 授	菅 原 大 助
	技 術 補 佐 員	高 橋 久 美 子

### 人間・社会対応研究部門

分野名	職名	氏名
災害認知科学研究分野	教 授	邑 本 俊 亮
	教 授	杉 浦 元 亮
	学 術 研 究 員	平 野 香 南
被災地支援研究分野	教 授	奥 村 誠
	准 教 授	井 内 加 奈 子
	技 術 補 佐 員	齋 藤 緑
	技 術 補 佐 員	山 口 誉 子
歴史資料保存研究分野	准 教 授	佐 藤 大 介
	准 教 授	川 内 淳 史
	助 教	安 田 容 子

防災社会システム研究分野	教	授	丸谷浩明
	教	授	島田明夫(兼務)
	教	授	増田聡(兼務)
	教	授	吉田浩(兼務)
	准 教	授	佐藤翔輔
	助	教	Fulco Flavia
	技 術 補 佐 員		田中希唯
	技 術 補 佐 員		森實香純
	技 術 補 佐 員		五十嵐和美
	技 術 補 佐 員		高橋愛
災害文化研究分野	准 教	授	蝦名裕一
	技 術 補 佐 員		川内めぐみ

#### 地域・都市再生研究部門

分野名	職名	氏名	
都市再生計画技術分野	教	授	岩田司
	教	授	姥浦道生(兼務)
	技 術 補 佐 員		菅野輝美
	技 術 補 佐 員		眞野美穂
計算安全工学研究分野	教	授	寺田賢二郎
	准 教	授	森口周二
	助	教	野村怜佳
	助	手	山口裕矢
災害対応ロボティクス研究分野	技 術 職 員 ( 限 定 )		芳賀麻由美
国際防災戦略研究分野	教	授	村尾修
	准 教	授	泉貴子
	技 術 補 佐 員		加藤園子
	技 術 補 佐 員		佐藤朋香
	技 術 補 佐 員		小林さやか
	技 術 補 佐 員		山口章子

#### 災害理学研究部門

分野名	職名	氏名	
海底地殻変動研究分野	教	授	木戸元之
	教	授	日野亮太(兼務)
	准 教	授	福島洋
	技 術 補 佐 員		榎本郁美
	技 術 補 佐 員		森綾子
地震メカニズム研究分野	教	授	趙大鵬(兼務)
	准 教	授	内田直希(兼務)
	准 教	授	岡田知己(兼務)

火山ハザード研究分野	教	授	三浦 哲(兼務)	
	准	教	授	山本 希(兼務)
	助	教	市來 雅 啓(兼務)	
長期地殻変形・地質構造研究分野	准	教	授	武藤 潤(兼務)
	助	教	高橋 尚志	
気象・海洋災害研究分野	教	授	須賀 利 雄(兼務)	
	教	授	山崎 剛(兼務)	
宙空災害研究分野	教	授	小原 隆 博(兼務)	
	准	教	授	三澤 浩 昭(兼務)
	准	教	授	土屋 史 紀(兼務)
活断層研究分野	教	授	遠田 晋次	
	助	教	石澤 堯 史	
	技 術 職 員 ( 限 定 )		國分 園子	

### 災害医学研究部門

分野名	職名	氏名		
災害医療国際協力学分野	教	授	江川 新一	
	准	教	授	佐々木 宏之
	技 術 補 佐 員		千田 蓉	
	技 術 補 佐 員		佐藤 真理	
災害感染症学分野	教	授	児玉 栄一	
	助	教	林 宏典	
	技 術 職 員 ( 限 定 )		白井 恵美子	
	技 術 補 佐 員		笹野 美奈	
	技 術 補 佐 員		三浦 希代江	
	事 務 補 佐 員		近藤 歩美	
災害放射線医学分野	教	授	千田 浩一	
	教	授	細井 義夫(兼務)	
	講	師	鈴木 正敏	
	助	教	稲葉 洋平	
	技 術 補 佐 員		菊池 玲子	
災害精神医学分野	教	授	富田 博秋(兼務)	
	准	教	授	國井 泰人
	助	教	兪 志前	
	助	教	白倉 瞳	
	技 術 補 佐 員		初貝 ゆう子	
災害産婦人科学分野	教	授	伊藤 潔	
	教	授	齋藤 昌利(兼務)	
	講	師	三木 康宏	
災害公衆衛生学分野	教	授	栗山 進一	
	技 術 補 佐 員		齋藤 洋子	
災害医療情報学分野	教	授	中山 雅晴(兼務)	
	准	教	授	藤井 進
	学 術 研 究 員		野中 小百合	
	技 術 補 佐 員		千葉 薫	

災害口腔科学分野	教 授	小坂 健(兼務)
	准 教 授	鈴木 敏彦(兼務)

情報管理・社会連携部門

分野名	職 名	氏 名
災害アーカイブ研究分野	教 授	今村 文彦(兼務)
	准 教 授	柴山 明寛
	助 教	Gerster-Damerow Julia
	学 術 研 究 員	小野 円
	技 術 補 佐 員	土屋 美津子
災害復興実践学分野	教 授	佐藤 健
	教 授	小野田 泰明(兼務)
	准 教 授	平野 勝也
	准 教 授	本江 正茂(兼務)
	助 教	定池 祐季
社会連携オフィス	事 務 補 佐 員	松浦 いく子
	教 授	小野 裕一
	助 教	佐々木 大輔
国際研究推進オフィス	事 務 補 佐 員	八木 美夏
	教 授	小野 裕一(兼務)
	教 授	寺田 賢二郎(兼務)
	准 教 授	Boret Sebastien Penmellen
	准 教 授	Maly Elizabeth Ann
	准 教 授	泉 貴子(兼務)
	准 教 授	Suppasri Anawat(兼務)
准 教 授	Mas Samanez Erick Arturo(兼務)	
	技 術 補 佐 員	齋藤 緑

	職 名	氏 名
地震津波リスク評価(東京海上日動) 寄附研究部門	教 授	今村 文彦(兼務)
	准 教 授	山下 啓
	准 教 授	Suppasri Anawat(兼務)
	助 教	内田 典子
	助 手	宮本 龍
	学 術 研 究 員	武田 真一
	技 術 補 佐 員	保田 真理
	技 術 職 員 ( 限 定 )	佐藤 雅美
	事 務 補 佐 員	杉浦 加奈子

	職 名	氏 名
都市直下地震災害(応用地質) 寄附研究部門	教 授	遠田 晋次(兼務)
	助 手	吉見 瑤子
	助 手	乗松 君衣



国際共同大学院	職名	氏名
	助教	杉安和也

広報室	職名	氏名
	特任准教授	中鉢奈津子
	技術職員(限定)	鈴木通江
	技術補佐員	小森光
	技術補佐員	福島愛子

**事務部**

事務長	曾根芳則
専門員	栗原尚志
総務係	係長:前盛和重、主任:赤坂絵津子、 事務補佐員:大野祐子、久保田千恵、武田加奈子
経理係	係長:杉山力 事務補佐員:菅原千織、鈴木由布子、村山桃、小島克子
用度係	係長:佐藤圭一、主任:佐藤恭子、事務補佐員:曾我俊徳、栗田香理
専門職員	武川泰典、事務補佐員:松澤千賀子

## E 研究所内会議・委員会

### 1.会議

会議名	構成員	審議事項
教授会	専任の教授	研究所の組織及び研究体制、人事、予算、その他重要事項
運営会議	研究所長、副研究所長、教育研究評議員、研究所長補佐、部門長	研究所の組織運営に関する事項についての企画及び調整
拡大教授会	専任の教授、准教授、講師	研究所に関する事項等の情報伝達と情報交換
全体会議	専任の教授、准教授、講師、助教、助手、その他	研究所に関する事項等の情報伝達と情報交換

### 2.委員会

委員会名	委員長	主な所掌内容
安全衛生委員会	今村 文彦 教授(所長)	職員の健康障害防止
予算委員会	今村 文彦 教授(所長)	研究所予算
総務委員会	五十子幸樹 教授(所長補佐)	研究所総務
評価委員会	丸谷 浩明 教授(副所長)	部局評価
広報戦略委員会	江川 新一 教授(所長補佐)	研究成果の社会発信、出版物
ハラスメント防止対策委員会	五十子幸樹 教授(所長補佐)	防止対策と発生時の対応
男女共同参画委員会	五十子幸樹 教授(所長補佐)	男女共同参画推進啓発
教務委員会	五十子幸樹 教授(所長補佐)	教育、安全、活動の企画・運営
国内連携委員会	佐藤 健 教授	産官学連携、自治体連携
国際連携委員会	寺田 賢二郎 教授(所長補佐)	国際連携、APRU
共同利用・共同研究委員会	江川 新一 教授(所長補佐)	プロジェクトの計画、採択
共同利用・共同研究プロジェクト実施委員会	江川 新一 教授(所長補佐)	プロジェクトの実施
研究企画委員会	越村 俊一 教授(所長補佐)	研究の企画・運営、体制構築
研究倫理委員会	邑本 俊亮 教授	研究倫理審査、倫理教育企画
公正研究活動推進委員会	寺田 賢二郎 教授(所長補佐)	公正な研究活動の推進
施設・環境委員会	村尾 修 教授	施設・環境整備保全、安全
消防・防災委員会	丸谷 浩明 教授(副所長)	災害対策の策定、防災訓練

### 3.委員会名簿

2021年3月31日現在

委員会	◎委員長・ ○副委員長	委員	WG・メンバー (★WG長、☆副WG長)
安全衛生委員会	◎今村教授	小川産業医、榎田准教授、井内准教授、泉准教授、鈴木講師、佐々木大助教、石澤助教、事務長、用度係長、総務係長、総務係員	
予算委員会	◎今村教授 ○丸谷教授	江川教授、寺田教授、五十子教授、越村教授、井内准教授、事務長、経理係長	
総務委員会	◎五十子教授 ○丸谷教授	今村教授、柴山准教授、総務係長	ライブラリ運営WG ★今村教授、柴山准教授、佐藤大准教授
評価委員会	◎丸谷教授 ○越村教授	五十子教授、奥村教授、村尾教授、遠田教授、児玉教授、佐藤健教授	教員選考審査基準検討WG ★越村教授、☆五十子教授、村尾教授、丸谷教授、寺田教授、遠田教授、児玉教授 教員表彰WG ★丸谷教授、五十子教授
広報戦略委員会	◎江川教授 ○寺田教授	木戸教授、佐藤健教授、中鉢特任准教授、広報室職員 ※各WGに広報室職員参画	ニューズレターWG ★中鉢特任准教授、森口准教授、榎田准教授、ボレー准教授、三木講師、石澤助教 年次報告書WG ★木戸教授、中鉢特任准教授 展示WG ★橋本助教、☆佐々木宏准教授、井内准教授、菅原准教授、藤井准教授、川内准教授、鈴木講師、稲葉助教、郭助教、門廻助教、フルコ助教、安田助教、山口助手、石澤助教、兪助教、白倉助教、佐々木大助教、定池助教、ユリア助教、宮本助手、乗松助手、吉見助手、中鉢特任准教授 東日本大震災10周年出版企画WG ★奥村教授、☆伊藤教授、森口准教授、木戸教授、江川教授、佐藤健教授、柴山准教授、中鉢特任准教授 ウェブサイト改築WG ★江川教授、☆伊藤教授、木戸教授、柴山准教授、大野准教授、中鉢特任准教授
ハラスメント防止対策委員会	◎五十子教授 ○奥村教授	栗山教授(教授代表)、有働准教授(准教授・女性代表)、郭助教(助教代表)、児玉教授(過半数代表者)、総務係長	
男女共同参画委員会	◎五十子教授 ○奥村教授	栗山教授(教授代表)、有働准教授(准教授・女性代表)、郭助教(助教代表)、児玉教授(過半数代表者)、総務係長	
教務委員会	◎五十子教授(工) ○村尾教授(工)	邑本教授(情)、江川教授(医)、遠田教授(理)、佐藤大准教授(環)	GP-RSS運営WG ★村尾教授、江川教授、今村教授、児玉教授、サッパシー准教授、泉准教授、柴山准教授、佐藤大准教授、杉安助教 高度医療人材養成プログラム運営WG ★江川教授、五十子教授、榎田准教授、佐々木宏准教授、マリ准教授 卓越大学院運営WG ★寺田教授、今村教授、小野教授、江川教授、福島准教授、杉安助教
国内連携委員会	◎佐藤健教授 ○丸谷教授	岩田教授、平野准教授、佐藤翔准教授	産官学連携WG ★丸谷教授、岩田教授、小野教授、佐藤健教授、定池助教 気仙沼分室WG ★佐藤翔准教授、丸谷教授、岩田教授、栗山教授、児玉教授、蝦名准教授、森口准教授、サッパシー准教授、マリ准教授 3.11からの学び塾WG ★佐藤健教授、☆定池助教、奥村教授、丸谷教授、岩田教授、平野准教授、佐々木宏准教授

国際連携委員会	◎寺田教授 ○小野教授	サッパシー准教授、マス准教授、泉准教授、マリ准教授、ボレー准教授	APRU運営WG ★泉准教授、村尾教授、サッパシー准教授、マス准教授、マリ准教授、ボレー准教授、杉安助教 世界津波の日WG ★今村教授、越村教授、小野教授、サッパシー准教授、マリ准教授、ボレー准教授、中鉢特任准教授 世界防災フォーラムWG ★今村教授 事務局:佐藤翔准教授、井内准教授 連携部会:丸谷教授(国内)村尾教授(国際) セッション部会:寺田教授、マリ准教授、ボレー准教授、マス准教授、サッパシー准教授、泉准教授 展示:展示WG(小野教授)
共同利用・共同研究委員会	◎江川教授	越村教授、邑本教授、千田教授、佐藤健教授、蝦名准教授	
共同利用・共同研究プロジェクト実施委員会	◎江川教授	サッパシー准教授、柴山准教授、泉准教授、三木講師	
研究企画委員会	◎越村教授(リ) ○児玉教授(医)	五十子教授(リ)、奥村教授(人)、村尾教授(地)、遠田教授(理)、佐藤健教授(情)、森口准教授、福島准教授、杉浦教授	金曜フォーラムWG ★定池助教、岩田教授、マス准教授、マリ准教授、稲葉助教、橋本助教、佐々木大助教、安田助教、石澤助教、郭助教、ユリア助教、門廻助教、広報室職員 緊急調査WG 津波(国内):山下准教授、門廻助教 津波(海外):☆サッパシー准教授、マス准教授 高潮・洪水:橋本助教、有働准教授 地震:遠田教授、大野准教授 土砂:★森口准教授 火山:福島准教授、森口准教授 保健・医療:佐々木宏准教授、藤井准教授、兪助教 歴史資料保護:佐藤大准教授、蝦名准教授、川内准教授 構造物:柴山准教授、大野准教授 情報支援:佐藤翔准教授、中鉢特任准教授、広報室職員 マッピング:マス准教授、有働准教授 ソフトウェア管理WG ★越村教授、マス准教授 KPI評価・推進WG ★今村教授、丸谷教授、寺田教授、佐藤健教授、小野教授、福島准教授、柴山准教授、泉准教授、事務長、経理係長 研究所若手アンサンブルWG ★佐々木大助教、橋本助教、山口助手
倫理委員会	◎邑本教授 ○奥村教授	伊藤教授、木戸教授、森口准教授、榎田准教授、ボレー准教授	
公正研究活動推進委員会	◎寺田教授(地) ○奥村教授*(人)	榎田准教授(リ)、邑本教授*(人)、木戸教授(理)、千田教授*(医)、平野准教授(情) *研究公正アドバイザー	
施設環境委員会	◎村尾教授 ○平野准教授	五十子教授、大野准教授、柴山准教授、用度係長	施設管理WG ★平野准教授、岩田教授、村尾教授、大野准教授、柴山准教授、用度係長 ネットワークWG ★大野准教授、柴山准教授、寺田教授 デザインコードWG ★村尾教授、平野准教授、用度係長
消防・防災委員会(自衛消防隊)	◎丸谷教授 ○五十子教授	今村教授、邑本教授、佐藤健教授、江川教授、大野准教授、佐藤大准教授、柴山准教授、平野准教授、佐藤准教授、事務長	防災計画策定WG ★丸谷教授、佐藤健教授、江川教授、邑本教授、柴山准教授、佐藤翔准教授、佐々木宏准教授、山下准教授、フルコ助教、総務係長、用度係長
東日本大震災シンポジウム	◎丸谷教授 ○越村教授	佐藤翔准教授、榎田准教授、中鉢特任准教授	

## (2) 研究資金

### A 2020年度 災害科学国際研究所歳出決算

(単位:百万円)

区分	決算額	備考
運営費交付金	535	
教員人件費	426	
教育研究費	109	
一般管理費	0	
運営費交付金(機能強化)	65	
間接経費	45	
外部資金	481	
寄附金	74	・寄附部門含む
受託研究費	92	
共同研究費	60	
受託事業費	63	
科学研究費補助金	114	
その他補助金	78	
合計	1,126	

※単位未満四捨五入

※特殊要因経費除く

## B 研究者一人あたりの研究費

2021年3月末現在(単位:千円)

事 項	研究費総額 (A)	専任教員数 (B)	教員一人 あたりの研究費 (A/B)	備 考
運営費交付金	109,460	57	1,920	
運営費交付金(機能強化)	65,018	57	1,141	
受託研究費等	367,584	57	6,449	寄附金、受託研究費、共同研究費、受託事業費、その他補助金を含む
科学研究費補助金	114,368	57	2,006	文科省科研費、厚労省科研費を含む
合 計	656,430	57	11,516	

※専任教員数は研究費配分対象者の総数

※単位未満四捨五入

# C 2020年度科学研究費補助金採択一覧表

文科科研費

2021年3月末現在

番号	課題番号	研究種目	研究課題名等	直接経費	間接経費	合計	研究者	研究年度
1	19H05223	新学術領域研究	死後脳マルチオミクス・プロファイルに基づく統合失調症病態の構成的理解	3,000,000	900,000	3,900,000	國井 泰人	H31 ~ R02
2	17H06108	基盤研究(S)	理・工・医学の連携による津波の広域被害把握技術の深化と災害医療支援システムの革新	28,000,000	8,400,000	36,400,000	越村 俊一	H29 ~ H33
3	17H00840	基盤研究(A)	東日本大震災の診療記録統計とシステムダイナミクスに基づく災害医療効率化	6,000,000	1,800,000	7,800,000	江川 新一	H29 ~ H32
4	17H01631	基盤研究(A)	巨大津波後の長期的地形変化を考慮した沿岸防災機能強化	4,800,000	1,440,000	6,240,000	今村 文彦	H29 ~ H33
5	18H03801	基盤研究(A)	東日本大震災復興の検証と自然災害リスクを考慮した21世紀の都市誘導施策	6,600,000	1,980,000	8,580,000	村尾 修	H30 ~ H34
6	19H01094	基盤研究(A)	地盤の支える機能から流れる性質までの統合表現による数値シミュレーション	10,300,000	3,090,000	13,390,000	寺田 賢二郎	H31 ~ H33
7	17H02074	基盤研究(B)	海岸地形発達史に基づく巨大地震イベントの解説	1,200,000	360,000	1,560,000	菅原 大助	H29 ~ H32
8	18H01538	基盤研究(B)	気候変動による河川から海岸への土砂供給量変化を考慮した確率海岸線変化モデルの開発	2,400,000	720,000	3,120,000	有働 恵子	H30 ~ H33
9	18H01577	基盤研究(B)	変位制御設計に有効な複素減衰を模擬する免震用高性能バンプ減衰デバイスの開発	3,700,000	1,110,000	4,810,000	五十子 幸樹	H30 ~ H32
10	18H01579	基盤研究(B)	リアルタイム地震観測情報を用いた即時地震動・建物応答予測の研究	2,400,000	720,000	3,120,000	大野 晋	H30 ~ H32
11	18H01672	基盤研究(B)	斜面災害シミュレーションの具体的なV&Vの例示	3,000,000	900,000	3,900,000	森口 周二	H30 ~ H32
12	19H01293	基盤研究(B)	研究者ネットワークによる巨大災害被災地での歴史文化環境再生の研究	5,000,000	1,500,000	6,500,000	佐藤 大介	H31 ~ R03
13	19H03701	基盤研究(B)	ストレス応答生合成と化学修飾を融合した多様性天然物による難治性疾患治療薬の開発	4,200,000	1,260,000	5,460,000	児玉 栄一	H31 ~ R03
14	19H03894	基盤研究(B)	アドオンゲノムコホートによるアトピー性皮膚炎と閉塞性膵炎の戦略的病態解明	5,400,000	1,620,000	7,020,000	栗山 進一	H31 ~ R03
15	20H02228	基盤研究(B)	免震機能を有する構造物の過大変位抑制効果を検証する非線形振動台実験の高性能制御	7,900,000	2,370,000	10,270,000	榎田 竜太	R02 ~ R04
16	20H02320	基盤研究(B)	被災沿岸地域から学ぶ移転復興計画論の構築：台風ハイアン・スラウェシ島地震を対象に	3,400,000	1,020,000	4,420,000	井内 加奈子	R02 ~ R05
17	20H02407	基盤研究(B)	科学的エビデンスが支える効果的で持続的な災害伝承	4,900,000	1,470,000	6,370,000	佐藤 翔輔	R02 ~ R04
18	20H02408	基盤研究(B)	災害発生中の業務支援に繋がる自然災害デジタルアーカイブに関する研究	2,900,000	870,000	3,770,000	柴山 明寛	R02 ~ R04
19	19K08053	基盤研究(C)	統合失調症死後脳におけるPro to Giu経路の分子プロファイル解析	1,400,000	420,000	1,820,000	國井 泰人	H31 ~ R3
20	20K07962	基盤研究(C)	オートファジーを介したうつ病の分子機構解明と新規治療法の開発	1,300,000	390,000	1,690,000	愈志 前	R02 ~ R04
21	20K09660	基盤研究(C)	子宮内膜癌におけるリビドミクス解析	1,300,000	390,000	1,690,000	伊藤 潔	R02 ~ R04
22	20K21694	挑戦的研究(萌芽)	詳細な食事調査を駆動力とする腸内細菌叢と早産・低出生体重との関連研究	3,800,000	1,140,000	4,940,000	栗山 進一	R02 ~ R03
23	20K14561	若手研究	海溝型地震は内陸地震活動に影響を与えるのか？	900,000	270,000	1,170,000	石澤 堯史	R02 ~ R04
24	20K14999	若手研究	東日本大震災における宮城県での人的被害に関する研究	1,000,000	300,000	1,300,000	門廻 充侍	R02 ~ R03
25	20K15000	若手研究	洪水氾濫解析と衛星画像解析を用いた準リアルタイム水害廃棄物発生量推定	900,000	270,000	1,170,000	橋本 雅和	R02 ~ R04
26	20K17458	若手研究	新しいクラスの抗菌薬：核酸代謝阻害剤は薬剤耐性菌(AMR)に効果を示す	1,600,000	480,000	2,080,000	大江 千紘	R02 ~ R03
27	20K20076	若手研究	The role of Mega-tourism events in disaster recovery, implications for local communities	1,000,000	300,000	1,300,000	NGUYEN David	H31 ~ R2
28	19K17921	若手研究	ノロウイルスをモデルとしたウイルス横断的創薬研究の基盤構築	1,800,000	540,000	2,340,000	林 宏典	H31 ~ R2
29	19K20540	若手研究	アヂェにおける災害復興で現地の学術研究機関が果たす媒介機能の活用に向けた新展開	1,200,000	360,000	1,560,000	佐々木 大輔	H31 ~ R3
30	20K22426	研究活動スタート支援	出水時の環境DNA動態に着目した河川水域と河畔域の生物相モニタリング手法の開発	1,100,000	330,000	1,430,000	内田 典子	R02 ~ R03
31	20HT0013	研究成果公開促進費	東北大生が考えた防災教育プログラム -心理を学んで災害に備えよう-	480,000	0	480,000	邑本 俊亮	R02 ~ R02
32	18F18761	特別研究員奨励費	認識論的不確定性を考慮した構造物地震時応答制御用エネルギー吸収デバイスの最適設計	400,000	0	400,000	LI DAWEI	R02 ~ R02
33	18J20339	特別研究員奨励費	連続スケール間で一貫した最適化を実現する事前落石対策事業スキームの創出	900,000	0	900,000	菅野 蓮華	R02 ~ R02
34	19J11299	特別研究員奨励費	複素減衰モデルの実現による長周期構造物の地震時応答変位・加速度同時低減への挑戦	900,000	0	900,000	LUO HAO	R02 ~ R02
35	20J20360	特別研究員奨励費	津波生存者・犠牲者の双方に着目した津波避難行動発生・進行メカニズムの解明	900,000	0	900,000	新家 杏奈	R02 ~ R04
36	20F20796	特別研究員奨励費	免震構造物高性能化のための革新的ダイナミック・マス・ダンパーの開発	300,000	0	300,000	GUO XUEYUAN	R02 ~ R02
37	20KK0037	国際共同研究強化(B)	東南アジアにおける「オールハザード型」防災対策枠組構築のための共同研究	1,600,000	480,000	2,080,000	泉 貴子	R02 ~ R06
合計				127,880,000	37,200,000	165,080,000		

## D 2020年度外部資金受入状況

契約種別	研究代表者	契約相手	研究題目	研究開始日	研究終了日	直接経費	間接経費	合計
受託研究/競争的資金	越村 俊一	国立研究開発法人科学技術振興機構	B:地震・津波モデリングに基づく地震・津波シナリオの構築(B-2)	2016/4/1	2021/3/31	2,406,000	721,800	3,127,800
受託研究/競争的資金	鈴木 正敏	国立研究開発法人日本原子力研究開発機構	低線量・低線量率放射線被ばくによる臓器別酸化ストレス状態の検討	2020/4/1	2021/3/31	8,386,284	1,588,445	9,974,729
受託研究/競争的資金	伊藤 潔	学校法人慶應義塾	子宮頸がん検診における細胞診とHPV検査併用の有用性に関する研究	2020/4/1	2021/3/31	500,000	150,000	650,000
受託研究/競争的資金	小野 裕一	国立研究開発法人科学技術振興機構	インクルーシブ防災の実現に向けた包括的な災害リスクアセスメントの実証	2019/11/15	2021/10/31	5,300,000	1,590,000	6,890,000
受託研究/競争的資金	有働 恵子	国立研究開発法人科学技術振興機構	6:沿岸セクターにおける適応機会とその効果の評価	2016/4/1	2022/3/31	770,000	231,000	1,001,000
受託研究/競争的資金	國井 泰人	国立大学法人熊本大学	死後脳試料を用いた検証	2020/4/1	2021/3/31	5,000,000	1,500,000	6,500,000
受託研究/競争的資金	児玉 栄一	国立研究開発法人日本医療研究開発機構	Epstein-BarrウイルスによるT/NK白血病・リンパ腫治療薬候補S-FMAUの非臨床試験	2020/4/1	2021/3/31	86,043,000	20,664,900	106,707,900
受託研究/競争的資金	寺田 賢二郎	国立研究開発法人科学技術振興機構	超ハイテン材の変形・破壊シミュレーション技術の開発	2019/9/2	2020/8/31	277,000	83,000	360,000
受託研究/競争的資金	寺田 賢二郎	国立研究開発法人科学技術振興機構	スポーツ溶接された超ハイテン材の破壊予測技術の開発	2020/12/1	2022/3/31	1,000,000	300,000	1,300,000
受託研究/競争的資金	栗山 進一	国立研究開発法人日本医療研究開発機構	出生コホート連携に基づく胎児期から乳幼児期の環境と母児の子後との関連に関する研究	2020/4/1	2021/3/31	18,269,385	730,615	19,000,000
受託研究/競争的資金	國井 泰人	国立研究開発法人日本医療研究開発機構	細胞内代謝・ダイナミック制御から切り拓く発達障害・統合失調症の病理の解明・新規治療法の開発	2020/4/1	2021/3/31	3,769,231	1,130,769	4,900,000
受託研究/競争的資金	児玉 栄一	国立研究開発法人日本医療研究開発機構	構造解析・生物進化学による学際融合は、迅速かつ有効なペプチドPPI創製に有用である	2020/6/1	2021/3/31	14,350,000	2,550,000	16,900,000
受託研究/一般	鈴木 正敏	公益財団法人原子力安全技術センター	不溶性セシウム粒子による生物影響の解明に向けた分野横断的共同研究	2020/4/1	2021/3/10	8,845,963	1,000,892	9,846,855
受託研究/一般	児玉 栄一	国立大学法人京都大学	現場で使用できコンタミリスクがない閉鎖系新型コロナウイルス検出システム構築に向けた要素技術の確立 (1)-2抽出系と測定系の評価	2020/9/15	2021/3/31	2,000,000	600,000	2,600,000
受託研究/一般	山下 啓	国立研究開発法人防災科学技術研究所	高潮の河川遡上を考慮したリアルタイム浸水予測モデルの開発	2019/5/23	2022/3/31	11,285,100	1,692,765	12,977,865
受託研究/一般	寺田 賢二郎	国立研究開発法人科学技術振興機構	樹脂の硬化プロセスを考慮したCFRPのマルチスケール解析手法の開発	2018/11/1	2022/3/31	4,000,000	600,000	4,600,000
受託研究/一般	越村 俊一	国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構	2020～2021年度 ALOS-4レーダ画像および外部情報を用いた浸水建物抽出モデルの構築	2020/4/30	2022/3/31	7,692,254	2,307,676	9,999,930
小計						179,894,217	37,441,862	217,336,079
共同研究	今村 文彦	WILLIS LIMITED [イギリス]	Tsunami Risk Modelling	2010/10/1	2022/9/30	4,166,600	833,400	5,000,000
共同研究	越村 俊一	東海旅客鉄道株式会社	リアルタイム津波浸水被害推定システムによる早期被害把握と高度化に向けた実証研究	2020/12/24	2021/3/31	4,165,000	833,000	4,998,000
共同研究	寺田 賢二郎	ナミックス株式会社	樹脂の硬化収縮応力解析手法の確立	2017/8/1	2020/7/31	0	0	0
共同研究	五十子 幸樹	株式会社奥村組	性能可変オイルダンパーの実用化に関する研究	2019/4/1	2022/3/31	0	0	0
共同研究	小野 裕一	パンフィックコンサルタンツ株式会社	仙台防災枠組と関連した災害科学国際研究所の国際連携活動の推進に向けた調査研究	2020/4/1	2022/3/31	733,200	146,800	880,000
共同研究	五十子 幸樹	有限会社シズメテック	性能可変オイルダンパーの実用化に関する研究	2019/4/1	2022/3/31	0	0	0
共同研究	木戸 元之	国立大学法人東京大学	災害の軽減に貢献するための地震火山観測研究計画(第2次)	2019/4/1	2024/3/31	6,817,000	0	6,817,000
共同研究	佐藤 翔輔	国土交通省東北地方整備局	震災伝承施設を活用した防災教育に関する共同研究	2020/8/3	2021/2/26	4,638,320	928,000	5,566,320
共同研究	児玉 栄一	東北大学ナレッジキャスト株式会社	二酸化塩素製品およびプロポリスエキスの新型コロナウイルス不活性化効果の科学的検証	2020/12/1	2021/9/30	0	0	0
共同研究	丸谷 浩明	株式会社フクダ・アンド・パートナーズ	事業継続機能及び地域防災機能を兼ね備えた施設開発	2020/9/1	2022/8/31	733,200	146,800	880,000
共同研究	児玉 栄一	大木製薬株式会社	二酸化塩素製品およびプロポリスエキスの新型コロナウイルス不活性化効果の科学的検証	2020/12/1	2021/9/30	2,772,000	831,600	3,603,600
共同研究	定池 祐季	厚真町	北海道胆振東部地震からの復興と地域防災に関する実践的研究	2020/5/1	2021/3/31	1,660,960	332,192	1,993,152
共同研究	今村 文彦	清水建設株式会社	津波による大規模土砂移動の解析・予測手法の構築	2020/7/1	2022/3/31	1,602,371	320,474	1,922,845
共同研究	今村 文彦	一般財団法人河川情報センター	河川津波における避難情報と住民避難に関する研究	2020/9/28	2021/3/31	700,000	140,000	840,000
共同研究	児玉 栄一	富士フイルム株式会社	感染症対策における共同研究	2019/8/1	2021/7/31	0	0	0
共同研究	藤井 進	三菱UFJリース株式会社	個人に向けた医療BCP基盤の在り様と医療情報を使った個人に最適なサービスとその基盤の在り様に関する研究	2020/6/1	2022/3/31	16,666,000	3,334,000	20,000,000
共同研究	丸谷 浩明	株式会社丸和運輸機関	物流業におけるBCPの構築	2019/6/6	2020/6/5	0	0	0
共同研究	丸谷 浩明	東急ファンリテイサービズ株式会社	仙台国際空港をはじめとする空港事業の事業継続力強化に関する研究	2020/11/1	2021/10/31	1,099,800	220,200	1,320,000
共同研究	佐藤 大介	大学共同利用機関法人人間文化研究機構	歴史文化資料保全の大学・共同利用機関ネットワーク事業に関する覚書	2020/4/1	2021/3/31	12,000,000	0	12,000,000
共同研究	児玉 栄一	国立大学法人北海道大学	災害としての感染症リスクに対する分野融合型イノベーションと地球規模の早期対応に関する研究	2020/4/1	2021/3/31	2,877,000	0	2,877,000
共同研究	丸谷 浩明	株式会社丸和運輸機関	物流業におけるBCPの構築	2020/6/6	2021/6/5	733,200	146,800	880,000
共同研究	今村 文彦	株式会社富士通研究所	リアルタイム津波災害予測技術の研究開発	2020/4/1	2021/3/31	2,499,600	500,400	3,000,000
共同研究	今村 文彦	復建調査設計株式会社	津波土砂移動数値計算によるアマモ場津波被害開数の高度化に関する研究	2020/4/1	2021/3/31	916,600	183,400	1,100,000
共同研究	寺田 賢二郎	中部電力株式会社	津波解析の代理モデルと観測データによる逐次更新型リアルタイム津波被害予測手法の開発	2020/8/3	2022/3/28	4,583,480	916,520	5,500,000
共同研究	今村 文彦	パンフィックコンサルタンツ株式会社	非地震性津波災害のリスク評価にかかる共同研究	2020/4/1	2021/3/31	6,500,000	1,300,000	7,800,000
共同研究	佐藤 翔輔	株式会社復建技術コンサルタント	河川維持管理ソフト「e-River」の高度化および水防災教育等に関する研究	2020/4/1	2021/3/31	2,727,000	272,700	2,999,700
共同研究	越村 俊一	日本電信電話株式会社	リアルタイム津波被害予測を活用した意思決定支援手法の研究開発	2020/5/7	2021/3/22	2,500,000	500,000	3,000,000
小計						81,091,331	11,886,286	92,977,617



契約種別	研究代表者	契約相手	研究題目	研究開始日	研究終了日	直接経費	間接経費	合計
受託事業/ 学術指導	丸谷 浩明	一般社団法人日本電設工業協会	電気工事業向けBCPガイドライン策定に向けた骨子案の作成について	2020/11/16	2021/3/31	270,000	30,000	300,000
受託事業/ 学術指導	定池 祐幸	社会福祉法人厚真町社会福祉協議会	被災者支援、生活支援相談員業務に関わる学術指導	2020/4/1	2021/3/31	270,000	30,000	300,000
受託事業/ 学術指導	丸谷 浩明	株式会社フクダ・アンド・パートナーズ	事業継続計画策定	2020/9/1	2022/8/31	900,000	100,000	1,000,000
受託事業/ 学術指導	柴山 明寛	株式会社近畿日本ツーリスト東北	防災観光プログラム開発	2018/3/20	2021/9/30	0	0	0
受託事業/ 学術指導	今村 文彦	株式会社東北博報堂	青森県「学校と地域が一体になった防災教育推進事業」	2020/3/9	2020/12/30	302,841	33,649	336,490
受託事業/ 学術指導	江川 新一	日本無線株式会社	Alertmarkerの災害情報に係るAI多言語翻訳に関する研究	2019/4/1	2021/12/31	900,000	100,000	1,000,000
受託事業/ 学術指導	佐藤 翔輔	株式会社東北博報堂	青森県「学校と地域が一体になった防災教育推進事業」	2021/1/1	2021/12/31	329,175	36,575	365,750
受託事業/ 学術指導	児玉 栄一	株式会社IHI	新型コロナウイルスに対する「新型殺菌剤」の有効性評価方法について	2020/6/15	2020/12/15	450,000	50,000	500,000
受託事業/ 学術指導	今村 文彦	株式会社東北博報堂	ぼくのわたしの防災手帳	2019/12/1	2021/11/30	74,700	8,300	83,000
受託事業/ 学術指導	丸谷 浩明	株式会社丸和運輸機関	大規模災害発生時の物流事業者による支援活動の指導	2019/4/1	2021/3/31	0	0	0
受託事業/ 学術指導	今村 文彦	株式会社東北博報堂	みんなの防災手帳	2014/11/28	2022/11/27	0	0	0
受託事業/ 学術指導	栗山 進一	DSCサポートクラブ株式会社	フロートバックの有効性評価及び改良	2018/2/6	2023/1/31	0	0	0
受託事業/ 学術指導	児玉 栄一	ニエスマ株式会社	強アルカリ水によるバクテリア・細菌・ウイルスの消菌抗菌に関する学術指導	2020/6/1	2021/5/31	540,000	60,000	600,000
受託事業/ 学術指導	佐藤 翔輔	株式会社東北博報堂	青森県「新型コロナウイルス感染症対策普及啓発事業に係る広報物制作業務」	2021/1/1	2021/12/31	65,835	7,315	73,150
受託事業/ 学術指導	丸谷 浩明	一般社団法人AZ-COM丸和・支援ネットワーク	大規模災害発生時の物流事業者による支援活動の指導	2019/4/1	2021/3/31	0	0	0
受託事業	佐藤 翔輔	気仙沼市	気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館階上地区避難行動可視化・展示環境整備業務	2020/3/13	2020/3/31	7,259,436	806,604	10,870,899
受託事業	柴山 明寛	多賀城市	平成31年度多賀城市震災アーカイブシステム保守点検作業	2020/4/1	2021/3/31	150,000	0	150,000
受託事業	佐藤 健	宮城県	平成31年度宮城県自主防災組織育成・活性化支援業務	2020/5/16	2021/3/31	9,460,000	946,000	10,406,000
受託事業	寺田 賢二郎	日本学術振興会	二国間交流事業(韓国(NRF)との共同研究	2020/4/1	2022/3/31	1,140,000	0	1,140,000
受託事業	越村 俊一	内閣府	津波浸水被害推計システム拡張業務(福島県から北海道太平洋沿岸)	2020/3/31	2021/3/31	12,606,000	2,521,200	15,127,200
受託事業	平野 勝也	株式会社建設環境研究所	旧北上川河口部がわまちづくり検討支援	2020/7/27	2021/3/23	58,300	0	58,300
受託事業	越村 俊一	内閣府	2020-2022年度津波浸水被害推計システム保守・運用業務(関東から北海道太平洋沿岸)	2020/4/1	2023/3/31	1,320,000	264,000	1,584,000
受託事業	今村 文彦	日本規格協会	令和2年度産業標準化推進事業委託費	2020/5/1	2021/2/26	27,727,011	2,772,700	30,499,711
受託事業	今村 文彦	JICA	仙台防災枠組に貢献する 防災中核人材育成(分担:(工)風間聡)	2020/4/1	2021/3/31	1,776,000	0	1,776,000
受託事業	越村 俊一	JICA	研修員(学位課程就学者)受入(分担:(工)風間聡)	2020/10/1	2021/3/31	444,000	62,500	506,500
受託事業	柴山 明寛	東日本大震災津波伝承館	三陸TSUNAMIウェビナー(仮称)運営等業務	2020/10/15	2021/2/26	892,012	0	892,012
受託事業	柴山 明寛	河北新報社	河北新報社震災アーカイブシステム保守業務	2020/10/1	2021/3/31	769,000	230,700	999,700
受託事業	柴山 明寛	丸森町	丸森町地域防災計画改訂業務	2020/10/13	2022/3/31	3,069,000	920,700	3,989,700
受託事業	泉 貴子	独立行政法人国際協力機構	地域コミュニティ安心と安全向上のための災害リスク理解に基づく防災強化プロジェクト(草の根パートナー型)	2018/6/15	2022/8/31	0	0	0
受託事業	越村 俊一	内閣府	2018-2022年度津波浸水被害推計システム保守・運用業務	2018/4/1	2023/3/31	2,475,000	247,500	2,722,500
小計						73,248,310	9,227,743	85,280,912
合計						334,233,858	58,555,891	395,594,608

## E 2020年度寄附金の受入状況

受入総額: 125,063,066円

### ○研究助成金

2021年3月末現在

No.	助成金名称	寄附者名	受入教員	寄附金額
1	発生から50年経過した洪水災害の伝承実態に関する研究助成金	河川財団	佐藤 翔輔	992,800
2	東日本大震災被災状況記録整理協力金	佐藤 翔輔	佐藤 翔輔	40,000
3	CAEに関する研究助成金	(株)メカニカルデザイン	寺田賢二郎	2,000,000
4	災害アーカイブ研究助成金	積水ハウス(株)	柴山 明寛	200,000
4 月 計			4件	3,232,800
5	機械学習に関する研究助成	日本免震構造協会	郭 佳	1,000,000
6	統合的放射線被ばく管理システム構築への基礎検討	一般財団法人 宮城県予防医学協会	医)稲葉洋平	200,000
5 月 計			2件	1,200,000
7	津波工学研究分野研究助成金	五洋建設(株)	今村 文彦	500,000
8	津波工学研究分野研究助成金	一般社団法人 東北地域づくり協会	今村 文彦	3,000,000
9	放射線検査学研究助成金	(株)千代田テクノ	医)千田浩一	150,000
10	東日本大震災被災状況記録整理協力金	佐藤 翔輔	佐藤 翔輔	358,000
6 月 計			4件	4,008,000
11	防災社会システム研究分野助成金	(株)桑折コンサルタント	丸谷 浩明	300,000
12	新型コロナウイルス感染症に関するメンタルヘルスに関する研究助成金	大塚製薬(株)	國井 泰人	200,000
7 月 計			2件	500,000
13	クボタ若手研究者研究奨励制度(水道分野)	(株)クボタ	水谷 大二郎	1,000,000
14	東日本大震災被災状況記録整理協力金	前田 勇輝	佐藤 翔輔	50,000
15	陸・水環境DNAに関する研究助成金	公益財団法人 クリタ水・環境科学振興財団	内田 典子	1,000,000
16	防災社会システム研究分野助成金	(株)フクダ・アンド・パートナーズ	丸谷 浩明	300,000
17	CAEに関する研究助成金	サイバイネットシステム(株)	寺田 賢二郎	1,000,000
18	鋼構造の耐震化に関する研究助成金	エム・エムブリッジ(株)	五十子 幸樹	1,500,000
8 月 計			6件	4,850,000
19	鋼構造の耐震化に関する研究助成金	(株)安藤・間	五十子 幸樹	500,000
20	放射線検査学研究助成金	東レ・メディカル(株)	医)千田浩一	300,000
9 月 計			2件	800,000
10 月 計			0件	0

No.	助成金名称	寄付者名	受入教員	寄附金額
21	APRU-IRIDeSマルチハザードプログラム活動助成金	APRU(香港)	泉 貴子	1,535,100
22	津波工学研究分野研究助成金	(株)東京建設コンサルタント	今村 文彦	1,000,000
11 月 計			2件	2,535,100
23	2020年度三菱財団自然科学特別助成(感染症)助成金	國井 泰人	國井 泰人	1,600,000
24	平成30年度特定領域研究助成(3年目)	公益財団法人 セコム科学技術振興財団	福島 洋	12,700,000
25	放射線検査学研究助成金	トーレック(株)	千田 浩一	200,000
12 月 計			3件	14,500,000
26	災害アーカイブ研究助成金	日本総合システム(株)	柴山 明寛	100,000
27	公益財団法人河川財団河川基金助成事業助成金	東京都立大学法人 東京都立大学	高橋 尚志	87,166
1 月 計			2件	187,166
28	災害アーカイブ研究助成金	積水ハウス(株)東北営業本部	柴山 明寛	200,000
2 月 計			1件	200,000
29	災害アーカイブ研究助成金	凸版印刷(株)東日本事業本部	柴山 明寛	200,000
30	2020年度三菱財団自然科学特別助成(感染症)助成金	國井 泰人	國井 泰人	2,000,000
31	東日本大震災被災状況記録整理協力金	佐藤 翔輔	佐藤 翔輔	50,000
3 月 計			3件	2,250,000
合 計			31件	35,063,066

○寄附部門

No.	助成金名称	寄付者名	件数	寄附金額
1	地震津波リスク評価(東京海上日動) 寄附研究部門助成金	東京海上日動火災保険	1件	30,000,000
2	都市直下地震災害(応用地質) 寄附研究部門助成金	応用地質(株)	1件	30,000,000
3	地震津波リスク評価(東京海上日動) 寄附研究部門助成金	東京海上日動火災保険	1件	30,000,000
合 計			3件	90,000,000

## 4 研究活動

### (1) 研究部門・研究分野の研究活動

## 2020 年度の部門活動報告

部門名	災害リスク研究部門	報告者氏名	五十子 幸樹
部門目標			
東日本大震災の被害の全容と教訓を踏まえ、世界の防災・減災技術の高度化を目指す。地震や津波、風水害の被害の発生メカニズムの解明、観測データの統合・同化、先端的センシング技術を活用しながら、将来の巨大災害の発生が予想されている地域の災害リスクの軽減やさらなる備えを支援し、災害の脅威を軽減さらには防ぎ止めるだけでなく、人間・社会が賢く備えて対応するための実践的研究と社会実装に取り組む。			
2020 年度の部門活動報告			
6つの分野で構成される災害リスク研究部門の活動を以下に列挙する。			
<ul style="list-style-type: none"> <li>地震観測記録に基づく地盤環境調和型地震対策としてマイクロゾーニングのための研究とリアルタイム地震防災技術に関する研究として機械学習を用いた地震動評価法の研究を推し進めた他、発展途上国における適用を想定した組積造建築物用低コスト滑り免震機構の開発を行った。(地域地震災害研究分野)。</li> <li>東日本大震災から得られた観測・被災データと教訓に基づく津波解析手法の高度化と、地域スケールからグローバルスケールまで津波リスク評価手法の拡張、さらには津波防災・減災の総合的な津波工学研究の展開に向けた取り組みを行い、成果を国内外に広くに発信した。得られた研究成果は多くのマスメディアに取り上げられ、第 39 回日本自然災害学会学術講演会・学術発表優秀賞を受賞した。(津波工学研究分野)。</li> <li>気候変動の流域土砂環境への影響評価と適応策、UAV-SfM を用いた中小河川管理のための三次元点群データ可視化手法の開発、洪水氾濫数値解析技術を用いた浸水家屋推定の高度化などの研究を実施した。また令和 2 年 7 月豪雨による災害について、広域被害予測を行い情報公開した(環境変動リスク研究分野)。</li> <li>リアルタイム津波浸水被害予測技術が内閣府の総合防災システムの機能として採用され、現在我が国の太平洋岸全体をカバーする Nation-wide の予測システムとして成長した。所内では災害医学研究部門との連携を強化し、所外においても国内外の研究機関や企業と共同研究を推進した。(広域被害把握研究分野)。</li> <li>建造物の地震被害低減を目的として、複素減衰の考え方を発展させ、更に民間企業との共同研究により社会実装を目指して実大サイズの制御装置プロトタイプを製作し実験的検討を行った。国内の 2 棟の超高層建物の構造ヘルスマonitoringを民間との共同研究で推進した。(最適減災技術研究分野)。</li> </ul>			

## 2020 年度分野活動報告

分野名	地域地震災害研究分野	報告者氏名	大野 晋
分野目標			
地域展開した地盤及び建物の強震観測網、振動実験や構造モニタリング技術に基づき、地域の地震・地盤条件を反映した耐震対策の推進、リアルタイムに得られる地震動や建物被害等の災害情報を用いた地震被害低減技術の開発、直置き型建造物の開発、高性能振動実験法による地震工学研究の推進を目的とする。			
2020 年度分野活動報告			
<p>東北地方に展開した微動から強震まで連続観測可能な建物内リアルタイム観測網及び仙台市内のトリガー型地域強震観測網の観測を継続し、それに基づいてリアルタイム地震防災技術及びマイクロゾーニングに関する研究を行った。特に、非線形偏心建造物のシステム同定、機械学習を用いた地震動スペクトル評価法の開発・地震直後の応答スペクトルの面的評価の代理モデルの開発・建物応答評価手法に関する検討をそれぞれ実施した。地震被害を受けた建造物の物理量(減衰・剛性)を時刻歴で表現できる手法を構築することで、どのタイミングで、どの階に、どのぐらいの地震エネルギーが生じているを表現することが可能となった。すべりによる地震時損傷低減効果を発揮する直置き型建造物に対して、地震後の残留変位を最小化するためのストッパーの設計方法を構築した。多層建造物を対象としたリアルタイムサブストラクチャ振動台実験を実施するために、その実験手法の一般化を行った。</p> <p>国際協力としては、MJEED(モンゴルー日本・高度工学教育向上プログラム)における地震工学関連プロジェクトのカウンターパートとして、建造物ヘルスマonitoring機能を持つ早期地震警報システムのウランバートルへの展開と技術協力も行なっている。また、バングラデシュ工科大学と早期地震警報の予備研究に着手している。また、ネパールの山岳地帯に高耐震性能を有する小学校を建築することを目的に、組積造を対象とした安価なすべり免震機構の開発とその実装を目指した国際共同研究を開始した。なお、国内研究機関との連携として、建造物の地震時損傷検知技術と損傷低減化装置を評価するための振動実験技術の開発に関して、防災科学技術研究所と共同研究を締結した。</p>			

分野名	津波工学研究分野	報告者氏名	今村 文彦
分野目標			
今年度の目標は次の通り 5 つである。1) 災害発生時対応も含めた国内外の津波ハザード研究の深化、2) 東日本大震災における宮城県自治体での死因の傾向分析、3) 世界津波の日などを通じた津波研究成果の国際的な発信、4) 共同研究拠点の確立に向けた他分野・他大学との連携の強化、5) 地震津波研究(東京海上日動) 寄附部門との連携した実践的な防災学の展開			
2020 年度の分野活動報告			
<p>東日本大震災から得られた観測・被災データと教訓に基づく津波解析手法の向上と、地域スケールからグローバルスケールまで津波リスク評価手法の拡張、さらには津波防災・減災の総合的な津波工学研究の展開を目標としている。研究成果として;1) 津波工学関連研究では、海岸工学講演会(オンライン)、巨大津波災害に関する合同研究集会(オンライン)等で研究成果を発表し、東日本大震災 10 周年で指摘された課題に対しての取組を紹介できた。日本デジタルアーカイブ学会学術賞(研究論文)、日本地震工学会(論文賞)、濱口梧陵国際賞(国土交通大臣賞)、復興デザイン会議「復興政策賞」を受賞した。2) 宮城県警から提供された東日本大震災における犠牲者情報(9,527 名分)を用いて、郵便番号単位での遺体発見場所と犠牲者住所の関係、石巻市平野部における溺死および焼死の被害の地域的傾向、低体温症犠牲者の犠牲パターンを示した。研究成果は多くのマスメディアに取り上げられ、第 39 回日本自然災害学会学術講演会・学術発表優秀賞を受賞した。3) 国外において UNDRR、UNDP と今年も連携し、コロナ禍の津波避難・避難所運営ガイドラインの作成に貢献した。4) 他分野・大学との連携、大使館(イギリス、フランス、タイ)、国連機関(UNDRR、UNDP)、大学(チューラーロンコーン、シャクアラ、ワシントン、UCL)、海外の学会(AOGS、EGU)等と連携を強化し、複数の共同セミナー(オンライン)を開催した。5) 防災推進国民大会(オンライン)、仙台防災未来フォーラム(対面)での共同企画により、企画セッション発表、展示の企画等を実施出来た。</p> <p><b>【教育、人材育成】</b>  東北大学工学部・水理系優秀発表者賞受賞(千葉愛理、藤皓介(学部生))  東北大学工学部土木工学専攻ベストプレゼンテーション賞(千葉愛理(学部生))</p>			

分野名	環境変動リスク研究分野	報告者氏名	有働 恵子
分野目標			
高波、高潮、津波、洪水などの災害の被災メカニズムを明らかにし、災害リスクを定量化するとともに、効率的な被害軽減技術を開発することを目標とする。将来は気候変動に伴う海面上昇、降雨特性の変化などが災害に及ぼす影響も危惧されており、そのリスク評価と適応策は特に重要な課題と位置付けている。			
2020 年度の分野活動報告			
<p><b>主な研究内容:</b>  有働准教授は、気候変動の流域土砂環境への影響評価と適応策に関する研究を行い、タイやエジプトにおける気候変動への適応戦略、山地から海岸までの流域一貫土砂動態モデルの開発、崖海岸長期侵食モデルの開発等のテーマに取り組んだ。得られた成果について、7 編の研究論文が国際ジャーナル誌に掲載された。  橋本助教は、UAV-SfM を用いた中小河川管理のための三次元点群データの可視化手法の開発、洪水氾濫数値解析と衛星画像解析技術を用いた浸水家屋推定の高度化、バングラデシュ農村地域における水防災と環境共生技術の開発に関する研究を行なった。得られた成果について、1 件の特許権を取得し、3 編の研究論文が国際ジャーナル誌に掲載された。</p> <p><b>国際交流・フィールド調査等:</b>  オランダ、カナダ、エジプト、タイ、バングラデシュ、中国等の研究者と、オンラインを中心に研究打ち合わせを行った。また、研究分野出身の元留学生と共同研究に関する意見交換を行い、継続的に情報交換を行うこととなった。</p> <p><b>国内災害対応:</b>  令和 2 年 7 月豪雨による災害について、広域被害予測(土砂生産量予測)を行い、災害研の災害対応ホームページにて公開した。また、同時期に発生した山形豪雨に際して、最上川水系白水川、大旦川、五十沢川周辺で現地調査を行い、所外向け緊急調査報告会にてメディアに対して情報提供を行った。その他、豪雨災害が発生した際に被災地周辺の河川水位・累積降雨等の情報を収集して緊急調査 WG で共有した。</p>			

分野名	広域被害把握研究分野	報告者氏名	越村 俊一
分野目標			
災害発生直後のリアルタイムシミュレーションと、センシング、ジオインフォマティクスを融合した新しい「広域被害把握技術」の基盤を構築し、その成果を国際社会で共有するとともに、効果的な災害救援活動に資する。			
2020 年度の分野活動報告			
<p>専任教員の越村俊一教授と Erick Mas 准教授は、兼任教員の太田雄策准教授、村嶋陽一特任教授（客員）とともに、リアルタイムシミュレーション・リモートセンシング技術を高度に融合し、リアルタイム災害科学という新しい学術を確立するための取り組みを開始した。リアルタイム津波浸水被害予測技術は、内閣府の総合防災システムの機能として採用され、現在我が国の太平洋岸全体をカバーする Nation-wide の予測システムとして成長した。我が国の津波災害のレジリエンス向上に対して大きな貢献を果たしている。システムの運用は、大学発ベンチャーとして設立された RTi-cast が一役を担っており、研究と社会実装の両輪がうまく機能している。</p> <p>また、災害医学分野との連携を強化し、科学研究費基盤 S による共同研究を推進し、災害医療活動や感染症対策のシミュレーションシステムを構築した。</p> <p>新たな産学連携研究は、NTT とのビジョン共有型共同研究として、リアルタイム津波浸水被害予測情報を用いた災害対応システムの高度化に関する研究、JR 東海とのリアルタイム津波浸水予測技術の実証研究に取り組んだ。</p> <p>国際共同研究については、ドイツ航空宇宙センター（部局間協定、リモートセンシング研究）、ワシントン大学（津波研究、リモートセンシング研究）、ペルー国立工科大学日本ペルー地震防災センター（部局間協定）との連携研究を推進した。また、メキシコ、コロンビアでの津波リスク評価に関する共同研究 (SATREPS) を推進した。特に、コロンビアにおいては、津波浸水被害予測手法の標準化、新しい津波警報システムの開発に貢献した。</p> <p>兼任教員の佐藤源之教授は、電波科学を応用した衛星・航空機マイクロ波リモートセンシング (SAR)、地中レーダ (GPR) などの開発と応用に継続的に取り組み、国際的にも卓越した成果を得ている。</p>			

分野名	最適減災技術研究分野	報告者氏名	五十子 幸樹
分野目標			
近年都市の構成要素として存在感を増している超高層建築物や免震建物、長大構造物のような長周期構造物において、東日本大震災でも経験された長周期／長継続時間地震動が与える影響が懸念されている。当分野では、このような社会的課題に対して振動制御技術及び構造ヘルスマonitoring技術の高度化による対策技術を提案する。			
2020 年度の分野活動報告			
<p>2020 年度、当研究分野では下記に纏めるように、超高層建築物や免震構造物のような長周期構造物の更なる高耐震化を目指した研究活動を実施した。</p> <p>長周期構造物の高耐震化に関する研究において、従来の構造物地震時応答低減に用いられてきた制御原理とは異なる原理として複素減衰が長周期構造物の制御に有効であることを明らかにし、この考え方を取り入れた新しい制御デバイスの開発を進めた。今年度は特に、複素減衰の因果的近似モデルとして知られていた既往の複数の理論モデルが、今回提案した分数階微積分モデルによって一つのモデルで統一的に表現出来ることを明らかにし、複素減衰の因果的近似に関する統一理論を構築した。この成果に関する論文は地震工学分野で最も権威あるジャーナルの一つである <b>Earthquake Engineering and Structural Dynamics</b> に投稿し採択されている。更に、この理論を実用化し社会実装するために、株式会社奥村組及びシズメテックと共同で変位検知機構を有する性能可変型オイルダンパーを開発し、実物大ダンパーの試作を行った。特に重要なパーツである変位検知部について設計通り動作することを実験的に確認している。開発した技術は5件の特許として申請準備中である。</p> <p>一方で、東京新宿と仙台市内に建つ高層建築物を対象に民間の建築設計事務所との共同研究により構造ヘルスマonitoring研究を推進した。株式会社日建設計からはアウトリガー型同調粘性マスダンパー制振システムにより耐震改修した新宿住友ビルについて、令和2年2月13日に福島県沖で発生した地震観測データの提供を受けて同調粘性マスダンパー制振システムの地震時応答制御性能評価のためのシステム性能同定を実施した。NTT ファシリティーズからは新あおば通りビルについて建物設計情報の提供を受け、構造ヘルスマonitoringのための基礎検討を実施した。今後地震観測データの提供を受けて更に研究を推進する。</p>			

分野名	低頻度リスク評価研究分野	報告者氏名	菅原 大助
分野目標			
<p>野外調査や地層試料分析をはじめとした地質学的手法と、数値解析などの工学的手法を組み合わせ、津波堆積物に基づく古地震・古津波履歴解明の研究に取り組む。国際・学際連携による共同研究の推進、新規研究課題の探索にあたるとともに、質の高い長期研究・コストパフォーマンスの良い研究の展開を目指す。さらに、これらの活動を通じて、次世代の人材育成・研究コミュニティ作りに貢献する。</p>			
2020 年度の分野活動報告			
<p><b>【研究活動】</b>科研費基盤 B(代表)による静岡県沿岸部での地形調査を、静岡大学理学部の北村晃寿教授と協力して実施した。2020 年 7 月からは、清水建設技術研究所と津波土砂移動数値シミュレーションの V&amp;V をテーマとする共同研究を開始した(2022 年 3 月まで 2 年間)。V&amp;V の枠組みの構築、妥当性確認など、これまでの進捗は当初想定を上回っている。新潟大学災害・復興科学研究所の共同研究助成の採択を受け、新潟大学の清水康博准教授・ト部厚志教授らと共同し、佐渡島で津波堆積物調査を実施した。また、清水准教授、および東京大学の後藤和久教授による災害研共同研究助成の担当教員として、福島県南相馬市および千葉県沿岸部で共同調査を実施した。</p> <p><b>【論文等】</b>科研費基盤 B(代表)関連では、これまでの成果を取りまとめた論文が国際誌 <i>Quaternary Science Review</i> に掲載された。東日本大震災から 10 年間の津波数値解析研究の展開に関するレビュー論文をとりまとめ、国際誌 <i>Earth-Science Reviews</i> に投稿・掲載された。他に、国際誌への投稿論文 2 件と英語単行本のチャプター 2 件が出版された。また、国際学術論文 17 件の査読を行った。</p> <p><b>【教育活動】</b>本年度は、修士学生 2 名の論文指導を行った。2018 年 10 月入学の修士学生(留学生)は、2020 年 9 月をもって修了した後、博士課程に進学を希望していたが、コロナウィルスの流行に伴う母国情勢の変化により一時帰国を希望したため、1 年間の休学を認めた。また、2019 年 4 月入学の修士学生は、2021 年 3 月をもって修了した後、博士課程に進学した。その他、博士課程 1 年の学生と修士課程 1 年の学生 2 名、学部 3 年の学生 2 名の研究指導を行った。</p>			



## 2020 年度の部門活動報告

部門名	人間・社会対応研究部門	報告者氏名	奥村 誠
部門目標			
<p>災害への人間と社会の対応を研究する。具体的には、人間の災害認知と行動のメカニズムを把握し、被災地支援のための技術を提供し、地域の歴史や文化を災害から守りつつ災害対応に活かし、災害対応力を高める社会システムや法制を提案し、歴史的視点で防災や復興を再評価して、内外の地域に有効な方策を提案する。</p>			
2020 年度の部門活動報告			
<p>南海トラフ地震対応、BCP 研究会への参加のほか、科研費プロジェクト、シンポジウム、社会貢献事業を通して、分野横断的な活動が活発に行われた。分野ごとの特徴的な活動は以下の通りである。</p> <p>災害認知科学研究分野は、災害を生きる力 8 因子について基礎認知科学研究と質問紙の災害教育応用を進め、査読論文 2 報、編集本の章を 3 編執筆した。災害伝承・防災教育システムの開発に関して、「ひらめき☆ときめきサイエンス」の支援を受け、県内の小中学生 27 名に対してコロナ禍を踏まえた授業を開催した。</p> <p>被災地支援研究分野は、インフラの機能喪失と劣化への災害影響の統計学的研究、東日本大震災 10 年の復旧・復興状況の確認と分析、インドネシア、フィリピン、米国(NY)の災害復興過程とガバナンスの国際比較研究、感染症リスクを踏まえた災害対応の研究を行い、シンポジウム開催、書籍及び論文の公表を行った。</p> <p>歴史資料保存研究分野は、市民と連携した東日本大震災被災史料の保全活動の研究、災害支援としての史料保全の意義に関する研究成果の Web 公開、大学間連携による新型コロナウイルス関係記録の方法の検討、2021 年 2 月 13 日地震での史料救出活動を実践した。</p> <p>防災社会システム研究分野は、宮城県内企業等に新型コロナ対応のアンケートを実施し、「中小企業向け事業継続力簡易チェックシート(試案)」を公表した。また、災害伝承および災害情報の効果検証の研究を東日本大震災や台風 19 号を対象に行い、震災遺構・伝承館の展示リニューアルや周年企画を支援した。</p> <p>災害文化研究分野では、東北大学ポストコロナ社会構築スタートアップ支援を受け、文医連携による「疫病退散研究プロジェクト」を展開し、シンポジウムと報告書により成果を公開した。また、年度中の熊本水害、福島県沖地震に対応した文化遺産マップを作成と、史料の被災状況調査を実施した。</p>			

## 2020 年度の分野活動報告

分野名	災害認知科学研究分野	報告者氏名	邑本 俊亮
分野目標			
<p>本研究分野では、複雑な物理・社会的環境における人間の知覚・判断・行動の認知過程について、様々な心理学・認知科学・脳科学的手法を用いた基礎研究を行うとともに、その成果をより人間の認知特性に適した防災・減災・復興のシステム設計に反映させる応用研究を行う。</p>			
2020 年度の分野活動報告			
<p>東日本大震災の被災者を対象とした調査から開発した「災害生きる力」8 因子(人をまとめる力、問題に対応する力、人を思いやる力、信念を貫く力、気持ちを整える力、きちんと生活する力、人生の意味の自覚、生活を充実させる力)(Sugiura et al., 2015)について、基礎認知科学研究と質問紙の災害教育応用が進んでいる。本年度は、査読付き論文が国内誌に 2 報採択されたほか編集本の章を 3 編執筆、学会報告も国際 3 件・国内 3 件おこなった。また学術論文 3 報が国際誌で査読中、2 報が投稿準備中である。</p> <p>「被災地での学びを地域や世代を超えて伝える災害伝承・防災教育システムの開発」に関する研究を進めた。2019 年度に、東北大学にて震災や復興について学び、被災地(名取市閑上)を訪問して現場実習(慰霊碑等を見学、語り部さんの講話を聴く、被災者の方々と交流)を行った 10 名の大学生が、自分たちの力で災害伝承・防災教育の出前授業を企画して東京都の公立中学校で実施したが、その実践経験を踏まえ、2020 年度は「東北大生が考えた防災教育プログラム」として「ひらめき☆ときめきサイエンス」に採択された。当該企画の実施にあたっては、上述の 10 名中 8 名のメンバーが参画し、コロナ禍でも実施可能な授業形態にアレンジした内容で、10 月 10 日に東北大学災害科学国際研究所にて、宮城県内の小中学生 27 名を招いて開催した。また、当該の取り組みの紹介や実施された授業内容を、編集本の章として 2 件執筆した。</p>			

分野名	被災地支援研究分野	報告者氏名	奥村 誠
分野目標			
<p>巨大な災害によりインフラや各種の機能が麻痺し、自力で救命、救急、復旧、復興を行うことが難しい地域では、真のニーズを外部に伝えることも困難である。そのため、被災地の平常時の社会経済状況を踏まえてニーズを想定し、効果的な支援を迅速に計画する方法、自律的發展に結びつく復興支援の方法を研究する。</p>			
2020 年度の分野活動報告			
<p>(1) 災害によるインフラの機能喪失及び、その後の劣化が加速される影響を統計学的に把握する研究を行った。さらにその影響を加味したインフラの最適更新戦略の最適化モデルを構築し、インフラマネジメントに防災の考え方を導入した。国内外で口頭発表を行い、複数の査読論文を公表した。</p> <p>(2) 復興庁・県や厚生労働省の検証委員会等参画時の情報や、東日本大震災被災地 10 年の復旧・復興状況の確認と分析を行って、復興交付金による事業計画と実行上の問題、結果を整理分析しシンポジウムで報告するとともに、書籍にまとめて公開した。また、この知見を活用し、我が国の防災援助方針を検討する国際協力機構にインプットを行ったほか、NHK の国際ラジオでの広報を行った。</p> <p>(3) インドネシア、フィリピン、米国(NY)の災害復興過程を引き続き研究し、東北の復興過程との比較やガバナンスの国際比較研究を行い、国際学会発表と国際ジャーナル論文を複数発表した。また、インドネシア中部スラウェシ地震の復興について、インドネシア政府やインドネシア側大学とのディスカッションを続けた他、学会を通じたウェビナーを数回開催した。</p> <p>(4) 新たに感染症リスクを考慮した災害対応について国内学会の特別セッションを主催して議論を提起した。全学の特別研究費を受けて他部局が主催する共同研究に参画するとともに、所内の新型コロナ対応特別研究費による分散避難のあり方に関する共同研究を実施した。その成果を複数の口頭発表論文として投稿した。</p> <p>(5) 被災地自治体等での直接的な活動は多くないが、東北地方整備局、宮城県、仙台市、亶理町において複数の委員会委員を務め、その中で防災・減災の視点を反映させるように心がけた。</p>			

分野名	歴史資料保存研究分野	報告者氏名	佐藤 大介
分野目標			
<p>東日本大震災で被災した歴史資料の救済保全活動を通じて、日本列島の文化的特質である未指定の文書記録資料の防災・災害対応に資する技法、および組織を検討する。あわせて、文化財・歴史分野内での対応を超え、人文学的な災害・再生支援としての歴史資料の救済保全の意義を研究する。</p>			
2020 年度の分野活動報告			
<p>①東日本大震災関連震災から 10 年を経過したことをうけ、それに対する歴史資料保全の成果と課題について共有するための活動として、第 7 回全国史料ネット集会の主催、および分科会主催を行い、全国の約 300 名の関係者に普及した。内容としては、市民活動の可能性と限界、および被災者支援としての活動の意義を明らかにした。</p> <p>また、上山真知子特任教授(客員)らによる臨床心理学の観点から被災者支援としての意義を明らかにする研究成果として、被災した史料所蔵者の類型化と、レジリエンス涵養への意義を明らかにした。成果については東北大学リポトリへの掲載とともに、ユネスコ「世界の記憶」部門発行の報告書に掲載された。</p> <p>②新型コロナウイルス関係史料収集の研究</p> <p>2020 年初頭からの新型コロナウイルスの日本列島での拡大状況を踏まえ、その中での人々の生活や社会の状況を示す記録について、主として(i)デジタルカメラによる状況把握(2)チラシ類を中心とする紙資料の収集により行っている。現時点では数千点単位での資料を収集している。</p> <p>また、同様の活動を行っている関係者との課題共有や、阪神・淡路大震災および中越地震で収集された「災害資料」のその後の活用方法に関する課題の共有に関するワークショップを 2 回開催し、国内外の約 60 名の参加を得た。</p> <p>③2021 年 2 月 13 日深夜に福島県沖を震源として発生した地震に対し、福島大学や国立文化財機構文化財防災センターと宮城県・福島県で被害状況調査を実施し、そこで解体が確認された福島県新地町の個人宅にて史料レスキューを実施して地域の史料を救援できた。</p>			

分野名	防災社会システム研究分野	報告者氏名	丸谷 浩明
分野目標			
<p>防災・減災及び災害復興の実現に向けた社会システムのあり方を研究する。具体的には、東日本大震災や既往災害の社会経済分析、事業継続計画(BCP)や地域防災計画の研究、経済学研究科と連携した地域産業復興や防災対応力強化の研究、防災における産官学民の取組や連携の研究などを通じて、政策提言や情報発信を行う。</p>			
2020 年度の分野活動報告			
<p>1) 企業・組織の事業継続の研究として、宮城県内企業等に新型コロナの対応のアンケートを実施し、結果を公表した。科研費の中小企業の BCP の必須要素の研究で「中小企業向け事業継続力簡易チェックシート(試案)」を公表し、主宰する「企業・組織の BCP/防災勉強会(@仙台)」等で議論をした。中央省庁の BCP の評価・改善のヒアリングに有識者委員として参画した。内閣府の防災スペシャリスト養成研修の企画と講師を務めた。</p> <p>2) 災害伝承・災害情報に関する研究・支援:災害伝承および災害情報の効果検証を、東日本大震災や台風 19 号を対象にした実証的な研究を実施した。宮城県庁における東日本大震災および台風 19 号の対応検証事業、気仙沼市 東日本大震災遺構・伝承館の展示リニューアルおよび周年企画に全面的に支援した。政府・県・県内市町における災害情報・震災伝承・震災復興に関する 18 の検討会の有識者委員として参画した。</p> <p>3) 東日本大震災の被災地の語り部の研究の継続し、神戸大学の学生のために語り部についてワークショップを開催した。ワシントン大学公衆衛生学部との連携を継続し、国内研究会でイタリアの Department of Civil Protection について発表した。イタリアの新型コロナウイルス感染症の影響の研究を始めた。</p> <p>4) 日本災害復興学会誌『復興』(23 号)に「被災自治体における災害救助法等の執行の実情と課題」を掲載した。2020 年度公共政策大学院ワークショップ A において丸森町の実地調査を行い、事前防災の提言をした。</p> <p>5) 震災復興シンポジウム「みやぎボイス 2020:復興検証の検証を望む声(10/16)」、「東日本大震災からの経済復興・産業再生における政策ツールの評価(仙台防災未来フォーラム 2021 3/7)」等を企画開催した。</p> <p>6) 「大規模災害が高齢者の健康に与えるインパクト-発災時の医療施設のアベイラビリティの観点から-」が『老年医学』Vol.58 巻に掲載された(2020 年 10 月)。被災地でコロナ禍のストレスが高い傾向を調査で確認した。</p>			

分野名	災害文化研究分野	報告者氏名	蝦名 裕一
分野目標			
<p>東日本大震災をはじめとし、過去の自然災害に関する歴史文書や伝承といった「災害文化」に関連する資料の収集・記録化を進めるとともに、これらの情報を活用し他分野と連携した学際的研究を展開・実践することで文理融合形の災害科学の構築を目指すとともに、これらの研究の成果を活用した防災活動の展開・普及をはかる。</p>			
2020 年度の分野活動報告			
<p>・新型コロナ禍を契機に市民の間で疫病に関する歴史的・文化的関心が高まったことから、感染症の歴史について依頼を受けて執筆や講演を行った。2020 年 9 月からは、新型コロナウイルスに対応して、疫病文化の事例収集と文医融合型の研究分析をおこなう「疫病退散プロジェクト」を展開し、ホームページの開設と勉強会の推進をおこなった。2021 年 2 月 11 日にシンポジウム「歴史が導く災害科学の新展開Ⅳ-先人の疫病文化に学ぶ-」をオンラインで開催し、研究成果を市民に還元するとともに、報告書を刊行した。</p> <p>・東日本大震災で被災した石巻市域の石碑拓本や、西日本豪雨で被災した絵図史料について、高精細スキャンによるデジタル撮影を実施した。</p> <p>・令和 2 年 7 月に発生した熊本豪雨および令和 3 年 2 月 13 日に発生した福島沖地震について、文化遺産の所在情報と被害状況を重ね合わせた文化遺産マップを作成して、史料保存関係者に共有するとともに、後者についてはマップに基づく被災状況の確認および被災資料のレスキュー活動を実施した。</p> <p>・2020 年 6 月 5 日 International Centre for the Study of the Preservation and Restoration of Cultural Property (ICCRUM) Webinar “Heritage and Pandemics: Psycho-social support during a crisis” において “Heritage or just garbage?” を発表。2020 年 10 月 19 日国立文化財機構文化財防災センター、東京文化財研究所主催、国立アイヌ民族博物館共済研修会「文化財レスキューと心理社会的支援」において講演を行った。東北大学レポジトリに、上記の発表内容を文章に整理し『歴史資料保全と災害支援試論 モノの保全から人・コミュニティへの心理社会的支援へ』という冊子として公開した。</p> <p>・本年度、分野としては単著 3、編著 1、論文 7、報告・講演 17、メディア対応 16 であった。</p>			

## 2020 年度の部門活動報告

部門名	地域・都市再生研究部門	報告者氏名	村尾 修
部門目標			
被災地域の状況を的確に把握するための調査・計測技術、都市のレジリエンスデザインを指向した数値解析・可視化技術、持続可能な地域を創るための計画技術、災害時におけるロボット活用技術などの開発と合わせ、安全・安心を保持するための実践的な防災・減災・再生技術に関する多様な研究を、国際協力の積極的な推進と中長期的な戦略のもとで行う。			
2020 年度の部門活動報告			
<p><b>「都市再生計画技術分野」</b>: 宮城県、福島県における市町村間及び他都府県からの感染経路、東日本大震災後の商業施設の個別再建復興、津波復興拠点整備事業、福島県応急仮設住宅の修繕履歴、全国の地域住宅計画に基づき建設された公営住宅、宮城県における地場産材を用いた地産地消型地域住宅建設に関する研究を行った。ダッカの耐震性補強の効率的実施のための国際共同プロジェクトに参加し、また ArcDR3 の国際ワークショップ(宮城県下 3 カ所)を指導した。<b>「計算安全工学研究分野」</b>: 様々な災害における物理現象のメカニズム解明を目的とした精緻な数値モデルの構築、高精度な数値解析手法や確率論的リスク評価手法の開発、逐次破壊を対象としたマルチステージ解析のための手法開発、数値解析とデータサイエンスを融合した災害リスク評価、および 2020 年度に発生した各種災害の被害調査と分析などを行った。また、国際学生ワークショップをオンライン形式で実施した。<b>「災害対応ロボティクス研究分野」</b>: 火元消火ロボ、救助犬の情報強化、老朽化インフラ点検用球殻ヘリ、瓦礫内探索ロボット、ドローンポート、無線通信に関する研究開発を行った。復興庁教育研究拠点、World Robot Summit、福島原発対応ロボットに関する取り組みに協力した。<b>「国際防災戦略研究分野」</b>: 災害対応の都市・建築空間に関する研究に基づき、東日本大震災復興調査を主とした震災データベースを作成した。環太平洋大学協会 (APRU) のマルチハザードプログラムを主導し、9 回のウェビナーを実施した。また、同プログラムの一環として UCLA および科学未来館と共に推進する Arc DR<sup>3</sup> Initiative において、建築と災害マネジメントの融合を目指し、国内外の参画大学と連携を図り、各スタジオでの講義やフォーラムを開催した。</p>			

## 2020 年度の分野活動報告

分野名	都市再生計画技術分野	報告者氏名	岩田 司
分野目標			
災害後の復旧復興のための住宅・都市計画、住宅・都市政策に関する研究、日常的な不断の持続ある地域社会を形成するための地域の住文化に根ざした個性豊かな住まい・まちづくりや地域運営に関する研究、次なる災害に備えた再生可能な地域の強靱化に関する研究、さらにこれらの研究、実践のための情報の蓄積とその手法に関する研究を行う。			
2020 年度の分野活動報告			
<p><b>【研究活動】</b>①都道府県が公表しているコロナウィルスの感染状況の個票を収集・整理し、2020 年度は特に宮城県、福島県における市町村間、及び他都府県からの感染経路に関する分析を行い、その傾向と特徴を明らかにした。②東日本大震災後の商業施設の個別再建復興の実態について調査・分析を行い、その課題を明らかにした。③東日本大震災後の津波復興拠点整備事業についての調査・分析を行い、その効果と課題を明らかにした。④2019 年度に引き続き、福島県住宅課と協力し、東日本大震災における応急仮設住宅の修繕履歴を分析し、修繕の傾向と請負企業との関係を明らかにした。⑤全国の地域住宅計画の全ての報告書から地域住宅計画に基づき建設された公営住宅についての分析・類型化を行い、地域の活性化との関連を明らかにした。⑥宮城県における地場産材を用いた地産地消型地域住宅建設の事例を分析し、その成立要因を明らかにした。</p> <p><b>【社会活動】</b>①石巻市総合計画審議会の会長として総合計画を実質的に指導し、その策定を行った。②仙台市東部沿岸地区の防集事業跡地利用の事業者選定委員会の委員長として、跡地利用の検討に関与した。③内閣官房「人・コミュニティ・地域のレジリエンス向上のための研究会」委員を務めた。④国土交通省「東日本大震災における津波被害からの市街地復興事業検証委員会」の委員を務めた。</p> <p><b>【国際関連】</b>①ダッカの耐震性補強の効率的実施のための国際共同プロジェクト (SATREPS) に参加し、GIS を用いた建物の脆弱性推定を行った。②2019 年にカリフォルニアロサンゼルス校 (UCLA)、災害科学国際研究所、日本科学未来館が中核となって設立した ArcDR3 (Architecture and Urban Design for Disaster Risk Reduction and Resilience) イニシアチブに参加し、その一環としての国際ワークショップとして、宮城県仙台市荒浜、名取市閑上、丸森町におけるワークショップを実施し、参加学生を指導した。</p>			

分野名	計算安全工学研究分野	報告者氏名	寺田賢二郎・森口周二・山口裕矢
分野目標			
<p>様々な災害時における物理的被害の予測や包含される物理現象のメカニズム解明を目的とした、精緻な数値モデルの構築、高精度な数値解析技術、次元削減・代理モデルの構築およびそれらを利用した確率論的リスク評価手法などの開発を行う。特に、現象の時間・空間的な広がりや有機的に結び付けるマルチスケール災害シミュレーションや逐次破壊を伴うマルチステージ災害シミュレーションの枠組みを構築する。</p>			
2020 年度の分野活動報告			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 逐次破壊を対象としたマルチステージ解析のための手法開発            構造物、地盤、斜面などの初期状態から破壊開始時、破壊進行時のすべての挙動を統一かつ一貫通貫に扱うマルチステージ災害シミュレーション手法の開発に取り組んだ。</li> <li>2. 地盤材料の大変形問題および透水問題を高精度に表現するための手法の開発            土と水の相互作用を考慮した上で初期から大変形・破壊までを統一的に扱える手法を開発するとともに地盤の固体としての材料挙動から液体として振る舞う挙動までを表現可能な構成則を構築し、斜面崩壊や堤防決壊などの工学的問題への適用性を検討した。</li> <li>3. 数値シミュレーション援用による確率論的リスク評価技術の開発            津波、落石、雪崩に関して、高精度な 3 次元シミュレーションの結果に基づいて、確率論的にリスクを評価・可視化する手法の開発および高度化を進めた。また、パラメータや不確実性の寄与度の定量化に取り組んだ。</li> <li>4. 広域の斜面災害を対象とした数値解析手法の開発            2018 年北海道胆振東部地震および令和元年東日本台風の丸森町の土砂災害を対象として、3 次元円弧すべり計算による数値解析手法を構築してその有用性を検証した。</li> <li>5. 2020 年度に発生した災害対応と被害分析            2020 年 7 月山形豪雨および 2021 年福島県沖地震の現地調査を行った。また、その被害の分析を行った。</li> <li>6. 代理モデルによるリアルタイム災害シミュレーション手法の開発            固有直交分解を利用した代理モデルを構築し、災害シミュレーション手法の効率化を実現した。            その他、9 月に Han 教授 (Yonsei University) と共同で学生ワークショップをオンラインで開催した。</li> </ol>			

分野名	災害対応ロボティクス研究分野	報告者氏名	田所 諭
分野目標			
<p>東日本大震災はロボティクスが様々な形で活用された歴史上初めての大災害であった。ロボティクスに対する期待は、人間ではできないことを安全かつ効率的に行うこと、災害に対するリスクを低減すること、防災のコストを下げることである。本分野は、災害緊急対応、災害予防、災害復旧に役立つロボティクスの研究を推進する。</p>			
2020 年度の分野活動報告			
<p>2020 年度には本分野では次の活動を行った。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 火元消火ロボット <b>Dragon Firefighter</b>: 水噴射により浮上して移動し、建物内の火元まで移動できる索状ロボットについて、安定してより長い距離を飛行して火元に到達するための研究開発を行った。</li> <li>2) 救助犬の情報強化: 救助犬の収集する情報をデジタル化するサイバー救助犬スーツの改良研究を行った。日本救助犬協会ほかのユーザと共に、合同での訓練や試験を実施した。</li> <li>3) 球殻ヘリによる老朽化インフラの点検: 球殻を有する超小型ヘリが橋梁の構造内部に入り込み、あるいは、法面の表面を飛行して、映像情報を収集するシステムの研究開発を行い、企業と共に実用化に向けた試験を行った。</li> <li>4) 復興庁が計画する教育研究拠点の実現に向け、その実施プランを検討し、提言を行った。</li> <li>5) 経産省が計画する <b>World Robot Summit</b> インフラ・災害カテゴリーに関して、その実施に関する内容の検討や準備を進めた。<b>Dragon Firefighter</b> により残り火を消火するデモを実施すべく、準備を行った。</li> <li>6) 福島第一原発廃炉のための課題に対して、企業とともに取り組んだ。</li> <li>7) THW が中心となった <b>HORIZON2020</b> の <b>CURSOR</b> プログラムにおいて、瓦礫内を探索する小型ロボットのハードウェアの研究開発に取り組んだ。</li> <li>8) 多数の防災用ドローンが次々と離発着できるドローンポート <b>EAGLES Port</b> を開発した。</li> <li>9) 無線通信の課題を解決するための共同研究を、NICT 他と実施した。</li> </ol>			

分野名	国際防災戦略研究分野	報告者氏名	村尾 修
分野目標			
<p>都市の防災と復興に関する国際的な戦略策定を目指し、学際的な視点に立ち、防災および復興戦略の観点から各地域の特性を分析し、事前、事後の両面から現状の問題点と課題を明らかにすることを目的としている。これを踏まえて、各地域の自然・経済・社会状況の特性に適合したリスク管理・防災・復興戦略および国際的協力体制のあり方について研究を進めている。</p>			
2020 年度の分野活動報告			
<p><b>【研究活動】</b>①地方自治体庁舎の立地を考慮した相対的な津波浸水リスクの評価と 2011 年東日本大震災後の代替拠点空間配置の事例分析を行い、学会誌にて発表した。②災害対応の都市・建築空間に関する研究に基づき、震災データベースを作成した。③「地域コミュニティの暮らしと安全向上のための災害リスク理解に基づく防災力強化プロジェクト」(マレーシア)においてコミュニティ防災に関するマニュアルを作成した。④COVID-19 への大学の対応についてアンケート調査に基づいた論文“Managing and responding to pandemics in higher educational institutions: initial learning from COVID-19”が <i>International Journal of Disaster Resilience in the Built-Environment</i> に掲載された。⑤“Universities’ Preparedness and Response Towards Multi-Hazards: COVID-19, Natural, and Human-Induced Hazards”を出版した。⑥APRU マルチハザードウェビナーを合計 9 回実施し、合計で 2,238 名(登録 3,861)が視聴した。⑦福島県いわき市において「いわき市台風第 19 号における災害対応検証委員会」の副委員長を担当、同台風での災害対応検証を行った。</p> <p><b>【社会活動】</b>①東日本大震災連続ワークショップを企画・運営した。②災害研、川崎市、VAN との間仕切りシステム等に関する協定締結に携わった。③「防災未来フォーラム」にて仙台市と共に「基礎から学ぶ仙台防災枠組」のセッションを主催し、市民に向けて枠組について講演した。④国際ジャーナル「Progress in Disaster Science」の Associate Editor を務めた。⑤附置研究所若手アンサンブルプロジェクトとして、ニュー・ノーマル社会下での避難行動・避難所運営支援教育ツールの開発に取り組んだ。</p> <p><b>【国際交流】</b>①第 17 回世界地震工学会議の企画に携わった。②APRU の MH-Program の一貫として、UCLA および科学未来館と共に推進する Arc DR<sup>3</sup> Initiative において 2 回のフォーラムを開催した。③国連防災事務所が組織する「アジア太平洋科学技術アカデミア諮問委員会」の委員を務め、「Virtual 2020 Asia Pacific Science and Technology Conference for Disaster Risk Reduction: Science and Technology for Building Resilience of Communities and Infrastructure」に出席、COVID-19 への大学の対応について発表した。</p>			

## 2020 年度の部門活動報告

部門名	災害理学研究部門	報告者氏名	遠田 晋次
部門目標			
本研究部門は、巨大地震やそれによる津波をはじめ、火山噴火、気候変動、風水害、宙空災害まで、地球規模のさまざまな自然災害の発生メカニズムの解明に取り組み、短期的および中長期的にそのハザードを予測する。			
2020 年度の部門活動報告			
<p>M9 クラスの巨大地震の発生が危惧される北海道根室沖で GNSS-A による海底地殻変動観測を行うとともに、東北沖では無人観測装置の導入を進めた。南海トラフでは、地震臨時情報発表時の社会対応方法の研究を推し進め、後発地震の発生確率について世界の地震統計データをベースとした評価方法を考案した。地震メカニズムにおいては、日本列島の火山と地震の成因、地殻変動を理解する手がかりになる日本列島下のマンツルの詳細な 3 次元地震波速度異方性構造、東北地方太平洋沖地震にともなう地震活動・応力場変化の詳細を解明した。東北日本弧では、温度構造に起因する不均質なレオロジー構造が島弧に沿って変化することを明らかにした。内陸活断層の研究として、熊本地震阿蘇カルデラ内の小断層の InSAR による解析・モデル化を行い浅部数 km で 20cm ものすべりが発生したことを突き止めた。さらに、トレンチ調査によって約 2 千年前にも同様の遠地誘発変位が発生していたことを明らかにした。火山ハザード研究では、主として吾妻山、蔵王山、十和田で地震・各種測地観測を継続し、地下数 km までの詳細なマグマの動きと関連する地震活動、火口直下深部から浅部に至る流体供給系の活動推移パターンなどを明らかにした。気象・海洋災害研究では、平成 30 年 7 月豪雨での前線降水に対する雨滴蒸発の寄与について検討し、前線の位置に強く影響していることを明らかにした。また、Argo データ等のより詳細な解析に着手し、令和元年の台風 19 号が日本に接近した際の海面の異常高温現象は、垂表層への低温水塊流入過程の弱体化が原因である可能性を指摘した。宙空災害研究では、コロナ質量放出の前面に形成される衝撃波による背景プロトンの顕著な加速、太陽嵐(フレア等)の発生に伴い出現する特徴的な電波と人類の宇宙活動や衛星搭載機器の脅威となる高エネルギー粒子の解析を実施した。</p>			

## 2020 年度分野活動報告

分野名	海底地殻変動研究分野	報告者氏名	木戸 元之
分野目標			
巨大な地震や津波を引き起すプレート境界の巨大地震の発生様式、および関連する海陸の地震への影響、海底浅部の構造を、測地学的手法・各種海底調査、および得られるデータに基づいたモデリングにより明らかにすることにより、地震・津波発生ポテンシャルの評価につなげる。さらに、海域観測技術の高度化を図り、地震時の津波即時予測をするための研究開発を推進する。			
2020 年度分野活動報告			
<p>M9 クラスの巨大地震の発生が危惧される北海道根室沖での GNSS-A による海底地殻変動観測を継続させ、予備的ながら変位速度に関するデータが得られ始め、来年度以降固着状態に関する議論をする目処がたった。東北沖の大規模な GNSS-A 海底地殻変動観測を維持するため、無人観測装置(ウェーブグライダー)の導入を進め、実運用と並行してハードとソフトの両面から改良を重ね、より信頼できるプラットフォームへと進化させた(Iinuma et al., 2021)。その成果としてこれまでより高頻度な観測データを取得し、繰り返し地震から予想される三陸沖でのスローイベントの存在を支持する結果を得た。また、両海域の海溝軸で海底間音響測距観測を実施し、プレート境界深部の挙動からも、固着状態に関する議論を可能にするデータを得つつある。</p> <p>2016 年熊本地震で副次的に発生した阿蘇カルデラ内の小断層の InSAR による解析を行い、その下端が比較的浅いこと、数 km という断層サイズに比して最大すべりが 20cm に達し、副次的断層であっても構造物被害に繋がる可能性があることを指摘した(Fukushima and Ishimura, 2020)。</p> <p>海底熱水鉱床の近傍で観測される自然電位異常の原因を調べるために行ってきたアナログ水槽実験装置にデータを半自動で取得する改良を加え、砂と塩水を入れた水槽に鉱床を模した鉄棒を配置した系で鉄棒の周りで生じる自然電位異常の詳細な空間分布を捉えることに成功し、海域での実データと比較が可能になった。</p> <p>セコム科学技術振興財団の助成による南海トラフ地震臨時情報発表時の社会対応方法の研究プロジェクトを統括し、プロジェクト中の専門担当としては、津波浸水シミュレーションデータの統計処理に反映させられるよう、南海トラフの後発地震の発生確率について過去 100 年間の世界の地震統計データをベースとして、南海トラフ固有の発生履歴も考慮する方法を考案した。</p>			

分野名	地震メカニズム研究分野	報告者氏名	趙 大鵬
分野目標			
地震学的手法を用いて大地震の発生メカニズムを解明することによって実践防災学に貢献する。プレート境界地震の応力蓄積・発生過程の解析研究を進展させることにより、来る東海・東南海・南海地震など低頻度巨大災害への備えの向上を目指す。			
2020 年度の分野活動報告			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・従来の地震波トモグラフィー法を改良し、日本列島下に沈み込んだ太平洋スラブ及びその周りのマントルにおける詳細な 3 次元地震波速度異方性構造を解明し、太平洋プレートの沈み込み、ならびにスラブそれ自体の変形が日本列島下のマントル対流のパターンを支配することが分かった。本研究成果は日本列島の火山と地震の成因及び地殻変動を理解する重要な手がかりになるとと思われる[Z. Wang &amp; D. Zhao (2021) 3D anisotropic structure of the Japan subduction zone. <i>Science Advances</i> 7, eabc9620; D. Zhao (2021) <i>Earth-Science Reviews</i> 214, 103507]。</li> <li>・地震活動度が低く理解が充分でない北海道南部から青森県東部を研究対象地域として、応力場の推定を行った (Maeda et al. 2020)。北海道南部では、太平洋プレートの沈み込みに平行な WNW-ESE 方向に最大圧縮軸をもつ逆断層型の応力場であるのに対して、青森県東部では 2011 年東北地方太平洋沖地震以前は N-S 方向に最大圧縮軸をもつ逆断層型の応力場、地震後は ENE-WSW 方向に最大圧縮軸をもつ逆断層型の応力場に変化していることが判明した。これまで不明であった青森県東部での 2011 年東北地方太平洋沖地震の発生による影響が確認でき、この領域での地震発生の評価に関する重要な知見を得た。</li> <li>・日本海溝海底地震津波観測網 (S-net) が捉えた地震波形データを分析することで、太平洋下から北海道・東北地方沿岸部までのマントルウェッジ内では流動が生じていないことを推定した (Uchida et al. 2020)。1996 年から 2003 年前半の時期の繰り返し地震と陸域 GNSS 観測データに基づいて、スロースリップの時空間分布と地震活動の関係を調べ、低カップリング域の滑りにより高カップリング域の载荷レートが変化し、地震活動の消長をもたらすと解釈した (Khoshmanesh et al. 2020)。さらに東北沖地震に関する研究成果についてレビュー論文にまとめた (Uchida &amp; Burgmann 2021)。</li> </ul>			

分野名	火山ハザード研究分野	報告者氏名	三浦 哲
分野目標			
起こりうる火山噴火災害の軽減・事前対策に資するため、主として地球物理学的諸観測に基づいて火山活動の推移把握や噴火発生にいたる物理プロセスの解明を進める。特に、東北地方太平洋沖地震以後、火山活動に活発化が見られ噴火リスクの高まりが懸念されている東北地方の活火山において観測研究の強化を図る。			
2020 年度の分野活動報告			
<p>火山噴火準備過程等に関する理学的研究を中心としつつ、「災害の軽減に貢献するための地震火山観測研究計画 (第 2 次)」及び「次世代火山研究・人材育成総合プロジェクト」が目指す防災・減災を意識した研究を進めた。2019 年 5 月～6 月に噴火警戒レベル 2 が発表された吾妻山においては、大穴火口近傍における稠密地震観測を継続するとともに、仙台管区気象台とともに 1965 年以降の火山活動に伴う諸観測量の整理・再検討を行い、火口直下深部から浅部に至る流体供給系の活動推移パターンを明らかにした。火口直下の海拔下 3～4 km での比抵抗構造と膨張源の関係から、流体上昇を妨げる岩石の空隙率の推定も行った。蔵王山においては、想定火口域周辺で発生する火山性地震の高精度観測のために機動地震観測点を増設したほか、深さ約 20～35 km において発生している深部低周波地震の活動を精査し、その発生メカニズムや深部マグマの動態を明らかにした。御釜周辺浅部では地表下 400 m 及び 2 km 付近に高伝導体が存在することを明らかにした。また、災害科学国際研究所共同研究として、北海道大学等とともに御釜周辺の水文学的・気象学的観測を継続して行い、火山浅部における熱収支の解明に重要な御釜の水収支に関する知見を得た。その他にも、阿蘇山・草津白根山など、東北地方以外の活火山において関係機関と協力して観測を行い、火山活動推移把握に資するデータを得た。また、アルゼンチンの Domuyo, Maule 両火山において、ここ数年継続している火山性地殻変動について干渉 SAR 時系列解析を行い、両火山体直下の圧力源の時間的推移を調べた。研究結果については、各自治体における火山防災協議会に情報提供するとともに、火山噴火予知連絡会に報告を行った。また、磐梯山噴火記念館等における準リアルタイム火山情報表示システムの展示を継続するとともに、同システムの更新・開発を進めた。</p>			



分野名	長期地殻変形・地質構造研究分野	報告者氏名	武藤 潤
分野目標			
<p>2011 年の東北沖地震の余効変動から、東北日本弧の地質構造などを反映した地下のレオロジー特性を抽出することを目的として研究を行っている。また、沿岸部の地震・津波防災に貢献するため、観測された余効変動において、余効すべりと粘弾性緩和を正確に評価することで、プレート固着の回復を評価する。</p>			
2020 年度の分野活動報告			
<p>2011 年の東北沖地震後の余効変動解析を行い、東北日本弧に存在する温度構造に起因する不均質なレオロジー構造を明らかにする研究を行っている。GNSS 計測から得られる様々な変動の中で、短波長の不均質性は垂直変動に大きな影響を及ぼすことから、水平、垂直変位場の両方を説明するには地下の不均質な粘性構造を考慮する必要がある。粘弾性緩和および余効すべりによる変形は、それぞれ、非線形バーガースレオロジーと速度状態依存の摩擦則を用いて評価した。国土院が展開する GEONET と東北大の持つ宮城-山形、福島-新潟の稠密観測から島弧に沿う南北方向での余効変動の変化を明らかにし、モデル計算から地下のレオロジー構造の不均質性を調べた。福島側線は宮城側線ほど変形量が大きくなく、鳴子周辺で見られた火山フロントでの局所的な変形も見られない。そこで、2 つの側線での観測を、海溝平行成分、直交成分、垂直成分に分け、モデルとの詳細比較を行った。観測を説明する粘性構造の比較から、福島側線に比べ、宮城側線のほうが、前弧の高粘性領域(コールドノーズ)が狭いことが明らかになった。この前弧域のレオロジー特性の違いは、Omuralieva et al. (2012Tectonophysics)による地震の発生深さ(D90)が、宮城に比べ福島のほうがより深いことも調和的である。Uchida et al. (2021Nature Comm.)は S-net での地震観測から、東北日本弧の前弧域にコールドノーズが存在することを報告したが、本研究は稠密観測により、その粘性率や構造が島弧に沿って変化することを示唆している。このような粘弾性緩和による地表変動は、島弧に沿って異なることから、粘弾性緩和の詳細な評価が余効すべりの評価にも必要であることが明らかになった。</p>			

分野名	気象・海洋災害研究分野	報告者氏名	山崎 剛・須賀 利雄
分野目標			
<p>大気・海洋結合系における諸現象を解明し、ハザードの評価を行うための研究を進める。具体的には、数値気象予報モデルの高度利用、豪雪・異常低温の原因となる寒気流出、豪雨のメカニズム、災害科学への陸面過程モデルの利用等に関する研究を行う。また、気候変動適応および海象災害対策に資する海洋情報の収集とその活用手法の開発を行う。</p>			
2020 年度の分野活動報告			
<p>平成 30 年 7 月豪雨(西日本豪雨)、令和元年東日本台風(19 号台風)などの災害をもたらした豪雨事象について、数値気象予報モデルにより再現を行い、豪雨メカニズムに関する検討を行った。平成 30 年 7 月豪雨での前線降水に対する雨滴蒸発の寄与について検討し、特に前線の位置に強く影響していることを明らかにした。また、これらの豪雨について日本域高解像度領域再解析による再現性の確認も行い、過去の顕著な豪雨災害時の大気状況の再現可能性を検討した。将来の大規模アンサンブル気候予測データにより、宮城県・東北地方における地球温暖化に伴う気候変化について解析した。近未来(2040 年ころ)においても、現在気候の年々変動の標準偏差を超える気温上昇が予測され、特に冬季の積雪期間の減少が影響し、内陸部の盆地・平野での昇温量が大きいとみられる。</p> <p>気象災害の要因となったり、水産業へダメージを与えたりする海水温の異常高温現象を引き起こすメカニズムを理解するために、海洋混合層と亜表層との間の熱・塩分輸送について、Argo データを用いて全球的に調査した。その結果、海面水温の変動に対する亜表層からの熱流入の寄与が大きい海域として、南極周極流周辺、熱帯太平洋北東部、熱帯インド洋南西部、北大西洋北東部などを特定した。さらに、この熱輸送の変化が 2014 年に北太平洋北東部で発生した海洋熱波と関係していたことを示唆した。日本付近について、Argo データ等のより詳細な解析に着手し、令和元年の台風 19 号が日本に接近した際の海面の異常高温現象は、大気による海面加熱では説明できず、亜表層への低温水塊流入過程の弱体化が原因である可能性を指摘した。また、40 年以上にわたる海水データと海洋・大気再解析データの解析により、ベーリング海の水氷面積の減少が、アラスカの海面気圧変動を介して、北米の強烈な寒波と結びついていることを明らかにした。</p>			

分野名	宙空災害研究分野	報告者氏名	小原 隆博
分野目標			
宙空環境におけるハザードの分析を行い、宇宙科学研究と宇宙開発の現場に存在するギャップを埋めることを目的とし、以下の研究を進める。 1. 宇宙環境保全(宇宙放射線、宇宙デブリ)に関する研究 2. 太陽活動危険状況監視のための太陽電波定常観測の実現 3. 電磁波観測を用いた落雷規模推定の研究			
2020 年度の分野活動報告			
以下のテーマについて、研究を実施した。 ・ <u>太陽放射線のスパイク的増加現象の研究(小原隆博教授)</u> : CME(コロナ質量放出)の前面に形成される衝撃波による、背景プロトンの加速について研究し、30MeV までプロトンが加速されることを明らかにした。 【発表論文】: Oka, Obara et al. Earth Planets Space, 2021 ・ <u>太陽嵐発生素過程の研究(三澤浩昭准教授)</u> : 地上・科学衛星の観測に基づき、太陽嵐(フレア等)の発生に伴い出現する特徴的な電波と人類の宇宙活動や衛星搭載機器の脅威となる高エネルギー粒子の解析を実施し、電波のスペクトル構造と粒子のエネルギー特性との関係を精査した。 ・ <u>地球放射線帯観測(土屋史紀准教授)</u> : 北米・北欧に独自に展開した低周波電波観測網を使用し、放射線帯の閉じ込めが破れて高エネルギー電子が中層大気に降り注ぎ、大気を電離させている様子を明らかにした。 【発表論文】: Miyashita, T., et al., Radio Sci. Bulletin, 2020, Miyoshi et al., Geophys. Res. Lett., 2020 ・ <u>低周波電波を用いた落雷規模推定(土屋史紀准教授)</u> : 落雷電流の誘導磁場観測を利用した落雷規模の推定精度向上の研究を行った(東北電力の受託研究として実施)。			

分野名	活断層研究分野	報告者氏名	遠田 晋次
分野目標			
活断層によるリスクの 1 つとして断層地表変位による直上構造物の破壊がある。そのための基礎的研究として、平成 28 年熊本地震などを中心に、現地地表踏査と地殻変動データを再検討し、断層出現ゾーンの広がりや地震動を伴わない誘発断層すべりについてとりまとめ、短い断層や断層変位ハザード評価に関する新たな提案を行う。			
2020 年度の分野活動報告			
【断層変位ハザード・誘発活動の研究】2016 年熊本地震では、震源となった日奈久断層北部、布田川断層だけではなく、その他の約 200 個所以上で小変位が検出された。今年度は、このなかでも阿蘇カルデラ内の宮地地区での小断層について、首都大東京、広島大、同志社大と共同で掘削調査を行った結果をとりまとめ、過去に同程度の誘発すべりが 2 千年前に発生した証拠を突き止めた(Ishimura et al., Earth Planets and Space, 2021)。このタイミングは布田川断層本体が地震を引き起こした時期に当たり、1 つ前の活動でも同様の誘発すべりが発生したと思われる。また、熊本地震に関しては、日奈久断層帯で熊本地震後に最大 20cm の余効すべりが生じたことを明らかにした(活断層研究、受理済み)。誘発に関する研究としては、熊本地震と同様の前震-本震シーケンスを示した 2019 年カリフォルニア州リッジクレスト地震の連鎖的地震活動について、応力伝播を考慮した地震活動評価を行い、活断層の連動性における共役断層の役割について明らかにした(Toda and Stein, 米国地震学会誌, 2020)。 【日奈久断層近傍の北甘木断層の調査】布田川・日奈久断層のごく近傍にありながら、熊本地震では活動しなかった北甘木断層について、嘉島町、熊本大学、福岡大学とともに掘削調査を行い、同断層帯が横ずれ型の活断層であり、断層活動に伴い生じた亀裂充填堆積物の詳細な年代測定などから過去 9 万年間に 3~5 回の断層活動を繰り返したことを明らかにした(石澤ほか、活断層学会秋季大会発表)。これによって、布田川-日奈久断層帯では、熊本地震と異なるタイプの地震も発生していたことが示唆される。			

## 2020 年度の部門活動報告

部門名	災害医学研究部門	報告者氏名	児玉 栄一
部門目標			
<p>新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) のパンデミックのように予測困難かつこれまで経験のない規模で発生する災害が、グローバル化を背景に世界の生命を危機に晒している。災害時における医学の役割はますます重要となり、今後起こり得る未曾有の災害に備えるためにも今回のパンデミックや東日本大震災の経験から得た知恵を集結し、医療体制の整備に必要な基盤の再構築と社会への還元を目標とする。</p>			
2020 年度の部門活動報告			
<p><b>新型コロナウイルス対応:</b> 国や自治体、学内外と分野横断的に活動した。具体的にはコロナ陽性者情報データベースの政策提言(災害公衆衛生学)、JACSIS 研究への参加(災害口腔科学)、コロナ規制下での研究モチベーションの論文化(災害産婦人科学)、自治体のコロナ体制への貢献(MMWIN・ドライブスルー検査等)(災害医療情報学・災害放射線医学)、東北大学および病院での感染対策および教育(災害感染症学)・BCP 作成(災害医療国際協力学・災害感染症学・災害医療情報学)・学生・教職員のメンタルヘルス調査(災害精神医学・災害感染症学)など多岐にわたった。  <b>研究:</b> AMED・文科省等複数の外部資金を獲得、新型コロナウイルス関連研究も採択された。七ヶ浜町と共同で第 10 次被災者健康調査を実施した。東日本大震災後の長期的な健康被害(不眠、体重増加など)、災害医学進化、災害保険医療人材育成に関する研究を論文化した。津波避難について VR 実験とデータ集積を開始した。放射線被曝についての論文を多数発表し、特許取得につなげた。SARS-CoV-2 やパンデミックの可能性のある病原体に対する治療薬開発研究を行い国際誌に報告した。COVID-19 規制下における研究者の研究環境とモチベーションへの影響についての論文を発表した。  <b>教育:</b> 「ヒューマンセキュリティとグローバルヘルス」など、大学院や学部の講義実習を多数担当し災害医学に資する人材育成に努めた。学内の学生及び教職員の感染症対策強化のため講義およびセミナーを行った。第 25 回日本生殖内分泌学会を主催し、全国の生殖内分泌関連の研究者に災害研究を含めた学際コミュニケーションを行う機会を提供した。  <b>社会貢献:</b> 新型コロナウイルス感染症対策として国や自治体への提言や実務対応など多くの場面で協力を行った。また報道メディア、ポスターや e-learning による感染対策の啓発を行った。全国の国立大学病院情報バックアップシステムの運用管理(医療情報の遠隔地保存)にも貢献した。</p>			

## 2020 年度の分野活動報告

分野名	災害医療国際協力学分野	報告者氏名	江川 新一
分野目標			
<p>災害に強い医療供給体制を構築することをミッションとし、災害時の保健医療システムの破たん、それに備える病院 BCP・受援力のあり方、医療ニーズの質的量的変化に対する備え、保健医療コーディネーション・意思決定メカニズムを研究する。先端技術を活用しながら仙台防災枠組の保健医療面での実現をめざし、人々のこころとからだの健康を守る実践的防災学の一部として災害保健医療の教育を行う。</p>			
2020 年度の分野活動報告			
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 科研費基盤 A で南三陸町の匿名化診療記録 10,464 件に基づく被災者の睡眠障害を論文化した(Nakamura, TJEM2019)。気仙沼市立病院の 5,700 件、石巻圏の診療記録約 20,000 件の災害診療記録を匿名データベース化した。東北大学病院 BCP および東日本大震災後の災害医療の進歩についてそれぞれ論文化した(Sasaki TJEM 2020, Egawa TJEM 2021)。</li> <li>● WHO の HEDRM コアメンバーとして健康危機・災害リスク管理の研究ガイドラインの日本の災害医療研究に関するケーススタディを執筆した(Egawa 2020)。WHO の研究助成による国際共同研究で災害保健医療人材育成について論文化した(Hung, IJERPH 2020)。日本 DMAT, DPAT の育成についてケーススタディを行った。その結果にもとづき、Delphi 法による専門家コンセンサスを形成中である。</li> <li>● Berlin Science Week、日本災害医学会で災害における保健医療のあり方について発信した。</li> <li>● 厚生労働省の病院事業継続計画(BCP)の班研究に参加するとともに、東北大学病院の BCP 委員会の副委員長、委員として BCM(リスク抽出と改善)を行い、新型コロナウイルス感染症に対する改訂も含めて BCP 第 3 版に更新した。</li> <li>● 東北大学防災 UPDATES においてエフエム仙台でのラジオ講演を 2 回行った。ヒューマンセキュリティ、国際共同大学院 GP-RSS、卓越大学院 SyDE の運営委員・授業提供を行った。</li> <li>● 共同利用・共同研究委員長として第 4 期中期計画における共同利用・共同研究拠点への申請、2020 年度、2021 年度の共同利用・共同研究プロジェクトを実施し、東京慈恵会医科大学との共同研究を行った。</li> <li>● WADDEM Tokyo 2022 のプログラム委員長として企画を推進した。</li> </ul>			

分野名	災害感染症学分野	報告者氏名	児玉 栄一
分野目標			
新型コロナウイルスによるパンデミックの早期解決に向けて、感染予防対策の提案や啓発活動、メンタルヘルス支援体制を整える。研究面では、企業や他施設との連携、多分野との学際融合に重点を置き研究費の獲得を目指すと共に、感染症対策として必須である新規治療薬や診断ツールの開発、消毒薬の機能評価を行う。			
2020 年度の分野活動報告			
<p><b>災害対応:</b> 現在もなお猛威を振るっている感染症パンデミックへの対応として、大学本部新型コロナウイルス対策班に加わり、全学レベルで流行状況に応じた感染対策について助言、提案している。具体的には、各部局で行われる感染対策のモニタリング体制の導入やコロナウイルスに関する知識の提供、課外活動を含めた学生への感染対策教育を行った。各部局からの依頼で、教授等に対するの対面講義、web 講義なども行い学内の感染症対策強化に貢献した。さらに、長期化するコロナウイルス流行によるメンタルヘルスへの影響を緩和するため、精神科医、心理士などと連携して多層的な支援体制に取り組んだ。<b>研究:</b> コロナ対策を含む AMED 研究開発課題で 6 件(代表 2 件)、科学研究費助成事業で 2 件(基盤研究 B、若手研究 B)、学内研究事業「ポストコロナ社会構築研究スタートアップ支援」で分担 3 件が採択された。また、他学部や他施設と共同で実施した治療薬開発研究で高い成果(<i>Nat Commun</i>, 2 報) を挙げた。避難所での感染対策(小野教授と学際研究)、災害時の感染症 BCP(熊本大学と共同研究)に関する研究成果を論文化した。東日本大震災の影響の調査研究(東北メディカル・メガバンク機構と共同研究)も継続して実施している。その他、アウトブレイクで問題となるアデノウイルス感染症治療薬の開発研究(企業と共同研究)、耐性菌の解析(国立国際医療研究センターと共同研究)などを展開し、災害にかかわる感染症研究を行った。<b>社会貢献:</b> 基本的な感染予防対策を普及するため「感染対策 ABC」を掲げ、報道メディア、ポスターや e-learning による啓発を行った。<b>教育:</b> 大学院生 10 名、学部卒業研究生 1 名、その他学位指導・審査などを行った。新型コロナウイルス感染症対策として、多くの学部講義・全学講義を行った。更に、全学に向けた感染対策 web 講義を行った。</p>			

分野名	災害放射線医学分野	報告者氏名	千田 浩一
分野目標			
被曝測定防護に関する医学的研究(特に水晶体被曝研究)、福島原発事故関連の生物影響調査と線量計測法、放射線に対する理解の普及、災害時における画像診断システム開発等々を行う。当該領域での教育および研究者育成を行い、さらに分野横断的な共同研究を通じて、新しい技術を開発し世界へ情報を発信し成果を社会に還元する。千田兼担の大学院医学系研究科放射線検査学分野及び同保健学科の研究・教育(人材育成)を推進する。			
2020 年度の分野活動報告			
<p><b>研究等:</b> 厚労省労災疾病臨床研究(不均等被曝関連)を 2 件(代表と分担)実施。科研費「基盤 B、C・若手」を 9 件実施。計 15 編(英文 10、和文 5)の査読論文掲載。著書 3 編。災害研共同研究助成を 4 件実施(産業医大、福島医大、福島学院大、弘前大)。産総研マッチング研究支援事業にて共同研究を実施し成果は論文掲載。関連企業との産学共同研究を積極的に実施(特許等)。「英知を結集した原子力研究」にて福島での生体試料解析と生物影響研究を継続実施。<b>国際交流等:</b> 北米放射線学会(RSNA、最大の放射線医学系国際学会)で関連演題を 3 題発表。他に ECR(欧州放射線学会)にて発表。<b>教育等:</b> 千田兼担の医学部講義(主に放射線技師育成)、を年間週 3 コマ、学生実験(年間週 2 回)担当し、さらに他学科分担講義や全学教育における集中講義等を継続して多数担当し、加えて保健学専攻大学院講義(含む医学物理士育成)を年間週 2 コマ、その他集中講義等を継続して多数担当。以上は当分野の人材養成の基盤になる。当該年度は当分野に、院生 22 名(博士課程 10 名、修士課程 12 名)、研究生 1 名、学部生(卒業研究)が 5 名在籍し研究指導等を行った。更に主査として博士 1 名修士 3 名と学士 5 名の学位担当(副査として博士 2 名と修士 2 名)。学部学生等の就職進路指導担当教員としてキャリア支援を引き続き精力的に行った。<b>特許:</b> 国内特許出願・公開・取得を行った(本年度は計 3 件)。<b>社会活動等:</b> 放射線障害防止法や医療法等の改正等へ向け活動(厚労省検討会等での政策提言や意見具申等)。原子力規制庁の水晶体被曝がイトライン班員としてがイトライン作成出版に貢献。仙台市防災会議専門委員(及び原子力防災部会委員)。JST 研究成果最適展開支援専門委員。JST マッチングプランナー専門委員。また放射線教育のための多数の講演活動等(原子力安全センタ主催等)やパンフレット作成等を引続き行い、さらに電子教材を開発改良した。宮城県 DMAT 活動拠点本部活動を実施。宮城県新型コロナ対策関連(PCR ドライブスルー検査、療養ホテル X 線撮影、高齢者施設に対する感染制御・業務継続支援)の社会貢献を実施した。</p>			

分野名	災害精神医学分野	報告者氏名	富田 博秋
分野目標			
<p>(1) 災害が及ぼす心理社会的影響に関する情報を包括的に集積・分析することで、影響からの回復を効果的に促進するための情報の抽出を行うこと</p> <p>(2) 心の健康の観点から災害に有効に備えるための知見を集積・抽出すること</p> <p>(3) 被災地域の課題となるうつ病、心的外傷後ストレス障害等に対するより有効な診療技術の開発を行うこと</p>			
2020年度の分野活動報告			
<p>(1) 東日本大震災が被災住民に及ぼしている心理社会的影響を包括的に分析する研究の一環として、宮城県七ヶ浜町との間の協定の元、第10次調査を実施し、集積したデータを用いて運動習慣、飲酒習慣、睡眠習慣、対人交流、就労、レジリエンスに関して解析を進め、適宜論文発表し、七ヶ浜町と災害研の共同ワークショップや町民向けセミナーの開催、町報での健康コラム連載等を行った。また、健康増進を目的とした介入研究を実施し、睡眠・活動データを集積した。また、米国マウントシナイ大学と共同で、レジリエンス向上に向けた自習とレジリエンス向上との関連に関する国際研究を実施した。(2) 東日本大震災を経験した母親と地域ヘルスケア従事者へのインタビュー調査から8つの支援ニーズを整理し、論文発表し、COVID-19流行下におけるメンタルヘルス対策として、日本精神神経学会を含む関連5学会の合同指針及び日本脳科学関連連合の緊急提言、宮城県精神科医療機関における新型コロナウイルス感染症対策指針、精神科医療現場における新型コロナウイルス感染症対策事例集をそれぞれ策定、発出した。また、罹患者、濃厚接触者、医療従事者、保健所職員を対象としアンケート調査およびインタビュー調査を、東北大学学生を対象にメンタルヘルスの実態把握のための全学アンケート調査をそれぞれ実施した。(3) 被災地域の課題である睡眠障害や産後うつ状態について、バイオセンシングを用いた被災住民の睡眠の向上研究、また ToMMo、医学系研究科、病院と連携したバイオセンシングとスマートフォンを用いた妊産婦のメンタルヘルスマニタリング研究をそれぞれ実施した。九州大学および災害評価・低減研究部門との共同研究として、津波襲来時のバーチャルリアリティ映像とバイオセンシングを用いたシミュレーション実験を開始し、津波避難に影響する心理・生理学的特徴の解明に向けたデータ集積を行った。</p>			

分野名	災害産婦人科学分野	報告者氏名	伊藤 潔
分野目標			
<p>災害産婦人科学分野は、災害科学として、産婦人科疾患を災害の視点から捉え直すことを目指す分野である。甚大な災害が、婦人科がん検診体制を中心とした保健医療体制に及ぼす影響、婦人科特有の疾患に及ぼす影響を、多面的かつ長期的に解析・検討し、災害地の女性の健康を図ることを第一の目的に、大災害が母子に及ぼす影響を分析し、今後に備え対応できる国際的基準を確立することを第二の目的としている。</p>			
2020年度の分野活動報告			
<p><b>1. 震災時ストレスとその後の生活環境変化が婦人科疾患の発生進展に及ぼす影響の解析</b>          ストレスホルモンやその関連因子(性ホルモンなど)が婦人科がんのホルモン産生・代謝や生命予後と関わることを明らかにする研究を続行し、その成果を日本内分泌学会、日本生殖内分泌学会などで発表した。</p> <p><b>2. 災害が宮城県などでの婦人科がん検診体制や女性の健康、研究者のモチベーションに及ぼす影響の解析</b>          東日本大震災が宮城県での子宮がん検診の受診率にどう影響したか、また津波被災地域では震災以降も受診率の回復が見られないなど、津波被災地域とそれ以外で地域格差があることを、2020年3月11日付けで国際査読誌 PLOS ONE に掲載(Miki Y, et al)した。その内容はその後、内外の様々な記事(Science Daily, The ASCO Post, 日本経済新聞など)で取上げられ、大きな反響を得た。          COVID-19の感染拡大が、研究者のモチベーションに与える影響に関して調査・論文化(国際査読誌 Progress in Disaster Science, Miki Y, et al)すると共にプレスリリースを行い(2020.11.19)複数の記事で取上げられた(日本経済新聞、Medical Tribune、大学ジャーナルなど)。</p> <p><b>3. 社会および教育活動</b>          災害後の婦人科がんを中心としたがん検診事業を再構築すべく、宮城県や仙台市医師会を含めた多くの検診関連団体の委員会で役職を務め、積極的に活動している。今年度からは宮城県の生活習慣病検診管理指導協議会の子宮がん部会委員に就任し、県全体のがん検診政策に関与している。          また、日本産科婦人科学会の災害・復興対策委員会でも活動し、災害時の母子救援活動のあり方を検討している。          さらに第25回日本生殖内分泌学会学術集会を主催(2020年12月)し、全国の生殖内分泌関連の多彩な研究者(基礎系・臨床系)に災害研究を含めた学際コミュニケーションを行う機会を提供した。</p>			

分野名	災害公衆衛生学分野	報告者氏名	栗山 進一
分野目標			
<p>研究活動においては、東北メディカル・メガバンク事業の大規模疫学調査(三世代コホート調査)データを用い、ゲノムデータを含め大規模疫学調査の手法によって大規模災害が中長期的健康に与える影響をより明らかにしていく。知見が得られれば速やかにこれを情報発信する。教育及び学外の社会活動においては、学部から大学院まで幅広く教育を行い、自治体等での講演を積極的に展開する。</p>			
2020 年度の分野活動報告			
<p>2020 年度の研究活動においては、東日本大震災の曝露と体重増加に関連する遺伝子 <i>ANKRD44</i> 及び不眠と関連する遺伝子 <i>LOC101927123</i> を同定した。教育活動については、医学部から医学系研究科まで、「災害の科学」、「巨大災害に対する健康と社会のレジリエンス」、「Topics and Discussions (Precision Medicine and Risk Estimation of Multifactorial diseases)」、「社会医学」などの講義を行い、厚生労働大臣に対し、新型コロナウイルス感染症の患者及び検査陽性者の生体試料・情報を集積するデータベースの在り方に関して政策提言を行った。</p>			

分野名	災害医療情報学分野	報告者氏名	中山 雅晴
分野目標			
<p>「平素を充実させることで災害に備える」という方針の下、病院情報システム等の充実や院内 BCP を含め広く活動する。臨床現場での効率を高めるシステムやツールの提供や情報の標準化、そして災害時にも安定的に医療情報を提供するための、その対象や手段の検討を行う。その為の技術開発や運用レベルでの確認、データの 2 次活用までを取り扱う。</p>			
2020 年度の分野活動報告			
<p>・ 防災/減災/対災のための院内活動 (BCP, 診療情報システム, バックアップ, 地域連携システム等)</p> <p>① みやぎ医療福祉情報ネットワーク協議会 (MMWIN) に継続して協力し、宮城県における診療情報のバックアップを促進。同意患者登録数は 10 万人、総バックアップ人数は延べ 1,550 万人 (2021 年 3 月末時点)。宮城県のコロナ患者対応にも活用している。</p> <p>② 全国の国立大学病院情報バックアップシステムの非常時運用 WG として運用管理を行った。</p> <p>③ 東北大学病院 BCP 事務局メンバー、並びに委員会に参加し BCP 第 3 版への更新に尽力した。</p> <p>・ 学術的な活動</p> <p>① 書籍「東日本大震災からのスタート 災害を考える 51 のアプローチ」への寄稿。</p> <p>② 日本医療情報学会等など、幅広く国内外で MMWIN などの発表。周知・啓発活動に尽力した。</p> <p>③ 厚労省科研費「次世代医療情報交換標準規格 FHIR を用いた PHR 統一プラットフォームの開発」の実施。</p> <p>④ 民間共同研究「個人に向けた医療 BCP 基盤の在り様と医療情報を使った個人に最適なサービスとその基盤の在り様に関する研究」の実施。</p> <p>⑤ 特許出願: 情報システム、情報処理方法及びコンピュータープログラム (【出願番号】2021-051718)</p> <p>・ 社会貢献・学内外・その他の活動</p> <p>① 東北大学 未来型医療創成センタービッグデータメディシンセンター副センター長として活動。</p> <p>② 6 月より学術研究員を採用し体制強化を図った。</p> <p>③ 個人向けの BCP や避難所の DX 化など研究対象を広げ、NTT らとビジョン共有型大型研究締結に邁進。</p>			

分野名	災害口腔科学分野	報告者氏名	小坂 健
分野目標			
1) 新型コロナウイルス感染症対応 2) 歯からの放射線被ばくの推定 3) 岩沼プロジェクトを主体とした被災地の健康支援の有り方の提案 4) 地域包括ケアシステムによる防災体制について研究を進めると共に提言			
2020 年度の方野活動報告			
1) 新型コロナウイルス感染症対応として、政府のクラスター対策班、東京 iCDC のアドバイザーボード、宮城県庁のアドバイザーとしてクラスターの解析や政策の提言などに関与した。 2) 環境省の事業により 2020 年 2 月まで収集した乳歯 6,976 本について放射線量のスクリーニングならびに核種の推定などを行った。福島第一原発事故の前後や他の地域との比較においても、福島県の子供達の脱落乳歯の放射線量が低いことが確認され、国際誌に報告した。 3) 宮城県庁と協力して、宮城県内の仮設住宅の入居者の健康状態の推移を明らかにした。健康状態の悪い入居者の割合は経年的に減少傾向にあったが、特に災害公営住宅では健康状態の悪い者の割合が高く、今後も入居者の健康状態をフォローアップし介入する必要があることを明らかにした。 Atsushi Takahashi, Mirei Chiba, Akira Tanahara, Jun Aida, Yoshinaka Shimizu, Toshihiko Suzuki, Shinobu Murakami, Kazuma Koarai, Takumi Ono, Toshitaka Oka, Joji Ikeyama, Osamu Kaneko, Makoto Unno, Kimiharu Hirose, Takashi Ohno, Yasushi Kino, Tsutomu Sekine, Ken Osaka, Keiichi Sasaki & Hisashi Shinoda Radioactivity and radionuclides in deciduous teeth formed before the Fukushima-Daiichi Nuclear Power Plant accident. Scientific Reports volume 11, Article number: 10335 (2021) 草間太郎、相田潤、東大介、佐藤弥生子、小野寺保、杉山賢明、坪谷透、高橋達也、小坂健. 宮城県の東日本大震災被災者の健康状態の経年推移: 応急仮設住宅等入居者健康調査より. 日本公衆衛生学会雑誌 2020; 67 卷 1 号: pp26-32. DOI: <a href="https://doi.org/10.11236/jph.67.1_26">https://doi.org/10.11236/jph.67.1_26</a>			

## 2020 年度の部門活動報告

部門名	情報管理・社会連携部門	報告者氏名	佐藤 健
部門目標			
<ul style="list-style-type: none"> <li>国内外連携による自然災害デジタルアーカイブの構築のための研究を実施する。</li> <li>東日本大震災の被災地における復興まちづくりとコミュニティ防災に関する実践と探究を行う。</li> <li>実践的防災学の構築のため、研究所の成果を産官学民の連携で国内外に広く発信する。</li> <li>災害科学の体系化と災害リスク軽減に関する国際的な研究を推進するために、海外の様々な大学や研究機関との連携強化を目指す。</li> </ul>			
2020 年度の部門活動報告			
<p>災害アーカイブ研究分野は、ハーバード大との共同研究による震災デジタルアーカイブの三者間連携システムでの連携や震災デジタルアーカイブを用いた防災教育などを実施した。社会連携・地域貢献として、岩手県の東日本大震災津波伝承館と共同で三陸津波ウェビナーの開催や国立国会図書館との共催の東日本大震災アーカイブシンポジウム、俳優竹下景子さんをお招きした語りベシンポジウム「かたりつぎ」を実施した。</p> <p>災害復興実践学分野では、石巻市の復興事業に関して、個別具体の施設デザインから、包括的な都市戦略まで、市内部や県との調整を行いながら、実践的・実務的な復興まちづくりに関する知見を蓄積してきた。また、宮城県から受託した「自主防災組織育成・活性化支援モデル事業」の4年間の成果を「みやぎ地域防災のアイデア集～持続可能な防災まちづくりのために～」として監修した。</p> <p>社会連携オフィスは、仙台防災枠組を円滑に実施するため様々な活動を行った。昨年度に引き続き、包括的な災害リスクのプロアクティブアラートに基づくインクルーシブ防災について、株式会社富士通総研らとの共同研究を進捗させた。国内外の共同研究機関等と連携を密に取りながら、仙台防災枠組の実施への貢献、そしてSDGsの達成に向けて、着実に研究活動等を進めた。</p> <p>国際研究推進オフィスの主な活動は、1) 国際会議およびワークショップの開催と参加、2) 協定締結(MOU)の支援と作成、および3) 国際学術雑誌の出版であった。ベルリン自由大学との連携で、2020 Berlin Science Week で科学セッションとして開催し、ULCA と連携して ARCDR3 フォーラムを運営した。エジプトの Ain Shams University の医学部間協定を締結した。また、所内研究者と連携して共同研究の成果として国際論文を出版し、AIWEST-DR2019 の特集号の会議事録を出版した。</p>			

## 2020 年度の分野活動報告

分野名	災害アーカイブ研究分野	報告者氏名	柴山 明寛
分野目標			
<p>本分野では、近年の自然災害を中心に様々な貴重な記録(映像、写真、証言など)の収集・整理・保存するとともに、自然災害デジタルアーカイブの構築方法の確立のために、災害記録の体系化や自然災害メタデータスキーマの標準化、災害記録の自動分類方法、デジタルアーカイブ同士の連携方法などの基礎研究を行う。</p>			
2020 年度の分野活動報告			
<p>本年度の分野活動は、①自然災害の記録の収集・整理、②自然災害アーカイブ連携に関する研究、③自然災害アーカイブの支援、④自然災害記録を用いた防災教育、防災観光に関する研究、⑤社会連携・地域貢献などを実施した。本年度の成果を以下に示す。</p> <p>①自然災害アーカイブの記録の収集・整理として、東日本大震災からの10年の記録の再整理を行った。さらに、過去の自然災害資料の収集や整理を行った。②自然災害アーカイブの連携として、国内の東日本大震災関連の震災デジタルアーカイブとハーバード大学ライシャワー日本研究所との間でメタデータ連携を継続的に実施した。③自然災害アーカイブの支援として、熊本大「ひのくに災史録」や岐阜大「災害アーカイブぎふ」などのデジタルアーカイブの構築支援を行った。さらに、北海道厚真町や岩手県大船渡市、福島県大熊町などの支援を行った。④防災教育としては、ハーバード大学との共同で震災デジタルアーカイブを用いた授業をオンラインで実施した。俳優竹下景子さんをお招きした語り部シンポジウム「かたりつぎ」を2021年3月6日に宮城県多賀城市文化センターで開催した。新型コロナウイルス感染拡大防止のために参加者を制限して、会場の半分以上の400人で実施した。仙台市と宮城県と共同で実施している「防災観光」については、コロナ禍の影響でモデルツアー等は実施せず、新たに完成した伝承施設等の連携を検討した。⑤社会連携・地域貢献については、東日本大震災アーカイブシンポジウムを2021年1月11日に国立国会図書館との共同で実施し、オンライン開催ではあったが約170人の参加があった。岩手県東日本大震災津波伝承館、ハワイ太平洋津波博物館やアチェ津波博物館と共同で三陸津波ウェビナーを実施した。三陸津波ウェビナーの開催の様子は、岩手県のYouTubeチャンネルに映像が公開されている。</p>			



分野名	災害復興実践学分野	報告者氏名	佐藤 健
分野目標			
<p>実践的防災学の確立と復興・防災に関する実践的な展開を大目標に、具体的には以下の二点を目標としている。</p> <p>1) 防災教育国際協働センターを中心に、国内外の大学や研究機関、行政機関等との連携を推進し、地域に根ざした防災・復興教育モデルの開発と実践、その高度化と普及。2) 復興事業の実務的支援を通じた実践的な復興まちづくりのあり方の探究。</p>			
2020 年度の分野活動報告			
<p>佐藤健教授・定池祐季助教は、新型コロナウイルス感染症拡大を受けて、宮城県教育委員会と共催した「未来へつなぐ学校と地域の安全フォーラム」や学校教員向けの研修動画「学区の地図を活用した災害リスクの理解」などのオンライン配信を行った。また、佐藤健教授は、石巻市の災害復興／防災教育プログラムの普及と高度化に取り組むとともに、宮城県内への実践モデルの普及を継続するとともに、学校の災害安全の推進に取り組んだ。宮城県から受託した「自主防災組織育成・活性化支援モデル事業」の4年間の成果を「みやぎ地域防災のアイデア集～持続可能な防災まちづくりのために～」として監修した。定池祐季助教は、定池祐季助教は、福島大学の防災教育プロジェクトに参画し、避難所運営に関する教材開発と人材育成に努めているほか、北海道胆振東部地震の被災地厚真町に継続的に関わり、厚真町との共同研究等で心のケアと防災教育や復興計画(第三期)策定の支援を行った。加えて、厚真町社会福祉協議会生活支援相談員のスーパーバイザーとして、仮設住宅からの住まいの移行期における被災者支援体制の構築に寄与した。</p> <p>また、小野田泰明教授(兼務)・平野勝也准教授は、昨年度から引き続き、姥浦道生准教授(兼務)などとともに、石巻市の復興事業に関して、個別具体の施設デザインから、包括的な都市戦略まで、市内部や県との調整を行いながら、実践的・実務的な復興まちづくりに関する知見を蓄積してきた。さらに、平野准教授は女川町復興まちづくりデザイン会議委員長として女川町での実践的・実務的な復興まちづくりに貢献している。その一方で、新しいL1防潮堤高を決める方法論づくりに関する共同研究を実施している。また、本江正茂准教授(兼務)は、災害教訓の継承の知見を生かし、仙台市(震災復興メモリアル等検討委員会)・山元町(震災伝承検討委員会)において震災伝承への助言を行っている。</p>			

分野名	社会連携オフィス	報告者氏名	小野 裕一
分野目標			
<p>防災・減災・復興の取り組みの中に、科学の知見を反映させること。具体的には、東日本大震災の経験をもとに実践的防災学を旨として、研究成果が政策として用いられ、社会実装するお手伝いをする。本研究所と社会の間の様々な連携活動を強化・促進するにあたり、“繋ぎ役”としての活動を主として海外でおこなっていく。</p>			
2020 年度の分野活動報告			
<p>社会連携オフィスでは、2020 年度においても、仙台防災枠組を円滑に実施するため様々な活動を行った。先ず、昨年度に引き続き、包括的な災害リスクのプロアクティブアラートに基づくインクルーシブ防災について、株式会社富士通総研らとの共同研究を進捗させた(当該研究課題は、JST 研究開発プロジェクト「SDGs の達成に向けた共創的研究開発プログラム」(研究代表者:小野)に採択されている)。当該プロジェクトでは、「誰ひとり取り残さない防災」を目指し、地域別・世帯別のリスクアセスメントによる災害リスクの把握、ピンポイントアラートシステムによる効果的な情報提供の方策等について研究開発を進めている。対象地域の1つとして、SDGs 未来都市である岩手県陸前高田市を選定しているが、2020 年 10 月には今村文彦所長が同市の戸羽太市長を表敬訪問し、復興状況や今後の防災対策について活発な議論を行った。また、2020 年 12 月に開催された国際開発学会第 31 回全国大会では、佐々木大輔助教が科研費プロジェクト(「アチェにおける災害復興で現地の学術研究機関が果たす媒介機能の活用に向けた新展開」)に係る成果発表を行った。さらに、2019 年 11 月に開催された第 2 回世界防災フォーラム(WBF2019)での成果を取り纏めた Journal of Disaster Research (JDR) の特集号 Vol.15 No.7 (Special Issue on the Second World Bosai Forum)を公刊した(全 13 篇の査読付き論文を収録)。以上のように、社会連携オフィスでは、国内外の共同研究機関等と連携を密に取りながら、仙台防災枠組の実施への貢献、そして SDGs の達成に向けて、着実に研究活動等を進めた。</p>			
			

分野名	国際研究推進オフィス	報告者氏名	ボレー ペンメレン セバスチャン マリ エリザベス
分野目標			
<p>北米およびヨーロッパ・アフリカ地区における主な機関・拠点校と本研究所との共同研究をコーディネートし、本研究所の国際的プレゼンスの向上を図るための様々なプロジェクトの推進・実施の中心的役割を担う。具体的には、1) 国際会議、およびワークショップの開催や参加、2) 部局間協定締結(MOU)に向けた具体的な交渉、3) 国際学術雑誌への投稿・出版等を支援あるいは実行する。</p>			
2020 年度の分野活動報告			
<p>ベルリン自由大学との連携で、2020 Berlin Science Week における科学セッション「Learning from disasters for a resilient society: Experiences from the Great East Japan earthquake and tsunami and COVID-19 pandemic」を共催し、ULCA と連携して ArcDR3 (災害リスク軽減とレジリエンスのための建築と都市デザインイニシアチブ) のオンラインフォーラムを開催した。エジプトの Ain Shams University の医学部間協定を締結し、AIWEST-DR2019 の会議議事録を出版した。並行して、所内研究者と連携して University College London (UCL)、University of Washington (UW)、Syiah Kuala University 等とは共同研究を行い、国際論文を出版した。また、将来的な協働や知のフォーラム、AIWEST2021 の国際会議等を立案・企画した。国連大学・環境と人間の安全保障研究所(ドイツ・ボン)では協定企画を展開した。さらに、本所アーカイブ分野と協力し、国際津波博物館(ハワイの太平洋津波博物館、岩手伝承館と災害研との連携体制構築、アチェ津波博物館)の国際ウェブミナーを行い、ハーバード災害デジタルアーカイブとの共同研究を行なった。APRU オンラインのサマースクール、キャンパス安全プログラムなど、多岐にわたる国際活動には積極的にプレゼンスを高めた。今後も国際誌投稿論文や出版物の発刊数を戦略的に増やすことを目的として特集号・会議議事録などの企画も立案していく。</p>			

## 2020 年度の部門活動報告

部門名	地震津波リスク評価(東京海上日動) 寄附研究部門	報告者氏名	今村 文彦・山下 啓・内田 典子
部門目標			
東日本大震災の被害実態を考慮した地震・津波災害のリスク評価や実用的な防災・減災システムの検討、さらに防災教育・啓発などの社会課題の解決に向けた取組など、リスクを軽減するための総合的な活動を産学連携で推進し、同分野の研究開発や人材育成を強化するとともに、研究成果や得られた情報を広く社会に提供して、社会の防災・減災に資することを目標とする。			
2020 年度の部門活動報告			
<p><b>地震津波等のリスク評価研究:</b> 津波統合モデル解析に関する研究では、要素モデルの高度化および機能拡張を行い、津波・土砂移動・船舶・オイルタンク漂流の連成解析を実現した。さらに、国内外の研究機関と連携しながら、2018 年スラウェシ島津波及びスダダ海峡津波について、地震の揺れ、液状化、津波の周期による建物被害特徴を明らかにした。また、東北地方において地球温暖化の海面上昇による津波ハザード評価と産業連関表を使った直接被害・間接被害評価を行った。国家プロジェクト SIP では、リアルタイム高潮高波浸水予測システムのプロトタイプを構築する他、川崎市水害対応訓練においてシステム実証実験を行なった。産業を対象とした津波リスク定量評価手法の高度化として、東日本大震災での建物被害データを基にした建築年代を考慮した津波被害関数を構築するとともに、併せて地震動を考慮した津波被害関数を提案した。<b>Eco-DRR 研究:</b> 津波による攪乱を受けた仙台湾岸(蒲生～北釜)における生物多様性回復(レジリエンス)機能に着目する研究を新たに開始した。環境 DNA 技術を用いて多様な沿岸生態系の生物多様性を測定するため、文献調査および予備実験を実施した。また先駆的に研究を実施している他大学との連携を図り、合同ゼミおよび合同調査を企画・実施した。<b>防災教育活動:</b> 静岡県教育委員会と連携し、減災意識啓発の出前授業を実施した。コロナ禍での教育ツールとして、オンデマンド教材を作成した。中部科学技術センターとの防災・減災 WS を静岡県地震防災センターで開催した。<b>情報発信活動:</b> 国内外の学会やメディア、防災推進国民大会・仙台防災未来フォーラム 2021 におけるブース展示を通じて、産学連携による当部門の研究・防災教育等の知見や活動を広く社会に発信した。</p>			

部門名	都市直下地震災害(応用地質) 寄附研究部門	報告者氏名	遠田 晋次
部門目標			
都市部直下の内陸大地震について、地形地質学・地震学・地震工学的見地から、具体的かつ実践的減災案を提示する。そのために、熊本地震など過去の内陸大地震から断層近傍の建物被害の要因を抽出し、より現実的な震源断層モデルの設定、強震動計算手法の開発を行い、被害予測の高度化を目指す。			
2020 年度の部門活動報告			
<p>断層近傍の建物被害の要因を探るため、2016 年熊本地震の関連文献を収集・レビューし、活断層分布、地表地震断層分布、地質分布、構造物被害分布等を GIS 上でコンパイルした。その結果、被害率の大きい地域はおおむね地表地震断層近傍に集中するだけでなく、断層端部や断層不連続部などの形状が複雑化する地点において、被害が集中する傾向が見られるなど、新たな知見が得られた。成果については 2020 年日本活断層学会秋季大会にてポスター発表し、吉見助手が若手優秀講演賞を受賞した。</p> <p>断層モデル・強震動予測手法の開発においても、本年度は熊本地震を例に検討を行った。その結果、断層ごく近傍における永久変位をとまなう長周期の強震動には、従来の手法で重視されてこなかった地震発生層以浅での破壊が大きく関係していることが明らかになった。浅部で想定されるすべりの不均質性のみならず、断層の詳細な形状や構造を適切に断層モデルに反映し、地震発生層と地表面の間で発生する強震動を考慮することにより予測精度の向上が見込まれる。特に、断層浅部のモデル化については、地表地震断層や活断層等の地質・地形情報が有用であることがわかった。成果については、2020 年度日本地震学会秋季大会で発表を行った。</p> <p>最終年度(2022 年度)での仙台市での具体的な地震動予測図作成のため、その震源となる長町一利府線断層帯の分布について再検討を行った。人工改変前の旧地形データを用いて変動地形解析を行うとともに、現地調査も実施し、断層帯南部を中心に断層位置を修正した。</p>			

## 4 研究活動

### (2) プロジェクトエリア・ユニットの研究活動

## 2020 年度のプロジェクトエリア報告

エ リ ア 名	【場】災害の発生メカニズム解明・予測プロジェクトエリア
エ リ ア 長	木戸 元之
<p><b>【研究の概要】</b></p> <p>調査・観測に基づくモデルに立脚した地震・津波などの自然災害の発生要因究明およびハザード評価を行い、その成果を利用してリスク予測から減災までの手法・取組を提案する。本年度は地震発生メカニズムにつながる基礎観測研究から、内陸地震の調査・強振動予測、さらに台風・豪雨災害の調査等、幅広い自然災害について研究を実施し、それぞれ、学術雑誌への掲載、学会発表、自治体への情報提供・協同、成果報告会開催という形で、成果を還元した。</p>	

## 2020 年度のユニット報告

ユ ニ ッ ト 名	ハザード評価ユニット
ユ ニ ッ ト 長	木戸 元之
<p><b>研究組織</b></p> <p>主:木戸 元之、遠田 晋次、福島 洋、川田 佳史、石澤 堯史、吉見 瑤子、乗松 君衣、高橋 尚志 副:千田 浩一、寺田 賢二郎、越村 俊一、蝦名 裕一</p>	
<p><b>【研究の概要・具体的な成果・波及効果など】</b></p> <p>熊本県および岩手県での調査から、それぞれの古地震・古津波履歴を復元した。地震により形成された亀裂の充填物を用いた年代推定法を新たに提案し、その結果を用いて熊本県北甘木断層での古地震発生時期を制約した。また CT 画像の解析に基づく効率的かつ高精度な年代測定手法についても開発した。関東山地および三陸海岸において段丘堆積物の現地調査や数値解析を実施し、得られた地形データや地質試料から、これらの地域の段丘面が長期的な地殻変動量の評価に適しているかどうかを検討した。さらに、荒川上流域における河成段丘発達と支流閉塞について論じた論文を <b>Geomorphology</b> 誌にて公表した。</p> <p>熊本地震に関する文献の精査により、被害が集中する地域と地表断層や地質分布との関係について新たな知見を得た。さらに、熊本地震を例に、より詳細な断層構造や地質・地形分布を反映させられる強振動予測手法を開発し、それらと強振動との関係を明らかにした。仙台市での地形データ・現地調査から、地震動予測のための詳細な断層位置を推定した。これらの成果を学会で発表した。</p> <p>北海道大学と共同で観測の空白域であった北海道千島海溝での海底地殻変動観測を実施し、地震時の津波発生規模を予測するためのプレート間固着状態に関する基礎データを得た。</p> <p>南海トラフ地震臨時情報発表時の社会対応方法の研究プロジェクトでは、モデル地域として取り上げている高知市と協力し、行政・商工会議所からのニーズの把握に努め、報告会を開催し、今年度までの成果を共有した。</p>	

ユ ニ ッ ト 名	被害予測と軽減ユニット
ユ ニ ッ ト 長	今村 文彦
研究組織	
主:今村 文彦、菅原 大助、サッパシー アナワット、佐藤 翔輔、保田 真理 副:越村 俊一、森口 周二、蝦名 裕一、門廻 充侍	
<p><b>【研究の概要・具体的な成果・波及効果など】</b></p> <p>まず、2019年10月に発生した令和元年東日本台風について、関連3学会との合同調査団の体制の下で分析を進め、11月に一般公開型のオンライン報告会を実施した。また、合同調査団の成果を報告書としてとりまとめた。また、令和2年7月豪雨による山形県の被害について、現地調査を実施するとともに報告会を実施した。さらに、2021年2月13日に発生した福島県沖地震について現地調査を行った。加えて、令和2年7月豪雨、2021年2月に発生した福島県沖地震において、浸水範囲や推定震度と指定文化財の位置情報を重ね合わせた文化遺産マップを作成し、被災自治体の資料保全ネットや自治体関係者と情報を共有し、迅速な文化遺産レスキュー体制の構築を促した。これまでの災害調査結果から作成した大雨による被害動画を使った防災教育を実施し、児童の防災意識変化を調査し、児童の意識変化と家庭への波及に関する論文を自然災害学会に投稿した。</p> <p>東日本大震災に関して、宮城県警提供の犠牲者情報の遺体発見場所に基づいた分析結果から、石巻市平野部において、沿岸部の工業地域・港町よりも、やや内陸に位置する住宅地で、浸水深に対する溺死者率が高い傾向が確認された。宮城県庁と本研究所が共同で実施した「復興10年総括検証」の背景・経過・成果について、世界災害語り継ぎネットワーク主催のイベントにて、報告を行い、未来の被害軽減に向けた取組み・知見を広く社会に共有した。</p> <p>いままでの活動により震災だけでなく風水害・土砂災害での被害実態を把握し予測技術に貢献し、その結果を地自体での対応や防災教育に貢献できたと考える。今後は、複合化しさらに連鎖する災害に対して知見を高め、軽減していく取組が必要である。</p>	

## 2020 年度のプロジェクトエリア報告

エ リ ア 名	【情報】自然災害アーカイブシステムの構築・運用プロジェクトエリア
エ リ ア 長	佐藤 健
<p><b>【研究の概要】</b></p> <p>情報エリアは、アーカイブ、災害統計、防災教育・人材育成の 3 ユニットで構成されており、各ユニットのミッションに応じたアクティブな活動を展開していると同時に、多くのメンバーがエリア内の他ユニットの副メンバーとなっているため、ユニット間連携が推進しやすい状況となっている。さらなる学際研究を展開するために、情報基盤としての自然災害アーカイブシステムの構築に加えて、その効果的な利活用のモデルについてエリア全体で検討している。</p>	

## 2020 年度のユニット報告

ユ ニ ッ ト 名	アーカイブユニット
ユ ニ ッ ト 長	今村 文彦
<p>研究組織</p> <p>主:今村 文彦、佐藤 大介、柴山 明寛、蝦名 裕一、ボレー セバスチャン、ゲルスタ ユリア、保田 真理 副:伊藤 潔、佐藤 翔輔、マリ エリザベス、定池 祐季</p>	
<p><b>【研究の概要・具体的な成果・波及効果など】</b></p> <p>本ユニットでは、震災・歴史資料アーカイブ構築と国際化に向けて、①自然災害全般の資料の収集・整理・保存・公開の実施、②国内外の関係機関と連携の実施、③その他関連事項の実施、などを行った。</p> <p>①として、江戸時代後期、仙台藩領の商家の当主の日記「丸吉皆川家日誌」の、慶応3年(1867)9月～明治5年(1872)、9万字以上を解読し、東北大学リポジトリで公開した。ダウンロードは約 80 回。</p> <p>②として、岩手県東日本大震災津波伝承館(館長:達増知事)との連携協定を 2020 年 11 月 9 日に締結した。2020 年 12 月には、ハワイ及びアチェ、岩手県の津波伝承館などで三陸津波ウェビナーを実施し、岩手県の YouTube で公開されている。国際連携として、ハワイ太平洋津波博物館と災害研での東日本大震災 10 周年の企画展示を継続的に企画中である。2022 年度中に企画展が実施される予定。</p> <p>③として、新型コロナウイルス下の社会状況の記録・史料集に関するオンラインでの協議会を北海道大学北方教育研究センターとの共催で 2 回実施、合計 60 名ほどの参加者を国内外から得た。2021 年 1 月 11 日東日本大震災アーカイブシンポジウムをオンラインで実施し、約 170 名の参加があった。疫病に関する史料・石碑・信仰の事例を収集して分析する「疫病退散プロジェクト」を実施し、2 月 11 日にシンポジウム「歴史が導く災害科学の新展開Ⅳ－先人の疫病文化に学ぶ」を開催し、報告書を刊行した。2 月 13 日に発生した地震に対する史料レスキューを関係機関との連絡などで実施した。2 月 20・21 日に開催された全国史料ネット集会で分科会「災害支援としての歴史資料保全」を主催し、参加者は 60 名ほどであった。3 月 6 日に俳優竹下景子さんをお招きして語り部シンポジウム「かたりつぎ」 in 多賀城を実施し、約 400 人の来場者があった。</p>	

ユニット名	災害統計ユニット
ユニット長	小野 裕一
研究組織	
主:小野 裕一、奥村 誠、佐々木 大輔 副:丸谷 浩明、江川 新一、サッパシー アナワット	
【研究の概要・具体的な成果・波及効果など】	
<p>2020 年度は、前年度に引き続き、国連開発計画 (UNDP)、富士通株式会社、パシフィックコンサルタンツ株式会社等と共同し、災害統計の整備に係る能力強化や災害統計分析のためのグローバルプラットフォームの開発、仙台防災枠組の推進に関する独立した科学的分析の実施等に向けて取組を加速させた。また、巨大災害に備える社会づくりに貢献することを目的に、アジアの開発途上国 (インドネシア、スリランカ、ネパールなど) を中心に、災害被害に関する情報を収集、アーカイブ化して構築した災害統計グローバルデータベース (GDB) の一般公開 (研究所のウェブサイトへの掲載) を正式に開始する等、国連防災機関 (UNDRR) から承認を受けた “Sendai Framework Voluntary Commitments (SFVC)” (仙台防災枠組の自発的取り組み) を積極的に推進した。組織構成員が災害統計に関する研究を円滑に推進できるよう、研究プラットフォームとしての機能も重視しており、災害統計に関する様々な学際研究の成果を取りまとめた Journal of Disaster Research (JDR) (Web of Science Core Collection 及び Scopus にも掲載されている英文オープンアクセスジャーナル) 特集号 Vol.15 No.7 (Mini Special Issue on the Development of Disaster Statistics Part 3) を公刊した (ゲストエディター: 小野・佐々木・サッパシー)。以上のように、当ユニットでは、国内外の共同研究機関等と連携を密に取りながら、災害統計の発展、仙台防災枠組の実施への貢献、そして Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標、SDGs) の達成に向けて、着実に研究活動等を進めている。</p>	

ユニット名	防災教育・人材育成ユニット
ユニット長	佐藤 健
研究組織 (組織構成員の氏名・正副メンバー全員)	
主: 佐藤 健、邑本 俊亮、杉浦 元亮、定池 祐季 副: 佐藤 大介、柴山 明寛、蝦名 裕一、佐藤 翔輔、三木 康宏、稲葉 洋平	
【研究の概要・具体的な成果・波及効果など】	
<p>アーカイブ (歴史資料・デジタル) を活用した復興教育 / 防災教育モデルの普及と高度化に向けて、石巻市教育委員会との連携による石巻市内のモデル校を中心とした実践的研究を継続した。福島県教育委員会が推進する放射線教育・防災教育の支援を継続し、令和 2 年度「地域と共に創る放射線・防災教育推進事業」に協力した。北海道胆振東部地震被災地の厚真町で心のケアと防災教育に関する支援を継続しているほか、災害研の共同研究助成の成果として『「防災教育」と「心のケア」のセットで支える子どもサポート・ハンドブック』を発行した。</p> <p>また、東日本大震災の被災者を対象とした調査から開発した「災害生きる力」8 因子 (Sugiura et al., 2015) について、基礎認知科学研究と質問紙の災害教育応用が進んでいる。本年度は、査読付き論文が国内誌に 2 報採択されたほか編集本の章を 3 編執筆、学会報告も国際 3 件・国内 3 件行った。また学術論文 3 報が国際誌で査読中、2 報が投稿準備中である。</p> <p>さらに、震災を学んだ大学生がそれを自分たちのアイディアで次世代に伝える研究は「ひらめき☆ときめきサイエンス」に採択され、コロナ禍でも実施可能な形にアレンジした授業を、県内の小中学生 27 名を招いて東北大学で開催した。当該の取り組みの紹介や実施された授業内容を、編集本の章として 2 件執筆した。</p> <p>加えて、主に防災主任をはじめとした学校教員向けの「未来へつなぐ学校と地域の安全フォーラム」などのオンライン配信の企画運営を行い、防災人材育成にも貢献した。</p>	



## 2020 年度のプロジェクトエリア報告

エ リ ア 名	【組織】被災地支援・受援を効率化する組織と技術プロジェクトエリア
エ リ ア 長	越村 俊一
<p><b>【研究の概要】</b></p> <p>被災地支援・受援を効率化する組織と技術の研究について、継続的に取り組んだ。災害空間情報解析ユニットは、リアルタイムシミュレーションによる被害予測の高度化、機械学習を導入したリモートセンシングの高度化に取り組み、災害対応支援のための情報獲得、処理技術の高度化を進めた。減災・復興支援技術ユニットは、南海トラフ地震津波や台風水害を対象に、COVID-19 等の感染症の影響を含めて、不確実かつ時々刻々変化する状況下の資源、人員の活用を支援する「モデリング、計算、デザインの技術」の研究を進めた。</p>	

## 2020 年度のユニット報告

ユ ニ ッ ト 名	減災・復興支援技術ユニット
ユ ニ ッ ト 長	奥村 誠
<p>研究組織</p> <p>主:奥村 誠、水谷 大二郎</p> <p>副:杉浦 元亮、井内 加奈子、平野 勝也</p>	
<p><b>【研究の概要・具体的な成果・波及効果など】</b></p> <p>災害対応・復旧・減災地域づくりにおける様々な意思決定において、限られた情報、錯綜し相矛盾する情報しか入手できない中での決定を支援する「モデリング、計算、デザインの技術」の研究を行っている。</p> <p>(1) 東日本大震災から 10 年を迎え、災害対応、復興政策の客観的、定量的評価が求められるようになった。災害時の組織の意思決定・行動の文献調査、統計解析の結果を報告論文および査読付き論文として発表した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・奥村誠・水谷大二郎: NMF による自然災害被害統計の構造分析, 2020.11.15(オンライン), 土木計画学研究・講演集(CD-ROM), Vol.62, No.16-05, 7 pages.</li> <li>・奥村誠: 東日本大震災からの復興 10 年の成果と課題, 商工ジャーナル, 47(3), pp.14-17, 2021.3.</li> <li>・西脇 千瀬, 奥村誠: 宮城県におけるチリ地震津波後の恒久対策の策定背景, 2021.4, 土木学会論文集 D3,76(5), pp. I_523-I_529. DOI: 10.2208/jscejipm.76.5_I_523</li> </ul> <p>(2) 従来の安全性の高い少数の避難所に避難者を集める方法は感染症拡大リスクの点で問題があり、分散避難の実現と必要な物資等の供給を行うための研究課題を国内学会の特別セッションにて提起し学外の研究者とともに議論した。また所内の新型コロナ対応特別研究費を得て、他ユニットとの共同研究を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・奥村誠: SPRINT 手法を用いた COVID-19 下の人道支援の研究課題の検討, 2020.9.17(オンライン), スケジューリングシンポジウム 2020 講演概要集 PDF, 4 pages.</li> </ul> <p>(3) 従来から蓄積してきたインフラマネジメント研究において、災害が構造物の劣化に与える影響の考慮を進めてきた。その研究成果を国際会議で口頭発表し、2 編の査読付き論文として発表した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Daijiro Mizutani: Optimal intervention policy of bridges considering earthquake occurrence probability increasing over time, The 7th International Symposium on Life-Cycle Civil Engineering (IALCCE 2020), Shanghai, China, 2020.10</li> <li>・Guru Prakash, Xian-Xun Yuan, Budhaditya Hazra and Daijiro Mizutani: Toward a big data based approach: A review on degradation models for prognosis of critical infrastructure, Journal of Nondestructive Evaluation, Diagnostics and Prognostics of Engineering Systems (JNDE), ASME, Vol.4, Issue 2, 021005, 2020.11,</li> <li>・水谷大二郎: アセットマネジメント研究の最先端: 統計的劣化予測と維持管理施策最適化、土木学会論文集 D3, 76(5), L_1-L_19, 2021.4</li> </ul> <p>また、3 つの科学研究費による他機関研究者との共同研究を進め、所期の成果を得た。</p>	

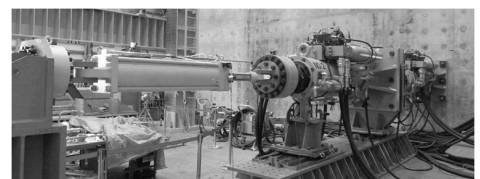
ユニット名	災害空間情報解析ユニット
ユニット長	越村 俊一
研究組織(組織構成員の氏名・正副メンバー全員)	
主:越村 俊一、有働 恵子、マス エリック、橋本 雅和	
副:奥村 誠、富田 博秋、木戸 元之	
<p><b>【研究の概要・具体的な成果・波及効果など】</b></p> <p>概要:社会の災害に対する回復力(レジリエンス)の向上に資するため、最新の測位・観測技術によるモニタリングと、被害の全容を迅速に予測・把握するためのシミュレーション・リモートセンシング技術を融合する新しい「リアルタイム災害科学」の創成に向けた活動を開始した。</p> <p>(1) 本学理学研究科、サイバーサイエンスセンター、大阪大学等との連携および産学連携研究により、リアルタイム津波浸水・被害予測技術を高度化した。リアルタイム予測システムは、現在我が国太平洋岸全体を予測領域とした <b>Nation-wide</b> の予測システムに成長した。</p> <p>(2) リモートセンシングによる広域被害把握を目的とした、機械学習による画像解析手法の高度化と、その有効性を実証した。<b>Remote Sensing</b> 分野の上位 1-3 位の国際誌に論文が 6 編掲載されるなど、卓越した研究成果の発信を継続している。</p> <p>(3) 気候変動に伴う流域土砂環境の予測と適応策に関する研究を推進した。世界的に見ても研究例が少ない砂浜消失への適応策に関連し、日本、タイ、エジプト各国の事例について 5 編の論文が国際ジャーナル誌に掲載されるなど、卓越した成果を得ることができた。</p>	

## 2020 年度のプロジェクトエリア報告

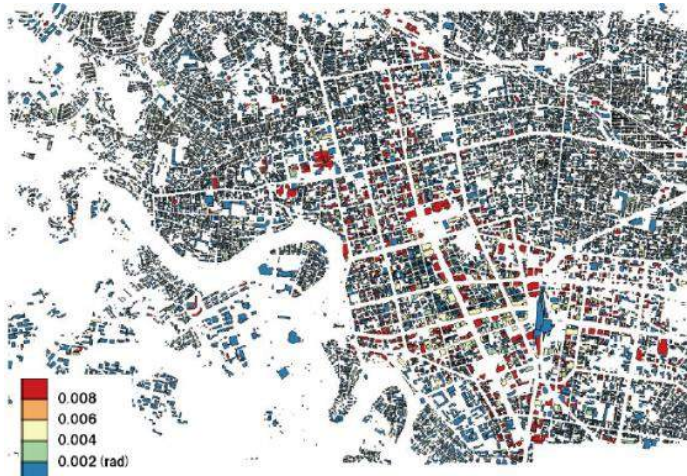
エ リ ア 名	【もの】構造制御技術と多重防御技術による地域・都市レジリエンスの向上プロジェクトエリア
エ リ ア 長	寺田 賢二郎
<p><b>【研究の概要】</b></p> <p>地震観測網の活用によるマイクロゾーニング・地震動・地震応答評価技術を基にした次世代早期地震警報システムと長周期構造物を対象とした構造制御・非線形構造物実験技術の高度な融合により都市・建築の高耐震化を実現し、人的・物的被害を軽減する技術を提案・開発する。また、多重防御機能を備えた社会基盤設計のツールとして、数値シミュレーション援用のための情報基盤プラットフォーム(X-GIS)の開発を行うとともに、これを利用した確率論的リスク評価技術および防災教育・防災意識の向上・総合減災における意志決定に資する災害情報の見える化技術を提案する。</p>	

## 2020 年度のユニット報告

ユ ニ ッ ト 名	人的・物的被害軽減ユニット
ユ ニ ッ ト 長	五十子 幸樹
<p>研究組織(組織構成員の氏名・正副メンバー全員)</p> <p>主:五十子 幸樹、大野 晋、榎田 竜太、郭 佳</p> <p>副:丸谷 浩明、村尾 修、佐藤 健</p>	
<p><b>【研究の概要・具体的な成果・波及効果など】</b></p> <p>1. 研究概要</p> <p>地震観測網の活用による地震動評価・地震応答評価技術を基にした次世代早期地震警報システムと、革新的な構造制御技術及び非線形構造物を対象としたハイブリッド実験技術の高度な融合による地震災害時における人的被害と社会資本の財産的価値毀損を最小化する技術を提案・開発する。</p> <p>2. 研究成果</p> <p>深層学習による地震動評価・早期地震警報、地震被害を受けた構造物の物理量推定手法を開発した他、非線形構造物を対象とした動的サブストラクチャ振動台実験の合理的制御器設計法を構築した。</p> <p>また、長周期構造物において懸念されている地震時の過大応答変位の低減に有効な複素減衰について、因果的近似モデルである分数階微積分モデルを実現する物理モデルを提案した。今年度の研究成果は国際共著論文(審査付き)として国際 Journal に 6 編発表した。</p> <p>3. 波及効果など</p> <p>モンゴルでは構造ヘルスマニタリング機能を持つ早期地震警報システムを展開している。また当研究ユニットで開発している被害軽減技術(免震用ダンパー)について準大手建設会社が耐震改修への採用を検討しており、共同研究契約を締結して研究を進め 6 件の特許申請を準備している。</p>	



ユ ニ ッ ト 名	レジリエント社会基盤ユニット
ユ ニ ッ ト 長	寺田賢二郎・教授
研究組織(組織構成員の氏名・正副メンバー全員)	
主:寺田 賢二郎、森口 周二、山口 裕矢	
副:村尾 修、有働 恵子、大野 晋、マス エリック、杉安 和也(リーディング大学院・卓越大学院)	
<p><b>【研究の概要・具体的な成果・波及効果など】</b></p> <p>1. X-GIS(災害シミュレーション機能を実装した災害情報基盤プラットフォーム)の機能強化</p> <p>これまで引き続き開発を進めてきた X-GIS についてプレスリリースを行い、仙台市の一部地域を対象として、強震動データの作成、地震動による建物被害シミュレーションの入力データ作成、シミュレーションの実行、結果表示までの一連のプロセスが可能なプロトタイプを構築した。右の図はその結果結果であり、シミュレーション結果を GIS 上で可視化したものである。</p> <p>2. 数値シミュレーション援用による確率論的リスク評価技術の適用</p> <p>地震動と津波の数値解析結果から抽出される空間モードを利用したリアルタイムおよび確率論的リスク評価に取り組んだ。入力パラメータを変化させた複数のシナリオに対して数値解析を実施し、固有直交分解により数値解析結果を特徴量の係数と固有ベクトルの線形結合から成る代理モデルで表現することで、リアルタイム被害予測やモンテカルロ法による確率論的リスク評価を可能とする枠組みを高度化した。また、津波の観測データを用いた逐次精度更新型のリアルタイム被害予測に関する研究にも取り組んだ。</p>	

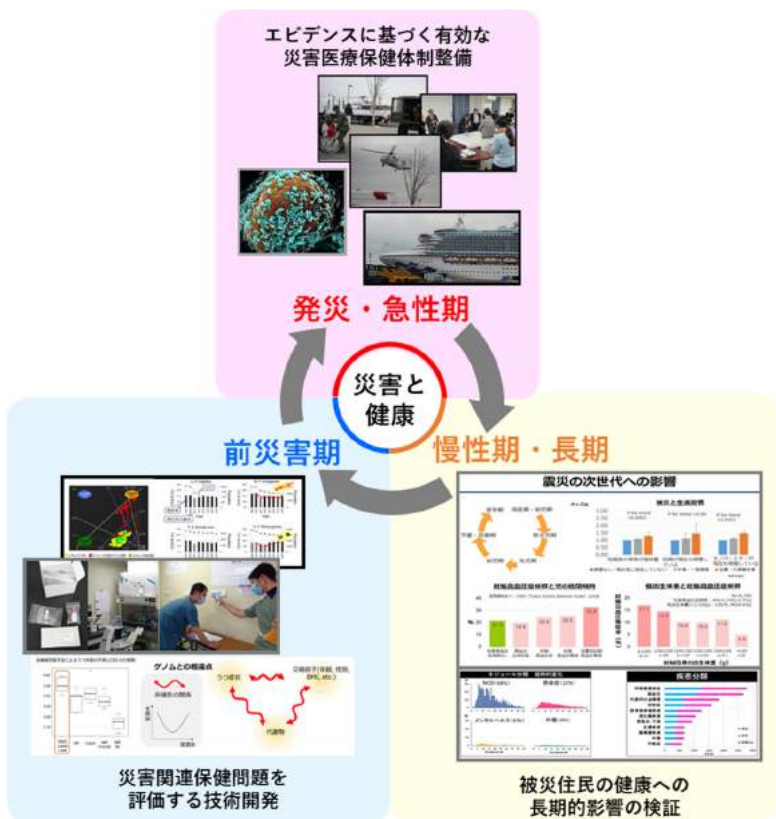


## 2020 年度のプロジェクトエリア報告

エ リ ア 名	【健康】広域・複合災害・マルチハザード対応型災害医学・医療の確立プロジェクトエリア
エ リ ア 長	児玉 栄一
<p>【研究の概要】</p> <p>本エリアでは、エビデンスに基づく有効な災害医療保健対応の体制整備のための知見集積、技術開発、学理構築を目的とし、(1)地震、津波、感染症などによる大災害が被災者に与える長期的な精神・身体的健康被害の検証研究、(2)災害医療保険対策の科学的検証研究、(3)災害に関連する健康問題の客観的評価や改善のための技術開発研究の 3 つのアプローチからなる基盤研究を行った。</p>	

## 2020 年度のプロジェクトエリア報告

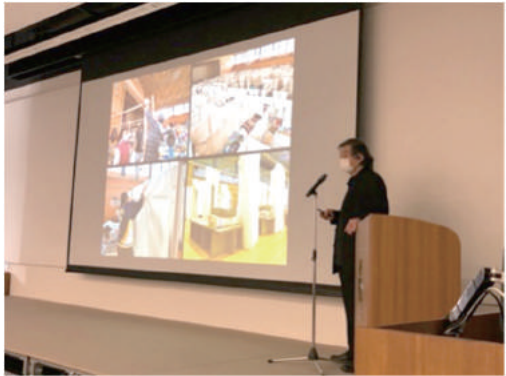
ユ ニ ッ ト 名	災害と健康ユニット
ユ ニ ッ ト 長	児玉 栄一
<p>研究組織(組織構成員の氏名・正副メンバー全員)</p> <p>主:伊藤 潔、江川 新一、栗山 進一、児玉 栄一、千田 浩一、富田 博秋、中山 雅晴、細井 義夫、小坂 健、國井 泰人、藤井 進、佐々木 宏之、鈴木 敏彦、鈴木 正敏、三木 康宏、齋藤 昌利、稲葉 洋平、兪 志前、林 宏典、臼倉 瞳 副:今村 文彦、小野 裕一、越村 俊一、佐藤 健、杉浦 元亮、寺田賢二郎、丸谷 浩明、村尾 修、邑本 俊亮、佐藤 翔輔、ボレー セバスチャン</p>	
<p>【研究の概要】上記の通り。</p> <p>【具体的な成果】東日本大震災の曝露と体重増加に関連する遺伝子 <i>ANKRD44</i> 及び不眠に関連する遺伝子 <i>LOC101927123</i> を同定した。米国国立衛生研究所 (NIH) などの支援を受け Iwanuma プロジェクトによる解析を実施し、長期的な健康への影響について報告した。七ヶ浜町と共同で第 10 次被災者健康調査を実施した。南三陸町の匿名化診療記録 10,464 件に基づく睡眠障害の疫学解析、東日本大震災後の災害医学進化、災害保健医療人材育成の国際共同研究を論文化した。津波避難について仮想現実技術を用いた実験とデータ集積を行った。放射線被曝についての論文を発表した。新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) 下における研究者の研究環境とモチベーションへの影響について全国調査を行い論文化した。COVID-19 によるパンデミックの早期終結に向けた治療薬開発を行い国際誌に発表した。パンデミック予備軍となるウイルスに対する創薬研究を推し進めた。「災害と健康」学際研究推進セミナーを 4 回開催した。【波及効果】大災害後に被災者に生じる長期的な精神的・身体的健康被害に関する 10 年間の知見が蓄積した。災害医学に資する人材育成の基盤構築につながった。エジプトの Ain Shams University の医学部の者間協定を締結した。第 25 回日本生殖内分泌学会を主催し、全国の生殖内分泌関連の研究者に災害研究を含めた学際間での交流を行った。新規 COVID-19 治療薬の開発が加速した。</p>	



## 2020 年度のプロジェクトエリア報告

エ リ ア 名	【総合減災】総合的減災システムのデザインと社会実装プロジェクトエリア
エ リ ア 長	丸谷 浩明
<p><b>【研究の概要】</b></p> <p>エリア会合を毎月定例で開催し、減災や復興のあり方やその社会実装について議論し、メンバーの研究内容の発表と意見交換を継続している。2020 年 11 月 30 日には WEB 会議方式により、研究所主催(当エリア事務局)の「第 5 回実践的防災学シンポジウム 災害研の減災デザイン・実装の成果と活動の展望」を開催し、外部有識者のコメントを含め、エリアの活動と今後の展開を議論した。また、当エリアホームページも引き続き運営している。</p>	

## 2020 年度のユニット報告

ユ ニ ッ ト 名	減災・復興デザインユニット
ユ ニ ッ ト 長	村尾 修
<p>研究組織(組織構成員の氏名・正副メンバー全員)</p> <p>主:岩田 司、村尾 修、井内 加奈子、泉 貴子、平野 勝也、マリ エリザベス</p> <p>副:寺田 賢二郎、増田 聡、杉安 和也</p>	
<p><b>【研究の概要・具体的な成果・波及効果など】</b></p> <p>本ユニットは、国内外の地域と都市を対象とし、被害抑止策と防災・復興計画に関する研究を進めるとともに、実践的防災学の体系化を踏まえ、災害対応の各段階に応じた様々な要素技術を有機的に連携させた総合的減災システムの提案を行うことを担っている。</p> <p>2020 年度は、2011 年東日本大震災の復興調査をはじめとした、都市の脆弱性と避難に関する共同研究を行った。さらに国内外において、防災研修や防災支援活動を実施した。</p> <p>また、災害対応空間の設営・運営に関する課題を整理し、改善していくことを目的として、「災害対応空間の設営・運営に関する研究会」を立ち上げ、2020 年 12 月より定期的に研究会を開催した。避難所運営、災害医療、防災教育、防災法制度、応急仮設住宅の計画、復興事業などについて、各分野の専門家らと課題を整理し、被災者のための災害後の住環境、仮設住宅から恒久住宅への移行、避難所空間の仕様とレイアウト、避難所の円滑な運営システム、模範とされるイタリアの災害対応システム、防災研修を通じた知識と経験の共有などについて議論を行った。</p>	
<div style="display: flex; align-items: center;">  <div style="margin-left: 20px;"> <p>第 1 回災害対応空間の設営・運営に関する研究会 2020 年 12 月 16 日開催</p> </div> </div>	

ユニット名	減災社会実装ユニット
ユニット長	丸谷 浩明
研究組織(組織構成員の氏名・正副メンバー全員)	
主:丸谷 浩明、フルコ フラヴィア	
副:岩田 司、佐藤 健、五十子 幸樹、島田 明夫、佐々木 宏之、マリ エリザベス	
<p><b>【研究の概要・具体的な成果・波及効果など】</b></p> <p>当プロジェクトユニット(PU)は、国内外の社会に対する総合的な減災及び復興システムを研究し、実装を図る役割を担っている。活動計画の「研究内容の横断的な把握、総合的な減災システムの社会実装方策の共同検討」を、エリアのメンバーで議論を進めている。</p> <p>エリアで記述した第5回実践的防災学シンポジウムは、本ユニットが中心に企画・運営し、副担当の教員の3名(佐藤、五十子、佐々木)が、社会実装研究の取組状況を、各領域を代表して発表した。</p> <p>個別研究では、「新型コロナウイルス感染症に対応する企業・組織の事業継続計画(BCP)の改善に関する研究」を研究所の助成も受けて実施し、宮城県内の企業へのアンケート結果を公表した。また、各大学の同感染症のクラスター発生時の対応について情報収集を行った。また、大学の感染症蔓延下の防災訓練のあり方の指導も行った(写真)。仙台市の感染症向けのBCPに関する社会福祉施設向けセミナーなどの様々な講師も務めた。所内の感染症対応の実務も担った。</p> <p>また、フルコは、新型コロナウイルス感染症の影響の研究をイタリアでの現地調査を中心にを行った。また、東日本大震災の被災地の語り部の研究を継続し、神戸大学の学生のために語り部についてワークショップを開催し、また、ワシントン大学公衆衛生学部との連携を継続し、国内研究会でイタリアの Department of Civil Protection について発表した。</p>	



避難訓練での感染防止

## 4 研究活動

### (3) 共同研究プロジェクトの研究活動



## 共同研究プロジェクト

### 概要

災害科学国際研究所は発足以降、災害科学関連の研究領域において多様な共同研究を実施し、実践的防災学の発展につながる数多くの実績を挙げてきた。同時に、本邦の学際的な災害科学研究を推進する中核拠点となり得る施設、研究機器、情報構築、人的体制、ネットワークの整備を行ってきた。また、本研究所の使命は、東日本大震災における調査研究、復興事業への取り組みから得られる知見や、世界をフィールドとした自然災害科学研究の成果を社会に組み込み、複雑化する災害サイクルに対して人間・社会が賢く対応し、苦難を乗り越え、教訓を活かしていく社会システムを構築するための「実践的防災学」の体系化とその学術的価値の創成である。本邦の災害科学発展にさらなる貢献ができるよう、全国関連領域の研究者に本研究所のリソースを活用した共同研究を行って頂くことを促進するために、助成を行っている。

なお、毎年 7 月に「共同研究プロジェクト成果報告会」を実施し、各研究の前年度 1 年間の成果や今後の課題等について発表する機会を設けている。

### 採択課題件数(過去 5 年)

#### 2020 年度

- ・災害アーカイブ学:6 件 ・津波減災学:6 件 ・災害医学・医療:7 件
- ・防災人材育成学 11 件 ・災害科学の発展に寄与するその他の研究:4 件

#### 2019 年度

- ・災害アーカイブ学:7 件 ・津波減災学:6 件 ・災害医学・医療:5 件
- ・防災人材育成学 7 件 ・災害科学の発展に寄与するその他の研究:7 件

#### 2018 年度(平成 30 年度)

- ・災害アーカイブ学:10 件 ・津波減災学:4 件 ・災害医学・医療:4 件
- ・防災人材育成学 8 件 ・災害科学の発展に寄与するその他の研究:7 件

#### 2017 年度(平成 29 年度)

##### 一期

- ・災害アーカイブ学:6 件 ・津波減災学:3 件 ・災害医学・医療:3 件
- ・防災人材育成学 6 件 ・災害科学の発展に寄与するその他の研究:4 件

##### 二期

- ・災害アーカイブ学:4 件 ・津波減災学:2 件 ・災害医学・医療:0 件
- ・防災人材育成学 3 件 ・災害科学の発展に寄与するその他の研究:3 件

#### 2016 年度(平成 28 年度)

- ・災害アーカイブ学:4 件 ・津波減災学:2 件 ・災害医学・医療:2 件
- ・防災人材育成・地域再創生学:2 件 ・災害科学の発展に寄与するその他の研究:3 件

## 2020 年度 共同研究助成 採択課題 一覧

研究課題名	研究代表者	所属機関
<b>①災害アーカイブ学</b>		
1. 利活用を踏まえた震災アーカイブの自立的運用モデルに関する研究(継続)	廣内 大助	信州大学学術研究院 教育学系
2. 自然災害伝承碑アーカイブの構築(継続)	上相 英之	国文学研究資料館 古典籍共同研究事業センター
3. 治水投資額と被害軽減効果の将来予測における新展開(新規)	石渡 幹夫	東京大学 新領域創成科学研究科
4. 災害アーカイブを活用した PRERADE (Preparedness for Better Response, Recovery and Reconstruction: Learning from Disaster Ethnography) の方法論の確立(新規)	田中 聡	常葉大学大学院 環境防災研究科
5. 大規模災害における生命をめぐる対応の事例収集および教訓の防災教育への活用の分析(新規)	田中 成行	岩手大学 教育学部
6. 災害アーカイブを用いた地域教育支援プラットフォームの検討(新規)	柊 和佑	中部大学 人文学部
<b>②津波減災学</b>		
1. 津波発生時の局所避難情報伝達手段の基礎研等(継続)	山崎 達也	新潟大学
2. 川崎臨海部における災害デジタルツインによる次世代防災システムの検討(継続)	大石 裕介	富士通研究所 人工知能研究所
3. 災害研の設備を活用した古津波の波源推定手法の高度化(新規)	後藤 和久	東京大学大学院 理学系研究科地球惑星科学専攻
4. 沿岸低地の微地形による津波挙動・土砂移動への影響の解明(新規)	高清水 康博	新潟大学 災害・復興科学研究所
5. 津波襲来時の住民避難プロセス解明と人的被害ゼロにむけた教訓の抽出(新規)	牧野嶋 文泰	富士通研究所 人工知能研究所
6. 津波統合モデルを用いたマルチシナリオハザード評価手法の確立(新規)	有川 太郎	中央大学 理工学部
<b>③災害医学・医療</b>		
1. 放射線災害で想定される慢性放射線被ばくストレスの定量(継続)	盛武 敬	産業医科大学産業生体科学研究所
2. 原子力災害によりサクラ樹皮に付着した含放射性セシウム粒子による被ばくりスク研究(継続)	杉浦 広幸	福島学院大学短期大学部 保育学科
3. 被災ニホンザルを用いた慢性複合放射線被ばく者外挿モデルの構築(新規)	三浦 富智	弘前大学 被ばく医療総合研究所
4. CBRNE 災害後の間接的健康被害測定指標に関する研究(新規)	越智 小枝	東京慈恵会医科大学 臨床検査医学講座
5. 経時活動記録のテキストマイニングによるリアルタイム災害対策予測法の確立(新規)	田代 雅実	福島県立医科大学 新医療系学部設備準備室

研究課題名	研究代表者	所属機関
6. 身体的弱者の避難生活でのリスク低減とQOL向上を目的とした産学共同研究(新規)	坪内 暁子	順天堂大学大学院 医学研究科研究基盤センター
7. COVID-19 感染のストレスにおける心的脆弱性の検出とその改善に関する研究(新規)	福田 雄	ノートルダム清心女子大学 文学部

#### ④防災人材育成学

1. 避難訓練の持続可能な評価・改善に向けた学校・行政・研究者による協働モデル構築(継続)	林田 由那	宮城教育大学
2. 学校区の災害リスク理解のための地図を活用した教員研修・評価モデルの開発(継続)	桜井 愛子	東洋英和女学院大学 国際社会学部
3. 震災復興に寄与する災害を生きる力因子とその原理の解明(継続)	本多 明生	静岡理工科大学 情報学部 情報デザイン学科
4. 災害時要配慮者の避難移動・避難生活・生活再建の各過程をヨコ串にした災害時ケアプラン作成・実施のための福祉防災人材育成プログラムの開発と実践(継続)	立木 茂雄	同志社大学 社会学部
5. 被災地の学校における心のケアと防災教育の融合プログラムの有効性と課題ー東日本大震災と北海道胆振東部地震被災地での実践から(継続)	富永 良喜	兵庫県立大学大学院 減災復興政策研究科
6. 地域住民によるワークショップを通じた災害情報のアーカイブ化を行う防災教育プログラムの開発(継続)	森 太郎	北海道大学大学院 工学研究科
7. 教員免許状更新講習を利用した学校教員による防災教育の促進と有効性の評価(新規)	植木 岳雪	千葉科学大学 危機管理学部
8. 千島海溝南部超巨大地震の事前復興計画策定に向けたアクションリサーチ(新規)	高橋 浩晃	北海道大学大学院 理学研究院
9. 防災対応力向上のための教材・講座の効果検証に基づく防災教育の体系化(新規)	小山 真紀	岐阜大学 流域圏科学研究センター
10. 遺構と瓦礫のあいだー移行期被災地における残存構造物記録方法の開発ー(新規)	高原 耕平	ひょうご震災記念 21 世紀研究機構
11. 減災絵本の実証的ならびに脳科学的研究ー保育者対象のアンケート調査と短期大学生を被験者とする NIRS 分析からー(新規)	田久 昌次郎	いわき短期大学 生涯教育研究所

#### ⑤災害科学の発展に寄与するその他の研究

1. 蔵王・御釜における水・熱・化学物質収支から見た地下水流動系の解明(継続)	知北 和久	北海道大学 北極域研究センター
2. 東日本太平洋側に冷夏をもたらす気候場の長期復元に向けた基礎研究(継続)	市野 美夏	情報・システム研究機構 データサイエンス共同利用基盤施設 人文オープンデータ共同利用センター
3. 大変形までを対象とした堤防破壊挙動を可能とする数値解析手法の確立(新規)	小高 猛司	名城大学 理工学部
4. 重力測定を用いた伏在断層の連続性の評価(新規)	岡田 真介	岩手大学 理工学部

## 災害アーカイブ学(2020年度)

研究課題名	1. 利活用を踏まえた震災アーカイブの自立的運用モデルに関する研究	研究領域	①
研究代表者	廣内 大助		
所属機関等・職名	信州大学学術研究院教育学系・教授		

### 研究組織(組織構成員の氏名・所属機関名)

◎廣内大助(信州大学)、○柴山明寛(災害研)、竹内裕希子(熊本大学)、稲本義人(熊本大学)、田中尚人(熊本大学)、三浦成留(熊本大学)、小溝陸(熊本大学)、内山琴絵(信州大学)、奥山加蘭(信州大学)

期間	2020年6月1日～2021年3月31日	経費	600,000円
----	----------------------	----	----------

### 【研究の概要】

本研究では、東日本大震災で構築された震災アーカイブや防災教育の知見を活用し、2014年神城断層地震、2016年熊本地震の震災アーカイブを構築(一部運用開始)し、この自立的運用を目指した利活用方法を防災教育と生涯学習の側面から検討し、そのプログラムを試行的に実践することを目的とする。

### 【研究の具体的な成果・波及効果】

本ファンドを活用し 2020 年度は岩手県宮古市、釜石市、宮城県名取市、石巻市におけるアーカイブの活用と市民との関わりを学ぶことができた。これら地域での知見に基づいて、2014年11月の神城断層地震を記録した震災アーカイブを構築し、2019年度から試行的に白馬小谷の小・中学校における防災教育への利用を開始した。また学校や市民とアーカイブをつなぐ取組みとして、両村計 10 か所に震災の様子を写真と QR コードで紹介する看板を設置した。さらにこれを紹介するパンフレットの作成、地域に展開する企業であるスノーピーク白馬と連携し、自転車で看板を巡るツアーを開催した。また神城断層地震 6 周年に合わせたアーカイブ展を白馬、小谷両村役場とオンラインにて開催した。これらオフラインでの活動が看板の QR コードを通してアーカイブの活用につながる被災地ならではの活動の定着を支援すると共に、取組み自体が地域内の多くの人々へ波及することが期待できる。

一方 2016 年に熊本地震を経験した熊本大学が取組む「ひのくに災史録」は東北大学の支援により構築が行われている。「ひのくに災史録」の特徴は、大学自体の震災記録を保存し、学内の看板設置などを通じて学生や教職員への教育への活用を目指している点にある。2020 年度には、東北大学の取組みや東松島市のアーカイブなどの事例を参考にしながら、構内に熊本地震時の様子を伝える看板を設置し、これを活用しながら新入生への防災教育の実践を進めている。また公開のオンラインシンポジウムも開催した。この取組みによって全学の学生にアーカイブを通じた熊本地震の記録や記憶を共有する仕組みが構築でき、大きな波及効果が期待される。

### 【図表】



図1 熊本大学看板1



図2 熊本大学看板2



図3 熊本大学看板3

災害研訪問日	使用した施設・設備・ 学術資料・データベース等	使用時間
・令和2年10月31日～11月3日(訪問者数8名) ・令和2年11月1日～11月3日(訪問者数4名)	会議室 会議室	5時間 5時間
延べ訪問回数 2回		合計10時間

成果として発表した論文
<ul style="list-style-type: none"> <li>・田中尚人・井形康太郎・竹内裕希子, 学び方からみた災害アーカイブの活用に関する研究, 土木史研究発表会・講演集, Vol.40, pp.33-42, 2020.7</li> <li>・竹内裕希子・廣内大助, 利活用を踏まえた震災アーカイブの自立的運用モデルに関する研究, 東北大学災害科学国際研究所 IRIDeS 金曜フォーラム2019年度共同研究成果報告会兼プロジェクトエリア・ユニット報告会, 2020.7.18, zoom</li> <li>・竹内裕希子, 熊本大学デジタルアーカイブ「ひのくに災史録」の構築と TERAD の活動, 土木学会誌, vol.105 No.12, pp.50-51, 2020.</li> <li>・廣内大助, 教訓から学ぶ防災教育, 長野県教育指導時報, No.852, pp.8-11, 2020.8</li> <li>・衛藤英和・田中尚人・水上雄盛, 中越地震の復興誌に関する分析, 土木学会西部支部研究発表会概要集, IV-32, 2021.3.</li> <li>・内山琴絵, 効果的な災害伝承とはー災害デジタルアーカイブの可能性ー, 2021年日本地理学会春季学術大会, 2021.3</li> <li>・田中尚人・水上雄盛・竹内裕希子, コミュニティアーカイブとしての復興誌づくりに関する考察, 第39回日本自然災害学会学術講演会(熊本大学), 2021.3</li> </ul>

学術論文 合計(7)編

特許・実用新案・その他の産業財産権
なし

合計(0)件のうち、A出願 計( )件 B取得 計(0)件

シンポジウム・講演会・セミナー等の開催
<p>2020年10月10日, 国内, 一般, リビングラボシンポジウム「わたしがつくる つぎの防災・減災 2020」(オンライン同時開催)</p> <p>2020年11月6～11月27日, 国内, 一般, 災害アーカイブ展～神城断層地震から6年～(オンライン同時開催)</p> <p>2020年11月21日, 国内, 一般, 「熊本大学デジタルアーカイブシンポジウム～『ひのくに災史録』に期待すること～」(オンライン開催), 23名</p> <p>2020年11月22日, 国内, 一般, 「白馬で知る・学ぶ「いま」の防災減災」, セミナー参加者:20名, フィールドワーク参加者:14名</p> <p>2020年12月5日, 国内, 一般, 第5回学校防災シンポジウム～コロナ禍における学校防災～(オンライン開催)</p>

合計(5)件

## 災害アーカイブ学(2020年度)

研究課題名	2. 自然災害伝承碑アーカイブの構築	研究領域	①
研究代表者	上相 英之		
所属機関等・職名	奈良文化財研究所埋蔵文化財センター遺跡・調査技術研究室・研究員		

研究組織(組織構成員の氏名・所属機関名)

◎上相英之(奈良文化財研究所)、○蝦名裕一(災害研)

期間	2020年6月1日～2021年3月31日	経費	599,000 円
----	----------------------	----	-----------

### 【研究の概要】

本研究では、現在津波碑を対象として構築中の東北大学災害科学国際研究所の「ひかり拓本データベース」のデータの対象を、津波碑以外の水害碑や飢饉碑といった自然災害伝承碑全般に拡大し、北海道から東北地方にかけての総合的な自然災害伝承碑のデータベースとして拡充することを目的とする。

### 【研究の具体的な成果・波及効果】

本年度の研究では、11月11日に、一関市畠山篤氏と、骨寺荘園遺跡にて三基の石碑を撮影。夕方奥州市衣川北股地区に移動し、一基の疫病碑を撮影。12日奥州市衣川野崎で疱瘡神座像(一基)を撮影。午後は奥州市赤萩笹谷で疫病碑(一基)撮影。13日は一関市藤沢長徳寺の聞き取りと、疫病碑(一基)を撮影。午後は栗原市若柳川南町浦の柳徳寺で疫病碑(一基)を撮影した。

2月10日は、蝦名研究室を訪問し、3月に予定している本年度の最終調査の打ち合わせを行った。11日は今年度のこれまでの疫病碑の調査結果を疫病退散プロジェクトの報告会にて報告し、その後、12日に予定していた蝦名氏・平川氏との打合せを行った。

調査データはすべてひかり拓本データベース(<https://takuhon.lab.irides.tohoku.ac.jp/>)にて公開する

### 【図表】



現地調査において左図の「願主卯五郎」を基に右図の「卯五郎」を判読した例(赤萩笹谷稻荷神社)

災害研訪問日	使用した施設・設備・ 学術資料・データベース等	使用時間
・令和2年11月10日～令和2年11月13日(1人) ・令和3年2月9日～令和3年2月11日(1人)	蝦名研究室 蝦名研究室	3時間 4時間
延べ訪問回数 2回		合計 7時間

成果として発表した論文
なし

学術論文 合計( 0 )編

特許・実用新案・その他の産業財産権
なし

合計 ( 0 ) 件のうち、A出願 計( )件 B取得 計( )件

シンポジウム・講演会・セミナー等の開催
なし

合計 ( 0 ) 件

## 災害アーカイブ学(2020年度)

研究課題名	3. 治水投資額と被害軽減効果の将来予測における新展開	研究領域	①
研究代表者	石渡 幹夫		
所属機関等・職名	東京大学大学院新領域創成科学研究科・客員教授		

研究組織(組織構成員の氏名・所属機関名)

◎石渡幹夫(東京大学)、○佐々木大輔(災害研)、小野裕一(災害研)、井ノ内綺華(東京大学)

期間	2020年6月1日～2021年3月31日	経費	700,000円
----	----------------------	----	----------

### 【研究の概要】

災害統計データを活用し、災害の規模・特徴等が防災投資に与えるインパクトを明らかにする。災害種は水害を想定しており、治水投資額・被害軽減効果の将来予測手法を開発するとともに、投資資金を確保するための施策について政策提言を行う。本研究は、防災投資の政策及び国際援助方針の策定に貢献する実践的な研究である。

### 【研究の具体的な成果・波及効果】

災害統計データを基に、災害の多発や都市化、人口増加等の要因が治水予算の伸びとどのような相関を示すか等について、多変量解析を用いた分析を行った。また、日本の事例を中心に、治水予算確保に向けたアプローチや施策についてのレビューを実施し、国家開発計画における治水の位置づけ、セクター別の長期計画の策定状況、気候変動適応における財政資金・民間資金の活用(リスクファイナンス)等について、整理・分析に着手した。

### 【図表】(一部抜粋)

**Table 1. Results of estimated regression in flood protection investment**

Variables	Coefficient (1)	Coefficient (2)
Damage (Last 3 years average)	0.136 (3.730)***	0.159 (5.943)***
GDP per capita	0.00384 (7.736)***	0.00343 (14.076)***
Population density	0.0270 (2.548)**	0.0185 (5.595)***
urbanization	0.0634 (0.664)	-
agriculture value-added shares to GDP	0.291 (0.952)	-
manufacturing value-added shares to GDP	0.115 (0.569)	-
Observations	50	50
Adjusted R-Squared	0.869	0.873

\*\*\*  $p < .01$ , \*\*  $p < .05$ , \*  $p < .1$



災害研訪問日	使用した施設・設備・ 学術資料・データベース等	使用時間
【新型コロナウイルス感染症の感染拡大を踏まえ、 打合せ等は全てオンラインで実施した】	災害統計グローバルデータ ベ ース(GDB)	
延べ訪問回数 0 回 (月 1 回程度のオンライン会議を実施)		合計 時間

成果として発表した論文
<ul style="list-style-type: none"> <li>• <u>Ishiwatari M.</u> (2021). Disaster Risk Reduction. In: Lackner M., Sajjadi B., &amp; Chen WY. (eds) <i>Handbook of Climate Change Mitigation and Adaptation</i>. Springer, New York, NY. <a href="https://doi.org/10.1007/978-1-4614-6431-0_147-1">https://doi.org/10.1007/978-1-4614-6431-0_147-1</a>【査読有、国際】</li> <li>• Lestari, F., Jibiki, Y., <u>Sasaki, D.</u>, Pelupessy, D., Zulys, A., &amp; Imamura, F. (2021). People's Response to Potential Natural Hazard-Triggered Technological Threats after a Sudden-Onset Earthquake in Indonesia. <i>International Journal of Environmental Research and Public Health</i>, 18(7), 3369. doi: 10.3390/ijerph18073369 【査読有、国際, IF 2.849】</li> <li>• <u>Ishiwatari, M.</u>, &amp; <u>Sasaki, D.</u> (in press). Investment and benefits of flood protection: Increasing or decreasing as economy grows? <i>JICA-RI Working Paper</i>. 【査読有、国際】</li> <li>• <u>Ishiwatari, M.</u>, (in press) Effectiveness of investing in flood protection in metropolitan areas: Lessons from 2019 Typhoon Hagibis in Japan, <i>International Journal of Disaster Resilience in the Built Environment</i>. 【査読有、国際, IF 1.4】</li> <li>• <u>Ishiwatari M.</u> (in review). Flood Risk Governance, In Lamond J., Proverbs D., &amp; Bhattacharya-Mis N. (eds) <i>Research Handbook on Flood Risk Management</i>, Edward Elgar Publishing, Cheltenham 【査読有、国際】</li> </ul>

学術論文 合計( 5 )編

特許・実用新案・その他の産業財産権
特になし

合計 ( 0 ) 件

シンポジウム・講演会・セミナー等の開催
2020 年度については、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を踏まえ、ワークショップ等の開催は見送り、2021 年度に研究成果を報告する機会を設けることとした。

合計 ( 0 ) 件

## 災害アーカイブ学(2020年度)

研究課題名	4. 災害アーカイブを活用した PRERADE (Preparedness for Better Response, Recovery and Reconstruction: Learning from Disaster Ethnography)の方法論の確立	研究領域	①
研究代表者	田中 聡		
所属機関等・職名	常葉大学大学院環境防災研究科・教授		

研究組織(組織構成員の氏名・所属機関名)

◎田中聡(常葉大学大学院環境防災研究科)、○佐藤翔輔(災害研)、重川希志依(常葉大学大学院環境防災研究科)、阿部郁男(常葉大学大学院環境防災研究科)

期 間	2020年6月1日～2021年3月31日	経費	568,000円
-----	----------------------	----	----------

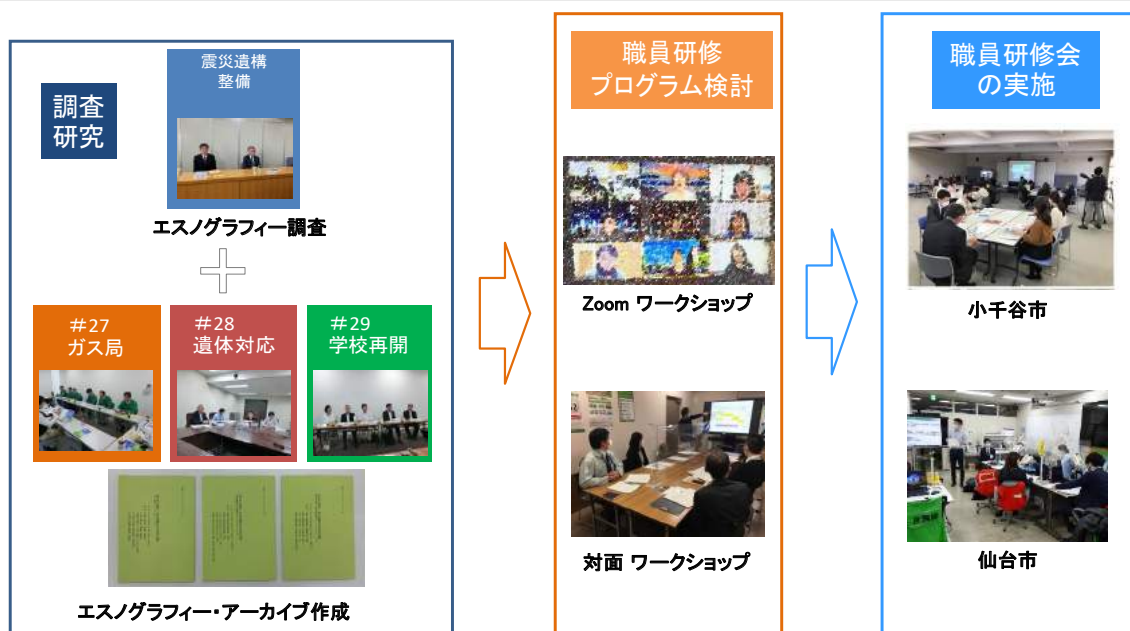
### 【研究の概要】

本研究では、震災10年にむけて仙台市と共同で職員の災害対応のアーカイブス構築を完成させるとともに、これまで蓄積されてきた災害アーカイブスを活用したワークショップ研修の記録を分析し、手法を確立するとともに、手順を標準化し、本研究チームの支援がなくともどこにでも実装できるパッケージを開発した。

### 【研究の具体的な成果・波及効果】

- 1) 仙台市職員の災害対応について、震災遺構整備についてエスノグラフィー調査を実施した。
- 2) 東日本大震災に係る仙台市ガス局の対応、学教教育の再開、遺体安置・埋火葬業務についてアーカイブス冊子を作成し、国立国会図書館に納本した。
- 3) 東日本大震災の被災者2名にインタビュー調査を実施し、その映像を編集し、せんだいメディアテーク事業「3がつ11にちをわすれないためにセンター」で公開した。
- 4) 作成したアーカイブス(冊子・ビデオ)を活用して職員研修用プログラムを作成し、仙台市のみならず、札幌市、八潮市、小千谷市、熊本市、横浜市、三島市の職員研修および、静岡県内公立小中学校・私立学校教職員の研修に活用された。

### 【図表】



災害研訪問日	使用した施設・設備・ 学術資料・データベース等	使用時間
・令和2年9月11日(2名) ・令和2年9月12日(2名)	防災社会システム研究分野 演習室A	3時間 3時間
延べ訪問回数 2回		合計6時間

成果として発表した論文
<p>1. 柳谷理紗・鈴木由美・佐藤翔輔・田中聡・重川希志依, 自治体職員が行う災害エスノグラフィー調査・編集・活用のプロセスの確立: 仙台市役所職員による実践を踏まえて, 地域安全学会東日本大震災特別論文集 No.9, pp.31-34, 2020年7月.</p> <p>(発行した書籍)</p> <p>1. Team Sendai・重川希志依・田中聡, 仙台市まちづくり政策局防災環境都市・震災復興室, 災害エスノグラフィーシリーズ 27 東日本大震災 仙台市職員の災害対応編 ガス局グループヒアリング, 全 60p, ISBN:978-4-908792-25-0, 2021年3月.</p> <p>2. Team Sendai・重川希志依・田中聡, 仙台市まちづくり政策局防災環境都市・震災復興室, 災害エスノグラフィーシリーズ 28 東日本大震災 仙台市職員の災害対応編 遺体安置・埋火葬業務グループヒアリング, 全 58p, ISBN:978-4-908792-26-7, 2021年3月.</p> <p>3. Team Sendai・重川希志依・田中聡, 仙台市まちづくり政策局防災環境都市・震災復興室, 災害エスノグラフィーシリーズ 29 東日本大震災 仙台市職員の災害対応編 学校教育の再開グループヒアリング, 全 68p, ISBN:978-4-908792-27-4, 2021年3月.</p>

学術論文(書籍含む) 合計(4)編

特許・実用新案・その他の産業財産権
なし

合計 (0)件のうち、A出願 計( )件 B取得 計( )件

シンポジウム・講演会・セミナー等の開催
<p>1. 2021年1月21日, 仙台市「R2年度青葉区防災研修」, 国内, 対象:仙台市職員, 参加者:45名.</p> <p>2. 2021年1月13日, 「横浜市政策局芸術創造本部室における防災訓練」での映像を使用した防災研修, 国内, 対象:自治体職員.</p> <p>3. 2020年11月7日, 「オンラインあれから9年スペシャル」における映像紹介, 国内, 対象:自治体職員・一般, 参加者46名.</p> <p>4. 2020年10月15日, 「小千谷市職員研修」での映像上, 国内, 対象:自治体職員, 参加者:57名.</p> <p>5. 2020年9月28日, 「震災後心のケア従事者研修会」での映像上, 国内, 参加者:30名.</p> <p>6. 2020年8月6日, 「ネットワークおぢや研修会」講演, 国内, 対象:自治体職員・研究者, 参加者:91名.</p> <p>7. 2020年7月18日, 「東北大学災害研共同研究報告会」, 国内, 対象:自治体職員・研究者・一般, 参加者:50名.</p>

合計 (7)件

## 災害アーカイブ学(2020年度)

研究課題名	5. 大規模災害における生命をめぐる対応の事例収集および教訓の防災教育への活用の分析	研究領域	①
研究代表者	田中 成行		
所属機関等・職名	岩手大学教育学部・准教授		

### 研究組織(組織構成員の氏名・所属機関名)

◎田中成行(岩手大学教育学部)、○蝦名裕一(東北大学災害科学国際研究所)、佐藤健(東北大学災害科学国際研究所)、北原糸子(立命館大学歴史都市防災研究所)、川島秀一(東北大学災害科学国際研究所)、保田真理(東北大学災害科学国際研究所)、柴山明寛(東北大学災害科学国際研究所)、定池祐季(東北大学災害科学国際研究所)、熊谷誠(岩手大学)

期間	2020年6月1日～2021年3月31日	経費	944,000円
----	----------------------	----	----------

### 【研究の概要】

本研究では、大規模災害時における被災者救済や死者への対応といった生命をめぐる対応、自治体や住民組織や教育の中でいかに取り扱われ、教訓化されていくかについて、ヒヤリングやアンケートを中心に事例を収集する。当該年度は、特に東日本大震災の発災から10年の節目を迎えるにあたり、各地で建設される慰霊施設などを対象に調査を実施する。また、こうした大規模災害の経験が地域の中でどのように教訓化し、さらには教材化されていくのか、実際の教員養成課程の現場や各地の伝承施設や学校現場を対象として、研究・分析をおこなう。

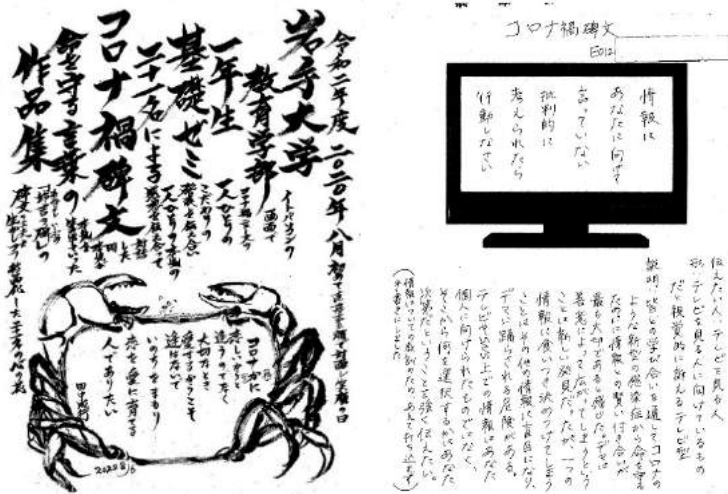
### 【研究の具体的な成果・波及効果】

本年度はコロナ禍の影響により、当初予定していた三陸地域の慰霊施設の訪問や、岩手大学教育学部の学生21名が集団で移動することは密の状態となるため、予定していた宮古市の防潮堤のある田老地区と「命を守った石碑」である「姉吉の碑」のある重茂姉吉地区を訪れることはできなかった。

訪問調査としては、福島第一原発事故の被災地である富岡町、大熊町での訪問調査を実施した。富岡町では博物館建設の企画主任者に博物館の概要を伺い、展示構想を伺った。大熊町役場で発行された『大熊町震災記録誌』の編纂責任者にお会いして、記録誌編纂の経過、意図などを伺い、避難者から大熊町の災害集団住宅地に帰還した住民の方のお話をお伺いすることができた。また、昭和三陸地震津波における政府の動向の資料調査として、国立公文書館に所蔵されている野田家文書の日記資料について調査・撮影をおこなった。

教員養成課程における教訓の利活用としては、2011年の東日本大震災において昭和8年に義援金で建立された「大津浪記念碑」の碑文の教えを守って高所移住し全住居が無事であった姉吉地区の「姉吉の碑(いしぶみ)」の碑文の工夫を「命を守る言葉」として学び、現在の災害であるコロナ禍に対する「コロナ禍碑」の碑文を創り発表して伝え合うことを目指した。一人一人のこだわりの発表を踏まえて、「姉吉の碑」の、明治29年と昭和8年の2度の津波でほぼ全滅の悲劇の犠牲の教訓を活かして刻み付けられた碑文の工夫である上下二段の韻文と散文の違いと、上段の韻文の七五調や倒置法や一字下げや「思へ」と「重茂」の掛詞や命令形等の工夫、下段の散文の29年8年、生存者「前に二人後に四人」等の具体的な数字や事象の並列等の工夫を理解し、大切な命を守ろうとする作者の工夫を学び合い、8月6日の対面での発表会を実現した。記録として全員の「コロナ禍碑文」の作品は冊子にまとめることができた。

【図表】



岩手大学教育学部1年生基礎ゼミにおける災害教訓講義の作品(1例)

災害研訪問日	使用した施設・設備・ 学術資料・データベース等	使用時間
令和2年8月12日	災害科学国際研究所災害文化 研究分野教室(オンライン)、ひ かり拓本データベース	3時間
延べ訪問回数 1回		合計3時間

成果として発表した論文

北原糸子、「消防団員の東日本大震災」『地域防災』30号、2020年2月  
 北原糸子、「東日本大震災と仏教系メディア—死者をめぐる記事を中心に」『メディア史研究』2020年2月  
 北原糸子、「終戦直後の災害・昭和南海地震への災害社会史の試み」『あゆみ—南方熊楠賞第30回記念記録集』  
 2021年  
 北原糸子、赤坂憲雄編『災害とアートを探る』(対談収録)、玉川大学出版会、2020年5月  
 北原糸子、『震災と死者—東日本大震災・関東大震災・濃尾地震』筑摩選書、2021年1月

学術論文 合計(5)編

特許・実用新案・その他の産業財産権

なし

合計(0)件のうち、A出願 計( )件 B取得 計( )件

シンポジウム・講演会・セミナー等の開催

令和2年8月6日/コロナ禍碑文発表会/国内/岩手大学教育学部/三陸津波の碑文分析を応用して教育学部  
 1年生が作成した「コロナ碑文」作品の報告会/21人

合計(1)件

## 災害アーカイブ学(2020年度)

研究課題名	6. 災害アーカイブを用いた地域教育支援プラットフォームの検討	研究領域	①
研究代表者	柗 和佑		
所属機関等・職名	中部大学・准教授		

### 研究組織(組織構成員の氏名・所属機関名)

◎柗和佑(中部大学人文学部)、柳谷啓子(中部大学人文学部)、石橋豊之(岐阜女子大学)、永森 光晴(筑波大学)、杉本重雄、○柴山明寛(災害科学国際研究所)

期間	2020年6月1日～2021年3月31日	経費	500,000円
----	----------------------	----	----------

### 【研究の概要】

代表者は、自治体・地域住民が中心となって管理運営・アップデートする持続可能なデジタルアーカイブの研究を行っている。本研究は、各地の地域教育について調査・整理し、教育コンテンツとして継続的に活用できる災害アーカイブに関して検討を行い、自治体と地域住民によってアップデートされ続けるデジタルアーカイブ基盤の検討・構築を目的とした。

### 【研究の具体的な成果・波及効果】

震災アーカイブは、地域住民の体験を収集し組織化した情報である。この情報は、地域教育に用いることで防災意識の醸成に役立つものであるが、現状では地域ごとの事情によるものが多く、統一的に分析されているとは言い難い。利活用の状況を調査・分析し、手法として確立することで、教育活動だけでなく地方自治体と地域住民が中心となって維持管理・アップデートする持続可能な、地域情報デジタルアーカイブの成立も期待できた。しかし、2020年初頭から始まったコロナ禍において、国内の移動が制限されることとなり満足に移動することができず調査は一部の文献調査および、東北大学災害研究所への訪問、および仙台周辺の震災遺構に設置された研究施設の訪問を行うことが日程的にも精一杯であった。

震災遺構をめぐって得られた知識としては、10年単位でみると「地域を主幹とした震災アーカイブの維持が困難である」こと、その「利活用状況が調査されていない」ことであり、今後のためにその利用状況およびその程度を調査する必要があることであることがわかった。コロナ禍が収まったのち、再度調査を行いたいと考えている。

しかし、教育関係の施設訪問はコロナ禍では困難であり、なおかつコロナ禍の治る目処が立たない。そのため、無為に研究を進めることをせずに、2021年度の研究継続を一旦休止し、延長申請などは行わずにコロナ禍でも進められるように研究内容を見直すこととした。

災害研訪問日	使用した施設・設備・ 学術資料・データベース等	使用時間
・令和3年2月27日～令和3年3月2日(4名)	会議室 周辺施設への訪問	3時間
延べ訪問回数 1回		合計3時間

成果として発表した論文
・安永 知加子, 柊 和佑, 山本 明, 柳谷 啓子[16] 組織内映像アーカイブのためのメタデータ構築: 中部大学放送研究会番組映像の保存と利活用 デジタルアーカイブ学会誌, デジタルアーカイブ学会. 2021.5(査読なし・ベスト発表賞受賞)

学術論文 合計(1)編

特許・実用新案・その他の産業財産権
該当なし

合計(0)件

シンポジウム・講演会・セミナー等の開催
該当なし

合計(0)件

## 津波減災学(2020 年度)

研究課題名	1. 津波発生時の局所避難情報伝達手段の基礎検討	研究領域	②
研究代表者	山崎 達也		
所属機関等・職名	新潟大学・教授		

研究組織(組織構成員の氏名・所属機関名)

◎山崎達也(新潟大学)、○佐藤翔輔(災害研)、○今村文彦(災害研)、小林直輝(新潟大学)

期間	2020年6月1日～2021年3月31日	経費	538,000円
----	----------------------	----	----------

### 【研究の概要】

津波発生時に迅速な避難を促すために、公共交通機関を用いた局所的な避難情報の伝達手段を検討する。更に伝達すべき避難情報として、災害アーカイブの一種として考えられ得るハザードマップの情報や、避難者ごとの位置情報を用いた最適な避難経路を算出する。最終的にマルチエージェントシミュレーションを用いて、新潟市を対象とした実験により提案手法の有効性を検証する。

### 【研究の具体的な成果・波及効果】

現在用いられている防災行政無線のような広域の画一的な情報伝達に比べ、図1に示すような避難者のいる位置に適した局所的な避難情報を市中に分散しているタクシーから伝達する方法を提案した。そこでは、図2に示すような経過時間により変化する津波の浸水情報を用いて、発災後の経過時間に応じて避難先が選択される。図3に、提案手法を従来の単純に最短経路で最も近い避難所に避難する場合と比較した、避難シミュレーションの結果を示す。提案手法の方が、縦軸に示す津波遭遇率が約5%低減することが確認できた。

### 【図表】

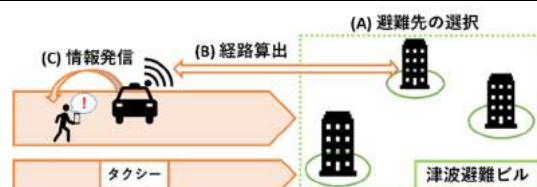


図1 提案方式の概略

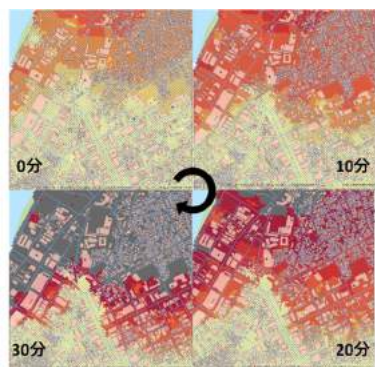


図2 発災後経過時間により変化する浸水情報

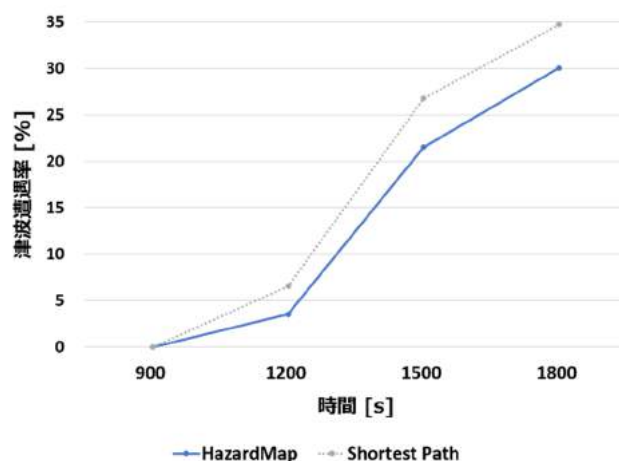


図3 発災後経過時間と津波遭遇率の提案手法と従来手法の比較



災害研訪問日	使用した施設・設備・ 学術資料・データベース等	使用時間
・令和3年3月10日～令和3年3月11日(2名)	災害研5階研究室	2時間
延べ訪問回数 1回		合計2時間

成果として発表した論文
小林直輝, 山崎達也, 佐藤翔輔, 適応的局所避難経路の提供による避難誘導, 電子情報通信学会技術報告, 120巻, 202号, 2020年, pp.39-44, 査読無, 国内
小林直輝, 山崎達也, 佐藤翔輔, 避難者の歩行速度を考慮した避難誘導に関する検討, 電子情報通信学会技術報告, 120巻, 347号, 2021年, pp.31-36, 査読無, 国内
小林直輝, 山崎達也, 佐藤翔輔, 避難シミュレーションにおける局所的情報を扱う避難誘導システムの提案, 日本シミュレーション学会論文誌, 13巻, 2021年, 査読有, 国内, 採録決定

学術論文 合計(3)編

特許・実用新案・その他の産業財産権
なし

合計(0)件のうち、A出願 計( )件 B取得 計( )件

シンポジウム・講演会・セミナー等の開催
なし

合計(0)件

## 津波減災学(2020 年度)

研究課題名	2. 川崎臨海部における災害デジタルツインによる次世代防災システムの検討	研究領域	②
研究代表者	大石 裕介		
所属機関等・職名	富士通研究所・		

### 研究組織(組織構成員の氏名・所属機関名)

◎大石裕介(株式会社富士通研究所/富士通株式会社/東京大学地震研究所/東北大学災害科学国際研究所)、○今村文彦(災害科学国際研究所)、山下啓(災害科学国際研究所)、古村孝志(東京大学地震研究所)、西出則武(株式会社富士通研究所/東北大学理学研究科)、牧野嶋文泰(株式会社富士通研究所)、飯塚豊(川崎市総務企画局危機管理室)、大村誠(川崎市総務企画局危機管理室)、三原宜輝(川崎市総務企画局危機管理室)、坪夏主馬(川崎市総務企画局危機管理室)、村瀬満高(富士通株式会社)、山本善久(富士通株式会社)

期間	2020年6月1日～2021年3月31日	経費	695000 円
----	----------------------	----	----------

### 【研究の概要】

迅速かつ安全な津波対策の実現に向けて、人工知能とシミュレーションによるモデル化により災害の状況をリアルタイムに写像し、近未来の災害状況を可視化する災害デジタルツインを川崎臨海部において構築し、発災時の適切な避難誘導を含む対策を可能にする次世代防災システムの検討を産官学共創により進める。

### 【研究の具体的な成果・波及効果】

本研究では災害デジタルツインの構築に向けて、川崎臨海部での津波避難におけるコロナ禍での避難所混雑の問題に対して、発災時の感染リスク軽減に向けた人工知能とシミュレーションを用いた避難者の過密状況をリアルタイムに写像する技術を開発し、2021年8月の川崎市避難所運営の職員研修において産官学協働の実証実験を行った。まず、地域の感染率を仮定した上で、避難所への様々な人の集合の仕方における感染リスクを評価する人流シミュレーションを実施し、感染リスクの少ない受付設置方法を事前検討した(図1)。次に、人の集まり方が異なる10万件のシミュレーション結果を学習したAIを構築し、実際の人の集まり方から感染リスクの増加をリアルタイムに検知するシステムを職員研修で運用した。その際、避難所への人の集まり方は、入口に設置したカメラ映像から人工知能によって自動カウントした(図2)。実証実験では、AI検知システムでの感染リスクの可視化とアラートの発出により、発災時の混乱状態にある受付においてもソーシャルディスタンス確保の呼び掛けが可能になる等、安全な避難誘導に向けた効果が確認できた(図3)。本実証実験を含めた災害デジタルツインの有効性は、NHK・テレ朝等TV放映6件、毎日・産経等新聞掲載12件など広く報道された。

### 【図表】

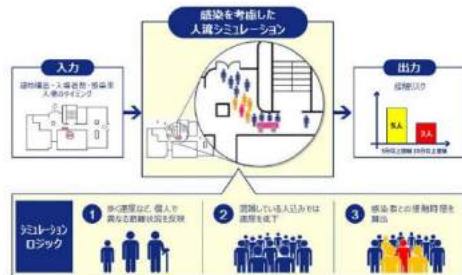


図1: 感染を考慮した人流シミュレーション



図2: コロナ禍での避難所運営を支援するAI



図 3: 実証実験の様子

災害研訪問日	使用した施設・設備・ 学術資料・データベース等	使用時間
	災害解析用計算機システム	34 時間
延べ訪問回数 0 回		合計 34 時間

成果として発表した論文
<ul style="list-style-type: none"> <li>- 飯塚 豊、“持続可能なレジリエント・シティの実現に向けてーAI を活用したコロナ禍での避難所運営実証”、Fujitsu ActivateNow Special Sessions、2020/10、口頭発表(査読無し、国内)</li> <li>- 今村 文彦、“21 世紀巨大災害の時代を生きるーレジリエンス社会を目指して”、FUJITSU ファミリー会秋季大会、2020/10、口頭発表(査読無し、国内)</li> <li>- Y. Oishi, “Disaster Mitigation Technology based on Artificial Intelligence and Supercomputing -System development through citizen participation-”, The Frontiers of Disaster Prevention in the Era of Great Disasters: Ten Years after the Great East Japan Earthquake (Stanford University Symposium), 2021/3 (査読無し、国際)</li> <li>- Y. Oishi, “KAIZEN project: Disaster mitigation research using cutting-edge ICT with citizen participation”, UTokyo-ANU Joint Lectures: Understanding Geological Hazards, 2021/2 (査読無し、国際)</li> <li>- Y. Oishi, F. Imamura, T. Furumura, Y. Mihara, T. Higashiyama, F. Makinoshima, T. Yamazaki, H. Higuchi, Y. Yamamoto, T. Suzuki, K. Akutsu, M. Ohmura, Y. Iizuka, “Bosai Kaizen System: Development of Real-time Disaster Information Sharing System through Co-creation with Citizens”, International Tsunami Symposium, 2021, submitted (査読無し、国際)</li> </ul>

学術論文 合計( 5 )編

特許・実用新案・その他の産業財産権
なし

合計 ( 0 ) 件

シンポジウム・講演会・セミナー等の開催
<p>2020 年 8 月 31 日／実証実験／国内／川崎市職員(川崎区役所避難所運営要員、各区危機管理担当、総務企画局危機管理室)／AI を活用し 3 密リスクを低減する新型コロナウイルス禍での避難所運営の実証実験／川崎市が策定した新型コロナウイルス感染症マニュアルに沿って、川崎市職員が避難所の開設から避難者の受付までを実施することで、感染リスクを考慮した人流シミュレーションによる避難所運営計画の検討と、避難完了者数のカウントを行う AI の有効性を評価するとともに、避難所での実際の業務を体感することで避難所運営要員の対応能力向上を図る。／約 60 人</p>

合計 ( 1 ) 件

## 津波減災学(2020年度)

研究課題名	3. 災害研の設備を活用した古津波の波源推定手法の高度化	研究領域	②
研究代表者	後藤 和久		
所属機関等・職名	東京大学大学院理学系研究科・教授		

### 研究組織(組織構成員の氏名・所属機関名)

◎後藤和久(東京大学大学院理学系研究科)、西村裕一(北海道大学理学研究院)、柳澤英明(東北学院大学教養学部)、○菅原大助(東北大学災害科学国際研究所)、○石澤堯史(東北大学災害科学国際研究所)

期間	2020年6月1日～2021年3月31日	経費	785,000円
----	----------------------	----	----------

### 【研究の概要】

本研究では、災害研が所有する分析機器及び計算機を活用し、地質記録に基づく古津波の波源推定手法の高度化の検討を行う。申請者らによるこれまでの調査研究の成果を踏まえて計画したもので、学術面での顕著な進歩に加え、防災・減災への大きな貢献が見込まれる。

### 【研究の具体的な成果・波及効果】

岩手県山田町船越において、災害研が保有するジオスライサーを用いて数 m 間隔の高密度で掘削調査を行った。その結果、2011 年東北沖地震津波堆積物など過去数百年間で形成された津波堆積物の分布を詳細に把握した(図 1)。また、1677 年延宝房総沖地震津波および 1703 年元禄関東地震津波の調査として、千葉県太平洋側沿岸部で、災害研が保有する地下レーダー装置を用いて地層探査を実施し、千葉県旭市から南房総市にかけての計 19 測線で地表から深さ約 5m までの地層構造データを取得した(図 2)。さらに、銚子市小畑池の津波堆積物の分析に関する査読付き論文を、国際誌 *Progress in Earth and Planetary Science* に発表した(図 3)。沿岸湖沼における古津波堆積物の特徴と、これまでデータが得られて来なかった日本海溝南部の古津波履歴を明らかにするものであり、大きな波及効果があると考えられる。

### 【図表】

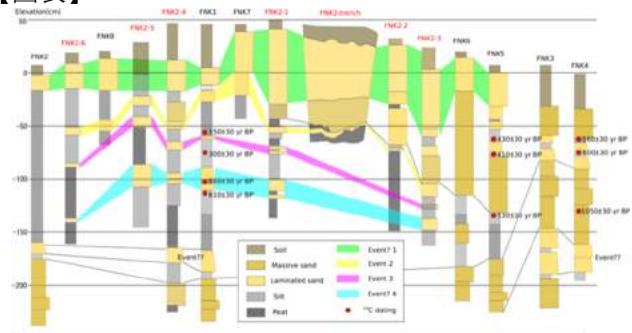


図 1 岩手県山田町船越における津波堆積物調査結果。

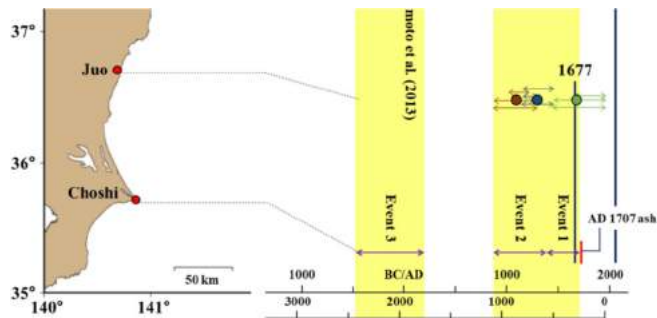


図 3 千葉県銚子市小畑池の古津波履歴(国際誌に掲載された論文の図から引用)。

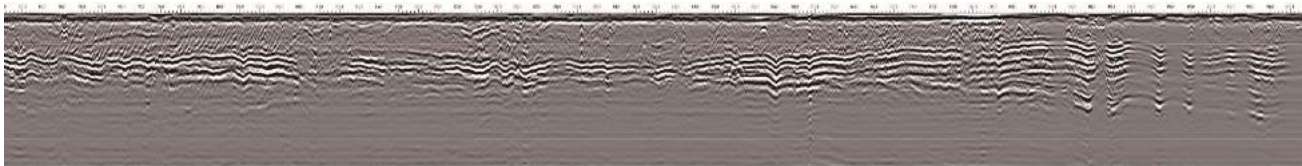


図 2 千葉県一宮町における地下レーダー調査結果。

災害研訪問日	使用した施設・設備・ 学術資料・データベース等	使用時間
<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和2年11月26日～28日(現地調査)</li> <li>・令和2年12月1日～4日(現地調査)</li> </ul>	ジオスライサー 地下レーダー装置	6時間 12時間
延べ訪問回数 2回		合計 18 時間

成果として発表した論文
Higaki, H., <u>Goto, K.</u> , Yanagisawa, K., Sugawara, D., Ishizawa, T., Three thousand year paleo-tsunami history of the southern part of the Japan Trench, Progress in Earth and Planetary Science, 査読有, 国際誌, IF 2.508 ( <a href="https://doi.org/10.1186/s40645-021-00415-w">https://doi.org/10.1186/s40645-021-00415-w</a> )

学術論文 合計( 1 )編

特許・実用新案・その他の産業財産権
なし

合計 ( 0 ) 件のうち、A 出願 計( )件 B 取得 計( )件

シンポジウム・講演会・セミナー等の開催
なし

合計 ( 0 ) 件

# 津波減災学(2020年度)

研究課題名	4. 沿岸低地の微地形による津波挙動・土砂移動への影響の解明	研究領域	②
研究代表者	高清水 康博		
所属機関等・職名	新潟大学 教育学部、災害・復興科学研究所（兼務）		

## 研究組織(組織構成員の氏名・所属機関名)

◎高清水康博(新潟大学)、○菅原大助(災害研)、石澤堯史(災害研)、卜部厚志(新潟大学)、青田享也（新潟大学）、平野史佳(新潟大学)

期間	2020年6月1日～2021年3月31日	経費	589,000 円
----	----------------------	----	-----------

## 【研究の概要】

本研究では、災害研が所有する計算機及び分析機器を活用することにより、堆積物粒子の性状解析を行うことにより津波堆積物同定の精度を上げる。その上で、沿岸低地の微地形による津波挙動・土砂移動への影響解明を行う。これは、申請者らのこれまでの実績の上に立脚したものであり高い研究成果と防災への貢献が見込まれる。

**【研究の具体的な成果・波及効果】**本研究では、南相馬市小高区での地層試料採取と、災害研が保有する粒度分析装置を用いた試料分析を行った。その結果、以下のことが明らかになった。

- ✓ 調査地域の地表～地下数 m(約 2 千年前以降)は、下位より、ラグーン、バリアー、塩水湿地、湿原、後背湿地の各堆積物、および水田土壌、人工地層、および 2011 年津波堆積物から構成されていた。
- ✓ 津波によると考えられる堆積物の候補を最大 4 枚確認し、炭素年代測定から約 6 世紀(古墳時代)以降のイベントであることが分かった。仙台平野では認められていない年代のイベントで、この地の津波履歴を明らかにする上で貴重なデータであり、津波の発生頻度と規模の再検討へ波及する成果である。
- ✓ 粒子特性値と現海岸線からの距離や層厚の間に明瞭な関係性を認めることが出来なかったが、2011 年津波堆積物との比較から微地形の有無による層厚の分布が異なることが認められた。

## 【図表】

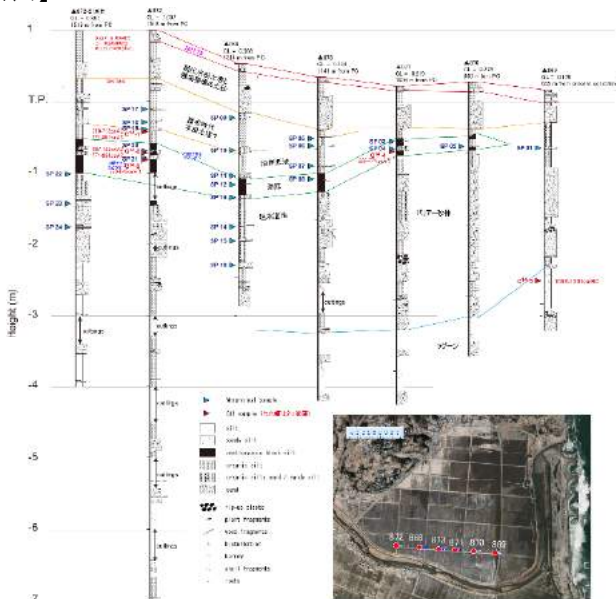


図1 調査地点で作成した柱状図(青矢印: 砂試料採取地点、赤矢印: 年代測定試料採取地点と測定結果)

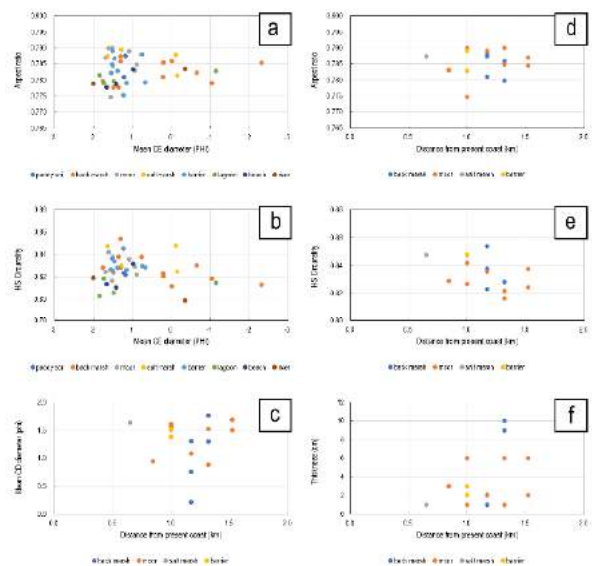


図2 イベント堆積物の粒子特性、現海岸からの距離、および層厚の関係。a 全イベント試料の平均粒径とアスペクト比の関係。b 全イベント試料の平均粒径とHS円形度の関係。c 津波堆積物候補の現海岸線からの距離と平均粒径の関係。d 津波堆積物候補の現海岸線からの距離とアスペクト比の関係。e 津波堆積物候補の現海岸線からの距離とHS円形度の関係。およびf 津波堆積物候補の現海岸線からの距離と層厚の関係。

災害研訪問日	使用した施設・設備・ 学術資料・データベース等	使用時間
・令和3年1月4日(1人)	リスク保管室・Morphologi G3	5時間
・令和3年1月5日(1人)	リスク保管室・Morphologi G3	9時間
・令和3年1月6日(1人)	リスク保管室・Morphologi G3	6時間
・令和3年3月3日(1人)	リスク保管室・Morphologi G3	6時間
・令和3年3月4日(1人)	リスク保管室・Morphologi G3	9時間
・令和3年3月5日(1人)	リスク保管室・Morphologi G3	5時間
延べ訪問回数 6回		合計 40時間

成果として発表した論文
該当なし (新型コロナウイルス禍のため野外調査の実施が11月になり、また粒子分析のための東北大学災害科学国際研究所リソース利用のための訪問が、1月、および3月になったため成果は次年度以降に公表予定)

学術論文 合計( 0 )編

特許・実用新案・その他の産業財産権
該当なし

合計 ( 0 ) 件のうち、A 出願 計( )件 B 取得 計( )件

シンポジウム・講演会・セミナー等の開催
該当なし

合計 ( 0 ) 件

## 津波減災学(2020年度)

研究課題名	5. 津波襲来時の住民避難プロセス解明と人的被害ゼロにむけた教訓の抽出	研究課題	②
研究代表者	牧野嶋 文泰		
所属機関等・職名	富士通研究所・研究員		

### 研究組織(組織構成員の氏名・所属機関名)

◎牧野嶋文泰(富士通研究所)、○今村文彦(災害研)、佐藤翔輔(災害研)、大石裕介(富士通研究所)、中川政治(3.11 みらいサポート)、丸山拓也(日本放送協会)、東 勇哉(日本放送協会)

期間	2020年6月1日～2021年3月31日	696,000円
----	----------------------	----------

### 【研究の概要】

東日本大震災で見られた津波の危険を認識しながらも逃げないという行動には、正常化の偏見等の認知バイアスに加え、複雑な社会・心理的要因が影響している。本研究では、石巻市での100件以上に及ぶ詳細な聞き取り調査結果を、AI技術も駆使して包括的に解析、複数の避難者に共通する行動原理を解明し、教訓として発信する。

### 【研究の具体的な成果・波及効果】

本研究では、2011年の東日本大震災で甚大な人的被害を経験した宮城県石巻市門脇・南浜を中心に、合計101名、計150時間以上にも及ぶ詳細な聞き取り調査結果を分析する新たな分析手法を考案し、当時の複雑な住民避難プロセスを明らかにした。当時、多くの住民は津波の危険性を把握しながらも家族や知人の安否確認を優先することで、避難プロセスが複雑化し、避難の遅れにつながっていた。一方で、こうした家族が避難前に参集する行動が、地域の小学校の迅速な避難行動と組み合わせることで、この参集行動が無意識に避難行動を兼ねる事例があることが分かった。さらに当時小学校には津波を予期しない住民も多く集まっており、参集行動などの高台への移動がこうした住民に目撃されることでさらなる津波避難を誘発していた可能性が示唆された。迅速な避難行動が社会的つながりを経て地域住民に伝播する避難のカスケードとも呼べる現象は、災害時の避難プロセスが社会的つながりによって大きく左右されることや、学校等の施設の適切な判断によって、こうした効果がコミュニティ全体にわたる避難行動を誘発できる可能性を示唆するものであり、今後の津波避難を後押しする社会づくりに重要な示唆を与える成果である。本研究成果は、災害系の代表的な国際誌の一つである *International Journal of Disaster Risk Reduction* に採択・掲載され、国連の防災機関 UNDRR が運営する *PreventionWeb* でも取り上げられた。さらに、本研究で明らかになった避難のカスケードの現象を中心に研究成果がNHKスペシャルに特集、全国放送された。放送をきっかけとして自治体からの問い合わせもあり、社会的に大きな影響のある研究成果を創出した。



【図表】

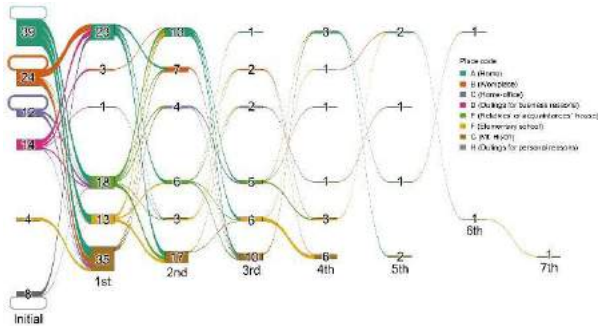


図 1 門脇・南浜での複雑な避難プロセス

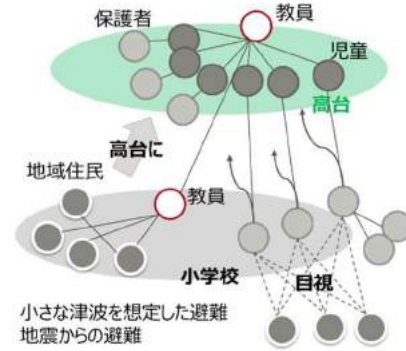


図 2 門脇小学校を中心とした避難のカスケードの模式図

災害研訪問日	使用した施設・設備・ 学術資料・データベース等	使用時間
<ul style="list-style-type: none"> <li>令和二年 6 月 23 日 (7 名; オンライン)</li> <li>令和二年 10 月 5 日 (7 名; オンライン)</li> </ul>	オンライン会議 オンライン会議	1 時間 1 時間
延べ訪問回数 2 回		合計 2 時間

成果として発表した論文

・Fumiyasu Makinoshima, Yusuke Oishi, Masaharu Nakagawa, Shosuke Sato, Fumihiko Imamura, Revealing complex tsunami evacuation process patterns induced by social interactions: A case study in Ishinomaki, International Journal of Disaster Risk Reduction 58, 102182, 2021. doi:10.1016/j.ijdrr.2021.102182 (査読付), 国際誌, IF=2.896

学術論文 合計 ( 1 ) 編

特許・実用新案・その他の産業財産権

該当なし

合計 ( 0 ) 件のうち、A 出願 計 ( ) 件 B 取得 計 ( ) 件

シンポジウム・講演会・セミナー等の開催

- ・2021/3/6 21:00-21:59 / TV 放送 / 国内 / 一般 / 「津波避難 なにが生死をわけたのか」
- ・2021/3/9 / web 掲載 / 国内 / 一般 / 巨大津波 多くの命を救う“避難のカスケード” / <https://www3.nhk.or.jp/news/html/20210309/k10012903971000.html> (2021/4/6 閲覧)
- ・2021/3/31 / web 掲載 / 国際 / 一般 / UNDRR PreventionWeb “Revealing complex tsunami evacuation process patterns induced by social interactions: A case study in Ishinomaki” / <https://www.preventionweb.net/publications/view/76884> (2021/4/6 閲覧)

合計 ( 3 ) 件

## 津波減災学(2020 年度)

研究課題名	6. 津波統合モデルを用いたマルチシナリオハザード評価手法の確立	研究領域	②
研究代表者	有川 太郎		
所属機関等・職名	中央大学 理工学部 都市環境学科・教授		

### 研究組織(組織構成員の氏名・所属機関名)

◎有川太郎(中央大学)、○山下啓(災害研)、○門廻充侍(災害研)、今村文彦(災害研)、高橋智幸(関西大学)、馬場俊孝(徳島大学)、大石裕介(富士通研)、嶋原良典(防衛大学校)、菅原大助(災害研)、渡部真史(中央大学)、Ceren Ozer Sozdinler(香川大学)、林 豊(気象研)、対馬弘晃(気象研)

期間	2020年6月1日～2021年3月31日	経費	558,000円
----	----------------------	----	----------

### 【研究の概要】

津波統合モデルを用いて、非地震性津波を含めた津波氾濫・土砂移動・漂流物移動のマルチシナリオハザード評価手法の確立を目指す。その際に、砂・シルトによる密度変化に伴う波力の増大、漂流物の不確実性の影響を加えたモデルの構築を行うとともに、地形データ等の共有化を図り、モデルの普及に資する。

### 【研究の具体的な成果・波及効果】

1. 土砂やシルトを含んだ津波に関して実験を行い、密度や水面角度、波力の大きさ等を比較、波圧係数による検討を行った。その結果、フルード数が同じであっても土砂が混じることで相対的に波圧が増大する可能性があることが示された(図1)。
2. 土砂輸送を伴う、津波の密度変化および運動量輸送を考慮した津波土砂移動モデルを構築した(図2)。更に、既往オイルタンク漂流モデルと連成し、津波氾濫・土砂移動・船舶漂流・オイルタンク漂流のマルチシナリオハザード解析が可能なモデルを構築した。本モデルは、複数現象が干渉する被害波及プロセスに合理的な説明を与え、津波による複合ハザードの実態解明及び対策に資すると期待される。
3. 日本海溝軸付近での調査観測から推定された33のアウターライズ断層に対して、数値シミュレーションを用いてアウターライズ地震による津波を評価した。その結果、地震スケール則の違いにより津波高さが平均で約50%変化した。アウターライズ地震の津波予測で使用する地震スケール則の選択には十分な注意が必要であることがわかった。
4. 2011年東北地方太平洋沖地震以降に行われた津波の数値モデリングに関する研究をレビューし、今後の課題を明らかにした。津波数値シミュレーションから得られた知見を、限界性や不確実性の要素も踏まえ、適切に各ユーザーに伝えることで、政策立案や津波災害による被害軽減のための沿岸地域の合意形成に対して、効果的な貢献が期待される。

### 【図表】

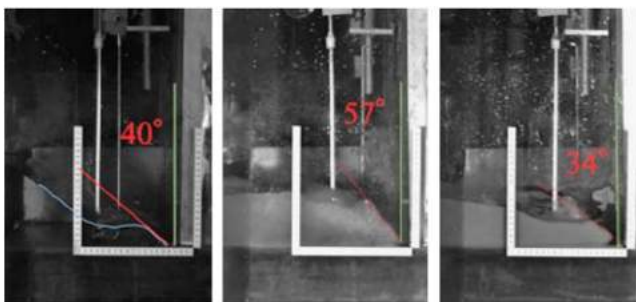


図1 衝突波面の形状  
(左:清水, 中:砂, 右:シルト)

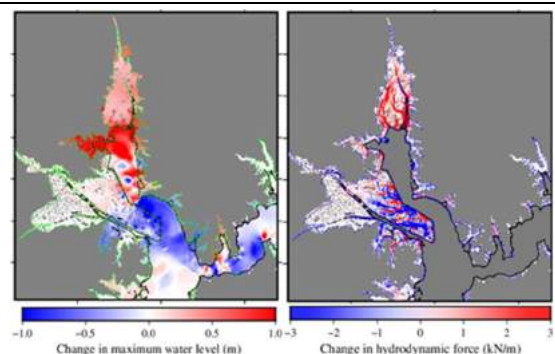


図2 土砂移動による津波ハザードの変化量  
(左:最高水位, 右:流体力)

災害研訪問日	使用した施設・設備・ 学術資料・データベース等	使用時間
・2020年6月25日(10名程度) ・2020年7月18日(2名程度) ・2021年3月5日(7名程度) ・所外より災害解析用計算機システムへアクセス	オンライン オンライン オンライン 災害解析用計算機システム	2時間 1時間 2時間 1619892 (CPU core × hour)
延べ訪問回数 0回		合計 8時間 + 1619892 (CPU core × hour)

成果として発表した論文
<b>【学術雑誌(査読有)】</b> 1. Sugawara, D., Numerical modeling of tsunami: advances and future challenges after the 2011 Tohoku earthquake tsunami, Earth-Science Reviews, 214, 103498, 2021. (IF: 9.724) 2. Baba, T., Chikasada, N., Nakamura, Y. Fujie, G., Obana, K., Miura, S., and Kodaira, S. (2020), Deep investigations of outer-rise tsunami characteristics using well-mapped normal faults along the Japan Trench, J. Geophys. Res.: Solid Earth, e2020JB020060. 125, <a href="https://doi.org/10.1029/2020JB020060">https://doi.org/10.1029/2020JB020060</a> . (IF: 3.64) 3. Ryota Masaya, Anawat Suppasri, Kei Yamashita, Fumihiko Imamura, Chris Gouramanis, and Natt Leelawat, Investigating beach erosion related with its recovery at Phra Thong Island, Thailand caused by the 2004 Indian Ocean tsunami, Natural Hazards and Earth System Sciences, 20, 2823–2841, 2020. (IF: 3.1021) 4. 木瀬晃周, 有川太郎: 土砂・シルトを含んだ津波の波力に関する実験的研究, 土木学会論文集 B2(海岸工学), Vol.76, No.2, I_385-I_390, 2020. 5. 松富英夫, 有川太郎: 津波遡上への氾濫水密度の影響, 土木学会論文集 B2(海岸工学), Vol.76, No.2, I_391-I_396, 2020. 6. 山下 啓, 菅原大助, 有川太郎, 高橋智幸, 今村文彦: 海底基盤データを利用した津波移動床解析の改善の試みー気仙沼湾での事例ー, 土木学会論文集 B2(海岸工学), Vol.76, No.2, I_427-I_432, 2020. 他 5 編 <b>【国際会議・国内学会・シンポジウム】</b> 7. 山下 啓, 土砂輸送を伴う混合流体の密度変化と運動量輸送を考慮した津波移動床解析, 第 10 回巨大津波災害に関する合同研究集会, オンライン, 2020. 8. 嶋原良典, 多田 毅, 福谷 陽: 津波災害時における消防・警察・自衛隊の救助能力と救助隊派遣規模の推定, 第 40 回地震工学研究発表会, C11-1623, オンライン, 2020. 他 6 件

学術論文 合計( 19 )編

特許・実用新案・その他の産業財産権
該当なし

合計 ( 0 )件

シンポジウム・講演会・セミナー等の開催
<b>第 10 回巨大津波災害に関する合同研究集会</b> 開催期間:2020年12月17日～18日、区分:研究集会(国内)、対象:研究者・社会人・学生 名称:第 10 回巨大津波災害に関する合同研究集会, 参加人数:138名 概要:本研究集会は、津波災害に関する研究に取り組む様々な分野の研究者や学生による学術的な交流を通じて、津波研究の発展と防災・減災に資することを目的とした研究集会である。

合計 ( 1 )件

## 災害医学・医療(2020年度)

研究課題名	1. 放射線災害で想定される慢性放射線被ばくストレスの定量	研究領域	③
研究代表者	盛武 敬		
所属機関等・職名	産業医科大学産業生態科学研究所放射線衛生管理学研究室・准教授		

### 研究組織(組織構成員の氏名・所属機関名)

◎盛武敬(産業医科大学)、○千田浩一(災害研)、稲葉洋平(災害研)、孫略(産総研)、茂呂田孝一(産業医科大学)、永元啓介(産業医科大学)、松崎賢(産業医科大学)、中上晃一(産業医科大学)、阿部利明(産業医科大学)、長谷川有史(福島県立医科大学)

期間	2020年6月1日～2021年3月31日	経費	700,000 円
----	----------------------	----	-----------

### 【研究の概要】

申請者らはこれまでに、i-STrap 法を用いた血液抗酸化能の測定によって急性放射線被ばくの線量を事後に推定することに成功し、それをトリアージ指標として利用できることを明らかにした。本研究では、福島原発事故で問題となっているような慢性的な放射線被ばくにおいても i-STrap 法による被ばく線量の推定が可能かを解析し、線量率依存的に抗酸化能が低下することを発見した。さらに、被ばく後の抗酸化能低下は一過性ではなく、死亡するまで慢性的に持続することが分かった。この慢性的な抗酸化能低下が、放射線晩発障害発症の一因となっている可能性が考えられる。

### 【研究の具体的な成果・波及効果】

- ① 《全身慢性被ばく》昨年に引き続き、マウスに線量率 1108Gy/day で 3.9 分間、線量率 42mGy/h で 3 日間、線量率 12.5mGy/h で 10 日間 (いずれも総線量 3Gy) 照射後、経時的に採血し、i-STrap 法を用いて血液抗酸化能を測定した。いずれの線量率でも被ばく後 2 日以降から有意な抗酸化能低下が確認された。一方で、線量率が高くなるほど抗酸化能の回復に時間を要した。被ばく後 50 日においても、有意差はないものの、完全にベースラインまで戻ることは無かった (Fig. 1)。
- ② 《全身急性被ばく》これまでは被ばく後 50 日までの血液抗酸化能を測定していたが、今回は被ばく後 100～800 日の血液抗酸化能と赤血球グルタチオン量を測定した。5Gy の被ばくで慢性的な血液抗酸化能の低下、1Gy 以上で慢性的なグルタチオン量の低下が観察された。この成果は Scientific Reports 誌に掲載された。

### 【図表】

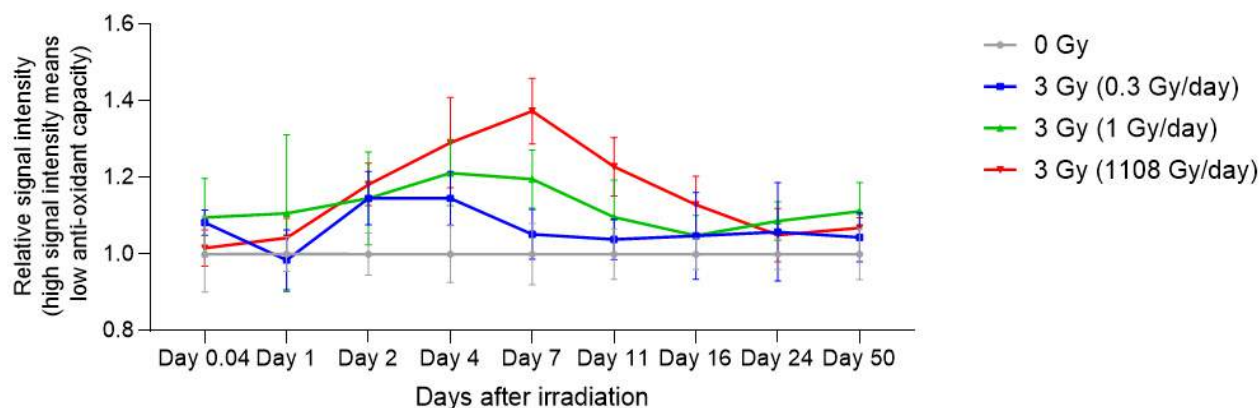


Fig.1 全身慢性被ばく後の血液抗酸化能の変化。シグナル(Y 値)が高いほど、抗酸化能が高いことを示す。なお、各測定値は対応する 0Gy で正規化した。

災害研訪問日	使用した施設・設備・ 学術資料・データベース等	使用時間
新型コロナウイルス蔓延のため、災害研への出張を自 粛した		
延べ訪問回数 0 回		合計 0 時間

成果として発表した論文
Lue Sun, Yohei Inaba, Yu Sogo, Atsuo Ito, Mahesh Bekal, Koichi Chida, Takashi Moritake ./ Total body irradiation causes a chronic decrease in antioxidant levels. / Scientific Reports / 2021 / 11, 6716 / 査読あり / IF=3.998

学術論文 合計( 1 )編

特許・実用新案・その他の産業財産権
なし

合計 ( 0 ) 件のうち、A 出願 計( 0 )件 B 取得 計( 0 )件

シンポジウム・講演会・セミナー等の開催
新型コロナウイルス蔓延のため、会議等を自粛し、電話、メール、オンラインにより必要な意見交換を行った。

合計 ( 0 ) 件

## 災害医学・医療(2020年度)

研究課題名	2. 原子力災害によりサクラ樹皮に付着した含放射性セシウム粒子による被ばくリスク研究	研究課題	③
研究代表者	杉浦 広幸		
所属機関等・職名	福島学院大学短期大学部 教授		

研究組織(組織構成員の氏名・所属機関名)

◎杉浦広幸(福島学院大学短期大学部)、○千田浩一(災害研)、渡部浩司(サイクロロンラジオアイソトープセンター)

期間	2020年6月1日～2021年3月31日	経費	252,000円
----	----------------------	----	----------

### 【研究の概要】

福島県北部を中心に、庭木表面に付着している放射性セシウムを含む不溶性汚染粒子(セシウムボール)について、イメージングプレート法と SEM を用いて調査する。それらの汚染粒子が、どの地域に、樹木のどの部位・樹種にどのくらい付着しているかを調査する。得られた調査結果から、汚染粒子の吸引等による取り込みによる被ばくリスクを予想する。

### 【研究の具体的な成果・波及効果】

成果:サクラ樹皮から強い放射線を放つスポットの、さらなる調査に取り組んだ。2021年採取の粗皮断片にも強いスポットは確認された(図1)。対象スポット周囲の多数の金属球状微粒子をエネルギー分散型蛍光 X 線分光法で調査したが、放射性セシウムを含むものはなかった。また、10 $\mu$ m サイズの粗皮断片を確認し(図2)、表面にみられるあらゆる形状の粒子を調査したが、露出している粒子の中に放射性セシウムを含むものは、確認できなかった。また、放射性セシウムを含む 100 $\mu$ m 以下に砕いたサクラ粗皮断片は帯電しており、ピンセットやカッター刃から飛び跳ねて離れることが確認された。また、実態顕微鏡では確認できない 10 $\mu$ m サイズの断片(図3)中に粒子が存在が予想されたが、柔らかいポリ袋の壁面にめり込んだ断片を砕くのは、困難を極めた。確認したい微粒子は、サイズ 2-3 $\mu$ m で、粗皮組織内部で結晶化したと予想されており、多数の粒子を確認するには、ミクロの断片の粉碎方法を工夫する必要があると思われた。

波及効果:サクラ粗皮表面にはセシウムボールは、ほぼ無い状態であった。また、粒子は水溶性の可能性が高かった。そのため、子どもがサクラの木に触れて遊ぶことでの被ばくリスクは小さくなり、外遊びの危険性は下がったと思われ、子どもの屋外遊びの推奨が期待される。

### 【図表】



図1 福島県北部で2021年に採取したサクラ粗皮断片のIP画像(曝露10分)

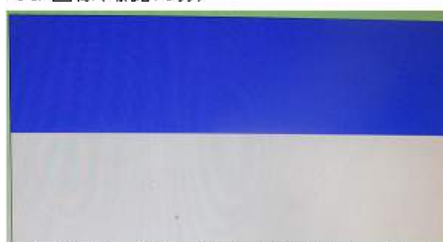


図2 選抜して1個に絞った放射線放出スポットが確認される断片のIP画像



図3 IP法で強い放射線放出スポットが確認される粗皮断片のSEM観察

災害研訪問日	使用した施設・設備・ 学術資料・データベース等	使用時間
・令和2年9月15日(訪問者数1名)	サイクロトロンラジオアイソトープセンター	8時間
・令和2年9月16日(訪問者数1名)	サイクロトロンラジオアイソトープセンター	8時間
・令和2年10月20日(訪問者数1名)	サイクロトロンラジオアイソトープセンター	8時間
・令和2年10月21日(訪問者数1名)	サイクロトロンラジオアイソトープセンター	8時間
・令和2年10月27日(訪問者数1名)	サイクロトロンラジオアイソトープセンター	8時間
・令和2年10月28日(訪問者数1名)	テクニカルサポートセンター	8時間
・令和2年11月24日(訪問者数1名)	サイクロトロンラジオアイソトープセンター	8時間
・令和元年11月25日(訪問者数1名)	テクニカルサポートセンター	8時間
・令和2年12月1日(訪問者数1名)	サイクロトロンラジオアイソトープセンター	8時間
・令和2年12月2日(訪問者数1名)	サイクロトロンラジオアイソトープセンター	8時間
・令和3年2月9日(訪問者数1名)	サイクロトロンラジオアイソトープセンター	8時間
・令和3年2月10日(訪問者数1名)	テクニカルサポートセンター	8時間
・令和3年3月10日(訪問者数1名)	サイクロトロンラジオアイソトープセンター	8時間
・令和3年3月11日(訪問者数1名)	サイクロトロンラジオアイソトープセンター	8時間
・令和3年3月17日(訪問者数1名)	サイクロトロンラジオアイソトープセンター	8時間
・令和3年3月23日(訪問者数1名)	テクニカルサポートセンター	8時間
・令和3年3月24日(訪問者数1名)	テクニカルサポートセンター	8時間
延べ訪問回数 17回		合計 136時間

成果として発表した論文
・杉浦広幸・渡部浩司・千田浩一, 福島のサクラ粗皮に付着したスポット状の放射性セシウム汚染の調査. 第19回日本放射線安全管理学会学術大会. 3A-2.

学術論文 合計(1)編

特許・実用新案・その他の産業財産権
なし

合計(0)件のうち、A出願計( )件 B取得計( )件

シンポジウム・講演会・セミナー等の開催
(社)世界の子供たちのために Web講演(2021.3.23、You Tube 2021.4.10)

合計(1)件

## 災害医学・医療(2020年度)

研究課題名	3. 被災ニホンザルを用いた慢性複合放射線被ばく者外挿モデルの構築	研究領域	③
研究代表者	三浦 富智		
所属機関等・職名	弘前大学被ばく医療総合研究所・教授		

### 研究組織(組織構成員の氏名・所属機関名)

◎三浦富智(弘前大学・被ばく医療総合研究所)、○鈴木正敏(災害科学国際研究所)、○千田浩一(災害科学国際研究所)、Goh Valerie Swee Ting(シンガポール国立大学)、中山亮(弘前大学大学院保健学研究科)、竹林花依(弘前大学大学院保健学研究科)

期間	2020年6月1日～2021年3月31日	経費	498,000 円
----	----------------------	----	-----------

### 【研究の概要】

原爆被爆者や高自然放射線地域住民における染色体転座法による被ばく線量評価では、個人の外部被ばく線量と内部被ばく線量の詳細が不明である。本課題では、放射線慢性被ばく事故時にヒト線量評価に外挿可能なモデル構築を目的とし、ニホンザル慢性被ばくモデルを用いて転座発生頻度における被ばく形態の影響を研究する。

### 【研究の具体的な成果・波及効果】

#### <成果>

鈴木正敏講師が中心となって実施している被災ニホンザルプロジェクトにおいて、血液リンパ球の染色体転座頻度と被ばく線量との解析により、以下の成果が得られた。

1. ニホンザルにおいてもヒトと同様に年齢依存性に染色体転座の自然発生頻度が増加する可能性が示唆された(図1)。
2. 環境中放射線の減衰とともに、染色体転座頻度が減少する傾向が認められた(図2)。これまで、ヒトの染色体転座の生物学的半減期は長く、遡及的線量評価が可能と考えられてきた。しかし、低線量率慢性被ばくにより誘導された染色体転座の生物学的半減期はこれまでの報告とは異なり、短いと推測される(図3)。この知見は、本研究で明らかとなった新たな知見である。
3. 被ばく線量との染色体転座の関係を解析した結果、染色体転座頻度は被ばく線量(率)に依存すると考えられるが、その関係性は線形ではなく、より複雑な要因が関与すると考えられる(図4)。

#### <波及効果>

低線量率慢性被ばくにより誘導された染色体転座の生物学的半減期は短いことから、環境の回復とともに生体内に残存する放射線によってダメージを受けた細胞が減少すると考えられる。このことは、低線量率慢性被ばくの健康リスクが環境回復とともに減少することを意味しており、被災住民の不安軽減につながる。また、原子力災害発生後のリスクコミュニケーションにおいて重要な科学的根拠となりうる。

### 【図表】

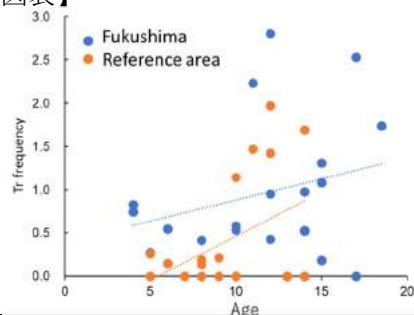


図1. ニホンザル血液リンパ球における染色体転座頻度と個体年齢との関係。

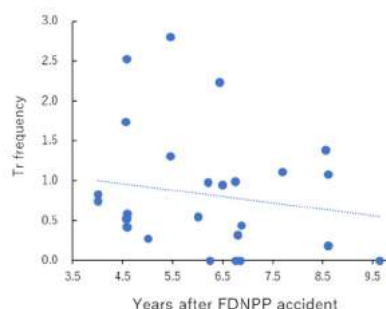


図2. ニホンザル血液リンパ球における染色体転座頻度の経年変化。



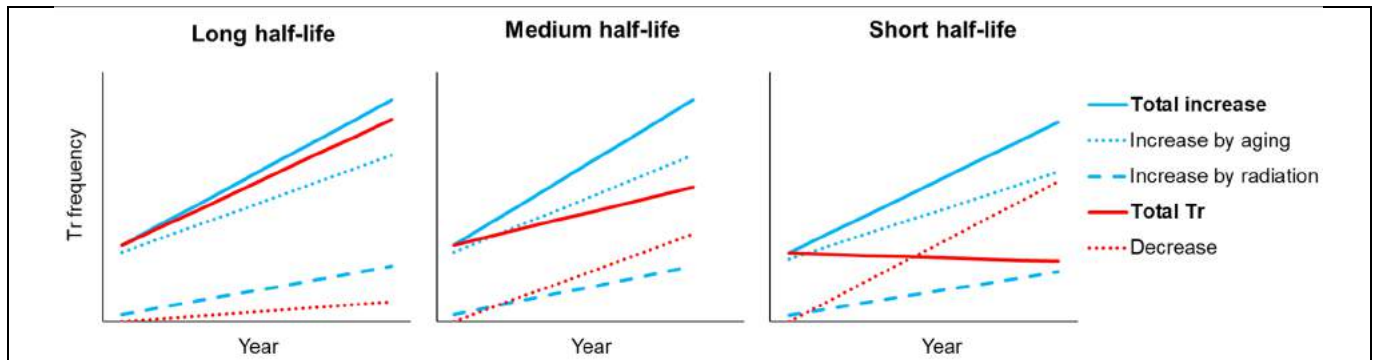


図 3. 血液中で検出される染色体転座頻度の線形シミュレーション. 検出される染色体転座頻度はその生物学的半減期によって異なる.

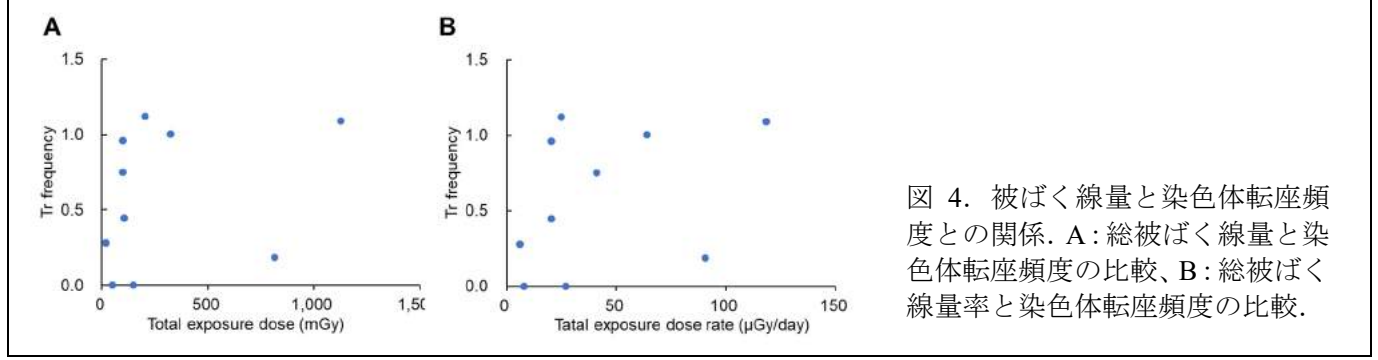


図 4. 被ばく線量と染色体転座頻度との関係. A: 総被ばく線量と染色体転座頻度の比較、B: 総被ばく線量率と染色体転座頻度の比較.

災害研訪問日	使用した施設・設備・ 学術資料・データベース等	使用時間
・令和 2 年 12 月 15 日 (1)	会議室 1 ニホンザル生体情報データ	2 時間
延べ訪問回数 ( 1 ) 回		合計 2 時間

成果として発表した論文  
なし

学術論文 合計 ( 0 ) 編

特許・実用新案・その他の産業財産権  
なし

合計 ( 0 ) 件のうち、A 出願 計 ( ) 件 B 取得 計 ( ) 件

シンポジウム・講演会・セミナー等の開催  
※備考: 本研究が令和 3 年度 5 月 9 日 ( 仮 ) の NHK スペシャルで報道予定

合計 ( 0 ) 件

## 災害医学・医療(2020年度)

研究課題名	4. CBRNE 災害後の間接的健康被害測定指標に関する研究	研究領域	③
研究代表者	越智 小枝		
所属機関等・職名	東京慈恵会医科大学 臨床検査医学講座・講師		

研究組織(組織構成員の氏名・所属機関名)

◎越智小枝(東京慈恵会医科大学)、○江川新一(災害研)

期間	2020年6月1日～2021年3月31日	経費	400,000円
----	----------------------	----	----------

### 【研究の概要】

本研究は、大災害時に共通して起こり得る健康被害につき文献レビューを行い、その健康影響を一次被害・二次被害に分類した上で起こり得る事象とその健康被害の大きさを測定するために必要なデータにつき要約した。

健康被害については The Routledge Handbook of Hazards and Disaster Risk Reduction に示された 4 種の marginalization を元に分類、下図のように図式化した。最終的に福島県立医科大学公衆衛生大学院の安村教授初めスタッフとのミーティングでブラッシュアップを行った。

<災害時の 4 種の marginalization>

1. Geographical marginalization: 避難・移住などの地理的孤立
2. Social marginalization: 高齢化・過疎化・地域崩壊による社会的孤立
3. Economic marginalization: 喪失・失業などによる経済的孤立
4. Political marginalization: 補償格差・政策の対象外などによる政治的孤立

また新型コロナウイルスパンデミックの発生を受け、感染リスクを上げる行動様式についてのアンケート調査を追加した。

### 【研究の具体的な成果・波及効果】

図に示す通り災害急性期、中期、慢性期のそれぞれについての健康被害につきまとめた。また少なくとも東日本大震災においては住民当たりの医療費・病床当たり医療費・病床当たり入院日数が増加していることが確認され、これが他災害に共通であるか否かにつき今後解析を進める予定である。

また新型コロナウイルス感染リスクについては、マスクの着用・手洗い・人との距離確保などは感染リスクを下げる一方、頻回の着替えや持ち物の消毒、外出控え、毎日のテレワークなどはむしろ高い感染率と相関していることが判明し、過剰な感染対策がむしろ感染リスクを増す可能性も示された。これについては繰り返しのアンケートにより同じ傾向が持続するか否かを観察予定である。

介護施設に特化したガイドラインについては作成済みであり、今後論文等を用い公開予定である。

【図表】

要約

赤:急性期、黄色:中期~中長期、緑:長期・慢性期

孤立の種類	予測される事象	1次アウトカム	2次アウトカム	総合(重複削除)
地理的孤立	避難生活 衛生状態悪化 ストレスの増加 運動量の低下 食生活の変化 依存症増加	感染症:インフルエンザ、ノロ、結核 生活習慣病 妊娠合併症 フレイル 精神疾患 COPD	感染症 脳梗塞 心筋梗塞 誤嚥性肺炎 骨折 自殺 介護度の増加 がん	行政データ 総死亡率 がん死 自殺(年齢別) 介護受給者・介護度 ワクチン接種率 肥満 医療機関データ 医療機関の赤字率 救急受診件数 患者データ 糖尿病・高脂血症・高血圧 (治療あり、なし) 脳梗塞 心筋梗塞 骨折 誤嚥性肺炎 感染症:結核、麻疹、風疹、子宮頸がん、 インフルエンザ、ノロ(急性期)、ロタ、レジオネラ
社会的孤立	高齢化・過疎化 →不明 サービスの減少 医療機関受診率 健診受診率 予防医療提供 教育サービス 差別 精神的ストレス	ワクチン接種率 精神疾患 大学進学率 若年層世帯収入 未治療の生活習慣病 進行がん	心筋梗塞 脳梗塞 麻疹・風疹・子宮頸がん・ インフルエンザ 高齢者の自殺 がん死	人工中絶、妊娠合併症 若年者の外傷 アルコール性疾患、肝硬変 COPD 肺炎 依存症 性交感染症 アレルギー疾患 経済指標その他 収入格差(年代・性別) 新築の地理的条件や値段tc エンゲル係数? 健康格差 大学進学率 若年層世帯収入
経済的孤立	ものの喪失 居住環境 食生活の悪化 失業、生活保護の増加 収入減 支出増・借金増	感染症:レジオネラ アレルギー疾患:シックハウス、ハウスダスト 精神疾患 肥満 低栄養 医療支出減	ロタウイルス 中年者の自殺 心筋梗塞、脳梗塞 がん	
政治的孤立	補償受領による影響 依存の増加 パートタイマーの減少 差別	女性・若年者収入の減少? アルコール性疾患 COPD 依存症	肺炎 肝硬変	
その他	大量の作業員流入 差別の拡大 家庭内暴力・ネグレクト	医療費未払い 未成年の出産率の増加 人工中絶 若年者の外傷 性交感染症	医療機関の赤字 救急受診の増加 健康格差の拡大 若年者の自殺	

災害研訪問日	使用した施設・設備・ 学術資料・データベース等	使用時間
・令和2年11月5日(1人) ・令和3年2月11日(1人)	なし なし	3時間 3時間
延べ訪問回数 2回		合計6時間

成果として発表した論文 Ochi S. Science communication in Fukushima - understanding non-scientific rationality. <i>Journal of Radiation Research</i> (In Press) 執筆中
--

学術論文 合計(1)編

特許・実用新案・その他の産業財産権 なし
-------------------------

合計(0)件のうち、A出願 計( )件 B取得 計( )件

シンポジウム・講演会・セミナー等の開催 なし
---------------------------

合計(0)件

## 災害医学・医療(2020年度)

研究課題名	5. 経時活動記録のテキストマイニングによるリアルタイム災害対策予測法の確立	研究領域	③
研究代表者	田代 雅実		
所属機関等・職名	福島県立医科大学・助教		

研究組織(組織構成員の氏名・所属機関名)

◎田代雅実(福島県立医科大学)、○稲葉洋平(災害科学国際研究所)、○千田浩一(災害科学国際研究所)、島田二郎(福島県立医科大学)

期間	2020年6月1日～2021年3月31日	経費	411,000 円
----	----------------------	----	-----------

### 【研究の概要】

災害時の医療活動で作成される、経時活動記録をテキストマイニングによって分析を行い、経時活動記録の単語の使用頻度や傾向、相関関係などの特徴を取得する。様々な災害の経時活動記録を解析することによって、災害対応時にリアルタイムに需要を予見し対策を講じることを目標とする。

### 【研究の具体的な成果・波及効果】

令和元年台風19号における福島県の医療対応の経時活動記録をテキストマイニングで分析を行った。経時活動記録の文字数は、超急性期から急性期にかけて増加し、亜急性期で急減した。また、活動期間中に頻出した語は、避難所、病院、DMAT、確認、本部であり、超急性期でDMATや病院、急性期に避難所、亜急性期に確認というように、災害の時期により変化を見せた。上記分析を他災害で適用することで、医療チームの撤収時期や医療需要などをリアルタイムに予見できる可能性がある。

### 【図表】

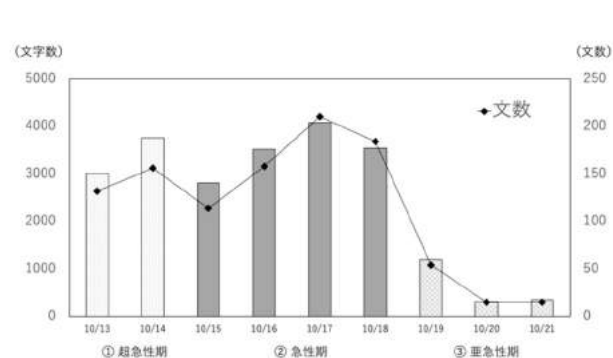


図 経時活動記録の文字数と文数の推移

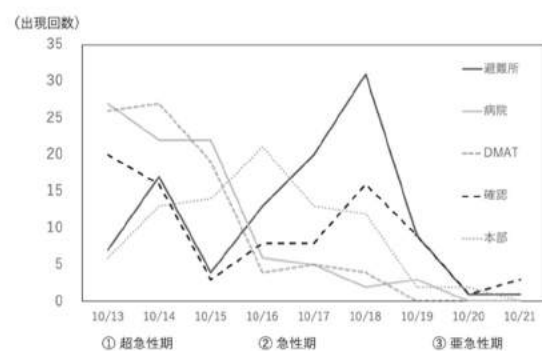


図 頻出した語の日ごとの推移

災害研訪問日	使用した施設・設備・ 学術資料・データベース等	使用時間
<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和2年12月21日(訪問者数1名)</li> <li>・令和3年3月2日(訪問者数1名)</li> </ul>	東北大学医学部保健学科 中 会議室 東北大学病院 DMAT が記録し た災害記録	2時間 2時間
延べ訪問回数 2回		合計4時間

成果として発表した論文
なし

学術論文 合計(0)編

特許・実用新案・その他の産業財産権
なし

合計(0)件

シンポジウム・講演会・セミナー等の開催
令和3年3月29日 災害科学国際研究所の稲葉先生に、福島医大に来て頂き、災害研共同利用研究の内容にて打ち合わせを行った。 具体的には、DMATとしての災害医療活動、経時活動記録、EMISについて意見交換を行い、当該研究の確立に向けた有用な情報が得られた。

合計(1)件

## 災害医学・医療(2020年度)

研究課題名	6. 身体的弱者の避難生活でのリスク低減と QOL 向上を目的とした産学共同研究	研究領域	③
研究代表者	坪内 暁子		
所属機関等・職名	順天堂大学大学院医学研究科研究基盤センター・助教		

### 研究組織(組織構成員の氏名・所属機関名)

◎坪内暁子(順天堂大)、○佐藤健(災害研)、○今村文彦(災害研)、○佐々木宏之(災害研)、内藤俊夫(順天堂大)、奈良武司(医療創生大)、仲田悦教(山手情報処理センター)、守屋継大(東北イノアック)

期間	2020年6月1日～2021年3月31日	経費	700,000円
----	----------------------	----	----------

### 【研究の概要】

基礎疾患患者・高齢者・障害者・妊婦等身体弱者にとっての避難所生活は、健常者以上に不自由で、しかも重症化や死亡のリスクが高まる状況といえる。本課題では、新宿区の成城学校避難所地域住民や生徒の協力を得て、整形外科分野の間診時に用いられる痛み等の評価表形式で調査を行い、災害ベッドや防災用品の研究を進める。

### 【研究の具体的な成果・波及効果】

28年度調査の高齢等身体的弱者の回答では、避難所を利用しない理由として、生活上支障があるから、また、避難所生活での心配事として、感染症罹患・症状の悪化・生活介護の困難さといった回答が多かった。そこで本課題では、東北イノアックとの連携で災害ベッド試作品試行並びに快適度等の調査を実施、身体的弱者の避難所生活でのリスク低減とQOL向上に繋がる結果を得た。地方都市と異なり、首都圏では避難所環境は東北等とは比較にならないくらい厳しいが、便利な生活に慣れている都会の住民は避難所でも快適を求める傾向が強い。波及効果として、日本で遅れている避難所QOL向上の推進と、逆に在宅避難の推奨へと、社会が進んでいくことが考えられる。

### 【図表】

質問間の相関関係		Q8-2-1 横になった時の快適さ/ジョイントマット	Q8-2-2 横になった時の快適さ/一般的アルミシート	Q8-2-3 横になった時の快適さ/ウレタンアルミシート	Q8-2-4 横になった時の快適さ/ダンボールベット	Q8-2-5 横になった時の快適さ/ウレタンベット
Q8-2-1.横になった時の快適さ/ジョイントマット	相関係数	1	0.245	0.284	0.345	0.324
	有意確率(両側)		0.014	0.004	0.000	0.001
	度数	102	101	100	100	100
Q8-2-2.横になった時の快適さ/一般的アルミシート	相関係数	0.245	1	0.753	0.229	0.179
	有意確率(両側)	0.014		0.000	0.021	0.071
	度数	101	103	101	102	102
Q8-2-3.横になった時の快適さ/ウレタンアルミシート	相関係数	0.284	0.753	1	0.355	0.305
	有意確率(両側)	0.004	0.000		0.000	0.002
	度数	100	101	101	100	100
Q8-2-4.横になった時の快適さ/ダンボールベット	相関係数	0.345	0.229	0.355	1	0.675
	有意確率(両側)	0.000	0.021	0.000		0.000
	度数	100	102	100	102	101
Q8-2-5.横になった時の快適さ/ウレタンベット	相関係数	0.324	0.179	0.305	0.675	1
	有意確率(両側)	0.001	0.071	0.002	0.000	
	度数	100	102	100	101	102



災害ベッド試作品ほかの試行の様子

◆普段寝ている寝具別					
Q8-2-1.横になった時の快適さ/ジョイントマット					
	有効な N	平均値	標準偏差	中央値	p値
ふとん	38	4.47	2.36	5	0.214
ベッド	61	5.10	2.10	5	
Q8-2-2.横になった時の快適さ/一般的アルミシート					
	有効な N	平均値	標準偏差	中央値	p値
ふとん	38	2.32	1.68	2	0.225
ベッド	62	1.97	1.79	2	
Q8-2-3.横になった時の快適さ/ウレタンアルミシート					
	有効な N	平均値	標準偏差	中央値	p値
ふとん	37	3.19	2.01	3	0.278
ベッド	61	2.85	2.13	2	
Q8-2-4.横になった時の快適さ/ダンボールベット					
	有効な N	平均値	標準偏差	中央値	p値
ふとん	37	5.84	2.01	6	0.656
ベッド	62	5.67	2.25	5	
Q8-2-5.横になった時の快適さ/ウレタンベット					
	有効な N	平均値	標準偏差	中央値	p値
ふとん	38	5.66	1.60	6	0.453
ベッド	62	5.35	2.33	5.5	

災害研訪問日	使用した施設・設備・ 学術資料・データベース等	使用時間
・令和3年3月17日(訪問者数4名)	1階セミナー室	4時間
延べ訪問回数(1)回		合計4時間

成果として発表した論文
1. 坪内暁子, Fan Chia-Kwung, Liao Chen-Wei, Lee Yuarn Jang, Chou Chia-Mei, Jian Jiun-Yu, 仲田悦教, 内藤俊夫, 丸井英二, 奈良武司, 2010年に実施した日台比較調査結果を基にした日本のコロナ対策に関する一考, 生存科学, Vol.31(2), pp.83-96, 査読有, 国際
2. 坪内暁子, 内藤俊夫, 佐藤健, 佐々木宏之, 今村文彦, 仲田悦教, 范家堃, 奈良武司, 国際都市新宿区の成城学校避難所地域住民にむけた新型コロナウイルス COVID-19 予防策(No.3), 地域ケアリング, Vol.23(2), 2021年, pp.42-45, 査読無, 国際
3. 坪内暁子, 内藤俊夫, 佐藤健, 佐々木宏之, 今村文彦, 仲田悦教, 范家堃, 奈良武司, 気候変動で高まる災害リスク: 感染症教育と災害教育の重要性, アグリバイオ, Vol.4(9), 2020年, pp.71-76, 査読無, 国際
4. 坪内暁子, 内藤俊夫, 土屋陽子, 佐藤健, 佐々木宏之, 仲田悦教, 栗原卯田子, 村岡信二, 土屋勝, 里吉邦子, 金子政巳, 矢野勝之, 向山晴子, 有賀平, 沖山雅彦, 柳澤吉則, Fan Chia-Kwung, 佐伯潤, 大槻公一, 今村文彦, 丸井英二, 奈良武司, 少子高齢化時代の都市型災害対策; Health・Coexistence・Well-beingを意識した社会基盤システムの検討, 生存科学, Vol.30(2), 2020年, pp.107-121, 査読有, 国際
5. 坪内暁子, 新型コロナウイルス感染症 COVID-19 対策で日本が台湾から学ぶべきこと, 危機管理システム研究学会 ARIMASS Letter, No.71, 2020年, pp.4-7 ( <a href="https://www.arimass.jp/">https://www.arimass.jp/</a> ), 査読無, 国際
6. 坪内暁子, 内藤俊夫, 佐藤健, 佐々木宏之, 今村文彦, 仲田悦教, 范家堃, 奈良武司, 国際都市新宿区の成城学校避難所地域住民にむけた新型コロナウイルス COVID-19 予防策(続報), 地域ケアリング, Vol.22(6), 2020年, pp.72-75, 査読無, 国際
7. 坪内暁子, 内藤俊夫, 佐藤健, 佐々木宏之, 今村文彦, 仲田悦教, 范家堃, 奈良武司, 国際都市新宿区の成城学校避難所地域住民にむけた新型コロナウイルス COVID-19 予防策, 地域ケアリング, Vol.22(4), 2020年, pp.68-73, 査読無, 国際

学術論文 合計(7)編

特許・実用新案・その他の産業財産権
・なし

合計(0)件のうち、A出願 計( )件 B取得 計( )件

シンポジウム・講演会・セミナー等の開催
1. イベント: 令和3年3月27日(土), 成城学校, 東京都生活文化局男女平等課広報へのイベント協力, 東京都による地域で活躍する女性の紹介映像, 令和元年東京都女性活躍推進大賞(地域部門)受賞者インタビュー等, 参加者14名 ※ 都内の区市町村の防災部署や男女共同参画部署等を中心に令和3年度6月頃に配信
2. 講演会: 令和2年11月28日(土), 江戸川区児童相談所, 育児世代を応援する楽しい講座はあとポート「はあとシップ・プロジェクト」育児世代を応援する楽しい講座, 家庭防災—家族といっしょに避難と避難所生活について考えてみよう—, 参加者限定5組10名
3. イベント: 令和2年11月14日(土), 宝録稲荷神社(新宿区), 地域住民等に向けた防災訓練での災害ベッド試行, 参加者105名
4. パネルディスカッション(オンライン): 令和2年10月24日(土), 危機管理システム研究学会第20回年次大会パネルディスカッション, コロナ禍におけるリスクマネジメント, 参加者40名
5. 講演会: 令和2年10月3日(土), 江戸川区児童相談所, はあとポート「はあとシップ・プロジェクト」育児世代を対象とした感染症講座, 家庭での感染症対策—新型コロナウイルス感染症—, 参加者限定5組15名
6. セミナー(オンライン): 令和2年9月17日(木), 株式会社明電舎, 一般社団法人未来技術推進協会「今こそ考えるBCP×SDGs」, 講演テーマ: 気候変動の影響への適応—災害や感染症のリスク低減に向けた社員等への対策—, 参加者80名

合計(6)件

災害医学・医療(2020年度)

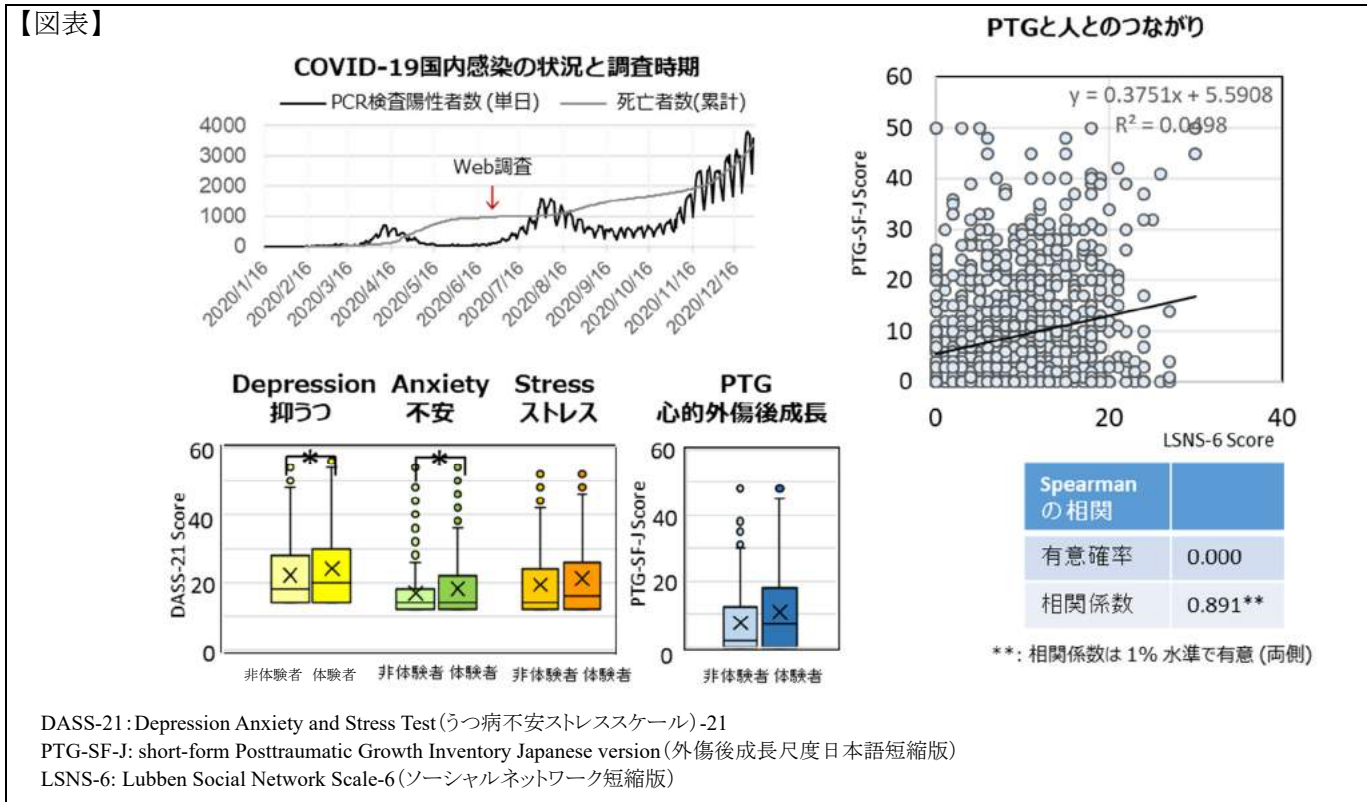
研究課題名	7. COVID-19 感染のストレスにおける心的脆弱性の検出とその改善に関する研究	研究領域	③
研究代表者	福田 雄		
所属機関等・職名	ノートルダム清心女子大学 文学部・講師		

研究組織(組織構成員の氏名・所属機関名)  
 ◎福田雄(ノートルダム清心女子大学・文学部)、○門廻充侍(東北大学・災害科学国際研究所)、奥山純子(東北大学・病院)

期間	2020年6月1日～2021年3月31日	経費	600,000 円
----	----------------------	----	-----------

**【概要】**  
 近年、自然災害の発生頻度増加に伴い、災害を経験する人が増加している。このような背景において、被災経験が人間に与える新たな可能性を探求することが、「災害の経験とともに歩み続ける時代」に必要とされているのではないだろうか。本研究では、ストレスのかかる新型コロナウイルス感染症の流行下において、心理状態と心的外傷後成長(PTG)に関する Web 調査を行い、被災経験の影響を検討した。

**【具体的な成果・波及効果】**  
 本研究では新型コロナウイルス感染症の流行下において、過去の被災経験が心理状態の悪化につながる事が確認された。その一方で、被災経験は、PTG を増加させるというポジティブな影響をもつことが初めて明らかになった。この PTG を増加させる因子の一つとして、社会的つながりがある点が示された。この PTG に関する因子の特定が、災害の経験とともに歩み続けるための、今後の支援につながる事が期待される。





災害研訪問日	使用した施設・設備・ 学術資料・データベース等	使用時間
・令和2年4月30日(1)	Zoom・研究資料の確認	2時間
・令和2年5月13日(1)	Zoom・研究資料の確認	2時間
・令和2年5月25日(1)	502号室	3時間
・令和2年5月28日(1)	Zoom・研究資料の確認	2時間
・令和2年6月8日(1)	Zoom・研究資料の確認	2時間
・令和2年6月10日(1)	Zoom・研究資料の確認	2時間
・令和2年9月10日(2)	Zoom・研究データの確認	3時間
・令和3年1月27日(1)	502号室	3時間
・令和3年3月24日(3)	Zoom・研究データの確認	2時間
延べ訪問回数 9回		合計 21時間

成果として発表した論文
<p>【論文】</p> <p>1. 総説: <u>Junko Okuyama</u>, <u>Shuji Seto</u>, <u>Yu Fukuda</u>, Shunichi Funakoshi, Shintaro Amai, Jun Onobe, Shinichi Izumi, Kiyoshi Ito, Fumihiko Imamura: Mental Health and Physical Activity among Children and Adolescents during the COVID-19 Pandemic, The Tohoku Journal of Experimental Medicine, 253, 203-215, 査読有, IF 1.441</p> <p>【学会発表】</p> <p>2. <u>奥山純子</u>, <u>門廻充侍</u>, <u>福田雄</u>, 鈴嶋よしみ, 出江紳一: 新型コロナウイルス感染症(COVID-19)流行における外出制限と心理的苦痛との関連性, 第48回日本リハビリテーション医学会東北地方会, 令和2年10月3日, 100名.</p> <p>3. <u>奥山純子</u>, <u>門廻充侍</u>, <u>福田雄</u>: 新型コロナウイルス感染症の流行下におけるストレスと心的外傷後成長に関する研究, 第36回日本ストレス学会学術総会, 令和2年10月29日, 250名.</p> <p>4. <u>奥山純子</u>, <u>門廻充侍</u>, <u>福田雄</u>: 新型コロナウイルス感染症(COVID-19)流行下における心的外傷後成長に関する研究, 2020年度水域の災害・環境問題に関する研究集会, 令和2年11月27日, 40名.</p> <p>5. <u>奥山純子</u>, <u>門廻充侍</u>, <u>福田雄</u>: 新型コロナウイルス感染症に対する心的外傷後成長の検討, 第68回日本職業・災害医学会学術大会, 令和2年12月15日, 2,315名.</p>

学術論文 合計(1)編

特許・実用新案・その他の産業財産権
該当なし

合計(0)件

シンポジウム・講演会・セミナー等の開催
該当なし

合計(0)件

## 防災人材育成学(2020年度)

研究課題名	1. 避難訓練の持続可能な評価・改善に向けた学校・行政・研究者による協働モデル構築	研究領域	④
研究代表者	林田 由那		
所属機関等・職名	宮城教育大学・特任助教		

### 研究組織(組織構成員の氏名・所属機関名)

◎林田由那(宮城教育大学)、○佐藤健(東北大学災害科学国際研究所)、戸田芳雄(学校安全教育研究所)、小田隆史(宮城教育大学)、伊藤哲也(宮城県教育庁スポーツ健康課)、遠藤貞悟(宮城県教育庁スポーツ健康課)、安田弘秋(宮城県教育庁スポーツ健康課)

期間	2020年6月1日～2021年3月31日	経費	697,000円
----	----------------------	----	----------

### 【研究の概要】

本研究の目的は、宮城県の公立学校において実施されている避難訓練について、学校・行政・研究者の協働により共通の評価の指標を開発し、当該指標に基づき県内全校・園の避難訓練を評価し、更にそれを三者が平素から協働し持続可能な形で改善していくことで、学校を拠点に地域の防災人材の育成に寄与することを目指すものであった。「生きる力を育む学校での安全教育」(文部科学省/2019)、「学校の危機管理マニュアル作成の手引」(文部科学省/2018)、「学校防災マニュアル(地震・津波災害)作成の手引き」(文部科学省/2012)等の刊行物の分析により、避難訓練を実施する際の着眼点に関する記述を分析し、児童生徒等および教職員のそれぞれの避難訓練中の言動・取組等と対応させながら、チェック項目を作成した。当該チェック項目をもとに、宮城県内学校において、試行を繰り返し、避難訓練を評価する際のチェック項目の開発を行った。

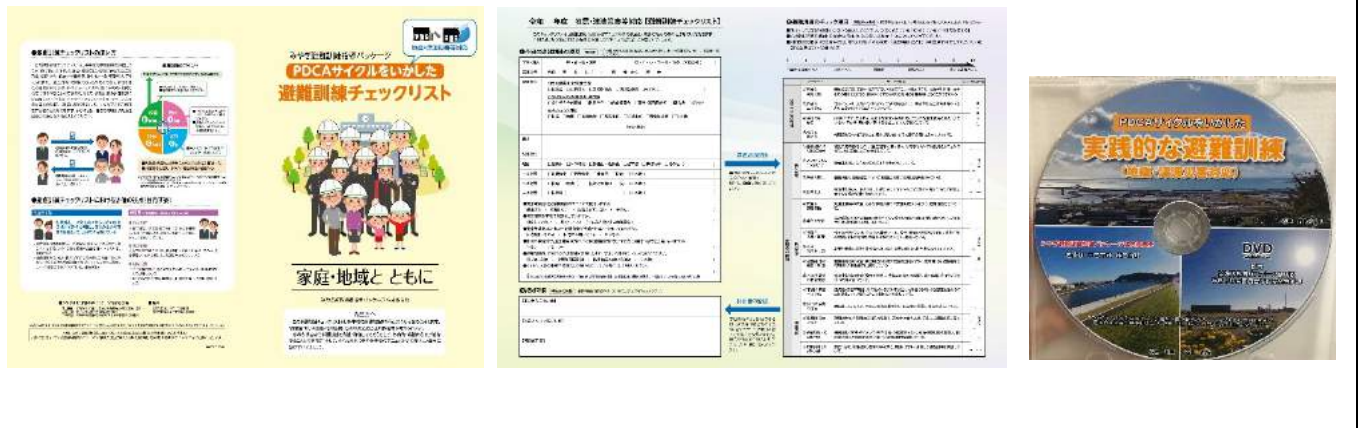
### 【研究の具体的な成果・波及効果】

本研究の具体的な成果として、学校で実施する避難訓練の普遍的な評価指標を開発し、それを「避難訓練チェックリスト」として、あらゆる第三者が使用可能な成果物として発信した。学校で実施する避難訓練は、毎回同様の内容とすることなく、評価・改善を繰り返していくことが重要である。しかしながら、その評価については、共通の評価指標はこれまで存在せず、各学校において十分な評価が実施できているとは言えない状況にあった。そこで、本研究において、前述の刊行物等から学校で実施する避難訓練の着眼点に関する記述を収集・分析し、避難訓練を評価する際の評価の視点を明確にした。その後、その評価の視点を児童生徒等および教職員の避難訓練中の具体的な言動・取組等と対応させることで、チェック項目を作成した。そして、第一期から第三期までの試行期間を設け、実際の避難訓練を宮城県内の教職員等に参観してもらい、試行を繰り返しながらチェック項目を精査した。この試行には延べ約200名が参加した。これらの過程を経て完成したチェック項目および数件の記述項目等を含め、避難訓練チェックリストとして宮城県内の学校、他県の教育委員会、官公庁等に配布した。また避難訓練チェックリストにおける各チェック項目を、視覚的にも確認できるよう動画教材として避難訓練DVDも制作・配布した。当該DVDは、宮城県内の学校で実施された実際の避難訓練を複数台のカメラで撮影し、各シーンに解説を加えたものである。授業中の発災(地震・津波災害)を想定した小学校における避難訓練、および部活動中の発災を想定した中学校における避難訓練を収録した。これは、教育委員会や各学校における教員研修の際に使用することを想定して作成したものである。実際の避難訓練と開発した評価指標の対応を確認できるもので、教職員が避難訓練を客観的に観察する視点を強化することが可能となった。

本研究の波及効果として、学校で実施される避難訓練を、あらゆる第三者が多角的・客観的に観察・評価できるようになったことが挙げられる。これまで、自校の教職員を中心として実施されていた避難訓練の評価に、他校の教職員・警察や消防関係者、自治体関係者、ひいては、保護者・地域住民等も評価をし、各自の知識・経験等を学校に伝達することが可能となった。これにより、地域に根ざした学校防災の推進が一層図られていくことが期待される。

【図表】

本研究の成果物として作成した避難訓練チェックリスト(左・中)および、避難訓練 DVD(右)をここに示す。避難訓練チェックリストは、A3 版となっており、各学校が評価者にコピーの上、配布することを想定している。



災害研訪問日	使用した施設・設備・ 学術資料・データベース等	使用時間
<ul style="list-style-type: none"> <li>令和2年7月30日(4名)</li> <li>令和2年7月31日(4名)</li> <li>令和2年9月16日(4名)</li> <li>令和2年10月28日(4名)</li> <li>令和2年10月29日(4名)</li> <li>令和3年3月13日(4名)</li> </ul>	佐藤健研究室 佐藤健研究室 佐藤健研究室 佐藤健研究室	10時間 5時間 9時間 7時間
延べ訪問回数 6回		合計 31時間

成果として発表した論文 ・林田由那・戸田芳雄／佐藤健／宮城県の学校における避難訓練の評価手法の開発に向けた実践報告／日本安全教育学研究／第20巻第2号／2021.3／pp.39-50／査読有／国内
---

学術論文 合計(1)編

特許・実用新案・その他の産業財産権 なし
-------------------------

合計(0)件のうち、A出願計( )件 B取得計( )件

シンポジウム・講演会・セミナー等の開催 ・2020.10-2020.11／講演／国内／宮城県内全ての学校の安全担当主幹教諭および防災主任／宮城県学校安全等指導者研修(東部地区、大崎地区、大河原地区、気仙沼地区、仙台地区の計5箇所にて講演)／約700名／「学校防災マニュアル見直し」をテーマに避難訓練評価の重要性を解説した。
--

合計(1)件

# 防災人材育成学(2020年度)

研究課題名	2. 学区の災害リスク理解のための地図を活用した教員研修・評価モデルの開発	研究領域	④
研究代表者	桜井 愛子		
所属機関等・職名	東洋英和女学院大学・教授		

研究組織（組織構成員の氏名・所属機関名）
◎桜井愛子（東洋英和女学院大学国際社会学部）、○佐藤 健（東北大学災害科学国際研究所）、柴山明寛（東北大学災害科学国際研究所）、村山良之（山形大学教職大学院）、小田隆史（宮城教育大学防災教育研修機構）

期間	2020年6月1日～2021年3月31日	経費	669,000円
----	----------------------	----	----------

【研究の概要】 本研究では、地形図、ハザードマップ、災害記録アーカイブ等を活用した学区の災害リスク理解のための教員研修／評価モデルを開発するとともに、オンライン講座「学区の地図を活用した災害リスクの理解」として東北大学災害科学国際研究所防災教育国際協働センターHPで公開した（<http://dredu-collabo.sakura.ne.jp/ja/online>）。オンライン講座の構成と内容を図1に示す。オンライン講座はガイダンスに続き、5つの研修から構成され、合計123分の講義に加えて4つの演習を含む。オンライン講座HPでは、演習用ワークシート、宮城県全中学校区の学区境界線入地形図をダウンロードできるようになっており、オンライン講座とあわせて活用可能である。

【研究の具体的な成果・波及効果】 地形図・治水分類図等、国土地理院地図を活用しており、石巻市、宮城県での実践を踏まえた研修モデルが構築され、HPで公開されたことにより、今後全国の学校教員による活用が期待でき、実践的防災政策に寄与することが可能となった。コロナウィルス感染拡大防止のため、オンライン講座を活用した宮城県防災主任初任者研修が来る5月末に予定されており、実際に開発したオンライン講座の実践と活用が可能となった。

【第1図】オンライン講座「地図を活用した学区の災害リスクの理解」の構成(左)と内容例(中央、右)

中央上:研修0 ガイダンス

中央中:研修1 学区ハザードマップを読む

中央下:研修2 学区の地形図を読む

右上:研修3 学区の地形分類図を読む

右中:研修4 学区の地形からハザードマップの想定外も考える

右下:研修2 学区内での避難について考える

災害研訪問日	使用した施設・設備・ 学術資料・データベース等	使用時間
令和2年8月27日(5名) 令和2年9月11日(5名)、9月25日(5名)、 10月16日(6名)、10月29日(6名)、11月12日(6名) 令和3年3月14日(5名) 令和3年3月23日(5名) 令和2年9月～令和3年3月	佐藤健研究室〇〇装置 オンライン  佐藤健研究室&オンライン オンライン 防災教育国際協働センターHP 改修	4時間 15時間 4時間 3時間 3時間 30時間
延べ訪問回数 8回		合計 56時間

成果として発表した論文
<p><u>Aiko Sakurai, Takeshi Sato, Yoshiyuki Murayama</u>: Impact Evaluation of a School-Based Disaster Education Program in a City Affected by the 2011 Great East Japan Earthquake and Tsunami Disaster, International Journal of Disaster Risk Reduction, Special Edition on School Safety, (47), 2020, 査読有, 国際, 2.896.</p> <p><u>桜井愛子</u>: 自然災害と学校防災, 渡邊正樹編著『学校安全と危機管理』, 2020, 103-125, 大修館書店, 査読無, 国内.</p> <p><u>小田隆史・桜井愛子・村山良之・佐藤健・北浦早苗・加賀屋蒼</u>: 教員の地図リテラシー育成とハザード理解に向けた学校防災研修—宮城県石巻市における試行から—.『安全教育学研究』(20)1, 2020, 27-36, 査読有, 国内.</p> <p><u>桜井愛子・佐藤健・北浦早苗・村山良之・柴山明寛</u>: 津波記録を活用した被災地の学校での防災教育—災害伝承と命を守る防災教育の推進に向けて—.『防災教育学研究』(1)2020, 53-66, 査読有, 国内.</p> <p><u>Takeshi Sato, Aiko Sakurai, Yuki Sadaike, Risa Yanagiya, and Hitoshi Konno</u>: Sustainable Community Development for Disaster Resilience and Human Resources Development for Disaster Risk Reduction -Growth and Community Contribution of the Katahira Children's Board for Community Development. Journal of Disaster Research, (7) ,2020, 931-942, 査読有, 国際.</p> <p><u>桜井愛子</u>; 地図を活用した教員研修教材の開発とその経緯—学校区の災害リスクの理解に向けて—, 防災教育学会第1回大会, オンライン, 2020, 査読無, 国内.</p> <p><u>Aiko Sakurai, Takashi Oda, Yoshiyuki Murayama and Takeshi Sato</u>: Linking geomorphological features and disaster risk in a school district: The development of an in-service teacher training programme. IOP Conference Series: Earth and Environmental Science, 630, The 12th Aceh International Workshop and Expo on Sustainable Tsunami Disaster Recovery ,2019, 査読有, 国際.</p> <p><u>桜井愛子</u>: 地域に根ざした学校防災, 東北大学災害科学国際研究所(編著)『東日本大震災からのスタート: 災害を考える51のアプローチ』, 東北大学出版, 2021, 113-116, 査読無, 国内.</p> <p><u>佐藤健</u>: コミュニティの防災, 東北大学災害科学国際研究所(編著)『東日本大震災からのスタート: 災害を考える51のアプローチ』, 東北大学出版, 2021, 121-124, 査読無, 国内.</p> <p><u>柴山明寛</u>: アーカイブ学, 東北大学災害科学国際研究所(編著)『東日本大震災からのスタート: 災害を考える51のアプローチ』, 東北大学出版, 2021, 125-128, 査読無, 国内.</p> <p><u>村山良之・佐藤健・桜井愛子・小田隆史・林田由那・熊谷誠</u>: 山形県の学校における令和2年7月豪雨災害時の対応, 東北地理学会秋季学術大会, オンライン, 2020年9月.</p> <p><u>小田隆史</u>: 教師のための防災学習帳, 朝倉書店, 2021.</p> <p><u>村山良之・桜井愛子・佐藤健・北浦早苗・小田隆史・熊谷誠</u>: 地形とハザードマップに関するオンライン教員研修. 日本地理学会2021年春季学術大会発表要旨, 2021, 査読無, 国内.</p> <p><u>村山良之・小田隆史</u>: 大川小津波訴訟判決の意義. 日本地理学会2021年春季学術大会公開シンポジウム, 発表要旨, 2021, 査読無, 国内.</p>

学術論文 合計(14)編

シンポジウム・講演会・セミナー等の開催
<p>・<u>令和元年度未来へつなぐ学校と地域の安全フォーラム</u>／国内(宮城県安全主幹教諭・防災主任、全国教員／研究者)／宮城県教育委員会・災害研主催／2020年11月20日 於岩沼市民会館／参加者535名／桜井愛子「学校区の災害リスク理解のための地図を活用した教員研修・評価モデルの開発」</p> <p>・<u>復興・防災マップづくりコンクール</u>／国内(石巻市内小中学校児童・生徒、教員、保護者)／石巻市教育委員会主催、災害研共催／授賞式2020年1月21日 於石巻市防災センター／出展数: 小中学校17校96点</p> <p>・<u>宮城県地域事務所別防災主任研修会(計5地区)</u>／国内(宮城県教員)／宮城県教育委員会主催／2020年9月12日～12月30日、計5地区／オンライン講義／桜井愛子「災害復興・防災教育プログラム「復興・防災マップづくり」」／200名</p>

合計(7)件

## 防災人材育成学(2020年度)

研究課題名	3. 震災復興に寄与する災害を生きる力因子とその原理の解明	研究領域	④
研究代表者	本多 明生		
所属機関等・職名	静岡理工科大学・准教授		

研究組織(組織構成員の氏名・所属機関名)

◎本多明生(静岡理工科大学)、○杉浦元亮(災害研)、佐藤翔輔(災害研)

期間	2020年6月1日～2021年3月31日	経費	243,000円
----	----------------------	----	----------

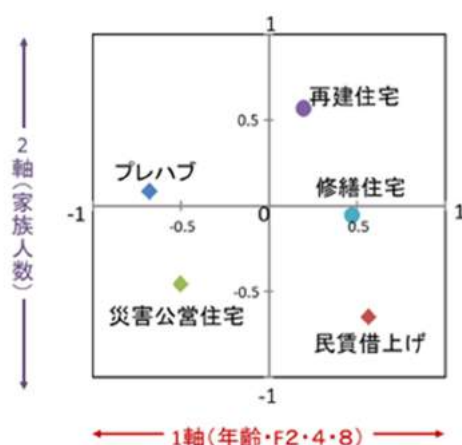
### 【研究の概要】

大規模災害では、復興事業の長期化に伴い、被災者間で生活再建のスピードに差が生じる傾向がある。本研究は、東日本大震災被災者の住宅再建に寄与した災害を生きる力因子(Sugiura et al., 2015)を検討し、その災害を生きる力因子が住宅再建になぜ寄与するのかという原理の説明を心理学の見地から行う。

### 【研究の具体的な成果・波及効果】

データが膨大で詳細な分析が未着手の状態となっていた、東日本大震災被災者調査等を分析することによって、東日本大震災の被災者の住宅再建に寄与した災害を生きる力因子の特定と関連要因の検討を行った。東日本大震災から5年後の被災者の住宅状況と、年齢、家族人数、災害を生きる力因子の関係に注目して、判別分析を行った結果、住宅状況は、年齢と災害を生きる力因子から構成された軸と、家族人数から構成された軸で、説明できることがわかった。例えば、災害公営住宅の居住者は、年齢が高めで(高齢者)、災害を生きる力因子「問題解決(F2)」「頑固さ(F4)」「能動的健康(F8)」が低く目で、家族人数が少なめ(単身者)である傾向があること、などの特徴があることが示された。成果は国際学術誌に投稿準備中である。

### 【図表】



グループ重心(第1・2軸)による住宅状況の分類

図1. 東日本大震災から5年後の被災者の住宅状況に関する判別分析の結果

災害研訪問日	使用した施設・設備・ 学術資料・データベース等	使用時間
・2020年7月18日(訪問者数20名) ・2020年8月6日(訪問者数5名)	Zoom Zoom	4時間 2時間
延べ訪問回数 2回		合計6時間

成果として発表した論文
なし

学術論文 合計(0)編

特許・実用新案・その他の産業財産権
なし

合計(0)件のうち、A出願 計( )件 B取得 計( )件

シンポジウム・講演会・セミナー等の開催
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Honda, A., Sugiura, M., &amp; Abe, T. (2020). Personality Determinants of Power to Live with Disasters: Resilience and Dark Triad. The 32nd APS (Association for Psychological Science) Annual Convention, May 21-24, 2020, Chicago, USA. 【Conference canceled】</li> <li>2. 本多明生(2020). 震災復興に寄与する災害を生きる力因子とその原理の解明. 東北大学災害科学国際研究所 IRIDes 金曜フォーラム: 2019年度共同研究成果報告会およびプロジェクトエリア・ユニット報告会, 2020年7月18日, Web会議場 (Zoom).</li> <li>3. 本多明生(2020). 来るべき災害に備えて: 幼保施設の防災対策の現状と課題. 公益社団法人日本心理学会認定心理士の会東北支部シンポジウム (災害の記憶を未来に活かすために: 心理学と情報学の観点から), 2020年12月19日, Zoom オンライン会場.</li> </ol>

合計(3)件

## 防災人材育成学(2020年度)

研究課題名	4. 災害時要配慮者の避難移動・避難生活・生活再建の各過程を ヨコ串にした災害時ケアプラン作成・実施のための福祉防災人材 育成プログラムの開発と実践	研究領域	④
研究代表者	立木 茂雄		
所属機関等・職名	同志社大学		

### 研究組織(組織構成員の氏名・所属機関名)

◎立木茂雄(同志社大学)、○佐藤翔輔(東北大学災害研)、松川杏寧(人と防災未来センター)、菅野拓(京都経済短期大学)、川見文紀(同志社大学大学院)、井内加奈子(東北大学災害研)、北村美和子(東北大学大学院工学研究科)

期間	2020年6月1日～2021年3月31日	経費	695,000円
----	----------------------	----	----------

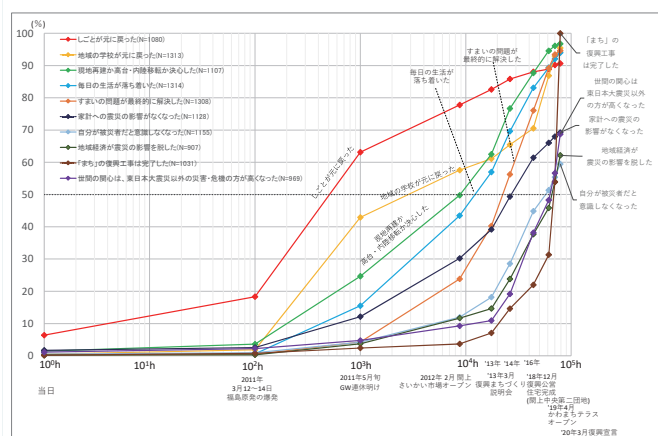
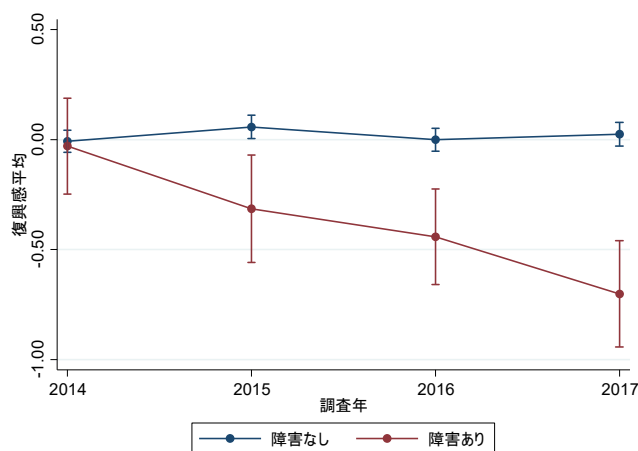
### 【研究の概要】

これまでの2014、2015、2016、2017年の名取市現況調査の分析に加えて、2020年年度名取市現況調査を実施した。2014-2017年パネル分析結果から、障がいの有無は、生活復興感に対して、2016年・2017年と調査年を重ねるごとに有意な負の効果を持ち始めていたことを明らかにした。2020年度調査では復興カレンダーを構築し、10<sup>5</sup>時間(約10年)に向けて、「『まち』の復興工事が完了した」との回答が、100%まで一気に達した一方で「自分が被災者だと意識しなくなった」は、2020年時点で6割に留まっていたことを示した。さらに過半の市民は「世間の関心は、東日本大震災以外の方が高くなった」とも答えており、4割は、「今でも自分を被災者」だと感じていることと合わせて考えると「取り残され感」を抱く市民が少なからずいることを示唆している。

### 【研究の具体的な成果・波及効果】

災害時要配慮者の生活再建全般においても、被災前の社会生活の脆弱性が長期的な影響を捉える上での重要な予測因子であることが示された。これによって、今後計画している「災害時ケアプラン生活再建編」において、より長期的なケアプラン策定の重要性が確認された。また2020年度調査の復興カレンダーの考察は名取市長に政策ための資料として報告を行った。また調査結果は名取市のホームページでも公開されている。

### 【図表】





災害研訪問日	使用した施設・設備・ 学術資料・データベース等	使用時間
延べ訪問回数 0 回		合計 0 時間

成果として発表した論文
立木茂雄・川見文紀, 2021, 「障がいのある人の防災対策——避難, 避難生活から生活再建までを視野に入れて」『総合リハビリテーション』49(3): 261-267.査読無、依頼原稿

学術論文 合計( 1 )編

特許・実用新案・その他の産業財産権
特になし

合計 ( 0 ) 件のうち、A 出願 計( )件 B 取得 計( 0 )件

シンポジウム・講演会・セミナー等の開催
特になし

合計 ( 0 ) 件

## 防災人材育成学(2020年度)

研究課題名	5. 被災地の学校における心のケアと防災教育の融合プログラムの有効性と課題ー東日本大震災と北海道胆振東部地震被災地での実践から	研究課題	④
研究代表者	富永 良喜		
所属機関等・職名	兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科・教授		

研究組織(組織構成員の氏名・所属機関名)

◎富永良喜(兵庫県立大学)、○定池祐季(災害研)、佐藤健(災害研)、柿原久仁佳(北星学院大学)、田中英三郎(兵庫県こころのケアセンター)

期間	2020年6月1日～2021年3月31日	経費	655,000円
----	----------------------	----	----------

### 【研究の概要】

本研究課題は、東日本大震災と胆振東部地震の被災地における心のケアと防災教育を融合した授業実践の有効性と課題を明らかにすることを目的として実施した。研究代表者らは東日本大震災以降当該プログラムの開発と実践に携わっており、アンケート調査から、より汎用的なプログラムへと発展させることを目指した。2020年度は、東日本大震災の被災地である岩手における心のケアと防災教育を融合した授業実践の有効性と課題を明らかにすることを目的としたアンケート調査の結果分析による論文作成の準備をするとともに、宮城県と岩手県の結果を踏まえた『「防災教育」と「心のケア」のセットで支える子どもサポート・ハンドブック』を作成した。

### 【研究の具体的な成果・波及効果】

2019年度に行った岩手県(2月)の調査について結果を分析し論文作成を行った。被災地の防災教育は、次の災害から身を守る重要な教育であると同時にトラウマ記憶を想起させるトリガーにもなるという相反する活動である。そこで本研究では、被災地の避難訓練などの防災教育で不安定になる子どもが居るのかを明らかにすることを第一の目的とした。さらに、教員のトラウマケア効力感尺度を作成し「心のケアと防災教育の融合的な活動」との関連を明らかにすることを第2の目的とした。東日本大震災の被災県である岩手県の全公立学校教員を対象とした質問紙調査を実施した。調査協力者は633名であり、トラウマケア効力感と災害から1年以内に行う防災教育とトラウマケア融合活動と防災教育とトラウマケア体験を尋ねた。欠損値のない622名を対象として分析を進めた。その結果、Table1に示すように津波被災地の学校に勤務経験のある教師の72.8%が防災教育で不安定になる子どもが居たと回答した。つぎに、5項目のトラウマケア効力感尺度はTable2に示すように1因子で構成され、クローンバックの $\alpha$ 係数は.895であり十分な内的整合性が確認された。次に、トラウマケア効力感得点を目的変数に、防災教育活動の意識項目と防災教育とトラウマケア活動体験項目を説明変数とした重回帰分析の結果1%水準で有意な影響を及ぼした項目は、D8言葉“地震”トリガーの意味、E2ストレスマネジメント授業経験、E3日常ストレスマネジメント授業経験、E4被災体験の表現と分かち合い授業であった。その結果から、トラウマケア効力感尺度の基準関連妥当性が確認され、また、トラウマケアと防災教育を融合した活動への賛同が確認された。被災体験の表現と分かち合いの困難点と課題が、トラウマインフォームドケアと防災教育の観点から考察された。

岩手県・宮城県の調査研究の自由記述をもとにQ&A形式の『「防災教育」と「心のケア」のセットで支える子どもサポート・ハンドブック』執筆し、東北大学防災教育協働国際センターのHpに掲載した。

【図表】

Table1 防災教育で不安定になった子どもの目撃の 2011 年度沿岸・内陸ごとの人数

		1「ない」	2「1-4人」	3「5人以上」	合計
沿岸(津波被災有)	人数	56	103	47	206
	%	27.2%	50.0%	22.8%	100.0%
沿岸(津波被災無)	人数	32	42	9	83
	%	38.6%	50.6%	10.8%	100.0%
内陸	人数	187	127	19	333
	%	56.2%	38.1%	5.7%	100.0%
合計	人数	275	272	75	622
	%	44.2%	43.7%	12.1%	100.0%

Table2 ト라우マケア効力感尺度の因子分析結果と各項目の平均値と標準偏差 (n = 622)

項目内容	因子負荷量	平均値	標準偏差
T1. つらい体験をしたあとに起こるさまざまな心とからだの変化(トラウマ反応)について、子どもに説明できる。	0.866	3.24	0.86
T2. こわかったことを思い出しドキドキするということについて、その反応の意味と対処法を子どもに説明できる。	0.905	3.08	0.92
T3. つらい体験をしたあとに、その出来事と関連のある安全な刺激(トリガー)を強く避け続けることは、心の健康にとってよくない(ストレス障害のリスクになる)ということを子どもに説明できる。	0.698	2.51	1.07
T4. 災害後の心のケアでは、安心感と人との良いきずなをベースに、自分のペースで少しずつ被災体験に向き合うことが心の健康に良いということ、子どもに説明できる。	0.756	3.20	0.92
T5. 災害後の心のケアを学ぶことは、いじめ・暴力・事故後の心のケアを学ぶことにもつながることを子どもに説明できる。	0.745	3.08	0.97

上記の研究活動に加え、申請者のうち富永・柿原・定池は胆振東部地震被災地の心のケアと防災教育の実践に携わり、資料提供・助言等を行った。

災害研訪問日	使用した施設・設備・学術資料・データベース等	使用時間
なし  以下オンライン会議 ① 2020年10月9日、② 10月25日、③ 11月10日 ④ 12月15日、⑤ 2021年1月7日、⑥ 1月27日、 ⑦ 2月13日 (富永・定池・柿原・田中)によるWEB会議 ※新型コロナウイルスの感染拡大のためWEB会議とした	防災教育国際協働センターのHPを閲覧し、ハンドブックの公開について検討をした。 <a href="http://drredu-collabo.sakura.ne.jp/ja/">http://drredu-collabo.sakura.ne.jp/ja/</a>	2時間
延べ訪問回数 0回		合計2時間

成果として発表した論文
該当なし

学術論文 合計(0)編

特許・実用新案・その他の産業財産権
本共同研究に関わる特許・実用新案・その他産業財産権はありません。

合計(0)件のうち、A出願計(0)件 B取得計(0)件

シンポジウム・講演会・セミナー等の開催
なし

合計(0)件

## 防災人材育成学(2020年度)

研究課題名	6. 地域住民によるワークショップを通じた災害情報のアーカイブ化を行う防災教育	研究領域	④
研究代表者	森 太郎		
所属機関等・職名	北海道大学大学院工学研究院・准教授		

### 研究組織(組織構成員の氏名・所属機関名)

◎森 太郎(北海道大学大学院工学研究院)、○定池祐季(災害研)、佐藤健(災害研)、草苺敏夫(釧路高専)

期間	2020年6月1日～2021年3月31日	経費	475,000 円
----	----------------------	----	-----------

### 【研究の概要】

本研究では、地域に内在化する災害に関する生活知を共有し伝承する仕掛けとして、地域住民が参加し資料調査とまちあるき、マッピングと localwiki の更新をセットとした「災害 Wikipedia タウン」というワークショップの手法を開発し、その有効性を明らかにする。

### 【研究の具体的な成果・波及効果】

申請者・対象地域双方の新型コロナウイルスの感染状況から当初の予定を変更し、地域のニーズを踏まえて2019年台風19号の振り返りを行う「防災まちあるき」(ワークショップ)を実施した。その結果と昨年度に町内会の協力により実施した、2019年台風19号の世帯別行動記録ワークシート収集の結果を合わせてタイムライン形式、防災マップ形式で活用する手法を開発し、また、それらの情報の精度を確認した。

### 【図表】



図1 WSの結果をジオリファレンサを用いてGISソフトで編集を行った

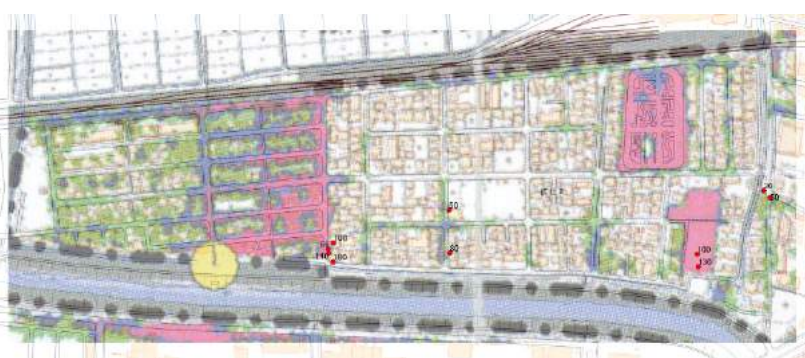


図2 図1をもとにWSで得られた浸水深をハザードマップ上にプロット

災害研訪問日	使用した施設・設備・ 学術資料・データベース等	使用時間
オンライン研究会・打ち合わせ ① 2020年6月18日  ②9月28日 ③10月8日 ④2月16日	以下、福住町町内会役員に災害研にお越しいただき、研究チームのオンライン会議に災害研からご参加いただいた。 ②小会議室1 ③佐藤健教授室 ④佐藤研究室会議スペース	2時間 1時間 2時間
延べ訪問回数 4回		合計 5時間

成果として発表した論文
森太郎, 定池祐季, 草薙敏夫, 佐藤健, ワークショップを通じた災害情報のアーカイブ化を行う防災教育プログラムの開発・2019年台風19号時の振り返り手法としての評価, 第48回(2021年度)地域安全学会研究発表会(春季)(登録済)

学術論文 合計(1)編

特許・実用新案・その他の産業財産権
なし

合計(0)件のうち、A出願計( )件 B取得計( )件

シンポジウム・講演会・セミナー等の開催
・福住町町内会との2019年台風19号に関するまちあるきWS(場所:福住町集会所+町内) 日時:2020年10月18日 10:30~12:30、参加者:10名 種別:意見交換会(国内)、対象:福住町の小中学生とその保護者、福住町町内会役員、共同研究メンバー 概要:趣旨説明の後、まちあるきWSを行い、2019年台風19号の浸水状況や防災情報の記録を行い、地図化をした。小学生の成果物は第17回「小学生のぼうさい探検隊マップコンクール」に応募をした。

合計(1)件

## 防災人材育成学(2020年度)

研究課題名	7. 教員免許状更新講習を利用した学校教員による防災教育の促進と有効性の評価	研究領域	④
研究代表者	植木 岳雪		
所属機関等・職名	帝京科学大学人間教育科学部・教授		

研究組織(組織構成員の氏名・所属機関名)

◎植木岳雪(帝京科学大学)、○遠田晋次((災害研)、佐藤 健(災害研)、丹羽千恵子(フリーランス)

期間	2020年6月1日～2021年3月31日	経費	336,000円
----	----------------------	----	----------

### 【研究の概要】

本研究の目的は、全ての学校教員が10年ごとに受講することを義務付けられた教員免許状更新講習を利用して、学校教員に防災教育の方法を伝え、防災意識を高めてもらうとともに、学校における防災教育の促進のための教員免許状更新講習の有効性を評価することである。そのため、令和2年12月19日と20日に、教員免許状更新講習「紙芝居と人形劇による幼児・児童向けの防災教育」を災害研が主催して実施した。

### 【研究の具体的な成果・波及効果】

東北大学における教員免許状更新講習は、従来本部の教育・学生支援部教務課によって行われてきた。今回の講習は災害研による初めての講習であり、総務係の協力を得て、実施の体制を構築し、ノウハウを蓄積した。それにより、今後災害研の最新の研究成果を社会に還元する方法として、教員免許状更新講習を災害研独自に行うことができる。

当初は講習を10月に実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染症の広がりにより、12月に実施するように変更した。学校教員にとっては冬休み直前の多忙な時期であり、2回の講習の参加者は合計5名と少なかった。しかし、受講者の満足度は非常に高く、同僚の教員に次年度の講習の受講を勧めた者もいた。一方、当初は受講者への追跡アンケート調査を対面で行う予定であったが、新型コロナウイルス感染症のために、メールで行った。追跡アンケート調査の回答は2名のみであり、回答率を高めるためには、対面または調査紙の方が良いと思われる。

研究代表者、参加者と佐藤教授が共同して、津波防災の独自紙芝居「オオカミ気象庁なんかじゃない!!」を開発した。紙芝居は、次年度の講習で見本として使用する予定である。

### 【図表】



自作の紙芝居を上演する受講者 自作の人形劇を上演する受講者3名で独自紙芝居を共同開発

災害研訪問日	使用した施設・設備・ 学術資料・データベース等	使用時間
・令和2年7月30日(1人)	佐藤教授・遠田教授研究室, 事務室 会議室1	3時間
・令和2年12月18日～20日(2人)		15時間
延べ訪問回数 2回		合計18時間

成果として発表した論文
なし

学術論文 合計(0)編

特許・実用新案・その他の産業財産権
なし

合計(0)件

シンポジウム・講演会・セミナー等の開催
・紙芝居による幼児・児童向けの防災教育, 人形劇による幼児・児童向けの防災教育 令和2年12月19日・20日／その他／国内／学校教員／東北大学教育職員免許状更新講習／幼少中高等学校の教員を対象とした教員免許状更新講習の一環として防災に関する紙芝居と人形劇を用いた防災に関する講習を実施／5人.

合計(2)件

## 防災人材育成学(2020年度)

研究課題名	8. 千島海溝南部超巨大地震の事前復興計画策定に向けたアクションリサーチ	研究領域	④
研究代表者	高橋 浩晃		
所属機関等・職名	北海道大学大学院理学研究院・教授		

### 研究組織(組織構成員の氏名・所属機関名)

◎高橋浩晃(北海道大学)、○定池祐季(災害研)、○平野勝也(災害研)、草苺敏夫(釧路高専)、高井伸雄(北海道大学)

期間	2020年6月1日～2021年3月31日	経費	676,000円
----	----------------------	----	----------

### 【研究の概要】

地震調査研究推進本部は、千島海溝南部で超巨大地震発生が切迫していると評価した。南海トラフ地震想定被災地に比べて、北海道では事前復興計画の前例がない。本研究では、東北津波被災地を参考とし、積雪寒冷地等の地域特性を反映した北海道太平洋沿岸自治体での事前復興計画策定に向けたアクションリサーチを展開する。

### 【研究の具体的な成果・波及効果】

モデルケース自治体の北海道釧路管内白糠町の協力のもと、町の総合計画・都市マスタープラン・事業継続計画・地域防災計画を検討し、現在の白糠町のまちづくりの基本的考え方の整理を行った。また、北海道の津波浸水想定(平成24年版)に基づいた被害の検討を実施した。その結果、白糠町都市マスタープランでの市街地・住宅地はほぼ全域が浸水すること、全域浸水を前提にした復興計画が必要なことが明らかになった。復興事例として宮城県石巻市・女川町を視察し、主にまちづくりの観点から復興計画策定における考え方の整理や住民合意のプロセスについて情報収集を行った。通常のみちづくりと同様、民間と行政の連携が重要であることが再認識された。南海トラフ地域の復興事前準備の先行事例として、四国地方整備局・和歌山県美浜町・高知県香南市の事例を検討し、白糠町の人口動態や産業特性を考慮して、復興事前準備計画の検討に参考になる考え方を整理することが出来た。

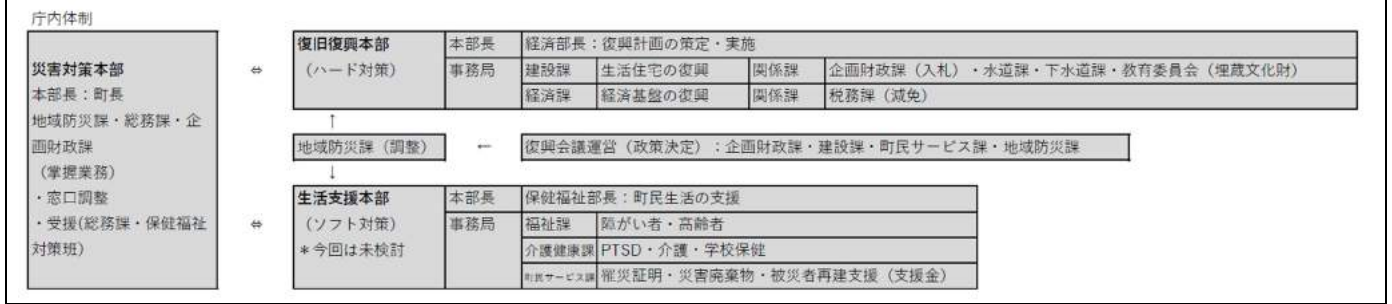
これらをもとに、白糠町の復興事前計画案を検討した。本年度はハード対策を主な対象とし、計画に取り入れるべき項目の整理を行った。また、復興対策本部の構成や復興基本計画策定に向けたタイムライン、担当する部課の検討も行った。これらの成果をとりまとめ、復興事前準備案を作成することが出来た。一方、生活支援に関するソフト対策については、十分な検討が行えず、今後の課題となった。

北海道では、これまでに復興事前準備を策定した基礎自治体はなく、端緒として関係機関間で情報交換を実施することが必要な段階である。北海道釧路支庁管内の基礎自治体(白糠町・釧路町・厚岸町・浜中町)・国土交通省北海道開発局・北海道庁危機対策課・北海道立総合研究機構・札幌市と、復興事前準備に関する情報交換会を実施した。参加機関において、復興事前準備の重要性について認識が出来たこと、今後スピード感をもって関係機関が連携し、防災対策に加え復興事前準備についても検討を進めていく必要性を共通理解と出来たことは、大きな波及効果をもつ成果である。

復興準備計画を検討する中で、具体的な各項目の役場内での所掌整理の重要性が改めて認識された。復興事業は多くの関係部局にまたがる事案であり、膨大な調整業務が発生し得ること、被災前に所掌分担を検討しておくことの重要性とともに、難しさも明らかになってきている。同時に、広域自治体や国などとの事前調整が必要な項目も相当数に上ることも判明した。復旧復興スキームで発生しうる業務すべてを被災前から予測するのは困難であり、復興事前準備計画に柔軟性を持たせることも必要であることが示唆された。また、北海道特有の広域性・人口分散や道路網の未整備から、近隣自治体等からの応援を受ける難しさも露呈した。寒冷地での応急仮設住宅の耐寒仕様の問題も明らかにされ、北海道仕様の仮設住宅設計仕様の検討状況や、事前設計の可能性も含めて、関係機関との情報交換を進めていく必要性が認識された。



【図表】復興事前計画で検討された庁内体制案



災害研訪問日	使用した施設・設備・ 学術資料・データベース等	使用時間
・令和2年11月10日(5名)	会議室1	3時間
延べ訪問回数 1回		合計3時間

成果として発表した論文
なし

学術論文 合計(0)編

特許・実用新案・その他の産業財産権
なし

合計(0)件のうち、A出願計( )件 B取得計( )件

シンポジウム・講演会・セミナー等の開催
・開催期間(令和3年2月24日)／区分(研究会)／国内／対象者(基礎自治体(白糠町・釧路町・厚岸町・浜中町)・国土交通省北海道開発局・北海道庁危機対策課・北海道立総合研究機構)／名称(復興事前準備情報交換会)／概要(千島海溝南部超巨大地震において、地域の迅速な復旧復興させ、社会・経済基盤を持続させる「復興まちづくり事前準備計画」策定に係る人材育成の研究について、北海道白糠町をモデル自治体として協力を得ながら本年度から着手している。北海道の地域性を鑑みながら、関係機関、自治体の事前準備に対する考え方、制度、研究など意見交換等を通じながら情報共有し、事前復興計画のプロトタイプ作成スキームを整理するべく情報交換会を開催した)／参加人数(24名)

合計(1)件

## 防災人材育成学(2020年度)

研究課題名	9. 防災対応力向上のための教材・講座の効果検証に基づく防災教育の体系化	研究領域	④
研究代表者	小山 真紀		
所属機関等・職名	岐阜大学流域圏科学研究センター・准教授		

### 研究組織(組織構成員の氏名・所属機関名)

◎小山真紀(岐阜大学)、○柴山明寛(災害研)、○佐藤翔輔(災害研)、村岡治道(岐阜大学)、平岡守(かわべ防災の会)、荒川宏(特定非営利活動法人ドゥチュウブ)、伊藤三枝子(清流の国ぎふ女性防災士会)、千葉久美子(伝)、原田三朗(伝)、市川真基(伝)、村田美枝子(伝)、佐々木駿(伝)、富田貴子(伝)、石井美恵(伝)、金田健吾(伝)、山本雅貴(伝)、古池一成(伝)、浅野優紀(伝)、水口綾香(伝)、北浦菜緒(伝)、中村貫志(岐阜大学)

期間	2020年6月1日～2021年3月31日	経費	696,000円
----	----------------------	----	----------

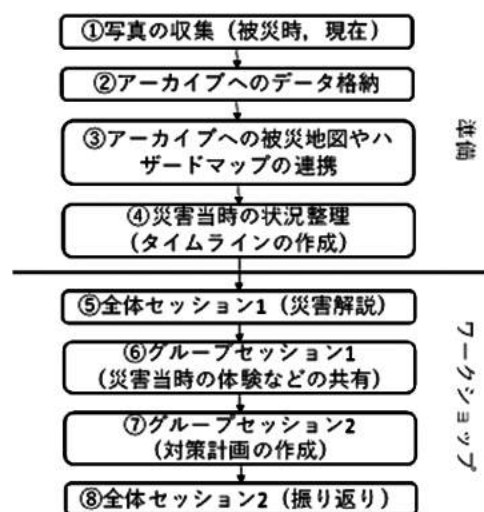
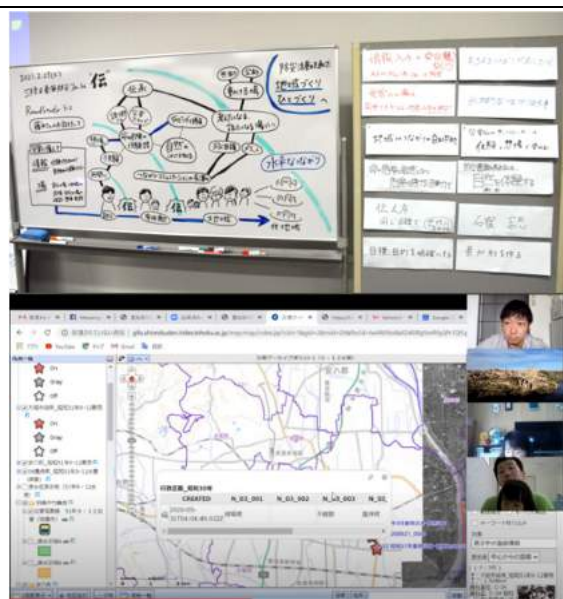
### 【研究の概要】

学習指導要領とこれまでの防災教育の関係性を整理し、その上で、仙台の小学校における防災教育実践などを踏まえて、防災教育をカリキュラムマネジメント(科目横断的に知識や技術、考えを発展させる手法)を通じて実践するための方針の整理を行った。また、防災教育・啓発をしている、またはしようとしている方に対して、防災フォーラム「伝」を被災地宮城、未災地愛知で開催することで、参加者それぞれと主催者側双方の学びの交流と今後の活動の展開を深めることができた。あわせて、コロナ禍でも活用できる防災教育ツールとして、オンラインで実施可能な災害アーカイブワークショップ手法を開発した。

### 【研究の具体的な成果・波及効果】

文献調査から、防災教育の現状を整理した。その結果、研究レベルでは防災教育は1科目の中での実践や総合的な学習の時間など、科目に閉じた形で行われていることがほとんどであることを示した。また、仙台の小学校の事例などを踏まえて、無理のないカリキュラムマネジメント実現のための考え方を整理した。災害アーカイブワークショップのオンライン化により、GISハザードマップの活用や過去地図の利用が可能になり、参加者の居住地にあわせた柔軟な活用と現在と過去の状況のイメージが容易になり、将来的に参加者が主催者となって活用拡大することが期待できる。

### 【図表】



災害研訪問日	使用した施設・設備・ 学術資料・データベース等	使用時間
・2020年6月27日(データベース利用)	災害アーカイブデータベース	2時間
・2020年10月10日(11名訪問)	演習室 A	5時間
・2021年2月27日(データベース利用)	災害アーカイブデータベース	2時間
・2021年3月24日(データベース利用)	災害アーカイブデータベース	2時間
・他データベース作業等	災害アーカイブデータベース	21時間
延べ訪問回数 1回		合計 33時間

成果として発表した論文
<ul style="list-style-type: none"> <li>・小山 真紀, 柴山 明寛, 平岡 守, 荒川 宏, 伊藤 三枝子, 井上 透, 村岡 治道:防災ワークショップを活用した災害写真の収集とデータベース化:災害アーカイブぎふの取り組みから, デジタルアーカイブ学会誌, 4巻, 2号, pp.136-139, 2020.</li> <li>・小山真紀, 荒川宏, 伊藤三枝子, 平岡祐子, 柴山明寛, 井上透:災害アーカイブぎふを活用したオンラインワークショップ, デジタルアーカイブ学会誌, 2021.</li> </ul>

学術論文 合計( 2 )編

特許・実用新案・その他の産業財産権
なし

合計 ( 0 ) 件のうち、A 出願 計( )件 B 取得 計( )件

シンポジウム・講演会・セミナー等の開催
<ul style="list-style-type: none"> <li>・2020年6月27日/ワークショップ/国内/社会人/災害アーカイブワークショップ in 大垣/9.12 豪雨災害(1976年)について災害アーカイブをオンラインで活用したワークショップを実施/9名</li> <li>・2020年10月10日(土)~12日(月)/フォーラム/国内/社会人/第6回三陸&amp;東海 防災フォーラム“伝” /柴山 明寛 氏(東北大学災害科学国際研究所 准教授)による学習会, 徳光博志氏による防災講話, 益社団法人 3.11 みらいサポート代表理事 鈴木典行氏による語り部講演, 民宿めぐろにて目黒繁明氏による震災体験講話, 公益社団法人 3.11 みらいサポート「防災まちあるき」/11名</li> <li>・2021年2月27日/フォーラム/国内/社会人・学生/第7回三陸&amp;東海 防災フォーラム“伝” /東日本大震災で至るアーカイブについての講演, あいち防災リーダー会についての講演, および2000年東海豪雨について災害アーカイブをオンラインで活用したワークショップを実施/37名</li> <li>・2021年3月24日/ワークショップ/国内/社会人/災害アーカイブワークショップ in 高山/2004年台風23号について災害アーカイブをオンラインで活用したワークショップを実施/27名</li> </ul>

合計 ( 4 ) 件

## 防災人材育成学(2020年度)

研究課題名	10. 遺構と瓦礫のあいだー移行期被災地における残存構造物記録方法の開発ー	研究領域	④
研究代表者	高原 耕平		
所属機関等・職名	公益財団法人ひょうご震災記念 21 世紀研究機構 人と防災未来センター 研究部・主任研究員		

研究組織(組織構成員の氏名・所属機関名)

◎高原耕平(人と防災未来センター)、○ゲルスタ・ユリア(災害研)、定池祐季(災害研)、奥堀亜紀子

期間	2020年6月1日～2021年3月31日	経費	455,000円
----	----------------------	----	----------

### 【研究の概要】

被災地には現在も津波で流出した家屋の基礎部や橋脚など、遺構に類する構造物が残存している。これらは「震災遺構」として着目され永久保存されることはないけれども、他方で地域住民や外部者に出来事のさまざまな記憶を呼び起こす、いわば遺構と瓦礫の中間的な存在である。本研究はこうした残存構造物を記録する方法を開発することを目的とした。

2020年度はまず定池助教が奥尻島の写真・地図と地域の出来事・エピソードを紹介し、研究チーム内で被災地域の空間再編について検討した。次に石巻市門脇地区で上記「中間的な残存構造物」の探索と同地住民・本間英一氏にインタビュー調査を実施した。また、この調査中に野外で「みちのく震録伝」を活用することを試みた。「古本荒蝦夷」代表・土方正志氏およびNPO「石巻アーカイブ」代表・小野寺豊氏から研究の助言を受けた。

3月に東北大災害研会議室に研究構成員が集まり、空間の再編と記憶風景の多層化に関して議論を行い、石巻市門脇地区で研究をさらに進めることとした。また、以上の調査研究について後述する研究発表の執筆を開始した。

### 【研究の具体的な成果・波及効果】

- ・北海道奥尻島の現在の景観の分析を行い、地震・津波被災後の復興プロセスにおいて空間の再編と記憶風景の多層化が生じていたという着眼を得た。

- ・石巻市門脇地区で現地調査を行い、当初計画していた「中間的な残存構造物」が10年間の復興事業等により予想以上に減少していることが明らかになった。また、災害研データベース「みちのく震録伝」を、スマートフォン・タブレット等で現地調査中に運用することが困難であることがわかった。

- ・石巻市「千石船の会」本間英一氏にインタビュー調査を実施し、また「古本荒蝦夷」代表・土方正志氏ら、NPO「石巻アーカイブ」代表・小野寺豊氏から、石巻／東北におけるアーカイブ活動と「復興」過程の関係について、研究上の助言をいただき、津波被災地復興過程における空間再編と記憶風景の多層性という課題を整理した。その成果を後述する2件の学会発表にまとめた。

災害研訪問日	使用した施設・設備・ 学術資料・データベース等	使用時間
2021年2月6日(訪問者3名) 2021年3月13日(訪問者数2名)  オンライン会議6回、オンライン研究会1回	小会議室1 小会議室1  オンライン会議と石巻市現地調査に際して、みちのく震録伝を活用	2時間 2時間
延べ訪問回数 2回		合計4時間

成果として発表した論文
<ul style="list-style-type: none"> <li>・<u>Julia Gerster</u>, <i>Between debris and disaster heritage: The connection of memories and disaster remains after the Great East Japan Earthquake 2011</i>, 3<sup>rd</sup> Memory, Affects and Emotions International Interdisciplinary Conference, 2021年4月, 査読有, 国際会議(登録済み)</li> <li>・<u>高原耕平</u>, <u>ゲルスタ・ユリア</u>, <u>定池祐季</u>, <u>奥堀亜紀子</u>, <u>小野寺豊</u>, 記憶と歴史のあいだ: 震災前をつなぐ「石巻アーカイブ」の模索, 地域安全学会春大会, 2021年5月, 査読無, 国内会議(登録済み)</li> </ul>

学術論文 合計(2)編

特許・実用新案・その他の産業財産権
なし

合計(0)件

シンポジウム・講演会・セミナー等の開催
なし

合計(0)件

## 防災人材育成学(2020年度)

研究課題名	11. 減災絵本の実証的ならびに脳科学的研究－保育者対象のアンケート調査と短期大学生を被験者とする NIRS 分析から－	研究領域	④
研究代表者	田久 昌次郎		
所属機関等・職名	いわき短期大学生涯教育研究所・所長／学長		

### 研究組織(組織構成員の氏名・所属機関名)

◎田久昌次郎(いわき短期大学)、◎今村文彦(災害研)、○保田真理(災害研)、新国佳佑(新潟青陵大学)、藁谷俊史(いわき短期大学・福島県防災士会)、鈴木まゆみ(いわき短期大学)、小穴久仁(いわき短期大学・Dochubu)、林丈雄(いわき短期大学・府中市市民活動センター プラッツ)、遠藤崇広(東日本国際大学)

期間	2020年6月1日～2021年3月31日	経費	140,000 円
----	----------------------	----	-----------

### 【研究の概要】

- ・昨年度は新型コロナウイルス感染拡大のため計画進捗は低調であった。
- ・一昨年度の本研究助成により刊行した幼児向け減災絵本を用い、学生が認定こども園児を対象に読み聞かせと避難訓練の指導を行った。
- ・災害研を訪問し、学生被験者2名を対象とした絵本読み聞かせ時の脳血流量を測定した。
- ・防災教育ニーズ調査(福島県ならびに東京都・愛知県)は、コロナ禍での実施は困難なため次年度以降の課題とする。

### 【研究の具体的な成果・波及効果】

- ・減災絵本は160冊を刊行し、防災教育実態調査に協力を戴いた市内の幼稚園・認定こども園・保育所に献本した(71施設)。また、20年3月には福島県広野町立認定こども園「広野こども園」を訪問し、3～5歳児約90名を対象に、学生9名が減災絵本の読み聞かせと避難訓練指導を行った。
- ・20年9月本学幼児教育科1年生の授業に減災絵本制作者である卒業生をゲストスピーカーとして招き、絵本制作のプロセスやエピソードを語る機会を設けた。その際には、保育現場での減災絵本を活用した実践事例についても具体的な報告があり、減災教育の意義について問いかける貴重な機会となった。
- ・上記の諸活動は地元新聞等で報道され、市内NPO団体や気仙沼市公立保育園などから「絵本を減災教育に活用したい」との申し入れが複数あり、献本した。
- ・21年3月には災害研を訪問し(人間・社会対応研究部門 認知・実験室)、NIRS装置(近赤外線分光法)を用い、学生被験者2名を対象とする絵本読み聞かせ時の脳血流量を測定した(写真1・2)。その結果は21年度災害研/共同研究成果報告会にて中間報告を行う予定である。

### 【図表】



写真1:絵本読み聞かせの様子

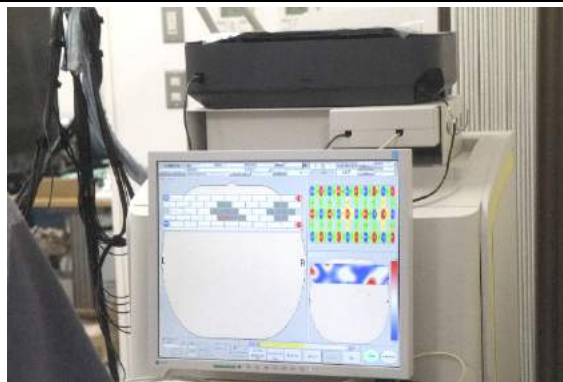


写真2:NIRS測定時のモニター

災害研訪問日	使用した施設・設備・ 学術資料・データベース等	使用時間
・令和3年3月1日	NIRS 装置	4 時間
延べ訪問回数 1 回		合計 4 時間

成果として発表した論文
・(口頭発表)鈴木まゆみ(研究代表者:田久昌次郎、所内共同研究者:今村文彦)「地域の実情や子どもの発達をふまえた減災コンテンツの開発と園児を対象とした減災教育の実証研究」(研究助成課題名/地域に特化した防災コンテンツの開発と園児を対象とした防災教育の実証研究)/東北大学災害科学国際研究所 2019 年度共同研究報告会プログラム/2020 年/P.7/査読なし/国内

学術論文 合計( 0 )編

特許・実用新案・その他の産業財産権
・なし

合計 ( 0 ) 件のうち、A 出願 計( )件 B 取得 計( )件

シンポジウム・講演会・セミナー等の開催
<ul style="list-style-type: none"> <li>・2020 年 9 月～12 月/公開講座/国内/学生/「地域防災計画学II」(防災士養成講座)/学内で開講する前記授業を社会人等にも開放している(今年度はコロナ禍のため外部開放は中止した)。/10 月 11 日には災害研・プロジェクト講師 保田真理先生に講師を務めて戴いた。</li> <li>・2020 年 9 月 11 日/学内授業/国内/学生/保育内容総論/当該研究の減災絵本制作者の一人であった 19 年度卒業生をゲストスピーカーに、制作のプロセスやエピソードを語る機会を設けた。また、保育現場での減災絵本を活用した実践事例の報告を受け減災教育の意義を問いかける貴重な体験となった。/70 名</li> </ul>

合計 ( 2 ) 件

## 災害科学の発展に寄与するその他の研究(2020年度)

研究課題名	1. 蔵王・御釜における水・熱・化学物質収支から見た地下水流動系の解明	研究領域	⑤
研究代表者	知北 和久		
所属機関等・職名	北海道大学北極域研究センター・研究員		

研究組織(組織構成員の氏名・所属機関名)

◎知北和久(北海道大学北極域研究センター)、○三浦 哲(災害研)、○山本 希(災害研)、後藤章夫(東北大学東北アジア研究センター)、岡田 純(気象庁気象研究所)

期間	2020年6月1日～2021年3月31日	経費	292,000 円
----	----------------------	----	-----------

### 【研究の概要】

2013年以來活動度の高い状態が続いている蔵王山で、現在は活動がないとされる火口湖「御釜」の水・熱・化学物質収支を定量的に求め、地下水系の動的状態を探る。これにより、現在および今後の蔵王火山の活動度評価に資するとともに、物理観測で得られた地下構造との対比や、発生が懸念される火山泥流の検討に有用な情報を得ると考える。

### 【研究の具体的な成果・波及効果】

地下水系の動的状態を探るためには、先ず、御釜での地下水流入・流出を量的に評価する必要がある。このため、湖畔に気象ステーションを設けて湖面蒸発量・降水量を求め、沖合に水位計を設置して御釜の貯水量変化を求めた(図1)。他方、MD地点(最深点)などで船上から水質プロファイラーを下し、御釜の水温・電導度・溶存酸素の垂直分布を求め、これら3項目の立体構造の時間変化を探った。また、MD地点に水温ロガーと電導度ロガーを設置し、採水により湖水・川水のpH測定や化学分析を行った。

今回は、水収支と化学物質収支を評価することで、御釜における地下水の流入量・流出量をそれぞれ定量的に求めることができた(表1)。これによると、御釜への地下水流入量は $0.0074\sim 0.0164\text{m}^3/\text{s}$ 、地下水流出量は $0.0348\sim 0.0467\text{m}^3/\text{s}$ で、この流出量の一部は濁川への漏水として供給されていることが示唆された(図1の漏出点を参照)。また、2019年10月～2020年6月の連続水温データから、完全結氷期における御釜の水温構造が明らかになり、湖底での明確な水温上昇が認められた。

他方、電導度ロガーによって湖水の25℃電導度(EC25)の連続記録が得られ、これによって湖水の $\text{SO}_4$ イオン濃度やpHの時間変動が得られた(図2)。

以上の成果は、2021年度地球惑星連合(JpGU)大会の米国地球物理学連合(AGU)との共同セッションで口頭発表の予定である。



【図表】

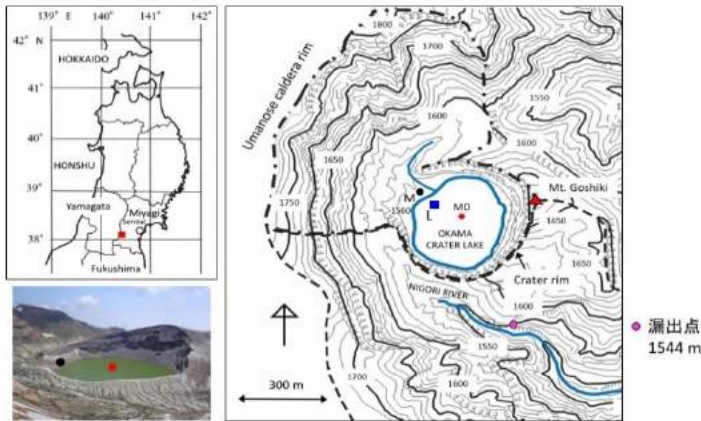


図 1. 蔵王・御釜と観測点の位置.

表 1. 水収支・化学物質収支評価によって得られた地下水の流入・流出量(無降雨日が3日以上継続の期間). 赤字が妥当な値.

期間	$R_m$ (m <sup>3</sup> /s)	$G_{in}-G_{out}$ (m <sup>3</sup> /s)	$G_m$ (m <sup>3</sup> /s)	$G_{out}$ (m <sup>3</sup> /s)
8月3-6日	0.00332	-0.0196	0.0164	0.0360
8月19-28日	0.00332	-0.0345	0.0122	0.0467
9月7-8日	0.00271	-0.0432	0.0177	0.0610
9月16-17日	0.00271	-0.0725	0.0187	0.0912
9月21-22日	0.00271	-0.0312	0.0109	0.0421
9月30日~10月4日	0.00212	-0.0274	0.0074	0.0348

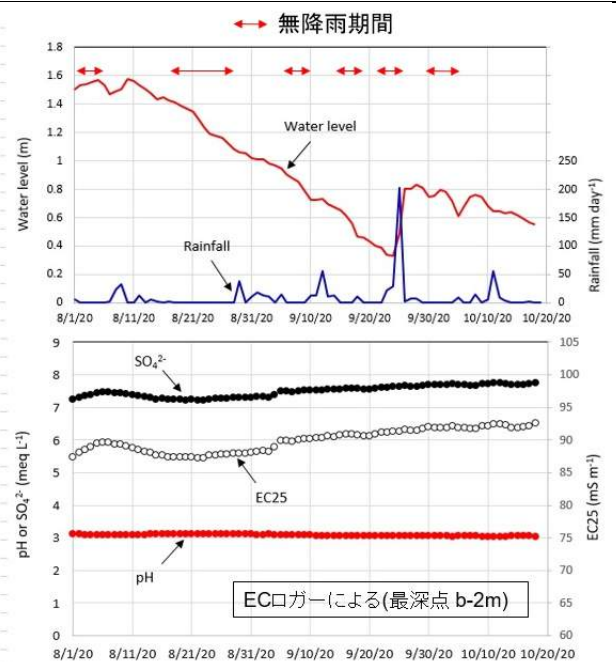


図 2. (上)雨量・水位と(下)SO<sub>4</sub>イオン濃度・EC25・pHの経日変化.

災害研訪問日	使用した施設・設備・ 学術資料・データベース等	使用時間
・令和3年1月14日:コロナ禍のためオンライン討論会を実施(参加者:組織構成員5名)	Zoomによるオンライン討論会	2時間
延べ訪問回数 1回		合計2時間

成果として発表した論文
なし

学術論文 合計(0)編

特許・実用新案・その他の産業財産権
なし

合計(0)件のうち、A出願 計( )件 B取得 計( )件

シンポジウム・講演会・セミナー等の開催
・2020年度地球惑星連合大会(オンライン開催:7月12日~16日)にてAGUとの共同セッション(使用言語、英語)でポスター発表。本共同セッションの参加者、約60名。

合計(1)件

## 災害科学の発展に寄与するその他の研究(2020 年度)

研究課題名	2. 東日本太平洋側に冷夏をもたらす気候場の長期復元に向けた基礎研究	研究領域	⑤
研究代表者	市野 美夏		
所属機関等・職名	情報・システム研究機構・データサイエンス共同利用基盤施設・人文学オープンデータ共同利用センター・特任助教		

### 研究組織(組織構成員の氏名・所属機関名)

◎市野美夏(情報・システム研究機構・データサイエンス共同利用基盤施設・人文学オープンデータ共同利用センター)、○佐藤大介(災害研)、平野淳平(帝京大学文学部)、増田耕一(東京都立大学都市環境学部)、三上岳彦(東京都立大学都市環境学部)、財城真寿美(成蹊大学経済学部)、北本朝展(情報・システム研究機構・データサイエンス共同利用基盤施設・人文学オープンデータ共同利用センター)

期間	2020年6月1日～2021年3月31日	経費	295,000円
----	----------------------	----	----------

### 【研究の概要】

東日本太平洋側では、「やませ」などの北東流の影響による冷夏が凶作などの被害をもたらすことがある。水戸の歴史資料(史料)から、1857年と1858年(対象年)の夏季に低温でしばしば北東気流の記録がある。これまで天気情報を含む史料が収集され、それに基づく気候復元が進められた。しかし、対象年の冷夏や「やませ」の研究はまだない。さらに19世紀以前の東北地方の天候情報量は十分とはいえない。

そこで、本研究では対象年夏季の天候分布を把握するため、史料に残る天気情報および気象災害記録などを収集した。既存の史料と整備が進んだ史料から気候解析データを作成し、対象年夏季の日射量偏差の分布、天候分布の日変化から、「やませ」および夏季の天候について議論した。さらに、現在開発を進めている古天気再解析(天気情報をデータ同化し気候場を推定する方法)での利用に向けたデータ構築を進めた。

### 【研究の具体的な成果・波及効果】

#### 1. 資料の調査と収集

対象年の夏季の天気情報が含まれる古文書記録の所在情報の調査を継続した。対象地域は、東北および全国規模とした。収集した対象期間の情報は110件を超えた。佐藤大介准教授が収集、翻刻を進める宮城県・東北南部の古文書記録の解読テキストデータ、昨年度収集した仙台市博物館および1830年代から70年代の古気候関係記録、宮城県栗原市の郷土史家・小野寺健太郎氏からの提供データである。

#### 2. 対象資料のデータ構造化およびメタデータの整備

1.で収集した史料データを気候研究に利用するためのデータ構造化とメタデータの整備を行なった。本研究とは利用目的が異なる整理データは、プログラムなどでの単純処理が困難であった。全データの天候情報、場所が1つのテーブルに2バイト文字で入力され、複数の文字コードが混在した。処理方法を検討し、全セル(フィールド)毎に分解し、1フィールドから資料、天候、場所の情報を抽出した後、時間、場所、資料で再構成した。さらに、例外も多く、プログラム等での処理と、元データや中間データを手作業で修正する作業を繰り返した。同じ情報の点在した複数のフィールドや、1フィールドに複数のデータが混在するもの、同資料同地点同日の異なる情報などの処理を手動で進めている。処理過程の見直しと再処理が複数発生し、8割以上が解析データまで至っていない。処理済のデータはコード化を施し、解析データとして利用した。

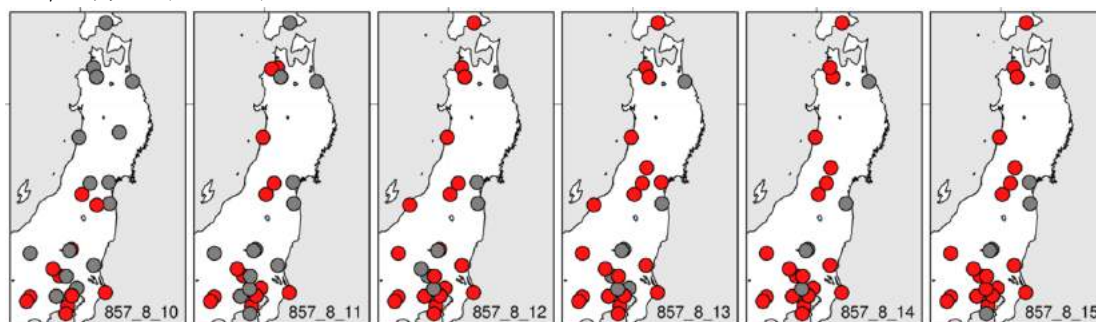
代表者らが開発した所在情報共有ツール「れきすけ」で収集データのメタデータの整備を進めた。「れきすけ」は自然科学など幅広い分野での史料の利活用促進のため、書誌情報に時空間情報と天気や地震などに関する情報を登録できる。それにより、東北大学のリポジトリ等へのアクセスが容易になり、データの活用が向上すると期待する。本研究でのデータ処理における課題は、現在、進行中のデータ構造化システム「れきろく」で、分野間のデータ共有におけるギャップ事例として、今後の開発に活かしていく。

### 3. 気候解析結果および今後の課題と発展・波及効果

全国的な日射量偏差分布からは、1857 年は平年並、1858 年は冷夏の可能性が見られたが、1857 年 5 月末に福島県で雪、1858 年夏季にはコレラが流行するなど、さらに詳細な解析が必要である。東北地方における日単位の天候分布では、水戸の北東流と冷気の観測日に「やませ」の可能性のあるパターンが確認された。

歴史気候学では、天明・天保期などに注目した研究は多いが、幕末期は藩の資料が少なくなるなど十分な議論はされていない。年輪など年単位の気候変動指標では、特定の地域における季節内変動の議論は難しい。近年、超分野での資料やデータの相互利用が進み、共同研究への発展も見られる。本研究においても、経済史や歴史人口学分野との天明・天保期の飢饉、幕末の気候変動と経済変動の再考などの研究へと発展している。加えて、気象観測データの発掘や、再解析などのモデル実験が 19 世紀まで遡り始めている。19 世紀は観測データとプロキシデータの継ぎ目でもあり、年より細かく、1 度グリッドより細かい時空間スケールでの時系列データや気候解析はより重要となっていくと考えている。

【図表】1857 年 8 月 10 日～19 日



水戸で北東流が記録された東北地方の天候分布 1857 年 8 月 10 日～15 日:赤:晴、グレー:曇、青:雨

災害研訪問日	使用した施設・設備・ 学術資料・データベース等	使用時間
<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和 2 年 8 月 4 日, オンライン会議(参加者 4 名)</li> <li>・令和 2 年 9 月 6 日, オンライン会議(参加者 4 名)</li> <li>・令和 2 年 10 月 6 日, オンライン会議(参加者 4 名)</li> </ul>		2 時間 2 時間 2 時間
延べ訪問回数 0 回		合計 6 時間

#### 成果として発表した論文

市野 美夏, 増田 耕一, 北本 朝展, れきすけ:歴史ビッグデータに関する知識と経験を共有する異分野間協働プラットフォーム, じんもんこん 2020 論文集, P.31-38, 2020, 査読有, 国内

学術論文 合計( 1 )編

#### 特許・実用新案・その他の産業財産権

なし

合計 ( 0 ) 件のうち、A 出願 計( )件 B 取得 計( 0 )件

#### シンポジウム・講演会・セミナー等の開催

なし

合計 ( 0 ) 件

## 災害科学の発展に寄与するその他の研究(2020年度)

研究課題名	3. 大変形までを対象とした堤防破堤挙動を可能とする数値解析手法の確立	研究領域	⑤
研究代表者	小高 猛司		
所属機関等・職名	名城大学工学部社会基盤デザイン工学科・教授		

### 研究組織(組織構成員の氏名・所属機関名)

◎小高猛司(名城大学)、○寺田賢二郎(災害研)、溝口敦子(名城大学、災害研クロスアポイントメント)、森口周二(災害研)、山口祐矢(災害研)

期間	2020年6月1日～2021年3月31日	経費	350,000円
----	----------------------	----	----------

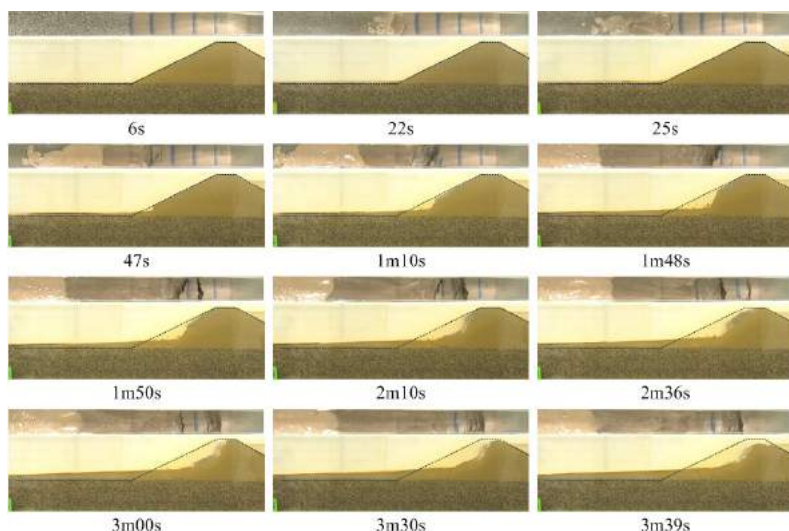
### 【研究の概要】

河川水の浸透から大変形(崩壊)に至る河川堤防の浸透破壊現象を対象として、模型実験と数値解析を駆使し、メカニズムの解明を行う。目的は現象の再現ではあるが、地盤工学、計算工学、河川工学の専門家が集結し、最終的に実河川を視野に入れた境界条件での解析を目指し、堤防評価に発展しうる知見を提供する。

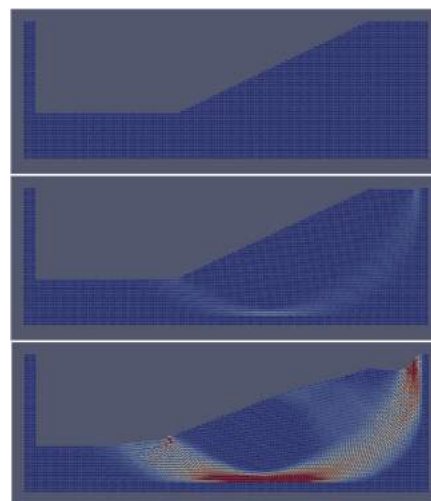
### 【研究の具体的な成果・波及効果】

名城大学が有する模型実験結果の分析、および大変形領域までを含む河川堤防の浸透破壊現象の表現が可能な数値解析手法の解析に取り組んだ。数値解析には、SPH(Smoothed Particle Hydrodynamics)を用いており、有限要素法などの従来手法などでは追跡できない変形領域までの表現が可能であり、飽和条件や乾燥条件などの比較的単純な条件について、大変形領域までを含めて安定的に計算を事項できることを確認した。

### 【図表】



模型実験により観察された堤防の浸透破壊現象



河川堤防の変形シミュレーション

災害研訪問日	使用した施設・設備・ 学術資料・データベース等	使用時間
・令和2年7月10日(4名) ※オンライン	Zoom ミーティングルーム	2時間
・令和2年9月18日(4名) ※オンライン	Zoom ミーティングルーム	2時間
・令和2年10月15日(4名) ※オンライン	Zoom ミーティングルーム	2時間
・令和2年1月7日(4名) ※オンライン	Zoom ミーティングルーム	1時間
・令和3年1月21日(4名) ※オンライン	Zoom ミーティングルーム	1時間
・令和3年2月4日(4名) ※オンライン	Zoom ミーティングルーム	1時間
・令和3年2月24日(4名) ※オンライン	Zoom ミーティングルーム	1時間
・令和3年3月17日(4名) ※オンライン	Zoom ミーティングルーム	1時間
延べ訪問回数 8回		合計 11時間

成果として発表した論文
なし

学術論文 合計( 0 )編

特許・実用新案・その他の産業財産権
なし

合計 ( 0 ) 件のうち、A 出願 計( )件 B 取得 計( )件

シンポジウム・講演会・セミナー等の開催
なし

合計 ( 0 ) 件

## 災害科学の発展に寄与するその他の研究(2020年度)

研究課題名	4. 重力測定を用いた伏在断層の連続性の評価	研究領域	⑤
研究代表者	岡田 真介		
所属機関等・職名	岩手大学理工学部・准教授		

研究組織(組織構成員の氏名・所属機関名)

◎岡田真介(岩手大学)、○岡田知己(災害研)、安保亮汰(東北大学)

期間	2020年6月1日～2021年3月31日	経費	335,000 円
----	----------------------	----	-----------

### 【研究の概要】

活断層の中でも、地表に断層変位地形が残っていない伏在活断層は、地震規模を評価する断層長でさえも明らかになっていないことが多い。本研究では、伏在活断層に伴って生じた地下地質構造(密度構造)の変化を重力探査によって捉えることにより、断層長を評価することを試みる。平野部には人口も集中していることが多く、伏在活断層の断層長を評価し、地震規模を推定することは防災上も重要である。

### 【研究の具体的な成果・波及効果】

本研究では、仙台平野南部の伏在活断層をターゲットとして、宮城県山元町つばめの杜周辺から同町坂元付近において、東西方向の探査測線を4測線設定し、南北方向に連続する伏在活断層に伴う重力変化を追跡した。測定間隔は250mとし、合計74点の測定を実施した。測定データから、地下の密度構造を反映するブーゲー重力異常を求めることにより、伏在活断層の連続性を評価した。その結果、北側の2測線では、平野部に伏在活断層に伴うわずかな重力変化を捉えることができた。しかし、その南方延長部に有意な重力変化は得られなかった(図)。このことから仙台平野南部の伏在活断層は、名取市増田付近から岩沼市、亶理町を通り、山元町高瀬付近までの約25kmの断層長である可能性が高い(断層長から地震の規模を推定するとマグニチュード(M)7.2に相当する。2016年の熊本地震はM7.3)。しかし、2020年度の探査によるブーゲー重力変化は、非常にわずかであり、亶理町付近の既存の結果との連続性については検討の余地が残った。

### 【図表】

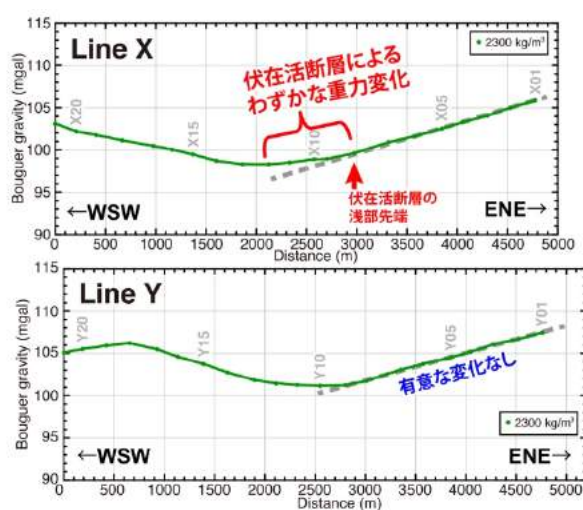
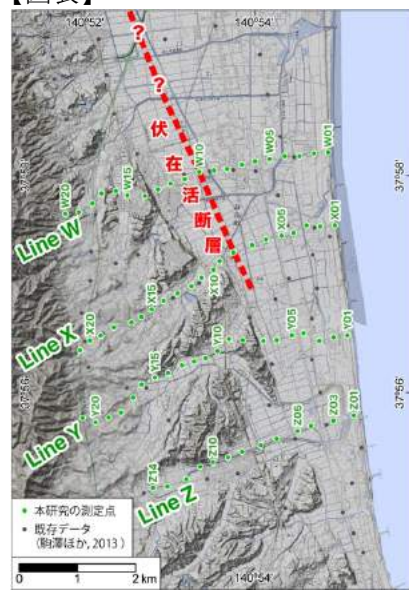


図. 仙台平野南端部における重力測定の結果。Line Xでは、測定点X09～X12付近の平野部において重力値が変化しており、伏在活断層によるわずかな重力変化を捉えていると考えられる。一方、その南延長部Line YのY05～Y08付近では有意な重力変化は見られないことから、伏在断層南端はLine XとLine Yの間にあると考えられる。

災害研訪問日	使用した施設・設備・ 学術資料・データベース等	使用時間
・令和2年9月12日～9月19日	ラコスト重力計	8日間(64時間)
延べ訪問回数 1回		合計 64時間

成果として発表した論文 該当無し
---------------------

学術論文 合計( 0 )編

特許・実用新案・その他の産業財産権 該当無し
---------------------------

合計 ( 0 ) 件のうち、A出願 計( 0 )件 B取得 計( 0 )件

シンポジウム・講演会・セミナー等の開催 該当無し
-----------------------------

合計 ( 0 ) 件

## 4 研究活動

### (4) 専任教員の研究・教育・社会活動



## 大野 晋 准教授

## OHNO Susumu

災害リスク研究部門 地域地震災害研究分野

## A. 基本情報・略歴

## 出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	東北大学	工学部	1986	3	東北大学大学院	工学研究科	1988	3	博士(工学)	1999	9

## 職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	1988	4	2003	3	鹿島建設技術研究所	
2	2003	4	2012	3	東北大学大学院 工学研究科 災害制御研究センター	准教授
3	2012	4	現在		東北大学 災害科学国際研究所	准教授

## 学会活動

## 所属学会

	学会名 1	2	3	4	5	6
	日本建築学会	日本地震工学会	日本自然災害学会	日本地震学会	土木学会	Seismological Society of America

## 学会・委員会等での役職

	学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
1	日本建築学会	構造委員会振動運営委員会	委員	20170400
2	日本建築学会	構造委員会振動運営委員会地盤震動小委員会	委員	20040400
3	日本建築学会	構造委員会振動運営委員会強震観測小委員会	主査	20190400
4	日本建築学会	卒業論文等顕彰事業委員会	委員	20181200
5	日本建築学会	災害委員会	委員	20190400
6	IAEE/IASPEI Working Group of the Effect of Surface Geology on Seismic Motion	ESG6 Local Organizing Committee	Member	20190500

## 研究分野・キーワード

	専門分野 1	専門分野 2
	地震工学	強震動地震学

## 委員会・ワーキンググループ

## 全学・他部局の委員会での委員

	部局名	委員会名	役職	開始年月日
1	学位プログラム推進機構	リーディングプログラム部門教務委員会	委員	20154000
2	評価分析室	評価分析室	室員	20190401

## B. 研究活動

## 研究活動の概要

仙台市および東北地方の地盤・建物強震観測の継続、これらの観測網で得られた記録を用いた地盤応答の研究や部分空間法による建物のシステム同定、構造ヘルスマニタリングに関する研究を進めた。また、機械学習に関して、強震動スペクトル評価手法の開発、同じく非線形・多入出力システムの建物応答の学習に関する研究、地震直後の地震動スペクトル分布推定手法の代理モデル学習に関する研究を実施した。特に強震動スペクトル評価手法については、通常の経験式よりも評価精度の向上が見込まれることを示した。

## 研究課題

	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	1988	4	現在		強震動予測に関する研究	国内
2	1988	4	現在		強震観測・建物振動特性評価に関する研究	国内
3	2003	4	現在		地下構造モデル評価手法に関する研究	なし
4	2006	4	現在		地震動分布の準リアルタイム評価手法に関する研究	なし
5	2011	4	現在		地震動特性と建物被害に関する研究	国内
6	2018	4	現在		地震工学への機械学習の適用に関する研究	なし

論文

単著	0	筆頭共著	1	その他の共著	3	合計	4	うち	国際査読有	4	国際査読無	0	国内査読有	0	国内査読無	0
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

記述言語	区分	所外連携	国際学術誌	種別	査読	招待論文	論文題目名(原語)	著者氏名(共著者含)	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日
英語	共著	国内	はい	国際会議 Proceedings	有	いいえ	CHARACTERISTICS OF SPATIAL VARIATION OF MICRO TREMOR RECORDS AT ADJACENT POINTS	R. Tokumitsu, M. Nishimoto, M. Aoki, Y. Uchiyama, S. Ohno	Proceedings of the 17th World Conference on Earthquake Engineering				1d-0045	20200900
英語	筆頭共著	国内	はい	国際会議 Proceedings	有	いいえ	REGION OPTIMIZATION OF 3-D DEEP SUBSURFACE STRUCTURE MODEL IN SENDAI BASIN, JAPAN, BASED ON ADJOINT METHOD	S. Ohno, D. Abe	Proceedings of the 17th World Conference on Earthquake Engineering				1d-0109	20200900
英語	共著	国内	はい	国際会議 Proceedings	有	いいえ	ATTEMPT TO ESTIMATE LOCAL SITE EFFECT OF YAMAGATA BASIN BY DENSE MICRO TREMOR MEASUREMENT	K. Mitsuji, S. Ohno	Proceedings of the 17th World Conference on Earthquake Engineering				1g-0012	20200900
英語	共著	国内	はい	国際会議 Proceedings	有	いいえ	DEEP LEARNING TECHNIQUES FOR STRUCTURAL RESPONSE PREDICTION DURING STRONG GROUND MOTIONS	A. A. Torky, S. Ohno, T. Kashima	Proceedings of the 17th World Conference on Earthquake Engineering				9c-0018	20200900

著書(監修・編集・単著・共著)

監修編集	0	単著	1	筆頭共著	0	共著	0	合計	1	うち	国際	0	国内	1
------	---	----	---	------	---	----	---	----	---	----	----	---	----	---

記述言語	著書名および担当執筆題名	種別	発行年月日	著者・監修者氏名	区分	出版社名	所外連携	発行部数
日本語	「地震の揺れの科学」(『東日本大震災からのスタート:災害を考える51のアプローチ』第10章, pp.39-42)	編集本(著者・Author)	20210311	大野晋 (東北大学災害科学国際研究所)	単著	東北大学出版会	なし	1400

学会発表

単名	1	筆頭連名	1	その他の連名	6	合計	8
----	---	------	---	--------	---	----	---

国内国際	会議名称	会議のチャア	区分	招待	講演・発表の形態	会場名	開催都市名	開催国名	開催期間		発表年月日	題目名(原語)	連名者名(発表者に下線)
									開始年月	終了年月			
国内	日本建築学会東北支部研究報告会	石川善美	その他の連名	いいえ	口頭(一般)			日本	20200620	20200620	20200620	2019年6月18日山形県沖の地震における木造住宅被害への地盤非線形性の影響について	<u>三辻和弥</u> , 大野晋
国内	第55回地盤工学研究発表会	三村 衛	その他の連名	いいえ	口頭(一般)			日本	20200721	20200723	20200723	微地形区分と常時微動観測から推定した地盤の卓越振動数の変化に関する考察	<u>三辻和弥</u> , 大野晋
国内	日本建築学会大会	竹脇 出	その他の連名	いいえ	口頭(一般)			日本	20200908	20200910	20200908	2019年6月18日山形県沖の地震における小規模建築物基礎の被害と地盤の地震応答について	<u>三辻和弥</u> , 大野晋
国内	日本建築学会大会	竹脇 出	その他の連名	いいえ	口頭(一般)			日本	20200908	20200910	20200908	重複反射が隣接地点間の地震動の空間変動に与える影響評価	<u>徳光亮二</u> , 山本優, 内山泰生, 大野晋
国内	日本建築学会大会	竹脇 出	その他の連名	いいえ	口頭(一般)			日本	20200908	20200910	20200908	FEM解析による東北大学青葉山キャンパスの振動モード特性	<u>栗田哲</u> , 尾崎亮斗, 三辻和弥, 大野晋, 佐藤健
国内	日本地震学会2020年度秋季大会	竹脇 出	その他の連名	いいえ	口頭(一般)			日本	20200908	20200910	20200908	隣接地点間の地震動の空間変動に影響を与える表層地盤深さの推定	<u>徳光亮二</u> , 山本優, 内山泰生, 大野晋
国内	第48回地盤震動シンポジウム	上林宏敏	筆頭連名	はい	指名/シンポジウム・ワークショップ・パネル	建築会館	東京	日本	20201120	20201120	20201120	深層学習による強震動スペクトル評価	<u>大野晋</u> , 松岡恭平
国内	シンポジウム 東日本大震災から10年 建築振動分野の課題と展望	長島一郎	単名	はい	指名/シンポジウム・ワークショップ・パネル	建築会館	東京	日本	20201204	20201204	20201204	強震観測-現状と課題-	<u>大野晋</u>

C. 教育活動

教育活動の概要

東北大学の全学教育、工学部建築・社会環境工学科および工学研究科都市・建築学専攻において、地震災害、建築構造、地盤震動に関する計9科目の講義を担当した。その中で、東日本大震災や最近の被害地震の揺れおよび被害の実態と教訓に関する講義を行った。

担当授業科目(他大学を含む)

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・学期	コマ数 90分/コマ
1	災害の科学	東北大学	全学		1	2セメ	1
2	都市・建築エンジニアリング	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	2	3セメ	2
3	建築・社会環境工学演習 E	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	2	3セメ	3
4	建築構造の力学	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	2	4セメ	15
5	地震と建築	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	3	5セメ	8
6	地盤と都市・建築	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	3	5セメ	5
7	建築数理基礎論 I	東北大学	工学研究科	都市・建築学専攻			4
8	地震災害制御学	東北大学	工学研究科	都市・建築学専攻			15
9	応用システム開発論	東北大学	工学研究科	都市・建築学専攻			15

D. 社会活動

社会活動の概要

片平町町内会にて一般向けに地震防災に関する講演を行った。2021年2月の福島県沖の地震に関して速報会で地震動特性と被害に関して説明した。

一般向けセミナー・講演等の主催・共催・運営等(研究活動以外)

講演・講義等(研究活動以外)

合計 …… 1 件

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	連携	主催者	会場名	開催都市名	開催国名	参加人数
				開始年月日	終了年月日							
1	セミナー	仙台市片平地区 第2回 リスク座談会	講演	20201226	20201226	仙台市における地震の振動被害と直接被害対策について	なし	東北大学災害科学国際研究所	仙台市片平 市民センター	仙台市	日本	

自治体・民間等での委員

	区分	組織・団体名	委員会名	委員・役職名	開始年月日
1	民間・NPO	一般財団法人 世界防災フォーラム		理事	20181219
2	民間・NPO	高圧ガス保安協会	詳細技術事前評価(地震動の評価にかかわるものに限る)委員会	委員	20200901

メディア対応

その他、他機関等との交流実績(国内に限る)

合計 …… 1 件

	交流機関名称	交流者	交流年月日	交流目的	会場名	開催都市名	主な担当内容	参加人数
1	名城大学	寺田賢二郎, 小高猛司, 柴山明寛, 武藤厚, 大野 晋, 鈴木温, 森口周二, 溝口敦子	20200710	会議	災害科学に関する最新研究成果の情報交換会		講演・発表	

# 榎田 竜太 准教授

## ENOKIDA Ryuta

災害リスク研究部門 地域地震災害研究分野

### A. 基本情報・略歴

#### 出身大学・大学院

No.	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	関西大学	工学部	2007	3	京都大学	工学研究科	2012	3	博士(工学)	2012	3

#### 職歴

No.	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	2009	6	2010	3	京都大学防災研究所	リサーチアシスタント
2	2010	4	2012	3	京都大学防災研究所	日本学術振興会特別研究員DC2
3	2012	4	2014	3	京都大学建築学専攻(2012年6月よりBristol大学機械工学科にVisiting research fellowとして滞在)	日本学術振興会特別研究員PD
4	2014	4	2016	3	Bristol大学機械工学科	日本学術振興会海外特別研究員
5	2016	4	2019	9	国立研究開発法人 防災科学技術研究所	特別研究員
6	2019	10	現在		東北大学 災害科学国際研究所	准教授
7	2012	6	2019	3	Bristol大学機械工学科	Visiting research fellow

#### 学会活動

##### 所属学会

学会名 1
日本建築学会

##### 学会・委員会等での役職

No.	学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
1	Frontiers in Built Environment	Editorial Board of Earthquake Engineering	review editor	20200810

##### 研究分野・キーワード

専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3
耐震構造学	制御工学	トライボロジー

### B. 研究活動

#### 研究活動の概要

下記の3つの課題に主に取り組んだ。  
**リアルタイムサブストラクチャ振動台実験手法の基礎構築**: 多層構造を対象としたリアルタイムサブストラクチャ振動台実験を実施するために、その実験手法の一般化を行った。  
**構造物の物理量推定と損傷検知**: 地震被害を受けた構造物の物理量(減衰・剛性)を時刻歴で表現できる手法を構築し、どのタイミングで、どの層に、どのくらいの地震エネルギーが発生しているかを表現することが可能となった。  
**直置き型構造物に設置するスッパーの設計法の構築**: すべりによる地震時損傷低減効果を発揮する直置き型構造物に対して、地震後の残留変位を最小化するためのスッパーの設計方法を構築した。

#### 研究課題

No.	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	2010	4	現在		非線形制御手法を応用した振動試験装置の高性能制御	両方
2	2012	6	現在		非線形制御を用いた動的サブストラクチャ実験による構造物の応答検証	国内
3	2010	4	現在		黒鉛潤滑を用いた直置き型構造物の開発	国内
4	2016	4	現在		建物応答の逆解析から検知する損傷同定手法の開発	両方

#### 論文

単著	1	筆頭共著	1	その他の共著	0	合計	2
----	---	------	---	--------	---	----	---

うち	国際査読有	2	国際査読無	0	国内査読有	0	国内査読無	0
----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

No.	記述言語	区分	所外連携	国際学術誌	種別	査読	招待論文	論文題目名(原語)	著者氏名(共著者含)	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日
1	英語	単著	なし	はい	学術雑誌	有	いいえ	Basic examination of two substructuring schemes for shake table tests	Ryuta Enokida	Structural Control and Health Monitoring	27	4	e2497		20200128
2	英語	筆頭共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Simple piecewise linearisation in time series for time-domain inversion to estimate physical parameters of nonlinear structures	Ryuta Enokida, Koichi Kajiwara	Structural Control and Health Monitoring	27	10	e2606		20200803

著書(監修・編集・単著・共著)

監修	0	編集	0	筆頭共著	0	共著	1	合計	1	うち	国際	0	国内	1
----	---	----	---	------	---	----	---	----	---	----	----	---	----	---

記述言語	著書名および担当執筆題名	種別	発行年月日	著者・監修者氏名	区分	出版社名	所外連携	発行部数
1 日本語	「スマートストラクチャの科学」『東日本大震災からのスタート:災害を考える51のアプローチ』第11章, pp.43-46)	編集本 (著者・Author)	20210311	榎田竜太, 五十子幸樹 (東北大学災害科学国際研究所)	共著	東北大学出版会	国内	1400

学会発表

単名	0	筆頭連名	1	その他の連名	0	合計	1
----	---	------	---	--------	---	----	---

	国内国際	会議名称	会議のチェア	区分	招待	講演・発表の形態	会場名	開催都市名	開催国名	開催期間		発表年月日	題目名(原語)	連名者名(発表者に下線)
										開始年月	終了年月			
1	国際	15th International Conference on Motion and Vibration control	Toru Watanabe	筆頭連名	いいえ	口頭(一般)	オンライン	新潟	日本	20201208	20201211	20201208	A simple approach to estimate physical parameters of single-degree-of-freedom structures under earthquake excitations	<u>Ryuta Enokida</u> , Koichi Kajiwara

C. 教育活動

教育活動の概要

工学研究科建築学専攻の卒業・修士・博士論文の研究における実験の補助を担当し、学生に対して実験の進め方や安全管理を指導した。東北工業大学において、1, 2, 3年生を対象とした地震工学の授業を担当し、180名の学生に地震工学の基礎と最新研究に関する授業を行った。

担当授業科目(他大学を含む)

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・学期	コマ数 90分/コマ
1	地震工学	東北工業大学	工学部	都市マネジメント学科	1,2,3	後期	100分×12コマ

D. 社会活動

社会活動の概要

災害科学国際研究所が主催する東日本大震災の10年シンポジウム「東日本大震災から10年とこれから」の実行委員として、現地開催とオンライン配信の運営準備を主に担当した。東北大学病院が主催するコンダクター型災害保健医療人材の養成プログラムにおいて、災害科学概論のセミナーの運営準備と講義を担当した。防災科学技術研究所と共同研究を継続した。

一般向けセミナー・講演等の主催・共催・運営等(研究活動以外)

合計	2 件
----	-----

	国内国際	主催団体名・運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場名	開催都市名	開催国名	担当	参加人数	IRIDeSの関与	講演会・セミナー等
				開始年月日	終了年月日							
1	国内	災害科学国際研究所	災害科学国際研究所シンポジウム「東日本大震災から10年とこれから」	20210307	20210307	仙台国際センター	仙台	日本	実行委員	194	IRIDeS主催・共同主催	シンポジウム
2	国内	コンダクター型災害保健医療人材の養成プログラム	災害科学概論	20201010	20201010	オンライン			運営委員	25	IRIDeS共催	セミナー

講演・講義等(研究活動以外)

合計	1 件
----	-----

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	連携	主催者	会場名	開催都市名	開催国名	参加人数
				開始年月日	終了年月日							
1	セミナー	コンダクター型災害保健医療人材の養成プログラム「災害科学概論」	講義	20201010	20201010	大型振動実験施設と実験例の紹介	なし	コンダクター型災害保健医療人材の養成プログラム	オンライン			25

自治体・研究機関との協定締結実績

	年月日	締結式会場	国内 海外	協定名称	締結機関	締結相手	期間	
							開始年月日	年数
1	20201005	書面	国内	構造物の地震時損傷検知技術と損傷低減装置を評価するための振動実験技術の開発	研究機関	国立研究開発法人防災科学技術研究所	20201005	2.5

## 今村 文彦 教授

### IMAMURA Fumihiko

災害リスク研究部門 津波工学研究分野

#### A. 基本情報・略歴

##### 出身大学・大学院

No.	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	東北大学	工学部	1984	3	東北大学大学院	工学研究科	1989	3	工学博士	1989	3

##### 職歴

No.	期間			勤務先	職名	
	開始年	月	終了年			月
1	1989	4	1990	12	東北大学 工学部土木工学科	助手
2	1991	3	1992	11	東北大学 工学部附属災害制御センター	講師
3	1992	12	2000	7	東北大学大学院 工学研究科附属災害制御センター	助教授
4	1993	8	1995	9	アジア工科大学院	助教授(派遣)
5	1997	6	2000	3	京都大学防災研究所 附属巨大災害研究センター	客員助教授(併任)
6	2000	8	2012	3	東北大学大学院 工学研究科附属災害制御センター	教授
7	2012	4	現在		東北大学 災害科学国際研究所	教授
8	2012	4	2014	3	東北大学 災害科学国際研究所	副研究所長
9	2012	4	2015	3	東北大学	総長特別補佐
10	2014	4	現在		東北大学 災害科学国際研究所	所長
11	2015	4	2020	3	東北大学	副理事(震災復興推進担当)
12	2016	6	現在		東北大学 災害復興新生研究機構	副機構長
13	2017	9	現在		東北大学 高等研究機構 災害科学世界トップレベル研究拠点	拠点長
14	2020	4	現在		東北大学	総長補佐

##### 学会活動

##### 所属学会

	学会名 1	2	3	4	5	6
	土木学会	日本地震学会	日本自然災害学会	Int. Tsunami Society	American Geophysical Union	デジタルアーカイブ学会

##### 学会・委員会等での役職

No.	学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
1	日本自然災害学会		理事及び評議員	0000
2	日本地震学会		代議員	0000
3	デジタルアーカイブ学会		理事及び評議員	0000
4	防災教育普及協会		副会長	0000

##### 研究分野・キーワード

専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3	専門分野 4	専門分野 5
津波工学	海岸工学	土木工学	自然災害科学	防災科学

##### 委員会・ワーキンググループ

##### 全学・他部局の委員会での委員

No.	部局名	委員会名	役職	開始年月日
1	東北大学	電気通信研究機構諮問委員会	委員	0000

#### B. 研究活動

##### 研究活動の概要

東日本大震災での津波被害に関する研究として、河川津波、遼上津波などの関連データ及び解析を実施している。また、津波統合モデルの高精度向上と機能の拡大を実施し、複合現象のリスク評価への適用を検討している。防災に関する国際標準化(ISO化)についても概念規格と個別テーマ規格し社会貢献への役割について検討している。

##### 研究課題

No.	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	1989	4	現在		津波発生メカニズムと伝播予測に関する研究	両方
2	1992	4	現在		津波総合防災に関する研究	両方
3	1997	10	現在		災害情報と認知に関する研究	国内
4	2011	3	現在		実践防災学の構築に関する研究	両方
5	2019	4	現在		地産地防の知見や技術・システムを国際標準化を通じた貢献に関する研究	国外

論文

単著	0	筆頭共著	0	その他の共著	34	合計	34
----	---	------	---	--------	----	----	----

うち	国際査読有	17	国際査読無	0	国内査読有	11	国内査読無	6
----	-------	----	-------	---	-------	----	-------	---

記述言語	区分	所外連携	国際学術誌	種別	査読	招待論文	論文題目名 (原語)	著者氏名 (共著者名)	論文掲載誌名 (原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日
英語	共著	両方	はい	学術雑誌	有	いいえ	Justification of possible casualty-reduction countermeasures based on global tsunami hazard assessment for tsunami-prone regions over the past 400 years	Otake, T., Chua, C. T., Suppasri, A. and Imamura, F.	Journal of Disaster Research	15	4	490	502	20200601
英語	共著	なし	はい	学術雑誌	有	いいえ	Classification of tsunami deaths by modifying ICD-10 categories in the 2011 Tohoku earthquake tsunami - A case study in Miyagi prefecture	Shuji Seto, Fumihiko Imamura	International Journal of Disaster Risk Reduction	50		101743		20200630
日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	無	いいえ	東日本大震災にみられた個々の教訓に対する理解度特性 - 東北大学MOOC受講者を対象にした事例研究 -	渡邊勇, 佐藤翔輔, 今村文彦	地域安全学会東日本大震災特別論文集		9	81	84	20200700
英語	共著	なし	はい	国際会議 Proceedings	有	いいえ	Tsunami Disaster Tradition before the 2011 Great East Japan Earthquake and the Effectiveness of Casualty Reduction,	Shosuke Sato, Fumihiko Imamura	Proceedings of 17th. World Conference on Earthquake Engineering			7		20200900
英語	共著	国外	はい	学術雑誌	有	いいえ	Tsunami evacuation process based on human behaviour in past earthquakes and tsunamis: A literature review	Fumiyasu Makinoshima, Fumihiko Imamura, Yusuke Oishi	Progress in Disaster Science	7	100113			20201000
英語	共著	なし	はい	学術雑誌	有	いいえ	Evaluation of Listeners on the Storytelling of Disaster Response Experience: The Case of Service Continuity at Miyagi Prefectural Office after Experiencing the Great East Japan Earthquake	Shosuke Sato, Fumihiko Imamura	Journal of Disaster Research	16	1			20210100
英語	共著	国外	はい	学術雑誌	有	いいえ	Global obtimization of a numerical two-layer model using observed data: A case study of the 2018 Sunda Strait tsunami	Pakoksung, K., Suppasri, A., Muhari, A., Syamsidik and Imamura, F.	Geoscience letters	7	15			20210124
英語	共著	国外	はい	学術雑誌	有	いいえ	Investigating beach erosion related with tsunami sediment transport at Phra Thong Island, Thailand caused by the 2004 Indian Ocean tsunami	Masaya, R., Suppasri, A., Yamashita, K., Imamura, F., Gouramanis, C. and Leclawat, N.	Natural Hazards and Earth System Sciences	20	2823	2841		20210128
日本語	共著	なし	いいえ	学術雑誌	有	いいえ	極近地津波における避難行動の実態調査と分析: 2019年6月山形県沖の地震津波の例	佐藤翔輔, 今村文彦	土木学会論文集B2(海岸工学)	76	2	1_1309	1_1314	20210100
日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	有	いいえ	遺伝的アルゴリズムによる沖合津波観測点配置の多目的最適化	倉本和俊, 牧野嶋 文泰, Anawat SUPPASRI, 今村文彦	土木学会論文集B2(海岸工学)	76	2	1_325	1_330	20210100
日本語	共著	なし	いいえ	学術雑誌	有	いいえ	東日本大震災における宮城県自治体での被害特性と死因傾向の考察	鎌田 絢一, 門畑 充位, 芹川 智紀, Anawat SUPPASRI, 今村文彦	土木学会論文集B2(海岸工学)	76	2	1_379	1_384	20210100
日本語	共著	なし	いいえ	学術雑誌	有	いいえ	巨大津波特性と津波堆積物の土砂供給源に関する数値解析 - 2004年インド洋大津波と2011年東北地方太平洋沖地震津波 -	征谷 亮太, 山下 啓, Anawat SUPPASRI, 今村文彦	土木学会論文集B2(海岸工学)	76	2	1_409	1_414	20210100
日本語	共著	国外	いいえ	学術雑誌	有	いいえ	米国ワシントン州ディスカバリー湾における1964年アラスカ地震津波による地形変化	渡邊 凌生, Anawat SUPPASRI, 今村文彦, 山下 啓, Kwanchai PAKOKSUNG, Carrie GARRISON-LANEY	土木学会論文集B2(海岸工学)	76	2	1_433	1_438	20210100
日本語	共著	なし	いいえ	学術雑誌	有	いいえ	思考変化と移動経路を組み合わせた津波避難行動過程の分析: 東日本大震災大震災発生時の気仙沼市陸上地区の事例	新家杏奈, 佐藤翔輔, 今村文彦	地域安全学会論文集		37	339	349	20210100
日本語	共著	なし	いいえ	学術雑誌	有	いいえ	発災から50年経過した水害被災地の記憶と備えの実態分析: 1967年羽越水害をまつりて伝承する新潟県関川村	門倉七海, 佐藤翔輔, 今村文彦	地域安全学会論文集		37	117	123	20210100
日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	有	いいえ	東日本大震災の教訓は伝わっているのか - 東北大学MOOC受講者を事例対象にした評価の試み -	渡邊勇, 佐藤翔輔, 八木秀文, 今村文彦	地域安全学会論文集		37	197	207	20210100
日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	有	いいえ	高知県における津波碑の分類体系の試みと建立実態の評価分析	田畑佳祐, 佐藤翔輔, 谷川 亘, 今村文彦	土木学会論文集B2(海岸工学)	76	2	1_1261	1_1266	20210100
日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	有	いいえ	東日本大震災におけるアマモ場の被害実態と津波外力との関係	木村 裕行, Anawat SUPPASRI, 山下 啓, 阿部 洋士, 今村文彦	土木学会論文集B2(海岸工学)	76	2	1_937	1_942	20210100
日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	有	いいえ	多様な津波被災データに基づく建物被害と人的被害の高度な推計法の検討	長谷川 夏来, Anawat SUPPASRI, 今村文彦	土木学会論文集B2(海岸工学)	76	2	1_1291	1_1296	20210100
英語	共著	国外	はい	学術雑誌	有	いいえ	Impact of COVID-19 restrictions on the research environment and motivation of researchers in Japan	Miki, Y., Chubachi, N., Imamura, E., Yaeagashi, N. & Ito, K.	Progress in Disaster Science	8	100128			20210200

21	英語	共著	国外	はい	学術雑誌	有	いいえ	Experiences of perinatal women and public healthcare providers in a community affected by the great east Japan earthquake and tsunami: Concerns that must be considered for the mental healthcare of perinatal women in postdisaster settings	Natsuko Kobayashi, Harumi Nemoto, Moe Seto, <u>Shosuke Sato</u> , Saya Kikuchi, Nami Honda, Tomomi Suzuki, Kinoko Sato, Junichi Sugawara, <u>Kiyoshi Ito</u> , Ryoma Kayano, Norio Ozaki, Charles W. Beadling, Ilan Kelman, <u>Fumihiko Imamura</u> , Hiroo Matsuoka, Hiroaki Tomita	International Journal of Disaster Risk Reduction	51	101767	8		20201200
22	英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	WBF-2019 Core Research Cluster of Disaster Science Planning Session as Disaster Preparedness: Participation in a Training Program for Conductor-Type Disaster Healthcare Personnel	Junko Okuyama, <u>Hiroyuki Sasaki</u> , <u>Shuji Seto</u> , Yu Fukuda, Toshiaki Iwasaki, Toru Matsuzawa, <u>Kiyoshi Ito</u> , <u>Takako Izumi</u> , Hiroki Takakura, <u>Fumihiko Imamura</u> , Tadashi Ishi	Journal of Disaster Research	15	7	900	912	20201201
23	英語	共著	国外	はい	学術雑誌	有	いいえ	Statistical analysis of building damage from the 2013 super typhoon Haiyan and its storm surge in the Philippines	Chaivuttiorn, Tanasakcharoen, Leclawat, N., Tang, J., Caro, C.V.C., Lagmay, A.M. <u>Suppasri, A.</u> , Bricker, J., Roebor, V., Yi, C.J. and <u>Imamura, F.</u>	Journal of Disaster Research	15	7	822	832	20201201
24	英語	共著	なし	はい	学術雑誌	有	いいえ	Spatial Distribution of Causes of Death in the 2011 Tohoku Tsunami at Ishinomaki City, Miyagi Prefecture	Serikawa, T., <u>Seto, S.</u> , <u>Suppasri, A.</u> and <u>Imamura, F.</u>	Journal of Disaster Research	15	7	943	958	20201201
25	英語	共著	国外	はい	学術雑誌	有	いいえ	Ten years after the 2011 Tohoku-oki earthquake and tsunami: Geological and environmental effects and implications for disaster policy changes	Kazuhiisa Goto, <u>Takashi Ishizawa</u> , <u>Yuichi Ebina</u> , <u>Fumihiko Imamura</u> , <u>Shosuke Sato</u> , <u>Keiko Udo</u>	Earth-Science Reviews	212	103417	26		20210100
26	英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Revealing complex tsunami evacuation process patterns induced by social interactions: A case study in Ishinomaki	Fumiya Makinoshima, Yusuke Oishi, Masaharu Nakagawa, <u>Shosuke Sato</u> , <u>Fumihiko Imamura</u>	International Journal of Disaster Risk Reduction	58		9		20210100
27	英語	共著	国外	はい	学術雑誌	有	いいえ	Probabilistic Tsunami Hazard Model of Building Inundation Following a Subaqueous Volcanic Explosion Based on the 1716 Tsunami Scenario in Taal Lake, Philippines	Pakoksung, K., <u>Suppasri, A.</u> and <u>Imamura, F.</u>	Geosciences	11	2	92		20210216
28	英語	共著	国外	はい	学術雑誌	有	いいえ	Predictive Analysis of the Building Damage from the 2011 Great East Japan Tsunami by Decision Tree Classification Related Algorithms	Saengtubtim, K., Tang, J., Leclawat, N., Treerunrat, W., Wisittiwong, N., <u>Suppasri, A.</u> , <u>Pakoksung, K.</u> and <u>Imamura, F.</u>	IEEE	9		31065	31077	20210218
29	日本語	共著	なし	いいえ	その他	無	いいえ	中学生にもできる津波避難者の思考・移動変化の調査手法の開発と実践: 気仙沼市立鹿折中学校防災学習の事例	新家吉奈, 佐藤翔輔, 今村文彦	第39回日本自然災害学会年次学術講演会講演概要集			19	20	20210300
30	日本語	共著	なし	いいえ	その他	無	いいえ	東日本大震災の教訓の理解が防災行動に及ぼす効果の定量評価	渡邊勇, 佐藤翔輔, 今村文彦	第39回日本自然災害学会年次学術講演会講演概要集			1	2	20210300
31	日本語	共著	国内	いいえ	その他	無	いいえ	地域コミュニティが関わる河川維持管理の事例分析ー宮城県小西川を対象にした質的調査からー	市川健, 那須野新, 天谷香織, 橋本晋, 佐藤翔輔, 橋本雅和, 今村文彦	第39回日本自然災害学会年次学術講演会講演概要集			101	102	20210300
32	日本語	共著	なし	いいえ	その他	無	いいえ	地形的リスクが及ぼす災害の記憶や備えへの影響ー羽越水害経験した新潟県関川村ー	門倉七海, 佐藤翔輔, 今村文彦	令和2年度土木学会東北支部技術研究発表会講演概要集			2		20210300
33	日本語	共著	なし	いいえ	その他	無	いいえ	ミリング行動に着目した避難行動特性の解明: 名取市閑上地区の事例	川合将矢, 新家吉奈, 佐藤翔輔, 今村文彦	令和2年度土木学会東北支部技術研究発表会講演概要集			2		20210300
34	英語	共著	なし	はい	学術雑誌	有	いいえ	Mental Health and Physical Activity among Children and Adolescents during the COVID-19 Pandemic	Junko Okuyama, <u>Shuji Seto</u> , Yu Fukuda, Shunichi Funakoshi, Shintaro Amae, Jun Onobe, Shinichi Izumi, <u>Kiyoshi Ito</u> , <u>Fumihiko Imamura</u>	The Tohoku Journal of Experimental Medicine	253	3	203	215	20210326

著書(監修・編集・単著・共著)

監修	0	編集	0	単著	1	筆頭共著	1	共著	4	合計	6	うち	国際	2	国内	4
----	---	----	---	----	---	------	---	----	---	----	---	----	----	---	----	---

記述言語	著書名および担当執筆題名	種別	発行年月日	著者・監修者氏名	区分	出版社名	所外連携	発行部数
1 英語	WHO Guidance on Research Methods for Health and Disaster Risk Management: Historical developments in Health EDRM policy and research: the case study of Japan	その他	20200800	<u>Shinichi Egawa</u> , <u>Hiroyuki Sasaki</u> , <u>Anawat Suppasri</u> , <u>Hiroaki Tomita</u> , <u>Fumihiko Imamura</u> , Fuji Nagami, Yasuhiro Kanatani, Akiko Eto, Yuichi Koido, Tatsuhiko Kubo, Hiroshi Kato, Yoshiharu Kim, Sonoe Mashino, Ryoma Kayano	共著	WHO	両方	
2 英語	Tsunami Evacuation during COVID-19: A Guide for School Administrators	その他	20201105	<u>Anawat Suppasri</u> , Constance Chua, <u>Fumihiko Imamura</u> , <u>Erick Mas</u> , <u>Shunichi Koshimura</u> , <u>Masakazu Hashimoto</u>	共著	UNDRR, UNDP	両方	



3	日本語	津波避難の実態と教訓(総合検証 東日本大震災からの復興)	編集本 (著者・Author)	20210210	佐藤翔輔, 今村文彦	共著	岩波書店	なし	
4	日本語	震災の記録・記憶をいかに伝承するかーアナログ・デジタルアーカイブの融合(総合検証 東日本大震災からの復興)	編集本 (著者・Author)	20210210	今村文彦, 佐藤翔輔	共著	岩波書店	なし	
5	日本語	『東日本大震災とは何だったのか?』(『東日本大震災からのスタート: 災害を考える51のアプローチ』巻頭言, pp.i-iii)	編集本 (著者・Author)	20210311	今村文彦 (東北大学災害科学国際研究所)	単著	東北大学出版会	なし	1400
6	日本語	『津波工学の深化』(『東日本大震災からのスタート: 災害を考える51のアプローチ』第4章, pp.13-16)	編集本 (著者・Author)	20210311	サッパシー・アナワット, 今村文彦, 門畑亮侍 (東北大学災害科学国際研究所)	共著	東北大学出版会	なし	1400

学会発表

単名	0	筆頭 連名	0	その他の 連名	3	合計	3
----	---	----------	---	------------	---	----	---

	国内 国際	会議名称	会議の チェア	区分	招待	講演・発表の形態	会場名	開催 都市名	開催 国名	開催期間		発表年 月日	題目名(原語)	連名者名 (発表者に下線)
										開始年月	終了年月			
1	国内	第67海岸工学講演会	後藤仁志	その他の 連名	いいえ	口頭(一般)	オンライン			20201110	20201113	20201110	多様な津波被災データに基づく建物被害と人的被害の高度な推計法の検討	<u>長谷川 夏実</u> , Anawat SUPPASRI, 今村 文彦
2	国内	第67海岸工学講演会	後藤仁志	その他の 連名	いいえ	口頭(一般)	オンライン			20201110	20201113	20201110	遺伝的アルゴリズムによる沖合津波観測点配置の多目的最適化	<u>倉本 和俊</u> , 牧野嶋 文泰, Anawat SUPPASRI, 今村 文彦
3	国内	第67回海岸工学講演会	西畑剛	その他の 連名	いいえ	口頭(一般)	オンライン	オンライン	日本	20201110	20201113	20201111	極近地津波における避難行動の実態調査と分析: 2019年6月山形県沖の地震津波の例	<u>佐藤翔輔</u> , 今村文彦

学術会議・シンポジウム等の主催・共催・運営等

合計	11 件
----	------

	国内 国際	種別	主催団体名・運営 団体名等	イベント名称	開催期間		会場	開催 都市名	開催 国名	参加人数 (%外国人)	分野	担当	IRIDeSの 関与	共催機関名	所外 連携
					開始年月	終了年月									
1	国際	セミナー	Tsunami Disaster Mitigation Research Center (TDMRC), Syiah Kuala University, International Institute of Disaster Science (IRIDeS), Tohoku University	Challenges in increasing tsunami preparedness in Asia Pacific	20200909	20200909	オンライン			137 (135)	工学	共催	IRIDeS共催		国外
2	国際	セミナー	Tsunami Disaster Mitigation Research Center (TDMRC), Syiah Kuala University, International Institute of Disaster Science (IRIDeS), Tohoku University	Development of tsunami fragility curves: Impact of tsunami waves on buildings	20200914	20200914	オンライン			162 (162)	工学	共催	IRIDeS共催		国外
3	国際	セミナー	Falling Walls Foundation	Learning from disasters for a resilient society: Experiences from the Great East Japan earthquake and tsunami and COVID-19 pandemi	20201102	20201102	オンライン			60 (20)	人文社会系	運営	IRIDeS共催		国外
4	国際	セミナー	Tsunami Disaster Mitigation Research Center (TDMRC), Syiah Kuala University, International Institute of Disaster Science (IRIDeS), Tohoku University	Mitigation impacts of coastal erosion	20201112	20201112	オンライン			166 (166)	工学	共催	IRIDeS共催		国外
5	国際	シンポジウム	東北大学変動地球共生学卓越大学院プログラム	東北大学変動地球共生学卓越大学院プログラム国際シンポジウム・TU×SDGsフォーラム	20201118	20201118	オンライン			178 (10)	工学	運営	IRIDeS共催		両方
6	国際	セミナー	Tsunami Disaster Mitigation Research Center (TDMRC), Syiah Kuala University, International Institute of Disaster Science (IRIDeS), Tohoku University	Improving techniques in scientific writing for journal publication	20201125	20201125	オンライン			327 (327)	工学	共催	IRIDeS共催		国外
7	国内	シンポジウム	東北大学災害科学国際研究所	災害研の減災デザイン・実装の成果と活動の展望	20201130	20201130	オンライン			100	人文社会系	運営	IRIDeS主催・共同主催		国内

8	国内	シンポジウム	東北大学災害科学国際研究所	令和2年度東日本大震災アーカイブシンポジウム -これまでの10年とこれからの10年-	20210111	20210111	オンライン				人文社会系	運営	IRIDeS主催・共同主催	国立国会図書館	国内
9	国内	シンポジウム	公益財団法人ひょうご震災記念21世紀研究機構	21世紀文明シンポジウム 東日本大震災から10年～復興の教訓と未来への展望	20210121	20210121	萩ホール、オンライン	仙台	日本	550	人文社会系	総括	IRIDeS主催・共同主催	朝日新聞社、河北新報社、ひょうご震災記念21世紀研究機構	国内
10	国内	ワークショップ	みやぎ防災・減災円卓会議	震災10周年企画 プロジェクト2「あの日とその後、いまを徹底して語り合う場」とことんトーク311「あの日から未来へ」	20210123	20210124	NHK仙台拠点放送局	仙台	日本	40	人文社会系	ファシリテーター、企画・運営	なし		
11	国内	シンポジウム	東北大学災害科学国際研究所	東日本大震災10年シンポジウム 東日本大震災から10年とこれから	20210307	20210307	仙台国際センター、オンライン	仙台	日本	194	人文社会系	主催	IRIDeS主催・共同主催		国内

C. 教育活動

教育活動の概要

世界で唯一工学的なアプローチで津波研究を展開，地球科学，地質学，減災工学，人間行動，災害情報・リモートセンシング技術まで多岐にわたる。国際的なプロジェクトや教育・研究も実施しており，大学院等で国内外の関係者と連携した教育を実施している。東日本大震災での課題についての教育や被災地での復興支援活動もしている。

担当授業科目(他大学を含む)

	科目名	学校名	学部/研究学科学名	学科/専攻名	学年	セメスター・学期	コマ数 90分/コマ
1	防災システム論	東北大学	工学研究科	土木工学専攻		通年	
2	沿岸海洋環境工学	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	3	5セメ	10
3	水環境創造のフロンティア	東北大学	工学研究科	土木工学専攻		通年	
4	スペクトル解析	東北大学	工学研究科	土木工学専攻		通年	

D. 社会活動

一般向けセミナー・講演等の主催・共催・運営等(研究活動以外)

合計 6 件

	国内 国際	主催団体名・ 運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場名	開催 都市名	開催 国名	担当	参加 人数	IRIDeSの 関与	講演会・セミナー等
				開始年月日	終了年月日							
1	国内	七ヶ浜町	七ヶ浜町×東北大学 オンライン・防災シンポジウム2020	20200923	20200923	オンライン	宮城県	日本	講演者		IRIDeS主催・共同主催	シンポジウム
2	国内	一般財団法人 日本エネルギー経済研究所 石油情報センター	石油連盟主催「茨城県石油セミナー」	20201005	20201005	水戸プラザホテル	茨城県	日本	講演者		なし	セミナー
3	国内	イノベーションガーデン実行委員会	イノベーションガーデン	20201010	20201010	オンライン	東京都	日本	登壇者		なし	その他
4	国内	全国海岸事業促進連合協議会	第24回海岸シンポジウム	20201126	20201126	星陵会館	宮城県	日本	講演者		なし	シンポジウム
5	国内	仙台市生涯学習支援センター	仙台明治青年大学学習会	20201209	20201209	太白区文化センター	宮城県	日本	講演者	286	なし	その他
6	国内	復興大学(学校法人 東北工業大学)	復興大学主催オンライン公開シンポジウム	20210220	20210220	オンライン	宮城県	日本	メッセージ		なし	シンポジウム

講演・講義等(研究活動以外)

合計 12 件

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	連携	主催者	会場名	開催 都市名	開催 国名	参加 人数
				開始年月日	終了年月日							
1	その他	復興大学県民講座	講義	20200627	20200627	・津波の発生と被害のメカニズム ・東日本大震災後の災害科学分野の発展と課題	なし	学校法人 東北工業大学	オンライン	仙台市	日本	
2	講演会	FNN防災会議	基調講演	20200828	20200828		企業	株式会社仙台放送	メトロポリタン仙台	仙台市	日本	200
3	講演会	FUJITSUファミリア「2020年度秋季大会」	基調講演	20201008	20201008	21世紀巨大災害の時代を生きる -レジリエンス社会を目指して	なし	富士通(株)カスタマーソリューション部	国際センター	仙台市	日本	
4	その他	濱口梧陵国際賞授賞式	特別講演	20201104	20201104	津波工学の設立と発展	なし	国際津波・沿岸防災技術啓発事業組織委員会	海運クラブ	東京都	日本	
5	講演会	社会資本整備の重要性に関するシンポジウム	基調講演	20201110	20201110	大災害の時代に生きる -東北の復興と今後の防災	なし	一般社団法人 日本建設業連合会	仙台勝山館	仙台市	日本	200

6	講演会	第1回オンライン津波セミナー	特別講演	20201124	20201124	津波防災の重要性	なし	一般財団法人 アジア防災センター	オンライン	神戸市	日本	100
7	その他	第24回海岸シンポジウム	講演	20201126	20201126	東日本大震災の経験と教訓～将来の防災・減災に繋げる～	なし	全国海岸事業促進連合協議会	オンライン(星陵会館)	東京都	日本	120
8	その他	防災に関するシンポジウム	基調講演	20210127	20210127	東日本大震災の経験と今後の防災対策－教訓を繋ぐために	なし	公益社団法人土木学会東北支部	オンライン	仙台市	日本	200
9	セミナー	防災キャラバン	講師	20210205	20210205	防災ISO取得の意義と現状について	なし	経済産業省東北経済産業局、構成読売新聞東京本社	オンライン		日本	200
10	その他	河北いぐね倶楽部2021年度総会・2月例会	特別講演	20210225	20210225		なし	株式会社河北新報社	ホテルメトロポリタン仙台	仙台市	日本	40
11	その他	NHK文研フォーラム シンポジウム	パネリスト	20210305	20210305		なし	日本放送協会放送文化研究所	オンライン			150
12	その他	防災対策に資する南海トラフ地震調査研究プロジェクトシンポジウム	コメンテーター	20210318	20210318		行政	防災対策に資する南海トラフ地震調査研究プロジェクト	オンライン		日本	150

自治体・民間等での委員

区分	組織・団体名	委員会名	委員・役職名	開始年月日
1	その他 一般社団法人 大成学術財団	選考委員会	委員	20190401
2	国・政府 文部科学省	地震調査研究推進本部地震調査委員会	委員	20190401
3	国・政府 国土交通省	国土交通省社会資本整備審議会(河川分科会)	臨時委員	20190401
4	国・政府 宮城県	宮城県総合計画審議会	委員	20190527
5	国・政府 名古屋大学減災連携研究センター	社会連携推進会議	委員	20190614
6	国・政府 内閣府 政府統括官(防災担当)	日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震モデル検討会	委員	20190920
7	その他 公益信託NEXCO関係会社高速道路防災対策等に関する支援基金	運営委員会	委員	20191001
8	その他 独立行政法人 国際協力機構	国内支援委員会	委員	20200101
9	その他 独立行政法人 日本学術振興会	ノーベル・プライズ・ダイアログ東京2021運営委員会	委員	20200101
10	国・政府 宮城県教育委員会	宮城県学校防災体制在り方検討会議	委員長	20200205
11	国・政府 静岡県	静岡県防災・原子力学術会議	委員	20200401
12	その他 公益社団法人 土木学会東北支部	津波評価に関する技術検討会	委員	20200615
13	国・政府 岩手県	岩手県津波防災技術専門委員会	委員	20200619
14	その他 公益財団法人ひょうご震災記念21世紀研究機構	「東日本大震災復興の教訓・ノウハウ集の作成に向けた調査分析事業」有識者会議	委員	20200715
15	その他 一般社団法人 レジリエンスジャパン推進協議会	感染症等災害リスクファイナンス推進戦略会議	委員	20200722
16	国・政府 宮城県	宮城県津波浸水想定の設定に関する検討委員会	委員	20200730
17	国・政府 東京大学地震研究所	東京大学地震研究所協議会	協議員	20200914
18	国・政府 宮城県	新・土木建築行政推進計画検討有識者会議	構成員(座長)	20201005
19	国・政府 国土交通省 東北地方整備局	名取川水系河川整備学識者懇談会	委員	20201105
20	その他 一般財団法人 日本規格協会	ISO/TC268/SC1/WG6対応国内委員会	委員	20201214
21	その他 一般財団法人 日本規格協会	ISO/TC268/SC1国内審議委員会	委員	20210107
22	国・政府 高知県	高知県復興まちづくり指針検討会	委員	20210201
23	国・政府 気象庁地震火山部	津波予測技術に関する勉強会	委員	20210305
24	国・政府 復興庁	復興推進委員会	委員	20210306

自治体・研究機関との協定締結実績

年月日	締結式会場	国内 海外	協定名称	締結機関	締結相手	期間	
						開始年月日	年数
20200409	岩手県大槌町	国内	東北大学災害科学国際研究所と岩手県大槌町との包括的協定	自治体	岩手県大槌町	20200409	
20201109	岩手県庁	国内	東北大学災害科学国際研究所と岩手県東日本大震災津波伝承館との包括的協定	自治体	東日本大震災津波伝承館	20201109	

# サッパーシー アナワット 准教授

## SUPPASRI Anawat

災害リスク研究部門 津波工学研究分野

### A. 基本情報・略歴

#### 出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	チュラーロンコーン大学	工学部	2005	3	東北大学大学院	工学部研究科	2010	9	博士(工)	2010	9

#### 職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	2010	10	2012	3	東北大学大学院工学研究科附属 災害制御研究センター	リサーチ・フェロー
2	2012	4	現在		東北大学 災害科学国際研究所	准教授

#### 学会活動

##### 所属学会

	学会名 1	2	3	4	5	6
	日本土木学会	日本地球惑星科学連合	米国地球物理学連合	欧州地球物理学連合	アジア・オセアニア地球科学学会	タイ工学会

##### 学会・委員会等での役職

	学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
1	土木学会	海岸工学委員会 CEJ小委員会	会員	20140401
2	Global Risk Forum GRF Davos	IJDRR Journal Editorial board	Member	20141201
3	土木学会	海岸工学委員会 津波作用に関する研究レビューおよび活用研究小委員会	会員	20150000
4	アジア・オセアニア地球科学学会		Section secretary	20160000
5	IUGS GeoHazard Task Group		Treasurer	20170000
6	MDPI Publishing	Geosciences	Member	20180700
7	アジア・オセアニア地球科学学会	Geoscience Letters Editorial board	Member	20181000

##### 研究分野・キーワード

専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3	専門分野 4
津波工学	海岸工学	防災学	災害リスク

### B. 研究活動

#### 研究活動の概要

国内外(特に東南アジア:タイ、インドネシア、フィリピン)において総合的に津波工学の観点から津波または地震・沿岸災害の防災研究について活動している。主に、津波被害予測、ハザード・リスク評価、津波避難、防災教育に関して研究し、国内外で発表し、多数の国際共著で学術雑誌に掲載されている。

#### 研究課題

	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	2007	10	現在		インド洋・太平洋における津波ハザードマップ研究	国外
2	2007	10	現在		津波被害関数構築に関する研究	両方
3	2009	10	現在		津波避難に関する研究	両方
4	2012	4	現在		防災教育に関する研究	両方
5	2013	11	現在		2013年に発生したハイエン台風に関する研究	国外
6	2016	4	現在		世界津波ハザード評価に関する研究	両方
7	2018	9	現在		スラウェシ島津波・スンダ海峡津波に関する研究	国外
8	2020	10	現在		COVID-19と災害・防災に関する研究	両方

#### 論文

単著	0	筆頭共著	0	その他の共著	20	合計	20	うち	国際査読有	14	国際査読無	0	国内査読有	6	国内査読無	0
----	---	------	---	--------	----	----	----	----	-------	----	-------	---	-------	---	-------	---

	記述言語	区分	所外連携	国際学術誌	種別	査読	招待論文	論文題目名(原語)	著者氏名(共著者含)	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日
1	英語	共著	なし	はい	学術雑誌	有	はい	The Sendai Framework for Disaster Risk Reduction at 5: Lessons from the 2011 Great East Japan Earthquake and Tsunami	Maly, E. and Suppasri, A.	International Journal of Disaster Risk Science	11		167	178	20200420

2	英語	共著	両方	はい	学術雑誌	有	いいえ	Justification of possible casualty-reduction countermeasures based on global tsunami hazard assessment for tsunami-prone regions over the past 400 years	Otake, T., Chua, C. T., <u>Suppasri, A.</u> and <u>Imamura, F.</u>	Journal of Disaster Research	15	4	490	502	20200601
3	英語	共著	両方	はい	学術雑誌	有	いいえ	Characteristics of Tsunami Fragility Functions Developed Using Different Sources of Damage Data from the 2018 Sulawesi Earthquake and Tsunami	<u>Mas, E.</u> , Paulik, R., <u>Pakoksung, K.</u> , Adriano B., Moya, L., <u>Suppasri, A.</u> , Muhari, A., Khomarudin, R., Yokoya, N., Matsuoka, M. and <u>Koshimura, D.</u>	Pure and Applied Geophysics	177		2437	2455	20200603
4	英語	共著	国外	はい	学術雑誌	有	いいえ	Challenges in increasing community preparedness against tsunami hazards in tsunami-prone small islands around Sumatra	Syamsidik, Rasyif, T.M., <u>Suppasri, A.</u> , Fahmi, M., Akmal, W. Al'ala, M. Hafli, T.M., Fauzia A.	International Journal of Disaster Risk Reduction	47		101572		20200800
5	英語	共著	国外	はい	学術雑誌	有	いいえ	Vulnerability of Florida residential structures to hurricane induced coastal flood	Paleo-Torres, A., Gurley, K., Pinelli, J., KhadaranShoraka, M., Zhao, M., <u>Suppasri, A.</u> and Peng, X.	Engineering Structures	220	1	111004		20201001
6	英語	共著	国外	はい	学術雑誌	有	いいえ	Global obtimization of a numerical two-layer model using observed data: A case study of the 2018 Sunda Strait tsunami	<u>Pakoksung, K.</u> , <u>Suppasri, A.</u> , Muhari, A., Syamsidik and <u>Imamura, F.</u>	Geoscience letters	7	15			20201024
7	英語	共著	国外	はい	学術雑誌	有	いいえ	Investigating beach erosion related with tsunami sediment transport at Phra Thong Island, Thailand caused by the 2004 Indian Ocean tsunami	Masaya, R., <u>Suppasri, A.</u> , <u>Yamashita, K.</u> , <u>Imamura, F.</u> , Gouramanis, C. and Leclawat, N.	Natural Hazards and Earth System Sciences	20	2823	2841		20201028
8	日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	有	いいえ	遺伝的アルゴリズムによる沖合津波観測点配置の多目的最適化	倉本 和俊, 牧野嶋 文泰, <u>Anawat SUPPASRI</u> , 今村 文彦	土木学会論文集B2(海岸工学)	76	2	1_325	1_330	20201100
9	日本語	共著	なし	いいえ	学術雑誌	有	いいえ	東日本大震災における宮城県自治体での被害特性と死因傾向の考察	鎌田 敏一, 門塚 充佳, 芹川 智紀, <u>Anawat SUPPASRI</u> , 今村 文彦	土木学会論文集B2(海岸工学)	76	2	1_379	1_384	20201100
10	日本語	共著	なし	いいえ	学術雑誌	有	いいえ	巨大津波特性と津波堆積物の土砂供給源に関する数値解析—2004年インド洋大津波と2011年東北地方太平洋沖地震津波—	砥谷 亮太, 山下 啓, <u>Anawat SUPPASRI</u> , 今村 文彦	土木学会論文集B2(海岸工学)	76	2	1_409	1_414	20201100
11	日本語	共著	国外	いいえ	学術雑誌	有	いいえ	米国ワシントン州ディスカバリー湾における1964年アラスカ地震津波による地形変化	渡邊 凌生, <u>Anawat SUPPASRI</u> , 今村 文彦, 山下 啓, Kwanchai PAKOKSUNG, Carrie GARRISON-LANEY	土木学会論文集B2(海岸工学)	76	2	1_433	1_438	20201100
12	日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	有	いいえ	東日本大震災におけるアマモ場の被害実態と津波外力との関係	木村 裕行, <u>Anawat SUPPASRI</u> , 山下 啓, 阿部 洋士, 今村 文彦	土木学会論文集B2(海岸工学)	76	2	1_937	1_942	20201100
13	日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	有	いいえ	多様な津波被災データに基づく建物被害と人的被害の高度な推計法の検討	長谷川 夏来, <u>Anawat SUPPASRI</u> , 今村 文彦	土木学会論文集B2(海岸工学)	76	2	1_1291	1_1296	20201100
14	英語	共著	国外	はい	学術雑誌	有	いいえ	Statistical analysis of building damage from the 2013 super typhoon Haiyan and its storm surge in the Philippines	Chaivutitorn, Tanasakcharoen, Leclawat, N., Tang, J., Caro, C.V.C., Lagmay, A.M. <u>Suppasri, A.</u> , Bricker, J., Roeber, V., Yi, C.J. and <u>Imamura, F.</u>	Journal of Disaster Research	15	7	822	832	20201201
15	英語	共著	両方	はい	学術雑誌	有	いいえ	Advances of International Collaboration on M9 Disaster Science: Scientific Session Report	<u>Maly, E.</u> , <u>Terada, K.</u> , LeVeque, R.J., Kuriyama, N., Abramson, D.B., Nguyen, L.T., Bostrom, A., Leon, J., Motley, M., Catalan, P.A., <u>Koshimura, S.</u> , <u>Moriguchi, S.</u> , <u>Yamaguchi, Y.</u> , Carrison-Laney, C., <u>Suppasri, A.</u> and <u>Mas, E.</u>	Journal of Disaster Research	15	7	890	899	20201201
16	英語	共著	なし	はい	学術雑誌	有	いいえ	Spatial Distribution of Causes of Death in the 2011 Tohoku Tsunami at Ishinomaki City, Miyagi Prefecture	Serikawa, T., <u>Seto, S.</u> , <u>Suppasri, A.</u> and <u>Imamura, F.</u>	Journal of Disaster Research	15	7	943	958	20201201
17	英語	共著	国外	はい	学術雑誌	有	いいえ	Coastal and settlement typologies-based tsunami modeling along the northern Sumatra seismic gap zone for disaster risk reduction action plans	Jihad, A., Muksin, U., Syamsidik., <u>Suppasri, A.</u> , Ramli, M., Banyunegoro, V.H.	International Journal of Disaster Risk Reduction	51		101800		20201200
18	英語	共著	国外	はい	学術雑誌	有	いいえ	Fifteen years of the 2004 Indian Ocean Tsunami in Aceh-Indonesia: Mitigation, preparedness and challenges for a long-term disaster recovery process	Syamsidik, Oktari, R. S., Nugroho, A., Fahmi, M., <u>Suppasri, A.</u> , Munadi, K. and Amra R.	International Journal of Disaster Risk Reduction	51		102052		20210215
19	英語	共著	国外	はい	学術雑誌	有	いいえ	Probabilistic Tsunami Hazard Model of Building Inundation Following a Subaqueous Volcanic Explosion Based on the 1716 Tsunami Scenario in Taal Lake, Philippines	<u>Pakoksung, K.</u> , <u>Suppasri, A.</u> and <u>Imamura, F.</u>	Geosciences	11	2	92		20210216
20	英語	共著	国外	はい	学術雑誌	有	いいえ	Predictive Analysis of the Building Damage from the 2011 Great East Japan Tsunami by Decision Tree Classification Related Algorithms	Saengtubtim, K., Tang, J., Leclawat, N., Treeranurat, W., Wisittiwong, N., <u>Suppasri, A.</u> , <u>Pakoksung, K.</u> and <u>Imamura, F.</u>	IEEE East Japan Tsunami by Decision Tree Classification Related Algorithms	9		31065	31077	20210218

著書(監修・編集・単著・共著)

監修 編集	0	単著	1	筆頭 共著	2	共著	2	合計	5	うち	国際	2	国内	3
----------	---	----	---	----------	---	----	---	----	---	----	----	---	----	---

記述 言語	著書名および担当執筆題名	種別	発行年月日	著者・監修者氏名	区分	出版社名	所外 連携	発行 部数
1 英語	WHO Guidance on Research Methods for Health and Disaster Risk Management: Historical developments in Health EDRM policy and research: the case study of Japan	その他	20200800	Shinichi Egawa, Hirovuki Sasaki, Anawat Suppasri, Hiroaki Tomita, Fumihiko Imamura, Fuji Nagami, Yasuhiro Kanatani, Akiko Eto, Yuichi Koido, Tatsuhiko Kubo, Hiroshi Kato, Yoshiharu Kim, Sonoe Mashino, Ryoma Kayano	共著	WHO	両方	
2 英語	Tsunami Evacuation during COVID-19: A Guide for School Administrators	その他	20201105	Anawat Suppasri, Constance Chua, Fumihiko Imamura, Erick Mas, Shunichi Koshimura, Masakazu Hashimoto	共著	UNDRR, UNDP	両方	
3 日本語	東日本大震災から10年 ～研究者の視点	その他		サップパシー アナワット	単著	建設コンサルタンツ協会 東北支部	なし	
4 日本語	「津波工学の深化」(『東日本大震災からのスタート:災害を考える51のアプローチ』第4章, pp.13-16)	編集本 (著者・ Author)	20210311	サップパシー アナワット、今村文彦、門廻充 偉 (東北大学災害科学国際研究所)	共著	東北大学出版会	なし	1400
5 日本語	「産業界との連携」(『東日本大震災からのスタート:災害を考える51のアプローチ』第51章, pp.209-212)	編集本 (著者・ Author)	20210311	山下啓、サップパシー アナワット (東北大学災害科学国際研究所)	共著	東北大学出版会	なし	1400

学会発表

単名	0	筆頭 連名	0	その他の 連名	3	合計	3
----	---	----------	---	------------	---	----	---

	国内 国際	会議名称	会議の チェア	区分	招待	講演・発表の 形態	会場名	開催 都市名	開催 国名	開催期間		発表 年月日	題目名(原語)	連名者名 (発表者に下線)
										開始年月	終了年月			
1	国内	第67海岸工学講演会	後藤仁志	その他 の連名	いいえ	口頭(一般)	オンライン			20201110	20201113	20201110	多様な津波被災データに基づく建物被害と人的被害の高度な推計法の検討	長谷川 夏来, Anawat SUPPASRI, 今村 文彦
2	国内	第67海岸工学講演会	後藤仁志	その他 の連名	いいえ	口頭(一般)	オンライン			20201110	20201113	20201110	遺伝的アルゴリズムによる沖合津波観測点配置の多目的最適化	倉本 和俊, 牧野嶋 文 基, Anawat SUPPASRI, 今村 文彦
3	国内	津波解析ハッカソン	高橋智幸	その他 の連名	いいえ	口頭(一般)	オンライン			20200901	20200901	20200901	課題1 模型実験による詳細な市街地氾濫過程とその水理諸量	Kwanchai Pakoksung, Anawat Suppasri

学術会議・シンポジウム等の主催・共催・運営等

合計	7 件
----	-----

	国内 国際	種別	主催団体名・運営 団体名等	イベント名称	開催期間		会場	開催 都市名	開催 国名	参加人数 (うち外国人)	分野	担当	IRIDeSの 関与	共催 機関名	所外 連携
					開始年月	終了年月									
1	国際	セミナー	Tsunami Disaster Mitigation Research Center (TDMRC), Syiah Kuala University, International Institute of Disaster Science (IRIDeS), Tohoku University	Challenges in increasing tsunami preparedness in Asia Pacific	20200909	20200909	Online			137 (135)	工学	Dr. Syamsidik	IRIDeS共催		国外
2	国際	セミナー	Tsunami Disaster Mitigation Research Center (TDMRC), Syiah Kuala University, International Institute of Disaster Science (IRIDeS), Tohoku University	Development of tsunami fragility curves: Impact of tsunami waves on buildings	20200914	20200914	Online			162 (162)	工学	Dr. Syamsidik	IRIDeS共催		国外
3	国際	セミナー	Asia Oceania Geosciences Society (AOGS), European Geosciences Union (EGU)	AOGS-EGU NatHazards Virtual Conference	20200923	20200923	Online			460 (430)	環境 & 地球科学	Prof. Bruce Malamud	なし		国外
4	国際	セミナー	Falling Walls Foundation	Learning from disasters for a resilient society: Experiences from the Great East Japan earthquake and tsunami and COVID-19 pandemi	20201102	20201102	Online			60 (20)	人文社 会系	Prof. Yoshiaki Maeda	IRIDeS共催		国外
5	国際	セミナー	Tsunami Disaster Mitigation Research Center (TDMRC), Syiah Kuala University, International Institute of Disaster Science (IRIDeS), Tohoku University	Mitigation impacts of coastal erosion	20201112	20201112	Online			166 (166)	工学	Dr. Syamsidik	IRIDeS共催		国外

6	国際	シンポジウム	東北大学変動地球共生学卓越大学院プログラム	東北大学変動地球共生学卓越大学院プログラム国際シンポジウム・TU×SDGsフォーラム	20201118	20201118	Online			178 (10)	工学	Prof. Michihiko Nakamura	IRIDeS共催		両方
7	国際	セミナー	Tsunami Disaster Mitigation Research Center (TDMRC), Syiah Kuala University, International Institute of Disaster Science (IRIDeS), Tohoku University	Improving techniques in scientific writing for journal publication	20201125	20201125	Online			327 (327)	工学	Dr. Syamsidik	IRIDeS共催		国外

C. 教育活動

教育活動の概要

本学の工学研究科土木工学専攻及び工学部建築・社会環境工学科の学生へ、卒業論文・修士論文の研究または学会発表への指導、土木工学水系の専門である授業も幾つか担当している。

担当授業科目(他大学を含む)

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・学期	コマ数 90分/コマ
1	社会環境工学実験	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	3	5セメ	10
2	沿岸海洋環境工学	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	3	6セメ	5
3	水環境デザイン演習Ⅱ	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	4	7セメ	
4	工学英語Ⅱ	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	4	6セメ	4
5	自然災害科学の基礎と防災への適用	東北大学		短期留学生受入プログラム(JYPE)提供科目			6

D. 社会活動

社会活動の概要

主に在東京タイ王国大使館、国連開発計画(UNDP)と共に防災活動において防災講演会、防災訓練を実施している。国内のメディアにもラジオ、テレビにおいて情報発信している。

一般向けセミナー・講演等の主催・共催・運営等(研究活動以外)

合計 1 件

	国内 国際	主催団体・運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場名	開催都市名	開催国名	担当	参加人数	IRIDeSの関与	講演会・セミナー等
				開始年月日	終了年月日							
1	国内	防災推進国民大会2020実行委員会	防災こくたい	20201003	20201003	オンライン			ポスター 展示対応			その他

講演・講義等(研究活動以外)

合計 2 件

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	連携	主催者	会場名	開催都市名	開催国名	参加人数
				開始年月日	終了年月日							
1	その他	セツ浜町×東北大学 オンライン・防災シンポジウム2020	パネリスト	20200924	20200924		行政	セツ浜町	オンライン			
2	セミナー	ADRC Online Tsunami Seminar	招待講演	20201124	20201124	Knowledge from the 2011 Japan tsunami and tsunami disaster management perspectives under COVID-19 pandemic	なし	アジア防災センター(ADRC)	オンライン			120

その他、他機関等との交流実績(国内に限る)

合計 3 件

	交流機関名称	交流者	交流年月日	交流目的	会場名	開催都市名	主な担当内容	参加人数
1	在東京タイ王国大使館	サッパシー・アナワット	20201028	その他	オンライン			20
2	在東京タイ王国大使館	サッパシー・アナワット	20201201	その他	オンライン			15
3	在東京タイ王国大使館	サッパシー・アナワット	20201209	その他	オンライン			20

# 門廻 充待 助教

SETO Shuji

災害リスク研究部門 津波工学研究分野

## A. 基本情報・略歴

### 出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	関西大学	システム理工学部	2012	3	関西大学	大学院社会安全研究科	2014	3	修士(学術)	2014	3
					関西大学	大学院社会安全研究科	2017	3	博士(学術)	2017	3

### 職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	2016	4	2017	3	日本学術振興会 特別研究員DC2(関西大学 大学院社会安全研究科 防災・減災専攻)	特別研究員
2	2017	4	2018	1	日本学術振興会 特別研究員PD(関西大学 社会安全学部 安全マネジメント学科)	特別研究員
3	2018	4	現在		関西大学 社会安全学部	非常勤講師

### 学会活動

#### 所属学会

	学会名 1	2	3
	土木学会	日本自然災害学会	日本災害医学会

#### 学会・委員会等での役職

	学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
1	土木学会	総務部門 全国大会委員会 プログラム編成会議 2020年度	第II部門委員	20200423

#### 研究分野・キーワード

	専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3
	津波災害における犠牲者	津波観測情報	津波防災

## B. 研究活動

### 研究活動の概要

宮城県警察本部から提供された犠牲者情報(9527名分)を用いて、以下の研究を実施した:①遺体発見場所と犠牲者住所の関係から、宮城県13自治体は、被害形態が4パターンに分類された。②低体温症犠牲者22名の研究から、2つの被害パターンが示唆された。③宮城県石巻市を対象に行った結果、石巻市平野部では沿岸部の工業地域・港町よりも、やや内陸に位置する住宅地において、浸水深に対する溺死者率が高い傾向が確認された。さらに、災害の経験とともに歩む時代を見据え、災害の経験と心的外傷後成長(PTG)に関する研究を開始した。

### 研究課題

	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	2020	4	現在		東日本大震災における宮城県での遺体発見場所と犠牲者住所の関係	国内
2	2020	4	現在		東日本大震災における宮城県での海上発見犠牲者に関する研究	国内
3	2020	4	現在		東日本大震災における宮城県での低体温症犠牲者に関する研究	国内
4	2019	4	現在		東日本大震災における宮城県石巻市での犠牲者に関する研究	国内
5	2020	6	現在		新型コロナウイルス感染症流行下における災害の経験と心的外傷後成長に関する研究	両方

### 論文

単著	0	筆頭共著	1	その他の共著	4	合計	5

うち	国際査読有	4	国際査読無	0	国内査読有	1	国内査読無	0

	記述言語	区分	所外連携	国際学術誌	種別	査読	招待論文	論文題目名(原語)	著者氏名(共著者含)	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日
1	英語	筆頭共著	なし	はい	学術雑誌	有	いいえ	Classification of tsunami deaths by modifying ICD-10 categories in the 2011 Tohoku earthquake tsunami - A case study in Miyagi prefecture	Shuji Seto, Fumihiko Imamura	International Journal of Disaster Risk Reduction	50		101743		20200630
2	日本語	共著	なし	いいえ	学術雑誌	有	いいえ	東日本大震災における宮城県自治体での被害特性と死因傾向の考察	鎌田 敏一, 門廻 充待, 芹川 智紀, Iwasaki, Toru Matsuzawa, Kiyoshi Ito, Takako Izumi, Hiroki Takakura, Fumihiko Imamura, Tadashi Ishi	土木学会論文集B2(海岸工学)	76	2	1_379	1_384	20201104
3	英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	WBF-2019 Core Research Cluster of Disaster Science Planning Session as Disaster Preparedness: Participation in a Training Program for Conductor-Type Disaster Healthcare Personnel	Junko Okuyama, Hiroyuki Sasaki, Shuji Seto, Yu Fukuda, Toshiki Iwasaki, Toru Matsuzawa, Kiyoshi Ito, Takako Izumi, Hiroki Takakura, Fumihiko Imamura, Tadashi Ishi	Journal of Disaster Research	15	7	900	912	20201201
4	英語	共著	なし	はい	学術雑誌	有	いいえ	Spatial Distribution of Causes of Death in the 2011 Tohoku Tsunami at Ishinomaki City, Miyagi Prefecture	Tomoki Serikawa, Shuji Seto, Anawat Suppasri, Fumihiko Imamura	Journal of Disaster Research	15	7	943	958	20201201



5	英語	共著	なし	はい	学術雑誌	有	いいえ	Mental Health and Physical Activity among Children and Adolescents during the COVID-19 Pandemic	Junko Okuyama, <u>Shuji Seto</u> , Yu Fukuda, Shunichi Funakoshi, Shintaro Amae, Jun Onobe, Shinichi Izumi, <u>Kiyoshi Ito</u> , Fumihiko Imamura	The Tohoku Journal of Experimental Medicine	253	3	203	215	20210326
---	----	----	----	----	------	---	-----	---	---	---	-----	---	-----	-----	----------

著書(監修・編集・単著・共著)

監修編集	0	単著	0	筆頭共著	0	共著	1	合計	1	うち	国際	0	国内	1
------	---	----	---	------	---	----	---	----	---	----	----	---	----	---

記述言語	著書名および担当執筆題名	種別	発行年月日	著者・監修者氏名	区分	出版社名	所外連携	発行部数
1	日本語 「津波工学の深化」『東日本大震災からのスタート:災害を考える51のアプローチ』第4章, pp.13-16	編集本(著者・Author)	20210311	サッパシー・アナワト, 今村文彦, 門廻充侍 (東北大学災害科学国際研究所)	共著	東北大学出版会	なし	1400

学会発表

単名	0	筆頭連名	1	その他の連名	7	合計	8
----	---	------	---	--------	---	----	---

国内国際	会議名称	会議のチャエ	区分	招待	講演・発表の形態	会場名	開催都市名	開催国名	開催期間		発表年月日	題目名(原語)	連名者名(発表者に下線)	
									開始年月	終了年月				
1	国内	第48回日本リハビリテーション医学会東北地方会	相馬正始	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	オンライン	青森市	日本	20201003	20201003	20201003	新型コロナウイルス感染症(COVID-19)流行における外出制限と心理的苦痛との関連性	<u>奥山純子</u> , 門廻充侍, 福田雄, 鈴鴨よしみ, 出江紳一
2	国内	第36回日本ストレス学会学術総会	堤 明純	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	オンライン	相模原市	日本	20201029	20201129	20200819-20200811	新型コロナウイルス感染症の流行下におけるストレスと心的外傷後成長に関する研究	<u>奥山純子</u> , 門廻充侍, 福田雄
3	国内	2020年度水城の災害・環境問題に関する研究集会	-	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	オンライン	仙台市	日本	20201127	20201127	20201127	新型コロナウイルス感染症(COVID-19)流行下における心的外傷後成長に関する研究	<u>奥山純子</u> , 門廻充侍, 福田雄,
4	国内	第68回日本職業・災害医学会学術大会	鈴木茂彦	その他の連名	いいえ	ポスター(一般)	誌上開催	浜松市	日本	20201215	20201216	20201214	新型コロナウイルス感染症に対する心的外傷後成長の検討	<u>奥山純子</u> , 門廻充侍, 福田雄,
5	国内	第10回巨大津波災害に関する合同研究会 兼 故藤間功司教授追悼記念ワークショップ	-	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	オンライン	仙台市	日本	20201217	20201218	20201218	東日本大震災に被災した高校生の津波被害別の余暇活動と心理状態の検討	<u>奥山純子</u> , 船越俊一, 門廻充侍, 福田雄, 伊藤潔, 出江紳一, 今村文彦
6	国内	令和2年度土木学会東北支部技術研究発表会	-	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	オンライン	オンライン	日本	20210306	20210306	20210306	東日本大震災における遺体発見場所と最大浸水深の関係ー宮城県石巻市平野部の事例ー	<u>岸川智紀</u> , 門廻充侍, Anawat SUPPASRI, 今村文彦
7	国内	令和2年度土木学会東北支部技術研究発表会	-	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	オンライン	オンライン	日本	20210306	20210306	20210306	東日本大震災における宮城県で確認された低体温症による犠牲者の特徴	<u>鎌田敏一</u> , 門廻充侍, 岸川智紀, Anawat SUPPASRI, 今村文彦
8	国内	第39回日本自然災害学会学術講演会	-	筆頭連名	いいえ	口頭(一般)	オンライン	オンライン	日本	20210319	20210320	20210319	東日本大震災における宮城県での遺体発見場所と犠牲者住所の関係	<u>門廻充侍</u> , 今村文彦

学術会議・シンポジウム等の主催・共催・運営等

合計	3 件
----	-----

国内国際	種別	主催団体名・運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場	開催都市名	開催国名	参加人数(名/外国人)	分野	担当	IRIDeSの関与	共催機関名	所外連携
				開始年月	終了年月									
1	国内	指定国立大 災害科学世界トップレベル研究拠点	七ヶ浜町×東北大学 オンライン・防災シンポジウム2020	20200924	20200924	オンライン	オンライン	オンライン	50(6)	工学	運営	なし	なし	国内
2	国内	愛媛大学, 関西大学, 東京理科大学, 徳島大学, 東北大学, 琉球大学	2020年度水城の災害・環境問題に関する研究集会	20201123	20201123	オンライン	オンライン	オンライン	38(2)	工学	運営	なし	なし	国内
3	国内	東北大学, 東京大学, 関西大学	第10回巨大津波災害に関する合同研究会	20201217	20201218	オンライン	オンライン	オンライン	138(9)	工学	運営	なし	なし	国内

C. 教育活動

教育活動の概要

関西大学社会安全学部の2年次生を対象に、災害調査実習を担当した。今年度は、新型コロナウイルス感染症流行を踏まえ、ビデオを学習と現場での活動を効果的に設計した。実習では、災害調査の目的および注意点、測量機器の使用法を学び、キャンパス内で測量を実践した。

担当授業科目(他大学を含む)

科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・学期	コマ数(90分/コマ)	
1	災害調査実習	関西大学	社会安全学部	安全マネジメント学科	2	後期	15

D. 社会活動

社会活動の概要

①防災に関するオンライン・ワークショップを2度実施した。新型コロナウイルス感染症流行を踏まえ、オンラインで実施した。②小児がん経験者の活動として、大阪大学がんプロ・インテンシブコースの公開講座に登壇した。③研究に関するメディア対応を行い、13件以上取り上げられた。

一般向けセミナー・講演等の主催・共催・運営等(研究活動以外)

合計 …… 2 件

	国内 国際	主催団体名・ 運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場名	開催 都市名	開催 国名	担当	参加 人数	IRIDeSの 関与	講演会・セミナー等
				開始年月日	終了年月日							
1	国内	トビタテ!留学JAPAN とまりぎ東北	〇〇〇を守る, 防災 ～あの日を振り返る, みんなで想う, ～	20200523	20200523	オンライン	-	-	運営, 登壇者	26	なし	ワークショップ
2	国内	トビタテ!留学JAPAN とまりぎ東北	〇〇〇を守る, 防災【対話編】	20200613	20200613	オンライン	-	-	運営, 登壇者	10	なし	ワークショップ

講演・講義等(研究活動以外)

合計 …… 1 件

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	連携	主催者	会場名	開催 都市名	開催 国名	参加 人数
				開始年月日	終了年月日							
1	講演会	小児がんに関する講演会	講演	20210214	20210214	私と小児がん～出会いとあゆみ～	なし	大阪大学がん プロ インテンシブ コース	オンライン	-	日本	30

## 有働 恵子 准教授

UDO Keiko

災害リスク研究部門 環境変動リスク研究分野

### A. 基本情報・略歴

#### 出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	筑波大学	第三学群基礎工学類	1998	3	筑波大学大学院	工学研究科	2003	3	博士(工学)	2003	

#### 職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	2003	4	2006	3	独立行政法人港湾空港技術研究所	研究官
2	2006	4	2007	3	東北大学大学院工学研究科附属災害制御研究センター	助手
3	2007	4	2010	3	東北大学大学院工学研究科附属災害制御研究センター	助教
4	2010	4	2012	3	東北大学大学院工学研究科附属災害制御研究センター	准教授
5	2012	4	現在		東北大学災害科学国際研究所	准教授

#### 学会活動

##### 所属学会

	学会名 1	2
	土木学会	日本地球惑星科学連合

##### 学会・委員会等での役職

	学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
1	土木学会	海洋開発委員会 海洋開発論文集査読小委員会	委員	20090000
2	土木学会	海岸工学委員会 編集小委員会	委員	20100000
3	土木学会	海洋開発委員会	委員兼幹事	20140000
4	土木学会	Coastal Engineering Journal	Associate Editor-in-Chief	20190600
5	Journal of Marine Science and Engineering	Section Coastal Engineering	Editor	20190600
6	Frontiers in Built Environment	Coastal and Offshore Engineering	Review Editor	20210201

##### 研究分野・キーワード

	専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3
	海岸工学	水工水理学	地球環境学

##### 委員会・ワーキンググループ

##### 全学・他部局の委員会での委員

	部局名	委員会名	役職	開始年月日
1	全学	男女共同参画委員会	委員	20140401
2	工学研究科土木工学専攻	環境施設整備委員会	委員	20180401
3	工学研究科土木工学専攻	大学院入試ワーキンググループ	委員	20190000
4	工学系研究科	女性研究者育成支援推進室(ALicE)	副室長	20190000
5	全学	変動地球共生学卓越大学院プログラム	事務局	20190000

### B. 研究活動

#### 研究活動の概要

今年度は、「気候変動による河川から海岸への土砂供給量変化を考慮した確率海岸線変化モデルの開発」(科研費基盤研究(B))、「気候変動に伴う将来の砂浜消失予測」(文科省SI-CAT, JST/JICA SATREPS)等の研究プロジェクトを通して、山地から海岸までの土砂動態の解明とそのモデル構築を行うとともに、これに関連した気候変動による影響評価と適応策の検討を行った。

#### 研究課題

	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	1998	4	現在		飛砂メカニズムの解明と砂浜-砂丘地形変化予測モデルの開発	国外
2	2010	4	現在		気候変動の砂浜への影響評価と適応策立案	国内
3	2011	4	現在		巨大津波前後の海浜変形およびその後の回復特性の解明	なし
4	2014	4	現在		衛星画像計測による沿岸被害把握技術の開発	なし
5	2016	4	現在		流砂系の土砂収支に関する研究	国内

論文

単著	0	筆頭共著	0	その他の共著	7	合計	7	うち	国際査読有	7	国際査読無	0	国内査読有	0	国内査読無	0
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

記述言語	区分	所外連携	国際学術誌	種別	査読	招待論文	論文題目名(原語)	著者氏名(共著者含)	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日
英語	共著	国外	はい	学術雑誌	有	いいえ	Projections of Proper Beach Nourishment Volume as an Adaptation to Beach Recession based SLR along the Nile Delta Coastline of Egypt.	Mahmoud Sharaan, Keiko Udo	Journal of Coastal Research	95	sp1	637	642	20200526
英語	共著	なし	はい	学術雑誌	有	いいえ	Effect of Spatial Resolution on Nationwide Projection of Future Beach Loss Rate in Japan.	Yuriko Takeda, Keiko Udo	Journal of Coastal Research	95	sp1	1310	1314	20200526
英語	共著	国外	はい	学術雑誌	有	いいえ	Impact of SLR on Beach-Tourism Resort Revenue at Sahl Hashesh and Makadi Bay, Red Sea, Egypt	Mahmoud Sharaan, Chatuphorn Somphong, Keiko Udo	Journal of Marine Science and Engineering	8	6		432	20200612
英語	共著	国外	はい	学術雑誌	有	いいえ	Beach Nourishment as an Adaptation to Future Sandy Beach Loss Owing to Sea-Level Rise in Thailand.	Chatuphorn Somphong, Keiko Udo, Sompratana Ritphring, Hiroaki Shirakawa	Journal of Marine Science and Engineering	8	9		659	20200826
英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Cost-Benefit Analysis of Adaptation to Beach Loss Due to Climate Change in Japan.	Kazunori Nakajima, Naoki Sakamoto, Keiko Udo, Yuriko Takeda, Eiji Ohno, Masafumi Morisugi, Ryuta Mori	Journal of Marine Science and Engineering	8	9		715	20200915
英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	A review of climate-change impact and adaptation studies for the water sector in Thailand	Masashi Kiguchi, Kumiko Takata, Naota Hanasaki, Boonlert Archevarahuprok, Adisorn Champathong, Eiji Ikoma, Chaiporn Jaikaeo, Kaewrueng, Shinjiro Kanae, So Kazama, Koichiro Kuraji, Kyoko Matsumoto, Shinichiro Nakamura, Dzung Nguyen-Le, Keigo Noda, Napaporn Piamsa-nga, Mongkol Raksapatcharawong, Prem Rangsiwanichpong, Sompratana Ritphring, Hiroaki Shirakawa, Chatuphorn Somphong, Mallika Srisutham, Desell Suanburi, Weerakaset Suanpaga, Taichi Tebakari, Yongyut Trisurat, Keiko Udo, Sanit Wongsat, Tomohito J. Yamada, Koshi Yoshida, Thanya Kiatiwat, Taikan Oki.	Environmental Research Letters	16	2		023004	20210201
英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Ten years after the 2011 Tohoku-oki earthquake and tsunami: Geological and environmental effects and implications for disaster policy changes	Kazuhisa Goto, Takashi Ishizawa, Yuichi Ebina, Fumihiko Imamura, Shosuke Sato, Keiko Udo.	Earth Science Reviews	212			103417	20210100

著書(監修・編集・単著・共著)

監修編集	0	単著	1	筆頭共著	0	共著	0	合計	1	うち	国際	0	国内	1
------	---	----	---	------	---	----	---	----	---	----	----	---	----	---

記述言語	著書名および担当執筆題名	種別	発行年月日	著者・監修者氏名	区分	出版社名	所外連携	発行部数
日本語	「海岸の科学」(『東日本大震災からのスタート:災害を考える51のアプローチ』第6章, pp.21-24)	編集本(著者・Author)	20210311	有働恵子 (東北大学災害科学国際研究所)	単著	東北大学出版会	国内	1400

総説・解説(大学紀要・学術雑誌・学会誌・商業雑誌など)

単著	1	筆頭共著	0	その他の共著	0	合計	1	うち	国際査読有	0	国際査読無	0	国内査読有	0	国内査読無	1
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

記述言語	題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	区分	所外連携
日本語	気候変動と日本の砂浜	その他	無	いいえ	河川 KASEN(RIVER)	R2	7	24	24	20200720	有働恵子	単著	国内

学会発表

単名	1	筆頭連名	0	その他の連名	0	合計	1
----	---	------	---	--------	---	----	---

国内国際	会議名称	会議のチェア	区分	招待	講演・発表の形態	会場名	開催都市名	開催国名	開催期間		発表年月日	題目名(原語)	連名者名(発表者に下線)
									開始年月	終了年月			
国内	第28回海洋工学シンポジウム	有働恵子	単名	いいえ	口頭(一般)	オンライン	東京	日本	20200929	20200930	20200919	河川から海岸への土砂共有を考慮した砂浜消失予測に向けて	有働恵子

C. 教育活動

教育活動の概要

今年度は、4名の学部生と、ブラジルおよび中国からの留学生2名を含む6名の修士学生を指導した。うち4名が国内外の学会でオンライン口頭発表を行った。

担当授業科目(他大学を含む)

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・学期	コマ数 90分/1コマ
1	基礎ゼミ	東北大学	全学		1	1セメ	1
2	災害の科学	東北大学	全学		1	2セメ	1
2	地球環境学	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	3	5セメ	1
3	水理学Aおよび同演習	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	2	4セメ	12
4	数値解析	東北大学	工学研究科	土木工学専攻		前期	7

D. 社会活動

社会活動の概要

今年度は、中学生や高校生向けのオンライン講演を2件行い、研究成果の発信を行った。砂浜侵食に関連して複数のメディアに資料提供を行い報道された。また、国土交通省の委員を5件、宮城県の委員を1件、仙台市の委員を2件、科学技術振興機構の委員を2件を務めた。

一般向けセミナー・講演等の主催・共催・運営等(研究活動以外)

合計 1 件

	国内 国際	主催団体名・ 運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場名	開催 都市名	開催 国名	担当	参加 人数	IRIDeSの 関与	講演会・セミナー等
				開始年月日	終了年月日							
1	国内	東北大学	女子高生のためのミニフォーラム「工学にかける私の夢」	20200801	20200801	オンライン	仙台市	日本	司会、講演	30	なし	その他

講演・講義等(研究活動以外)

合計 1 件

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	連携	主催者	会場名	開催 都市名	開催 国名	参加人数
				開始年月日	終了年月日							
1	小中高との連携	筑波大付属駒場中(オンライン講演)	講演	20210319	20210319	沿岸域の災害リスクと2011年津波による海岸地形変化	小中高	筑波大学付属駒場中学校	オンライン	東京都	日本	120

自治体・民間等での委員

	区分	組織・団体名	委員会名	委員・役職名	開始年月日
1	国・政府	国土交通省東北地方整備局		リバーカウンセラー	20100300
2	地方自治体	仙台市	広瀬川清流保全審議会	委員	20130200
3	国・政府	国土交通省東北地方整備局	阿武隈川水系河川整備委員会	委員	20161200
4	国・政府	国土交通省	気候変動を踏まえた海岸保全のあり方検討委員会	委員	20190900
5	国・政府	国土交通省	東北管内設計波浪検討会	委員	20200600
6	地方自治体	宮城県土木部	みやぎ建設産業振興懇談会	委員	20200800
7	地方自治体	仙台市水道局	仙台市水道事業経営検討委員会	委員	20201100
8	国・政府	国土交通省	社会資本整備審議会専門委員	専門委員	20210300

# 橋本 雅和 助教

## HASHIMOTO Masakazu

災害リスク研究部門 環境変動リスク研究分野

### A. 基本情報・略歴

#### 出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	山梨大学	工学部	2009	3	山梨大学	医学工学総合教育部	2011	3	修士(工学)	2011	3
2					山梨大学	医学工学総合教育部	2014	3	博士(工学)	2014	3

#### 職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	2014	4	2015	3	京都大学 防災研究所	特定研究員
2	2015	4	2018	3	京都大学 防災研究所	特任助教
3	2018	4	現在		東北大学 災害科学国際研究所	助教

#### 学会活動

##### 所属学会

	学会名 1	2	3	4
	土木学会	自然災害学会	水文・水資源学会	International Association for Hydro-Environment Engineering and Research

##### 学会・委員会等での役職

	学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
1	水文・水資源学会	編集出版委員会		20181001
2	土木学会	水工学オンラインワーキング		20210701

##### 研究分野・キーワード

	専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3
	洪水氾濫解析	数値シミュレーション	水文疫学

### B. 研究活動

#### 研究活動の概要

主に二つの軸で研究を進めており、それぞれ「UAV-SfMによる三次元点群データを用いた越水地点推定」と「降雨流出氾濫モデルによる人口集中推定」である。前者は特許取得技術を開発し、後者はコロナ関連研究として、感染症蔓延時における水害対策の研究として実施した。その他、バングラデシュの農村地域における環境問題に関する研究を国際共同研究として進め、令和二年山形豪雨で被災した最上川で調査を行なった。

#### 研究課題

	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	2014	4	現在		バングラデシュを対象とした洪水ハザードマップの作成	
2	2015	4	現在		洪水氾濫を起因とした有害物質の拡散に関する研究	
3	2018	9	現在		洪水氾濫数値解析と衛星画像解析による浸水家屋判別手法の高度化	
4	2016	4	現在		バングラデシュにおける洪水に伴う人の移動に関する研究	
5	2014	6	現在		洪水氾濫解析におけるネスタング計算法の適用	
6	2011	4	現在		洪水氾濫解析手法と社会疫学的分析手法を用いた浸水形態と下痢症の関係解析	

#### 論文

単著	0	筆頭共著	0	その他の共著	2	合計	2	うち	国際査読有	2	国際査読無	0	国内査読有	0	国内査読無	0
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

	記述言語	区分	所外連携	国際学術誌	種別	査読	招待論文	論文題目名(原語)	著者氏名(共著者名)	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日
1	英語	共著	なし	はい	学術雑誌	有	いいえ	Mapping Method of Rainfall-induced landslide hazards by infiltration and slope stability analysis: A case study in Marumori, Miyagi, Japan during the October 2019 Typhoon Hagibis	Dolojan, L.N., Moriguchi, S., Hashimoto, M., Terada, K.	Landslides					20210130
2	英語	共著	国外	はい	学術雑誌	有	いいえ	Disaster Intensity-Based Selection of Training Samples for Remote Sensing Building Damage Classification	Moya, L., Geiss, C., Hashimoto, M., Mas, E., Koshimura, S., Strunz, G.	IEEE Transactions on Geoscience and Remote Sensing			1	17	20210000

総説・解説(大学紀要・学術雑誌・学会誌・商業雑誌など)

単著	0	筆頭共著	0	その他の共著	1	合計	1
----	---	------	---	--------	---	----	---

うち

国際査読有	0	国際査読無	0	国内査読有	0	国内査読無	1
-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

記述言語	題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	区分	所外連携		
1	日本語	ポストコロナの水文・水資源研究組織創設に向けてーWACCA virtual laboratoryー	学術雑誌	無	いいえ	水文・水資源学会誌	33	6	17	21	20201200	渡部哲史, 小槻峻司, 納貫翔, 橋本雅和, 峠嘉哉, 田中智大, 田上雅浩, 丸谷靖幸, 山田真史, 林義晃	共著	国内

学会発表

単名	0	筆頭連名	2	その他の連名	0	合計	2
----	---	------	---	--------	---	----	---

	国内国際	会議名称	会議のチュア	区分	招待	講演・発表の形態	会場名	開催都市名	開催国名	開催期間		発表年月日	題目名(原語)	連名者名(発表者に下線)
										開始年月	終了年月			
1	国際	第8回国際水・洪水管理学会 2021年3月30日 バングラデシュ工科大学 水・洪水管理研究所	Sonia Binte Murshed	筆頭連名	いいえ	口頭(一般)	online	ダッカ	バングラデシュ	20210329	20210331	20210330	Flood and substance transport analysis with consideration of ground water: case study of the lower Meghna River in Bangladesh	Masakazu Hashimoto, Ahmed Ishtiaque Amin Chawdhury, Zhang Hao, Kenji Kawaike, Shampa, Anisul Haque and Munsur Rahman
2	国内	東北地域災害科学研究集会	柴山明寛	筆頭連名	いいえ	口頭(一般)	online	熊本	日本	20201225	20201226	20201226	UAV-SfM三次元点群を用いた水害ハザードバーティカルマップ	橋本雅和, 市川健, 那須野新, 佐藤翔輔

特許・実用新案・その他の産業財産権(国内・海外)

合計	1件
----	----

	種別	国内国外	発明の名称	発明者(申請者)	出願番号(特願 or PCT)	出願日	公開番号	公開日	研究の成果	所外連携
1	特許	国内	地形表示方法、地形表示システム、および地形表示プログラム	橋本雅和, 佐藤翔輔	特願2021-003089	20210112			学外共同の成果	国内

C. 教育活動

教育活動の概要

建築・社会環境工学科水環境デザインコースの博士および修士ゼミ、所内の博士ゼミ、研究室でのゼミ等において学生発表の聴講および質疑を行った。また、講義については創造工学研修、水環境デザイン演習Ⅱを担当した。また、修士留学生一名、社会人博士学生一名の指導を行なった。

担当授業科目(他大学を含む)

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・学期	コマ数 90分/コマ
1	建築・社会環境工学演習	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	3	5	5
2	水環境デザイン演習Ⅰ	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	3	6セメ	15
3	水環境デザイン演習Ⅱ	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	4	7セメ	15
4	都市・建築設計Ⅰ	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	3	6セメ	1

D. 社会活動

社会活動の概要

令和二年台七月豪雨に関連してテレビおよび新聞のメディア対応を行った。また、近年の東北地方における水害について1件の一般向け講演を行なった。

講演・講義等(研究活動以外)

合計	1件
----	----

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	連携	主催者	会場名	開催都市名	開催国名	参加人数
				開始年月日	終了年月日							
1	セミナー	令和2年度防災スペンヤリスト養成「地域研修」オンライン研修	セミナー	20201014	20201104	近年の東北地方における水害	行政	東北大学災害科学国際研究所, 内閣府, 宮城県	オンライン	オンライン	オンライン	100

## 越村 俊一 教授

## KOSHIMURA Shunichi

災害リスク研究部門 広域被害把握研究分野

## A. 基本情報・略歴

## 出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	東北大学	工学部	1995	3	東北大学大学院	工学研究科	2000	3	博士(工学)	2000	3

## 職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	2000	4	2002	3	日本学術振興会(東京大学地震研究所, 米国海洋大気局)	特別研究員
2	2002	4	2005	3	阪神・淡路大震災記念協会 人と防災未来センター	専任研究員
3	2005	5	2012	4	東北大学大学院工学研究科 災害制御研究センター	准教授
4	2012	4	現在		東北大学災害科学国際研究所	教授
5	2009	4	現在		神戸大学大学院 海事科学研究科, 国際海事研究所	客員教授
6	2018	3	現在		株式会社RTi-cast	CTO
7	2018	8	現在		理化学研究所 革新知能統合研究センター	客員研究員
8	2019	4	現在		東北大学タフ・サイバーフィジカルAI研究センター	教授(兼務)

## 学会活動

## 所属学会

	学会名 1	2	3	4	5	6
	日本土木学会	地域安全学会	日本計算工学会	日本地震工学会	American Geophysical Union	European Geoscience Union

## 学会・委員会等での役職

	学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
1	日本土木学会	海岸工学委員会	委員	20130401
2	日本土木学会	原子力土木委員会	委員	20140401
3	地域安全学会		理事	20110401
4	日本土木学会	海岸工学委員会・津波作用に関する研究レビューおよび活用研究小委員	副小委員長	20150000
5	日本土木学会	海岸工学委員会・減災アセスメント小委員会	委員	20150000
6	The International Union of Geodesy and Geophysics (IUGG)	Tsunami Commission	委員	20110000
7	Journal of Disaster Research		ゲストエディタ	20190000
8	日本計算工学会		代表会員	20180000
9	17th World Conference on Earthquake Engineering	Organizing Committee	委員(WG長)	20180000
10	Coastal Engineering Journal		ゲストエディタ	20190000
11	Remote Sensing (Journal)		ゲストエディタ	20141000
12	International Tsunami Symposium		実行委員	20190000
13	Sentinel Asia	Tsunami WG	Co-chair	20150000

## 研究分野・キーワード

	専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3	専門分野 4
	津波工学	リモートセンシング	空間情報科学	数値シミュレーション

## 委員会・ワーキンググループ

## 全学・他部局の委員会での委員

	部局名	委員会名	役職	開始年月日
1	工学部	学部教務委員会	委員	20200401
2	全学	プロボスト室員	WGリーダー	20180000
3	サイバーサイエンスセンター	共同利用連絡会議	委員	20170000

## B. 研究活動

## 研究活動の概要

リアルタイムシミュレーション, リモートセンシング, 空間情報処理を融合した広域被害把握技術の高度化に取り組んだ。特に, サイバーサイエンスセンター, 理学研究科, 大阪大学, 東京大学, および民間事業者と産学連携で取り組んだリアルタイム津波浸水被害予測技術の高度化に取り組んでいる。科研費基盤研究S, JST CRESTプロジェクトの代表を務め, 災害医学との連携, ソーシャルセンシング・ビッグデータ解析との融合による, 新しい災害シミュレーションの創出にも取り組んだ。



研究課題

	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	2011		現在		東日本大震災の被害全貌の解明と、震災の教訓を踏まえた次世代災害予測・減災システムに関する研究	両方
2	2012		現在		災害リモートセンシングによる広域被害把握に関する研究	両方
3	2014		現在		センシングとシミュレーションの統合による広域被害把握技術の深化に関する研究	両方
4	2017		現在		広域被害把握技術の災害医療への展開に関する研究	両方

論文

単著	0	筆頭共著	1	その他の共著	12	合計	13	うち	国際査読有	13	国際査読無	0	国内査読有	0	国内査読無	0
----	---	------	---	--------	----	----	----	----	-------	----	-------	---	-------	---	-------	---

	記述言語	区分	所外連携	国際学術誌	種別	査読	招待論文	論文題目名(原語)	著者氏名(共著者含)	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日
1	英語	筆頭共著	国外	はい	学術雑誌	有	はい	Tsunami Damage Detection with Remote Sensing: A Review	Shunichi Koshimura, Luis Moya, Erick Mas, Yanbing Bai	Geosciences	10	5		177	20200512
2	英語	共著	国外	はい	学術雑誌	有	いいえ	Wetland Surface Water Detection from Multipath SAR Images Using Gaussian Process-Based Temporal Interpolation	Yukio Endo, Meghan Halabisky, L. Monika Moskal, Shunichi Koshimura	Remote Sensing	12	11		1756	20200529
3	英語	共著	両方	はい	学術雑誌	有	いいえ	Detecting urban changes using phase correlation and $\ell_1$ -based sparse model for early disaster response: A case study of the 2018 Sulawesi Indonesia earthquake-tsunami	Luis Moya, Abdul Muhari, Bruno Adriano, Shunichi Koshimura, Erick Mas, Luis R Marval-Perez, Naoto Yokoya	Remote Sensing of Environment	242			111743	20200601
4	英語	共著	両方	はい	学術雑誌	有	いいえ	Characteristics of Tsunami Fragility Functions Developed Using Different Sources of Damage Data from the 2018 Sulawesi Earthquake and Tsunami	Erick Mas, Ryan Paulik, Kwanchai Pakoksung, Bruno Adriano, Luis Moya, Anawat Suppasri, Abdul Muhari, Rokhis Khomarudin, Naoto Yokoya, Masashi Matsuoka, Shunichi Koshimura	Pure and Applied Geophysics	177		2437	2455	20200603
5	英語	共著	国外	はい	学術雑誌	有	いいえ	Learning from the 2018 Western Japan Heavy Rains to Detect Floods during the 2019 Hagibis Typhoon	Luis Moya, Erick Mas, Shunichi Koshimura	Remote Sensing	12	14		2244	20200713
6	英語	共著	両方	はい	学術雑誌	有	いいえ	Tsunami hazard assessment for the central and southern pacific coast of Colombia	Ronald Sanchez Escobar, Luis Otero Diaz, Anlly Melissa Guerrero, Milton Puentes Galindo, Erick Mas, Shunichi Koshimura, Bruno Adriano, Luisa Urrea, Paola Quintero	Coastal Engineering Journal	62	4	540	552	20200923
7	英語	共著	国外	はい	学術雑誌	有	いいえ	Technical Solution Discussion for Key Challenges of Operational Convolutional Neural Network-Based Building-Damage Assessment from Satellite Imagery: Perspective from Benchmark xBD Dataset	Jinhua Su, Yanbing Bai, Xingrui Wang, Dong Lu, Bo Zhao, Hanfang Yang, Erick Mas, Shunichi Koshimura	Remote Sensing	12	22		3808	20201120
8	英語	共著	両方	はい	学術雑誌	有	いいえ	Framework for estimating the risk and resilience of road networks with bridges and embankments under both seismic and tsunami hazards	Hiroki Ishibashi, Mitsuyoshi Akiyama, Dan M Frangopol, Shunichi Koshimura, Takayuki Kojima, Kengo Nanami	Structure and Infrastructure Engineering					20201124
9	英語	共著	両方	はい	学術雑誌	有	いいえ	Combination of school evacuation drill with tsunami inundation simulation: Consensus-making between disaster experts and citizens on an evacuation strategy	Genta Nakano, Katsuya Yamori, Takuya Miyashita, Luisa Urrea, Erick Mas, Shunichi Koshimura	International Journal of Disaster Risk Reduction	51			101803	20201201
10	英語	共著	国外	はい	学術雑誌	有	いいえ	Pyramid Pooling Module-Based Semi-Siamese Network: A Benchmark Model for Assessing Building Damage from xBD Satellite Imagery Datasets	Yanbing Bai, Junjie Hu, Jinhua Su, Xing Liu, Haoyu Liu, Xianwen He, Shengwang Meng, Erick Mas, Shunichi Koshimura	Remote Sensing	12	24		4055	20201211
11	英語	共著	両方	はい	学術雑誌	有	いいえ	Advances of International Collaboration on M9 Disaster Science: Scientific Session Report	Elizabeth Maly, Kenjiro Terada, Randall J LeVeque, Naoko Kuriyama, Daniel B Abramson, Lan T Nguyen, Ann Bostrom, Jorge León, Michael Motley, Patricio A Catalan, Shunichi Koshimura, Shuji Moriguchi, Yuya Yamaguchi, Carrie Garrison-Lancy, Anawat Suppasri, Erick Mas	Journal of Disaster Research	15	7	890	899	20201201
12	英語	共著	両方	はい	学術雑誌	有	いいえ	Disaster Intensity-Based Selection of Training Samples for Remote Sensing Building Damage Classification	Luis Moya, Christian Geiß, Masakazu Hashimoto, Erick Mas, Shunichi Koshimura, Günter Strunz	IEEE Transactions on Geoscience and Remote Sensing					20210113
13	英語	共著	両方	はい	学術雑誌	有	いいえ	Risk estimation of the disaster waste generated by both ground motion and tsunami due to the anticipated Nankai Trough earthquake	Hiroki Ishibashi, Mitsuyoshi Akiyama, Takayuki Kojima, Koki Aoki, Shunichi Koshimura, Dan M Frangopol	Earthquake Engineering & Structural Dynamics					20210226

著書(監修・編集・単著・共著)

監修	0	編集	1	筆頭	共著	1	合計	2	うち	国際	0	国内	2
----	---	----	---	----	----	---	----	---	----	----	---	----	---

記述言語	著書名および担当執筆題名	種別	発行年月日	著者・監修者氏名	区分	出版社名	所外連携	発行部数
1 日本語	災害対応におけるドローンの活用(続・ドローン産業応用の全て、野波健蔵編著)	編集本(著者・Author)	20200807	越村俊一	単著	オーム社	国内	
2 日本語	「津波の広域被害把握技術の発展と今後」『東日本大震災からのスタート:災害を考える51のアプローチ』第13章, pp.51-54)	編集本(著者・Author)	20210311	越村俊一、マス・エリック(東北大学災害科学国際研究所)	共著	東北大学出版会	国内	1400

総説・解説(大学紀要・学術雑誌・学会誌・商業雑誌など)

単著	2	筆頭共著	0	その他の共著	0	合計	2	うち	国際査読有	0	国際査読無	0	国内査読有	0	国内査読無	2
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

記述言語	題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	区分	所外連携
1 日本語	東日本大震災以降の津波浸水・被害予測技術の発展	その他	無	はい	地震工学会ニュースレター	10		2	3	20200300	越村俊一	単著	国内
2 日本語	津波の被害と減災、将来の展望	その他	無	はい	地盤工学会誌	69	3	1	4	20210300	越村俊一	単著	国内

学会発表

単名	2	筆頭連名	0	その他の連名	1	合計	3
----	---	------	---	--------	---	----	---

国内	国際	会議名称	会議のチャア	区分	招待	講演・発表の形態	会場名	開催都市名	開催国名	開催期間		発表年月日	題目名(原語)	連名者名(発表者に下線)
										開始年月	終了年月			
	1 国際	JpGU-AGU Joint Meeting 2020	John Rundle	その他の連名	はい	口頭(招待)	on-line			20200712	20200716		GNSS Tsunami Early Warning: Implementing the Sendai Framework for Disaster Risk Reduction	John L. LaBrecque, Diego Arcas, Gerald Bawden, Allison B. Craddock, Lorraine Hwang, Shunichi Koshimura, Basara Miyahara, Yasuko Ohta, John Rundle
	2 国際	ArcDR3 Forum		単名	はい	口頭(招待)	on-line			20210305	20210305		Learning from Tohoku -Structural aspects-	Shunichi Koshimura
	3 国際	APRU Multi-Hazards Webinar Series		単名	はい	口頭(招待)	on-line			20210312	20210312		Learning from Tohoku -Engineering aspects-	Shunichi Koshimura

特許・実用新案・その他の産業財産権(国内・海外)

合計	2 件
----	-----

種別	国内	国外	発明の名称	発明者(申請者)	出願番号(特願 or PCT)	出願日	公開番号	公開日	研究の成果	所外連携
1 特許	国内		策定装置、策定方法、策定プログラム、策定システム及び端末装置	越村俊一、寺田賢二郎	特願2020-115918	20200703			学外共同の成果	国内
2 特許	国内		復旧計画策定装置、手法、プログラム	越村俊一、寺田賢二郎	特願2021-017368	20210205			学内共同の成果	国内

C. 教育活動

教育活動の概要

東日本大震災の教訓を踏まえ、学生と協働するという意識の元、広域被害把握技術の枠組みを構築した。学生には、研究成果の発信の重要性を伝え、国内外での積極的な発表を心がけるよう指導した。

担当授業科目(他大学を含む)

科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・学期	コマ数 90分/コマ
1 基礎ゼミ(水と環境)	東北大学	全学		1	1セメ	3
2 基礎ゼミ(災害の科学)	東北大学	全学		1	2セメ	2
3 基礎設計A	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	2	3セメ	3
4 沿岸環境海洋工学	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	3	6セメ	7
5 防災システム論	東北大学	大学院工学研究科	土木工学専攻		後期	7
6 流れと波のモデル化と数値解法	東北大学	工学部研究科	土木工学		後期	6

D. 社会活動

社会活動の概要

災害科学国際研究所の理念に則り、被災地の復興への貢献と東日本大震災の教訓の発信、新しい減災研究のパラダイムを創成するという目標のもと、社会活動を行った。

一般向けセミナー・講演等の主催・共催・運営等(研究活動以外)

合計 2 件

	国内 国際	主催団体名・ 運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場名	開催 都市名	開催 国名	担当	参加 人数	IRIDeSの 関与	講演会・セミナー等
				開始年月日	終了年月日							
1	国内	日本地域安全学会	春季研究発表会	20200523	20200523	オンライン			実行委員	118	なし	講演会
2	国内	日本地域安全学会	秋季研究発表会	20201030	20201101	オンライン			実行委員			講演会

講演・講義等(研究活動以外)

合計 2 件

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	連携	主催者	会場名	開催 都市名	開催 国名	参加人数
				開始年月日	終了年月日							
1	講演会	2021年神戸大学都市安全研究センターシンポジウム	特別講演	20210109	20210109	東日本大震災の教訓と津波研究の歩み	なし		オンライン			
2	講演会	令和3年 電気記念式典	特別講演	20210325	20210325	東日本大震災の教訓と津波防災・減災の研究展望	なし		江陽グランドホテル	仙台市	日本	100

自治体・民間等での委員

	区分	組織・団体名	委員会名	委員・役職名	開始年月日
1	国・政府	独立行政法人 宇宙航空研究開発機構	大規模災害衛星画像解析ワーキンググループ	委員	20130000
2	国・政府	独立行政法人 宇宙航空研究開発機構	観測衛星を利用した防災利用実証活動水害ワーキンググループ	委員	20110000
3	民間・NPO	東北電力	津波評価に関する技術検討会	委員	20130000
4	国・政府	文部科学省	地震調査研究推進本部	専門委員	20130000
5	国・政府	文部科学省	国立研究開発法人防災科学技術研究所部会	委員	20150000
6	国・政府	気象庁	津波予測技術勉強会	委員	20090000
7	国・政府	国土交通省	海岸技術懇談会	委員	20080000
8	地方自治体	高知県	石油基地等地震・津波対策検討会	委員	20140000
9	地方自治体	福島県	技術検討会	委員	20140000
10	地方自治体	茨城県	茨城県原子力安全対策委員会	委員	20140000
11	民間・NPO	特定非営利活動法人・大規模災害対策研究機構		理事	20060000
12	国・政府	国土交通省	総合評価委員会港湾空港部会	委員	20200000
13	地方自治体	宮城県	宮城県津波浸水想定の設定に関する検討会	委員	20210000
14	地方自治体	宮城県	宮城県行政評価委員会	委員	20210000

# マス サマネス エリック アルトゥロ 准教授

## MAS SAMANEZ Erick Arturo

災害リスク研究部門 広域被害把握研究分野

### A. 基本情報・略歴

#### 出身大学・大学院

No.	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	国立工科大学(ペルー)	土木工学部	2004	12	東北大学大学院	工学研究科土木工学専攻	2012	9	博士	2012	9

#### 職歴

No.	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	2005	6	2007	4	カヤオ県庁(ペルー国)	津波防災公務員
2	2007	4	2008	4	カヤオ県庁(ペルー国)	災害防災研修コース担当者
3	2007	9	2009	3	ラ・プンタ市役所(ペルー国)	市長の災害防災アドバイザー
4	2008	4	2009	3	カヤオ県庁(ペルー国)	津波防災公務員
5	2009	10	2012	9	東北大学(日本国)	大学院生(博士)
6	2012	10	2016	5	東北大学 災害科学国際研究所 (日本国)	助教
7	2016	6	現在		東北大学 災害科学国際研究所 (日本国)	准教授

#### 学会活動

##### 所属学会

学会名	1	2	3	4
	Council of Engineering of Peru (CIP)	日本地球惑星科学連合(JpGU)	American Geophysical Union (AGU)	土木学会(JSCE)

##### 学会・委員会等での役職

No.	学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
1	土木学会・海岸工学委員会	津波小委員会	会員	20150700
2	TECNIA	Editorial Committee	Member	20190900

##### 研究分野・キーワード

専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3	専門分野 4
津波工学	災害リスク管理	地理情報システム	エージェントベースモデリング

### B. 研究活動

#### 研究活動の概要

当方の主な活動について報告いたします：(1)国際共同研究、SATREPSメキシコプロジェクトにより国外連携の活動をした。(2)共同受託研究で数値シミュレーション及び避難シミュレーションを行った。(3)災害医療との連携によりエージェントベース技術を用いて災害救護対応システムを研究した。(4)量子アニーリングに関するプロジェクトではリアルタイム避難誘導に関する研究をしています。

#### 研究課題

No.	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	2015	6	2021	3	[協力者]JST-JICA-SATREPS Mexico:メキシコ沿岸部の巨大地震・津波災害の軽減に向けた総合的研究	国外
2	2017	9	現在		[分担者]理・工・医学の連携による津波の広域被害把握技術の深化と災害医療支援システムの革新	国内
3	2018	4	現在		[分担者]平成30年度次世代領域研究開発(高性能汎用計算機高度利用事業費補助金):量子アニーリングアシスト型次世代スーパーコンピューティング基盤の開発	国内
4	2018	4	2021	3	[分担者]平成30年度 挑戦的研究(萌芽):「自分は大丈夫」という心理を考慮した避難行動メカニズムの解明と避難促進政策設計	国内
5	2019	11	現在		[代表者]避難シミュレーションに関する研究助成金	国内
6	2020	10	2021	3	[代表者]強化学習によりCOVID-19感染症対策のための長期的な避難所レイアウトの検討	国内
7	2020	6	現在		[協力者]JST-JICA-SATREPS Peru:地震直後におけるリマ市内インフラ被災程度の予測・観測のための統合型エキスパートシステムの開発	国外

論文

単著	0	筆頭共著	3	その他の共著	8	合計	11	うち	国際査読有	10	国際査読無	1	国内査読有	0	国内査読無	0
----	---	------	---	--------	---	----	----	----	-------	----	-------	---	-------	---	-------	---

記述言語	区分	所外連携	国際学術誌	種別	査読	招待論文	論文題目名(原語)	著者氏名(共著者含)	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日
英語	筆頭共著	両方	はい	学術雑誌	有	いいえ	Characteristics of Tsunami Fragility Functions Developed Using Different Sources of Damage Data from the 2018 Sulawesi Earthquake and Tsunami	Mas, E., Paulik, R., Pakoksung, K., Adriano, B., Moya, L., Suppasri, A., Muhari, A., Khomarudin, R., Yokoya, N., Matsuoka, M., Koshimura, S.	Pure and Applied Geophysics	177	6	2437	2455	20200603
英語	筆頭共著	なし	はい	学術雑誌	無	はい	Tsunamis in Latin American countries	Mas, E., Koshimura, S.	Coastal Engineering Journal	62	3	349	349	20200816
英語	筆頭共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Tsunami evacuation guidance using Reinforcement Learning Algorithm	Mas, E., Moya, L., Koshimura, S.	Proceedings of the 17 World Conference on Earthquake Engineering (17WCEE)					20200917
英語	共著	両方	はい	学術雑誌	有	いいえ	Pyramid Pooling Module-Based Semi-Siamese Network: A Benchmark Model for Assessing Building Damage from xBD Satellite Imagery Datasets	Bai, Y., Hu, J., Su, J., Liu, X., Liu, H., He, X., Meng, S., Mas, E., Koshimura, S.	Remote Sensing	12	4055	1	20	20201017
英語	共著	両方	はい	学術雑誌	有	いいえ	Advances of International Collaboration on M9 Disaster Science: Scientific Session Report	Maly, E., Terada, K., LeVeque, R. J., Kuriyama, N., Abramson, D. B., Nguyen, L. T., Bostrom, A., Leon, J., Motley, M., Catalan, P., Koshimura, S., Moriguchi, S., Yamaguchi, Y., Garrison-Laney, C., Suppasri, A., Mas, E.	Journal of Disaster Research	15	7	890	899	20200722
英語	共著	両方	はい	学術雑誌	有	いいえ	Tsunami hazard assessment for the central and southern pacific coast of Colombia	Escobar, R. S., Diaz, L. O., Guerrero, A. M., Galindo, M. P., Mas, E., Koshimura, S., Adriano, B., Urra, L., Quintero, P.	Coastal Engineering Journal	62	4	540	552	20200923
英語	共著	両方	はい	学術雑誌	有	いいえ	Combination of school evacuation drill with tsunami inundation simulation: Consensus-making between disaster experts and citizens on an evacuation strategy	Nakano, G., Yamori, K., Miyashita, T., Urra, L., Mas, E., & Koshimura, S.	International Journal of Disaster Risk Reduction	51		101803		20200815
英語	共著	両方	はい	学術雑誌	有	いいえ	Tsunami Damage Detection with Remote Sensing: A Review	Koshimura, S., Moya, L., Mas, E., & Bai, Y.	Geosciences	10	5	177		20200512
英語	共著	両方	はい	学術雑誌	有	いいえ	Technical Solution Discussion for Key Challenges of Operational Convolutional Neural Network-Based Building-Damage Assessment from Satellite Imagery: Perspective from Benchmark xBD Dataset	Su, J., Bai, Y., Wang, X., Lu, D., Zhao, B., Yang, H., Mas, E., Koshimura, S.	Remote Sensing	12	22	3808		20201120
英語	共著	両方	はい	学術雑誌	有	いいえ	Learning from the 2018 Western Japan Heavy Rains to Detect Floods during the 2019 Hagibis Typhoon	Moya, L., Mas, E., & Koshimura, S.	Remote Sensing	12	14	2244		20200713
英語	共著	国外	はい	国際会議 Proceedings	有	いいえ	Identification of Factors Influencing the Evacuation Walking Speed in Padang, Indonesia	Yosritzal, Putra, H., Kemal, B. M., Mas, E., & Purnawan.	Advances in Engineering Research	193		125	130	20210225

著書(監修・編集・単著・共著)

監修編集	0	単著	0	筆頭共著	0	共著	2	合計	2	うち	国際	0	国内	2
------	---	----	---	------	---	----	---	----	---	----	----	---	----	---

記述言語	著書名および担当執筆題名	種別	発行年月日	著者・監修者氏名	区分	出版社名	所外連携	発行部数
日本語	「津波の広域被害把握技術の発展と今後」(『東日本大震災からのスタート: 災害を考える51のアプローチ』第13章, pp.51-54)	編集本(著者・Author)	20210311	越村俊一、マス・エリック(東北大学災害科学国際研究所)	共著	東北大学出版会	国内	1400
日本語	「安全な避難の科学」(『東日本大震災からのスタート: 災害を考える51のアプローチ』第16章, pp.65-68)	編集本(著者・Author)	20210311	奥村誠、マス・エリック(東北大学災害科学国際研究所)	共著	東北大学出版会	なし	1400

C. 教育活動

教育活動の概要

本研究室では4年生の卒論テーマに当たって指導していました。そこで、エージェントベース技術を用いて災害医療救護活動について研究を行なった。また、UAVとABMの統合に関する研究をおこなった。さらに、建物被害推定の向けてリモートセンシング技術により機械学習について研究を行なった。学生指導以外には学部授業を担当しておりました。

担当授業科目(他大学を含む)

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・学期	コマ数 90分/1コマ
1	建築社会環境工学演習	東北大学			2	3セメ	12
2	災害の科学	東北大学	全学		1	2セメ	1
3	International Lecture on Global Disaster Mitigation I	東北大学	工学部研究科	リーディング大学院		前期	7
4	工学英語Ⅱ	東北大学	工学部研究科	土木工学	3	後期	4
5	数学物理学演習Ⅰ	東北大学	全学	建築・社会環境工学科	1	前期	16
6	Tsunami Evacuation Planning	建築研究所	研修コース	津波工学			3
7	創造工学研修実施	東北大学	工学部研究科	土木工学	1	後期	6
8	水環境デザイン演習Ⅱ	東北大学	工学部研究科	土木工学	4	前期	4

D. 社会活動

社会活動の概要

研究活動および防災教育に関する活動を行なった。特にオンラインセミナーで成果と災害リスクに関する概念を共有した。

一般向けセミナー・講演等の主催・共催・運営等(研究活動以外)

合計 1 件

	国内 国際	主催団体名・ 運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場名	開催 都市名	開催 国名	担当	参加 人数	IRIDeSの 関与	講演会・セミナー等
				開始年月日	終了年月日							
1	国内	日本津波研究会	第10回巨大津波災害に関する合同研究集会	20201217	20201218	オンライン	仙台市	日本	実行委員	100	IRIDeS主催・ 共同主催	研究会

講演・講義等(研究活動以外)

合計 4 件

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	連携	主催者	会場名	開催 都市名	開催 国名	参加人数
				開始年月日	終了年月日							
1	セミナー	Urban Planning and Risks	招待講演	20200403	20200403	Risks in urban areas	行政	UN-Habitat Bolivia	YouTube <a href="https://youtu.be/m8JPOFui0Qc">https://youtu.be/m8JPOFui0Qc</a>	La Paz	Bolivia	
2	セミナー	Tsunami Awareness Day	招待講演	20201105	20201105	What ISN'T a tsunami? .. Breaking dangerous myths	行政	Peru Navy	Facebook <a href="https://www.facebook.com/288887983791/videos/823291441761014">https://www.facebook.com/288887983791/videos/823291441761014</a>	Lima	Peru	
3	セミナー	Tsunami Awareness Day - Experiences from Japan, Ecuador, Chile, Peru	招待講演	20201105	20201105	Lessons for Latinamerican countries from tsunamis in Japan and the development of real time simulation	なし	APEBEJA	Zoom / Facebook <a href="https://www.facebook.com/apbeja/videos/372015270881117">https://www.facebook.com/apbeja/videos/372015270881117</a>	Lima	Peru	
4	セミナー	実験家のためのデータ駆動科学オンラインセミナー シミュレーション科学とデータ科学の融合	招待講演	20200703	2020703	エージェントモデル及び強化学習による災害時の避難誘導システムの研究	なし	Tohoku Forum for Creativity	YouTube <a href="https://www.youtube.com/watch?v=LqQ2XjSZRIc&amp;feature=youtu.be">https://www.youtube.com/watch?v=LqQ2XjSZRIc&amp;feature=youtu.be</a>	Sendai	Japan	

# 五十子 幸樹 教授

## IKAGO Kohju

災害リスク研究部門 最適減災技術研究分野

### A. 基本情報・略歴

#### 出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	京都大学	工学部	1990	3	京都大学大学院	工学研究科	2005	9	博士(工学)	2005	9

#### 職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	1992	4	2004	12	(株)日建設計	構造設計部員
2	2005	1	2008	5	(株)日建設計	構造設計主管
3	2008	6	2013	1	東北大学大学院 工学研究科	准教授
4	2013	2	現在		東北大学 災害科学国際研究所	教授

#### 学会活動

##### 所属学会

	学会名 1	2	3
	日本建築学会	日本地震工学会	米国土木学会 (ASCE)

##### 学会・委員会等での役職

	学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
1	日本建築学会	建築物の構造振動制御情報小委員会	委員	20080600
2	日本地震工学会	第15回日本地震工学シンポジウム運営委員会委員	委員	20180901

##### 研究分野・キーワード

	専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3	専門分野 4	専門分野 5
	最適設計	免震構造	制振構造	耐震構造	構造制御

##### 委員会・ワーキンググループ

##### 全学・他部局の委員会での委員

	部局名	委員会名	役職	開始年月日
1	工学研究科 都市・建築学専攻	設計教育委員会	委員	20160401
2	工学研究科 都市・建築学専攻	将来計画タスクフォース	委員	20160401
3	全学	学生生活支援審議会	委員	20180401
4	全学	学務審議会	委員	20180401
5	工学研究科	工学研究教務委員会	委員	20200401
6	工学研究科	評価室運営委員会	委員	20200401
7	工学研究科	技術室運営委員会	委員	20200401
8	工学研究科 都市・建築学専攻	カリキュラム委員会	委員	20200401
9	工学研究科 都市・建築学専攻	実験所・実験棟運営委員会	委員	20200401

### B. 研究活動

#### 研究活動の概要

主として免震構造を対象に地震時応答変位の抑制に有効な複素減衰を因果的に近似する方法について研究した。既に提案していた双一次型の因果的デジタルフィルタをMaxwell体とそれに並列に配置された負剛性要素の組み合わせで実現できることを理論的に明らかにした。また、このモデルがよく知られているBiotのモデルや、Makrisのモデルの特殊な場合に相当していることを理論的に明らかにした上で、これらのモデルを統一的に表現出来る数値モデルを非整数階微積分表現で提示した。

#### 研究課題

	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	2008	6	現在		同調粘性マスダンパー制震システムの開発	国内
2	2010	4	現在		回転慣性質量ダンパーを用いた免震制御技術の開発	国内
3	2013	4	現在		高層建築物の地震時下層部変形集中現象の解明と制御技術の開発	国内
4	2014	4	現在		多目的遺伝アルゴリズムによる免震制御デバイスの創生	国内
5	2013	12	現在		振動制御デバイスのリアルタイムハイブリッドシミュレーション技術の高度化	国内
6	2014	4	現在		力学変分原理の逆問題定式化と構造最適化	国内

論文

単著	0	筆頭共著	1	その他の共著	2	合計	3	うち	国際査読有	1	国際査読無	2	国内査読有	0	国内査読無	0
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

記述言語	区分	所外連携	国際学術誌	種別	査読	招待論文	論文題目名(原語)	著者氏名(共著者含)	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日
英語	共著	国外	はい	学術雑誌	有	いいえ	Damping enhancement principle of inerter system	Zhang RuiFu, Zhao Zhipeng, Pan Chao, Ikago Kohju, Xue Songtao	Structural Control and Health Monitoring	27	5	e2523	-	2020/5/1
英語	筆頭共著	国内	はい	国際会議 Proceedings	無	いいえ	Real-time Hybrid Simulation of a Variable Orifice Damper Incorporated into Base Isolated Building	Kohju Ikago, Iori Fukuda, Hao Luo, Dawei Li, Hideto Kanno, Norio Hori	Proceedings of the 17th World Conference on Earthquake Engineering					20200917
英語	共著	国内	はい	国際会議 Proceedings	無	いいえ	A nonlinear cable bracing inerter system for vibration control	Ban X L, Xue S T, Kang J F, Ikago K, Xie L Y	Proceedings of the 8th Asia-Pacific Workshop on Structural Health Monitoring					20201209

著書(監修・編集・単著・共著)

監修編集	0	単著	0	筆頭共著	0	共著	1	合計	1	うち	国際	0	国内	1
------	---	----	---	------	---	----	---	----	---	----	----	---	----	---

記述言語	著書名および担当執筆題名	種別	発行年月日	著者・監修者氏名	区分	出版社名	所外連携	発行部数
日本語	「スマートストラクチャの科学」『東日本大震災からのスタート:災害を考える51のアプローチ』第11章, pp.43-46)	編集本(著者・Author)	20210311	榎田章太、五十子幸樹(東北大学災害科学国際研究所)	共著	東北大学出版会	国内	1400

総説・解説(大学紀要・学術雑誌・学会誌・商業雑誌など)

単著	1	筆頭共著	0	その他の共著	0	合計	1	うち	国際査読有	0	国際査読無	0	国内査読有	0	国内査読無	1
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

記述言語	題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	区分	所外連携
日本語	超高層・免震建物の地震時過大変形に伴う諸問題の解決	その他	無	いいえ	翠帯	34		30	33	20200000	五十子幸樹	単著	国内

学会発表

単名	0	筆頭連名	2	その他の連名	12	合計	14
----	---	------	---	--------	----	----	----

	国内国際	会議名称	会議のチェア	区分	招待	講演・発表の形態	会場名	開催都市名	開催国名	開催期間		発表年月日	題目名(原語)	連名者名(発表者に下線)
										開始年月	終了年月			
1	国内	日本建築学会東北支部研究報告会	N/A	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	コラッセふくしま	福島	日本	20200620	20200620	20200620	Displacement measurement and nonlinear structural system identification: a vision-based approach with camera motion correction	郭佳, 五十子幸樹
2	国内	日本建築学会東北支部研究報告会	N/A	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	コラッセふくしま	福島	日本	20200620	20200620	20200620	Optimal Design of a Tuned Eddy Current Inerter Damper	李大偉, 五十子幸樹, 薛松濤, 班鑫磊
3	国内	日本建築学会東北支部研究報告会	N/A	筆頭連名	いいえ	口頭(一般)	コラッセふくしま	福島	日本	20200620	20200620	20200620	パルス型地動を考慮した同調粘性マスダンパー制振システムの最適解特性	五十子幸樹, 半澤吉将
4	国内	2020年度日本建築学会大会(関東)	N/A	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	千葉大学西千葉キャンパス	千葉市	日本	20200908	20200910	20200000	Optimization of tuned inerter dampers for base-isolated buildings	李大偉, 五十子幸樹, 薛松濤
5	国内	2020年度日本建築学会大会(関東)	N/A	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	千葉大学西千葉キャンパス	千葉市	日本	20200908	20200910	20200000	発展途上国の粗積造建築を対象とした滑り免震機構の開発に関する基礎的研究	多田麻也子, 高木次郎, 荒木慶一, 五十子幸樹, Sanjay PAREEK, 李相勲, 梶井健, 鈴木裕介, 榎田章太, 郭佳, 福田伊織
6	国内	2020年度日本建築学会大会(関東)	N/A	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	千葉大学西千葉キャンパス	千葉市	日本	20200908	20200910	20200000	正負非対称剛性部材で鉛直方向設置した同調粘性マスダンパーによる高層建物の全体曲げ変形抑制 その1 概要及び簡略1質点系解析モデル	堀則男, 木田英範, 五十子幸樹, 井上範夫
7	国内	2020年度日本建築学会大会(関東)	N/A	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	千葉大学西千葉キャンパス	千葉市	日本	20200908	20200910	20200000	正負非対称剛性部材で鉛直方向設置した同調粘性マスダンパーによる高層建物の全体曲げ変形抑制 その2 簡略1質点系モデルにおける応答性状と正負非対称剛性部材の設定法	掛本啓太, 堀則男, 木田英範, 五十子幸樹, 井上範夫
8	国内	2020年度日本建築学会大会(関東)	N/A	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	千葉大学西千葉キャンパス	千葉市	日本	20200908	20200910	20200000	正負非対称剛性部材で鉛直方向設置した同調粘性マスダンパーによる高層建物の全体曲げ変形抑制 その3 2層フレームモデルに関する検討	木田英範, 掛本啓太, 堀則男, 五十子幸樹, 井上範夫
9	国内	2020年度日本建築学会大会(関東)	N/A	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	千葉大学西千葉キャンパス	千葉市	日本	20200908	20200910	20200000	正負非対称剛性部材で鉛直方向設置した同調粘性マスダンパーによる高層建物の全体曲げ変形抑制 その4 連層ブレース付き建物モデルでの検討	後藤航, 杉村義文, 齊藤賢二, 木田英範, 堀則男, 五十子幸樹, 井上範夫
10	国内	2020年度日本建築学会大会(関東)	N/A	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	千葉大学西千葉キャンパス	千葉市	日本	20200908	20200910	20200000	パルス型地動を考慮した同調粘性マスダンパー制振システムの最適解特性	半澤吉将, 五十子幸樹



11	国内	17th World Conference on Earthquake Engineering	N/A	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	Sendai International Centre	仙台市	日本	20200000	20200000	20200000	Development of variable mass effect by rotary inertial damper using a hydraulic gear motor	Masahiro Ikenaga, Hidenori Kida, Shigeki Nakaminami, Kohju Ikago, Norio Inoue
12	国内	17th World Conference on Earthquake Engineering	N/A	筆頭連名	いいえ	口頭(一般)	Sendai International Centre	仙台市	日本	20200000	20200000	20200000	Real-time Hybrid Simulation of a Variable Orifice Damper Incorporated into Base Isolated Building	Kohju Ikago, Iori Fukuda, Hao Luo, Dawei Li, Hideto Kanno, Norio Hori
13	国内	17th World Conference on Earthquake Engineering	N/A	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	Sendai International Centre	仙台市	日本	20200000	20200000	20200000	Dynamic reliability of nonlinear structural system with uncertain parameters of passive damper	Dawei Li, Hesheng Tang, Kohju Ikago, Songtao Xue
14	国内	8th Asia-Pacific Workshop on Structural Health Monitoring	N/A	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	Shangri-La Hotel	Cairns	Australia	20201209	20201211	20201209	A nonlinear cable bracing inerter system for vibration control	Ban X L, Xue S T, Kang J F, Ikago K, Xie L Y

C. 教育活動

教育活動の概要

全学、工学部、大学院工学研究科、リーディング大学院の講義を担当した他、工学部の卒業研修生、工学研究科博士前期課程および後期課程学生を指導した。災害科学国際研究所提供の科目としては全学教育科目である「災害と科学」、工学部専門教育科目としては、「創造工学研修」、「都市・建築エンジニアリング」、「建築・社会環境工学演習E」、「建築設計AI」、「建築設計D」を博士課程では前期課程の「最適減殺技術学」を後期課程では「災害制御特論」を担当した。

担当授業科目(他大学を含む)

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・学期	コマ数 90分/コマ
1	社会環境工学演習	東北大学	工学部	都市・社会環境工学科	2	3セメ	5
2	都市・建築エンジニアリング	東北大学	工学部	都市・社会環境工学科	2	3セメ	3
3	建築設計A I	東北大学	工学部	都市・社会環境工学科	2	4セメ	15
4	建築信頼性工学	東北大学	工学研究科	都市・建築学専攻		前期	15
5	建築構造工学特論	東北大学	工学研究科	都市・建築学専攻		後期	2
6	基礎ゼミ	東北大学	全学		1	1セメ	14
7	災害の科学	東北大学	全学		1	2セメ	1
8	創造工学研修	東北大学	工学部	工学研究科	1	前期	14

D. 社会活動

社会活動の概要

社会貢献活動としては、宮城県および福島県の耐震診断判定委員会および耐震改修計画評価委員会の委員として、各県の既存不適格建築物の耐震化促進に貢献している。新築建築物については、宮城県土木部および福島県建築安全機構の構造計算適合性判定委員として、構造計算の法令適合性の判定作業を行った。

講演・講義等(研究活動以外)

合計 3 件

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	連携	主催者	会場名	開催都市名	開催国名	参加人数
				開始年月日	終了年月日							
1	講演会・セミナー	オンライン形式による講演会	講師	20200604	20200604	超高層建物や免震建物のような長周期構造物の地震時過大変形の抑制を目的とした「変位制御設計」について	企業	株式会社 安藤・間	オンライン	つくば・仙台	日本	15
2	講演会・セミナー	オンラインセミナー	講師	20201210	20201210	建築構造物の地震時応答解析	企業	NTTフアンリティアーズ総合研究所	シーバンスN館	東京	日本	50
3	講演会	建築・土木用制振ダンパの応用展開	講師	20201210	20201210	慣性質量ダンパの構造制御への応用	企業	日本振動技術協会	江東公会堂	東京	日本	40

自治体・民間等での委員

区分	組織・団体名	委員会名	委員・役職名	開始年月日
1	民間・NPO 福島県建築士事務所協会	耐震診断判定委員会・評価委員会	委員	20080000
2	民間・NPO 独立行政法人日本学術振興会	特別研究等審査会専門委員、卓越研究員候補者選考委員会書面審査員及び国際事業委員会書面審査員・書面評価員	委員	20190701
3	民間・NPO 一般社団法人福島県建築安全機構	構造計算適合性判定評価委員会及び技術監視委員会	副委員長	20160401
4	民間・NPO 一般社団法人宮城県建築住宅センター	耐震診断等評価委員会	委員	20101001

# 郭佳 助教

GUO Jia

災害リスク研究部門 最適減災技術研究分野

## A. 基本情報・略歴

出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	中国清華大学	工学部	2009	7	京都大学大学院	工学研究科	2019	9	博士(工学)	2019	9

職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	2019	10	現在		東北大学 災害科学国際研究所	助教

学会活動

所属学会

	学会名 1	2	3
	日本建築学会	日本計算工学会	日本地震工学会

研究分野・キーワード

	専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3	専門分野 4
	耐震工学	画像計測	システム同定	損傷評価

## B. 研究活動

研究活動の概要

計算機処理能力の向上と地震観測網の拡充に伴い、観測記録を活用した新たな技術の開発が目ざましい。研究を通じて、計測箇所に限られた地震観測データのみで免震・制振装置の性能変化や損傷をリアルタイムに推定・検知する新たな方法を開発する。この手法は、観測点数が少なくても高い推定精度が得られること、復元力モデルを予め用意する必要がないことが特徴である。この手法の有効性と推定精度の検証は、計測装置が豊富に設置された既存の建物の観測データと、振動台実験から得られる実験データを用いて行う。

研究課題

	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	2020	5	2021	4	AIを用いたブラックボックスモデルアプローチによる粘弾性ダンパー構成則モデル化手法	国内
2	2020	10	現在		カルマンフィルターを活用した免震・制振装置の非線形復元力推定法と実記録による検証	国内

論文

単著	0	筆頭共著	1	その他の共著	2	合計	3	うち	国際査読有	3	国際査読無	0	国内査読有	0	国内査読無	0
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

	記述言語	区分	所外連携	国際学術誌	種別	査読	招待論文	論文題目名(原語)	著者氏名(共著者含)	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日
1	英語	筆頭共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Vision-Based Building Seismic Displacement Measurement by Stratification of Projective Rectification Using Lines	Guo, J., Xiang, Y., Fujita, K., & Takekawa, I	Sensors	20	20			20201012
2	英語	共著	両方	はい	学術雑誌	有	いいえ	Effect of the primary structure on the seismic response of the cable-net façade	Xiang, Y., Zhang, Y. J., Guo, J., & Chen, J.	Engineering Structures	220				20200213
3	英語	共著	両方	はい	学術雑誌	有	いいえ	Real-time hysteresis identification in structures based on restoring force reconstruction and Kalman filter	Wang L, Guo J, Takekawa I	Mechanical Systems and Signal Processing	150				20200925

学会発表

単名	0	筆頭連名	2	その他の連名	0	合計	2
----	---	------	---	--------	---	----	---

	国内国際	会議名称	会議のチェア	区分	招待	講演・発表の形態	会場名	開催都市名	開催国名	開催期間		発表年月日	題目名(原語)	連名者名(発表者に下線)
										開始年月	終了年月			
1	国内	日本建築学会東北支部研究報告会			筆頭連名	いいえ	口頭(一般)						Displacement measurement and nonlinear structural system identification: a vision-based approach with camera motion correction	郭佳, 五十子幸樹
2	国内	2020年度日本建築学会大会(関東)			筆頭連名	いいえ	口頭(一般)						Real-time hysteresis identification in structures based on restoring force reconstruction and Kalman filter	郭佳, 竹脇出

## C. 教育活動

教育活動の概要

学部・研究科を兼務していないが、所属研究分野の五十子教授の担当学生の指導補助を行っている。

## 菅原 大助 准教授

### SUGAWARA Daisuke

災害リスク研究部門 低頻度リスク評価研究分野

#### A. 基本情報・略歴

出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	東北大学	理学部	1998	3	東北大学大学院	理学研究科	2006	3	理学博士	2006	3

#### 職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	2006	6	2007	3	東北大学大学院理学研究科地学専攻	COEフェロー
2	2007	4	2008	3	東北大学大学院理学研究科地学専攻	助教
3	2008	4	2008	9	東北大学大学院理学研究科地学専攻	研究支援者
4	2008	10	2008	12	東北大学大学院理学研究科地学専攻	研究支援者
5	2009	1	2010	9	東北大学大学院理学研究科地学専攻	COEフェロー
6	2010	10	2011	4	東北大学大学院工学研究科附属災害制御研究センター	研究支援者
7	2011	5	2012	3	東北大学大学院工学研究科附属災害制御研究センター	産学官連携研究員
8	2012	4	2012	4	東北大学大学院工学研究科	教育研究支援者
9	2012	4	2015	12	東北大学災害科学国際研究所	助教
10	2016	1	2019	3	ふじのくに地球環境史ミュージアム	准教授
11	2019	4	2020	2	ふじのくに地球環境史ミュージアム	教授
12	2020	3	現在		東北大学災害科学国際研究所	准教授

#### 学会活動

所属学会

	学会名 1	2	3	4	5
	日本地質学会	日本堆積学会	日本地球惑星科学連合	日本自然災害学会	American Geophysical Union

#### 研究分野・キーワード

	専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3
	地質学	堆積学	津波工学

#### B. 研究活動

研究活動の概要

最終年度となった科研費(代表)による静岡県沿岸部での地形調査を静岡大学の共同研究者と協力して実施した。この調査に関連し、これまでの成果を取りまとめた論文が国際誌に掲載された。科研費(分担)による日本海溝南部での古地震・古津波履歴解明のため、房総半島沿岸部で地下レーダー調査を実施した。清水建設技術研究所と津波土砂移動数値シミュレーションのV&Vに関する共同研究に着手した。東日本大震災以降の津波数値シミュレーションの展開に関するレビュー論文をとりまとめ、国際誌に投稿・掲載された。

#### 研究課題

	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	1999	4	現在		仙台平野における津波堆積物の掘削調査と貞観津波の復元	国内
2	2011	3	現在		東日本大震災の津波に関する地質学的調査および数値モデルによる解析	国内
3	2014	4	現在		津波堆積物数値解析手法の高度化	両方
4	2016	1	現在		静岡県における古地震・古津波の調査研究	国内
5	2018	1	現在		メキシコ・ゲレロ州における古地震・古津波の調査研究	国外
6	2020	3	現在		台湾・澎湖諸島における古津波の調査研究	国外
7	2015	9	現在		北方四島における古津波の調査研究	両方

論文

単著	3	筆頭共著	0	その他の共著	2	合計	5
----	---	------	---	--------	---	----	---

うち

国際査読有	5	国際査読無	0	国内査読有	0	国内査読無	0
-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

	記述言語	区分	所外連携	国際学術誌	種別	査読	招待論文	論文題目名(原語)	著者氏名(共著者含)	論文掲載誌名(原語)	巻号	開始ページ	終了ページ	発行年月日
1	英語	単著	なし	はい	単行本(論文掲載)	有	いいえ	Trigger mechanisms and hydrodynamics of tsunamis	Sugawara, D.	Geological records of tsunamis and other extreme waves		47	73	20200000
2	英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Spatial distribution and sources of tsunami deposits in a narrow valley setting - insight from 2011 Tohoku-oki tsunami deposits in northeastern Japan	Abe, T., Goto, K., Sugawara, D.	Progress in Earth and Planetary Science	7		7	20200000
3	英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Tsunamis and submarine landslides in Suruga Bay, central Japan, caused by Nankai-Suruga Trough megathrust earthquakes during the last 5000 years	Kitamura, A., Yamada, K., Sugawara, D., Yokoyama, Y., Miyairi, Y., Hamatome team	Quaternary Science Reviews	245		106527	20200000
4	英語	単著	なし	はい	単行本(論文掲載)	有	いいえ	Lessons from the 2011 Tohoku-oki tsunami: implications for Paleotsunami research	Sugawara, D.	Tsunamiites (Second Edition).		155	181	20210000
5	英語	単著	なし	はい	学術雑誌	有	いいえ	Numerical modeling of tsunami: advances and future challenges after the 2011 Tohoku earthquake and tsunami	Sugawara, D.	Earth-Science Reviews	214		103498	20210000

著書(監修・編集・単著・共著)

監修編集	0	単著	1	筆頭共著	0	共著	1	合計	2
------	---	----	---	------	---	----	---	----	---

うち

国際	0	国内	2
----	---	----	---

	記述言語	著書名および担当執筆題名	種別	発行年月日	著者・監修者氏名	区分	出版社名	所外連携	発行部数
1	日本語	百年先 地方博物館の大きな挑戦	単行本	20210106	ふじのくに地球環境史ミュージアム	共著	静岡新聞社	国内	
2	日本語	「津波歴史の科学」(『東日本大震災からのスタート:災害を考える』1のアプローチ)第3章, pp.9-12)	編集本(著者・Author)	20210311	菅原大助(東北大学災害科学国際研究所)	単著	東北大学出版会	なし	1400

C. 教育活動

教育活動の概要

2018年10月入学の修士学生の論文指導を行った。2020年9月をもって修了した後、博士課程に進学を希望していたが、コロナウィルスの流行に伴う母国情勢の変化により1年間の休学を認めた。2019年4月入学の修士学生の論文指導を行った。2021年3月をもって修了した後、博士課程に進学した。その他、博士課程1年の学生と修士課程1年の学生2名、学部3年の学生2名の研究指導を行った。

担当授業科目(他大学を含む)

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・学期	コマ数 90分/コマ
1	地球の科学	東北大学	理学部	地圏環境科学科	2	3セメ	1

D. 社会活動

社会活動の概要

岩沼市史編纂委員会の執筆者として、震災編の原稿執筆にあたっている。

自治体・民間等での委員

	区分	組織・団体名	委員会名	委員・役職名	開始年月日
1	地方自治体	岩沼市	岩沼市史編纂委員会	執筆者	20201012

# 邑本 俊亮 教授

## MURAMOTO Toshiaki

人間・社会対応研究部門 災害認知科学研究分野

### A. 基本情報・略歴

#### 出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	北海道大学	文学部	1984	3	北海道大学大学院	文学研究科	1992	3	博士(行動科学)	1996	12

#### 職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	1990	6	1993	3	北星学園大学 文学部心理学研究室	非常勤助手
2	1993	4	1994	3	北海道大学 文学部	助手
3	1994	4	1996	3	北海道教育大学 教育学部札幌校	講師
4	1996	4	2001	3	北海道教育大学 教育学部札幌校	助教授
5	2001	4	2010	12	東北大学 大学院情報科学研究科	助教授(2007～准教授)
6	2011	1	2012	3	東北大学 大学院情報科学研究科	教授
7	2012	4	現在		東北大学 災害科学国際研究所	教授

#### 学会活動

##### 所属学会

	学会名 1	2	3	4	5	6	7	8
	日本心理学会	日本教育心理学会	日本認知科学会	日本認知心理学会	日本基礎心理学会	日本読書学会	東北心理学会	日本公衆衛生学会

##### 学会・委員会等での役職

	学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
1	日本読書学会		理事・編集委員	20110401

##### 研究分野・キーワード

	専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3	専門分野 4
	認知心理学	言語心理学	教育心理学	学習科学

### B. 研究活動

#### 研究活動の概要

前年度に、被災地を訪問して震災や復興について学んだ東北大生のグループがメンバーの母校(東京の区立中学校)で防災教育を行ったが、この学び手が伝え手になる防災教育・災害伝承システムの構築を目指した取り組みを、本年度は「ひらめき☆ときめきサイエンス」として、10月に東北大学で宮城県内の小中学生を招いて開催した。また、当該の取り組みの紹介や実施された授業内容を、書籍の1章として執筆した。

#### 研究課題

	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	1984	4	現在		人間の言語理解に関する認知心理学的研究	
2	1996	4	現在		文章からの学習に関する教育心理学的研究	
3	2003	4	現在		大学教育における授業づくりと授業運営に関する実践的研究	
4	2006	4	2012	3	対人コミュニケーションにおける読解力に関する研究	
5	2006	10	2012	3	医療用文書のわかりやすさと安心感に関する研究	
6	2008	4	現在		災害時の人間の認知・判断・行動に関する研究	
7	2012	4	現在		災害体験談の認知科学的分析と防災教育への展開	
8	2019	4	現在		学び手が伝え手になる震災伝承・防災教育システムの構築	

#### 論文

単著	0	筆頭共著	0	その他の共著	1	合計	1	うち	国際査読有	0	国際査読無	0	国内査読有	1	国内査読無	0
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

	記述言語	区分	所外連携	国際学術誌	種別	査読	招待論文	論文題目名(原語)	著者氏名(共著者名)	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日
1	日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	有	いいえ	初読後の想起練習が再読時の読み処理に及ぼす影響: 眼球運動を指標として	齋藤玲, 新国佳祐, 和田裕一, 邑本俊亮	読書科学	62	1	1	11	20200807

著書(監修・編集・単著・共著)

監修編集	0	単著	1	筆頭共著	1	共著	0	合計	2	うち	国際	0	国内	2
------	---	----	---	------	---	----	---	----	---	----	----	---	----	---

記述言語	著書名および担当執筆題名	種別	発行年月日	著者・監修者氏名	区分	出版社名	所外連携	発行部数
1 日本語	災害と人間のこころ(教師のための防災学習帳)	編集本(著者・Author)	20210301	呂本俊亮・齋藤玲(小田隆史)	共著	浅倉書店	国内	
2 日本語	「学び手が伝え手になる」『東日本大震災からのスタート:災害を考える51のアプローチ』第14章, pp.57-60)	編集本(著者・Author)	20210311	呂本俊亮(東北大学災害科学国際研究所)	単著	東北大学出版会		1400

総説・解説(大学紀要・学術雑誌・学会誌・商業雑誌など)

単著	1	筆頭共著	0	その他の共著	0	合計	1	うち	国際査読有	0	国際査読無	0	国内査読有	0	国内査読無	1
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

記述言語	題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	区分	所外連携
1 日本語	情報ほどのように理解されるのか	その他	無	はい	安全と健康	72 3	73	75	20210301	呂本俊亮	単著	

C. 教育活動

教育活動の概要

全学教育では、心理学、言語表現の世界、科学と情報、災害の科学、基礎ゼミ、人間と文化(展開ゼミ)と、多様な科目を担当した。大学院教育では学習情報学と人文情報科学概論およびゼミナールを担当、他大学でも、教育心理学特殊講義、コミュニケーション論など幅広い領域の教育を行っている。今年度はオンライン授業が中心となり、授業方法においてさまざまな試みを行った。

担当授業科目(他大学を含む)

科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・学期	コマ数 90分/コマ
1 基礎ゼミ	東北大学	全学		1	1セメ	9
2 「復興」を学際的に考える	東北大学	全学		1	2セメ	9
3 科学と情報	東北大学	全学		1	2セメ	1
4 言語表現の世界(1クォーター)	東北大学	全学		1		15
5 言語表現の世界(2クォーター)	東北大学	全学		1		15
6 心理学(1クォーター)	東北大学	全学		2		15
7 心理学(3セメスター)	東北大学	全学		2	3セメ	15
8 人文情報科学概論	東北大学	情報科学研究科	全専攻		前期	1
9 学習情報学	東北大学	情報科学研究科	人間社会情報科学専攻・応用情報科学専攻		後期	15
10 人間社会情報科学ゼミナール	東北大学	情報科学研究科	人間社会情報科学専攻		通年	60
11 コミュニケーション論	東北文化学園大学	医療福祉学部	保健福祉学科・看護学科	1	前期	15
12 コミュニケーション論	東北文化学園大学	医療福祉学部	リハビリテーション学科	1	前期	15
13 総合コースD(コミュニケーション)	宮城学院女子大学	全学部	全学科	2~4	後期	7
14 教育心理学特殊講義B	宮城教育大学	教育学部		2~4	後期	15

D. 社会活動

社会活動の概要

ことばとコミュニケーション、防災・減災教育という2種類のテーマで複数の講演を行い、社会教育・社会貢献を行った。「ひらめき☆ときめきサイエンス」に採択され、宮城県内の小中学生を招いて東北大生が考えた防災教育イベントを開催した。

一般向けセミナー・講演等の主催・共催・運営等(研究活動以外)

合計	1件
----	----

	国内 国際	主催団体名・ 運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場名	開催 都市名	開催 国名	担当	参加 人数	IRIDeSの 関与	講演会・セミナー等
				開始年月日	終了年月日							
1	国内	東北大学	ひらめき☆ときめきサイエンス~ようこそ大学の研究室へ~KAKENHI「東北大生が考えた防災教育プログラム-心理を学んで災害に備えよう」	20201010	20201010	東北大学災害科学国際研究所	仙台市	日本	実施代表者	31	なし	その他

## 講演・講義等(研究活動以外)

合計 5件

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	連携	主催者	会場名	開催都市名	開催国名	参加人数
				開始年月日	終了年月日							
1	講演会	東進ハイスクール主催・大学学部研究会	講演	20200810	20200810	言葉と心とコミュニケーション	企業	東進ハイスクール	東進ハイスクール吉祥寺1号館にて収録、オンライン配信		日本	
2	講演会	宮城県看護協会訪問看護総合センター研修会	講演	20200905	20200905	「伝わる」コミュニケーション	行政	宮城県看護協会	宮城県看護協会訪問看護総合センター	仙台市	日本	20
3	セミナー	令和2年度災害時学校支援チームみやぎフォローアップ講習会	講演	20201001	20201001	災害発生時の行動心理	行政	宮城県教育委員会	東北大学災害科学国際研究所にて収録、オンライン配信		日本	
4	公開講座	令和2年度学都仙台コンソーシアム復興大学事業県民講座	講演	20201031	20201031	・災害と人間の心理 ・将来に備える～私たち一人一人にできること～	行政	学都仙台コンソーシアム復興大学	東北工業大学よりオンライン配信		日本	40
5	講演会	学びのまち・仙台 市民カレッジ 市民プロデュース講座「防災・減災講座」	講演	20201114	20201114	緊急時の避難と心理学	行政	仙台市生涯学習支援センター	仙台市生涯学習支援センター	仙台市	日本	20

## 自治体・民間等での委員

区分	組織・団体名	委員会名	委員・役職名	開始年月日
1	民間・NPO 東北文化学園大学	外部評価委員会	委員	20190000

# 杉浦 元亮 教授

## SUGIURA Motoaki

人間・社会対応研究部門 災害認知科学研究分野

### A. 基本情報・略歴

#### 出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	東北大学	医学部	1996	3	東北大学大学院	医学系研究科	2000	3	博士(医学)	2000	3

#### 職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	2000	4	2001	4	東北大学 加齢医学研究所	リサーチアソシエイト
2	2001	5	2001	9	東北大学 未来科学技術共同研究センター	リサーチアソシエイト
3	2001	10	2002	9	東北大学 未来科学技術共同研究センター	助手
4	2002	9	2004	8	ユーリヒ研究センター(ドイツ) 医学研究所	研究員(日本学術振興会 海外特別研究員)
5	2004	9	2006	9	宮城教育大学 教育学部	助教授
6	2006	10	2008	1	自然科学研究機構 生理学研究所	助教授
7	2008	2	2016	3	東北大学 加齢医学研究所	准教授
8	2012	4	2016	3	東北大学 災害科学国際研究所	准教授(兼務)
9	2016	4	現在		東北大学 加齢医学研究所・災害科学国際研究所(クロスポイント)	教授

#### 学会活動

##### 所属学会

	学会名 1	2	3	4
	Society for neuroscience	Organization for Human Brain Mapping	日本神経科学学会	日本心理学会

##### 研究分野・キーワード

	専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3
	脳科学	認知神経科学	社会脳科学

##### 委員会・ワーキンググループ

##### 全学・他部局の委員会での委員

	部局名	委員会名	役職	開始年月日
1	全学	広報連絡会議・広報連絡員	委員	20190401
2	全学	(医)大学院合同運営委員会 (備考:医学系研究科入試委員会兼務)	委員	20190401
3	全学	サイクロトン・ラジオアイソトープセンター運営専門委員会・安全管理RI利用部会	委員	20190401
4	全学	研究大学強化促進事業実施委員会	委員	20200401
5	加齢医学研究所	総務・人事委員会	委員	20190401
6	加齢医学研究所	共同利用・共同研究運営委員会	委員	20190401
7	加齢医学研究所	広報情報運営委員会	委員長	20190401
8	加齢医学研究所	広報情報責任者(委員長代行)	主任	20190401
9	加齢医学研究所	出版委員会	委員	20190401
10	加齢医学研究所	ハラスメント相談員	相談員	20190401
11	加齢医学研究所	男女共同参画WG	委員	20190401

### B. 研究活動

#### 研究活動の概要

<p>心理・行動計測、機能的MRIを用いた脳機能計測等を用いた人間脳科学研究を多彩な分野に応用している。災害分野では2011年の東日本大震災の被災者を対象とした「災害を生きる力」の大規模質問紙調査の分析/論文文化、生きる力8因子の脳基盤研究などを順調に続けている。査読付き国際誌に7報採択、図書分担執筆1件、学会報告国債3件、国内4件をおこなった。また学術論文英文4報が査読中である。それ以外にも生きる力8因子のコンセプトや研究方法論は加齢医学分野や社会認知神経科学分野、また産学連携共同研究など、多彩な波及効果を現し始めている。</p>
---

#### 研究課題

	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	1996	4	現在		人間脳科学(人間らしい精神と行動を実現する脳の仕組みを解明)	
2	2008	4	現在		加齢人間脳科学(人間らしい生き方、老い方、社会のあり方を脳科学的に提言し、超高齢社会におけるスマート・エイジングの技術を開発)	
3	2012	4	現在		災害人間脳科学(災害の様々な状況を生き抜く人間の力について脳科学的に解明し、新しい教育・災害対応プロトコルを提案)	



論文

単著	0	筆頭共著	0	その他の共著	7	合計	7	うち	国際査読有	7	国際査読無	0	国内査読有	0	国内査読無	0
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

記述言語	区分	所外連携	国際学術誌	種別	査読	招待論文	論文題目名(原語)	著者氏名(共著者含)	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日
英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Ventral-dorsal sub-regions in the posterior cingulate cortex represent pay and interest, two key attributes of job value	Shunsui Matsuura*, Shinsuke Suzuki, Kosuke Motoki, Shohei Yamazaki, Ryuta Kawashima, <u>Motoaki Sugiura</u>	Cerebral Cortex Communications				tgab018	20210309
英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Brain activation during thoughts of one's own death and its linear and curvilinear correlations with fear of death in elderly individuals: An fMRI study	Kanan Hirano*, Kentaro Oba, Toshiki Saito, Shohei Yamazaki, Ryuta Kawashima, <u>Motoaki Sugiura</u>	Cerebral Cortex Communications				tgab003	20210128
英語	共著	両方	はい	学術雑誌	有	いいえ	Neural mechanisms of language learning from social contexts.	Hyeonjeong Jeong*, Ping Li, Wataru Suzuki, <u>Motoaki Sugiura</u> , Ryuta Kawashima.	Brain and Language				104874	20201003
英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Differential roles of amygdala and posterior superior temporal sulcus in social scene understanding.	Kentaro Oba, <u>Motoaki Sugiura</u> *, Sugiko Hanawa, Mizue Suzuki, Hyeonjeong Jeong, Yuka Kotozaki, Yukako Sasaki, Tatsuo Kikuchi, Takayuki Nozawa, Seishu Nakagawa, Ryuta Kawashima	Social Neuroscience	15	5	516	529	20200721
英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Brain activity predicts future learning success in intensive second language listening training.	Mayumi Kajiuira, Hyeonjeong Jeong*, Natasha Y.S. Kawata, Shaoyun Yu, Toru Kinoshita, Ryuta Kawashima, <u>Motoaki Sugiura</u> .	Brain and Language	212			104839	20200715
英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Assessing the relationship between drive for thinness and taste-shape correspondences.	Yumi Hamamoto*, Kosuke Motoki, <u>Motoaki Sugiura</u> .	Multisensory Research	34	1	69	92	20200615
英語	共著	両方	はい	学術雑誌	有	いいえ	A combination of self-reported data and social-related neural measures forecasts viral marketing success on social media.	Kosuke Motoki*, Shinsuke Suzuki, Ryuta Kawashima, <u>Motoaki Sugiura</u> .	Journal of Interactive Marketing	52		99	117	20200611

著書(監修・編集・単著・共著)

監修編集	0	単著	1	筆頭共著	0	共著	0	合計	1	うち	国際	0	国内	1
------	---	----	---	------	---	----	---	----	---	----	----	---	----	---

記述言語	著書名および担当執筆題名	種別	発行年月日	著者・監修者氏名	区分	出版社名	所外連携	発行部数
日本語	「人間行動の科学」(『東日本大震災からのスタート:災害を考える51のアプローチ』第15章, pp.61-64)	編集本(著者・Author)	20210311	杉浦元亮 (東北大学災害科学国際研究所)	単著	東北大学出版会	国内	1400

学会発表

単名	6	筆頭連名	0	その他の連名	1	合計	7
----	---	------	---	--------	---	----	---

国内国際	会議名称	会議のチェア	区分	招待	講演・発表の形態	会場名	開催都市名	開催国名	開催期間		発表年月日	題目名(原語)	連名者名(発表者に下線)
									開始年月	終了年月			
国際	Symposium "Can Social Neuroscience Address 'Real' Social Issues?"; The 43rd Annual Meeting of the Japan Neuroscience Society	Shigeru Kitazawa	単名	いいえ	公募/シンポジウム・ワークショップ・パネル	Online	kobe	Japan	20200729	20200801	20200729	Social neuroscience for disaster survival and super-aging society	<u>Motoaki Sugiura</u>
国際	Social Neuroscience Addressing Real Social Issues	Motoaki Sugiura.	単名	はい	指名/シンポジウム・ワークショップ・パネル	Online	Online	Online	20200624	20200624	20200624	The role of supramarginal gyrus for surviving disaster and super-aging society.	<u>Motoaki Sugiura</u> .
国内	東北大学災害科学国際研究所IRIDS金曜フォーラム 2019年度共同研究成果報告会兼プロジェクトエリア・ユニット報告会	今村文彦	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	Online	仙台	日本	20200718	20200718	20200718	震災復興に寄与する災害を生きる力因子とその原理の解明.	本多明生, <u>杉浦元亮</u> .
国内	第92回日本心身医学会東北地方会	福土 審	単名	はい	口頭(基調)	オンライン	仙台	日本	20210220	20210220	20210220	環境適応を身体・対人関係・社会価値の3つのレベルで考える～自己認識の脳イメージング研究からの示唆～	<u>杉浦元亮</u> .
国内	第39回東京都理学療法学会大会	池田 由美	単名	はい	口頭(基調)	オンライン	東京	日本	20210110	20210124	20210110	人間らしく生き抜くための脳科学～身体から社会まで自己認知の多面性～	<u>杉浦元亮</u> .
国際	The 43rd Annual Meeting of the Japan Neuroscience Society	Shigeru Kitazawa	単名	はい	指名/シンポジウム・ワークショップ・パネル	Online	kobe	Japan	20200729	20200801	20200729	The role of supramarginal gyrus for surviving disaster and super-aging society.	<u>Motoaki Sugiura</u> .
国内	災害の軽減に貢献するための地震火山観測研究計画(第2次)令和2年度成果報告シンポジウム		単名	はい	口頭(招待)	オンライン	オンライン	オンライン	20210316	20210317	20210317	災害に関わる個人の心理・行動特性とその評価・活用・調整に関する研究	<u>杉浦元亮</u>

学術会議・シンポジウム等の主催・共催・運営等

合計 3 件

	国内 国際	種別	主催団体名・運営 団体名等	イベント名称	開催期間		会場	開催 都市名	開催 国名	参加人数 (うち外国人)	分野	担当	IRIDeSの 関与	共催機関名	所外 連携
					開始年月	終了年月									
1	国際	セミナー	the 12th Human Brain Science Seminar, Online	Exploring the brain bases of antisocial behavior (online seminar)	20200716	20200716	Tohoku University	Sendai	Japan	50 (10)	人文社 会系	企画代表者、 司会者	なし		国内
2	国際	シンポジウム	International Institute of Disaster Science (IRIDeS), Tohoku University & University of California, Davis	Social Neuroscience Addressing Real Social Issues.	20200624	20200624	Online	Online	Online	25	人文社 会系	Organizer	なし		両方
3	国際	シンポジウム	International Institute of Disaster Science (IRIDeS), Tohoku University & University of California, Davis	Can Social Neuroscience Address 'Real' Social Issues?	20200729	20200801	Online	Online	Online	50	人文社 会系	Organizer	なし		両方

C. 教育活動

教育活動の概要

心理・行動計測、機能的MRIを用いた脳機能計測等を用いた人間脳科学研究について主に大学院生を対象とした研究指導を行った。研究室には18名の大学院生(社会人2名・留学生6名を含む)が所属し、博士審査の主査2名、副査1名、審査委員1名、修士審査の主査2名を務めた。成果は学生による成果発表国際5件、国内1件に結実し、うち1名は優秀ポスター賞を受賞した。関連する学部講義1件にも貢献している。

担当授業科目(他大学を含む)

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・ 学期	コマ数 90分/コマ
1	小児・遺伝・加齢・老年病ブロック講義	東北大学	医学部	医学科	4	後期	1

D. 社会活動

社会活動の概要

心理・行動計測、機能的MRIを用いた脳機能計測等を用いた人間脳科学研究とその応用について学外の社会活動を盛んにおこなった。講演・講義4件、仙台市の委員1件、その他、他機関との交流実績7件があった。

講演・講義等(研究活動以外)

合計 4 件

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	連携	主催者	会場名	開催 都市名	開催 国名	参加人数
				開始年月日	終了年月日							
1	セミナー	スマート・エイジング・カレッジ東京第6期(コースII)講師	講義	20200610	20200610	人間の心と行動の不思議～その裏側を脳機能イメージングでひも解く	企業	東北大学スマート・エイジング・カレッジ東京	オンライン		日本	50
2	講演会	2020東京都理療法学会学術大会	基調講演	20210110	20210110	人間らしく生き抜くための脳科学～身体から社会まで自己認知の多面性～	なし	東京都理療法学会(慈恵医大葛飾医療センターリハビリテーション科)	オンデマンド配信(事前録画形式)		日本	
3	講演会	共同プロジェクト研究U	講演	20210113	20210113	オンラインは何が違うのか:脳からの考察	なし	共同プロジェクト研究U	オンライン	仙台市	日本	15
4	講演会	日本心身医学会東北地方会	特別講演	20210220	20210220	環境適応を身体・対人関係・社会価値の3つのレベルで考える～自己認識の脳イメージング研究からの示唆～	なし	日本心身医学会東北地方会	オンライン	仙台市	日本	

自治体・民間等での委員

	区分	組織・団体名	委員会名	委員・役職名	開始年月日
1	地方自治体	仙台市	仙台市教育委員会	学習意欲の科学的研究に関するプロジェクト委員	00000000

## その他、他機関等との交流実績(国内に限る)

合計 79 件

	交流機関名称	交流者	交流年月日	交流目的	会場名	開催都市名	主な担当内容	参加人数
1	帝京大学ちば総合医療センターリハビリテーション科	田中尚文	20201008	共同研究	東北大学加齢医学研究所	仙台	企画	4
2	帝京大学ちば総合医療センターリハビリテーション科	田中尚文	20201102	共同研究	東北大学加齢医学研究所	仙台	企画	4
3	東北工業大学	三浦直樹	20200806	共同研究	Web会議	Web会議	企画	3
4	東北工業大学	三浦直樹	20200902	共同研究	Web会議	Web会議	企画	3
5	東北工業大学	三浦直樹	20201015	共同研究	Web会議	Web会議	企画	3
6	東北工業大学	三浦直樹	20201104	共同研究	Web会議	Web会議	企画	3
7	東北工業大学	三浦直樹	20210303	共同研究	Web会議	Web会議	企画	3
8	東北工業大学	三浦直樹	20210318	共同研究	Web会議	Web会議	企画	3
9	早稲田大学	岡本悠子	20200519	共同研究	Web会議	Web会議	企画	4
10	早稲田大学	岡本悠子	20200616	共同研究	Web会議	Web会議	企画	4
11	宮城大学	元木康介	20200709	共同研究	Web会議	Web会議	企画	4
12	宮城大学	元木康介	20201007	共同研究	Web会議	Web会議	企画	4
13	宮城大学	元木康介	20201211	共同研究	Web会議	Web会議	企画	4
14	デンソー	越智 光	20200403	共同研究	Web会議	Web会議	企画	5
15	デンソー	越智 光	20200410	共同研究	Web会議	Web会議	企画	5
16	デンソー	越智 光	20200417	共同研究	Web会議	Web会議	企画	5
17	デンソー	越智 光	20200424	共同研究	Web会議	Web会議	企画	5
18	デンソー	越智 光	20200501	共同研究	Web会議	Web会議	企画	5
19	デンソー	越智 光	20200508	共同研究	Web会議	Web会議	企画	5
20	デンソー	越智 光	20200515	共同研究	Web会議	Web会議	企画	5
21	デンソー	越智 光	20200522	共同研究	Web会議	Web会議	企画	5
22	デンソー	越智 光	20200529	共同研究	Web会議	Web会議	企画	5
23	デンソー	越智 光	20200605	共同研究	Web会議	Web会議	企画	5
24	デンソー	伊藤直紀室長	20200609	共同研究	Web会議	Web会議	企画	
25	デンソー	越智 光	20200612	共同研究	Web会議	Web会議	企画	5
26	デンソー	越智 光	20200619	共同研究	Web会議	Web会議	企画	5
27	デンソー	越智 光	20200626	共同研究	Web会議	Web会議	企画	5
28	デンソー	越智 光	20200703	共同研究	Web会議	Web会議	企画	5
29	デンソー	越智 光	20200710	共同研究	Web会議	Web会議	企画	5
30	デンソー	越智 光	20200717	共同研究	Web会議	Web会議	企画	5
31	デンソー	越智 光	20200724	共同研究	Web会議	Web会議	企画	5
32	デンソー	越智 光	20200731	共同研究	Web会議	Web会議	企画	5
33	デンソー	越智 光	20200807	共同研究	Web会議	Web会議	企画	5
34	デンソー	越智 光	20200814	共同研究	Web会議	Web会議	企画	5
35	デンソー	越智 光	20200821	共同研究	Web会議	Web会議	企画	5
36	デンソー	越智 光	20200828	共同研究	Web会議	Web会議	企画	5
37	デンソー	越智 光	20200904	共同研究	Web会議	Web会議	企画	5
38	デンソー	越智 光	20200911	共同研究	Web会議	Web会議	企画	5
39	デンソー	越智 光	20200918	共同研究	Web会議	Web会議	企画	5
40	デンソー	越智 光	20200925	共同研究	Web会議	Web会議	企画	5
41	デンソー	越智 光	20201002	共同研究	Web会議	Web会議	企画	5
42	デンソー	越智 光	20201009	共同研究	Web会議	Web会議	企画	5
43	デンソー	越智 光	20201016	共同研究	Web会議	Web会議	企画	5

44	デンソー	越智 光	20201023	共同研究	Web会議	Web会議	企画	5
45	デンソー	越智 光	20201030	共同研究	Web会議	Web会議	企画	5
46	デンソー	越智 光	20201106	共同研究	Web会議	Web会議	企画	5
47	デンソー	越智 光	20201113	共同研究	Web会議	Web会議	企画	5
48	デンソー	越智 光	20201120	共同研究	Web会議	Web会議	企画	5
49	デンソー	越智 光	20201127	共同研究	Web会議	Web会議	企画	5
50	デンソー	越智 光	20201203	共同研究	Web会議	Web会議	企画	5
51	デンソー	越智 光	20201210	共同研究	Web会議	Web会議	企画	5
52	デンソー	越智 光	20201217	共同研究	Web会議	Web会議	企画	5
53	デンソー	越智 光	20201224	共同研究	Web会議	Web会議	企画	5
54	デンソー	越智 光	20210107	共同研究	Web会議	Web会議	企画	5
55	デンソー	越智 光	20210108	共同研究	Web会議	Web会議	企画	5
56	デンソー	越智 光	20210114	共同研究	Web会議	Web会議	企画	5
57	デンソー	越智 光	20210121	共同研究	Web会議	Web会議	企画	5
58	デンソー	越智 光	20210127	共同研究	Web会議	Web会議	企画	5
59	デンソー	越智 光	20210203	共同研究	Web会議	Web会議	企画	5
60	デンソー	越智 光	20210210	共同研究	Web会議	Web会議	企画	5
61	デンソー	越智 光	20210217	共同研究	Web会議	Web会議	企画	5
62	デンソー	越智 光	20210224	共同研究	Web会議	Web会議	企画	5
63	デンソー	越智 光	20210303	共同研究	Web会議	Web会議	企画	5
64	デンソー	越智 光	20210310	共同研究	Web会議	Web会議	企画	5
65	デンソー	越智 光	20210317	共同研究	Web会議	Web会議	企画	5
66	デンソー	越智 光	20210324	共同研究	Web会議	Web会議	企画	5
67	デンソー	越智 光	20210331	共同研究	Web会議	Web会議	企画	5
68	デンソー	浜田	20200528	共同研究	Web会議	Web会議	企画	5
69	デンソー	浜田	20200701	共同研究	Web会議	Web会議	企画	5
70	デンソー	浜田	20200819	共同研究	Web会議	Web会議	企画	5
71	デンソー	浜田	20200915	共同研究	Web会議	Web会議	企画	5
72	デンソー		20200930	共同研究	Web会議	Web会議	企画	5
73	デンソー	浜田	20201005	共同研究	Web会議	Web会議	企画	5
74	デンソー	浜田	20201007	共同研究	Web会議	Web会議	企画	5
75	日産	外池	20200421	共同研究	Web会議	Web会議	企画	7
76	日産	外池	20200625	共同研究	Web会議	Web会議	企画	
77	日産	外池	20200626	共同研究	Web会議	Web会議	企画	
78	日産	外池	20210122	共同研究	Web会議	Web会議	企画	
79	日産	外池	20210309	共同研究	Web会議	Web会議	企画	

# 奥村 誠 教授

## OKUMURA Makoto

人間・社会対応研究部門 被災地支援研究分野

### A. 基本情報・略歴

#### 出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	京都大学	工学部	1984	3	京都大学大学院	工学研究科修士課程	1986	3	博士(工学)	1991	11

#### 職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	1987	4	1992	3	京都大学 工学部	助手
2	1992	4	1995	3	京都大学 工学部	講師
3	1995	4	2001	3	広島大学 工学部	助教授
4	2001	4	2006	3	広島大学大学院 工学研究科	助教授
5	2006	4	2012	3	東北大学 東北アジア研究センター	教授
6	2012	4	現在		東北大学 災害科学国際研究所	教授

#### 学会活動

##### 所属学会

	学会名 1	2	3	4	5	6	7	8	9
	土木学会	日本地域学会	応用地域学会	日本計画行政学会	日本都市計画学会	Regional Science Association International	East Asian Society of Transportation Studies (EASTS)	スケジューリング学会	交通工学研究会

##### 学会・委員会等での役職

	学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
1	日本都市計画学会	東北支部	支部長	20190531
2	応用地域学会		副会長	20190401

##### 研究分野・キーワード

	専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3	専門分野 4
	社会システム工学・安全システム	交通工学・国土計画	都市間交通	都市計画

##### 委員会・ワーキンググループ

##### 全学・他部署の委員会での委員

	部局名	委員会名	役職	開始年月日
1	全学	キャンパス計画委員会・運輸交通専門委員会	副委員長	20100401
2	工学研究科	キャンパスマスタープラン検討委員会	委員	20140401
3	工学部	入試対策委員会	委員	20190401

### B. 研究活動

#### 研究活動の概要

災害の直接的な影響とその後の回復プロセスを把握するための統計手法を研究し、国内で口頭発表した。感染症リスク下の災害からの避難に関する課題を整理し、概念モデルを口頭発表した。さらに、科学研究費により都市間交通ネットワークの計画に関する研究を進め、国内外での発表を行った。なお5編の和文査読論文の投稿、修正を行い次年度の2021年4月に刊行された。

#### 研究課題

	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	2009	4	現在		都市間交通ネットワークの計画方法の研究	両方
2	2012	4	現在		自動車を利用した津波避難計画に関する研究	国内
3	2013	4	現在		携帯電話位置情報ビッグデータによる災害影響把握手法の研究	国内
4	2017	4	現在		災害対応施設の整備計画に関する研究	国外

#### 論文

単著	0	筆頭共著	0	その他の共著	1	合計	1	うち	国際査読有	1	国際査読無	0	国内査読有	0	国内査読無	0
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

	記述言語	区分	所外連携	国際学術誌	種別	査読	招待論文	論文題目名(原語)	著者氏名(共著者含)	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日
1	英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Measurement of Disaster Damage Utilizing Disaster Statistics: A Case Study Analyzing the Data of Indonesia	Daisuke Sasaki, Makoto Okumura, and Yuichi Ono	Journal of Disaster Research	15	7	970	974	202012

著書(監修・編集・単著・共著)

監修 編集	0	単著	0	筆頭 共著	0	共著	1	合計	1	うち	国際	0	国内	1
----------	---	----	---	----------	---	----	---	----	---	----	----	---	----	---

記述 言語	著書名および担当執筆題名	種別	発行年月日	著者・監修者氏名	区分	出版社名	所外 連携	発行 部数
1 日本語	「安全な避難の科学」(『東日本大震災からのスタート:災害を考える51のアプローチ』第16章, pp.65-68)	編集本 (著者・ Author)	20210311	奥村誠, マス・エリック (東北大学災害科学国際研究所)	共著	東北大学出版会	なし	1400

総説・解説(大学紀要・学術雑誌・学会誌・商業雑誌など)

単著	2	筆頭共著	1	その他の 共著	0	合計	3	うち	国際 査読有	0	国際 査読無	0	国内 査読有	0	国内 査読無	3
----	---	------	---	------------	---	----	---	----	-----------	---	-----------	---	-----------	---	-----------	---

記述 言語	題目名(原語)	種別	査読	招待 論文	論文掲載誌名 (原語)	巻 号	開始 ページ	終了 ページ	発行年月日	著者氏名 (共著者含)	区分	所外 連携	
1 日本語	(座談会)土木の復興 今後にかかす東日本大震災復興の反省点-構想・計画・実施の各局面-	学術雑誌	無	いいえ	土木学会誌	106	3	22	27	20210301	奥村誠, 岸井隆幸, 中井 裕裕, 柄谷由香, 佃遙, 高 田洋人	共著	国内
2 日本語	(巻頭言)「隣災」の発想で, メリハリのある備えを	その他	無	はい	月刊建設	65	3	4	5	20210301	奥村誠	単著	なし
3 日本語	東日本大震災からの復興10年の成果と課題	その他	無	はい	商工ジャーナル	47	3	14	17	20210301	奥村誠	単著	なし

学会発表

単名	2	筆頭 連名	4	その他の 連名	0	合計	6
----	---	----------	---	------------	---	----	---

国内 国際	会議名称	会議の チェア	区分	招待	講演・発表の形態	会場名	開催 都市名	開催 国名	開催期間		発表年月 日	題目名(原語)	連名者名 (発表者に下線)
									開始年月	終了年月			
1 国内	令和2年度土木学会全 国大会年次学術講演会	堀田 治	単名	いいえ	口頭(一般)	オンライン	名古屋	日本	20200909	20200911	20200909	人口減少時代におけるストックの維持と利用 をめざす計画論	奥村誠
2 国内	スケジューリングシンポジ ウム2020	西 竜志	単名	いいえ	口頭(一般)	オンライン	吹田	日本	20200917	20200918	20200917	SPRINT手法を用いたCOVID-19下の人道支 援の研究課題の検討	奥村誠
3 国際	The 10th Asian Conference in Regional Science	Haruto Tsutsumi	筆頭連名	いいえ	口頭(一般)	オンライン	つくば	日本	20201010	20201021	20201010	Optimized network structure of intercity passenger transportation considering cost sharing schemes	Makoto OKUMURA, Tomoki YOSHIDA, Huseyin TIRTOM
4 国内	第62回土木計画学研究 発表会	寺部慎太郎	筆頭連名	いいえ	口頭(一般)	オンライン	東京	日本	20201113	20201115	20201115	NMFによる自然災害被害統計の構造分析	奥村誠, 水谷大二郎
5 国内	応用地域学会2020年度 研究発表大会	奥村 誠	筆頭連名	いいえ	口頭(一般)	オンライン	つくば	日本	20201128	20201129	20201129	費用負担スキームによる都市間交通ネット ワーク構造の相違	奥村誠, 吉田智貴, Tirtom Huseyin
6 国内	第27回鉄道技術・政策 連合シンポジウム	金子雄一郎	筆頭連名	いいえ	口頭(一般)	オンライン	東京	日本	20201215	20201217	20201215	固定費用負担制度が最適都市間交通ネット ワークに及ぼす影響	奥村誠, 吉田智貴

学術会議・シンポジウム等の主催・共催・運営等

合計	1件
----	----

国内 国際	種別	主催団体名・運営団 体名等	イベント名称	開催期間		会場	開催 都市名	開催 国名	参加人数 (%非属人)	分野	担当	IRIDeSの 関与	共催機関名	所外 連携
				開始年月	終了年月									
1 国内	研究会	応用地域学会	第34回応用地域学会研究発表大会	20201128	20201129	オンライン	つくば市	日本	172 (5)	人文社会 系	実行委員長	なし		国内

C. 教育活動

教育活動の概要

兼務先である大学院工学研究科土木工学専攻の学生の指導を行った。また講義は、同専攻の専門科目、演習科目のほか、リーディング大学院グローバル安全学トップリーダー育成プログラムの専門科目、工学部建築・社会環境工学科の専門科目と演習科目を担当した。さらに災害研に割り当てられている全学教育オムニバス科目の日程・成績管理を行った。

担当授業科目(他大学を含む)

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・ 学期	コマ数 90分/1コマ
1	計量行動分析	東北大学大学院	工学研究科	土木工学専攻		後期	15
2	環境学序説	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	2	3セメ	1
3	建築・社会環境工学演習	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	2	3セメ	6
4	地域・都市計画	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	3	6セメ	15
5	都市システム計画演習Ⅱ	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	4	7セメ	8
6	計画数理及び演習	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	3	6セメ	8

D. 社会活動

社会活動の概要

研究活動の目的である、災害に強く、支援をしやすい地域づくりを行うための基礎として、交通基盤、地域・都市計画の行政・実務への協力を継続的に行っている。

講演・講義等(研究活動以外)

合計 6 件

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	連携	主催者	会場名	開催都市名	開催国名	参加人数
				開始年月日	終了年月日							
1	公開講座	復興大学県民講座	公開講義	202008	20190713	自動車を用いた安全な津波避難方法を考える・災害後の人口転出パターン	なし	学都仙台コンソーシアム	オンライン	仙台市	日本	40
2	講演会	土木学会震災復興リレーシンポジウム～震災復興の10年の成果と課題を俯瞰する～	基調講演	20200704	20200704	震災10年の成果と課題	なし	公益社団法人土木学会	国土交通省東北地方整備局(オンライン配信)	仙台市	日本	350
3	講演会	みんなのせんだい未来づくりシンポジウム「チャレンジを続ける新たな杜の都」	オープニングトーク/総合計画審議会会長としてのコメント	20201004	20201004	オープニングトーク	行政	仙台市	TKPガーデンシティ仙台(オンライン配信併用)	仙台市	日本	100
4	セミナー	第4回和合館東北フォーラム2020「デジタル変革(DX)と建設産業」	基調講演	20201106	20201106	建設業はデジタル革命にどう取り組むか?	なし	NPO法人 和合館工学会	仙台(オンライン配信)	仙台市	日本	60
5	講演会	仙台市都市計画マスタープランシンポジウム	パネルディスカッションコーディネーター	20201222	20201222	選ばれる都市へ挑戦し続ける新たな杜の都	行政	仙台市	TKPガーデンシティ仙台(オンライン配信併用)	仙台市	日本	100
6	講演会	防災に関するシンポジウム	パネルディスカッションコーディネーター	20210127	20210127	東日本大震災と復興、得られた経験を未来に繋ぐ	なし	土木学会東北支部	ホテルメトロポリタン仙台(オンライン配信)	仙台市	日本	200

自治体・民間等での委員

	区分	組織・団体名	委員会名	委員・役職名	開始年月日
1	国・政府	国土交通省	第7回幹線旅客純流動調査委員会	委員兼幹事	20190701
2	地方自治体	宮城県	大規模公共事業評価委員会	専門委員	20090401
3	地方自治体	宮城県	国土利用審議会	委員長代理	20110401
4	地方自治体	仙台市	都市計画審議会	会長	20140701
5	地方自治体	仙台市	総合計画審議会	会長	20181001
6	地方自治体	気仙沼市	地域公共交通会議	委員	20170401
7	地方自治体	亘理町	入札監視委員会	委員長代理	20170701
8	地方自治体	伊達市	都市計画審議会	会長	20180701

## 井内 加奈子 准教授

## IUCHI Kanako

人間・社会対応研究部門 被災地支援研究分野

## A. 基本情報・略歴

## 出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	筑波大学	第三学群社会学類	1994	7	コーネル大学大学院	都市・地域計画学科	2006	5	MRP(地域計画)	2006	5
2					イリノイ大学大学院	都市・地域計画学科	2010	9	PhD(地域計画)	2011	5

## 職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	1994	6	2004	7	株式会社バシフィックコンサルタンツインターナショナル 開発計画部	上級技師
2	2004	8	2006	5	コーネル大学 都市・地域計画学科	授業・研究助手
3	2006	8	2010	9	イリノイ大学 都市・地域計画学科	研究助手
4	2010	10	2013	2	世界銀行 金融・経済・都市開発部	都市専門家
5	2013	3	2018	8	東北大学 災害科学国際研究所 人間社会対応研究部門 防災社会国際比較研究分野	准教授
6	2018	9	2021	3	東北大学 災害科学国際研究所 人間社会対応研究部門 被災地支援研究分野	准教授

## 学会活動

## 所属学会

	学会名 1	2	3	4	5	6
	American Planning Association	Earthquake Engineering Research Institute	日本都市計画学会	地域安全学会	American Association of Geographers	The Honor Society of Phi Kappa Phi

## 学会・委員会等での役職

	学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
1	Natural Hazards Research and Application Workshop	Organizing Committee	Member	20200128
2	Journal of Delta Urbanism	Editorial Team	Editorial Board Member	20201200

## 委員会・ワーキンググループ

## 全学・他部局の委員会での委員

	部局名	委員会名	役職	開始年月日
1	東北大学本部事務機構	情報公開・個人情報開示等審査委員会	委員	20190401

## B. 研究活動

## 研究活動の概要

2020年度は、フィリピン(レイテ島)やインドネシア(メラビ地域)、日本(東北)、ニューヨーク(マンハッタン)など、これまで中・長期的に取り組んできた移転・再定住の事例研究を横断比較することで、移転・復興に関するガバナンスのあり方についてとりまとめることができた。さらに新しい研究テーマとして、復興における暫定組織のあり方と復興ガバナンスについての必要性を明らかにし、フィリピンや日本の事例を検討・分析を開始した。インドネシアの2018年中部スラウェシ地震の復興研究にも新たに着手し、ガバナンス研究のフレームワーク設計のため、現在、研究アプローチを検討している段階である。
--

## 研究課題

	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	2013	12	現在		フィリピンにおける台風ハイアンからの復興計画と移転・再定住の研究	両方
2	2014	11	現在		米国ハリケーンサンディ後の復興計画と実施の実態に関する研究	国外
3	2016	4	現在		東日本大震災におけるすまいの再建に関わる復興の研究	国内
4	2018	2	現在		レジリエントな復興を目指す普遍的な移転・再定住計画の枠組構築に向けた研究	国外
5	2019	11	現在		インドネシア中部スラウェシ地震からの復興計画と移転・再定住の研究	国外



論文

単著	2	筆頭共著	1	その他の共著	3	合計	6	うち	国際査読有	5	国際査読無	0	国内査読有	0	国内査読無	1
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

記述言語	区分	所外連携	国際学術誌	種別	査読	招待論文	論文題目名(原語)	著者氏名(共著者名)	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	
1	日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	無	いいえ	低頻度メガリスク型沿岸域災害の復興減災期における土地利用管理ーカンタベリー地震、ハリケーン・サンディ、東日本大震災を事例としてー	近藤 民代,井内 加奈子,馬場 美智子,マリ エリザベス	都市計画報告集	19	2020	5	12	20200608
2	英語	単著	なし	はい	国際会議 Proceedings	有	いいえ	Post-disaster relocation governance in three different countries in Asia	luchi, K.	Proceedings of the Natural Hazard Workshop, IRCD Researchers Meeting	45		online		20201201
3	英語	単著	なし	はい	国際会議 Proceedings	有	いいえ	Long-term community relocation after typhoon Haiyan – residents’ adaptive and transformative decisions	luchi, K.	Proceedings of the 60th Annual ACSP Conference	60		257	258	20201105
4	英語	筆頭共著	両方	はい	学術雑誌	有	いいえ	Learning from a post-typhoon Haiyan/Yolanda recovery institution (OPARR): A new research agenda for recovery governance	luchi, K., Jibiki, Y., & Tamayose, B.	Journal of Disaster Research	15	7	845	854	20201201
5	英語	共著	両方	はい	学術雑誌	有	いいえ	Implementation of Post Disaster Needs Assessment in Indonesia: Literature Review	Jibiki, Y., Pelupessy, D., Sasaki, D., & Luchi, K.	Journal of Disaster Research	15	7	975	980	20201201
6	英語	共著	両方	はい	国際会議 Proceedings	有	いいえ	Voices from communities relocated to Tacloban North after Typhoon Yolanda	Malv, E., Sakurai, A., Auro, F., Caintic, M. C. I., and Luchi, K.	IOP Conf. Series: Earth and Environmental Science	630		012013		20210201

著書(監修・編集・単著・共著)

監修編集	0	単著	1	筆頭共著	1	共著	0	合計	2	うち	国際	0	国内	2
------	---	----	---	------	---	----	---	----	---	----	----	---	----	---

記述言語	著書名および担当執筆題名	種別	発行年月日	著者・監修者氏名	区分	出版社名	所外連携	発行部数
1	日本語 住まいの復興事業とまちの再生(総合検証 東日本大震災からの復興)	編集本(著者・Author)	2021.2.13	井内 加奈子, 合村 文彦(五百旗頭 真, 御厨 貴, 飯尾 潤(監修), ひょうご震災記念21世紀研究機構(編))	共著	岩波書店	国内	
2	日本語 「住民移転による復興」(『東日本大震災からのスタート:災害を考える51のアプローチ』第46章, pp.189-192)	編集本(著者・Author)	20210311	井内加奈子(東北大学災害科学国際研究所)	単著	東北大学出版会	国内	1400

学会発表

単名	2	筆頭連名	0	その他の連名	1	合計	3
----	---	------	---	--------	---	----	---

	国内国際	会議名称	会議のチェア	区分	招待	講演・発表の形態	会場名	開催都市名	開催国名	開催期間		発表年月日	題目名(原語)	連名者名(発表者に下線)
										開始年月	終了年月			
1	国際	EERI: Learning from the Earthquake	Ortiz, Maggie	その他の連名	はい	口頭(招待)	EERI (Online)	Oakland	US	20200520	20200520	20200520	Preliminary Observations and Findings from the EERI Palu, Indonesia Earthquake and Tsunami Resilience Reconnaissance Team	<u>Olshansky, R.</u> , <u>luchi, K.</u> , <u>Nacem, G.</u> , and <u>Hanifa, R.</u>
2	国際	Natural Hazard Workshop, IRCD Researchers Meeting	Peek, Lori	単名	いいえ	口頭(一般)	Natural Hazards Center (Online)	Boulder	US	20200712	20200716	20200716	Post-disaster relocation governance in three different countries in Asia	<u>luchi, K.</u>
3	国際	60th Annual Association of Collegiate School of Planning (ACSP) Conference	Yarina, Lizzie	単名	いいえ	口頭(一般)	University of Toronto (Online)	Toronto	Canada	20201105	20201108	20201106	Long-term community relocation after typhoon Haiyan – Residents’ adaptive and transformative decisions	<u>luchi, K.</u>

C. 教育活動

教育活動の概要

オンライン中心の授業のため、方法を若干変化させた。全学対象の、「災害の科学(災害の波及と効果)」では、オンライン上でも学生とのインタラクティブな会話が出来るように努力した。また、オンライン、かつ現地踏査が難しくなった本年度は、海外の大学(オランダ・米国・カナダ)からの要請に基づき、災害復興・研究に関連する授業の協力を行った。

担当授業科目(他大学を含む)

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・学期	コマ数 90分/コマ
1	Infrastructure and Environment Design	TU Delft	Architecture, Urbanism & Building Sciences	Infrastructure and Environment Design		前期	1
2	Resilient States, NYC Program Online Summer Studio	Syracuse University	School of Architecture			前期	1
3	災害の科学(災害の波及と効果)	東北大学	全学		4	後期	1
4	Global Changes and Society	University of Utah	Global change & sustainability center			後期	1
5	Humanitarian Action	University of Ottawa	International Development and Global Studies			後期	1

## D. 社会活動

## 社会活動の概要

2020年度の社会活動は、東日本大震災から10年の区切りがあったことで、これに関する内容についてのセミナーでの講演やメディアへの出演が中心になった。さらに、委員活動も東日本大震災対応のものがあつた。また、インドネシア国中部スラウェシ地震から2年ということでもインドネシア国の行政・学界関係者に対し、講演を行った。

## 講演・講義等(研究活動以外)

合計 4 件

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	連携	主催者	会場名	開催都市名	開催国名	参加人数
				開始年月日	終了年月日							
1	セミナー	EQ Talk #5: Unique Challenges on Build Back Better for Community Resilience after the Palu Earthquake	講演	20201006	20201006	Unique Challenges on Build Back Better for Community Resilience after the Palu Earthquake	行政	Bundung Institute of Technology and BAPPENAS	Bundung Institute of Technology	Bundung	インドネシア	150
2	セミナー	総合減災プロジェクト・エリア主管セミナー	講演	20201116	20201116	「災害研の減災デザイン・実装の成果と活動の展望」国際復興・防災支援	なし	IRDeS	IRIDeS	仙台	日本	100
3	セミナー	APRU Multi-Hazards Webinar Series: 10 years after the Great East Japan Earthquake and Tsunami: Insights and perspectives based on science and experience	講演	20210312	20210312	Reflections at the 10th year after the GEJE: What did we learn about rebuilding?	行政	APRU	IRIDeS	仙台	日本	300
4	公開講座	IPPO X 365 X 10 - 10 years from the triple disaster	講演	20210313	20210313	Communities and spatial redevelopment at the 10th year after the GEJE - What did we learn about rebuilding?	企業	ArchiPicnic	Pratt Institute	New York	アメリカ	30

## 自治体・民間等での委員

	区分	組織・団体名	委員会名	委員・役職名	開始年月日
1	民間・NPO	Price Waterhouse Coopers (PwC)	被災3県心のケア総合支援調査研究事業(厚生労働省)、検討委員会	委員	20200626
2	民間・NPO	(株)パシフィックコンサルタンツインターナショナル	「地震分野の防災協力の再評価と重点分野の今後の方策検討(国際協力機構)」事業、検討委員会	委員	20210000

# 水谷 大二郎 助教

## MIZUTANI Daijiro

人間・社会対応研究部門 被災地支援研究分野

## A. 基本情報・略歴

## 出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	大阪大学	工学部	2012	3	大阪大学	工学研究科	2014	3	修士(工学)	2014	3
2					大阪大学	工学研究科	2016	9	博士(工学)	2016	9

## 職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	2014	4	2016	3	日本学術振興会	特別研究員DC-1
2	2015	10	2015	11	Eidgenössische Technische Hochschule Zürich (ETH Zurich) Institute of Construction and Infrastructure Management	Visiting Scholar
3	2016	4	2017	3	Eidgenössische Technische Hochschule Zürich (ETH Zurich) Institute of Construction and Infrastructure Management	Research Associate
4	2017	4	2017	7	大阪大学大学院 工学研究科 地球総合工学専攻	特任研究員(常勤)
5	2017	8	2020	9	東北大学 災害科学国際研究所	助教
6	2020	10	現在		東北大学大学院 工学研究科 土木工学専攻	助教

## 学会活動

## 所属学会

学会名	1	2
土木学会		日本アセットマネジメント協会

## 学会・委員会等での役職

	学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
1	日本アセットマネジメント協会	情報発信小委員会	委員	20180000
2	日本アセットマネジメント協会	アプリケーション小委員会	委員	20180000
3	土木学会	構造工学でのAI活用に関する研究小委員会	委員	20180000

## 研究分野・キーワード

専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3	専門分野 4	専門分野 5
インフラマネジメント	アセットマネジメント	最適化	統計学	計量経済学

## 委員会・ワーキンググループ

## 全学・他部局の委員会での委員

	部局名	委員会名	役職	開始年月日
1	工学研究科	入試広報委員会	委員	20180401

## 研究活動の概要

橋梁、高速道路、上下水道施設などのインフラのマネジメント(アセットマネジメント)と災害科学の融合に主眼を置き、研究活動を行ってきた。

## 研究課題

	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	2011	4	現在		インフラマネジメントにおける、統計的劣化予測モデルの高度化とマルコフ連鎖モンテカルロ法によるモデル推定手法の体系化に関する研究。統計的劣化予測モデル推定時間の短縮に関する研究。	両方
2	2014	4	現在		社会基盤施設のネットワーク特性を考慮したアセットマネジメント手法の開発。組合せ爆発が問題となる補修・更新プログラム最適化問題の定式化とその解法の開発。	両方
3	2017	4	現在		斜面災害に着目した降雨時高速道路通行規制基準の最適化に関する研究。	国内
4	2017	8	現在		災害発生を考慮したアセットマネジメント手法の開発。災害統計ビッグデータ分析。	国内
5	2017	6	現在		確率的フロンティアモデルを用いた下水道事業の管理効率性/費用効率性分析。	国内

論文

単著	0	筆頭共著	1	その他の共著	1	合計	2
----	---	------	---	--------	---	----	---

うち

国際査読有	0	国際査読無	0	国内査読有	2	国内査読無	0
-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

	記述言語	区分	所外連携	国際学術誌	種別	査読	招待論文	論文題目名 (原語)	著者氏名 (共著者含)	論文掲載誌名 (原語)	巻	号	開始 ページ	終了 ページ	発行 年月日
1	日本語	筆頭共著	国内	いいえ	学術雑誌	有	いいえ	階層的隠れマルコフ劣化モデルの状態推移確率の解析解について	水谷大二郎, 上野渉	土木学会論文集D3 (土木計画学)	76	2	196	202	20200520
2	日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	有	いいえ	連続主体ポテンシャル・ゲームの確率的進化動学と定常分布推定方法	長江剛志, 水谷大二郎	土木学会論文集D3 (土木計画学)	76	2	138	155	20200520

C. 教育活動

教育活動の概要

研究指導教員として学部4年生1人・修士課程2年生1人・修士課程1年生1人の研究指導を行った。

D. 社会活動

社会活動の概要

インフラアセットマネジメント, リスクマネジメントの普及を目指し, 一般社団法人日本アセットマネジメント協会の複数の委員会の委員として活動。

## 佐藤 大介 准教授

## SATO Daisuke

人間・社会対応研究部門 歴史資料保存研究分野

## A. 基本情報・略歴

## 出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	東北大学	文学部	1996	4	東北大学大学院	文学研究科	2003	10	文学博士	2005	3

## 職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	2003	10	2006	3	東北大学大学院 文学研究科	COEフェロー
2	2006	4	2007	4	東北大学大学院 文学研究科	専門研究員
3	2006	7	2007	3	郡山女子大学 短期大学部	非常勤講師
4	2007	4	2012	3	東北学院大学 文学部	非常勤講師
5	2007	5	2010	3	東北大学東北アジア研究センター	教育研究支援者
6	2010	4	2012	3	東北大学東北アジア研究センター	助教
7	2012	4	2012	5	東北大学災害科学国際研究所	助教
8	2012	6	現在		東北大学災害科学国際研究所	准教授
9	2013	4	現在		東北大学大学院環境科学研究科	協力教員
10	2014	4	現在		東北大学大学院文学研究科	兼務教員

## 学会活動

## 所属学会

学会名 1	2	3	4	5	6
東北史学会	日本史研究会	歴史学研究会	宮城歴史科学研究会	文化財保存修復学会	日本地球惑星科学連合

## 学会・委員会等での役職

	学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
1	東北史学会		理事	20151000

## 研究分野・キーワード

専門分野 1	専門分野 2
歴史学	史料保存学

## 委員会・ワーキンググループ

## 全学・他部局の委員会での委員

	部局名	委員会名	役職	開始年月日
1	埋蔵文化財調査室	運営委員会	委員	20140501
2	学術資源研究公開センター	運営専門委員会	委員	20140401
3	東北アジア研究センター寄附研究部門 上廣歴史資料科学研究部門		運営諮問委員	20140701
4	附属図書館	齋藤養之助家史料運用委員会	委員	20140701
5	附属図書館	古典籍活用小委員会	委員	20170701
6	歴史文化遺産ネットワーク事業東北大学拠点	実行委員会	委員長	20180401

## B. 研究活動

## 研究活動の概要

・災害時の歴史資料保全に関連して 東日本大震災から10年を迎えるにあたり、改めて大規模災害時の歴史資料保全活動の実態と課題について、ボランティア活動としての意義と、その一方でボランティアに過度に依存する善意頼みの状況の限界を指摘した。それとともに、歴史資料保存と災害支援・復興との関係について、臨床心理学者チームとの共同研究の成果の一部を、UNESCO「世界の記憶」部門の依頼に応じて公表した。また、新型コロナウイルス下の社会状況の記録についてのシンポジウムを主催し、記録の課題についての発表を行った。

・江戸時代仙台藩領の商家が残した年代記について、戊辰戦争前後にあたる1868年9月から1873年分の約9万文字を解読し、東北大学学術リポジトリを用いて全文を公開した。戊辰戦争の内乱、および同時期の天候不順など環境に関する史料を共有し、研究環境の整備に資することが出来た。

## 研究課題

	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	1999	12	現在		旧仙台藩領 東北地方における実践を踏まえた歴史資料保全学の構築	国内
2	2000	8	現在		仙台藩領における地域リーダー層の社会活動の研究	両方
3	2007	4	現在		19世紀仙台藩領における災害と社会史 政治史の研究	両方
4	2012	10	現在		16～19世紀の歴史気候復元と社会的応答に関する研究	両方
5	2015	10	現在		心理社会的支援としての歴史資料保全活動の研究	国内
6	2019	4	現在		歴史学におけるデータインフラストラクチャー構築に関する研究	国内

論文

単著	2	筆頭共著	0	その他の共著	0	合計	2	うち	国際査読有	0	国際査読無	0	国内査読有	0	国内査読無	2
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

記述言語	区分	所外連携	国際学術誌	種別	査読	招待論文	論文題目名(原語)	著者氏名(共著者含)	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日
1	日本語	単著	国内	いいえ	単行本(論文掲載)	無	はい	仙台藩における飢饉への社会的対応	佐藤大介			187	222	20201130
2	日本語	単著	国内	いいえ	単行本(論文掲載)	無	はい	私記・宮城での歴史資料保全活動二〇年―古文書を通じた地域との交流、そこの「3・11」から考えたこと	佐藤大介			197	242	20210331

著書(監修・編集・単著・共著)

監修編集	1	単著	0	筆頭共著	0	共著	1	合計	2	うち	国際	0	国内	2
------	---	----	---	------	---	----	---	----	---	----	----	---	----	---

記述言語	著書名および担当執筆題名	種別	発行年月日	著者・監修者氏名	区分	出版社名	所外連携	発行部数
1	日本語 気候変動から読み直す日本史6 近世の列島を俯瞰する―南から北へ	編集本(編集者・Editor)	20201130	中塚武、鎌谷かおる、佐藤大介	共編	臨川書店	国内	
2	日本語 『民間所在史料』の救済(『東日本大震災からのスタート:災害を考える51のアプローチ』第26章, pp.105-108)	編集本(著者・Author)	20210311	佐藤大介、川内淳史(東北大学災害科学国際研究所)	共著	東北大学出版会		1400

総説・解説(大学紀要・学術雑誌・学会誌・商業雑誌など)

単著	1	筆頭共著	1	その他の共著	0	合計	2	うち	国際査読有	0	国際査読無	2	国内査読有	0	国内査読無	0
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

記述言語	題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	区分	所外連携
1	英語 Salvaging Historical Documents and Rebuilding Communities: Lessons from after the Great East Japan Earthquake of 2011	国際会議 Proceedings	無	はい	First Memory of the World Global Policy Forum Disaster Risk Reduction and Management for Sustainable Preservation of Documentary Heritage 11 December 2018, UNESCO Headquarters, Paris A Retrospective View		2	48	52	20201105	Daisuke Sato, J.F.Morris, Machiko Kamiyama	筆頭共著	国外
2	英語 The Current Status of Rescue Activities for Historic Documents in Local Communities in Japan	国際会議 Proceedings	無	はい	Second Special Issue of the UNESCO MoW SCEaR* Newsletter on "2nd Memory of the World Global Policy Forum on Disaster Risk Reduction and Management for Sustainable Preservation - An interim view in the times of Covid-19"		2	48	52	20201210	Daisuke Sato	単著	国外

学会発表

単名	2	筆頭連名	0	その他の連名	0	合計	2
----	---	------	---	--------	---	----	---

	国内国際	会議名称	会議のチェア	区分	招待	講演・発表の形態	会場名	開催都市名	開催国名	開催期間		発表年月日	題目名(原語)	連名者名(発表者に下線)
										開始年月	終了年月			
1	国内	第2回北海道・東北資料保全ワークショップ	佐藤大介	単名	いいえ	指名/シンポジウム・ワークショップ・パネル	オンライン			20200830	20200830	20200830	災害記録初心者の5か月―COVID-19の下で考えたこと	佐藤大介
2	国内	第7回全国資料ネット集会		単名	はい	口頭(招待)	オンライン			20210220	20210221	20210220	東日本大震災10年・宮城での民間所在史料保全の現状 宮城資料ネットを中心とする活動から私が考えていること	佐藤大介

## 学術会議・シンポジウム等の主催・共催・運営等

合計 3 件

	国内 国際	種別	主催団体名・運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場	開催都市名	開催国名	参加人数 (うち外国人)	分野	担当	IRIDeSの 関与	共催機関名	所外 連携
					開始年月	終了年月									
1	国内	ワークショップ	東北大学災害科学国際研究所、北海道大学大学院文学研究科北方教育研究センター	第2回 北海道・東北地区の歴史資料保全に関するワークショップ—うち続く災害に、改めてどう向き合っていくのか—	20200830	20200830	オンライン			22 (0)	人文社会系	企画運営	IRIDeS主催・共同主催	北海道大学大学院北方教育研究センター	国内
2	国内	ワークショップ	東北大学災害科学国際研究所、北海道大学大学院文学研究科北方教育研究センター	第3回・北海道・東北地区の歴史資料保全に関するワークショップ 災いの中の人々・社会の記録をどうやって残すか	20210126	20210126	オンライン			20 (2)	人文社会系	企画運営	IRIDeS主催・共同主催	北海道大学大学院北方教育研究センター	国内
3	国内	シンポジウム	第7回全国史料ネット集実行委員会	分科会「災害支援としての歴史資料保全を考える」	20210221	20210221	オンライン			55	人文社会系	企画運営	IRIDeS主催・共同主催	国立歴史民俗博物館、神戸大学人文学部、史料ネット29団体など	国内

## C. 教育活動

## 教育活動の概要

例年通り全学教育科目、環境科学研究所、文学部・文学研究科での担当講義をオンラインで実施した。なお、新型コロナウイルスへの感染拡大によって、例年実施している古文書保全・調査の体験学習が実施できなかった。

## 担当授業科目(他大学を含む)

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	semester・学期	コマ数 90分1コマ
1	歴史と人間社会	東北大学	全学		1	1-セメ	15
2	日本社会史論	東北大学	大学院環境科学研究科			後期	15
3	日本近世・近代史特論	東北大学	大学院文学研究科			後期	15
4	日本近世・近代史各論	東北大学	文学部		3	後期	15

## D. 社会活動

## 社会活動の概要

宮城歴史資料保全ネットワークの受入による、東日本大震災及び台風19号被災史料への対応を続けたが、新型コロナウイルスの影響で約6か月間の作業中断を余儀なくされた。仙台市歴史民俗資料館による企画展「災害と仙台」において、古文書・新型コロナウイルス関係記録の提供、関連講演などの協力を行った。また、吉野作造記念館の以来で、史料保全関係の講演を行い、理念の普及に努めた。

## 講演・講義等(研究活動以外)

合計 3 件

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	連携	主催者	会場名	開催都市名	開催国名	参加人数
				開始年月日	終了年月日							
1	展示会	仙台市歴史民俗資料館企画展「災害の仙台」	展示協力	20201103	20210220		行政	仙台市歴史民俗資料館	仙台市歴史民俗資料館	仙台市	日本	500
2	展示会	仙台市歴史民俗資料館企画展「災害の仙台」	講演	20201219	20201209	古文書に見る江戸時代の災害	行政	仙台市歴史民俗資料館	仙台市歴史民俗資料館	仙台市	日本	30
3	公開講座	吉野作造記念館企画展「災害と復興のおおきき近現代史」	講演	20210228	20210228	地域の文化財を災害から守る—東日本大震災後の史料レスキュー	なし	吉野作造記念館	吉野作造記念館			

## 自治体・民間等での委員

	区分	組織・団体名	委員会名	委員・役職名	開始年月日
1	民間・NPO	NPO法人宮城歴史資料保全ネットワーク		理事	20140701
2	地方自治体	山形県	文化財保護審議委員会	臨時委員	20210330

## 川内 淳史 准教授

## KAWAUCHI Atsushi

人間・社会対応研究部門 歴史資料保存研究分野

## A. 基本情報・略歴

## 出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	都留文科大学	文学部	2004	3	上越教育大学	学校教育研究科	2006	3	修士(教育学)	2006	3
2					関西学院大学	文学研究科	2012	3	博士(歴史学)	2012	3

## 職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	2009	6	2012	3	伊丹市立博物館	震災資料調査員
2	2012	1	2012	3	神戸大学大学院 人文学研究科	学術推進研究員
3	2012	6	2013	3	伊丹市資料修史等専門委員会	調査員
4	2013	4	2015	3	大阪市史料調査会	調査員
5	2013	4	2018	9	関西学院大学	非常勤講師
6	2013	4	2018	9	神戸女学院大学	非常勤講師
7	2014	10	2015	3	神戸大学大学院 人文学研究科	学術研究院
8	2015	5	2018	9	神戸大学大学院 人文学研究科	特命講師
9	2018	10	現在		東北大学 災害科学国際研究所	准教授

## 学会活動

## 所属学会

	学会名 1	2	3	4	5
	日本史研究会	大阪歴史学会	大阪歴史科学協議会	弘前大学国史研究会	北海道・東北史研究会

## 研究分野・キーワード

	専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3	専門分野 4	専門分野 5
	歴史学	日本近現代史	地域史	アーカイブズ学	資料保存論

## 委員会・ワーキンググループ

## 全学・他部局の委員会での委員

	部局名	委員会名	役職	開始年月日
1	歴史文化遺産保全の大学・共同利用機関ネットワーク事業東北大学拠点	実行委員会	委員	20181001

## B. 研究活動

## 研究活動の概要

今年度の研究活動は、論文1(単著)、総説・解説1(筆頭共著)、学会発表1、学会・シンポジウム等の運営1であった。このうち2021年2月13-14日に開催された「第7回全国史料ネット研究交流集会」は、全国の資料保全関係者が集う大規模集会であり、今年度は仙台での開催を目指していたものの、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、仙台会場(東北大学災害科学国際研究所)を核とする(一般参加者入場不可)オンライン開催となった。同集会において事務局を担当し、会全般の企画・運営を担当、また同時に分科会においては「《普遍的課題》が切り開いた地平ー資料ネット運動と歴史学ー」と題する発表を行い、1995年の阪神・淡路大震災から現在に至るまでの被災資料保全活動の歴史学における総括的報告を行った。

## 研究課題

	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	2003	4	現在		大正～昭和期の地域医療・保健衛生に関する研究	なし
2	2004	4	現在		地域社会における国家主義思想に関する研究	なし
3	2006	4	現在		戦前～戦後期の国民健康保険と地域社会に関する研究	なし
4	2007	6	現在		大規模自然災害時における歴史資料保全に関する研究	国内
5	2010	6	現在		大規模自然災害時における災害アーカイブに関する研究	国内
6	2018	10	現在		歴史文化資料の保全に関する大学等ネットワーク構築に関する研究	国内
7	2019	4	現在		近現代日本における災害社会史に関する研究	両方
8	2020	4	現在		スペインインフルエンザ・パンデミックに関する地域社会史的研究	なし



論文

単著	1	筆頭共著	0	その他の共著	0	合計	1	うち	国際査読有	0	国際査読無	0	国内査読有	1	国内査読無	0
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

記述言語	区分	所外連携	国際学術誌	種別	査読	招待論文	論文題目名(原語)	著者氏名(共著者含)	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	
1	日本語	単著	国内	いいえ	その他	有	いいえ	ロ吉川近代教育ことはじめ:ロ吉川小学校成立まで	川内淳史			5	155	169	20200831

著書(監修・編集・単著・共著)

監修編集	0	単著	0	筆頭共著	0	共著	1	合計	1	うち	国際	0	国内	1
------	---	----	---	------	---	----	---	----	---	----	----	---	----	---

記述言語	著書名および担当執筆題名	種別	発行年月日	著者・監修者氏名	区分	出版社名	所外連携	発行部数
1	日本語 『民間所在史料』の救済』『東日本大震災からのスタート:災害を考える51のアプローチ』第26章, pp.105-108	編集本(著者・Author)	20210311	佐藤大介, 川内淳史 (東北大学災害科学国際研究所)	共著	東北大学出版会		1400

総説・解説(大学紀要・学術雑誌・学会誌・商業雑誌など)

単著	0	筆頭共著	1	その他の共著	0	合計	1	うち	国際査読有	0	国際査読無	0	国内査読有	0	国内査読無	1
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

記述言語	題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	区分	所外連携	
1	日本語	歴史資料の救済と分析	その他	無	いいえ	2019年台風19号災害に関する東北学術同僚調査団報告書			156	175	20201100	川内淳史, 巖名裕二, 佐藤大介	筆頭共著	国内

学会発表

単名	1	筆頭連名	0	その他の連名	0	合計	1
----	---	------	---	--------	---	----	---

国内	国際	会議名称	会議のチェア	区分	招待	講演・発表の形態	会場名	開催都市名	開催国名	開催期間		発表年月日	題目名(原語)	連名者名(発表者に下線)
										開始年月	終了年月			
1	国内	第7回全国史料ネットワーク交流集会 分科会「史料ネットワーク活動の発展的継承と普遍的課題ー歴史資料が価値あるものとなる社会とはー」	板垣貴志	単名	いいえ	公募/シンポジウム・ワークショップ・パネル	東北大学	仙台	日本	20210213	20210214	20210214	《普遍的課題》が切り開いた地平ー資料ネットワークと歴史学ー	川内淳史

学術会議・シンポジウム等の主催・共催・運営等

合計	1件
----	----

国内	国際	種別	主催団体名・運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場	開催都市名	開催国名	参加人数(おもに個人)	分野	担当	IRIDeSの開与	共催機関名	所外連携
					開始年月	終了年月									
1	国内	シンポジウム	第7回全国史料ネットワーク研究交流集会実行委員会 大学共同利用機関法人人間文化研究機構	第7回全国史料ネットワーク研究交流集会	20210213	20210214	東北大学災害科学国際研究所	仙台	日本	550	人文社会系	事務局	IRIDeS共催	科学研究補助助成事業(特別推進研究)「地域歴史学を機軸とした災害列島における地域存続のための地域歴史文化の創成」(研究代表者:奥村弘)研究グループ	国内

C. 教育活動

教育活動の概要

今年度の教育活動としては、災害研担当の全学教育科目「災害の科学(災害への対応)」および文学部の「人文社会総論 現代日本学入門」の講義を担当した。両者ともに、大規模災害から地域の歴史文化遺産を救い、伝えるための「災害アーカイブ」に関する内容について講義した。

担当授業科目(他大学を含む)

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・学期	コマ数 90分/コマ
1	人文社会総論 現代日本学入門	東北大学	文学部	現代日本学専修	1	後期	2
2	災害の科学(災害への対応)	東北大学	全学			後期	2

D. 社会活動

社会活動の概要

今年度は一般向けセミナー・講演等の運営を2件、市民向けを中心とした講演等を7件、自治体等の委員1件、メディア対応3件、協定締結1件を行った。このうち、これまで大規模災害時における文化財等レスキューについて協力関係を持っていたNPO法人宮城歴史資料保全ネットワークとは、今年度、正式な包括連携協定を締結し、より密接な協力関係が構築できたほか、講演会等では新型コロナウイルス感染拡大を踏まえ、20世紀初頭のスペインインフルエンザ・パンデミックに関する内容について精力的に行った。

一般向けセミナー・講演等の主催・共催・運営等(研究活動以外)

合計 2 件

	国内 国際	主催団体名・ 運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場名	開催 都市名	開催 国名	担当	参加 人数	IRIDeSの 関与	講演会・セミナー等
				開始年月日	終了年月日							
1	国内	NPO法人宮城歴史資料保全ネットワーク	NPO法人宮城歴史資料保全ネットワーク2020年度総会	20200607	20200607	オンライン	仙台市	日本	運営委員、事務局	33	なし	その他
2	国内	2021陸前高田フォーラム準備委員会	陸前高田プレ・フォーラム2020	20201101	20201101	陸前高田市民文化会館「奇跡の一本松ホール」	陸前高田市	日本	委員(機材担当)	30	なし	セミナー

講演・講義等(研究活動以外)

合計 7 件

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	連携	主催者	会場名	開催 都市名	開催 国名	参加人数
				開始年月日	終了年月日							
1	講演会	丸森町復興オンライン勉強会	講演	20200505	20200505	19世紀初頭丸森町の「町場替」と2019年台風19号被害について	なし	自然豊かな丸森で安心な暮らしを目指す会	オンライン	丸森町	日本	30
2	セミナー	東北大学知のフォーラム・東北大学卓越大学院プログラム・ニューノーマルを創る〜コロナ新時代を拓く東北大学卓越大学院セミナーシリーズ〜災害としての大規模感染症レジリエント社会構築に向けて	講演	20200716	20200716	歴史に学ぶースペイン風邪の経験と教訓ー	なし	東北大学産学共創大学院プログラム部門	オンライン	仙台市	日本	360
3	講演会	第40回仙台市史講座ー仙台の災害と資料レスキューー	講演	20201114	20201114	大災害から歴史を救うー被災史料レスキュー25年の歩みー	行政	仙台市博物館	仙台市博物館	仙台市	日本	20
4	公開講座	福沢古文書研究会公開講座	講義	20201118	20201118	伊達政宗と浅野長政ーなぜ政宗は「絶縁状」を出したのか?ー	なし	福沢古文書研究会	福沢市民センター	仙台市	日本	15
5	公開講座	SDGsの達成に向けた共創的研究開発プログラム 第2回 仙台市片平地区 リスク座談会	講演	20201220	20201220	明治22年(1889)洪水と仙台	行政	東北大学災害科学国際研究所	片平市民センター	仙台市	日本	40
6	講演会	令和2年度山形県立博物館 博物館講座 第4回	講演	20210123	20210123	100年前のパンデミックースペイン風邪と山形県ー	行政	山形県立博物館	山形県立博物館	山形市	日本	30
7	公開講座	地域史研究講座2021 第1回「学術野営2020 in奥州市スピントフ(市民向け成果報告会)」	講演	20210124	20210124	災害時の資料喪失	行政	奥州市教育委員会 えざし郷土文化館	オンライン	奥州市	日本	30

自治体・民間等での委員

区分	組織・団体名	委員会名	委員・役職名	開始年月日
1 地方自治体	岩沼市	岩沼市史編纂委員会	調査執筆員(震災部会)	20190701

自治体・研究機関との協定締結実績

	年月日	締結式会場	国内 海外	協定名称	締結機関	締結相手	期間	
							開始年月日	年数
1	20201217	東北大学災害科学国際研究所	国内	国立大学法人東北大学災害科学国際研究所とNPO法人宮城歴史資料保全ネットワークとの連携と協力に関する協定書	その他	NPO法人宮城歴史資料保全ネットワーク	20201217	5

その他、他機関等との交流実績(国内に限る)

合計 4 件

	交流機関名称	交流者	交流年月日	交流目的	会場名	開催 都市名	主な担当 内容	参加 人数
1	合同会社AMANE	堀井洋	20200711	講演	オンライン	奥州市	講演者招聘	30
2	仙台市博物館	菅原美咲	20201114	講演	仙台市博物館	仙台市	講演・発表	20
3	山形県立博物館	岩崎靖	20210123	講演	山形県立博物館	山形市	講演・発表	20
4	仙台市歴史民俗資料館	畑井洋樹	20210227	講演	仙台市歴史民俗資料館	仙台市	講演・発表	30

## 安田 容子 助教

YASUDA Yoko

人間・社会対応研究部門 歴史資料保存研究分野

## A. 基本情報・略歴

## 出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	東北大学	文学部	2002	3	東京大学大学院	新領域創成科学研究科	2004	3	修士(環境学)	2004	3
2					東北大学大学院	環境科学研究科	2012	3	博士(学術)	2012	3

## 職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	2012	9	2013	2	株式会社 循環社会研究所	地域調査員
2	2012	10	2016	3	東北大学災害科学国際研究所 人間・社会対応研究部門 歴史資料保存研究分野	特別教育研究教員
3	2016	4	2017	3	東北大学災害科学国際研究所 人間・社会対応研究部門 歴史資料保存研究分野	研究支援者
4	2017	4	2018	3	東北大学災害科学国際研究所 人間・社会対応研究部門 歴史資料保存研究分野	教育研究支援者
5	2018	10	現在		東北大学災害科学国際研究所 人間・社会対応研究部門 歴史資料保存研究分野	助教

## 学会活動

## 所属学会

	学会名 1	2	3	4	5	6	7	8
	人と動物の関係学会	生き物文化誌学会	美術史学会	文化財保存修復学会	日本伝統文化学会	国際浮世絵学会	大正イマジユリ学会	Association for East Asian Environmental History

## 学会・委員会等での役職

	学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
1	生き物文化誌学会		評議員	20190700

## 研究分野・キーワード

	専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3
	人と動物の関係史	日本近世近代美術史	地域資料保存

## B. 研究活動

## 研究活動の概要

被災美術資料のうち、特に地域の個人宅にのこされた地域美術資料保存の課題に取り組みながら、個人コレクションおよび、地方文人・画人ののこした資料の保存と活用に関する研究を行っている。鶴岡市にのこされている松森胤保の著作物から近代科学史における一地方の個人の役割についての研究については、資料の1冊について翻刻資料集を刊行した。兵庫県朝来市にのこされた歴史資料のうち、美術資料に注目し、近世の当地における美術の集積活動とネットワークについての資料調査を行っている。東日本大震災被災のE家資料については掛け軸類について安定化処置を行った。鼠害に関する研究では、安政2年の鼠大発生について調査・研究発表を行った。

## 研究課題

	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	2013	3	現在		被災美術資料E家コレクションの保存・継承に関する研究	国内
2	2017	4	現在		生野石川家の近世文人ネットワークに関する研究	国内
3	2018	4	現在		模写の価値付けに関する研究	国内
4	2018	4	現在		地域における被災美術資料の保全に関する研究	国内

## 著書(監修・編集・単著・共著)

監修	0	編集	0	単著	0	筆頭共著	0	共著	1	合計	1	うち	国際	0	国内	1
----	---	----	---	----	---	------	---	----	---	----	---	----	----	---	----	---

	記述言語	著書名および担当執筆題名	種別	発行年月日	著者・監修者氏名	区分	出版社名	所外連携	発行部数
1	日本語	二百年前に象潟で起きたこと 第1章 地震前と地震後の絵画からみる象潟の変遷	編集本 (著者・Author)	20210326	令井健太郎、安田容子、鯉名裕二、都司嘉宣、岡田真介、高橋成実、徳重英信	共著	秋田文化出版株式会社	国内	400部

## 総説・解説(大学紀要・学術雑誌・学会誌・商業雑誌など)

単著	1	筆頭共著	0	その他の共著	0	合計	1	うち	国際査読有	0	国際査読無	0	国内査読有	0	国内査読無	1
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

	記述言語	題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	区分	所外連携
1	日本語	斑ねずみの誕生とどぶねずみー江戸時代後期のねずみ観	学術雑誌	無	いいえ	ピオストーリー		34	59	66	20201200	安田容子	単著	なし

## C. 教育活動

## 教育活動の概要

他大学の博物館学芸員単位取得課程において、資料保存と地域資料の取り扱いに重点を置いた授業を行っている。

## 担当授業科目(他大学を含む)

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・学期	コマ数 90分/1コマ
1	文化財論	尚綱学院大学	総合人間科学部	表現文化学科	3	前期	15
2	博物館論	尚綱学院大学	総合人間科学部	表現文化学科	1	後期	15
3	博物館実習 I	尚綱学院大学	総合人間科学部	表現文化学科	2	3Q	15
4	日本史 I	仙台白百合女子大学	全学		1	前期	15
5	日本史 II	仙台白百合女子大学	全学		1	後期	15

## D. 社会活動

## 社会活動の概要

NPO法人宮城歴史資料保全ネットワークと連携し、歴史資料の保全と資料の活用に向けたとくみを行っている。亙理町E家資料調査の一環で、E家の資料を用いた企画展の展示構成に協力した。

# 丸谷 浩明 教授

## MARUYA Hiroaki

人間・社会対応研究部門 防災社会システム研究分野

## A. 基本情報・略歴

## 出身大学・大学院

No.	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	東京大学	経済学部	1983	3					博士(経済学)	2008	9

## 職歴

No.	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	1983	4	1985	7	建設省 住宅局 住宅政策課	係員
2	1985	7	1987	3	建設省 都市局 区画整理課	法規係長
3	1987	4	1988	9	建設省 建設経済局 調査情報課	情報政策係長
4	1988	10	1990	3	経済企画庁 調査局 内国調査第一課	専門調査員、主査
5	1990	4	1994	4	外務省 赴任研修、在シンガポール日本国大使館	二等書記官、一等書記官
6	1994	5	1995	7	建設省 住宅局 住宅政策課	課長補佐
7	1995	7	1997	7	建設省 建設経済局 国際課 国際企画室	課長補佐
8	1997	7	2000	4	阪神高速道路公団 計画部	企画課長
9	2000	4	2002	7	建設省 建設経済局 建設業課	建設市場アクセス推進室長
10	2002	7	2004	7	国土交通省 総合政策局 建設振興課	労働資材対策室長
11	2004	7	2005	7	内閣府政策統括官(防災担当)付	企画官
12	2005	7	2008	7	京都大学 経済研究所 先端政策分析研究センター	教授
13	2008	7	2011	11	(財)建設経済研究所	研究理事
14	2009	2	2013	3	兼務(非常勤) 東京工業大学 都市地震工学センター	特任教授
15	2011	11	2012	8	内閣府政策統括官(防災担当)付	参事官
16	2012	9	2013	9	国土交通省 国土交通政策研究所	政策研究官
17	2013	10	現在		東北大学 災害科学国際研究所	教授

## 学会活動

## 所属学会

学会名	1	2	3	4	5	6
地域安全学会		都市住宅学会	日本建築学会	日本不動産学会	地区防災計画学会	防災教育普及協会

## 学会・委員会等での役職

No.	学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
1	都市住宅学会	東北支部	支部長	20200401

## 研究分野・キーワード

専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3	専門分野 4	専門分野 5
事業継続マネジメント(BCM)	防災計画	災害ボランティア	防災法制	復興制度

## 委員会・ワーキンググループ

## 全学・他部局の委員会での委員

No.	部局名	委員会名	役職	開始年月日
1	全学	東北大学教育研究評議会	評議員	20150401
2	全学	災害対策推進室	アドバイザー	20150401
3	全学		部局評価責任者	20170401
4	全学	産学連携リエゾンネットワーク	産学連携リエゾン	20180401

## B. 研究活動

## 研究活動の概要

企業・組織の事業継続マネジメント(BCM)・防災の研究では、所内の事業継続マネジメント(BCM)連携研究センターの場を含め、研究及び普及活動を行い、新型コロナの企業アンケート調査を実施した。また、独自の中小企業向けBCP策定マニュアルを各地の講習会等で活用した。大学のBCPの研究としては、本部BCPの改善を担い、学内の防災訓練として、同感染症の蔓延下の防災訓練の指導を動画配信で行い、災害科学国際研究所のBCPの改定を行った。また、仙台で産官学による勉強会「企業・組織のBCP/防災勉強会(@仙台)」の主宰を継続し、毎月会合を開いた。学会活動は、地域安全学会、都市住宅学会を中心に行った。

研究課題

	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	2005	7	現在		事業継続マネジメント(BCM)、事業継続計画(BCP)の研究	両方
2	2005	7	現在		企業・公的組織の防災対策の研究	国内
3	2005	7	現在		災害ボランティアの研究	国内
4	2012	9	現在		防災計画、防災法制の研究	国内
5	2012	9	現在		首都直下地震(特に、帰宅困難者の一時滞在施設)、南海トラフ地震の研究	国内
6	2013	10	現在		産官学民連携による防災の研究	なし
7	2013	10	現在		大学の業務継続計画(BCP)の研究	両方
8	2014	4	現在		災害復興制度(特に、企業、住宅、まちづくりの復興)の研究	国内

論文

単著	2	筆頭共著	0	その他の共著	3	合計	5	うち	国際査読有	0	国際査読無	0	国内査読有	0	国内査読無	5
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

記述言語	区分	所外連携	国際学術誌	種別	査読	招待論文	論文題目名(原題)	著者氏名(共著者含)	論文掲載誌名(原題)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日
日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	無	いいえ	東日本大震災の地域の復旧・復興事業による水産加工業への影響－気仙沼市の被災企業のヒアリング調査を基に－	眞屋敷哲也, 丸谷浩明	地域安全学会東日本大震災特別論文集		No.9	69	72	2020
日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	無	いいえ	気仙沼市の東日本大震災からの水産加工業の復興過程に関する分析－生産工場の立地変化に着目して－	眞屋敷哲也, 丸谷浩明	地域安全学会梗概集		No.46	22	26	2020
日本語	単著	なし	いいえ	その他	無	はい	東日本大震災の被災地かさ上げ区画整理の法制的課題について	丸谷浩明	区画整理士会報		No. 206	15	18	2020
日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	無	いいえ	病院におけるBCP・BCMの実践：東日本大震災の経験をふまえて	江川新一, 佐々木宏之, 丸谷浩明	共済医報	69	4	340	346	2020
日本語	単著	なし	いいえ	その他	無	はい	東日本大震災から10年の復興を考察する	丸谷浩明	道路建設		No. 785	13	19	2021

著書(監修・編集・単著・共著)

監修編集	0	単著	2	筆頭共著	0	共著	0	合計	2	うち	国際	0	国内	2
------	---	----	---	------	---	----	---	----	---	----	----	---	----	---

記述言語	著書名および担当執筆題名	種別	発行年月日	著者・監修者氏名	区分	出版社名	所外連携	発行部数
日本語	「被災時の事業・業務の継続」(『東日本大震災からのスタート：災害を考える51のアプローチ』第17章, pp.69-72)	編集本(著者・Author)	20210311	丸谷浩明 (東北大学災害科学国際研究所)	単著	東北大学出版会		1400
日本語	「災害研究のこれから」(『東日本大震災からのスタート：災害を考える51のアプローチ』おわりに, pp.215)	編集本(著者・Author)	20210311	丸谷浩明 (東北大学災害科学国際研究所)	単著	東北大学出版会		1400

学術会議・シンポジウム等の主催・共催・運営等

合計	10件
----	-----

	国内国際	種別	主催団体名・運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場	開催都市名	開催国名	参加人数(名)	分野	担当	IRIDeSの関与	共催機関名	所外連携
					開始年月	終了年月									
1	国内	研究会	東北大学災害科学国際研究所 丸谷研究室	企業・組織のBCP/防災勉強会(@仙台)第65回、NPO法人事業継続推進機構仙台勉強会第35回	20200605	20200605	災害科学国際研究所	仙台市(WEB)	日本	15(0)	人文社会系	主宰	なし	NPO法人事業継続推進機構	国内
2	国内	研究会	東北大学災害科学国際研究所 丸谷研究室	企業・組織のBCP/防災勉強会(@仙台)第66回、NPO法人事業継続推進機構仙台勉強会第36回	20200703	20200703	災害科学国際研究所	仙台市(WEB)	日本	15(0)	人文社会系	主宰	なし	NPO法人事業継続推進機構	国内
3	国内	研究会	東北大学災害科学国際研究所 丸谷研究室	企業・組織のBCP/防災勉強会(@仙台)第67回、NPO法人事業継続推進機構仙台勉強会第37回	20200807	20200807	災害科学国際研究所	仙台市(WEB)	日本	15(0)	人文社会系	主宰	なし	NPO法人事業継続推進機構	国内
4	国内	研究会	東北大学災害科学国際研究所 丸谷研究室	企業・組織のBCP/防災勉強会(@仙台)第68回、NPO法人事業継続推進機構仙台勉強会第38回	20200904	20200904	災害科学国際研究所	仙台市(WEB)	日本	15(0)	人文社会系	主宰	なし	NPO法人事業継続推進機構	国内
5	国内	研究会	東北大学災害科学国際研究所 丸谷研究室	企業・組織のBCP/防災勉強会(@仙台)第69回、NPO法人事業継続推進機構仙台勉強会第39回	20201002	20201002	災害科学国際研究所	仙台市(WEB)	日本	15(0)	人文社会系	主宰	なし	NPO法人事業継続推進機構	国内
6	国内	研究会	東北大学災害科学国際研究所 丸谷研究室	企業・組織のBCP/防災勉強会(@仙台)第70回、NPO法人事業継続推進機構仙台勉強会第40回	20201106	20201106	災害科学国際研究所	仙台市(WEB)	日本	15(0)	人文社会系	主宰	なし	NPO法人事業継続推進機構	国内

7	国内	研究会	東北大学災害科学国際研究所 丸谷研究室	企業・組織のBCP/防災勉強会 (@仙台) 第71回、NPO法人事業継続推進機構仙台勉強会第41回	20201204	20201204	災害科学国際研究所	仙台市 (WEB)	日本	15 (0)	人文社会系	主宰	なし	NPO法人 事業継続推進機構	国内
8	国内	研究会	東北大学災害科学国際研究所 丸谷研究室	企業・組織のBCP/防災勉強会 (@仙台) 第72回、NPO法人事業継続推進機構仙台勉強会第42回	20210108	20210108	災害科学国際研究所	仙台市 (WEB)	日本	15 (0)	人文社会系	主宰	なし	NPO法人 事業継続推進機構	国内
9	国内	研究会	東北大学災害科学国際研究所 丸谷研究室	企業・組織のBCP/防災勉強会 (@仙台) 第74回、NPO法人事業継続推進機構仙台勉強会第43回	20210205	20210205	災害科学国際研究所	仙台市 (WEB)	日本	15 (0)	人文社会系	主宰	なし	NPO法人 事業継続推進機構	国内
10	国内	研究会	東北大学災害科学国際研究所 丸谷研究室	企業・組織のBCP/防災勉強会 (@仙台) 第74回、NPO法人事業継続推進機構仙台勉強会第44回	20210305	20210305	災害科学国際研究所	仙台市 (WEB)	日本	15 (0)	人文社会系	主宰	なし	NPO法人 事業継続推進機構	国内

C. 教育活動

教育活動の概要

全学教育での「経済と社会:東日本大震災等の災害と社会の対応」の授業、兼務先の法学研究科公共政策大学院で、「防災法」、「防災政策論演習」の授業等を行った。特に、全学教育の授業は220名の履修を得られ、出席率も高かった。演習では少人数であったため、質の高い議論が行えたと考えている。

担当授業科目(他大学を含む)

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	Semester・学期	コマ数 90分/1コマ
1	防災政策論演	東北大学	法学研究科	公共政策専攻		後期	15
2	経済と社会(東日本大震災等の災害と社会の対応)	東北大学	全学		1, 2	後期	15
3	防災法	東北大学	法学研究科	公共政策専攻		前期	8
4	公共政策入門	東北大学	全学		1	後期	1

D. 社会活動

社会活動の概要

当研究所主催のシンポジウム2件の企画運営を務めた。また、事業継続計画や防災の講演を年間18回行った。政府・地方自治体の公的委員会の委員を11件務めた。2件のNPOの役員を務め、特にNPO事業継続推進機構の理事長を務め、セミナー等の実施を推進した。

一般向けセミナー・講演等の主催・共催・運営等(研究活動以外)

合計 2 件

	国内 国際	主催団体名・ 運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場名	開催 都市名	開催 国名	担当	参加 人数	IRIDeSの 関与	講演会・セミナー等
				開始年月日	終了年月日							
1	国内	災害科学国際研究所	WEBシンポジウム「災害研の減災デザイン・実装の成果と活動の展望」	20201130	20201130	オンライン	仙台	日本	事務局代表	120	IRIDeS主催・ 共同主催	シンポジウム
2	国内	災害科学国際研究所	シンポジウム「東日本大震災から10年とこれから」	20200307	20200307	仙台国際 センター展 示棟、オン ライン併用	仙台	日本	事務局代表	194	IRIDeS主催・ 共同主催	シンポジウム

講演・講義等(研究活動以外)

合計 18 件

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	連携	主催者	会場名	開催 都市名	開催 国名	参加人数
				開始年月日	終了年月日							
1	セミナー	BCAO新型コロナウイルス意見交換会	講演	20200408	20200408	新型コロナウイルス感染症への事業継続面での対応	企業	NPO法人 事業継続推進機構	オンライン	東京都中央区	日本	120
2	セミナー	BCAO2020年6月度月例オープン勉強会	招待講演	20200630	20200630	新型コロナウイルス感染症を踏まえたBCPの方向性について	企業	NPO法人 事業継続推進機構	オンライン	東京都中央区	日本	130
3	セミナー	東北大学卓越大学院セミナーシリーズ第2回災害としての大規模感染症	招待講演	20200716	20200716	感染症も含めたBCP作成	なし	東北大学	オンライン	仙台市	日本	70
4	講演会	みやぎ生協 協定自治体との懇談会	招待講演	20200804	20200804	風水害への対応の留意点	企業	みやぎ生活協同組合	みやぎ生活協同組合本部	仙台市	日本	35
5	セミナー	静岡県 令和2年度 危機管理(BCP)研修	招待講演	20200828	20200828	行政の発災時の対応と業務継続計画	行政	静岡県庁	静岡県用宗研修所	静岡市	日本	50
6	セミナー	2020年度危機管理士講座2級(自然災害)	招待講演	20190824	20190824	業務継続計画(BCP)	なし	NPO日本危機管理士機構	オンライン	東京都千代田区	日本	40

7	講演会	東北生産性本部労使セミナー	招待講演	20200903	20200903	激化する自然災害に対して企業はいかに対応すべきか	企業	東北生産性本部	東北生産性本部	仙台市	日本	30
8	講演会	AZ-COMネット第11回パートナー企業研修会	招待講演	20201006	20201006	運輸関連産業の防災連携と事業継続のポイント	企業	AZ-COMネット	ベルサール御成門	東京都港区	日本	200
9	その他	人事院令和2年度初任行政研修	講義	20201019	20201022	防災政策 基調講義	行政	人事院	人事院	入間市	日本	60
10	講演会	YMC郡山セミナー	招待講演	20201102	20201102	自然災害、感染症に備えるBCP、防災対策	行政	YMC(福島民友新聞ほか)	ホテルハマツ	郡山市	日本	100
11	セミナー	BCAO 主任・准主任継続教育	招待講演	20201215	20201215	政府自治体のBCP・防災に関する動向について	企業	NPO法人 事業継続推進機構	オンライン	東京都中央区	日本	90
12	セミナー	港区芝地区総合支所主催事業者向け防災セミナー	講義、ワークショップ指導	20201216	20201218	BCP策定の考え方	行政	港区芝地区総合支所	オンライン	東京都港区	日本	110
13	セミナー	港区芝地区総合支所主催事業者向け防災セミナー	講義、ワークショップ指導	20210120	20210120	BCPの見直しの考え方	行政	港区芝地区総合支所	オンライン	東京都港区	日本	40
14	講演会	徳島大学BCP研究部会研究会	招待講演	20210122	20210122	今だからこそ知っておきたい自治体BCPの現状と課題	企業	徳島大学BCP研究部会	オンライン	徳島県徳島市	日本	50
15	講演会	日本建設業団体連合会BCP部会講演会	招待講演	20210222	20210222	感染症を含む多様な危機事象を対象としたBCPの考え方について	企業	日本建設業団体連合会	オンライン	東京都中央区	日本	50
16	セミナー	仙台市防災安全協会青葉地区令和2年度防災研修会	招待講演	20210224	20210224	企業の自然災害と感染症への備えと企業の事業継続計画(BCP)	企業	仙台市防災安全協会青葉地区	オンライン	仙台市	日本	30
17	セミナー	仙台市令和2年度障害福祉サービス事業者向けBCP研修	招待講演	20210303	20210303	新型コロナウイルス等発生時におけるBCPについて	企業	仙台市	オンライン	仙台市	日本	150
18	講演会	仙台国際空港講演	招待講演	20210304	20210304	BCPを推進するためには	企業	仙台国際空港(株)	仙台国際空港会議室	仙台市	日本	20

自治体・民間等での委員

	区分	組織・団体名	委員会名	委員・役職名	開始年月日
1	国・政府	内閣府	政府業務継続に関する評価等有識者会議	委員	20140000
2	国・政府	内閣府	「防災スペシャリスト養成研修」企画検討会	委員、「災害の備え」コースコーディネーター	20140000
3	国・政府	内閣府	日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震対策検討ワーキンググループ	委員	20190100
4	国・政府	国土交通省	企業等の東京一帯集中に関する懇談会	委員	20191209
5	国・政府	内閣官房地域活性化統合事務局	都市再生の推進に係る有識者ボード 防災WG	委員	20110000
6	地方自治体	京都府		危機管理アドバイザー	20090000
7	地方自治体	宮城県		宮城県国土強靱化地域計画アドバイザー	20201100
8	地方自治体	仙台市		仙台市国土強靱化地域計画アドバイザー	20190900
9	地方自治体	岩沼市(宮城県)	防災会議	委員	20180817
10	地方自治体	気仙沼市(宮城県)		新庁舎建設基本設計アドバイザー	20200400
11	地方自治体	南相馬市(福島県)	南相馬市職員の公務死亡事案に関する調査委員会	委員	20200302
12	民間・NPO	NPO法人 事業継続推進機構		理事長	20200500
13	民間・NPO	一般社団法人 福祉防災コミュニティ協会		副理事長	20160300



## 佐藤 翔輔 准教授

SATO Shosuke

人間・社会対応研究部門 防災社会システム研究分野

## A. 基本情報・略歴

## 出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	長岡工業高等専門学校専攻科	環境都市工学専攻	2005	3	京都大学大学院	情報学研究所	2011	3	博士(情報学)	2011	3

## 職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	2009	4	2011	3	日本学術振興会(京都大学防災研究所巨大災害研究センター付)	特別研究員(DC2)
2	2011	4	2012	3	東北大学 大学院工学研究科 附属災害制御研究センター	助教
3	2012	4	2017	10	東北大学 災害科学国際研究所	助教

## 学会活動

## 所属学会

	学会名 1	2	3	4	5	6
	地域安全学会	日本自然災害学会	日本災害情報学会	日本災害復興学会	土木学会	日本建築学会

## 学会・委員会等での役職

	学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
1	地域安全学会	社会に役立つ防災情報システム研究小委員会	委員	20120000
2	地域安全学会	安全・安心若手研究会	世話人	20160000
3	地域安全学会	東日本大震災特別委員会	委員	20160400
4	地域安全学会	学術委員会	学術委員	20180300
5	日本災害情報学会	編集委員会	編集委員(委員→幹事)	20170900
6	日本災害情報学会	企画委員会	企画委員	20190400
7	電子情報通信学会	安全・安心な生活のための情報通信システム時限研究専門委員会	幹事補佐→専門委員	20130000
8	電子情報通信学会	電子情報通信学会論文誌安全・安心な生活のための情報通信システム特集号	編集委員	20140000
9	Journal of Disaster Research	Editorial board	Editorial board member	20200400

## 研究分野・キーワード

	専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3	専門分野 4	専門分野 5
	災害伝承学	災害情報学	社会システム工学・安全システム	自然災害科学・防災学	復旧・復興工学

## B. 研究活動

## 研究活動の概要

1) 災害伝承に関する研究として、災害の記憶の場、伝承メディア(津波碑、地名等)が減災に及ぼす効果に関する研究を行っている。2) 災害情報に関する研究として、災害アーカイブやテキストデータを始めとするビッグデータを応用した災害対応支援システムに関する研究を行っている。3) 災害復興に関する研究として、東日本大震災における復興計画・復興事業に関する体系的な調査、被災者の生活再建に関する研究を行っている。

## 研究課題

	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	2002	4	2005	3	震災時の生活支障と収容避難所需要に関する研究	国内
2	2005	4	現在		災害の言語資料の可視化・活用に関する研究	国内
3	2011	4	現在		災害伝承の実態把握とその効果に関する研究	国内
4	2011	4	現在		災害発生時の情報リテラシーに関する研究	国内
5	2011	4	現在		災害アーカイブ学の構築(みちのく震録伝)の開発	国内
6	2011	4	現在		被災自治体の災害対応過程の解明	国内
7	2011	4	現在		マスメディアが災害対応に及ぼす影響に関する研究	国内
8	2012	4	現在		津波避難訓練手法の開発	国内
9	2012	4	現在		災害時の「生きる力」の解明	国内
10	2012	4	現在		復興計画・復興事業に関する研究、被災者の生活再建に関する研究	国内
11	2012	4	現在		防災・減災啓発ツールの開発、ブランディング戦略	国内

論文

単著	4	筆頭共著	5	その他の共著	25	合計	34	うち	国際査読有	6	国際査読無	0	国内査読有	12	国内査読無	16
----	---	------	---	--------	----	----	----	----	-------	---	-------	---	-------	----	-------	----

記述言語	区分	所外連携	国際学術誌	種別	査読	招待論文	論文題目名(原語)	著者氏名(共著者含)	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日
英語	筆頭共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Learning from the Training for the Successors and Storytellers the Legacy of Atomic Bombing in Hiroshima City: Lessons for Disaster Storytellers,	Shosuke Sato, Masahiro Iwasaki	Journal of Disaster Research	16	2	216	223	20210200
英語	筆頭共著	なし	はい	学術雑誌	有	いいえ	Evaluation of Listeners on the Storytelling of Disaster Response Experience: The Case of Service Continuity at Miyagi Prefectural Office after Experiencing the Great East Japan Earthquake	Shosuke Sato, Fumihiko Imamura	Journal of Disaster Research	16	2	263	273	20210200
日本語	単著	なし	いいえ	学術雑誌	有	いいえ	中学生が行う被災体験の聞き取り学習に関する分析: 階上中学校における東日本大震災を対象にした災害伝承の学習事例	佐藤翔輔	地域安全学会論文集		37	79	87	20201100
日本語	筆頭共著	なし	いいえ	学術雑誌	有	いいえ	極近地津波における避難行動の実態調査と分析:2019年6月山形県沖の地震津波の例	佐藤翔輔, 今村文彦	土木学会論文集B2(海岸工学)	76	2	1_1309	1_1314	20201100
英語	筆頭共著	なし	はい	国際会議 Proceedings	有	いいえ	Tsunami Disaster Tradition before the 2011 Great East Japan Earthquake and the Effectiveness of Casualty Reduction,	Shosuke Sato, Fumihiko Imamura	Proceedings of 17th. World Conference on Earthquake Engineering			7		20200900
日本語	単著	なし	いいえ	学術雑誌	有	いいえ	1967年羽越水害の伝承手法としての「えごせきかわ大したもん蛇まつり」の成立・継続・効果に関する調査・考察	佐藤翔輔	自然災害科学	38	4	449	467	20200800
日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	有	いいえ	地方自治体庁舎の立地を考慮した相対的な津波浸水リスクの評価と2011年東日本大震災後の代替拠点空間配置の事例分析	花田悠磨, 村屋隆, 寅屋敷哲也, 杉安和也, 佐藤翔輔	地域安全学会論文集		38	1	10	20210300
英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Revealing complex tsunami evacuation process patterns induced by social interactions: A case study in Ishinomaki	Fumiyasu Makinoshima, Yusuke Oishi, Masaharu Nakagawa, Shosuke Sato, Fumihiko Imamura	International Journal of Disaster Risk Reduction	58		9		20210100
英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Ten years after the 2011 Tohoku-oki earthquake and tsunami: Geological effects and implications for disaster policy changes	Kazuhisa Goto, Takashi Ishizawa, Yuichi Ebina, Fumihiko Imamura, Shosuke Sato, Keiko Udo	Earth-Science Reviews	212		26		20210100
日本語	共著	なし	いいえ	学術雑誌	有	いいえ	思考変化と移動経路を組み合わせた津波避難行動過程の分析: 東日本大震災大震災発生時の気仙沼市階上地区の事例	新家吉奈, 佐藤翔輔, 今村文彦	地域安全学会論文集		37	339	349	20201100
日本語	共著	なし	いいえ	学術雑誌	有	いいえ	発災から50年経過した水害被災地の記憶と備えの実態分析: 1967年羽越水害をまつりて伝承する新潟県開川村	門倉七海, 佐藤翔輔, 今村文彦	地域安全学会論文集		37	117	123	20201100
日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	有	いいえ	東日本大震災の教訓は伝わっているのかー東北大学MOOC受講者を事例対象にした評価の試みー	渡邊勇, 佐藤翔輔, 八木秀文, 今村文彦	地域安全学会論文集		37	197	207	20201100
日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	有	いいえ	東日本大震災アーカイブの活用実態に関する調査分析	池田真幸, 佐藤翔輔	地域安全学会論文集		37	219	226	20201100
日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	有	いいえ	被災自治体の災害対応の課題・教訓を継承するための記録の作成及び訓練・研修の実施に関する実態把握	秋元康男, 佐藤翔輔, 紅谷昇平	地域安全学会論文集		37	279	288	20201100
日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	有	いいえ	固定効果モデルを用いた生活復興研究ー2014・2015・2016・2017年名取市現況調査パネルデータを用いてー	松川吉寧, 川見文紀, 佐藤翔輔, 立木茂雄	地域安全学会論文集		37	401	411	20201100
日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	有	いいえ	被災前の世帯の社会的脆弱性がすまいの再建に与える影響	川見文紀, 松川吉寧, 佐藤翔輔, 立木茂雄	地域安全学会論文集		37	421	428	20201100
英語	共著	両方	はい	学術雑誌	有	いいえ	Experiences of perinatal women and public healthcare providers in a community affected by the Great East Japan Earthquake and Tsunami: Concerns that must be considered for the mental healthcare of perinatal women in postdisaster settings	Natsuko Kobayashi, Harumi Nemoto, Moc Seto, Shosuke Sato, Saya Kikuchi, Nami Honda, Tomomi Suzuki, Kiyoshi Sato, Junichi Sugawara, Kiyoshi Ito, Ryoma Kayano, Norio Ozaki, Charles Beadling, Ilan Kelman, Fumihiko Imamura, Hiroo Matsuoka, Hiroaki Tomita	International Journal of Disaster Risk Reduction	51		8		20201200
日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	有	いいえ	高知県における津波碑の分類体系の試みと建立実態の評価分析	田畑佳祐, 佐藤翔輔, 谷川亘, 今村文彦	土木学会論文集B2(海岸工学)	76	2	1_1261	1_1266	20201100
日本語	単著	なし	いいえ	その他	無	いいえ	令和元年東日本台風と令和2年7月豪雨における「犠牲者ゼロ」地域の共通点と課題	佐藤翔輔	第39回日本自然災害学会年次学術講演会講演概要集			85	86	20210300

20	日本語	単著	なし	いいえ	学術雑誌	無	いいえ	東日本大震災の被災地における震災語り部・被災地が たの年代・性別・空間分布	佐藤翔輔	地域安全学会東日本大震災 特別論文集	9	73	76	20200700	
21	日本語	筆頭共著	なし	いいえ	学術雑誌	無	いいえ	広島市における被爆体験伝承者・被爆体験証言者養成 研修の実態把握：災害体験伝承者の養成を見据えて	佐藤翔輔, 岩崎雅宏	地域安全学会概観集	46	61	64	20200500	
22	日本語	共著	なし	いいえ	その他	無	いいえ	中学生にもできる津波避難者の思考・移動変化の調査 手法の開発と実践：気仙沼市立鹿折中学校防災学習の 事例	新家杏奈, 佐藤翔輔, 今村文 彦	第39回日本自然災害学会年 次学術講演会講演概要集		19	20	20210300	
23	日本語	共著	なし	いいえ	その他	無	いいえ	東日本大震災の教訓の理解が防災行動に及ぼす効果 の定量評価	渡邊勇, 佐藤翔輔, 今村文彦	第39回日本自然災害学会年 次学術講演会講演概要集		1	2	20210300	
24	日本語	共著	国内	いいえ	その他	無	いいえ	地域コミュニティが関わる河川維持管理の事例分析－ 宮城県小西川を対象にした質的調査から－	市川健, 那須野新, 天谷香織, 檜館晋, 佐藤翔輔, 橋本雅和, 今村文彦	第39回日本自然災害学会年 次学術講演会講演概要集		101	102	20210300	
25	日本語	共著	なし	いいえ	その他	無	いいえ	地形的リスクが及ぼす災害の記憶や備えへの影響－羽 越水害経験した新潟県関川村－	門倉七海, 佐藤翔輔, 今村文 彦	令和2年度土木学会東北支 部技術研究発表会講演概要 集		2		20210300	
26	日本語	共著	なし	いいえ	その他	無	いいえ	ミリング行動に着目した避難行動特性の解明：名取市 閑上地区の事例	川合将矢, 新家杏奈, 佐藤翔 輔, 今村文彦	令和2年度土木学会東北支 部技術研究発表会講演概要 集		2		20210300	
27	日本語	共著	なし	いいえ	その他	無	いいえ	避難者の歩行速度を考慮した避難誘導に関する検討	小林直輝, 山崎達也, 佐藤翔 輔	信学技報	120	347	31	36	20210100
28	日本語	共著	国内	いいえ	その他	無	いいえ	東日本大震災以降の災害対応における中間支援組織 の役割	中川政治, 佐藤翔輔	日本NPO学会第22回年次大 会報告概要集					20201100
29	日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	無	いいえ	東日本大震災にみられた個々の教訓に対する理解度 特性－東北大学MOOC受講者を対象にした事例研究－	渡邊勇, 佐藤翔輔, 今村文彦	地域安全学会東日本大震災 特別論文集	9	81	84	20200700	
30	日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	無	いいえ	自治体職員が行う災害エスノグラフィー調査・編集・活 用のプロセスの確立：仙台市役所職員による実践を踏 まえて	柳谷理紗, 鈴木由美, 佐藤翔 輔, 田中聡, 重川希志依	地域安全学会東日本大震災 特別論文集	9	31	34	20200700	
31	日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	無	いいえ	みんなで伝えていけなかなーいーゆりあけかもめの活 動と今後の展開－	重川希志依, 佐竹悦子, 佐藤 翔輔	地域安全学会東日本大震災 特別論文集	9	77	80	20200700	
32	日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	無	いいえ	東日本大震災被災地の生活復興感パネル分析－名取 市現況調査4年分のデータをもとに－	松川吉寧, 川見文紀, 佐藤翔 輔, 立木茂雄	地域安全学会東日本大震災 特別論文集	9	47	52	20200700	
33	日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	無	いいえ	適応的局所避難経路の提供による避難誘導	小林直輝, 山崎達也, 佐藤翔 輔	信学技報	120	202	39	44	20201000
34	日本語	共著	国内	いいえ	その他	無	いいえ	避難行動における愛他性心理要因の影響	山崎達也, 佐藤翔輔	2020年信学会通信ソサイエ ティ大会講演集		A-18-4	2		20200900

著書(監修・編集・単著・共著)

監修 編集	0	単著	2	筆頭 共著	1	共著	2	合計	5	うち	国際	0	国内	5
----------	---	----	---	----------	---	----	---	----	---	----	----	---	----	---

記述 言語	著書名および担当執筆題名	種別	発行年月日	著者・監修者氏名	区分	出版社名	所外 連携	発行 部数
日本語	「記憶伝承の科学」(『東日本大震災からのスタート：災害を考える51のアプリ ーチ』第32章, pp.129-132)	編集本(著 者・ Author)	20210311	佐藤翔輔 (東北大学災害科学国際研究所)	単著	東北大学出版会	なし	1400
日本語	いま, 東日本大震災の災害伝承は－岩手・宮城・福島におけるプロジェクト の実際(震災学, Vol. 15)	編集本(著 者・ Author)	20210326	佐藤翔輔 (東北大学災害科学国際研究所)	単著	東北学院大学/荒巖夷	なし	
日本語	津波避難の実態と教訓(総合検証 東日本大震災からの復興)	編集本(著 者・ Author)	20210210	佐藤翔輔, 今村文彦	共著	岩波書店	なし	
日本語	震災の記録・記憶をいかに伝承するか－アナログ・デジタルアーカイブの融 合(総合検証 東日本大震災からの復興)	編集本(著 者・ Author)	20210210	今村文彦, 佐藤翔輔	共著	岩波書店	なし	
日本語	災害エスノグラフィーシリーズ19 東日本大震災 仙台市生活再建支援員の 記録 シルバー生活再建支援員の活動	編集本(著 者・ Author)	20201000	重川希志依, 田中聡, 河本尋子, 佐藤翔 輔	共著	常葉大学附属社会災害研究セ ンター	なし	

総説・解説(大学紀要・学術雑誌・学会誌・商業雑誌など)

単著	19	筆頭共著	0	その他の共著	0	合計	19	うち		国際査読有	0	国際査読無	0	国内査読有	1	国内査読無	18
記述言語	題目名(原語)		種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	区分	所外連携				
1	日本語	大震災の記録・記憶をどう伝承しているのか(特集・東日本大震災10年―復興の到達点と課題)	その他	無	はい	月刊 ガバナンス	2021 3	23	25	20210301	佐藤翔輔	単著	なし				
2	日本語	災害の記憶を伝える―東日本大震災の災害伝承(特集・東日本大震災の10年)	その他	無	はい	都市問題	112 3	23	25	20210301	佐藤翔輔	単著	なし				
3	日本語	知ろう! 備えよう! 防災対策 第12回 この3月で東日本大震災10年	その他	無	はい	健康づくり	515	32		20210301	佐藤翔輔	単著	なし				
4	日本語	知ろう! 備えよう! 防災対策 第11回 災害時の頼みの綱はラジオ	その他	無	はい	健康づくり	514	32		20210201	佐藤翔輔	単著	なし				
5	日本語	山形県内での令和2年7月豪雨における避難対応―最上川氾濫域における犠牲者ゼロの事例(特集・令和2年7月豪雨)	その他	無	はい	消防科学		143		2021010	佐藤翔輔	単著	なし				
6	日本語	知ろう! 備えよう! 防災対策 第10回 非常持出袋(防災リュック)の中身を考える	その他	無	はい	健康づくり	513	32		20210101	佐藤翔輔	単著	なし				
7	日本語	東日本大震災から10年、見えてきた「これから」の防災教育	その他	無	はい	月刊社会教育	776	3	10	20201217	佐藤翔輔	単著	なし				
8	日本語	「組織」としての立場からみた災害時のSNSの有効性と限界	学術雑誌	無	はい	土木学会誌	105 12	40	41	20201214	佐藤翔輔	単著	なし				
9	日本語	知ろう! 備えよう! 防災対策 第9回 ふだん使いの備蓄:ローリングストック法	その他	無	はい	健康づくり	512	32		20201201	佐藤翔輔	単著	なし				
10	日本語	「水害からの犠牲者ゼロ」の実例から学ぶ避難対応の教訓と課題	学術雑誌	無	はい	地質と調査	156	13	18	20201120	佐藤翔輔	単著	なし				
11	日本語	知ろう! 備えよう! 防災対策 第8回 新しい地図記号「自然災害伝承碑」	その他	無	はい	健康づくり	511	32		20201101	佐藤翔輔	単著	なし				
12	日本語	災害が起きたときのSNSとの「付き合い(付き合い合わない方)」	学術雑誌	有	はい	公衆衛生	84 10	662	668	20201015	佐藤翔輔	単著	なし				
13	日本語	知ろう! 備えよう! 防災対策 第7回 台風からの避難をマイ・タイムラインで考えよう	その他	無	はい	健康づくり	510	32		20201001	佐藤翔輔	単著	なし				
14	日本語	知ろう! 備えよう! 防災対策 第6回 いま改めて考えたい豪雨・台風からの避難	その他	無	はい	健康づくり	509	32		20200901	佐藤翔輔	単著	なし				
15	日本語	知ろう! 備えよう! 防災対策 第5回 瞬発力がいのちの「地震(津波)」からの避難	その他	無	はい	健康づくり	508	32		20200801	佐藤翔輔	単著	なし				
16	日本語	知ろう! 備えよう! 防災対策 第4回 わかりづらい日本語「避難」	その他	無	はい	健康づくり	507	32		20200701	佐藤翔輔	単著	なし				
17	日本語	知ろう! 備えよう! 防災対策 第3回 コロナ禍での避難行動	その他	無	はい	健康づくり	506	32		20200601	佐藤翔輔	単著	なし				
18	日本語	知ろう! 備えよう! 防災対策 第2回 見るべきハザードマップは1枚だけじゃない	その他	無	はい	健康づくり	505	32		20200501	佐藤翔輔	単著	なし				
19	日本語	知ろう! 備えよう! 防災対策 第1回 意外と知らない飲水の備蓄	その他	無	はい	健康づくり	504	32		20200401	佐藤翔輔	単著	なし				

学会発表

単名	3	筆頭連名	2	その他の連名	10	合計	15							
国内	国際	会議名称	会議のチェア	区分	招待	講演・発表の形態	会場名	開催都市名	開催国名	開催期間		発表年月日	題目名(原語)	連名者名(発表者に下線)
										開始年月	終了年月			
1	国内	第47回(2020年度)地域安全学会研究発表会(秋季)	稲垣景子	単名	いいえ	口頭(一般)	オンライン	オンライン	日本	20201030	20201101	20201101	中学生が行う被災体験の聞き取り学習に関する分析: 随上中学校における東日本大震災を対象とした災害伝承の学習事例	佐藤翔輔
2	国内	第67回海岸工学講演会	西畑剛	筆頭連名	いいえ	口頭(一般)	オンライン	オンライン	日本	20201110	20201113	20201111	極近地津波における避難行動の実態調査と分析: 2019年6月山形県沖の地震津波の例	佐藤翔輔, 今村文彦
3	国内	第39回日本自然災害学会年次学術講演会	佐藤翔輔	単名	いいえ	口頭(一般)	オンライン	オンライン	日本	20210319	20210320	20210320	令和元年東日本台風と令和2年7月豪雨における「犠牲者ゼロ」地域の共通点と課題	佐藤翔輔
4	国内	東日本大震災連続ワークショップ2020オンライン研究報告会		単名	いいえ	その他	オンライン	オンライン	日本	20200703	20200703	20200703	東日本大震災の被災地における震災語り部・被災地ガイドの年代・性別・空間分布	佐藤翔輔

5	国内	第47回(2020年度)地域安全学会研究発表会(秋季)	佐伯琢磨	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	オンライン	オンライン	日本	20201030	20201101	20201031	東日本大震災アーカイブの活用実態に関する調査分析	池田真幸, 佐藤翔輔
6	国内	第47回(2020年度)地域安全学会研究発表会(秋季)	佐伯琢磨	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	オンライン	オンライン	日本	20201030	20201101	20201031	被災自治体の災害対応の課題・教訓を継承するための記録の作成及び訓練・研修の実施に関する実態把握	秋元康男, 佐藤翔輔, 紅谷昇平
7	国内	第47回(2020年度)地域安全学会研究発表会(秋季)	佐藤翔輔	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	オンライン	オンライン	日本	20201030	20201101	20201031	固定効果モデルを用いた生活復興感研究—2014・2015・2016・2017年名取市現況調査パネルデータを用いて—	松川杏壺, 川見文紀, 佐藤翔輔, 立木茂雄
8	国内	第47回(2020年度)地域安全学会研究発表会(秋季)	稲垣景子	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	オンライン	オンライン	日本	20201030	20201101	20201101	被災前の世帯の社会的脆弱性がすまいの再建に与える影響	川見文紀, 松川杏壺, 佐藤翔輔, 立木茂雄
9	国内	電子情報通信学会安全・安心な生活とICT研究会(ICTSSL)	田村裕	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	オンライン	オンライン	日本	20210128	20210129	20210128	避難者の歩行速度を考慮した避難誘導に関する検討	小林直輝, 山崎達也, 佐藤翔輔
10	国内	日本NPO学会第22会年次大会		その他の連名	いいえ	口頭(一般)	オンライン	オンライン	日本	20201121	20201122	20201122	東日本大震災以降の災害対応における中間支援組織の役割	中川政治, 佐藤翔輔
11	国内	2020年信学会通信ソサイエティ大会	大塚晃	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	オンライン	オンライン	日本	20200915	20200918	20200917	避難行動における愛他性心理要因の影響	山崎達也, 佐藤翔輔
12	国内	東日本大震災連続ワークショップ2020 オンライン研究報告会		その他の連名	いいえ	その他	オンライン	オンライン	日本	20200703	20200703	20200703	自治体職員が行う災害エスノグラフィー調査・編集・活用プロセスの確立:仙台市役所職員による実践を踏まえて	植谷理紗, 鈴木由美, 佐藤翔輔, 田中聡, 重川希志依
13	国内	東日本大震災連続ワークショップ2020 オンライン研究報告会		その他の連名	いいえ	その他	オンライン	オンライン	日本	20200703	20200703	20200703	みんなで伝えていかなきゃいけない—ゆりあげかもめの活動と今後の展開—	重川希志依, 佐竹悦子, 佐藤翔輔
14	国内	東日本大震災連続ワークショップ2020 オンライン研究報告会	生田英輔	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	オンライン	オンライン	日本	20200703	20200703	20200703	みんなで伝えていかなきゃいけない—ゆりあげかもめの活動と今後の展開—	松川杏壺, 川見文紀, 佐藤翔輔, 立木茂雄
15	国内	地域安全学会オンライン研究報告会(春季)	辻岡綾	筆頭連名	いいえ	口頭(一般)	オンライン	オンライン	日本	20200523	20200523	20200523	広島市における被爆体験伝承者・被爆体験証言者養成研修の実態把握:災害体験伝承者の養成を見据えて	佐藤翔輔, 岩崎雅宏

学術会議・シンポジウム等の主催・共催・運営等

合計 26 件

	国内 国際	種別	主催団体名・運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場	開催都市名	開催国名	参加人数 (%外国人)	分野	担当	IRIDeSの 関与	共催機関名	所外 連携
					開始年月	終了年月									
1	国内	シンポジウム	宮城県	令和2年度みやぎ地域復興ミーティング	20210316	20210316	仙台国際センター	仙台	日本	100	人文社会系	コーディネーター, 企画・運営	なし		
2	国内	ワークショップ	気仙沼市, 東北大学災害科学国際研究所	「震災から10年と開館から2年を振り返る・活かす」, 10YEARS気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館 3.11メモリアルイベント〜特別フォーラム〜	20210313	20210313	気仙沼市 東日本大震災遺構・伝承館	気仙沼	日本	40	人文社会系	ファシリテーター, 企画・運営	IRIDeS主催・共同主催	気仙沼市, 東北大学災害科学国際研究所	国内
3	国内	シンポジウム	仙台市, 東北大学災害科学国際研究所	仙台市防災未来フォーラム2021「復興施策の評価と次の10年への展望」, セッション2「伝承・経験を次の世代へ」	20210306	20210306	仙台国際センター	仙台	日本	300	人文社会系	ファシリテーター, 企画・運営	IRIDeS主催・共同主催	仙台市, 東北大学災害科学国際研究所	国内
4	国内	シンポジウム	仙台市若林区	「若林区防災シンポジウム」(令和2年度震災体験を風化させない防災対策事業)	20210228	20210228	若林区文化センター	仙台	日本	80	人文社会系	モデレーター, 企画・運営	なし		
5	国内	ワークショップ	宮城県	みやぎ地域復興ミーティング座談会(まちづくり・コミュニティ)	20210212	20210212	東北大学災害科学国際研究所	仙台	日本	20	人文社会系	コーディネーター, 企画・運営	なし		
6	国内	ワークショップ	宮城県	みやぎ地域復興ミーティング座談会(産業・観光振興・環境(交流人口拡大))	20210212	20210212	東北大学災害科学国際研究所	仙台	日本	20	人文社会系	コーディネーター, 企画・運営	なし		
7	国内	ワークショップ	宮城県	みやぎ地域復興ミーティング座談会(震災伝承・防災教育)	20210211	20210211	東北大学災害科学国際研究所	仙台	日本	20	人文社会系	コーディネーター, 企画・運営	なし		
8	国内	ワークショップ	宮城県	みやぎ地域復興ミーティング座談会(被災者生活支援)	20210211	20210211	東北大学災害科学国際研究所	仙台	日本	20	人文社会系	コーディネーター, 企画・運営	なし		
9	国内	講演会	東北大学災害科学国際研究所, 宮城県	宮城県自主防災組織育成・活性化支援モデル事業成果報告会	20210210	20210210	東北大学災害科学国際研究所	仙台	日本	60	人文社会系	進行補助	IRIDeS主催・共同主催	東北大学災害科学国際研究所, 宮城県	なし
10	国内	ワークショップ	宮城県	みやぎ地域復興ミーティング座談会(子ども・母親支援)	20210205	20210205	東北大学災害科学国際研究所	仙台	日本	20	人文社会系	コーディネーター, 企画・運営	なし		
11	国内	ワークショップ	気仙沼市, 東北大学災害科学国際研究所	第6回 気仙沼市防災フォーラム	20210126	20210126	オンライン	気仙沼	日本	120	人文社会系	ファシリテーター, 企画・運営	IRIDeS主催・共同主催	気仙沼市, 東北大学災害科学国際研究所	国内

12	国内	ワークショップ	みやぎ防災・減災円卓会議	震災10周年企画 プロジェクト2・あの日とその後、いまを徹底して語り合う場とことんトーク311「あの日から未来へ」	20210123	20210124	NHK仙台拠点放送局	仙台	日本	40	人文社会系	ファシリテーター、企画・運営	なし		
13	国内	ワークショップ	宮城県	ふりかえりワーク、宮城県震災伝承活動推進研修・第3回 つばめの杜 ひだまりホール	20210118	20210118	つばめの杜 ひだまりホール	山元	日本	80	人文社会系	ファシリテーター、企画・運営	なし		
14	国内	その他	東北大学災害科学国際研究所、読売新聞	東北大学・読売新聞共同プロジェクト市民のためのサイエンス講座2020	20201211	20210411	オンライン	仙台	日本		人文社会系	企画・運営	IRIDeS主催・共同主催	東北大学災害科学国際研究所、読売新聞	
15	国内	ワークショップ	宮城県	ふりかえりワーク、宮城県震災伝承活動推進研修・第2回 栗駒山嶺ジオパークビジターセンター	20201214	20201214	栗駒山嶺ジオパークビジターセンター	栗原	日本	30	人文社会系	ファシリテーター、企画・運営	なし		
16	国内	ワークショップ	宮城県	ふりかえりワーク、宮城県震災伝承活動推進研修・第1回(第2部)南三陸まなびの里いりやど	20201213	20201213	南三陸まなびの里いりやど	南三陸	日本	20	人文社会系	ファシリテーター、企画・運営	なし		
17	国内	ワークショップ	宮城県	ふりかえりワーク、宮城県震災伝承活動推進研修・第1回(第1部)気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館	20201213	20201213	気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館	気仙沼	日本	50	人文社会系	ファシリテーター、企画・運営	なし		
18	国内	ワークショップ	3.11メモリアルネットワーク	ふりかえりワーク、第4回3.11伝承力アップ講座2020	20201201	20201201	日本たばこ産業株式会社東北支社	仙台	日本	50	人文社会系	ファシリテーター、企画・運営	なし		
19	国内	講演会	復興庁	まちづくり分科会「持続可能な防災まちづくり」、みやぎ復興官民連携フォーラム(「新しい東北」官民連携推進協議会 東日本大震災10年目企画)	20201118	20201118	せんだいメディアテーク	仙台	日本	200	人文社会系	ファシリテーター、企画・運営	なし		
20	国内	ワークショップ	3.11メモリアルネットワーク	ふりかえりワーク、第3回3.11伝承力アップ講座2020	20201117	20201117	日本たばこ産業株式会社東北支社	仙台	日本	50	人文社会系	ファシリテーター、企画・運営	なし		
21	国内	ワークショップ	内閣府・TEAM防災ジャパン	お世話焼きカウンター(Team防災ジャパン)、ぼうさいこくたい2020	20201003	20201003	オンライン	広島	日本	50	人文社会系	ファシリテーター、企画・運営	なし		
22	国内	ワークショップ	3.11メモリアルネットワーク	ふりかえりワーク、第2回3.11伝承力アップ講座2020	20200929	20200929	日本たばこ産業株式会社東北支社	仙台	日本	50	人文社会系	ファシリテーター、企画・運営	なし		
23	国内	ワークショップ	東北大学指定国立大災害科学世界トップレベル研究拠点、七ヶ浜町	七ヶ浜町x東北大学 オンライン・防災シンポジウム2020	20200924	20200924	オンライン	七ヶ浜	日本	50	人文社会系	コーディネーター	IRIDeS主催・共同主催	東北大学指定国立大災害科学世界トップレベル研究拠点、七ヶ浜町	
24	国内	その他	東北大学災害科学国際研究所	令和2年7月27-28日の山形県を中心とした豪雨災害の調査報告会	20200820	20200820	オンライン	仙台	日本	50	工学	企画・運営	IRIDeS主催・共同主催		
25	国内	その他	気仙沼市	気仙沼市 東日本大震災遺構・伝承館「夏休みの特別イベント」である「親子で学べる防災教室」	20200808	20200808	気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館	気仙沼	日本	30	工学	企画・運営	IRIDeS共催		
26	国内	ワークショップ	3.11メモリアルネットワーク	ふりかえりワーク、第1回3.11伝承力アップ講座2020	20200714	20200714	日本たばこ産業株式会社東北支社	仙台	日本	50	人文社会系	ファシリテーター、企画・運営	なし		

C. 教育活動

教育活動の概要

工学研究科土木工学専攻(工学部建築・社会環境工学科)の兼務教員として、津波工学研究室の学部4年生2名の卒業論文、修士1年生2名と2年1名の修士論文の研究指導教員をつとめた。ほか、本学にて基幹科目を、他大学の非常勤講師にて災害・防災に関する講義を担当した(東北大学基幹科目「東日本大震災からみる現代日本社会」、石巻専修大学人間学部「復興の社会学」、尚綱学院大学「災害社会学」、東京大学大学院情報学環「災害情報論II」)。

担当授業科目(他大学を含む)

	科目名	学校名	学部/研究学科学名	学科/専攻名	学年	セメスター・学期	コマ数 90分/コマ
1	社会環境工学実験	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	1	5セメ	1
2	土木工学修士研修	東北大学	工学研究科	土木工学専攻		通年	30
3	社会教育特講	東北大学	教育学研究科			1セメ	2
4	社会の構造	東北大学	高度教養教育・学生支援機構	基幹科目		通年	2
5	「復興」を学際的に考える	東北大学	全学			3セメ	1
6	災害の科学	東北大学	全学			後期	2
7	復興の社会学	石巻専修大学	人間学部	学部共通必須	2	3セメ	15
8	地域防災論	石巻専修大学	人間学部	学部共通選択	3	前期	15

## D. 社会活動

## 社会活動の概要

国土交通省、復興庁、宮城県、仙台市、石巻市、気仙沼市、東松島市、亶理町、名取市、で地域防災や震災伝承に関するアドバイザーや委員等をつとめている。地域安全学会と電子情報通信学会にて、安全・安心領域に関する学際的な情報研究に関する委員会の委員をつとめている。

## 一般向けセミナー・講演等の主催・共催・運営等(研究活動以外)

合計 23 件

	国内 国際	主催団体名・ 運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場名	開催 都市名	開催 国名	担当	参加 人数	IRIDeSの 関与	講演会・セミナー等
				開始年月日	終了年月日							
1	国内	宮城県	みやぎ東日本大震災津波伝承館・展示運営業務事前研修	20210323	20210323	みやぎ東日本大震災津波伝承館	石巻市	日本	コーディネーター	40	なし	ワークショップ
2	国内	宮城県	令和2年度みやぎ地域復興ミーティング	20210316	20210316	仙台国際センター	仙台市	日本	コーディネーター	50	なし	シンポジウム
3	国内	気仙沼市、東北大学災害科学国際研究所	「震災から10年と開館から2年を振り返る・活かす」、10YEARS 気仙沼市 東日本大震災遺構・伝承館 3.11メモリアルイベント～特別フォーラム～	20210313	20210313	気仙沼市 東日本大震災遺構・伝承館	気仙沼市	日本	ファシリテーター	50	IRIDeS主催・共同主催	シンポジウム
4	国内	仙台市、東北大学災害科学国際研究所	仙台市防災未来フォーラム2021「復興施策の評価と次の10年への展望」	20210306	20210306	仙台国際センター	仙台市	日本	ファシリテーター	100	IRIDeS主催・共同主催	シンポジウム
5	国内	仙台市若林区役所	若林区防災シンポジウム(令和2年度震災体験を風化させない「防災対策事業」)	20210228	20210228	若林区文化センター&オンライン	仙台市	日本	モデレーター	80	なし	シンポジウム
6	国内	宮城県	みやぎ地域復興ミーティング座談会(まちづくり・コミュニケーション)	20210212	20210212	東北大学災害科学国際研究所	仙台市	日本	ファシリテーター	20	なし	ワークショップ
7	国内	宮城県	みやぎ地域復興ミーティング座談会(産業・観光振興・環境(交流人口拡大))	20210212	20210212	東北大学災害科学国際研究所	仙台市	日本	ファシリテーター	20	なし	ワークショップ
8	国内	宮城県	みやぎ地域復興ミーティング座談会(震災伝承・防災教育)	20210211	20210211	東北大学災害科学国際研究所	仙台市	日本	ファシリテーター	20	なし	ワークショップ
9	国内	宮城県	みやぎ地域復興ミーティング座談会(被災者生活支援)	20210211	20210211	東北大学災害科学国際研究所	仙台市	日本	ファシリテーター	20	なし	ワークショップ
10	国内	宮城県、東北大学災害科学国際研究所	【第3期】宮城県自主防災組織育成・活性化支援モデル事業成果報告会	20210210	20210210	東北大学災害科学国際研究所	仙台市	日本	進行補助	60	IRIDeS主催・共同主催	シンポジウム
11	国内	宮城県	みやぎ地域復興ミーティング座談会(子ども・母親支援)	20210205	20210205	東北大学災害科学国際研究所	仙台市	日本	ファシリテーター	20	なし	ワークショップ
12	国内	気仙沼市、東北大学災害科学国際研究所	第6回 気仙沼市防災フォーラム	20210126	20210126	オンライン			企画、ファシリテーター	120	IRIDeS主催・共同主催	シンポジウム
13	国内	みやぎ防災・減災円卓会議	みやぎ防災・減災円卓会議 震災10周年企画プロジェクト2「あの日とその後、いまを徹底して語り合う場」とことんトーク311「あの日から未来へ」	20210123	20210124	NHK仙台拠点放送局	仙台市	日本	企画、ファシリテーター	40	なし	ワークショップ
14	国内	宮城県	宮城県震災伝承活動推進研修・第3回	20210118	20210118	つばめの杜 ひだまりホール	山元町	日本	企画、ファシリテーター	80	なし	ワークショップ
15	国内	宮城県	宮城県震災伝承活動推進研修・第2回	20210104	20210104	栗駒山麓ジオパークビジターセンター	栗原市	日本	企画、ファシリテーター	30	なし	ワークショップ
16	国内	宮城県	宮城県震災伝承活動推進研修・第1回(第2部)	20210103	20210103	南三陸まなびの里いりやど	南三陸町	日本	企画、ファシリテーター	20	なし	ワークショップ
17	国内	宮城県	宮城県震災伝承活動推進研修・第1回(第1部)	20210103	20210103	気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館	気仙沼市	日本	企画、ファシリテーター	50	なし	ワークショップ

18	国内	3.11メモリアルネットワーク	第4回3.11伝承力アップ講座2020	20201201	20201201	日本たばこ産業株式会社東北支社	仙台市	日本	企画、ファシリテーター	50	なし	ワークショップ
19	国内	復興庁	みやぎ復興官民連携フォーラム(「新しい東北」官民連携推進協議会 東日本大震災10年目企画)	20201118	20201118	せんだいメディアテーク	仙台市	日本	企画、ファシリテーター	200	なし	講演会
20	国内	3.11メモリアルネットワーク	第4回3.11伝承力アップ講座2020	20201201	20201201	日本たばこ産業株式会社東北支社	仙台市	日本	企画、ファシリテーター	50	なし	ワークショップ
21	国内	内閣府・TEAM防災ジャパン	お世話焼きカウンター(Team防災ジャパン), ぼうさいこくたい2020	20201003	20201003	オンライン			企画、ファシリテーター	50	なし	ワークショップ
22	国内	3.11メモリアルネットワーク	第2回3.11伝承力アップ講座2020	20200929	20200929	日本たばこ産業株式会社東北支社	仙台市	日本	企画、ファシリテーター	50	なし	ワークショップ
23	国内	3.11メモリアルネットワーク	第1回3.11伝承力アップ講座2020	20200714	20200714	日本たばこ産業株式会社東北支社	仙台市	日本	企画、ファシリテーター	50	なし	ワークショップ

講演・講義等(研究活動以外)

合計 41 件

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	連携	主催者	会場名	開催都市名	開催国名	参加人数
				開始年月日	終了年月日							
1	講演会	国立環境研究所・東日本大震災からの10年ワークショップ「災害廃棄物対策のふり振り返りと今後の展望」	パネリスト	20210325	20210325	「今後10年を見据えた地域との連携のあり方」	企業	国立環境研究所	オンライン			200
2	講演会	災害語り継ぎフォーラム2021「～東日本大震災10年～災害語り継ぎに関する研究成果発信フォーラム」	講演	20210314	20210314	災害語り継ぎの効果を「継承」の観点から考える	行政	災害語り継ぎフォーラム	人と防災未来センター	神戸市	日本	100
3	公開講座	せんだい豊齢学園 公開講座	招待講演	20210226	20210226	3.11伝承を活かす・学ぶ～シニアも知っておきたい災害のこと	行政	せんだい豊齢学園	仙台市シルバーセンター	仙台市	日本	90
4	小中高との連携	令和2年度宮城県気仙沼高等学校 課題研究Ⅰ・地域社会研究・総合的な探究の時間 全体発表会(SGH)	コメンテーター	20210130	20210130	講評	小中高	宮城県気仙沼高等学校	宮城県気仙沼高等学校	気仙沼市	日本	200
5	セミナー	階上地域まちづくり振興協議会・語り部部会勉強会	招待講演	20210128	20210128	宮城県震災伝承活動推進研修・第1回(1部)気仙沼にて参加者は何を学んだのか	行政	階上地域まちづくり振興協議会	気仙沼市 東日本大震災遺構・伝承館	気仙沼市	日本	40
6	その他	内閣官房国土強靱化推進室第2回人・コミュニティ・地域のレジリエンス向上のための研究会	招待講演	20210119	20210119	みんなでSNSマッピングプロジェクト	行政	内閣官房	オンライン			20
7	セミナー	階上地域まちづくり振興協議会・語り部部会勉強会	招待講演	20201222	20201222	広島に学ぶ「伝承者を育てる」	行政	階上地域まちづくり振興協議会	気仙沼市 東日本大震災遺構・伝承館	気仙沼市	日本	40
8	講演会	認定心理士の会 東北支部会シンポジウム・災害の記憶を未来に活かすためにー心理学と情報学の観点から	招待講演	20201219	20201219	3.11の前と後をとりまく震災の記録・継承・記憶	なし	認定心理士の会 東北支部会	オンライン			100
9	その他	令和2年度第2回「関上地区防災マニュアル」作成のためのワークショップ	アドバイザー	20201218	20201218	講評・アドバイス	行政	名取市	関上公民館	名取市	日本	30
10	講演会	令和2年度宮城県地域コミュニティ再生支援事業 自治会運営講座～コロナ禍における自治会運営～(仙台会場)	招待講演	20201215	20201215	水害からいのちを守る(コロナ禍に対応した防災体制づくり)	行政	宮城県	仙台市市民活動サポートセンター	仙台市	日本	20
11	公開講座	東北大学・読売新聞共同プロジェクト 市民のためのサイエンス講座2020	パネリスト	20201211	20210430	総合討論・感染症も含めた様々なグローバルリスクに対してレジリエントな社会を構築するために	企業	読売新聞, 東北大学災害科学国際研究所	東北大学災害科学国際研究所, オンライン	仙台市	日本	250
12	その他	令和2年度宮城県気仙沼高等学校 第1年地域社会研究「フィールドワーク」	アドバイザー	20201212	20201212	講評・アドバイス	小中高	宮城県気仙沼高等学校	東北大学災害科学国際研究所	仙台市	日本	60
13	講演会	東北大学・読売新聞共同プロジェクト 市民のためのサイエンス講座2020	講演	20201211	20210430	震災伝承の今後 記憶と記録を残す活動 次世代の人材育成に	企業	読売新聞, 東北大学災害科学国際研究所	東北大学災害科学国際研究所, オンライン	仙台市	日本	400



14	その他	令和2年度 気仙市立鹿折中学校 総合的な学習の時間・防災学習発表会	アドバイザー	20201211	20201211	講評・アドバイス	小中高	気仙沼市立鹿折中学校	気仙沼市立鹿折中学校	気仙沼市	日本	200
15	講演会	令和2年度宮城県地域コミュニティ再生支援事業 自治会運営講座～コロナ禍における自治会運営～(石巻会場)	招待講演	20201215	20201215	水害からいのちを守る(コロナ禍に対応した防災体制づくり)	行政	宮城県	オンライン	仙台市	日本	40
16	小中高との連携	令和2年度 気仙市立階上中学校 防災学習発表会	アドバイザー	20201205	20201205	講評・アドバイス	小中高	気仙沼市立階上中学校	気仙沼市立階上中学校	気仙沼市	日本	200
17	小中高との連携	令和2年度 気仙市立鹿折中学校 防災学習中間発表会	アドバイザー	20201123	20201123	講評・アドバイス	小中高	気仙沼市立鹿折中学校	気仙沼市立鹿折中学校	気仙沼市	日本	170
18	講演会	みやぎ復興官民連携フォーラム(「新しい東北」官民連携推進協議会 東日本大震災10年目企画)	ファシリテーター	20201118	20201118	まちづくり分科会「持続可能な防災まちづくり」	行政	復興庁	せんだいメディアテーク	仙台市	日本	200
19	その他	「おぐにカンパニー企画部」東日本大震災被災地視察交流会	アドバイザー	20201115	20201115	ふりかえりワークショップ	行政	山の暮らし再生機構	そなえ館など	小千谷市	日本	50
20	小中高との連携	令和2年度宮城県気仙沼高等学校 1学年「地域社会研究」中間発表会	アドバイザー	20201111	20201111	「海と防災」	小中高	宮城県気仙沼高等学校	宮城県気仙沼高等学校	気仙沼市	日本	200
21	その他	「Kataribe on the "3.11 DENSHO ROAD"」モニターツアー、令和2年度 復興庁「新しい東北」交流拡大モデル事業	アドバイザー	20201102	20201105	講評・アドバイス	行政	復興庁	岩手県沿岸部	岩手県沿岸部	日本	30
22	その他	NTT防災士研修	招待講演	20201030	20201030	復旧・復興と被災者支援	企業	NTT	TKP	仙台市	日本	70
23	その他	NTT防災士研修	招待講演	20201030	20201030	災害情報の活用と発信	企業	NTT	TKP	仙台市	日本	70
24	その他	令和2年度第1回「関上地区防災マニュアル」作成のためのワークショップ	アドバイザー	20201029	20201029	講評・アドバイス	行政	名取市	関上公民館	名取市	日本	30
25	講演会	北海道 災害リスク対策推進	招待講演	20201028	20201028	観光業者にとっての防災・減災業務を考える	企業	一般社団法人日本能率協会	アクセスサポート	札幌市	日本	100
26	講演会	令和2年度 学びのまち仙台 市民カレッジ「現代的課題対応講座(市民プロデューズ講座)・SBLプロデューズ講座(防災・減災講座)」	招待講演	20201024	20201024	3.11から学ぶ「災害をのりこえる」	行政	仙台市	仙台市生涯学習支援センター	仙台市	日本	30
27	小中高との連携	令和2年度宮城県気仙沼高等学校 地域研究最終発表会・中間発表会	アドバイザー	20201023	20201023	講評・アドバイス	小中高	宮城県気仙沼高等学校	宮城県気仙沼高等学校	気仙沼市	日本	200
28	講演会	階上地域まちづくり振興協議会・語り部会勉強会	招待講演	20201001	20201001	東北全体の震災伝承の実態	行政	階上地域まちづくり振興協議会	気仙沼市 東日本大震災遺構・伝承館	気仙沼市	日本	40
29	公開講座	濱口梧陵生誕200年記念・第14回稲むらの火講座	招待講演	20200927	20200927	東北の津波伝承 あの日以来から	行政	広川町教育委員会、稲むらの火の館	稲むらの火の館	広川町	日本	50
30	セミナー	防災教育の市民団体ゆりあげかもめ研修	招待講演	20200919	20200919	災害エスノグラフィーとは	企業	防災教育の市民団体ゆりあげかもめ	名取市市民活動支援センター	名取市	日本	20
31	小中高との連携	鹿折中学校防災学習	招待講演	20200913	20200913	今年度の防災学習	小中高	気仙沼市立鹿折中学校	気仙沼市立鹿折中学校	気仙沼市	日本	170
32	講演会	酒田市の津波防災を考える	招待講演	20200903	20200903	2019年6月山形県沖の地震津波からの避難行動実態とその対策	行政	酒田市	公益研修センター	酒田市	日本	100
33	その他	令和2年7月27-28日の山形県を中心とした豪雨災害の調査報告会	報告	20200820	20200820	避難対応	なし	東北大学災害科学国際研究所	オンライン		日本	50
34	その他	宮城県議会・自然災害対策調査特別委員会	招待講演	20200807	20200807	2019年台風19号における宮城県内の避難行動	行政	宮城県議会	宮城県議会	仙台市	日本	20

35	その他	復建技術コンサルタント勉強会	招待講演	20200805	20200805	2019年台風19号における吉田川流域の避難行動とその教訓	企業	復建技術コンサルタント	復建技術コンサルタント	仙台市	日本	50
36	講演会	宮城県気仙沼高等学校SGH教育	招待講演	20200715	20200715	ふりかえりワークショップ	小中高	宮城県気仙沼高等学校	宮城県気仙沼高等学校	気仙沼市	日本	200
37	講演会	宮城県気仙沼高等学校SGH教育	招待講演	20200715	20200715	災害科学の超基礎+α	小中高	宮城県気仙沼高等学校	宮城県気仙沼高等学校	気仙沼市	日本	200
38	講演会	陸上地域まちづくり振興協議会・語り部部会勉強会	招待講演	20200703	20200703	災害語り部の話はどこまで伝わっているのか?	行政	陸上地域まちづくり振興協議会	気仙沼市 東日本大震災遺構・伝承館	気仙沼市	日本	40
39	講演会	鳴瀬川等大規模氾濫時の減災対策協議会(第7回協議会)・北上川下流大規模氾濫時の減災対策協議会(第7回協議会)	招待講演	20200629	20200629	2019年台風19号における吉田川流域の避難行動とその教訓	行政	東北地方整備局	大郷町文化会館	大郷町	日本	100
40	講演会	あゆみの町内会・ミニ講演会	招待講演	20200628	20200628	水害からのいのちを守る	行政	あゆみの町内会、石巻市	あゆみの集会所	石巻市	日本	40
41	小中高との連携	気仙沼市立階上中学校防災学習	招待講演	20200619	20200619	防災学習・探究的学習	小中高	気仙沼市立階上中学校	気仙沼市立階上中学校	気仙沼市	日本	170

自治体・民間等での委員

	区分	組織・団体名	委員会名	委員・役職名	開始年月日
1	地方自治体	宮城県	宮城県「宮城県復興10年総括検証」基礎データ資料作成業務に関する公募型プロポーザル方式選定委員会	委員	20190400
2	地方自治体	宮城県	宮城県震災復興総括検証アドバイザー	アドバイザー	20190400
3	地方自治体	宮城県	宮城県震災伝承関連展示制作監修アドバイザー	アドバイザー	20190400
4	地方自治体	宮城県	宮城県令和元年台風19号を踏まえた今後の治水対策の在り方検討会	委員	20200400
5	地方自治体	宮城県	復興まちづくり事業	アドバイザー(伝承)	20200400
6	地方自治体	宮城県	宮城県令和元年東日本台風に伴う災害対応の検証事業	総括	20200400
7	地方自治体	宮城県	みやぎ地域復興ミーティング	アドバイザー	20200400
8	地方自治体	宮城県	震災伝承活動推進研修	アドバイザー	20200400
9	地方自治体	宮城県	みやぎ東日本大震災津波伝承館・解説員研修	コーディネーター	20210300
10	地方自治体	石巻市	石巻市震災伝承事業に関する事項	アドバイザー兼ファシリテーター	20170400
11	地方自治体	石巻市	石巻市本庁地区慰霊碑設置業務プロポーザル選定委員会	委員	20170400
12	地方自治体	東松島市	東松島市防災会議	防災会議委員	20120400
13	地方自治体	亶理町	亶理町防災会議	委員	20130400
14	地方自治体	亶理町	亶理町防災主任者会(防災教育推進研修会)	アドバイザー	20140400
15	地方自治体	名取市	名取市防災会議	防災会議委員	20140400
16	地方自治体	名取市	名取市震災復興伝承館	アドバイザー	20180400
17	地方自治体	多賀城市	多賀城市立小・中学校防災主任会	アドバイザー	20140400
18	その他	多賀城市立東豊中学校区	多賀城市立東豊中学校区防災教育推進委員会	アドバイザー	20160400
19	地方自治体	気仙沼市	気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館	アドバイザー	20160400
20	地方自治体	気仙沼市	けせんぬま震災伝承ネットワーク	アドバイザー	20160400
21	地方自治体	仙台市	仙台市沿岸分メモリアルアドバイザーボード	委員	20170400
22	地方自治体	仙台市	仙台市中心部震災メモリアル拠点検討委員会	委員	20170400
23	地方自治体	七ヶ浜町	七ヶ浜町情報公開及び個人情報保護審査会	委員	20200400

24	国・政府	国土交通省	マイ・タイムライン実践ポイントブック検討会	委員	20170400
25	国・政府	国土交通省東北地方整備局	石巻南浜復興記念公園展示アドバイザー	アドバイザー	20200400
26	国・政府	復興庁	被災者支援コーディネーター事業・有識者アドバイザー会議	委員	20170400
27	国・政府	公益財団法人ひょうご震災記念21世紀研究機構	復興庁委託事業「東日本大震災復興の事例種集・調査分析事業」	協働・継承部門ワーキンググループ担当委員	20170400
28	地方自治体	青森県	学校と地域が一体になった防災教育推進事業	アドバイザー	20170400
29	民間・NPO	防災教育団体ゆりあけかもめ		アドバイザー	20140700
30	民間・NPO	3.11メモリアルネットワーク		外部委員	20171200
31	民間・NPO	3.11メモリアルネットワーク		アドバイザー	20171200
32	民間・NPO	3.11伝承ロード推進機構	3.11伝承ロードアドバイザー委員会	委員長	20190400
33	民間・NPO	みやぎ復興連携センター	TOTOグループ宮城県助成事業「住民主体・復興地域づくり活動および復興活動プロセスの伝承助成」	審査員	20171200
34	その他	気仙沼高等学校		気高応援隊	20160400
35	その他	東豊中学校	東豊中学校区防災教育推進委員会	アドバイザー	20170400
36	その他	階上中学校		防災教育アドバイザー	20160300
37	その他	鹿折中学校		防災教育アドバイザー	20200000
38	民間・NPO	NHK仙台放送局	ゴジだっちゃ!	「防災研究最前線」コーディネーター	20160400
39	民間・NPO	NHK仙台放送局	ゴジだっちゃ!	「防災クイズ 備えッペ」コーディネーター	20210300
40	その他	みやぎ防災・減災円卓会議	みやぎ「災害とメディア」研究会	幹事	20180400
41	その他	TEAM防災ジャパン		お世話係(東北)	20181100
42	その他	2020世界災害語り継ぎフォーラム	実行委員会	協力委員	20180400
43	その他	公益財団法人 山の暮らし再生機構		アドバイザー	20180400

## 自治体・研究機関との協定締結実績

	年月日	締結式会場	国内 海外	協定名称	締結機関	締結相手	期間	
							開始年月日	年数
1	20130208	多賀城市役所・宮城県多賀城市	国内	東北大学災害科学国際研究所と多賀城市との包括的協定	自治体	多賀城市	20130200	5
2	20130625	亶理町悠里館・宮城県亶理町	国内	東北大学災害科学国際研究所と亶理町との包括的協定	自治体	亶理町	20130600	5
3	20130821	東松島市役所・宮城県東松島市	国内	東北大学災害科学国際研究所と東松島市との包括的協定	自治体	東松島市	20130800	5
4	20170529	石巻市役所・宮城県石巻市	国内	東北大学災害科学国際研究所と石巻市との包括的協定	自治体	石巻市	20170501	5
5	20180727	気仙沼市役所・宮城県気仙沼市	国内	東北大学災害科学国際研究所と気仙沼市との包括的協定 (更新)	自治体	気仙沼市	20180700	5

## フルコフラヴィア 助教

## FULCO Flavia

人間・社会対応研究部門 防災社会システム研究分野

## A. 基本情報・略歴

## 出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	Università di Roma La Sapienza	M.A. Humanities	2007	07	Università di Roma la Sapienza	人文学部	2007	07	Master of Humanities		
2	Università di Roma Tre	PhD American Studies	2011	05	Università di Roma Tre	人文学部	2011	11	Ph.D		

## 職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	2012	4	2014	11	渋谷外語学院・日伊学院 イタリア語教師・事務スタッフ	
2	2015	2	2015	5	ミラノ国際博覧会日本館制作コンソーシアム・日伊語翻訳業務	
3	2015	11	2018	5	上智大学 比較文化研究所 特別研究員 (USPS Post-Doc Fellow)	
4	2018	6	2019	5	富山大学 都市デザイン学部 助教	

## B. 研究活動

## 研究活動の概要

During 2020, I continued my research on the themes of post disaster recovery, focusing on the Cultural Memory of natural disasters. The primary focus was the practice of Kataribe Storytelling in Tohoku after the Great East Japan Earthquake. I also started a new research topic on the socio-economic impact of Covid-19 in Italy where I stayed for a business trip from August to February. I also continued my international collaboration with the University of Washington, starting another project on the impact of Covid-19, attended international conferences and research events, contributing with presentations and publications.

## 研究課題

	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	2015	11	現在		災害語り部 (東北・日本)	
2	2017	11	現在		防災教育	
3	2017	11	現在		防災・災害観光	
4	2019	7	現在		3.11/9.11被災者交流	
5	2020	1	現在		海外・国内災害博物館・資料館	
6	2020	1	現在		災害の女性の経験・語り継ぎ行動	
7	2020	5	現在		ITCCS (Italy Covid community Study with the University of Washington)	
8	2020	8	現在		Social economic impact of the COVID-19 pandemic in Italy	

## 論文

単著	0	筆頭共著	0	その他の共著	1	合計	1	うち	国際査読有	0	国際査読無	1	国内査読有	0	国内査読無	0
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

	記述言語	区分	所外連携	国際学術誌	種別	査読	招待論文	論文題目名(原語)	著者氏名(共著者含)	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日
1	英語	共著	両方	いいえ	単行本(論文掲載)	無	はい	Digital Oral Narrative research in Japan. An engaged approach	David H. Slater, Robin O'Day, Flavia Fuleo, and Noor Alzerbashi	Studying in Japan. Handbook of Research Design, Fieldwork and Methods.			446	449	202012

## C. 教育活動

## 教育活動の概要

At IRIDeS, I did not have teaching activities but I was asked to hold a seminar on Kataribe-storytellers at Kobe University (March 6th, 2021).

## 担当授業科目(他大学を含む)

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・学期	コマ数 90分/1コマ
1	語り部についてワークショップ	神戸大学	建築学			1セメ	1

## D. 社会活動

## 社会活動の概要

During this year, I actively participated as an organizer and presenter in one Friday Forum event on the importance of Oral History, 10 years after the 3.11 disasters. I also participated in two events where I shared information on the Italian Department of Civil Protection (once as a translator and once as a presenter). In addition, I shared information on my research in Italy IRIDeS and took part in other study groups.

## 一般向けセミナー・講演等の主催・共催・運営等(研究活動)

合計 2 件

	国内 国際	主催団体名・ 運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場名	開催 都市名	開催 国名	担当	参加 人数	IRIDeSの 関与	講演会・セミナー等
				開始年月日	終了年月日							
1	国際	IRIDeS	Preliminary Observations on the Socio-Psychological and Economic Consequences of the COVID-19 Pandemic in Italy	20200212	20200212	IRIDeS (online)	仙台	日本	発表者	20	なし	セミナー
2	国内	IRIDeS	第71回IRIDeS金曜フォーラム	20200219	20200219	IRIDeS (online)	仙台	日本	運営委員 発表者	45	IRIDeS主催・ 共同主催	研究会

## 講演・講義等(研究活動以外)

合計 2 件

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	連携	主催者	会場名	開催 都市名	開催 国名	参加人数
				開始年月日	終了年月日							
1	セミナー	震災・災害シンポジウム	通訳者	20201204	20201204	「災害支援における市民保護理念の重要性(仮)」Dr. Marilena Esposito	なし	エコミークラス症候群予防・検診支援会	新潟大学(オンライン)	新潟市	日本	100
2	講演会	第2回災害対応空間の設営・運営に関する研究会 - イタリア市民保護局における災害後対応活動-	発表者	20210208	20210208	イタリア市民保護局の概要	なし	IRIDeS	online	仙台	日本	15

## 蝦名 裕一 准教授

## EBINA Yuichi

人間・社会対応研究部門 災害文化研究分野

## A. 基本情報・略歴

## 出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	岩手大学	教育学部	1998	3	東北大学大学院	国際文化研究科	2010	3	博士(国際文化)	2010	3

## 職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	2006	10	2007	3	福島県双葉郡双葉町立双葉中学校	常勤講師
2	2007	4	2008	3	宮城学院高等学校	非常勤講師
3	2008	4	2009	7	岩沼市教育委員会 市史編纂室	嘱託職員
4	2010	4	2012	3	東北大学東北アジア研究センター	教育研究支援者
5	2012	4	2015	3	東北大学災害科学国際研究所	助教
6	2015	4	現在		東北大学災害科学国際研究所	准教授

## 学会活動

## 所属学会

	学会名 1	2	3	4	5	6
	東北史学会	岩手史学会	歴史学研究会	宮城歴史科学研究会	地方史研究協議会	歴史地震研究会

## 学会・委員会等での役職

	学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
1	歴史地震研究会	編集出版委員会	委員	20180901

## 研究分野・キーワード

	専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3
	日本近世史	歴史災害研究	歴史資料保全研究

## B. 研究活動

## 研究活動の概要

今年度は1611年慶長奥州地震津波に関する史料の再検討、安政東海地震や象潟地震を対象として絵図史料に基づく被災状況の研究を中心的におこなった。また令和2年熊本豪雨および令和3年2月13日福島沖地震に際して、文化遺産の被害推定マップを作成し、被災地の史料保全団体と情報を共有して歴史資料の救済活動にあたった。さらに、9月より新型コロナウイルス流行をうけて、歴史学・医学の連携による「疫病退散プロジェクト」を展開し、これを基軸として文理融合シンポジウムを開催するとともに、報告書を刊行した。

## 研究課題

	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	2011	4	現在		1611年慶長奥州地震津波の歴史資料における記述に関する研究	国内
2	2011	4	現在		災害時における歴史資料・下張り文書の保全に関する研究	国内
3	2013	4	現在		山奈宗真史料にみる岩手県沿岸域の歴史津波についての研究	国内
4	2015	4	現在		絵図・地図史料に基づく歴史的景観復元の研究	国内
5	2016	4	現在		1804年象潟地震に関連する歴史資料の調査	国内
6	2017	4	現在		所在情報を活用した災害発生時の文化財・歴史資料の救済手法の確立	国内
7	2020	4	現在		前近代の疫病文化について文医連携とシチズンサイエンスによる研究の実践	

## 論文

単著	3	筆頭共著	1	その他の共著	2	合計	6	うち	国際査読有	2	国際査読無	0	国内査読有	1	国内査読無	3
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

	記述言語	区分	所外連携	国際学術誌	種別	査読	招待論文	論文題目名(原語)	著者氏名(共著者含)	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日
1	日本語	筆頭共著	国内	いいえ	学術雑誌	有	いいえ	古絵図に基づく安政東海地震の浜名湖周辺における津波浸水域の分析	蝦名裕一、今井健太郎、大林涼子、柄本邦明、都司嘉宣	歴史地震	35		187	206	20200729
2	日本語	単著	国内	いいえ	その他	無	はい	先人の疫病文化に学ぶー新型コロナウイルス流行と「疫病退散プロジェクト」ー	蝦名裕一	みやぎ宗連	47		15	21	20210321
3	日本語	単著	国内	いいえ	単行本(論文掲載)	無	はい	文化元年(1804)象潟地震と由利郡関村の被害状況	蝦名裕一	二百年前に象潟で起きたこと			28	48	20210321

4	日本語	単著	国内	いいえ	学術雑誌	無	いいえ	2020年度の疫病退散プロジェクトの成果から	蝦名裕一	歴史文化資料保全の大学・共同利用機関ネットワーク事業シンポジウム報告書2020「歴史が導く災害科学の新展開Ⅳ－先人の疫病文化に学ぶ」		3	9	20210330
5	英語	共著	国外	はい	学術雑誌	有	いいえ	Fault model of the 1804 Kisakata earthquake (Akita, Japan)	Imai, K., Okada, S., Takahashi, N., Ebina, Y., Tsuji, Y.	Scismological Research Letters,	91	5		20200900
6	英語	共著	国外	はい	学術雑誌	有	いいえ	Ten years after the 2011 Tohoku-oki earthquake and tsunami: Geological and environmental effects and implications for disaster policy changes	Goto, K., Ishizawa, T., Ebina, Y., Imamura, F., Sato, S., Udo, K.	Earth-Science Reviews,	212			20210100

著書(監修・編集・単著・共著)

監修	編集	単著	筆頭共著	共著	合計	うち	国際	国内
1	1	1	0	0	2	0	0	2

記述言語	著書名および担当執筆題名	種別	発行年月日	著者・監修者氏名	区分	出版社名	所外連携	発行部数
1 日本語	「先人の災害体験を未来の防災へ」(『東日本大震災からのスタート:災害を考える51のアプローチ』第33章, pp.133-136)	編集本(著者・Author)	20210311	蝦名裕一 (東北大学災害科学国際研究所)	単著	東北大学出版会		1400
2 日本語	歴史文化資料保全の大学・共同利用機関ネットワーク事業シンポジウム報告書2020「歴史が導く災害科学の新展開Ⅳ－先人の疫病文化に学ぶ」	編集本(編集者・Editor)	20210330	蝦名裕一	編集	蕃山房	なし	1000

学会発表

単名	筆頭連名	その他の連名	合計
4	2	0	6

	国内国際	会議名称	会議のテーマ	区分	招待	講演・発表の形態	会場名	開催都市名	開催国名	開催期間		発表年月日	題目名(原語)	連名者名(発表者に下線)
										開始年月	終了年月			
1	国際	JPGU-AGU Joint Meeting2020	加納靖之	筆頭連名	いいえ	口頭(一般)	オンライン		日本	20200712	20200715	20200712	岩手県岩泉氏における歴史地形と台風被害の関連性の解明	蝦名裕一・森口周二・呉修一・菅原大助
2	国内	七ヶ浜町×東北大学オンライン防災シンポジウム2020		単名	いいえ	口頭(一般)	オンライン	七ヶ浜町	日本	20200924			文化遺産マップの作成と災害時の活用ー七ヶ浜町の文化財を事例にー	蝦名裕一
3	国内	第34回歴史地震研究会		単名	いいえ	口頭(一般)	オンライン	伊賀市	日本	20200927	20200928	20200927	慶長奥州地震津波に関する史料の記述と継承	蝦名裕一
4	国内	第8会歴史地震史料研究会		単名	いいえ	口頭(一般)	オンライン	新潟市	日本	20201115			「古新筆鑑」にみる旧気仙郡の歴史地震	蝦名裕一
5	国内	歴史が導く災害科学の新展開Ⅳ－先人の疫病文化に学ぶー	蝦名裕一	単名	いいえ	口頭(一般)	オンライン	仙台市	日本	20210211			2020年度の疫病退散プロジェクトの成果から	蝦名裕一
6	国内	全国史料ネット集会		筆頭連名	いいえ	口頭(一般)	オンライン	仙台市	日本	20210221			2021年福島宮城沖地震における文化遺産マップの作成と巡回調査	蝦名裕一・川内淳史

学術会議・シンポジウム等の主催・共催・運営等

合計	1件
----	----

	国内国際	種別	主催団体名・運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場	開催都市名	開催国名	参加人数(名/外国人)	分野	担当	IRIDeSの関与	共催機関名	所外連携
					開始年月	終了年月									
1	国内	シンポジウム	東北大学災害科学国際研究所	シンポジウム歴史が導く災害科学の新展開Ⅳ－先人の疫病文化に学ぶー	20210211		東北大学災害科学国際研究所	仙台市	日本	85(0)	人文社会系	運営	IRIDeS主催・共同主催		国内

C. 教育活動

教育活動の概要

本年度は、当初予定されていた基礎ゼミが新型コロナウイルス流行をうけて中止となり、特段の教育活動をおこなわなかった。

D. 社会活動

社会活動の概要

本年度の社会活動としては、仙台藩の歴史・災害史について講演・報告をおこなうとともに、「疫病退散プロジェクト」に関連して疫病文化の研究や事例分析に関する講演あるいは各種メディアでの発信をおこなった。また、東北大学災害科学国際研究所とNPO法人宮城歴史資料保全ネットワークの協定を締結した。

## 講演・講義等(研究活動以外)

合計 4 件

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	連携	主催者	会場名	開催都市名	開催国名	参加人数
				開始年月日	終了年月日							
1	講演会	生涯現役塾講演会	講演	20210115		徳川幕府の仙台総攻撃計画と政宗の軍略	なし	生涯現役塾	東北大学災害科学国際研究所	仙台市	日本	20
2	講演会	仙台青年大学講演会	講演	20210120		伊達騒動を読み直すー伊達兵部を中心にー	なし	仙台青年大学	楽楽ホール	仙台市	日本	300
3	講演会	東北臨床宗教師会研修会	講義	20210218		先人の疫病文化に学ぶ	なし	東北臨床宗教師会	オンライン	仙台市	日本	40
4	セミナー	第8回古文書講座	講義	20201029	20201112	第8回古文書講座	行政	川崎町教育委員会	川崎町公民館	川崎町	日本	10

## 自治体・民間等での委員

	区分	組織・団体名	委員会名	委員・役職名	開始年月日
1	民間・NPO	NPO法人宮城歴史資料保全ネットワーク	理事会	理事、事務局	20150701
2	地方自治体	相馬市教育委員会	相馬市史編さん委員会	編さん執筆委員	20060224

## 自治体・研究機関との協定締結実績

	年月日	締結式会場	国内 海外	協定名称	締結機関	締結相手	期間	
							開始年月日	年数
1	20201217	東北大学災害科学国際研究所	国内	東北大学災害科学国際研究所とNPO法人ミヤギ歴史資料保全ネットワークの連携に関する協定	その他	NPO法人宮城歴史資料保全ネットワーク	20201217	2



# 岩田 司 教授

## IWATA Tsukasa

地域・都市再生研究部門 都市再生計画技術分野

### A. 基本情報・略歴

出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	東京大学	工学部	1982	3	東京大学	工学研究科	1989	3	工学博士	1989	3

### 職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	1989	4	1991	9	建設省建築研究所 第一研究部 建設経済研究室	研究員
2	1991	10	1992	3	建設省建築研究所 第一研究部 住環境計画研究室	研究員
3	1992	4	1997	3	建設省建築研究所 第一研究部 住環境計画研究室	主任研究員
4	1995	4	2001	3	筑波大学 第三学群社会学類	非常勤講師(併任)
5	1997	4	1999	3	建設省建築研究所 第五研究部 設計計画研究室	室長
6	1999	4	2000	12	建設省建築研究所 第一研究部 建設経済研究室	室長
7	1999	4	2000	12	建設省建築研究所 第一研究部 建設経済研究室	室長
8	2001	1	2001	3	国土交通省建築研究所 第一研究部 建設経済研究室	室長
9	2001	4	2004	3	国土交通省国土技術政策総合研究所建設経済研究室	室長
10	2004	4	2013	3	独立行政法人建築研究所 住宅・都市研究グループ	上席研究員
11	2005	4	2015	3	筑波大学大学院 システム情報工学研究科	教授(連携大学院・併任)
12	2013	4	2015	3	独立行政法人建築研究所 住宅・都市研究グループ	主席研究監
13	2015	4	2017	3	国立研究開発法人 建築研究所 住宅・都市研究グループ	客員研究員
14	2015	4	現在		東北大学 災害科学国際研究所	教授
15	2018	6	現在		同済大学	兼職教授

### 学会活動

所属学会

	学会名 1	2	3	4	5	6
	建築学会	都市計画学会	都市住宅学会	造園学会	リモートセンシング学会	日本建築家協会

学会・委員会等での役職

	学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
1	建築学会		代議員	201803

研究分野・キーワード

	専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3	専門分野 4	専門分野 5
	地域住宅計画	地域型復興住宅	居住環境計画	地域運営	都市設計

委員会・ワーキンググループ

全学・他部署の委員会での委員

	部局名	委員会名	役職	開始年月日
1	全学	学際高等研究教育院運営専門委員会	委員	20150401
2	全学	附属図書館商議員	商議員	20180401
3	全学	学術情報整備検討委員会	委員	20180401
4	工学研究科	広報戦略委員会	委員	20200401
5	工学研究科	学生生活委員会	委員	20200401
6	人間環境系	設計教育委員会	委員	20170401
7	人間環境系	設計教育委員会 国際関係担当	委員	20190401

### B. 研究活動

研究活動の概要

(1) サステナブルで美しいまちづくりを形成するために100年まちづくり運動を昭和30年代から継続する山形県金山町において、その長年にわたる継続的地域運営手法を明確にすると共に、その経済効果について調査を行った。(2) また金山町を含む羽州街道の全ての宿場町における家並みの調査を行い、その特徴と気候風土との関係を明らかにした。(3) 福島県土木部との協定に基づき、応急仮設住宅の修繕の記録を解析し、プレハブ、木造の構造工法ごとの修繕の実態を明らかにした。(4) 昨年度に引き続き四川大震災の歴史的街区の住民参加による復興手法の効果に関する調査を行った。(5) 地域住宅計画の理念に基づいて建設された公営住宅を類型化すると共に、その建設が地域の住宅に与えた影響についての調査を行い、地域の活性化に役立つ建設手法を明らかにした。(6) 新型コロナウイルスの伝播状況に関する調査を行い、今年度は宮城県、福島県において旧藩国内でクローズする傾向があることが判明した。

研究課題

	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	1989	4	現在		住まい・まちの地域性に関する研究	国内
2	2016	4	現在		地域型復興住宅に関する研究	国内
3	2018	4	現在		四川大震災の歴史的街区の復興に関する研究	国外
4	2018	4	2021	3	地域型復興住宅の変遷と木造災害公営住宅に与えた影響に関する研究	国内
5	2018	4	現在		木造応急仮設住宅の修繕に関する研究	国内
6	2018	4	2021	3	地域住宅計画に基づく地域型住宅の特徴に関する研究	国内
7	2018	4	2021	3	羽州街道における宿場町の活性化手法とその経済効果に関する研究	国内
8	2019	4	現在		地方小都市における景観整備が地域の活性化に及ぼす効果に関する研究	国内
9	2019	4	現在		地方小都市における景観整備と地域運営手法に関する研究	国内
10	2020	4	現在		地域住宅計画に基づき建設された公営住宅が住宅の地域性に与えた影響に関する研究	国内
11	2020	4	現在		地域型医療施設と地域のまちづくりに関する研究	国内
12	2020	4	現在		コロナウィルスの地域間の伝播に関する研究	国内
13	2020	4	現在		地場産材を活用した地域型住宅建設手法に関する研究	国内

論文

単著	0	筆頭共著	0	その他の共著	1	合計	1	うち	国際査読有	0	国際査読無	0	国内査読有	0	国内査読無	1
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

記述言語	区分	所外連携	国際学術誌	種別	査読	招待論文	論文題目名(原語)	著者氏名(共著者含)	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日
日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	無	いいえ	・55. 田の字型プランを用いた災害公営住宅に関する調査研究－共有空間の利用状況と計画の手法およびプロセスの違いに注目して－	嶋田奈桜、原田栄一、岩田司	日本建築学会大会学術講演梗概集・都市計画5657			1317	1318	20200900

著書(監修・編集・単著・共著)

監修編集	0	単著	1	筆頭共著	0	共著	0	合計	1	うち	国際	0	国内	1
------	---	----	---	------	---	----	---	----	---	----	----	---	----	---

記述言語	著書名および担当執筆題名	種別	発行年月日	著者・監修者氏名	区分	出版社名	所外連携	発行部数
日本語	『都市再生のパラダイムシフト』(『東日本大震災からのスタート:災害を考える51のアプローチ』第19章, pp.77-80)	編集本(著者・Author)	20210311	岩田司 (東北大学災害科学国際研究所)	単著	東北大学出版会		1400

C. 教育活動

教育活動の概要

工学部建築・社会環境工学科、及び工学系研究科都市・建築専攻において、授業、及び設計演習を担当した。学部4年生2名、及び修士課程5名(うち3名が留学生)、博士課程2名の指導を行い、2名が学士号を取得した。学部4年生のうち1名が修士課程に進学した。なお修士課程1年生の都市・建築設計I・IIではUCLA等と共に全世界の大学が参加して実施したArcDR3において、仙台市荒浜、名取市関上、丸森町を対象に災害を見据えた住まい・まちづくりのワークショップが行われ、学生指導を行った。

D. 社会活動

社会活動の概要

今年度は新型コロナウイルスの影響により、例年実施されていたセミナー等が中止されている中で、Web講演を行った。また2件の取材、委員会活動1件を行った。

講演・講義等(研究活動以外)

合計	1件
----	----

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	連携	主催者	会場名	開催都市名	開催国名	参加人数
				開始年月日	終了年月日							
1	公開講座	よこまちポストON AIR vol.5	招待講演	20200905	20200905	道路拡幅とまちづくりー福島県三春町における実践ー	なし	東京大学都市デザイン研究室	Web開催	富士吉田市	日本	50

自治体・民間等での委員

区分	組織・団体名	委員会名	委員・役職名	開始年月日
1 地方自治体	石巻市	石巻市総合計画審議会	会長	20191201

# 寺田 賢二郎 教授

## TERADA Kenjiro

地域・都市再生研究部門 計算安全工学研究分野

### A. 基本情報・略歴

#### 出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	名古屋大学	工学部	1990	3	米国ミシガン大学	工学部	1996	3	Ph.D.	1996	5

#### 職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	1996	4	1997	6	東京大学 大学院工学系研究科 船舶海洋工学専攻	助手
2	1997	7	1999	6	東北大学 大学院情報科学研究科 人間社会情報科学専攻	講師
3	1999	7	2012	6	東北大学 大学院工学研究科 土工学専攻	助教授(2007～准教授)
4	2012	7	現在		東北大学 災害科学国際研究所	教授

#### 学会活動

##### 所属学会

	学会名 1	2	3	4	5	6	7	8	9
	土木学会	日本計算工学会	日本機械学会	地盤工学会	材料学会	日本鉄鋼協会	非線形CAE協会	International Association for Computational Mechanics	Asia-Pacific Association for Computational Mechanics

##### 学会・委員会等での役職

	学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
1	International Association for Computational Mechanics	Executive Council	Member	20140501
2	International Association for Computational Mechanics	General Council	Member	20120501
3	非線形CAE協会		理事長	20090601
4	非線形CAE協会	非線形CAE勉強会実行委員会	委員長	20090601
5	International Journal for Numerical Methods in Engineering	Editorial Board	Associate Editor	20141001
6	Computational Mechanics	Editorial Board	Member	20110000
7	Engineering Computations	Editorial Advisory Board	Member	20140000
8	Journal of Mechanics of Materials and Structures	Board of Editors	Member	20180130
9	Advanced Modeling and Simulation in Engineering Sciences	Editorial Board	Associate Editor	20201001
10	日本学術会議	総合工学委員会 計算科学シミュレーションと工学設計分科会 計算力学小委員会	委員	20180401

##### 研究分野・キーワード

専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3
計算力学	応用力学	構造工学

##### 委員会・ワーキンググループ

##### 全学・他部局の委員会での委員

	部局名	委員会名	役職	開始年月日
1	工学研究科	将来計画委員会	委員	20200401

### B. 研究活動

#### 研究活動の概要

(1) MPM(物質点法)と呼ばれる解析手法をベースに、飽和地盤の固体としての挙動から過剰雨水による流体化、そして土砂流動といった一連の現象をシームレスに再現可能な数値シミュレーション手法を開発している。(2) 津波解析や複合材料の応力解析などの様々な数値シミュレーションについて、正規直交分解法を用いた代理モデルを構築する枠組みを開発している。(3) 様々な災害シミュレーションのプラットフォームとしてX-GISの開発を行っている。
---

#### 研究課題

	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	2006	4	現在		マルチスケールCAEソフトウェアの開発	国内
2	2012	4	現在		マルチスケール・マルチフィジックス解析手法の開発とCAEの高度化	両方
3	2012	4	現在		地域・都市の安全性評価のための重層的連成解析手法の開発	国内
4	2013	4	2020	3	遼上津波と構造物の相互作用評価のためのマルチスケール数値実験	国内
5	2016	4	現在		災害リスク評価のためのマルチスケール破壊シミュレーション手法の開発	国内
6	2017	4	2020	3	地震負荷履歴を受けた鋼構造物の残留強度評価のための二重損傷モデル	国内
7	2017	4	現在		変形・流動解析のためのMaterial Point Methodの開発と土砂災害シミュレーションへの応用	国内
8	2019	4	現在		フェーズフィールドき裂モデルによる超ハイテン材をの安定・不安なき裂進展の遷移挙動の解析	両方
9	2019	4	現在		数値シミュレーションの次元削減モデルおよび代理モデルの構築	両方

論文

単著	0	筆頭共著	0	その他の共著	16	合計	16	うち	国際査読有	11	国際査読無	0	国内査読有	5	国内査読無	0
----	---	------	---	--------	----	----	----	----	-------	----	-------	---	-------	---	-------	---

記述言語	区分	所外連携	国際学術誌	種別	査読	招待論文	論文題目名(原語)	著者氏名(共著者含)	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日
日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	有	いいえ	可変正則化パラメータを用いたPhase-field延性破壊モデル	韓露珂, 西紳之介, 高田賢治, 村松真由, 大宮正義, 小川賢介, 生田住, 小林卓哉, 村田真伸, 森口周二, 寺田賢二郎	日本計算工学会論文集	2020				20200415
英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Decoupled two-scale analysis of FRP in consideration of dependence of resin's properties on degree of cure	Risa Saito, Yuuya Yamaguchi, Shuji Moriguchi, Yasuko Mihara, Takaya Kobayashi, Kenjiro Terada	International Journal of Solids and Structures	190		199	215	20200501
英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	3D crystal plasticity analyses on the role of hard/soft inclusions in the local slip formation	Riccardo Fincato Scicchio Tsutsumi, Tatsuo Sakai, Kenjiro Terada	International Journal of Fatigue	134			105518	20200500
英語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	有	いいえ	An Enhanced Gurson Model with Cohesive Traction-Separation Law to Realize Transition from Ductile to Brittle Fracture	Takuya Kagimura, Yuichi Shintaku, Scicchio Tsutsumi, Kenjiro Terada	Quarterly Journal of the Japan Welding Society	38	2	126s	130s	20200600
日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	有	いいえ	繰返し載荷における塑性誘起損傷による強度と靱性の低下を考慮した結合力理込型弾塑性構成則	新宅 勇一, 副島克哉, 堤成一郎, 寺田賢二郎	鉄と鋼(日本鉄鋼協会論文集)	106	9	662	671	20200831
英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	First-Principles Study on Mechanical Properties of Polymer Formed in the Electrochemical Reduction of Fluoroethylene Carbonate and Vinylene Carbonate	Yuki Kamikawa, Kouji Amezawa, Kenjiro Terada	The Journal of Physical Chemistry C	124	37	19937	19944	20200821
英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Elastic-Plastic Deformation of a Solid Electrolyte Interface Formed by Reduction of Fluoroethylene Carbonate: A Nanoindentation and Finite Element Analysis Study	Yuki Kamikawa, Kouji Amezawa, Kenjiro Terada	The Journal of Physical Chemistry C	124	41	22488	22495	20200821
英語	共著	両方	はい	学術雑誌	有	いいえ	Probabilistic tsunami hazard assessment with simulation-based response surface	T. Kotani, K. Tozato, S. Takase, S. Moriguchi, K. Terada, Y. Fukutani, Y. Otake, K. Nojima, M. Sakuraba, Y. Choe	Coastal Engineering	160			103719	20200900
英語	共著	両方	はい	学術雑誌	有	はい	FEr method with surrogate localization model for hyperelastic composite materials	Ryo Hatano, Seishiro Matsubara, Shuji Moriguchi, Kenjiro Terada, Julien Yvonnet	Advanced Modeling and Simulation in Engineering Sciences	7			39	20201006
日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	有	いいえ	津波荷重評価に用いる水深係数のモード分解による空間的不確実性評価	福谷陽, 森口周二, 寺田賢二郎, 嶋原良典	海岸工学論文集	76	2	1_295	1_300	20201104
日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	有	いいえ	微圧縮超弾性体の熱・機械完全連成問題に対する増分型Mean dilatation法	松原成志朗, 奥村大, 寺田賢二郎	計算数理工学論文集	20			05-201219	20201200
英語	共著	両方	はい	学術雑誌	有	いいえ	Advances of International Collaboration on M9 Disaster Science: Scientific Session Report	Elizabeth Malv, Kenjiro Terada, Randall J LeVeque, Naoko Kuriyama, Daniel Abramson, Lan T. Nguyen, Ann Bostrom, Jorge Leon, Michael Motley, Patricia Catalan, Shunichi Koshimura, Shuji Moriguchi, Yuuya Yamaguchi, Carrie Garrison-Laney, Anawat Suppasri, Erick Mas	Journal of Disaster Research	15	7	890	899	20201201
英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	A variationally consistent formulation of the thermo-mechanically coupled problem with non-associative viscoplasticity for glassy amorphous polymers	Seishiro Matsubara, Kenjiro Terada	International Journal of Solids and Structures	212	1	152	168	20210300
日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	有	いいえ	離散要素法を用いた粒状体の流動解析に及ぼす解析パラメータの寄与率の定量化	森口周二, 奥山大輝, 寺田賢二郎, 大竹雄, 青木尊之	土木学会論文集A2(応用力学)	76	2	1_369	1_377	20210100
英語	共著	国外	はい	学術雑誌	有	いいえ	A decoupling scheme for two-scale finite thermoviscoelasticity with thermal and cure-induced deformations	Risa Saito, Yosuke Yamanaka, Seishiro Matsubara, Shuji Moriguchi, Tomonaga Okabe, Kenjiro Terada	International Journal for Numerical Methods in Engineering	122	41	1133	1166	20210228
英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Energy-Loss Near-Edge Structures and Low-Loss Structures of Solid Electrolyte Interface Formed from Fluoroethylene Carbonate on Si Anode with DFT Calculations	Yuki Kamikawa, Kouji Amezawa, Kenjiro Terada	The Journal of Physical Chemistry C	124		22488	22495	20210300

著書(監修・編集・単著・共著)

監修	0	編集	0	単著	1	筆頭共著	0	共著	0	合計	1	うち	国際	0	国内	1
----	---	----	---	----	---	------	---	----	---	----	---	----	----	---	----	---

記述言語	著書名および担当執筆題名	種別	発行年月日	著者・監修者氏名	区分	出版社名	所外連携	発行部数
日本語	「災害シミュレーション」『東日本大震災からのスタート:災害を考える51のアプローチ』第12章, pp.47-50	編集本(著者・Author)	20210311	寺田賢二郎 (東北大学災害科学国際研究所)	単著	東北大学出版会		1400

総説・解説(大学紀要・学術雑誌・学会誌・商業雑誌など)

単著	0	筆頭共著	0	その他の共著	1	合計	1	うち	国際査読有	0	国際査読無	0	国内査読有	0	国内査読無	1
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

記述言語	題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	区分	所外連携
日本語	固液混合MPMによる地盤構造物物の流動化シミュレーション	学術雑誌	無	はい	シミュレーション	39	2	53	57	20200600	山口裕矢, 森口周二, 寺田賢二郎	共著	なし

学会発表

単名	0	筆頭 連名	0	その他の 連名	11	合計	11
----	---	----------	---	------------	----	----	----

	国内 国際	会議名称	会議の チェア	区分	招待	講演・発表の形態	会場名	開催 都市名	開催 国名	開催期間		発表 年月日	題目名(原語)	連名者名 (発表者に下線)
										開始年月	終了年月			
1	国内	プラスチック成形加工学会第28回秋季大会(成形加工シンポジウム'20)	真田和昭	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	オンライン		日本	20201201	20201202	20201201	現場重合型熱可塑性エポキシ樹脂の非線形力学挙動の推定	<u>逸宮聖人</u> , 平山紀夫, 山本見司, 松原成志朗, 寺田賢二郎
2	国内	プラスチック成形加工学会第28回秋季大会(成形加工シンポジウム'20)	真田和昭	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	オンライン		日本	20201201	20201202	20201201	数値材料試験とニューラルネットワークを用いた一方向CFRPの界面強度評価	<u>鷹見凌</u> , 平山紀夫, 染宮聖人, 山本見司, 寺田賢二郎
3	国内	第23回応用力学シンポジウム	満岡良介	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	オンライン		日本	20200516	20200516	20200516	個別要素法を用いた粒状体の流動解析に及ぼす解析パラメータの寄与度の定量化	<u>森口周二</u> , 奥山大輝, 寺田賢二郎
4	国内	第23回応用力学シンポジウム	満岡良介	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	オンライン		日本	20200516	20200516	20200516	固液混合MPMを用いた地盤構造物のマルチステージ浸透破壊解析	<u>山口裕矢</u> , 飛野野壮真, 高瀬慎介, 森口周二, 金子賢治, 寺田賢二郎
5	国際	The 3rd International Conference on Computational Engineering and Science for Safety and Environmental Problems (COMPSAFE2020)	Daigoro Isobe	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	オンライン	Kobe	Japan	20201209	20201111	20201109	Sensitivity analysis of DEM parameters in granular flow simulations	<u>Shuji Moriguchi</u> , Hiroki Okuyama, Kenjiro Terada, Yu Otake
6	国際	The 3rd International Conference on Computational Engineering and Science for Safety and Environmental Problems (COMPSAFE2020)	Daigoro Isobe	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	オンライン	Kobe	Japan	20201210	20201111	20201110	Thermo-mechanical coupled two-scale analysis involving microscopic thermal inertia	<u>Seishiro Matsubara</u> , Dai Okumura, Kenjiro Terada
7	国際	The 3rd International Conference on Computational Engineering and Science for Safety and Environmental Problems (COMPSAFE2020)	Daigoro Isobe	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	オンライン	Kobe	Japan	20201210	20201111	20201110	A study on topology optimization of microstructure for transient thermal energy transport in porous media	<u>Naruthep Sukulthanasorn</u> , Hiroya Hoshiba, Mao Kurumatani, Junji Kato, Kenjiro Terada
8	国際	The 3rd International Conference on Computational Engineering and Science for Safety and Environmental Problems (COMPSAFE2020)	Daigoro Isobe	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	オンライン	Kobe	Japan	20201111	20201111	20201111	Assessment of residual strength and toughness of steel bridge by a cohesive force embedding constitutive law combined with plasticity-induced damage and memory surface	<u>Fumitoshi Nakamura</u> , Yuuichi Shintaku, Seichiro Tsutsumi, Kenjiro Terada
9	国際	14th World Congress on Computational Mechanics (WCCM XIV) 8th European Congress on Computational Methods in Applied Science and Engineering (ECCOMAS 2020)	Francisco Chinesta	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	オンライン	Paris	France	20210111	20210115	20210112	Coupled Material Point Method for Simulation of Seepage Failure with Fluidization	<u>Yuva Yamaguchi</u> , Shuji Moriguchi and Kenjiro Terada
10	国際	14th World Congress on Computational Mechanics (WCCM XIV) 8th European Congress on Computational Methods in Applied Science and Engineering (ECCOMAS 2020)	Francisco Chinesta	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	オンライン	Paris	France	20210111	20210115	20210113	Two-Scale Analysis of Fiber Reinforced Plastics Subjected to Curing in Finite Strain Thermo-Chemo-Viscoelasticity	<u>Risa Saito</u> , Yosuke Yamanaka, Seishiro Matsubara, Shuji Moriguchi, <u>Kenjiro Terada</u>
11	国際	14th World Congress on Computational Mechanics (WCCM XIV) 8th European Congress on Computational Methods in Applied Science and Engineering (ECCOMAS 2020)	Francisco Chinesta	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	オンライン	Paris	France	20210111	20210115	20210114	MULTI-SCALE TOPOLOGY OPTIMIZATION FOR TRANSIENT HEAT TRANSPORTATION IN POROUS MATERIAL	<u>Naruthep Sukulthanasorn</u> , Hiroya Hoshiba, Mao Kurumatani, Junji Kato, Kenjiro Terada

C. 教育活動

教育活動の概要

博士課程の学生全員を国際会議(オンライン)にて口頭発表させ、国際的な視点での研究の展開を意識させた。また、土木工学専攻の学部生、大学院生に対する専門教育のほか、リーディング大学院における「実践的防災学V」を提供した。災害の物理化学的メカニズムを解明したり、信頼性の高い予測を行うことで被害の最小化したりするための解析および可視化技術を紹介した。また、安全で安心な社会を創造するための数値シミュレーションの役割と、その手法開発、ならびに可視化(見える化)の意義を解説した。

担当授業科目(他大学を含む)

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	Semester・学期	コマ数 90分/コマ
1	計算力学及び同演習	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	3	5セメ	22.5
2	計算固体力学	東北大学	工学研究科	土木工学専攻		前期	15
2	非均質材料の力学	東北大学	工学研究科	土木工学専攻		前期	15
3	実践的防災学V	東北大学	工学研究科	リーディング大学院		前期	1
4	創造工学研修	東北大学	工学研究科	建築・社会環境工学科	1	後期	15
5	災害の科学	東北大学	全学		1	2セメ	2

D. 社会活動

社会活動の概要

CAE技術者を対象とした勉強会を企画・運営し、有限要素法を中心とした解析理論・技術のセミナーの講師を務めるなど、社会人教育に取り組んだ。また、松島町総合計画審議会および松島町都市計画審議会委員を務め、町の総合計画の調整その他その実施の促進のために必要な調査および審議を行った。

一般向けセミナー・講演等の主催・共催・運営等(研究活動以外)

合計 4 件

	国内 国際	主催団体名・ 運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場名	開催 都市名	開催 国名	担当	参加 人数	IRIDeSの 関与	講演会・セミナー等
				開始年月日	終了年月日							
1	国内	NPO法人・非線形 CAE協会	第35期非線形CAE勉強会(第1回)	20201024	20201024	オンライン		日本	実行委員長	200	なし	セミナー
2	国内	NPO法人・非線形 CAE協会	第35期非線形CAE勉強会(第2回)	20201107	20201107	オンライン		日本	実行委員長	200	なし	セミナー
3	国内	NPO法人・非線形 CAE協会	第35期非線形CAE勉強会(第3回)	20201121	20201121	オンライン		日本	実行委員長	200	なし	セミナー
4	国内	NPO法人・非線形 CAE協会	第35期非線形CAE勉強会(第4回)	20201205	20201205	オンライン		日本	実行委員長	200	なし	セミナー

講演・講義等(研究活動以外)

合計 1 件

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	連携	主催者	会場名	開催 都市名	開催 国名	参加人数
				開始年月日	終了年月日							
1	講演会	The International Symposium on Sustainability in the Dynamic Earth	招待講演	20201118	20201118	Data-driven numerical simulations for improving resilient infrastructure	なし	Tohoku University WISE Program for Sustainability in the Dynamic Earth	The Westing Sendai	Sendai	Japan	100

自治体・民間等での委員

	区分	組織・団体名	委員会名	委員・役職名	開始年月日
1	地方自治体	松島町	総合計画審議会	委員	20140401
2	地方自治体	松島町	都市計画審議会	委員	20140401

その他、他機関等との交流実績(国内に限る)

合計 3 件

	交流機関名称	交流者	交流年月日	交流目的	会場名	開催 都市名	主な担当 内容	参加 人数
1	名城大学 理工学部 社会基盤デザイン工学科	小高猛司, 溝口敦 子, 武藤厚, 鈴木温	20200710	共同研究	オンライン	仙台	運営	20
2	名城大学 理工学部 社会基盤デザイン工学科	小高猛司, 溝口敦 子, 中村一樹	20200918	共同研究	オンライン	仙台	運営	20
3	名城大学 理工学部 社会基盤デザイン工学科	小高猛司, 溝口敦 子, 葛漢彬	20201119	共同研究	オンライン	仙台	運営	20

## 森口 周二 准教授

## MORIGUCHI Shuji

地域・都市再生研究部門 計算安全工学研究分野

## A. 基本情報・略歴

## 出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	岐阜大学	工学部	2000	3	岐阜大学大学院	工学研究科	2002	3	博士(工学)	2005	3

## 職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	2005	4	2006	3	岐阜大学 工学部	学術研究補佐員
2	2006	4	2007	3	東京工業大学 原子炉工学研究所	特別研究員
3	2007	4	2009	3	東京工業大学(日本学術振興会特別研究員(PD))	日本学術振興会特別研究員(PD)
4	2008	6	2009	3	Stanford University(日本学術振興会特別研究員(PD)期間中)	Visiting scholar
5	2009	4	2010	5	岐阜大学 工学部	学術研究補佐員
6	2010	6	2013	3	岐阜大学 工学研究科	助教
7	2013	4	現在		東北大学 災害科学国際研究所	准教授

## 学会活動

## 所属学会

	学会名 1	2	3	4	5	6
	地盤工学会	日本計算工学会	日本機械学会	土木学会	日本自然災害学会	日本地すべり学会

## 学会・委員会等での役職

	学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
1	地盤工学会	TC105国内委員会	幹事長	20120000
2	土木学会	応用力学委員 V&V小委員会	幹事	20140000
3	土木学会	原子力土木委員会	委員	20150000
4	土木学会	計算力学小委員会	幹事	20160000
5	地盤工学会	Soils and Foundations編集委員会	Executive board member	20160000
6	地盤工学会	調査研究部	幹事長	20170000
7	計算工学会	多元災害研究会	幹事	20170000
8	計算工学会	不確かさのモデリング・シミュレーション法に関する研究会	幹事	20180000
9	土木学会, 地盤工学会, 日本地すべり学会	2019年台風第19号災害に関する東北学術合同調査団	幹事	20190000
10	地盤工学会	東北支部	幹事長	20190000
11	International Society for Soil Mechanics and Geotechnical Engineering	TC105 Geo-mechanics	Member	20190000

## 研究分野・キーワード

	専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3
	地盤工学	計算工学	斜面災害

## 委員会・ワーキンググループ

## 全学・他部局の委員会での委員

	部局名	委員会名	役職	開始年月日
1	工学研究科土木工学専攻	大学院入試ワーキング	主担当	20170000
2	工学研究科土木工学専攻	ネットワーク係	メンバー	20180000

## B. 研究活動

## 研究活動の概要

斜面災害シミュレーションについては、個別要素法を用いた落石および土砂流動のシミュレーションに関して、V&Vを達成するための計算条件の分析を進めた。また、津波と地震を対象として、数値解析結果を効果的に活用した確率的危険度評価に関する研究を進めた。また、広域の土砂災害危険度予測を可能とする手法を開発し、2019年北海道胆振東部地震と令和元年東日本台風で発生した土砂災害を対象として検証を行った。災害調査については、令和2年7月の山形豪雨と2月の福島県沖地震の緊急調査を実施した。

研究課題

	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	2006	4	現在		地盤材料の直接計算に関する研究	国内
2	2009	4	現在		数値流体解析による雪崩危険度評価に関する研究	国内
3	2009	4	現在		個別要素法による斜面災害危険度評価に関する研究	国内
4	2013	4	現在		数値解析に基づく災害の確率論的危険度評価	両方
5	2013	4	現在		津波による建造物の破壊に関する数値解析手法の開発	国内
6	2016	4	現在		災害における情報発信や行政対応に関する研究	国内
7	2018	11	現在		数値解析とデータサイエンスを融合した災害リスク評価	両方

論文

単著	0	筆頭共著	1	その他の共著	10	合計	11	うち	国際査読有	6	国際査読無	0	国内査読有	5	国内査読無	0
----	---	------	---	--------	----	----	----	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

記述言語	区分	所外連携	国際学術誌	種別	査読	招待論文	論文題目名(原語)	著者氏名(共著者含)	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日
日本語	筆頭共著	国内	いいえ	学術雑誌	有	いいえ	離散要素法を用いた粒状体の流動解析に及ぼす解析パラメータの寄与率の定量化	森口周二, 奥山大輝, 寺田賢二, 大竹雄, 青木尊之	土木学会論文集A2(応用力学)	76	2	1_369	1_377	20210100
英語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	有	いいえ	SPECIAL ISSUE ON THE HEAVY RAIN EVENT OF JULY 2018 IN WESTERN JAPAN	Tatsuhiko UCHIDA, Yoshihisa AKAMATSU, Yoshiharu SUZUKI, Shuji MORIGUCHI, Yasushi OKAWA, Hiromi SHIRAHATA, Norihiro IZUMI	Journal of JSCE	9	1	1	7	20210120
日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	有	いいえ	可変正則化パラメータを用いたPhase-field延性破壊モデル	韓露珂, 西神之介, 高田賢治, 村松真由, 大宮正毅, 小川賢介, 生出佳, 小林卓哉, 村田真伸, 森口周二, 寺田賢二	日本計算工学会論文集	2020				20200005 20200415
英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Decoupled two-scale analysis of FRP in consideration of dependence of resin's properties on degree of cure	Risa Saito, Yuva Yamaguchi, Shuji Moriguchi, Yasuko Mihara, Takaya Kobayashi, Kenjiro Terada	International Journal of Solids and Structures	190		199	215	20200501
日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	有	いいえ	熱硬化性樹脂の粘弾性と硬化度時間発展の増分型変分法による定式化	山中羅介, 松原成志朗, 齋藤理沙, 森口周二, 寺田賢二	日本計算工学会論文集	2020				20200011 20200623
英語	共著	両方	はい	学術雑誌	有	いいえ	Probabilistic tsunami hazard assessment with simulation-based response surface	T. Kotani, K. Tozato, S. Takase, S. Moriguchi, K. Terada, Y. Fukutani, Y. Otake, K. Nojima, M. Sakuraba, Y. Choe	Coastal Engineering	160				103719 20200520
英語	共著	両方	はい	学術雑誌	有	はい	FEM method with surrogate localization model for hyperelastic composite materials	Ryo Hatano, Seishiro Matsubara, Shuji Moriguchi, Kenjiro Terada, Julien Yvonnet	Advanced Modeling and Simulation in Engineering Sciences	7				39 20201006
日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	有	いいえ	津波荷重評価に用いる水深係数のモード分解による空間的不確実性評価	福谷陽, 森口周二, 寺田賢二, 嶋原良典	海岸工学論文集	76	2	1_295	1_300	20201104
英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Suppression of arsenic release from alkaline excavated rock by calcium dissolved from steel slag	Sayuko Hada, Shuji Moriguchi, Yuuzo Akashi, Masahiko Katoh	Environmental Geochemistry and Health	42	11	3983	3993	20201101
英語	共著	両方	はい	学術雑誌	有	いいえ	Advances of International Collaboration on M9 Disaster Science: Scientific Session Report	Elizabeth Malv, Kenjiro Terada, Randall J LeVeque, Naoko Kuriyama, Daniel Abramson, Lan T. Nguyen, Ann Bostrom, Jorge Leon, Michael Motley, Patricio Catalan, Shunichi Koshimura, Shuji Moriguchi, Yuva Yamaguchi, Carrie Garrison-Laney, Anawat Suppasri, Erick Mas	Journal of Disaster Research	15	7	890	899	20201201
日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	有	いいえ	道路に対する落石のリスク評価に基づいた落石対策工の最適設計	津田悠人, 穴倉輝海, 塚本裕朗, 吉田郁政, 菅野蓮華, 森口周二	土木学会論文集A2(応用力学)	76	2	1_531	1_541	20200000



著書(監修・編集・単著・共著)

監修 編集	0	単著	1	筆頭 共著	0	共著	2	合計	3	うち	国際	1	国内	2
----------	---	----	---	----------	---	----	---	----	---	----	----	---	----	---

記述 言語	著書名および担当執筆題名	種別	発行年月日	著者・監修者氏名	区分	出版社名	所外 連携	発行 部数
1 日本語	2019年台風第19号災害に関する東北学術合同調査団報告書 地盤災害・土砂災害等(宮城県における被害)	その他	20201101	2019年台風第19号災害に関する東北学術合同調査団	共著	2019年台風第19号災害に関する東北学術合同調査団	国内	500
2 英語	Seismic Performance-based Design for Resilient and Sustainable Slope Engineering	編集本 (著者・Author)	20200512	Yu Huang, Jin Sun, Shuui Moriguchi	共著	Elsevier	国外	
3 日本語	「地盤災害と斜面災害の科学」(『東日本大震災からのスタート:災害を考える51のアプローチ』第5章, pp.17-20)	編集本 (著者・Author)	20210311	森口周二 (東北大学災害科学国際研究所)	単著	東北大学出版会	なし	1400

総説・解説(大学紀要・学術雑誌・学会誌・商業雑誌など)

単著	0	筆頭共著	1	その他の 共著	2	合計	3	うち	国際 査読有	0	国際 査読無	0	国内 査読有	1	国内 査読無	2
----	---	------	---	------------	---	----	---	----	-----------	---	-----------	---	-----------	---	-----------	---

記述 言語	題目名(原語)	種別	査読	招待 論文	論文掲載誌名 (原語)	巻 号	開始 ページ	終了 ページ	発行年月日	著者氏名 (共著者含)	区分	所外 連携	
1 日本語	第23回応用力学シンポジウムの報告	学術雑誌	無	はい	計算工学	39	2	35	37	20191031	森口周二, 中井健太郎, 西尾真由子, 溝口敦子, 牛島省	筆頭共著	国内
2 日本語	土木分野におけるV&Vの現状	学術雑誌	有	はい	日本機械学会誌	123	1222	14	17	20200900	櫻井英行, 渦岡良介, 森 口周二, 山本佳士, 車谷 麻緒, 岡崎慎一郎, 上田 尚史, 小倉大季	共著	国内
3 日本語	固液混合MPMによる地盤構造部部の流動化シ ミュレーション	学術雑誌	無	はい	シミュレーション	39	2	53	57	20200600	山口裕矢, 森口周二, 寺 田賢二郎	共著	なし

学会発表

単名	0	筆頭 連名	5	その他の 連名	2	合計	7
----	---	----------	---	------------	---	----	---

国内 国際	会議名称	会議の チュア	区分	招待	講演・発表の 形態	会場名	開催 都市名	開催 国名	開催期間		発表年月 日	題目名(原語)	連名者名 (発表者に下線)
									開始年月	終了年月			
1 国際	The Seventh Asian-Pacific Symposium on Structural Reliability and Its Applications (APSSRA2020)	Daigo Isobe	筆頭連名	いいえ	口頭(一般)	オンライン	東京	日本	20201005	20201007	20201006	Sensitivity analysis of DEM parameters in granular flow simulations	S. Moriguchi, H. Okuyama, K. Terada, and Y. Otake
2 国際	3rd International Conference on Computational Engineering and Science for Safety and Environmental Problems (COMPSAFE 2020).	Daigo Isobe	筆頭連名	いいえ	口頭(一般)	オンライン	神戸	日本	20201208	20201211	20201210	Sensitivity analysis of DEM parameters in granular flow simulations	S. Moriguchi, H. Okuyama, K. Terada, and Y. Otake
3 国際	14th World Congress on Computational Mechanics and 8th. European Congress on Computational Methods in Applied Science and Engineering	Francisco Chinesta	筆頭連名	いいえ	口頭(一般)	オンライン	パリ	フランス	20210111	20210115	20210111	Surrogate-based sensitivity analysis for granular flow simulations using DEM	S. Moriguchi, H. Okuyama, K. Terada
4 国内	第23回応用力学シンポジウム	渦岡良介	筆頭連名	いいえ	口頭(一般)	オンライン	東京	日本	20200516	20200517	20200517	個別要素法を用いた粒状体の流動解析に及ぼす解析パラメータの寄与度の定量化	森口周二, 奥山大輝, 寺田賢二郎
5 国内	第62回地盤工学シンポジウム	高橋直樹	筆頭連名	いいえ	口頭(一般)	オンライン	東京	日本	20201218	20201218	20201218	異なる解析ツールを用いた支持力の一斉解析	森口周二, 中井健太郎, 大野進太郎, 佐藤伸, 若井明彦, 竹原和夫, 鈴木集人, 石川裕規, 渦岡良介, 櫻井英行
6 国際	14th World Congress on Computational Mechanics (WCCM XIV) 8th European Congress on Computational Methods in Applied Science and Engineering (ECCOMAS 2020)	Francisco Chinesta	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	オンライン	Paris	France	20210111	20210115	20210112	Coupled Material Point Method for Simulation of Seepage Failure with Fluidization	Yuya Yamaguchi, Shuji Moriguchi and Kenjiro Terada
7 国際	14th World Congress on Computational Mechanics (WCCM XIV) 8th European Congress on Computational Methods in Applied Science and Engineering (ECCOMAS 2020)	Francisco Chinesta	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	オンライン	Paris	France	20210111	20210115	20210113	Two-Scale Analysis of Fiber Reinforced Plastics Subjected to Curing in Finite Strain Thermo-Chemo-Viscoelasticity	Risa Saito, Yosuke Yamana, Seishiro Matsubara, Shuji Moriguchi, Kenjiro Terada

学術会議・シンポジウム等の主催・共催・運営等

合計 3 件

	国内 国際	種別	主催団体名・運営 団体名等	イベント名称	開催期間		会場	開催 都市名	開催 国名	参加人数 (のりこ)	分野	担当	IRIDeSの 関与	共催機関名	所外 連携
					開始年月	終了年月									
1	国内	研究会	東北大学災害科学 国際研究所計算安 全工学研究分野	災害科学に関する最新研究成果 の情報交換会	20200710	20200710	オンライン	仙台	日本	15 (0)	工学	運営全般	なし	名城大学	国内
2	国内	研究会	東北大学災害科学 国際研究所計算安 全工学研究分野	災害科学に関する最新研究成果 の情報交換会	20200918	20200918	オンライン	仙台	日本	15 (0)	工学	運営全般	なし	名城大学	国内
3	国内	研究会	東北大学災害科学 国際研究所計算安 全工学研究分野	災害科学に関する最新研究成果 の情報交換会	20201119	20201119	オンライン	仙台	日本	15 (0)	工学	運営全般	なし	名城大学	国内

C. 教育活動

教育活動の概要

プログラミングや力学に関する講義を提供した。また、各講義の中では、これまでに実施した災害調査の結果や災害の教訓などを関連付けて説明した。研究室内の学生については、災害シミュレーションやそれを用いたリスク評価に関する研究を中心として指導を行った。

担当授業科目(他大学を含む)

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	Semester・ 学期	コマ数 90分/コマ
1	振動解析学	東北大学	全学		3	6セメ	15
2	非均質材料の力学	東北大学	工学研究科	土木工学専攻		後期	7.5
3	数値解析	東北大学	工学研究科	土木工学専攻		前期	7.5
4	地盤工学II	宮城大学	食産業学部		3	後期	6

D. 社会活動

社会活動の概要

斜面災害や土砂災害に関する防災教育を目的として新聞やラジオを通じて土砂災害に関する情報を発信した。また、学会等が運営するセミナーや講習会等でも講演を行った。特に、令和元年東日本台風(2019年台風第19号)に関する報告会では、運営、司会、講演を担当した。

一般向けセミナー・講演等の主催・共催・運営等(研究活動以外)

合計 2 件

	国内 国際	主催団体名・ 運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場名	開催 都市名	開催 国名	担当	参加 人数	IRIDeSの 関与	講演会・セミナー等
				開始年月日	終了年月日							
1	国内	土木学会東北支部 地盤工学会東北支部 日本地すべり学会東 北支部 東北大学災害科学 国際研究所	2019年台風第19号災害に関する東北学 術合同調査団最終報告会	20201120	20201120	オンライン		日本	運営幹事	120	IRIDeS主催・ 共同主催	講演会
2	国内	地盤工学会	地盤工学フォーラム	20200119	20200119	オンライン		日本	運営幹事, 司会	100	なし	講演会

講演・講義等(研究活動以外)

合計 4 件

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	連携	主催者	会場名	開催 都市名	開催 国名	参加人数
				開始年月日	終了年月日							
1	公開講座	化学工学会粒子流体ブ ロセス部会気泡・液滴・ 微粒子分散工学分科会	招待講演	20210322	20210322	固有直交分解の基礎と災害研究への応 用	なし	化学工学会粒 子流体プロセス 部会気泡・液 滴・微粒子分散 工学分科会	オンライン		日本	50
2	公開講座	気仙沼親子防災教室	講演	20200808	20200808	親子で学べる防災教室「液状化の仕組み を知ろう」	行政	気仙沼市 東北大災害研	気仙沼東日本 大震災遺構・ 伝承館	気仙沼市	日本	10
3	セミナー	宮城県土砂災害研修	講演	20210204	20210204	令和元年東日本台風(2019年台風19号) による東北地方の被害と教訓	行政	宮城県	オンライン		日本	50
4	その他	仙台市片平地区リスク座 談会	講演	20201107	20201107	土砂災害について	行政	東北大災害研	片平丁小学校	仙台市	日本	40

自治体・民間等での委員

	区分	組織・団体名	委員会名	委員・役職名	開始年月日
1	地方自治体	宮城県丸森町	再生可能エネルギー発電設備設置協議会	副委員長	20200401

その他、他機関等との交流実績(国内に限る)

合計 4 件

	交流機関名称	交流者	交流年月日	交流目的	会場名	開催都市名	主な担当内容	参加人数
1	名城大学 理工学部 社会基盤デザイン工学科	小高猛司, 溝口敦子, 武藤厚, 鈴木温	20200710	共同研究	オンライン	仙台	運営	20
2	名城大学 理工学部 社会基盤デザイン工学科	小高猛司, 溝口敦子, 中村一樹	20200918	共同研究	オンライン	仙台	運営	20
3	名城大学 理工学部 社会基盤デザイン工学科	小高猛司, 溝口敦子, 葛漢彬	20201119	共同研究	オンライン	仙台	運営	20
4	名城大学 理工学部 社会基盤デザイン工学科	小高猛司, 溝口敦子, 葛漢彬, 鈴木温, 中村一樹	20210121	共同研究	オンライン	仙台	運営	15

# 山口 裕矢 助手

## YAMAGUCHI Yuya

地域・都市再生研究部門 計算安全工学研究分野

### A. 基本情報・略歴

#### 出身大学・大学院

No.	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	東北大学	工学部	2016	3	東北大学大学院	工学研究科	2018	3	修士	2018	3

#### 職歴

No.	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	2018	4	現在		東北大学 災害科学国際研究所	助手

#### 学会活動

##### 所属学会

学会名	1	2	3
土木学会		日本計算工学会	地盤工学会

#### 研究分野・キーワード

専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3
計算力学	応用力学	地盤工学

#### 研究活動の概要

地盤の崩壊～土砂流動発生までの一連の災害現象を捕捉するための数値計算手法開発に関する研究を中心に取り組んだ。時空間的に幅広い土砂災害の解析手法として、精度や安定性、効率性の面でより適する流体解析手法や、幅広い土の挙動を表現する材料モデルの構築に重きを置いた開発を行った。構築した手法を用いて基礎的な例題や実験結果との比較による検証を実施した後、実際の地形を用いたモデルによる再現解析を行い、その表現性能を確認した。複数の国内・国際学会で研究成果を発表し、開発した手法についての意見・評価をいただいた。

#### 研究課題

No.	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	2018	4	現在		飽和・不飽和地盤の変形・流動の数値シミュレーション	なし

#### 論文

単著	0	筆頭共著	1	その他の共著	1	合計	2	うち	国際査読有	2	国際査読無	0	国内査読有	0	国内査読無	0
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

No.	記述言語	区分	所外連携	国際学術誌	種別	査読	招待論文	論文題目名(原語)	著者氏名(共著者含)	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日
1	英語	共著	両方	はい	学術雑誌	有	いいえ	Advances of International Collaboration on M9 Disaster Science: Scientific Session Report	Elizabeth Maly, Kenjiro Terada, Randall J LeVeque, Naoko Kuriyama, Daniel Abramson, Lan T. Nguyen, Ann Bostrom, Jorge Leon, Michael Motley, Patricio Catalan, Shunichi Koshimura, Shuji Moriguchi, Yuya Yamaguchi, Carrie Garrison-Laney, Anawat Suppasri, Erick Mas	Journal of Disaster Research	15	7	890	899	20201201
2	英語	筆頭共著	なし	はい	学術雑誌	有	いいえ	Extended B-spline-based implicit material point method	Yuya Yamaguchi, Shuji Moriguchi, Kenjiro Terada	International Journal for Numerical Methods in Engineering	122	7	1746	1769	20211204

#### 総説・解説(大学紀要・学術雑誌・学会誌・商業雑誌など)

単著	0	筆頭共著	1	その他の共著	0	合計	1	うち	国際査読有	0	国際査読無	0	国内査読有	0	国内査読無	1
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

No.	記述言語	題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	区分	所外連携
1	日本語	固液混合MPMによる地盤構造部物の流動化シミュレーション	学術雑誌	無	はい	日本シミュレーション学会	39	2	53	57	20200600	山口裕矢, 森口周二, 寺田賢二郎	共著	なし

学会発表

単名	0	筆頭 連名	2	その他の 連名	0	合計	2
----	---	----------	---	------------	---	----	---

	国内 国際	会議名称	会議の チェア	区分	招待	講演・発表の形態	会場名	開催 都市名	開催 国名	開催期間		発表 年月日	題目名(原語)	連名者名 (発表者に下線)
										開始年月	終了年月			
1	国内	第23回応用力学シンポジウム	牛島 省	筆頭連名	いいえ	ポスター(一般)	オンライン	オンライン	オンライン	20200516	20200516	20200516	固液混合MPMを用いた地盤構造物のマルチステージ浸透破壊解析	<u>山口 裕矢</u> , 飛騨野庄 真, 高瀬 慎介, 森口 周二, 金子賢治, 寺田 賢二郎
2	国際	14th World Congress in Computational Mechanics and ECCOMAS Congress	Francisco Chinesta	筆頭連名	いいえ	口頭(一般)	オンライン	オンライン	オンライン	20200111	20200115	20200113	Coupled material point method for simulation of seepage failure with fluidization	<u>Yuya Yamaguchi</u> , Shuji Moriguchi, Kenjiro Terada

C. 教育活動

教育活動の概要

崩壊土砂の衝撃力評価や、地盤構造の浸透破壊・流動化などに関する研究で利用する数値計算手法の指導に携わった。

D. 社会活動

社会活動の概要

特になし

# 村尾 修 教授

## MURAO Osamu

地域・都市再生研究部門 国際防災戦略研究分野

### A. 基本情報・略歴

#### 出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	横浜国立大学	工学部	1989	3	横浜国立大学大学院	工学研究科	1992	3	博士(工学)(東京大学)	1999	12

#### 職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	1995	4	1996	11	(株)防災都市計画研究所	研究員
2	1996	11	2000	11	東京大学生産技術研究所	助手
3	2000	12	2005	12	筑波大学 社会工学系(大学院 システム情報工学研究科)	講師
4	2005	12	2013	3	筑波大学大学院 システム情報工学研究科	助教授・准教授
5	2013	4	現在		東北大学 災害科学国際研究所	教授

#### 学会活動

##### 所属学会

学会名 1	2	3	4	5	6
日本建築学会	日本都市計画学会	地域安全学会	日本自然災害学会	日本地震工学会	Earthquake Engineering Research Institute

#### 学会・委員会等での役職

	学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
1	地域安全学会	東日本大震災特別委員会	委員長	20150700
2	地域安全学会	理事会	代表理事(会長)	20200620
3	日本地震工学会	17th World Conference on Earthquake Engineering 社交・接遇委員会	委員長	20171100
4	日本地震工学会	17th World Conference on Earthquake Engineering 展示委員会	委員	20170100
5	日本地震工学会	17th World Conference on Earthquake Engineering 製作委員会	委員	20180100
6	International Symposium on New Technologies for Urban Safety of Mega Cities in Asia	Committee	Steering Committee	20170100
7	Asian Conference Earthquake Engineering	Committee	Steering Committee	20180400
8	The Association of Pacific Rim Unibersities (APRU)	Multi-Hazards Program	Chair	20180400
9	Progress in Disaster Science	Editorial Board	Editorial Board Member	20190000

#### 研究分野・キーワード

専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3
都市防災	都市復興	都市の脆弱性評価

#### 委員会・ワーキンググループ

##### 全学・他部局の委員会での委員

	部局名	委員会名	役職	開始年月日
1	工学研究科 都市・建築学専攻	カリキュラム委員会	委員	20160401
2	工学研究科 都市・建築学専攻	入学試験実施本部	委員	20170401
3	工学研究科 都市・建築学専攻	工学分館運営委員会	委員	20190401
4	全学	災害科学・安全学国際共同大学院運営委員会	委員	20180000
5	全学	環境安全委員会 環境マネジメント専門委員会	委員	20180000
6	全学	科研費アドバイザー	アドバイザー	20180901
7	全学	情報公開・個人情報開示等委員会委員	委員	20190401
8	全学	全学教育改革検討委員会	委員	20190401

B. 研究活動

研究活動の概要

(1)ヤンゴン(ミャンマー)における地震被害想定に基づく地域ごとの建物倒壊に関する脆弱性評価を行った。また、スラム地区において実施した居住環境実態調査をもとに、災害に対する脆弱性軽減の提案に取り組んだ。(2)東日本大震災後に継続実施している復興モニタリング調査に基づき、過去10年間の復興事業に関する復興過程の定量的分析等を行った。また、東日本大震災被害状況に基づく地方自治体庁舎の津波リスク評価を行った。(3)人口減少時代を踏まえた川崎市における建物倒壊危険リスク軽減策を検討した。(4)Arc-DR3のコメンターとして、災害リスク軽減とレジリエンスのための建築と都市デザインに携わった。(5)避難所の質のアップグレードと政府への提言を旨とし、災害対応空間の設営・運営に関する研究を行った。(6)災害対応の都市・建築空間に関する研究に基づき、震災データベースを作成した。

研究課題

	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	2016	8	2021	7	バングラデシュにおける都市の急激な高密度化に伴う災害脆弱性を克服する技術開発と都市政策への戦略的展開プロジェクト	両方
2	2018	4	2023	3	東日本大震災復興の検証と自然災害リスクを考慮した21世紀の都市誘導施策	国内
3	2019	10	2022	9	Architecture and Urban Design for Disaster Risk Reduction and Resilience Initiative (Arc-DR3 Initiative)	両方
4	2019	8	現在		災害対応空間の設営・運営に関する研究	両方

論文

単著	0	筆頭共著	2	その他の共著	12	合計	14	うち	国際査読有	3	国際査読無	0	国内査読有	1	国内査読無	10
----	---	------	---	--------	----	----	----	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	----

記述言語	区分	所外連携	国際学術誌	種別	査読	招待論文	論文題目名(原語)	著者氏名(共著者含)	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日
日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	無	いいえ	名取市閉上における復興後のコミュニティ形成の経緯と運営上の課題名取市閉上における復興後のコミュニティ形成の経緯と運営上の課題	加藤春奈, 村尾修, 坂口大洋	地域安全学会東日本大震災特別論文集		9	35	40	20200700
日本語	筆頭共著	国内	いいえ	その他	無	いいえ	ヤンゴンにおけるスラム居住者の生活実態調査報告	村尾修, 山田隼人, 田中晋大	都市計画報告集		19-2	271	276	20200800
日本語	共著	なし	いいえ	学術雑誌	無	いいえ	ヤンゴンにおけるスラム居住者の生活環境に関するアンケート調査	山田隼人, 村尾修	2020年度日本建築学会大会(関東)学術講演梗概集		F-1	487	488	20200900
日本語	共著	なし	いいえ	学術雑誌	無	いいえ	ヤンゴンにおける地震被害想定に基づく地域ごとの脆弱性に関する研究	北澤岳, 村尾修	2020年度日本建築学会大会(関東)学術講演梗概集		F-1	663	664	20200900
英語	共著	なし	いいえ	学術雑誌	無	いいえ	Diversity and Consistency: Systematic Review of Quantitative Tools of Urban Resilience	Wu, H. and Murao, O.	2020年度日本建築学会大会(関東)学術講演梗概集		F-1	753	754	20200900
英語	共著	なし	いいえ	学術雑誌	無	いいえ	A Post Disaster Forecast Analysis for Relocation Settlements Using a Combined Model Sequence	Garcia-fry, M. and Murao, O.	2020年度日本建築学会大会(関東)学術講演梗概集		F-1	711	712	20200900
英語	筆頭共著	両方	はい	国際会議 Proceedings	有	いいえ	Re-evaluation of Building Collapse Risk in Yangon Based on Obtained Dataset by Field Surveys	Murao, O., Ikeda, T., Koshihara, M., Meguro, K., and Shwe, T.	Proceedings of 17th World Conference on Earthquake Engineering			8a-0003 (p.1)	8a-0003 (p.11)	20200900
英語	共著	なし	はい	国際会議 Proceedings	有	いいえ	Understanding the Cognition of the Chinese Local Government towards Urban Resilience Planning. Proceedings of 17th World Conference on Earthquake Engineering	Wu, H. and Murao, O.	Proceedings of 17th World Conference on Earthquake Engineering			7b-0002 (p.1)	7b-0002 (p.10)	20200900
英語	共著	なし	はい	国際会議 Proceedings	有	いいえ	A Post-Disaster Forecast Analysis for Relocation Settlements Using a Combined Model Sequence	Garcia-fry, M. and Murao, O.	Proceedings of 17th World Conference on Earthquake Engineering			7d-0001 (p.1)	7d-0001 (p.12)	20200900
日本語	共著	なし	いいえ	学術雑誌	無	いいえ	津波被災前の高台移転の有益性に関する研究ー陸前高田市をケーススタディとしてー	東野幹久, 村尾修	2020年度日本都市計画学会東北支部研究発表会発表要旨集			23	24	20210200
日本語	共著	なし	いいえ	学術雑誌	無	いいえ	東日本大震災における災害公営住宅の課題整理と供給不均衡の発生実態に関する研究	村山勝哉, 村尾修	2020年度日本都市計画学会東北支部研究発表会発表要旨集			41	44	20210200
日本語	共著	なし	いいえ	学術雑誌	無	いいえ	ヤンゴンにおけるスラム地区の居住環境実態調査と災害に対する脆弱性軽減策	山田隼人, 村尾修	2020年度日本都市計画学会東北支部研究発表会発表要旨集			45	48	20210200
英語	共著	なし	いいえ	学術雑誌	無	いいえ	インドネシア・メラビ火山噴火による移転後生活再建のための郊外地域開発過程	ガルシアフライ・マーティン, 村尾修	2020年度日本都市計画学会東北支部研究発表会発表要旨集			25	28	20210200
日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	有	いいえ	地方自治体庁舎の立地による相対的な津波浸水リスクの評価と2011年東日本大震災における代替拠点空間配置の事例分析	花田悠磨, 村尾修, 寅屋敷哲也, 杉安和也, 佐藤翔輔	地域安全学会論文集(電子ジャーナル論文)		38	1-1	1-10	20210300

著書(監修・編集・単著・共著)

監修 編集	0	単著	3	筆頭 共著	0	共著	0	合計	3	うち	国際	1	国内	2
----------	---	----	---	----------	---	----	---	----	---	----	----	---	----	---

記述 言語	著書名および担当執筆題名	種別	発行年月日	著者・監修者氏名	区分	出版社名	所外 連携	発行 部数
1 英語	Chapter 12 "Exchanging Disaster Science Expertise Between Countries -A Japanese Personal Perspective." <i>The Demography of Disasters</i>	編集本 (著者・ Author)	20200900	Murao, O.	単著	Springer	国外	
2 日本語	6-4-12 都市のシステムと地震災害, 都市科学事典	事典・辞 書	20210228	村尾修	単著	横浜国立大学都市科学部 編, 春風社	国内	
3 日本語	「都市の災害リスク評価」『東日本大震災からのスタート: 災害を考える51のアプローチ』第18章, pp.73-76)	編集本 (著者・ Author)	20210311	村尾修 (東北大学災害科学国際研究所)	単著	東北大学出版会	なし	1400

総説・解説(大学紀要・学術雑誌・学会誌・商業雑誌など)

単著	3	筆頭共著	0	その他の 共著	0	合計	3	うち	国際 査読有	0	国際 査読無	1	国内 査読有	0	国内 査読無	2
----	---	------	---	------------	---	----	---	----	-----------	---	-----------	---	-----------	---	-----------	---

記述 言語	題目名(原語)	種別	査読	招待 論文	論文掲載誌名 (原語)	巻 号	開始 ページ	終了 ページ	発行年月日	著者氏名 (共著者含)	区分	所外 連携	
1 英語	Urban Disaster Risk Reduction: Japan as a disaster-prone country and learning from past disasters	学術雑誌	無	はい	Report of the APRU-IRIDeS Multi-Hazards Virtual Summer School 2020 (Part I)		19	19	20200700	Murao, O.	単著	なし	
2 日本語	2020年日本建築学会教育賞(教育貢献)「市民向け都市防災教育プログラム『地域と都市の防災』受賞所感	学術雑誌	無	はい	建築雑誌	135	1740	70	70	20200800	村尾修	単著	国内
3 日本語	地域安全学会における東日本大震災への取り組みと今後の展望	その他	無	はい	東日本大震災からの十年とこれから -58学会、防災学術連携体の活動-, 日本学術会議主催「学術フォーラム」、防災学術連携体主催「第11回防災学術連携シンポジウム」			24	25	20210100	村尾修	単著	国内

学会発表

単名	4	筆頭 連名	0	その他の 連名	0	合計	4
----	---	----------	---	------------	---	----	---

国内 国際	会議名称	会議の チェア	区分	招待	講演・発表の 形態	会場名	開催 都市名	開催 国名	開催期間		発表 年月日	題目名(原語)	連名者名 (発表者に下線)
									開始年月	終了年月			
1 国際	Association of Pacific Rim Universities (APRU) Multi-Hazards Summer School	Osamu Murao	単名	はい	口頭(招待)	online	online	online	20200715	20200715	20200715	Urban Disaster Risk Reduction: Japan as a disaster-prone country and learning from past disasters	<u>Murao, O.</u>
2 国際	APRU Senior International Leaders' Week 2020	APRU International Secretariat	単名	はい	口頭(招待)	online	online	online	20201006	20201009	20201007	Arc DR3 Initiative	<u>Murao, O.</u>
3 国際	UCLA Studio Talk	Hitoshi Abe	単名	はい	口頭(招待)	online	online	online	20201024 (JST) 20201023 (PST)	20201024 (JST) 20201023 (PST)	20201024 (JST) 20201023 (PST)	Architecture and Urban Design for Disaster Risk Reduction	<u>Murao, O.</u>
4 国際	AIA Webinar Session Three - Fight or Flight? Pathways from Around the World	AIA New York Center for Architecture	単名	はい	口頭(招待)	online	online	online	20210317 (JST) 20210316 (PST)	20210317 (JST) 20210316 (PST)	20210317 (JST) 20210316 (PST)	Urban Recovery from the 2011 Great East Japan Earthquake and Tsunami	<u>Murao, O.</u>

学術会議・シンポジウム等の主催・共催・運営等

合計	3 件
----	-----

国内 国際	種別	主催団体名・ 運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場	開催 都市名	開催 国名	参加人数 (うち外国人)	分野	担当	IRIDeSの 関与	共催機関名	所外 連携
				開始年月	終了年月									
1 国内	ワークショップ	一般社団法人地域安全学会	東日本大震災連続ワークショップ 2020 in 名取	20200703	20200703	online	online	日本	60	工学	議長・企画・ 運営	IRIDeS共催		国内
2 国内	研究会	災害科学国際研究所国際防災戦略研究分野、坂茂建築設計	第1回災害対応空間の設置・運営に関する研究会	20201216	20201216		仙台	日本	30	工学	議長・企画・ 運営	IRIDeS協力		両方
3 国内	研究会	災害科学国際研究所国際防災戦略研究分野、坂茂建築設計	第2回災害対応空間の設置・運営に関する研究会	20210208	20210208	online	online	日本	30	工学	議長・企画・ 運営	IRIDeS協力		両方



C. 教育活動

教育活動の概要

教務委員会副委員長として、国際共同大学院「災害科学・安全学」の運営を行った。工学部では兼務教員として、カリキュラム委員(建築系)を務めた。また工学部では、専門教育科目「防災・復興空間論」および「創造工学研修」の講義を行った。学部生2名の研究指導を実施した。工学研究科都市・建築学専攻の中で「都市・建築計画学特論」等の講義を担当した。修士学生8名、博士学生1名、研究生1名の研究指導を実施した。

担当授業科目(他大学を含む)

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・学期	コマ数 90分/コマ
1	創造工学研修(空間デザインのポキャブラリー)	東北大学	工学部	全学科	1	2セメ	15
2	都市・建築デザイン	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	2	3セメ	1
3	防災・復興空間論	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	3	6セメ	15
4	都市建築設計I	東北大学	工学研究科	都市・建築学専攻	MC	前期	1
5	都市・建築計画学特論A	東北大学	工学研究科	都市・建築学専攻	DC	前期	1
6	災害の科学	東北大学	全学		1	2セメ	2
7	地域と都市の防災	放送大学	教養学部	社会と産業コース		通年	15

D. 社会活動

社会活動の概要

研究活動による知見を社会に還元するために、川崎市防災対策検討委員会委員として川崎市における復興・防災に関して有識者の立場から専門的な助言を行った。また、日本学術会議主催の公開シンポジウムにおいて、地域安全学会会長として一般市民向けに防災減災対策について講演を行った。特定非営利活動法人地域防災推進機構においては理事長を務め、一般市民を対象とした防災教育、防災活動支援を行った。

講演・講義等(研究活動以外)

合計 1 件

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	連携	主催者	会場名	開催都市名	開催国名	参加人数
				開始年月日	終了年月日							
1	公開講座	東日本大震災からの十年とこれから - 58学会、防災学術連携体の活動 - , 日本学術会議主催「学術フォーラム」, 防災学術連携体主催「第11回防災学術連携シンポジウム」	招待講演	20210114	20210114	地域安全学会における東日本大震災への取り組みと今後の展望	行政	日本学術会議	東京医科大学およびオンライン	東京	日本	850

自治体・民間等での委員

	区分	組織・団体名	委員会名	委員・役職名	開始年月日
1	地方自治体	川崎市	川崎市防災対策検討委員会	委員	20020401
2	民間・NPO	特定非営利活動法人 地域防災推進機構		理事長	20201105

自治体・研究機関との協定締結実績

	年月日	締結式会場	国内 海外	協定名称	締結機関	締結相手	期間	
							開始年月日	年数
1	20200401		国外	部局間学術交流協定	研究機関	国立台湾大学気象災害研究センター	20150317	10
2	20210401	川崎市役所	国内	災害時等における避難所用簡易間仕切りシステム等の供給等に関する協定	自治体	川崎市、特定非営利活動法人ボランティア・アーキテクト・ネットワーク	20210401	1

その他、他機関等との交流実績(国内に限る)

合計 1 件

	交流機関名称	交流者	交流年月日	交流目的	会場名	開催都市名	主な担当内容	参加人数
1	坂建築設計	坂茂、原野泰典	20201216	その他	災害科学国際研究所	仙台	その他	20

## 泉 貴子 准教授

IZUMI Takako

地域・都市再生研究部門 国際防災戦略研究分野

### A. 基本情報・略歴

#### 出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	西南学院大学	国際文化学部	1991	3	九州大学大学院	比較社会文化研究科 国際社会専攻	1996	3	比較社会文化修士	1996	3
2					京都大学大学院	地球環境学堂	2012	9	地球環境学博士	2012	9

#### 職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	1998	8	1999	12	国連ハビタットアジア・太平洋事務所	広報・渉外担当
2	2000	1	2004	12	国連人道問題調整事務所(UNOCHA)	人道問題調整官
3	2004	1	2004	12	国連国際防災戦略事務局(UNISDR) 兼任	国連防災世界会議調整官
4	2005	1	2006	5	国連アジェンダ・ニアス復興調整官事務所(UNORC)	シミュレーション事務所代表
5	2006	6	2006	12	国連人道問題調整事務所(UNOCHA)	情報・パブリックアウトリーチユニットチーフ
6	2007	1	2013	3	国際NGO MERCY Malaysia	General Manager for Operations
7	2013	4	2017	9	東北大学 災害科学国際研究所 情報管理・社会連携部門 社会連携オフィス	特任准教授
8	2017	10	現在		東北大学 災害科学国際研究所 地域・都市再生研究部門 国際防災戦略研究分野	准教授

#### 学会活動

##### 所属学会

	学会名 1	2
	九州西洋史学会	日本自然災害学会

##### 学会・委員会等での役職

	学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
1	UNDRR	UNDRR Asia-Pacific Science, Technology and Academia Advisory Group (ASTAAG)	委員	20150501
2	土木学会 アジア土木関連学協会(ACCEC)	TC21(減災・防災に関する新しい技術委員会)国内支援委員	委員	20160401
3	Progress in Disaster Science (an international journal published by Elsevier)		Associate Editor	20181201

##### 研究分野・キーワード

	専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3	専門分野 4
	国際防災戦略	国際人道支援	NGO論	国際協力

##### 委員会・ワーキンググループ

##### 全学・他部署の委員会での委員

	部署名	委員会名	役職	開始年月日
1	全学	安全管理専門委員会	委員	20190401

### B. 研究活動

#### 研究活動の概要

APRU(環太平洋大学協会)のネットワークを基盤として、災害研究活動の促進、学術機関および国際機関の連携強化、国際・アジア地域の防災に関する議論への貢献に努めた。新型コロナ感染拡大の影響により、学会や国際会議への参加は限られたが、COVID-19への大学の対応などに関する調査結果をまとめ、国際ジャーナルへ論文投稿や、事例集の出版などを行った。APRUマルチハザードプログラムとElsevierの協力により、発刊された新しい国際ジャーナル「Progress in Disaster Science」のAssociate Editorを引き続き務め、災害科学研究の発信や促進に貢献している。

#### 研究課題

	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	2013	4	現在		大学間のマルチハザードプログラムの推進に関する研究～APRU加盟大学を中心に～	両方
2	2013	4	現在		防災における大学の役割に関する研究	両方
3	2015	4	現在		企業の防災に関する役割と貢献に関する研究(途上国を中心に)	両方
4	2015	4	現在		科学技術の防災に関する役割と貢献に関する研究	両方
5	2015	4	現在		キャンパスにおける防災対策の向上に関する研究	両方
6	2016	4	現在		「仙台防災枠組」実現に向けた科学技術の役割に関する研究	両方
7	2018	6	現在		マレーシアにおける防災能力の向上(スランゴール州):地方自治体と学術の連携	両方
8	2018	4	現在		大規模広域災害に備えるためのNPOの実績評価と今後の展望	国内
9	2020	10	現在		東南アジアにおける「オールハザード型」防災対策枠組構築のための共同研究	両方

論文

単著	0	筆頭共著	1	その他の共著	1	合計	2	うち	国際査読有	2	国際査読無	0	国内査読有	0	国内査読無	0
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

記述言語	区分	所外連携	国際学術誌	種別	査読	招待論文	論文題目名(原語)	著者氏名(共著者含)	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日
英語	筆頭共著	両方	はい	学術雑誌	有	いいえ	Managing and responding to pandemics in higher educational institutions: initial learning from COVID-19	Takako Izumi, Vibhas Sukhwani, Akhilesh Surjan, Rajib Shaw	International Journal of Disaster Resilience in the Built Environment					20200615
英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	WBF-2019 Core Research Cluster of Disaster Science Planning Session as Disaster Preparedness: Participation in a Training Program for Conductor-Type Disaster Healthcare Personnel	Junko Okuyama, Hiroyuki Sasaki, Shuji Seto, Yu Fukuda, Toshiaki Iwasaki, Toru Matsuzawa, Kiyoshi Ito, Takako Izumi, Hiroki Takakura, Fumihiko Imamura, Tadashi Ishi	International Journal of Disaster Research	15	7	900	912	20201200

著書(監修・編集・単著・共著)

監修編集	0	単著	1	筆頭共著	0	共著	0	合計	1	うち	国際	0	国内	1
------	---	----	---	------	---	----	---	----	---	----	----	---	----	---

記述言語	著書名および担当執筆題名	種別	発行年月日	著者・監修者氏名	区分	出版社名	所外連携	発行部数
日本語	「学術への期待と役割」(『東日本大震災からのスタート:災害を考える51のアプローチ』第45章, pp.185-188)	編集本(著者・Author)	20210311	泉貴子(東北大学災害科学国際研究所)	単著	東北大学出版会		1400

総説・解説(大学紀要・学術雑誌・学会誌・商業雑誌など)

単著	2	筆頭共著	0	その他の共著	0	合計	2	うち	国際査読有	0	国際査読無	2	国内査読有	0	国内査読無	0
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

記述言語	題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	区分	所外連携
英語	Report of the APRU-IRIDeS Multi-Hazards Program Virtual Summer School 2020	その他	無	いいえ						20200000	Takako Izumi	単著	両方
英語	Universities's Preparedness and Response Towards Multi-Hazards:COVID-19, Natural, and Human-Induced Hazards	その他	無	いいえ						20200000	Takako Izumi	単著	両方

学会発表

単名	8	筆頭連名	0	その他の連名	0	合計	8
----	---	------	---	--------	---	----	---

	国内国際	会議名称	会議のチェア	区分	招待	講演・発表の形態	会場名	開催都市名	開催国名	開催期間		発表年月日	題目名(原語)	連名者名(発表者に下線)
										開始年月	終了年月			
1	国際	20th Gender summit: enhancing scientific excellence to improve quality, equity, and societal relevance, of research outcomes	Anders Karlsson	単名	はい	口頭(招待)	Online	Online	Online	20200819	20200821	202008	Impact of COVID-19 on HEIs and Gender Perspective in Disaster response in Japan	<u>Takako Izumi</u>
2	国際	Virtual 2020 Asia Pacific Science and Technology Conference for DRR: Science and Technology for Building Resilience of Communities and Infrastructure	Animesh Kumar	単名	はい	口頭(一般)	Online	Online	Online	20201015	20201015	20201015	Contribution and role of academia in response to COVID-19	<u>Takako Izumi</u>
3	国際	Multi-hazards approach and COVID-19: Flattening the Curve and Early Recovery Lessons	Takako Izumi	単名	いいえ	口頭(一般)	Online	Online	Online	20200617	20200617	20200617	Managing and responding to pandemics in higher educational institutions	<u>Takako Izumi</u>
4	国際	Virtual Summer School Part II: Role of various stakeholders in disaster risk reduction	Takako Izumi	単名	いいえ	口頭(一般)	Online	Online	Online	20200722	20200722	20200722	Role of various stakeholders in DRR	<u>Takako Izumi</u>
5	国際	A new approach for disaster risk management after COVID-19 Session II: Strengthening disaster management strategies through multi-stakeholder partnerships	Takako Izumi	単名	はい	口頭(一般)	Online	Online	Online	20201014	20201014	20201014	Partnerships with multi-stakeholders and role of universities	<u>Takako Izumi</u>
6	国際	A new approach for disaster risk management after COVID-19 Session III: Developing innovative tools and approaches for disaster preparedness and response	Takako Izumi	単名	いいえ	口頭(一般)	Online	Online	Online	20201028	20201028	20201028	All-hazards approach in DRR	<u>Takako Izumi</u>

7	国際	APRU International Policy Advisory Committee meeting	Christina Shonleber	単名	はい	口頭(一般)	Online	Online	Online	20200608	20200608	20200608	Activities and contribution of APRU Multi-Hazards Program	Takako Izumi
8	国際	APRU Presidents' meeting	Christopher Tremewan	単名	はい	口頭(一般)	Online	Online	Online	2021007	20201007	20201007	Contribution and role of academia in response to COVID-19	Takako Izumi

学術会議・シンポジウム等の主催・共催・運営等

合計 9 件

	国内 国際	種別	主催団体名・運営 団体名等	イベント名称	開催期間		会場	開催 都市名	開催 国名	参加人数 (名/外国人)	分野	担当	IRIDeSの 関与	共催機関名	所外 連携
					開始年月	終了年月									
1	国際	セミナー	IRIDeS, APRU	Multi-hazards approach and COVID-19: Flattening the Curve and Early Recovery Lessons	20200617	20200617	Online	Online	Online	263		企画、運営、 司会、発表	IRIDeS主催・共同 主催	APRU、慶應大学	両方
2	国際	セミナー	IRIDeS, APRU	Virtual Summer School Part I : Lessons learned from the Great East Japan Earthquake and Tsunami	20200715	20200715	Online	Online	Online	299		企画、運営、 司会、ファシリ テーター	IRIDeS主催・共同 主催	APRU	両方
3	国際	セミナー	IRIDeS, APRU	Virtual Summer School Part II : Role of various stakeholders in disaster risk reduction	20200722	20200722	Online	Online	Online	280		企画、運営、 司会、発表、 ファシリテーター	IRIDeS主催・共同 主催	APRU	両方
4	国際	セミナー	IRIDeS, APRU	Virtual Summer School Part III : Latest research in disaster science	20200729	20200729	Online	Online	Online	270		企画、運営、 司会、ファシリ テーター	IRIDeS主催・共同 主催	APRU	両方
5	国際	セミナー	IRIDeS, APRU	A new approach for disaster risk management after COVID-19 Session I : Understanding and addressing different types of hazard risks	20200930	20200930	Online	Online	Online	350		企画、運営、 司会、発表、 ファシリテーター	IRIDeS主催・共同 主催	APRU	両方
6	国際	セミナー	University of Indonesia, IRIDeS, APRU	A new approach for disaster risk management after COVID-19 Session II : Strengthening disaster management strategies through multi-stakeholder partnerships	20201014	20201014	Online	Online	Online	325		企画、運営、 司会、発表、 ファシリテーター	IRIDeS主催・共同 主催	APRU、インドネシ ア大学	両方
7	国際	セミナー	IRIDeS, APRU	A new approach for disaster risk management after COVID-19 Session III : Developing innovative tools and approaches for disaster preparedness and response	20201028	20201028	Online	Online	Online	110		企画、運営、 司会、発表、 ファシリテーター	IRIDeS主催・共同 主催	APRU	両方
8	国際	セミナー	IRIDeS, APRU	10 years after the Great East Japan Earthquake and Tsunami: insights and perspectives based on science and experience Session I : Message to the future: learning from research and practice	20210312	20210312	Online	Online	Online	217		企画、運営、 司会、ファシリ テーター	IRIDeS主催・共同 主催	APRU、ハーバード 大学	両方
9	国際	セミナー	IRIDeS, APRU	10 years after the Great East Japan Earthquake and Tsunami: insights and perspectives based on science and experience Session II : Recovery lessons: multi-stakeholder perspectives	20210319	20210319	Online	Online	Online	125		企画、運営、 司会、ファシリ テーター	IRIDeS主催・共同 主催	APRU	両方

C. 教育活動

教育活動の概要

大学院国際文化研究科国際環境資源政策論講座およびグローバルガバナンスと持続可能なプログラム(G2SD)に協力教員として所属し、授業・学生指導・論文指導などを担当している。

担当授業科目(他大学を含む)

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・ 学期	コマ数 90分/コマ
1	国際社会論B(国際協力)	宮城学院女子大学	全学		3-4	後期	15
2	プロジェクトリスクマネジメント I	東北大学大学院	国際文化研究科			前期	15
3	演習	東北大学大学院	国際文化研究科			通年	15
4	災害と科学	東北大学	全学			後期	2

D. 社会活動

社会活動の概要

仙台市との共催である「仙台防災枠組講座(基礎編)」にて、仙台防災枠組に関する一般市民の理解や知識の向上のために講演を引き続き行っている。科学技術の防災への貢献の重要性を高めるため、APSTAAG(UNDRRアジア太平洋科学技術アカデミアアドバイザーグループ)のメンバーとして定期会合に出席し、国際および地域会議の議論の場で、APRUをはじめとする学術機関の貢献やその役割の重要性についても講演を行っている。また、NPO法人 SEEDS ASIAの監事としてNPOの海外途上国支援などにも従事している。

講演・講義等(研究活動以外)

合計 3 件

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	連携	主催者	会場名	開催都市名	開催国名	参加人数
				開始年月日	終了年月日							
1	セミナー	基礎から学ぶ仙台防災枠組講座 in 仙台防災未来フォーラム2021	一般講演	20200317	20200317	仙台防災枠組とは？	行政	IRIDEs, 仙台市	仙台国際センター展示棟会議室2	仙台市	日本	50
2	セミナー	災害研シンポジウム「東日本大震災から10年とこれから」	一般講演	20200307	20200307	10年後の社会のありようを見据えて、今後どのような研究に取り組んで行きたいか	なし	災害研	仙台国際センター	仙台市	日本	
3	セミナー	JICA青年研修「インドネシア・防災」	講義	20200202	20200202	国際防災戦略とステークホルダーの役割	行政	JICA	オンライン	オンライン	オンライン	30

自治体・民間等での委員

	区分	組織・団体名	委員会名	委員・役職名	開始年月日
1	民間・NPO	特定非営利活動法人SEEDS Asia			20140401

# 杉安 和也 助教

## SUGIYASU Kazuya

地域・都市再生研究部門 国際防災戦略研究分野

### A. 基本情報・略歴

#### 出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	筑波大学	第三学群 (現:理工学群)	2007	4	筑波大学大学院	システム情報工学研究科	2012	11	博士(社会学)	2012	11

#### 職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	2012	11	2013	3	筑波大学 大学院システム情報 工学研究科	非常勤研究員
2	2013	4	2019	3	東北大学 災害科学国際研究所 リーディング大学院グローバル安全学トップリーダー育成プログラム	助教
3	2019	4	2019	5	東北大学 災害科学国際研究所 地域・都市再生研究部門 国際防災戦略研究分野	学術研究員
4	2019	5	2021	3	東北大学 災害科学国際研究所 災害科学・安全学国際共同大学院プログラム	助教
5	2019	5	2021	3	東北大学 災害科学国際研究所 リーディング大学院グローバル安全学トップリーダー育成プログラム	助教
6	2019	11	2021	3	東北大学 災害科学国際研究所 変動地球共生学卓越大学院プログラム	助教
7	2021	4	現在		岩手県立大学 総合政策学部	講師

#### 学会活動

##### 所属学会

	学会名 1	2	3	4	5
	日本建築学会	地域安全学会	日本都市計画学会	日本地震工学会	総合政策学会

##### 学会・委員会等での役割

	学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
1	地域安全学会	東日本大震災特別委員会		20140000
2	安全・安心若手研究会		世話人	20140703
3	I7WCEE	社交・接遇委員会	委員	20190501

##### 研究分野・キーワード

	専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3	専門分野 4	専門分野 5
	都市計画	地域防災計画	復興まちづくり	津波避難	災害初動対応

##### 委員会・ワーキンググループ

##### 全学・他部局の委員会での委員

	部局名	委員会名	役職	開始年月日
1	災害科学・安全学国際共同大学院プログラム	事務局	専任教員	20190501
2	変動地球共生学卓越大学院プログラム	事務局	副事務局長	20191101

### B. 研究活動

#### 研究活動の概要

津波避難訓練の運営に参画し、車を用いた避難行動、避難場所の最適配置、ドローン等を活用した避難誘導手法を研究している。特に2016年11月福島県沖地震時を踏まえた避難行動について、いわき市と連携した研究を行っている。また、2017年のインドネシアアグン山噴火に伴う避難行動の研究を継続している。2019年1月からは南三陸町での東日本大震災時の初動対応検証、2019年10月からは令和元年台風19号による初動対応検証研究、2020年4月からはさらにコロナ禍を想定した訓練プログラムの開発に取り組む。

#### 研究課題

	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	2013	4	現在		効果的な津波避難訓練の実施とフィードバック手法に関する研究	国内
2	2016	1	2018	10	電気自動車(EV)を活用した避難所運営手法の研究	国内
3	2016	6	現在		IoT機器を活用した沿岸部地域向け自律分散型避難行動支援システムに関する共同研究	国内
4	2017	9	現在		2017年インドネシアアグン山噴火に伴う避難行動の研究	両方
5	2017	9	現在		東日本大震災以降の震災経験を踏まえたご当地版避難所運営ゲームの開発	国内
6	2017	4	2021	3	避難誘導サイン整備による屋内避難行動の研究	国内
7	2019	1	現在		南三陸町における東日本大震災時の職員初動対応検証	国内
8	2019	1	現在		いわき市における令和元年台風19号での住民・職員の災害初動対応の検証	国内
9	2020	4	現在		いわき市における令和元年台風19号での住民・職員の災害初動対応の検証	国内

論文

単著	0	筆頭共著	1	その他の共著	2	合計	3	うち	国際査読有	1	国際査読無	0	国内査読有	1	国内査読無	1
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

記述言語	区分	所外連携	国際学術誌	種別	査読	招待論文	論文題目名(原語)	著者氏名(共著者含)	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	
1	日本語	筆頭共著	両方	いいえ	学術雑誌	無	いいえ	2017年インドネシアアグン山噴火における避難所住環境に関する考察	杉安和也, 松本行真, 久利美和, イマデ ブディアナ	地域安全学会梗概集	47		37	40	20201030
2	英語	共著	国内	はい	国際会議 Proceedings	有	いいえ	Motion-Tolerant Method for Extracting Spatially Distributed Visible Light IDs	Nobuhide Yokota I, Hiroshi Yasaka, Kazuya Sugiyasu, Hideyuki Takahashi	2020 IEEE 9th Global Conference on Consumer Electronics (GCCE)-USB			194	195	20201013
3	日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	有	いいえ	地方自治体庁舎の立地を考慮した相対的な津波浸水リスクの評価と2011年東日本大震災後の代替拠点空間配置の事例分析	花田悠磨, 村尾修, 寅屋敷 哲也, 杉安和也, 佐藤翔輔	地域安全学会論文集	38		1	10	20210329

学会発表

単名	1	筆頭連名	0	その他の連名	0	合計	1
----	---	------	---	--------	---	----	---

	国内国際	会議名称	会議のチェア	区分	招待	講演・発表の形態	会場名	開催都市名	開催国名	開催期間		発表年月日	題目名(原語)	連名者名(発表者に下線)
										開始年月	終了年月			
1	国内	2020年日本建築学会大会(関東)	竹脇 出	単名	いいえ	口頭(一般)	千葉大学	千葉	日本	20200908	20200910	20200908	南海トラフ地震想定地域における津波避難タワーの日常時の運用事例	杉安和也

学術会議・シンポジウム等の主催・共催・運営等

合計	2 件
----	-----

	国内国際	種別	主催団体名・運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場	開催都市名	開催国名	参加人数(うち外国人)	分野	担当	IRIDeSの関与	共催機関名	所外連携
					開始年月	終了年月									
1	国内	セミナー	東北大学産学共創大学院プログラム部門, 東北大学研究推進・支援機構知の創出センター	東北大学卓越大学院セミナーシリーズ第2回(災害としての大規模感染症:レジリエント社会構築に向けて)	20200716	20200716	オンライン	仙台	日本	360(10)	工学	事務局	IRIDeS共催		国内
2	国際	セミナー	東北大学変動地球共生学卓越大学院プログラム	東北大学変動地球共生学卓越大学院プログラム国際シンポジウム・TU×SDGsフォーラム	20201118	20201118	オンライン	仙台	日本	178(30)	工学	事務局	IRIDeS協力		国外

C. 教育活動

教育活動の概要

災害科学・安全学国際共同大学院プログラム専任教員として、災害科学・安全学基礎Ⅱのロマを担当した。また、リーディング大学院、国際共同大学院、卓越大学院の事務局を担当し、東北大学における学位プログラムの運営・推進に尽力している。

担当授業科目(他大学を含む)

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・学期	コマ数 90分/コマ
1	災害科学・安全学基礎Ⅱ	東北大学	国際共同大学院			後期	1
2	ラボ研修Ⅰ,Ⅱ	東北大学	卓越大学院			通年	15

D. 社会活動

社会活動の概要

- (1) 津波避難訓練支援として福島県いわき市の津波避難訓練の企画・運営支援を実施した。
- (2) 令和元年台風19号の発生に伴い、福島県いわき市における令和元年台風19号災害初動対応検証委員会の副委員長を務めた。

一般向けセミナー・講演等の主催・共催・運営等(研究活動以外)

合計	1 件
----	-----

	国内国際	主催団体名・運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場名	開催都市名	開催国名	担当	参加人数	IRIDeSの関与	講演会・セミナー等
				開始年月日	終了年月日							
1	国内	いわき市薄磯区会	福島県いわき市薄磯区独自避難訓練	20201129	20201129	福島県いわき市薄磯区	いわき市	日本	企画運営担当	100	なし	その他

講演・講義等(研究活動以外)

合計 1 件

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	連携	主催者	会場名	開催都市名	開催国名	参加人数
				開始年月日	終了年月日							
1	その他	防災士講習会	講義	20201029	20201029	防災士講習会 「自主防災活動と地区防災計画」 「避難所の設置と運営協力」	企業	NTTラーニングシステムズ 防災士育成研修事務局	TKPガーデンシティ仙台	仙台市	日本	56

自治体・民間等での委員

	区分	組織・団体名	委員会名	委員・役職名	開始年月日
1	地方自治体	いわき市	令和元年台風19号災害初動対応検証委員会	副委員長	20191224
2	民間・NPO	いわき市薄磯地区復興協議委員会, 薄磯区会		外部有識者(復興・地域防災)	20140401
3	民間・NPO	いわき市四ツ倉区会		外部有識者(復興・地域防災)	20151201
4	民間・NPO	地域防災推進機構		社員	20201105



# 木戸 元之 教授

## KIDO Motoyuki

災害理学研究部門 海底地殻変動研究分野

### A. 基本情報・略歴

#### 出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	青山学院大学	理工学部	1991	3	東京大学大学院	理学系研究科	1996	3	博士(理学)	1996	3

#### 職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	1996	2	1996	5	チェコ共和国チャールズ大学 数学物理学部 地球物理学科	研究員
2	1996	5	1996	9	東京大学 海洋研究所	中核の研究機関研究員
3	1996	9	1996	10	アメリカ合衆国ミネソタ大学 スーパーコンピューター研究所	研究員
4	1996	11	1997	9	東京大学 海洋研究所	中核の研究機関研究員
5	1997	10	1999	12	東京大学 海洋研究所	日本学術振興会 特別研究員
6	2000	1	2002	3	海洋科学技術センター	科学技術振興事業団 科学技術特別研究員
7	2002	4	2002	12	海洋科学技術センター	日本学術振興会 特別研究員
8	2003	1	2003	4	アメリカ合衆国ミネソタ大学 スーパーコンピューター研究所	研究員
9	2003	4	2003	4	神戸大学 地球惑星科学科	非常勤職員
10	2003	5	2004	3	神戸大学 内海城機能教育研究センター	科学技術研究員
11	2004	4	2006	3	東北大学大学院 理学研究科	産学官連携研究員
12	2006	4	2006	5	東北大学大学院 理学研究科	教育研究支援者
13	2006	6	2007	3	東北大学大学院 理学研究科	産学官連携研究員
14	2007	4	2010	3	東北大学大学院 理学研究科	准教授(外部資金雇用)
15	2010	4	2010	5	東北大学大学院 理学研究科	教育研究支援者
16	2010	6	2011	7	東北大学大学院 理学研究科	准教授(外部資金雇用)
17	2011	8	2012	3	東北大学大学院 理学研究科	准教授
18	2012	4	2015	9	東北大学 災害科学国際研究所	准教授
19	2012	4	2015	3	海洋研究開発機構	招聘研究員
20	2015	4	現在		海洋研究開発機構	客員研究員
21	2015	10	現在		東北大学 災害科学国際研究所	教授
22	2019	10	2020	3	広島大学 理学研究科	客員教授(非常勤講師)

#### 学会活動

##### 所属学会

	学会名 1	2	3
	日本地震学会	日本測地学会	American Geophysical Union

##### 学会・委員会等での役職

	学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
1	海洋研究開発機構	研究航海検討委員会	アドバイザー	20200520
2	京都大学防災研究所	防災研究所自然災害研究協議会	1号委員	20170401
3	日本測地学会	評議会	評議員	20190401
4	日本地震学会		通常代議員	20140000
5	地震・火山噴火予知研究協議会	地震・火山噴火予知研究協議会	2号委員	20190401
6	地震・火山噴火予知研究協議会	地震・火山噴火予知研究協議会 予算委員会	4号委員	20190401
7	日本地震学会	若手学術奨励賞選考委員会	選考委員	20191211

##### 研究分野・キーワード

	専門分野 1	専門分野 2
	固体地球惑星物理学	海底測地学

##### 委員会・ワーキンググループ

###### 全学・他部局の委員会での委員

	部局名	委員会名	役職	開始年月日
1	全学	学術資源研究公開委員会	委員	20150401
2	全学	「東北大学サイエンスカフェ」ワーキンググループ	委員	20190502
3	全学	災害科学研究拠点	コアメンバー	20180000

B. 研究活動

研究活動の概要

東北大地方太平洋沖地震の地震時震源過程震源過程、および地震後の余効変動を、海底地殻変動観測技術を高度化して正確に計測することにより、海溝型巨大地震の全体像を捉え、今後の周辺領域への波及の可能性、南海トラフでの巨大地震発生予測に役立てる。また、ニュージーランド・メキシコ等で国際的な調査観測を実施し、各地域での地震震度評価を評価する。

研究課題

No.	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	1991	4	1996	3	マントルダイナミクスに関する研究	国外
2	1996	2	2003	3	マントル粘性構造に関する研究	国外
3	2003	4	2004	3	海底電磁気探査に関する研究	国内
4	2004	4	現在		海底地殻変動観測に関する研究	国内
5	2013	4	現在		ニュージーランド・ヒクランギ沈み込み帯に関する測地学的研究	両方
6	2013	4	現在		トルコ・マルマラ海における海底断層活動のモニタリング	両方
7	2017	4	現在		メキシコ・グレロ地震ギャップでの測地観測による地震震度調査	両方
8	2019	4	現在		Wave gliderを用いた海底地殻変動観測の自動化	国内

論文

単著	0	筆頭共著	0	その他の共著	3	合計	3	うち	国際査読有	3	国際査読無	0	国内査読有	0	国内査読無	0
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

記述言語	区分	所外連携	国際学術誌	種別	査読	招待論文	論文題目名(原語)	著者氏名(共著者含)	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日
英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Improvement on spatial resolution of a coseismic slip distribution using postseismic geodetic data through a viscoelastic inversion	Tomita, F., T. Inuma, Y. Ohta, R. Hino, M. Kido, and N. Uchida	Earth Planets Space	72			84	20200611
英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Application of Phase-Only Correlation to Travel-Time Determination in GNSS-Acoustic Positioning	Honsho, C., M. Kido, T. Ichikawa, T. Ohashi, T. Kawakami, and H. Fujimoto	Frontiers in Earth Science	9			600732	20210210
英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	GNSS-Acoustic Observations of Seafloor Crustal Deformation Using a Wave Glider	Inuma, T., M. Kido, Y. Ohta, T. Fukuda, F. Tomita, and I. Ueki	Frontiers in Earth Science	9			600946	20210311

著書(監修・編集・単著・共著)

監修編集	0	単著	1	筆頭共著	0	共著	0	合計	1	うち	国際	0	国内	1
------	---	----	---	------	---	----	---	----	---	----	----	---	----	---

記述言語	著者名および担当執筆題名	種別	発行年月日	著者・監修者氏名	区分	出版社名	所外連携	発行部数
日本語	『海の地震の科学』(『東日本大震災からのスタート:災害を考える51のアプローチ』第1章, pp.1-4)	編集本(著者・Author)	20210311	木戸元之 (東北大学災害科学国際研究所)	単著	東北大学出版会	国内	1400

学会発表

単名	1	筆頭連名	0	その他の連名	5	合計	6
----	---	------	---	--------	---	----	---

No.	国内国際	会議名称	会議のチェア	区分	招待	講演・発表の形態	会場名	開催都市名	開催国名	開催期間		発表年月日	題目名(原語)	連名者名(発表者に下線)
										開始年月	終了年月			
1	国内	日本測地学会 第134回講演会	石川直史, 富田史章	単名	いいえ	口頭(一般)	オンライン		日本	20201021	20201023	20201022	移動観測・海上多点観測を含むGNSS-音響観測の観測条件について	木戸元之
2	国内	日本測地学会 第134回講演会	石川直史, 富田史章	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	オンライン		日本	20201021	20201023	20201022	ウェーブライダーを用いたGNSS音響結合方式の海底地殻変動の検出(長期運用に向けた試験観測成果・序報)	富田史章, 飯沼卓史, 木戸元之, 太田雄策, 福田達也, 本荘千枝
3	国内	日本地震学会 2020年度秋季大会	飯沼卓史, 生田領野	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	オンライン		日本	20201029	20201031	20201031	ウェーブライダーを用いたGNSS-音響測距結合方式の海底地殻変動観測(その2)	飯沼卓史, 木戸元之, 福田達也, 太田雄策, 富田史章, 日野亮太
4	国内	JpGU-AGU Joint Meeting 2020		その他の連名	いいえ	口頭(一般)	オンライン		日本	20200712	20200715	20200712	GNSS-Acoustic測位精度向上に向けた解析手法の改良一位相相関を用いた走時決定と地球潮汐の影響評価	本荘千枝, 木戸元之, 富田史章, 太田雄策, 市川俊人, 大橋徹, 川上太一
5	国内	JpGU-AGU Joint Meeting 2020		その他の連名	いいえ	口頭(一般)	オンライン		日本	20200712	20200715	20200712	Elucidation of locking state at the shallower plate boundary after the Tohoku Earthquake based on seafloor acoustic ranging	山本龍典, 日野亮太, 木戸元之, 本荘千枝, 小平秀一, 中村恭之
6	国内	JpGU-AGU Joint Meeting 2020		その他の連名	いいえ	口頭(一般)	オンライン		日本	20200712	20200715	20200712	Continuous buoy observation of ocean bottom pressure and sea surface height and the system revision	高橋成実, 今井健太郎, 木戸元之, 太田雄策, 福田達也, 石原靖久, 越智寛, 日野亮太

C. 教育活動

教育活動の概要

新たに観測を開始した北海道沖での海底地殻変動観測について、学生の研究テーマとして指導し、修士論文としてまとめた。

担当授業科目(他大学を含む)

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	Semester・ 学期	コマ数 90分/コマ
1	地球惑星物理学	東北大学	全学		2	3セメ	5
2	災害の科学	東北大学	全学		1	2セメ	1
3	地震火山計測学特論	東北大学	理学研究科	地球物理学専攻		前期	2

D. 社会活動

社会活動の概要

高校で地球物理学に関する授業を実施した。宮城県沖および福島県沖で発生した地震についてのメディア対応を行った。

講演・講義等(研究活動以外)

合計 2 件

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	連携	主催者	会場名	開催 都市名	開催 国名	参加人数
				開始年月日	終了年月日							
1	小中高との連携	逗子開成中学校・高等学校「土曜講座」	招待講演	20201219	20201219	地球科学講座「重力と地球」	小中高	逗子開成中学校・高等学校	オンライン	逗子市	日本	32
2	小中高との連携	SSH学問探求講義	招待講演	20210318	20210318	地球の形と変動を測る	小中高	栃木高等学校	オンライン	栃木市	日本	50

自治体・研究機関との協定締結実績

	年月日	締結式会場	国内 海外	協定名称	締結機関	締結相手	期間	
							開始年月日	年数
1	20200500		国内	海底地殻変動観測技術の高度化に関する研究	研究機関	海上保安庁, 名古屋大学	20200000	1

その他、他機関等との交流実績(国内に限る)

合計 9 件

	交流機関名称	交流者	交流年月日	交流目的	会場名	開催 都市名	主な担当 内容	参加 人数
1	海洋研究開発機構 防災科学技術研究所	福田達也, 高橋成実	20200915	共同研究	オンライン	横浜市	講演・発表	8
2	海洋研究開発機構	福田達也, 飯沼卓史	20200918	共同研究	海洋研究開発機構	横須賀市	その他	4
3	海洋研究開発機構	福田達也, 飯沼卓史	20200923	共同研究	海洋研究開発機構	横須賀市		4
4	七ヶ浜町×東北大学 オンライン・防災シンポジウム2020	寺澤薫, 今村文彦	20200924	会議	オンライン	七ヶ浜町	その他	30
5	海洋研究開発機構 北海道大学	富田史章, 高橋浩晃	20201005	共同研究	研究船新青丸	八戸市	その他	13
6	海洋研究開発機構 防災科学技術研究所	福田達也, 高橋成実	20201105	共同研究	田沢湖	仙北市	その他	6
7	海洋研究開発機構	富田史章	20201112	共同研究	研究船みらい	八戸市	その他	2
8	名古屋大学 海上保安庁 東京大学	田所敬一, 石川直史, 横田裕輔	20210325	共同研究	オンライン	仙台市	講演・発表	12
9	海洋研究開発機構	福田達也, 飯沼卓史	20210326	共同研究	海洋研究開発機構	横須賀市	その他	5

# 福島 洋 准教授

## FUKUSHIMA Yo

災害理学研究部門 海底地殻変動研究分野

### A. 基本情報・略歴

出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	東北大学	理学部	1998	3	東北大学大学院	理学研究科	2000	3	理学博士	2000	3
2					パスカル大学(フランス)	基礎科学研究科	2005	12	Ph. D. in Volcanology	2005	12

### 職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	2000	11	2002	8	包括的核実験禁止条約機構準備委員会 国際データセンター	波形アナリスト
2	2006	4	2014	1	京都大学防災研究所 地震予知研究センター	助手→助教
3	2008	11	2010	10	スタンフォード大学	客員研究員(JSPS海外特別研究員)
4	2014	2	2016	8	東北大学 研究推進本部リサーチ・アドミニストレーションセンター	特任講師
5	2016	9	現在		東北大学 災害科学国際研究所	准教授

### 学会活動

所属学会

	学会名 1	2	3	4
	日本地震学会	日本測地学会	日本地球惑星科学連合	米国地球物理学連合

学会・委員会等での役職

	学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
1	日本地球惑星科学連合		代議員	20200401
2	日本地震学会		代議員	20200401

研究分野・キーワード

	専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3	専門分野 4	専門分野 5
	地殻変動	モデリング	地震発生メカニズム	火山噴火メカニズム	逆解析

委員会・ワーキンググループ

全学・他部局の委員会での委員

	部局名	委員会名	役職	開始年月日
1	変動地球共生学卓越大学院プログラム	運営委員会	運営委員	20191000
2	変動地球共生学卓越大学院プログラム	事務局	事務局長	20191000

### B. 研究活動

研究活動の概要

合成開口レーダ画像を用いた解析(InSAR)等を行い、地殻の変形を検出し地殻ハザード評価につながる研究を推進するとともに、南海トラフ地震臨時情報の防災・減災への有効活用方法について研究を進めた。前者に関しては、2016年熊本地震に伴い副次的に発生した阿蘇カルデラ内の小断層の解析を行い、同カルデラ下までは主要活断層構造が延伸していないこと等を明らかにした(Fukushima and Ishimura, 2020)。後者に関連しては、学際的研究グループの研究代表者としてプロジェクトの統括をする傍ら、自らも南海トラフ地域で地震が発生した際の後発地震の発生確率の評価を行った。

研究課題

	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	2006	4	現在		衛星合成開口レーダー(SAR)を用いた地殻変動検出手法の研究	両方
2	2006	4	現在		地殻変動データを用いた地震の発生メカニズムの研究	国内
3	2016	9	現在		地殻変動データを用いた地震の発生ポテンシャル評価手法の研究	国内
4	2016	12	現在		地震の予測情報を活用した防災・減災の研究	国内

論文

単著	0	筆頭共著	1	その他の共著	4	合計	5	うち	国際査読有	4	国際査読無	0	国内査読有	0	国内査読無	1
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

	記述言語	区分	所外連携	国際学術誌	種別	査読	招待論文	論文題目名(原語)	著者氏名(共著者名)	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日
1	英語	共著	なし	はい	学術雑誌	有	いいえ	Determination of the dipping direction of a blind reverse fault from InSAR: case study on the 2017 Sefid Sang earthquake, northeastern Iran	Nematollah Ghayournajarkar, Yo Fukushima	Earth Planets and Space	72			64	20200512
2	日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	無	いいえ	複眼学習アプローチ手法を用いた仙台市におけるワークショップの試み	中鉢奈津子・福島洋・久利美和	自然災害科学	39	1	18	22	2020

3	英語	筆頭共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Characteristics of secondary-ruptured faults in the Aso Caldera triggered by the 2016 Mw 7.0 Kumamoto earthquake	Fukushima, Y., and D. Ishimura	Earth Planets and Space	72			175	20201119
4	英語	共著	国外	はい	学術雑誌	有	いいえ	The relationship between seismic and aseismic slip on the Philippine Fault on Leyte Island: Bayesian modeling of fault slip and geothermal subsidence	Dianala, J.D.B., R.Jolivet, M.Y. Thomas, Y. Fukushima, B. Parsons, and R. Walker	J. Geophys. Res.: Solid Earth	125	12		e2020JB020052	20201024
5	英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Repeated triggered ruptures on a distributed secondary fault system: an example from the 2016 Kumamoto earthquake, southwest Japan	Daisuke Ishimura, Hiroyuki Tsutsumi, Shinji Toda, Yo Fukushima, Yasuhiro Kumahara, Naoya Takahashi, Toshihiko Ichihara & Keita Takada	Earth Planets and Space	73			39	20210208

著書(監修・編集・単著・共著)

監修	0	編集	0	単著	1	筆頭共著	0	共著	0	合計	1	うち	国際	0	国内	1
----	---	----	---	----	---	------	---	----	---	----	---	----	----	---	----	---

記述言語	著書名および担当執筆題名	種別	発行年月日	著者・監修者氏名	区分	出版社名	所外連携	発行部数
1 日本語	「近未来における巨大地震津波への備えかた」(『東日本大震災からのスタート: 災害を考える51のアプローチ』第34章, pp.137-140)	編集本(著者・Author)	20210311	福島洋 (東北大学災害科学国際研究所)	単著	東北大学出版会		1400

総説・解説(大学紀要・学術雑誌・学会誌・商業雑誌など)

単著	1	筆頭共著	0	その他の共著	0	合計	1	うち	国際査読有	0	国際査読無	0	国内査読有	0	国内査読無	1
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

記述言語	題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	区分	所外連携
1 日本語	南海トラフ地震臨時情報の背景と概要	その他	無		學士會會報	942			20200500	福島 洋	単著	国内

学会発表

単名	1	筆頭連名	2	その他の連名	0	合計	3
----	---	------	---	--------	---	----	---

国内国際	会議名称	会議のチュア	区分	招待	講演・発表の形態	会場名	開催都市名	開催国名	開催期間		発表年月日	題目名(原語)	連名者名(発表者に下線)
									開始年月	終了年月			
1 国際	日本地球惑星科学連合-アムリカ物理学連合同2020年大会	榎並正樹	単名	いいえ	ポスター(一般)	オンライン		日本	20200712	20200716	20200712-20200716	Ups and downs in Osaka metropolitan area, Japan, detected by L1CSBAS InSAR time-series analysis	福島洋
2 国内	日本地震学会2020年度秋季大会	なし・または不明	筆頭連名	いいえ	口頭(一般)	オンライン		日本	20201029	20201031	20201029	「理解・気づきツール」としての南海トラフ地震確立推移の開発	福島洋・西川友章
3 国際	アムリカ地球物理学連合2020年秋季大会	なし・または不明	筆頭連名	いいえ	ポスター(一般)	オンライン		米国	20201201	20201217	20201201-20201217	New Earthquake Warning Framework in the Nankai Trough Subduction Zone in Japan and Scientific Rationale that the Society Need to Know for Effective Countermeasures	Yo Fukushima and Tomoaki Nishikawa

C. 教育活動

教育活動の概要

兼務の大学院理学研究科地球物理学専攻と地球科学専攻において、教務運営業務やリレー形式の複数の講義を担当。災害研の「災害の科学(災害の発生と波及)」も分担。その他、週一回のセミナー等や4名の指導学生の個別の研究指導などを担当。

担当授業科目(他大学を含む)

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・学期	コマ数 90分/1コマ
1	災害の科学(災害の発生と波及)	東北大学	全学				1
2	Frontiers in Science 1	東北大学	全学				1
3	自然界の構造	東北大学	全学				2

D. 社会活動

社会活動の概要

コンダクター型災害保健医療人材の養成プログラムの講義「災害科学概論」において「地震発生メカニズムの基礎と日本の地震発生リスク」について講師を務めた。研究成果および自身の2011年後の経験等について新聞記事で報道された。ラジオ番組に出演し、2011年3月11日東北地方太平洋沖地震についての知見について発信した。

講演・講義等(研究活動以外)

合計	1件
----	----

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	連携	主催者	会場名	開催都市名	開催国名	参加人数
				開始年月日	終了年月日							
1	その他	コンダクター型災害保健医療人材の養成プログラムの講義「災害科学概論」	講義	20201010	20201010	「地震発生メカニズムの基礎と日本の地震発生リスク」	行政	コンダクター型災害保健医療人材の養成プログラム(事務局: 東北大学病院)	オンライン			24

# 遠田 晋次 教授

## TODA Shinji

災害理学研究部門 活断層研究分野

### A. 基本情報・略歴

#### 出身大学・大学院

No.	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	鹿児島大学	理学部	1989	3	東北大学大学院	理学研究科	1991	3	理学博士	1999	3

#### 職歴

No.	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	1991	4	1999	6	(財)電力中央研究所 立地部	研究員
2	1999	7	2001	3	東京大学 地震研究所	助手
3	2001	4	2009	3	(独)産業技術総合研究所 活断層研究センター	研究員
4	2009	4	2012	9	京都大学 防災研究所	准教授
5	2012	10	現在		東北大学 災害科学国際研究所	教授

#### 学会活動

##### 所属学会

学会名	1	2	3	4	5	6	7
	日本地震学会	日本活断層学会	日本応用地質学会	日本第四紀学会	日本地質学会	米国地球物理学連合	米国地震学会

##### 学会・委員会等での役職

No.	学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
1	日本応用地質学会	東北支部	支部長	20180601
2	日本地震学会	代議員	代議員	20150000
3	日本活断層学会	調査企画委員会	理事	20180601

##### 研究分野・キーワード

専門分野	1	2	3	4	5
	活断層	地震ハザード	内陸地殻内地震	誘発地震	余震

### B. 研究活動

#### 研究活動の概要

熊本地震など、最近の地震断層調査を総括し、震源断層との関係や断層の特長、誘発断層変位などについて新たな知見を得た。特に、熊本地震などで誘発変位した短い活断層の掘削調査を通じて、過去にも同様の小変位が繰り返されたことを明らかにした(Ishimura et al. 2021)。地震の連鎖の研究に関しては、東北地方太平洋沖地震やニュージーランド、カリフォルニアなどの事例研究と応力変動-地震応答の詳細を明らかにするとともに、半自動システムを開発し、その概要を米国地震学会誌にて公表した(Toda and Stein, 2020)。

#### 研究課題

No.	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	1991	4	現在		活断層と内陸地震ハザードの研究	
2	1995	1	現在		静的応力変化を考慮した余震・誘発地震の研究	
3	2012	10	現在		東北地方太平洋沿岸域の長期地殻変動と巨大地震との関係	

#### 論文

単著	0	筆頭共著	1	その他の共著	5	合計	6	うち	国際査読有	5	国際査読無	0	国内査読有	1	国内査読無	0
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

No.	記述言語	区分	所外連携	国際学術誌	種別	査読	招待論文	論文題目名(原語)	著者氏名(共著者含)	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日
1	英語	筆頭共著	国外	はい	学術雑誌	有	いいえ	Long- and Short-Term Stress Interaction of the 2019 Ridgecrest Sequence and Coulomb-Based Earthquake Forecasts	Shinji Toda and Ross S. Stein	Bulletin of the Seismological Society of America	110		1765	1780	20200714
2	日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	有	いいえ	2019年カリフォルニア州リッジレスト地震の概要と最近の地震断層調査の動向	高橋直也, 内田嗣人, 池田倫治, 遠田晋次	活断層研究	53		51	65	20201225
3	英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Wide-area seismicity anomalies before the 2011 Tohoku-Oki earthquake	Takao Kumazawa, Yoshihiko Ogata, and Shinji Toda	Geophysical Journal International	223	2	1304	1312	20200805
4	英語	共著	なし	はい	学術雑誌	有	いいえ	Evaluating variability in coseismic slips of paleoearthquakes from an incomplete slip history: an example from displaced terrace flights across the Kamishiro fault, centra Japan	Naoya Takahashim and Shinji Toda	Progress in Earth and Planetary Science	8		15		2021/01/12

5	英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Repeated triggered ruptures on a distributed secondary fault system: an example from the 2016 Kumamoto earthquake southwest Japan	Daisuke Ishimura, Hiroyuki Tsutsumi, <u>Shinji Toda</u> , Yo Fukushima, Yasuhiro Kumahara, Naoya Takahashi, Toshihiko Ichihara, and Keita Takada	Earth, Planets and Space	73		39	2021/01/25
6	英語	共著	国外	はい	学術雑誌	有	いいえ	Tests of Remote Dynamic Aftershock Triggering by Small Mainshocks Using Taiwan's Earthquake Catalog	Wei Peng, and <u>Shinji Toda</u>	Seismological Research Letters				2021/02/24

著書(監修・編集・単著・共著)

監修編集	0	単著	1	筆頭共著	0	共著	1	合計	2	うち	国際	1	国内	1
------	---	----	---	------	---	----	---	----	---	----	----	---	----	---

記述言語	著書名および担当執筆題名	種別	発行年月日	著者・監修者氏名	区分	出版社名	所外連携	発行部数	
1	英語	Encyclopedia of Geology 2nd Edition, Tectonics and Structural Geology: Japan and Korean Peninsula (page 526-543)	事典・辞書	20201202	Simon Richard Wallis, Fukashi Maeno, and <u>Shinji Toda</u>	共著	Academic Press, Elsevier Ltd.	国内	
2	日本語	「陸の地震の科学」(『東日本大震災からのスタート:災害を考える51のアプローチ』第2章, pp.5-8)	編集本(著者・Author)	20210311	遠田晋次 (東北大学災害科学国際研究所)	単著	東北大学出版会		1400

総説・解説(大学紀要・学術雑誌・学会誌・商業雑誌など)

単著	1	筆頭共著	1	その他の共著	2	合計	4	うち	国際査読有	0	国際査読無	3	国内査読有	0	国内査読無	1
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

記述言語	題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	区分	所外連携
1	日本語	余震はいつまで続くか	無	はい	地震ジャーナル	70	11	19	20201220	遠田晋次	単著	なし
2	英語	Ridgecrest earthquakes could cause a San Andreas chain reaction (doi: 10.32858/temblor.103)	無	いいえ	Temblor				20200713	Ross S Stein and <u>Shinji Toda</u>	共著	国外
3	英語	Magnitude-5.9 quake is the latest and largest in Tokyo seismic swarm (doi: 10.32858/temblor.098)	無	いいえ	Temblor				20200629	<u>Shinji Toda</u> and Ross S Stein	筆頭共著	国外
4	英語	Implications of the Tonopah magnitude-6.5 earthquake for worldwide seismic hazard assessment (doi: 10.32858/temblor.091)	無	いいえ	Temblor				20200517	Ross S. Stein, <u>Shinji Toda</u> , and Volkan Sevilgen	共著	国外

学会発表

単名	1	筆頭連名	3	その他の連名	5	合計	9
----	---	------	---	--------	---	----	---

国内国際	会議名称	会議のチェア	区分	招待	講演・発表の形態	会場名	開催都市名	開催国名	開催期間		発表年月日	題目名(原語)	連名者名(発表者に下線)
									開始年月	終了年月			
1	国内	日本地球惑星科学連合2020年大会	単名	いいえ	口頭(一般)	オンライン		日本	20200712	20200716	20200716	A review of the paleoseismic studies related to the 2016 Kumamoto earthquake and lessons fro long-term earthquake forecasting	<u>Shinji Toda</u>
2	国内	日本地震学会2020年秋季大会	遠田晋次	筆頭連名	いいえ	口頭(一般)	オンライン	日本	20201029	20201031	20201030	平成28年熊本地震後に日奈久断層北端部で確認された余効すべり	遠田晋次, 鳥井真之, 小俣雅志, 三五大輔, 石澤亮史
3	国内	日本活断層学会2020年秋季学術大会	鈴木康弘	筆頭連名	いいえ	口頭(一般)	オンライン	日本	20201122	20201123	20201122	日奈久断層北端部で確認された熊本地震の地表余効すべり	遠田晋次, 鳥井真之, 小俣雅志, 三五大輔, 石澤亮史
4	国内	日本活断層学会2020年秋季学術大会	鈴木康弘	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	オンライン	日本	20201122	20201123	20201122	布田川断層帯北甘木断層の活動履歴-熊本県嘉島町のトレンチ掘削調査-	鳥井真之, 福田泰英, 石澤亮史, 奥野 充, 遠田晋次
5	国内	日本活断層学会2020年秋季学術大会	鈴木康弘	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	オンライン	日本	20201122	20201123	20201122	断層活動に伴い生じた亀裂の充填物の放射性炭素年代測定に基づく断層活動時期の制約	石澤亮史, 鳥井真之, 遠田晋次, 奥野 充, 福田泰英, 宮入陽介, 横山祐典
6	国内	日本活断層学会2020年秋季学術大会	安江健一	その他の連名	いいえ	ポスター(一般)	オンライン	日本	20201122	20201123	20201123	平成28年(2016年)熊本地震における建物被害と地表地震断層分布の関係	吉見瑠子, 遠田晋次
7	国内	日本地震学会2020年秋季大会	遠田晋次	その他の連名	いいえ	ポスター(一般)	オンライン	日本	20201029	20201031	20201030	浅部構造を考慮した断層近傍の強震動予測モデルの設定方法の検討-2016年熊本地震を例として-	乗松君衣, 遠田晋次
8	国際	American Geophysical Union 2020 fall meeting	Sarah Minson	筆頭連名	いいえ	ポスター(一般)	オンライン	USA	20201201	20201217	20201207	Realtime Risk: An Automated Real-Time Global Earthquake Rate Forecasting Tool	<u>Toda, S.</u> , R.S. Stein, and V. Sevilgen

9	国際	American Geophysical Union 2020 fall meeting	Sarah Minson	その他の連名	いいえ	ポスター(一般)	オンライン			USA	20201201	20201217	20201216	Earthquake clustering controlled by shear zone interaction: insights from cosmogenic dating and stress interactions for normal faults in central Italy	Zoe K Mildon, Gerald Roberts, Joanna Faure Walker, Beck Joakim, Ioannis Papanikolaou, Alessandro Michetti, Shinji Toda, Francesco Iezzi, Lucy Campbell, Kenneth J W McCaffrey, Richard P Shanks and Vittorio Ertizio
---	----	--	--------------	--------	-----	----------	-------	--	--	-----	----------	----------	----------	--	--

C. 教育活動

教育活動の概要

兼任する理学研究科地球物理学専攻・地学において、9名の学生指導を行い、特に地震ハザード、変動地形に関する研究・論文指導を実施した。また、同専攻での「固体地球物理学特殊講義II」講義や各種セミナーにおいて学部生、大学院生への指導を行った。

担当授業科目(他大学を含む)

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・学期	コマ数 90分/1コマ
1	固体地球物理学特殊講義II	東北大学		理学研究科地球物理学専攻		前期	5
2	災害の科学	東北大学	全学		1	後期	1
3	地震の長期評価	建築研究所		国際地震工学センター(留学生)			4
4	島弧系の進化と環境	東北大学	短期留学生			前期	1
5	活断層と内陸地震の科学	復興大学(東北工業大学)				後期	2

D. 社会活動

社会活動の概要

災害や防災関連への社会貢献として、原子力規制庁検討チーム委員、石川県原子力安全専門委員会委員、総合資源エネルギー調査会臨時委員、我が国周辺水域二酸化炭素貯留適地検討会委員など国・地方自治体、民間団体の委員会にて専門的立場から意見を述べた。さらに、各種マスコミへの取材協力等を通じて地震現象や地震防災に関する啓蒙活動を行った。

講演・講義等(研究活動以外)

合計 1 件

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	連携	主催者	会場名	開催都市名	開催国名	参加人数
				開始年月日	終了年月日							
1	小中高との連携	仙台三桜高校防災講演	招待講演	20201110	20201110	「足下に活断層～直下型地震のしくみと備え」	小中高	仙台三桜高等学校	仙台三桜高等学校体育館	仙台市	日本	300

自治体・民間等での委員

	区分	組織・団体名	委員会名	委員・役職名	開始年月日
1	自治体	石川県	石川県原子力安全専門委員会	委員	20200000
2	国	経済産業省	総合資源エネルギー調査会	臨時委員	20200000
3	国	経済産業省・環境省	経済産業省・環境省連携事業 平成30年度二酸化炭素貯留適地調査事業に係わる有識者委員会	委員	20200000
4	国	原子力規制庁	震源を特定せず策定する地震動に関する検討チーム	委員	20200000



# 石澤 堯史 助教

## ISHIZAWA Takashi

災害理学研究部門 活断層研究分野

### A. 基本情報・略歴

出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	信州大学	理学部	2014	3	東北大学	理学研究科	2019	3	博士(理学)	2019	3

### 職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	2019	4	2019	9	北海道大学 大学院理学研究院附属 地震火山研究観測センター	非常勤研究員
2	2019	10	現在		東北大学 災害科学国際研究所	助教

### 学会活動

所属学会

	学会名 1	2	3	4
	日本地球惑星科学連合	日本地質学会	日本活断層学会	日本第四紀学会

### 研究分野・キーワード

	専門分野 1	専門分野 2
	堆積学	第四紀年代学

### B. 研究活動

#### 研究活動の概要

熊本県においてトレンチ調査を実施した。トレンチ壁面から断層活動の痕跡を調査し、その活動時期推定のために年代測定用試料を採取した。特に断層活動に伴い形成された亀裂充填物に着目した年代測定法を提案し、その結果を取りまとめて2020年度活断層学会秋季学術大会で口頭発表を行った(若手優秀講演賞受賞)。また東北地方における津波堆積物の年代を再整理した。特に従来津波堆積物の対比が出来ていなかった三陸海岸北部の年代値を統計的な手法から取りまとめ、当該地域における古津波履歴を復元した。

### 研究課題

	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	2013	4	現在		地震・津波による環境変化の評価	国内
2	2014	4	現在		津波堆積物の年代推定手法に関する研究	国内
3	2019	10	現在		活断層の活動時期推定手法に関する研究	国内

### 論文

単著	0	筆頭共著	0	その他の共著	1	合計	1	うち	国際査読有	1	国際査読無	0	国内査読有	0	国内査読無	0
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

	記述言語	区分	所外連携	国際学術誌	種別	査読	招待論文	論文題目名(原語)	著者氏名(共著者含)	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日
1	英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	はい	Ten years after the 2011 Tohoku-oki earthquake and tsunami: Geological and environmental effects and implications for disaster policy changes	Kazuhisa Goto, <u>Takashi Ishizawa</u> , Yuichi Ebina, Fumihiko Imamura, Shosuke Sato, Keiko Ude	Earth-Science Reviews	212			103417	20201023

### 学会発表

単名	0	筆頭連名	2	その他の連名	0	合計	2
----	---	------	---	--------	---	----	---

	国内国際	会議名称	会議のチェア	区分	招待	講演・発表の形態	会場名	開催都市名	開催国名	開催期間		発表年月日	題目名(原語)	連名者名(発表者に下線)
										開始年月	終了年月			
1	国際	JpGu-AGU joint meeting	Daisuke Ishimura	筆頭連名	いいえ	ポスター(一般)	オンライン	オンライン	日本	20200712	20200715	20200715	Relationship between facies of tsunami deposits and paleo sedimentary environment which were reconstructed from plant macro fossils in peat	<u>Takashi Ishizawa</u> , Yuichi Nishimura
2	国内	日本活断層学会秋季学術大会	Takahiro Miyauchi	筆頭連名	いいえ	口頭(一般)	オンライン	オンライン	日本	20201122	20201123	20201122	断層活動によって生じた亀裂の充填物の放射性炭素年代測定に基づく断層活動時期の制約	石澤堯史, 鳥井真之, 遠田晋次, 奥野 充, 福田泰英, 宮入陽介, 横山祐典

**C. 教育活動**

**教育活動の概要**

兼任する理学研究科地学専攻において研究・論文指導を行った。

**担当授業科目(他大学を含む)**

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・ 学期	コマ数 90分/コマ
1	応用堆積学	東北大学	理学部		3	5セメ	6
2	地球環境史・現代地球科学	東北大学	全学		1	1セメ	1

**D. 社会活動**

**社会活動の概要**

地方自治体と共同で活断層の調査を行った。

# 江川 新一 教授

## EGAWA Shinichi

災害医学研究部門 災害医療国際協力学分野

### A. 基本情報・略歴

#### 出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	東北大学	医学部	1987	3					M. D., Ph. D.	1995	3

#### 職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	1987	4	1990	3	竹田綜合病院 外科	医師
2	1990	7	1990	8	医療法人 永仁会 永野病院 外科	医員
3	1991	1	1991	2	医療法人 永仁会 永野病院 外科	医員
4	1991	4	1991	5	高萩協同病院 外科	医員
5	1991	9	1991	10	高萩協同病院 外科	医員
6	1991	11	1992	3	東北大学医学部 第一外科(この間、1992年2月から3月まで高萩協同病院に医員派遣として出張)	医員
7	1992	4	1993	9	国立がんセンター研究所 細胞増殖因子研究部	リサーチレジデント
8	1993	10	1996	3	国立がんセンター研究所 細胞増殖因子研究部	研究員(厚生技官)
9	1996	4	1996	12	東北大学医学部附属病院 第一外科	助手(文部教官)
10	1997	1	1997	1	米山町国保病院 外科	医長
11	1997	2	1998	1	東北大学医学部附属病院 第一外科	助手(文部教官)
12	1998	2	1998	6	丸森町国保病院 外科	医長
13	1998	7	1999	2	東北大学医学部附属病院 第一外科	助手(文部教官)
14	1999	3	2001	4	アメリカ合衆国ペンシルバニア州ピッツバーグ大学 腫瘍外科学	客員研究員(助手休職)
15	2001	5	2003	9	東北大学医学部附属病院 肝胆膵外科	助手(文部教官)復職
16	2003	10	2004	3	東北大学病院 肝胆膵外科	助手(配置換)
17	2004	4	2005	3	独立行政法人化に伴い東北大学病院・肝胆膵外科	助手(病院)
18	2005	4	2005	9	東北大学大学院医学系研究科 消化器外科学分野	講師
19	2005	10	2006	5	東北大学大学院医学系研究科 消化器外科学分野	講師
20	2006	6	2007	3	東北大学大学院医学系研究科 消化器外科学分野	助教授
21	2007	4	2012	3	東北大学大学院医学系研究科 消化器外科学分野	准教授(職制変更)
22	2012	4	現在		東北大学 災害科学国際研究所 災害医療国際協力学分野	教授
23	2014	4	2017	3	災害医学研究部門長	

#### 学会活動

##### 所属学会

	学会名 1	2	3	4	5	6	7	8	9
	日本災害医学会	Society of Disaster Medicine and Public Health	World Association for Disaster and Emergency Medicine	日本消化器病学会	日本公衆衛生学会	日本膵臓学会	American College of Surgeons	日本消化器外科学会	日本外科学会

##### 学会・委員会等での役職

	学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
1	日本消化器病学会		学会評議員	20071001
2	日本災害医学会	WADEM 2021 Tokyo 準備委員会、社会医学系専門医委員会	評議員	20160301
3	日本外科学会	邦文誌編集委員会	委員	20160401
4	Disaster Medicine and Public Health Preparedness		Associate Editor	20151201
5	Tohoku Journal of Experimental Medicine	Editorial Committee	Executive Editor	20210101
6	World Association for Disaster Medicine	WADEM 2022 Tokyo Programing Committee	Head	20190701

研究分野・キーワード

専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3	専門分野 4	専門分野 5
被災地医療ニーズ	災害保健医療シミュレーション	病院BCP	オールハザードアプローチ	クラスターアプローチ

委員会・ワーキンググループ

全学・他部局の委員会での委員

部局名	委員会名	役職	開始年月日
1 全学	安全保障輸出入管理委員会	委員	20200401

B. 研究活動

研究活動の概要

防災における保健医療と他セクターの協力、災害医療の効率化について研究。科研費基盤Aにより南三陸町、気仙沼、石巻など被災地の匿名化診療記録をデータベース化し、南三陸町の医療ニーズ、睡眠障害を論文化した。システムダイナミクス型、エージェント型のシミュレーションを災害医療に応用して、エボラウイルス感染症をモデルにした保健医療従事者の教育と訓練の重要性を論文化した。健康と社会のレジリエンス、わが国の災害医療体制の進化をWHOの研究ガイドブックにケーススタディとして論文化した。インドネシアのバンドン工科大学と津波避難ゲームを共同開発・論文化した。病院の事業継続計画(BCP)についてScoping Reviewを論文化した。WHOの助成金により災害保健医療人材育成に関する共同研究について論文化した。Tohoku Journal of Experimental Medicineで災害医療・防災担当のExecutive Editorとなり、東日本大震災から10年の災害医療の進化を論文化した。「東日本大震災からのスタートー災害を考える51のアプローチ」を編纂・上梓した。

研究課題

	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	2012	4	現在		被災地における保健医療ニーズの解析	両方
2	2013	5	現在		仙台防災枠組に対する保健医療クラスターのあり方の研究	両方
3	2014	6	現在		国際共同での災害医学教育の構築	国外
4	2014	4	現在		災害リスクと健康な社会	両方
5	2015	4	現在		インド洋津波、フィリピン台風、ネパール地震など国際支援を要する災害における保健医療対応	国外
6	2015	4	現在		医療ニーズシミュレーション	両方
7	2016	4	現在		エボラウイルス、COVID-19など新興感染症の流行に対する保健医療従事者の教育効果シミュレーション	両方
8	2018	4	現在		eHealthを用いた地域住民に対する災害医療教育の効率化	国外
9	2018	4	現在		ドローン・ロボットを用いた災害医療の効率化	国内
10	2016	4	現在		健康危機・災害リスクマネジメントの研究手法の確立	両方
11	2014	4	現在		病院BCP、受援力	国内

論文

単著	1	筆頭共著	1	その他の共著	5	合計	7	うち	国際査読有	6	国際査読無	0	国内査読有	0	国内査読無	1
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

記述言語	区分	所外連携	国際学術誌	種別	査読	招待論文	論文題目名(原語)	著者氏名(共著者含)	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	
1	英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	はい	Scoping Review of Hospital Business Continuity Plans to Validate the Improvement after the 2011 Great East Japan Earthquake and Tsunami	Sasaki H, Maruya H, Abe Y, Fujita M, Furukawa H, Fuda M, Kamei T, Yaegashi N, Tominaga T, Egawa S.	Tohoku Journal of Experimental Medicine	251	3	147	159	20200701
2	英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Sleep Disturbance of Evacuees in Minamisanriku Town after Great East Japan Earthquake: Risk Factors and Treatment	Nakamura Y, Suda T, Murakami A, Sasaki H, Tsuji I, Sugawara Y, Nishizawa M, Hatsugai K, Egawa S.	Tohoku Journal of Experimental Medicine	251	3	207	216	20200701
3	英語	共著	両方	はい	学術雑誌	有	いいえ	Plasma Osteopontin Levels is Associated with Biochemical Markers of Kidney Injury in Patients with Leptospirosis	Chagan-Yasutan, H.; Hanan, F.; Niki, T.; Bai, G.; Ashino, Y.; Egawa, S.; Telan, E.F.O.; Hattori, T.	Diagnostics	10	7	467		20200629
4	日本語	筆頭共著	国内	いいえ	学術雑誌	無	はい	病院におけるBCP・BCMの実際ー東日本大震災の経験をふまえてー.	江川新一、佐々木宏之、丸谷浩明	共済医報	69	4	340	346	20201201
5	英語	共著	国外	はい	学術雑誌	有	いいえ	Health Workforce Development in Health Emergency and Disaster Risk Management: The Need for Evidence-Based Recommendations.	Kevin K. C. Hung, Sonoc Mashino, Emily Y. Y. Chan, Makiko K. MacDermot, Satchit Balsari, Gregory R. Ciottone, Francesco Della Corte, Marcelo F. Dell'Aringa, Shinichi Egawa, Bettina D. Evio, Alexander Hart, Hai Hu, Tadashi Ishii, Luca Ragazzoni, Hiroyuki Sasaki, Joseph H. Walline, Chi S. Wong, Hari K. Bhattarai, Saurabh Dalal, Ryoma Kayano, Jonathan Abrahams and Colin A. Graham.	International Journal of Environmental Research and Public Health	18	7	3382		20210324

6	英語	共著	国外	はい	国際会議 Proceedin gs	有	いいえ	Tsunami Fighters: Collaborative Multilingual Mobile Game for Earthquake and Tsunami Disaster Preparedness Education	R. R. Alifia, F. Rahma, U. Hamida, A. P. Koesoema, Y. S.Irawan and <u>S. Egawa</u> ,	2020 IEEE 8th R10 Humanitarian Technology Conference (R10- HTC)			1	6	202012201
7	英語	単著	なし	はい	学術雑誌	有	はい	Progress of Disaster Medicine during Ten Years after the 2011 Great East Japan Earthquake.	<u>Shinichi Egawa</u>	Tohoku Journal of Experimental Medicine	253		159	170	20210301

著書(監修・編集・単著・共著)

監修 編集	0	単著	1	筆頭 共著	2	共著	1	合計	4	うち	国際	1	国内	3
----------	---	----	---	----------	---	----	---	----	---	----	----	---	----	---

記述 言語	著書名および担当執筆題名	種別	発行年月日	著者・監修者氏名	区分	出版社名	所外 連携	発行 部数
1	日本語 「災害医療での利活用」(野波健蔵編著『純・ドローン産業応用の すべて』第3章ドローン利活用の最前線. 3.6.2節, pp220-223)	単行本	20200801	江川新一、越村俊一	共著	オーム社(東京)	国内	
2	英語 Chapter 1.3 Historical developments in Health EDRM policy and research: the case study of Japan. (WHO Guidance on Research Methods for Health and Disaster Risk Management.)	教科書	20201001	Egawa S, Sasaki H, Suppasri A, Tomita H, Imamura F, Nagami F, Kanatani Y, Eto A, Koido Y, Kubo T, Kato H, Kim Y, Mashino S, Kayano R.	共著	World Health Organization	両方	1500
3	日本語 「災害医療の深化」(『東日本大震災からのスタート: 災害を考える 51のアプローチ』第35章, pp.143-146)	編集本 (著者・ Author)	20210311	江川新一 (東北大学災害科学国際研究所)	単著	東北大学出版会	国内	1400
4	日本語 「災害調査」(『東日本大震災からのスタート: 災害を考える51のア プローチ』第49章, pp.201-204)	編集本 (著者・ Author)	20210311	江川新一、緊急調査ワーキンググループ (東北大学災害科学国際研究所)	共著	東北大学出版会	国内	1400

学会発表

単名	2	筆頭 連名	0	その他 の連名	0	合計	2
----	---	----------	---	------------	---	----	---

国内 国際	会議名称	会議の チュア	区分	招待	講演・発表の 形態	会場名	開催 都市名	開催 国名	開催期間		発表 年月日	題目名(原語)	連名者名 (発表者に下線)	
									開始年月	終了年月				
1	国内	第26回日本災害医学会	石井美恵子	単名	はい	指名/シンポジウ ム・ワークショップ ・パネル	国際医療 福祉大学・ オンライン	東京	日本	20210314	20210317	20210317	東日本大震災から始まる災害レジリエ ンス学際研究	<u>江川新一</u>
2	国際	Berlin Science Week	Elizabeth Maly	単名	はい	指名/シンポジウ ム・ワークショップ ・パネル	オンライン	Berlin	ドイツ	20201101	20201107	20201102	Healthy Society is Resilient against Disaster	<u>Shinichi Egawa</u>

C. 教育活動

教育活動の概要

留学生を含む大学院生の研究、論文の指導を行い、国際学術雑誌に論文が掲載された。定期的に大学院学生とのミーティングを行い、研究のあり方、進め方に関する教育を行った。与えるだけではなく、問題を発見し、解決していくための教育を行っている。公衆衛生学専攻と協力して公衆衛生学修士の医療コース、避難者の健康、とくに睡眠障害に関する研究、論文指導を行った。ヒューマンセキュリティコースで、巨大災害に対する保健医療の備え、グローバルヘルスとヒューマンセキュリティ、高齢化と社会的支援の講義を英語で担当し、国際共同大学院プログラムGP-RSS、卓越大学院SyDEの運営企画を行った。

担当授業科目(他大学を含む)

科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・ 学期	コマ数 90分/コマ
1	巨大災害に対する保健医療の備え	東北大学	医学系研究科・農学研究科・ 環境科学研究科・国際文化研 究科、国際共同大学院GP- RSS	ヒューマンセキュリティコース	後期	15
2	ヒューマンセキュリティとグローバルヘルス	東北大学	医学系研究科・農学研究科・ 環境科学研究科・国際文化研 究科、国際共同大学院GP- RSS	ヒューマンセキュリティコース	前期	15
3	高齢化と社会的支援	東北大学	医学系研究科・農学研究科・ 環境科学研究科・国際文化研 究科、国際共同大学院GP- RSS	ヒューマンセキュリティコース	後期	15
4	工学と生命の倫理・生命倫理	東北大学	医工学研究科		前期	1
5	災害科学	東北大学	全学	2	2セメ	1
6	Tohoku University Junior Year Program in English: Disasater Medicine	東北大学	全学	1	前期	1
7	APRUサマースクール 災害医療	東北大学	国際共同大学院GP-RSS	1	前期	1

D. 社会活動

社会活動の概要

仙台防災枠組に健康が大幅に取り入れられたことを受け、社会にその意義を発信した。東北大学病院の災害対策委員、BCP委員会副委員長として、東北大学病院のレジリエンス向上に貢献した。COVID-19災害に対して東北大学病院のBCP・災害対応活動に貢献した。新型コロナウイルスパンデミックが生物学的ハザードによる災害であり、リスク減少(防災)が可能であることを積極的に発信した。ラジオ・市民公開講座での発表、メディアの取材依頼に対応した。

講演・講義等(研究活動以外)

合計 1 件

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	連携	主催者	会場名	開催都市名	開催国名	参加人数
				開始年月日	終了年月日							
1	公開講座	第9回杏林大学CCRCフォーラム ー東日本大震災から10年『災害に備えるまちづくり』を考える	特別講演	20210313	20210313	長寿社会:健康で災害にレジリエントな社会をつくるには	行政	杏林大 CCRC研究 所	杏林大学・ オンライン	東京都	日本	50

## 佐々木 宏之 准教授

SASAKI Hiroyuki

災害医学研究部門 災害医療国際協力学分野

### A. 基本情報・略歴

#### 出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	山形大学	医学部	1998	3	東北大学大学院	医学系研究科	2008	3	医学博士	2008	3

#### 職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	1998	5	2003	3	山形県立中央病院 外科	前期・後期研修医
2	2003	4	2004	3	東北大学病院胃腸外科	医局員
3	2004	4	2008	3	東北大学大学院 医学系研究科 生体調節外科学分野	大学院生
4	2007	10	2010	4	独立行政法人労働者健康福祉機構 東北労災病院 外科	副部長
5	2010	5	2011	4	茨城県厚生連 県北医療センター高萩協同病院 外科	科長
6	2011	5	2011	9	東北大学病院 胃腸外科	特任助手
7	2011	10	2012	3	東北大学病院 胃腸外科	助教
8	2012	4	2013	9	同上(兼東北大学災害科学国際研究所 災害医療国際協力学分野)	助教
9	2013	10	2019	10	東北大学災害科学国際研究所 災害医療国際協力学分野(兼東北大学病院 胃腸外科)	助教
10	2019	11	2021	3	東北大学災害科学国際研究所 災害医療国際協力学分野(兼東北大学病院 総合外科)	准教授

#### 学会活動

##### 所属学会

	学会名 1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	日本災害医学会	日本外科学会	日本消化器外科学会	日本消化器病学会	日本大腸肛門病学会	日本大腸癌研究会	日本癌学会	日本癌治療学会	日本臨床外科学会	日本公衆衛生学会

##### 学会・委員会等での役職

	学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
1	日本災害医学会	評議員会	評議員	20160227
2	日本災害医学会	災害医学のあり方委員会	委員	20160226
3	日本災害医学会	社会医学系専門医検討委員会	委員	20170518
4	日本災害医学会	日本集团災害医学会セミナー委員会	インストラクター	20160110
5	日本災害医学会	MCLS委員会	世話人	20171101
6	日本災害医学会		日本災害医学会災害医療コーディネーションサポートチームメンバー	20160515
7	日本災害医学会	BHELP委員会	世話人	20200101

##### 研究分野・キーワード

	専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3	専門分野 4
	災害医療	受援計画	事業継続計画	消化器外科学

##### 委員会・ワーキンググループ

##### 全学・他部局の委員会での委員

	部局名	委員会名	役職	開始年月日
1	東北大学病院	BCP委員会	委員	20161101
2	東北大学病院	災害対策マニュアル改訂WG	メンバー	20161101
3	東北大学病院	災害対策本部マニュアル改訂WG	WG長	20170401

### B. 研究活動

#### 研究活動の概要

平成31年度文科省基盤研究C「全病院向け事業継続計画策定・管理を可能にするBCM診断・支援ツールの開発」に関連し、病院BCPに関するレビュー論文「Scoping Review of Hospital Business Continuity Plans to Validate the Improvement after the 2011 Great East Japan Earthquake and Tsunami」を作成しThe Tohoku Journal of Experimental Medicineに掲載された。平成30年度文科省採択事業「コンダクター型災害保健医療人材の養成」プログラムを、東北大学病院石井正教授等とともにコロナ禍に配慮して主にオンライン研修を中心に進め、災害保健医療人材育成を遂行した。

研究課題

No.	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	2014	4	現在		日本の医療機関における受援計画に関する調査	国内
2	2016	11	現在		被災時の医療・保健・福祉支援体制の検討: 副都心新宿の指定避難所運営管理協議会との連携で進める災害対策づくり	国内
4	2018	9	現在		災害時のご遺体と追悼の管理による復旧支援	両方
5	2018	9	現在		コンダクター型災害保健医療人材の養成プログラム	国内
6	2019	4	現在		全病院向け事業継続計画策定・管理を可能にするBCM診断・支援ツールの開発	国内

論文

単著	0	筆頭共著	1	その他の共著	3	合計	4	うち	国際査読有	3	国際査読無	0	国内査読有	1	国内査読無	0
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

No.	記述言語	区分	所外連携	国際学術誌	種別	査読	招待論文	論文題目名(原語)	著者氏名(共著者含)	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日
1	英語	筆頭共著	国内	はい	学術雑誌	有	はい	Scoping Review of Hospital Business Continuity Plans to Validate the Improvement after the 2011 Great East Japan Earthquake and Tsunami	Hirovuki Sasaki, Hiroaki Maruya, Yoshiko Abe, Motoo Fujita, Hajime Furukawa, Mikiko Fuda, Takashi Kamei, Nobuo Yaegashi, Teiji Tominaga, Shinichi Egawa	The Tohoku journal of experimental medicine.	251	3	147	159	20200709
2	日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	有	はい	【病院における事業継続計画(BCP)】病院におけるBCP・BCMの実践 東日本大震災の経験をもとえて	江川 新一, 佐々木 宏之, 丸谷 浩明	共済医報	69	4	340	346	20201101
3	英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	WBF-2019 Core Research Cluster of Disaster Science Planning Session as Disaster Preparedness: Participation in a Training Program for Conductor-Type Disaster Healthcare Personnel	Junko Okuyama, Hirovuki Sasaki, Shuichi Seto, Yu Fukuda, Toshiaki Iwasaki, Toru Matsuzawa, Kiyoshi Ito, Takako Izumi, Hiroki Takakura, Fumihiko Imamura and Tadashi Ishi	Journal of Disaster Research	15	7	900	912	20201201
4	英語	共著	国外	はい	学術雑誌	有	いいえ	Health Workforce Development in Health Emergency and Disaster Risk Management: The Need for Evidence-Based Recommendations	Kevin K C Hung, Sonoe Mashino, Emily Y Y Chan, Makiko K MacDermot, Satchit Balsari, Gregory R Ciototone, Francesco Della Corte, Marcelo F Dell'Aringa, Shinichi Egawa, Bettina D Evio, Alexander Hart, Hai Hu, Tadashi Ishii, Luca Ragazzoni, Hirovuki Sasaki, Joseph H Walline, Chi S Wong, Hari K Bhattarai, Saubh Dalal, Ryoma Kayano, Jonathan Abrahams, Colin A Graham	International journal of environmental research and public health	18	7			20210324

著書(監修・編集・単著・共著)

監修	0	編集	0	単著	1	筆頭共著	0	共著	1	合計	2	うち	国際	0	国内	2
----	---	----	---	----	---	------	---	----	---	----	---	----	----	---	----	---

No.	記述言語	著書名および担当執筆題名	種別	発行年月日	著者・監修者氏名	区分	出版社名	所外連携	発行部数
1	日本語	「災害医療の人材育成」(『東日本大震災からのスタート:災害を考える51のアプローチ』第43章, pp.175-178)	編集本(著者・Author)	20210311	佐々木宏之、石井正(東北大学災害科学国際研究所)	共著	東北大学出版会	国内	1400
2	日本語	2019年台風第19号災害に関する東北学術合同調査団報告書	編集本(著者・Author)	20201101	佐々木宏之	単著	2019年台風第19号災害に関する東北学術合同調査団	国内	

総説・解説(大学紀要・学術雑誌・学会誌・商業雑誌など)

単著	0	筆頭共著	0	その他の共著	1	合計	1	うち	国際査読有	0	国際査読無	0	国内査読有	0	国内査読無	1
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

No.	記述言語	題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	区分	所外連携
1	日本語	福祉の現場から 国際都市新宿区の成城学校避難所地域住民にむけた新型コロナウイルスCOVID-19予防策(No.3)	学術雑誌	無	いいえ	地域ケアリング	23	2	42	45	20210201	坪内 暁子, 内藤 俊夫, 佐藤 健, 佐々木 宏之, 今村 文彦, 仲田 悦教, 范 家坤, 奈良 武司	共著	両方



学会発表

単名	3	筆頭連名	1	その他の連名	0	合計	4
----	---	------	---	--------	---	----	---

	国内 国際	会議名称	会議の チエア	区分	招待	講演・発表の形態	会場名	開催 都市名	開催 国名	開催期間		発表 年月日	題目名(原語)	連名者名 (発表者に下線)
										開始年月	終了年月			
1	国内	第120回日本外科学会 総会・学術集会	北川雄光	単名	いいえ	公募/シンポジウ ム・ワークショップ・パ ネル	web	web	日本	20200813	20200815	20200813	特別じゃない、災害医療。～震度7発生。外科 の先生、どう行動しますか?～	佐々木宏之
2	国内	第116回日本精神神経 学会学術総会	矢部 博興	単名	はい	指名/シンポジウ ム・ワークショップ・パ ネル	web	web (仙台市)	日本	20200928	20200930	20200929	東日本大震災を経験した東北大学病院のBCP 策定ステップ	佐々木宏之
3	国内	災害対応空間の設置・ 運営に関する研究会	村尾修	単名	はい	口頭(招待)	東北大学 災害科学 国際研究 所	仙台市	日本	20201216	20201216	20201216	災害派遣医療チームの立場からみた避難所の 課題(あれこれ)	佐々木宏之
4	国内	第26回日本災害医学会 総会・学術集会	石井美恵子	筆頭連名	はい	指名/シンポジウ ム・ワークショップ・パ ネル	web	web (東京)	日本	20210315	20210317	20210315	多職種だからこそできる東北大学病院BCP・ BCM	佐々木宏之、江川新一

学術会議・シンポジウム等の主催・共催・運営等

合計 7 件

	国内 国際	種別	主催団体名・運営 団体名等	イベント名称	開催期間		会場	開催 都市名	開催 国名	参加人数 (おもい入れ)	分野	担当	IRIDeSの 関与	共催機関名	所外 連携
					開始年月	終了年月									
1	国内	研究会	東北大学災害科学 国際研究所	2019年度共同研究成果報告会 およびプロジェクトエリア・ユニット報 告会	20200718	20200718	web	(仙台市)	日本	150	工学	座長	IRIDeS主催・共同 主催		国内
2	国内	セミナー	東北大学病院、東 北大学災害科学国 際研究所	コングクター型災害保健医療人材 の養成プログラム 災害時組織対応 セミナー	20200822	20200822	東北大学災害科学 国際研究所	仙台市	日本	20	臨床医学	運営	IRIDeS主催・共同 主催	東北大学病院、 福島県立医科大学	国内
3	国内	セミナー	東北大学病院、東 北大学災害科学国 際研究所	コングクター型災害保健医療人材 の養成プログラム 災害メンタルゲ ア実習	20200829	20200829	東北大学災害科学 国際研究所	仙台市	日本	50	臨床医学	運営	IRIDeS主催・共同 主催	東北大学病院、 福島県立医科大学	国内
4	国内	セミナー	東北大学病院、東 北大学災害科学国 際研究所	コングクター型災害保健医療人材 の養成プログラム 災害国際協力セ ミナー	20200926	20200926	東北大学災害科学 国際研究所	web	日本	30	臨床医学	運営	IRIDeS主催・共同 主催	東北大学病院、 福島県立医科大学	国内
5	国内	セミナー	東北大学病院、東 北大学災害科学国 際研究所	コングクター型災害保健医療人材 の養成プログラム 災害科学概論	20201010	20201010	東北大学災害科学 国際研究所	web	日本	30	臨床医学	運営	IRIDeS主催・共同 主催	東北大学病院、 福島県立医科大学	国内
6	国内	セミナー	東北大学病院、東 北大学災害科学国 際研究所	コングクター型災害保健医療人材 の養成プログラム 災害派遣セミ ナー	20201205	20201205	東北大学災害科学 国際研究所	web	日本	30	臨床医学	運営	IRIDeS主催・共同 主催	東北大学病院、 福島県立医科大学	国内
7	国内	シンポジウム	東北大学災害科学 国際研究所	東日本大震災10年シンポジウム 東日本大震災から10年とこれから	20210307	20210307	仙台国際センター	仙台市	日本	200		運営	IRIDeS主催・共同 主催		

C. 教育活動

教育活動の概要

東北大学大学院ヒューマン・セキュリティ連携国際教育プログラムにおいて医療機関の受援計画に関する講義を行った(web)。

担当授業科目(他大学を含む)

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・ 学期	コマ数 90分/コマ
1	support-receiving plan	東北大学	全学	human security course			1

D. 社会活動

社会活動の概要

宮城県新型コロナウイルス感染症医療調整本部において本部員として新型コロナウイルス感染症感染者に対する療養判定および病床調整を行った。東北大学臨時診療所(ドライブスルー)で新型コロナウイルス感染症の検体採取、検査統括にあたった。

一般向けセミナー・講演等の主催・共催・運営等(研究活動以外)

合計 5 件

	国内 国際	主催団体名・ 運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場名	開催 都市名	開催 国名	担当	参加 人数	IRIDeSの 関与	講演会・セミナー等	備考
				開始年月日	終了年月日								
1	国内	NHK	災害報道リーダー育成研修	20200728	20200728	web	web (東京)	日本	運営・講師	50	なし	セミナー	全国のNHK制作、アナウンサー、技術者などが参加
2	国内	東北大学病院	総合防災訓練	20201023	20201023	東北大学病院	仙台市	日本	運営・プレーヤー	50	なし	その他	東北大学病院BCP訓練
3	国内	東北大学災害科学 国際研究所	第6回気仙沼市防災フォーラム	20210126	20210126	web	web(気仙 沼市)	日本	講演	100	IRIDeS主催・ 共同主催	講演会	気仙沼分 室関与
4	国内	NPO法人 事業継 続推進機構	2020年度 第3回普及系発セミナー	20210128	20210128	web	web	日本	講演	200	なし	セミナー	丸谷浩明 先生座長
5	国内	東北大学災害科学 国際研究所	令和3年(2021年)2月福島県沖の地震 速 報会	20210216	20210216	web	web	日本	講演	100	IRIDeS主催・ 共同主催	講演会	

講演・講義等(研究活動以外)

合計 6 件

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	連携	主催者	会場名	開催 都市名	開催 国名	参加人数
				開始年月日	終了年月日							
1	その他	東北大学病院コロナ対 応に関するBCP専門家と しての対策本部参画	会議参加・コメ ント	20200101				東北大学病院	東北大学病 院	仙台市	日本	200
2	セミナー	東北DMAS第2回研修会	講義	20200726	20200726	東日本大震災と病院～一消化器外科医の 変遷と、東北DMASのみなさんに望むこと～	なし	東北DMAS	web	web	日本	100
3	その他	東北大学臨時診療所ドラ イブスルー業務(新型コ ロナウイルス感染症対 応)	検査統括	20200805	20210228			東北大学	(非公開)	仙台市	日本	
4	小中高との連携	気仙沼高校SGH	フィールドワー ク指導	20200807	20200807		小中高	気仙沼高校	web	web	日本	
5	その他	日本社会医学系専門医 協会第2回社会医学系 専門医試験監督	試験監督	20200913	20200913		なし	日本社会医学 系専門医協会	web	web	日本	300
6	講演会	学校再開支援チームみ やぎ講義	講義	20200916	20200916	DMATの活動概要	行政	宮城県教育庁	web	web	日本	150

自治体・民間等での委員

	区分	組織・団体名	委員会名	委員・役職名	開始年月日
1	国・政府	厚生労働省		日本DMAT隊員(統括)	20180520
2	地方自治体	宮城県		災害医療コーディネーター	20181201
3	地方自治体	宮城県	新型コロナウイルス感染症医療調整本部	本部長	20201201

# 児玉 栄一 教授

## KODAMA Eiichi

災害医学研究部門 災害感染症学分野

### A. 基本情報・略歴

#### 出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	福島県立医科大学	医学部	1990	3	福島県立医科大学大学院	医学研究科博士課程	1994	3	医学博士	1994	3

#### 職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	1994	1	1994	3	国立療養所福島病院 内科 (現国立病院機構福島病院)	内科医師
2	1994	4	1998	3	福島県立医科大学 医学部 微生物学講座	助手(助教)
3	1998	4	1999	8	福島県立医科大学 医学部 微生物学講座	講師
4	1999	9	2009	3	京都大学 ウイルス研究所 感染免疫学分野	助教
5	2009	4	2012	12	東北大学病院 内科感染症科	助教
6	2013	1	2013	3	東北大学 東北メディカル・メガバンク機構	講師
7	2013	4	2013	7	東北大学 医学系研究科 宮城地域医療支援寄附講座	講師
8	2013	8	2013	11	宮城県立循環器呼吸器病センター 呼吸器科	診療部長
9	2013	12	2014	7	東北大学 医学系研究科 宮城地域医療支援寄附講座	講師
10	2014	8	2014	11	宮城県立循環器呼吸器病センター 呼吸器科	診療部長
11	2014	12	2015	7	東北大学 医学系研究科 宮城地域医療支援寄附講座	講師
12	2015	8	2015	11	宮城県立循環器呼吸器病センター 呼吸器科	診療部長
13	2015	12	2016	3	東北大学 医学系研究科 宮城地域医療支援寄附講座	講師
14	2016	4	2016	5	東北大学病院 総合地域医療教育支援部	講師
15	2016	6	現在		東北大学 災害科学国際研究所 災害医学研究部門 災害感染症学分野	教授

#### 学会活動

##### 所属学会

学会名 1	2	3	4	5	6	7	8
日本災害医学会	日本バイオセーフティ学会	日本環境感染学会	日本ウイルス学会	日本感染症学会	日本エイズ学会	抗ウイルス療法学会	日本ケミカルバイオロジー学会

##### 学会・委員会等での役職

	学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
1	日本環境感染学会	災害時感染制御検討委員	災害時感染制御検討委員	20160900
2	日本災害医学会	災害医療教育施設連絡会議	委員	20180000

##### 研究分野・キーワード

専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3	専門分野 4	専門分野 5
ウイルス	治療薬	感染制御	アウトブレイク	地域医療

##### 委員会・ワーキンググループ

##### 全学・他部局の委員会での委員

	部局名	委員会名	役職	開始年月日
1	本部	新型コロナウイルス感染症対策専門家会議	委員	20200201
2	大学病院	感染対策委員会	委員長	20160101
3	大学病院	BCP作成委員会	委員	20170901
4	大学病院	新型コロナウイルス感染症 対策本部会議	委員	20200301
5	大学病院	新型コロナウイルス感染症 災害対策本部	委員	20200301
6	東北メディカル・メガバンク機構	地域支援センター(白石)	センター長	20170701
7	東北メディカル・メガバンク機構	緊急回付室	副室長	20180401
8	医学部	採用等審査小委員会	委員	20200401
9	医学部	研究安全管理室	委員	20200401

B. 研究活動

研究活動の概要

新型コロナウイルス感染症制圧に向けて、治療薬の開発研究(Nat Commun 2報)、避難所での感染対策(小野教授と学際研究)、災害時の感染症BCP(熊本大学と共同研究)を開始した。さらに学内公募の学際研究に3件の採択、同ウイルス対応でAMEDから4件の研究資金を得ている。これまで通り、東日本大震災の影響の調査研究(東北メディカル・メガバンク機構と共同研究)、アウトブレイクで問題となるアデノウイルスの評価法(企業と共同研究)、耐性菌の解析(国立国際医療研究センターと共同研究)などを展開し、災害にかかわる感染症研究を行った。複数の企業との共同研究も行った。

研究課題

	期間			研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年		
1	1994	4	現在	抗ウイルス薬の開発(抗HBV・抗HIV・抗EBV・抗ADV薬等)	国内
2	2013	1	現在	震災後の地域医療の研究	国内
3	2018	4	現在	抗菌剤の開発(AMR対策)	国内
4	2019	12	現在	新型コロナウイルスに対する感染対策、診断・治療薬の開発	国内

論文

単著	0	筆頭共著	0	その他の共著	12	合計	12	うち	国際査読有	11	国際査読無	0	国内査読有	1	国内査読無	0
----	---	------	---	--------	----	----	----	----	-------	----	-------	---	-------	---	-------	---

記述言語	区分	所外連携	国際学術誌	種別	査読	招待論文	論文題目名(原語)	著者氏名(共著者名)	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日
1	英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Synthetic biology based construction of biological activity-related library of fungal decalin-containing diterpenoid pyrones.	Nature communications	11	1	1830	1830	20200414
2	英語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	有	いいえ	Design and Progress of Oral Health Examinations in the Tohoku Medical Megabank Project.	The Tohoku journal of experimental medicine	251	2	97	115	20200600
3	英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Pyrimidine Analogues as a New Class of Gram-Positive Antibiotics, Mainly Targeting Thymineless-Death Related Proteins	ACS infectious diseases	6	6	1490	1500	20200612
4	英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Maternal Baseline Characteristics and Perinatal Outcomes: the Tohoku Medical Megabank Project Birth and Three-Generation Cohort Study.	Journal of epidemiology					20201010

5	英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Application of human lymphoid cells for the evaluation of antivirals against human adenovirus type19: Zalcitabine has superior activity compared to cidofovir	Kohsuke Nakagawara, <u>Hironori Hayashi</u> , Kumi Kawaji, Mina Sasano, <u>Eiichi N Kodama</u>	Antiviral Chemistry and Chemotherapy	28	1	1	5	20200000
6	日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	有	いいえ	災害時の業務継続に向けて取り組むべき対策－熊本地震による病院被害と診療体制への影響の分析－	伊山 聡子、前田 ひとみ、松本 智晴、南家 貴美代、 <u>児玉 栄一</u>	日本看護研究学会雑誌	434	4	769	777	20200000
7	英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Cohort Profile: TohokuMedical Megabank Project Birth and Three-Generation Cohort Study (TMM BirThree Cohort Study): Rationale, Progress and Perspective.	<u>Shinichi Kuriyama</u> , Hirohito Metoki, Masahiro Kikuya, Taku Obara, Mami Ishikuro, Chizuru Yamanaka, Masato Nagai, Hiroko Matsubara, Tomoko Kobayashi, Junichi Sugawara, Gen Tamiya, Atsushi Hozawa, Naoki Nakaya, Naho Tsuchiya, Tomohiro Nakamura, Akira Narita, Mana Kogure, Takumi Hirata, Ichiro Tsuji, Fuji Nagami, Nobuo Fuse, Tomohiko Arai, Yoshio Kawaguchi, Shinichi Higuchi, Masaki Sakaida, Yoichi Suzuki, Noriko Osumi, Keiko Nakayama, <u>Kiyoshi Ito</u> , <u>Shinichi Egawa</u> , <u>Koichi Chida</u> , <u>Eiichi Kodama</u> , Hideyasu Kiyomoto, Tadashi Ishii, Akito Tsuboi, <u>Hiroaki Tomita</u> , Yasuyuki Taki, Hiroshi Kawame, Kichiya Suzuki, Naoto Ishii, Soichi Ogishima, Satoshi Mizuno, Takako Takai-Igarashi, Naoko Minegishi, Jun Yasuda, Kazuhiko Igarashi, Ritsuko Shimizu, Masao Nagasaki, Osamu Tanabe, Seizo Koshiba, Hiroaki Hashizume, Hozumi Motohashi, Teiji Tominaga, Sadayoshi Ito, Kozo Tanno, Kiyomi Sakata, Atsushi Shimizu, Jiro Hitomi, Makoto Sasaki, Kengo Kinoshita, Hiroshi Tanaka, Tadao Kobayashi, the Tohoku Medical Megabank Project Study Group, Shigeo Kure, Nobuo Yaegashi, and Masayuki Yamamoto.	International Journal of Epidemiology	49	1	18	19	
8	英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Study Profile of The Tohoku Medical Megabank Community-Based Cohort Study.	Atsushi Hozawa, Kozo Tanno, Naoki Nakaya1, Tomohiro Nakamura, Naho Tsuchiya, Takumi Hirata, Akira Narita, Mana Kogure, Kotaro Nochioka, Ryohei Sasaki, Nobuyuki Takanashi, Kotaro Otsuka, Kiyomi Sakata, <u>Shinichi Kuriyama</u> , Masahiro Kikuya, Osamu Tanabe, Junichi Sugawara, Kichiya Suzuki, Yoichi Suzuki, <u>Eiichi N Kodama</u> , Nobuo Fuse, Hideyasu Kiyomoto, Hiroaki Tomita, Akira Urano, Yohei Hamanaka, Hirohito Metoki, Mami Ishikuro, Taku Obara, Tomoko Kobayashi, Kazuyuki Kitatani, Takako Takai-Igarashi, Soichi Ogishima, Mamoru Satoh, Hideki Ohmomo, Akito Tsuboi, <u>Shinichi Egawa</u> , Tadashi Ishii, Kiyoshi Ito, Sadayoshi Ito, Yasuyuki Taki, Naoko Minegishi, Naoto Ishii, Masao Nagasaki, Kazuhiko Igarashi, Seizo Koshiba, Ritsuko Shimizu, Gen Tamiya, Keiko Nakayama, Hozumi Motohashi, Jun Yasuda, Atsushi Shimizu, Tsuyoshi Hachiya, Yuh Shiwa, Teiji Tominaga, Hiroshi Tanaka, Kotaro Oyama, Ryoichi Tanaka, Hiroshi Kawame, Akimune Fukushima, Yasushi Ishigaki, Tomoharu Tokutomi, Noriko Osumi, Tadao Kobayashi, Fuji Nagami, Hiroaki Hashizume, Tomohiro Arai, Yoshio Kawaguchi, Shinichi Higuchi, Masaki Sakaida, Ryujin Endo, Satoshi Nishizuka, Ichiro Tsuji, Jiro Hitomi, Motoyuki Nakamura, Kuniaki Ogasawara, Nobuo Yaegashi, Kengo Kinoshita, Shigeo Kure, Akio Sakai, Seichiro Kobayashi, Kenji Sobue, Makoto Sasaki, Masayuki Yamamoto	Journal of Epidemiology	31	1	65	76	20200111

9	英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Mitochondrial dysfunction underlying sporadic inclusion body myositis is ameliorated by the mitochondrial homing drug MA-5.	Yoshitsugu Oikawa; Rumiko Izumi; Masashi Koide; Yoshihiro Hagiwara; Makoto Kanzaki; Naoki Suzuki; Koichi Kikuchi; Tetsuro Matsushashi; Yukako Akiyama; Mariko Ichijo; Takafumi Toyohara; Takehiro Suzuki; Eikan Mishima; Yasutoshi Akiyama; <u>Eiichi N Kodama</u> ; Yoshiaki Ogata; <u>Hironori Hayashi</u> ; Chitose Suzuki; Masashi Aoki; Eiji Itoi; Ken-ichiro Hayashi; Shigeo Kure; Takaaki Abe	PLOS ONE	15	12		0231064	20201202
10	英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Implementation of Evacuation Measures during Natural Disasters under Conditions of the Novel Coronavirus (COVID-19) Pandemic based on a Review of Previous Responses to Complex Disasters in Japan.	Masashi Sakamoto, <u>Daisuke Sasaki</u> , <u>Yuichi Ono</u> , <u>Yuko Makino</u> , <u>Eiichi N Kodama</u> .	Progress in Disaster Science	8			100127	20201016
11	英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	The impact of the clinical outcomes and risk factors of patients with IMP-type carbapenemase-producing carbapenem-resistant Enterobacteriaceae in Japan: A matched case-case-control study.	Sho Saito, Kayoko Hayakawa, Shinya Tsuzuki, Masahiro Ishikane, Maki Nagashima, Kazuhisa Mezaki, Yuko Sugiki, Taichi Tajima, Nobuaki Matsunaga, Satoshi Ide, Noriko Kinoshita, Yoshiaki Kusama, Yumiko Fujitomo, Takato Nakamoto, Yuta Toda, Mitsuo Kaku, <u>Eiichi N Kodama</u> , Norio Ohmagari.	Antimicrobial Agents and Chemotherapy in press	65	3	1483	20	20210217
12	英語	共著	両方	はい	学術雑誌	有	いいえ	A small compound with an indole moiety inhibits the main protease of SARS-CoV-2 and blocks virus replication.	Shin-ichiro Hattori, Nobuyo Higashi-Kuwata, <u>Hironori Hayashi</u> , Srinivasa Allu, Jakka Raghavaiiah, Haydar Bulut, Debananda Das, Brandon Anson, Emma Lendy, Yuki Takamatsu, Nobutoki Takamune, Naoki Kishimoto, Kazutaka Murayama, Kazuya Hasegawa, Mi Li, David Davis, <u>Eiichi N Kodama</u> , Robert Yarchoan, Alexander Wlodawer, Shogo Misumi, Andrew Mesecar, Arun Ghosh, and Hiroaki Mitsuya.	Nature Communications	12	1		668	20210128

著書(監修・編集・単著・共著)

監修	0	編集	0	筆頭共著	0	共著	2	合計	2	うち	国際	0	国内	2
----	---	----	---	------	---	----	---	----	---	----	----	---	----	---

記述言語	著書名および担当執筆題名	種別	発行年月日	著者・監修者氏名	区分	出版社名	所外連携	発行部数
1 日本語	エース薬理学	単行本	20200801	金井好克、安西尚彦、安藤仁、五嶋良郎、上塚裕二、櫻井隆、安東賢太郎、鈴木秀典、浅井聡、安藤仁、有賀純、木内祐二、西昭徳、鈴木達也、大内基司、高橋英夫、上園保仁、安西尚彦、岩本隆宏、筒井正人、中瀬古(泉)寛子、杉山篤、西山為、人見浩史、富田修平、和田孝一郎、齋藤源頭、佐藤慶太郎、青山晃治、今村武史、石塚俊晶、西村有平、横田伸一、 <u>児玉栄一</u> 、白木公康、塚原富士子、丸義明	共著	南山堂	国内	
2 日本語	「これからの感染症対策」(『東日本大震災からのスタート:災害を考える51のアプローチ』第41章, pp.167-170)	編集本(著者・Author)	20210311	牧野祐子、 <u>児玉栄一</u> (東北大学災害科学国際研究所)	共著	東北大学出版会	国内	1400

総説・解説(大学紀要・学術雑誌・学会誌・商業雑誌など)

単著	0	筆頭共著	0	その他の共著	1	合計	1	うち	国際査読有	0	国際査読無	0	国内査読有	1	国内査読無	0
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

記述言語	題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	区分	所外連携
1 日本語	宮城県精神科医療機関新型コロナウイルス感染症対策ネットワークにおける対策指針策定の経緯と意義 ~コロナ禍が精神医療にもたらした教訓~	学術雑誌	有	いいえ	日本精神科病院協会雑誌	39	11	771	776	2020	富田博秋、佐藤博俊、角藤芳久、國井泰人、佐久間篤、牧野祐子、 <u>児玉栄一</u> 、徳田浩一、鈴木 陽、吉田真紀子、賀来満夫、押谷 仁、小坂 健	共著	国内

学会発表

単名	1	筆頭連名	0	その他の連名	0	合計	1
----	---	------	---	--------	---	----	---

	国内 国際	会議名称	会議の テーマ	区分	招待	講演・発表の形態	会場名	開催 都市名	開催 国名	開催期間		発表 年月日	題目名(原語)	連名者名 (発表者に下線)
										開始年月	終了年月			
1	国内	第35回宮城県臨床細胞学会学術集会	伊藤 潔	単名	はい	口頭(招待)	Web開催 (Cisco Webex)		日本	20210207	20210207	20210207	COVID-19のこれまでとこれから	<u>児玉栄一</u>

学術会議・シンポジウム等の主催・共催・運営等

合計	1件
----	----

	国内 国際	種別	主催団体名・運営 団体名等	イベント名称	開催期間		会場	開催 都市名	開催 国名	参加人数 (名/外賓)	分野	担当	IRIDEsの 関与	共催機関名	所外 連携
					開始年月	終了年月									
1	国内	その他	災害感染症学分野	感染症リサーチカンファレンス	20201203	20200120	Google classroom	仙台	日本	25	臨床医学	代表	なし	連携講座	国内

C. 教育活動

教育活動の概要

大学院生10名、学部卒業研究生1名、その他学位指導・審査などを行った。今年度は新型コロナウイルス感染症対策として、多くの学部講義・全学講義を行った。全学講義では、下記の項目に分類できない全学に向けた感染対策web講義、部局からの依頼で行った教授等に対するの対面講義、web講義なども行った。一方で多くの上半期で行われる学会が中止となり、学会発表は、招待でのweb講演会を除いてほとんど行うことができなくなった。

担当授業科目(他大学を含む)

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・ 学期	コマ数 90分/コマ
1	臨床医学	東北大学	医学部	医学科	4	後期	1
2	薬理学II	東北大学	医学部	医学科	3	前期	1
3	隣接医学	東北大学	歯学部	歯学科	5		1
4	巨大災害に対する健康と社会のレジリエンス	東北大学	医学系研究科	医科学		後期	1
5	感染症とヒューマンセキュリティ	東北大学	医学系研究科	医科学		後期	1
6	血液学II	東北大学	医学部	保健学科			1
7	新型コロナウイルス感染症に関する講義	東北大学	医学部	医学科	1		1
8	課外活動者向け「新型コロナウイルス感染症」	東北大学	課外活動メンバー				1
9	新入生オリエンテーション「新型コロナウイルス感染症」	東北大学	医学部	医学科	1		2
10	新入生オリエンテーション「新型コロナウイルス感染症」	東北大学	医学部	保健学科	1		1
11	新2年生向け進級オリエンテーション	東北大学	医学部	医学科	2		1
12	新3年生向け進級オリエンテーション	東北大学	医学部	医学科	3		3
13	新1生「医学研究紹介」	東北大学	医学部	医学科	1	1セメ	1
14	新1生「研究室紹介」	東北大学	医学部	医学科	1	1セメ	2

D. 社会活動

社会活動の概要

新型コロナウイルス感染症対応としての報道機関からの問い合わせ、インタビュー、寄稿などを行った。また東北ブロックの病院、研究会、学会からの招待講演に応じた。行政からの依頼で、仙台市感染症審議会など、複数の委員会に加わり、行政対応などの支援を行った。

講演・講義等(研究活動以外)

合計	9件
----	----

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	連携	主催者	会場名	開催 都市名	開催 国名	参加人数
				開始年月日	終了年月日							
1	セミナー	公立藤田総合病院 感染対策セミナー	招待講演	20200715	20200715	新型コロナウイルスの知識と対応	行政	公立藤田総合病院	公立藤田総合病院	福島県伊達郡	日本	
2	セミナー	第141回宮城県眼科懇話会	招待講演	20201114	20201114	新型コロナウイルス Up To Date	なし	宮城県眼科医会	オンライン(ZOOM)	仙台市	日本	
3	講演会	感染症社内学術研修/勉強会	招待講演	20201013	20201013	新規抗HIV薬の創薬と将来展望	企業	MSD(株)	オンライン(ZOOM)	仙台市(東京)	日本	
4	講演会	「歴史が導く災害科学の新展開IV - 先陣の疫病文化に学ぶ -	招待講演	20210211	20210211	シンポジウム・コメントなど	なし	災害研	オンライン(ZOOM)	仙台市	日本	
5	公開講座	仙台防災未来フォーラム2021	招待講演	20210307	20210307	災害医学部門実績と今後10年	行政	仙台市	オンライン(ZOOM)と会場のハイブリッド	仙台市	日本	

6	セミナー	第35回宮城県臨床細胞学会	招待講演	20210207	20210207	COVID-19 これまでとこれから	なし	宮城県臨床細胞学会	オンライン (ZOOM)	仙台市	日本	
7	セミナー	令和3年度東北大学本部 防災教育新型コロナ対応	招待講演	20201111	20201111	コロナ禍における防災訓練・災害対応 感染症対策	なし	東北大学	オンライン (ZOOM)と 会場のハイブリッド	仙台市	日本	
8	セミナー	第50回みやぎ医学検査学会	招待講演	20201029	20201029	新型コロナウイルス感染症 最新情報と感染対策	なし	みやぎ医学検査学会	オンライン (ZOOM)と 会場のハイブリッド	仙台市	日本	
9	セミナー	公立藤田総合病院 感染 対策セミナー	招待講演	2020217	2020217	COVID-19 これまでとこれから	なし	公立藤田総合病院	公立藤田総合病院	福島県 伊達郡	日本	

自治体・民間等での委員

区分	組織・団体名	委員会名	委員・役職名	開始年月日
1 国・政府	独立行政法人 国際協力機構(JICA)	国際緊急援助隊 感染症対策チーム	作業部会員	20141201
2 地方自治体	宮城県	結核医療地域ネットワーク会議	世話人	20160601
3 地方自治体	宮城県	感染症審査協議会委員会	委員	20170401
4 地方自治体	仙台市	感染症病院ネットワーク	メンバー	20160901
5 地方自治体	仙台市	感染症審査協議会「感染症審査部会」	会長(部会長)	20170401
6 地方自治体	仙台市	エイズ・性感染症対策推進協議会委員	副会長	20170801
7 その他	独立行政法人日本学術振興会	科学研究費委員会専門委員	委員	20171201



## 林 宏典 助教

## HAYASHI Hironori

災害医学研究部門 災害感染症学分野

## A. 基本情報・略歴

## 出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	京都大学	工学部	2005	3	京都大学	エネルギー科学研究科	2007	3	修士課程	2005	3
2					京都大学	エネルギー科学研究科	2010	3	博士課程(退学)		
3					熊本大学	医学教育部医学専攻	2014	9	博士課程	2014	9

## 職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	2014	10	2018	3	国立研究開発法人 国立国際医療研究センター 難治性ウイルス感染症研究部	研究員
2	2018	3	2018	9	東北大学 病院検査部	正規職員
3	2018	10	2020	9	東北大学大学院医学系研究科 感染制御インテリジェンス・ネットワーク寄附講座	正規職員
4	2020	10	現在		東北大学災害科学国際研究所 災害感染症学分野	助教

## 学会活動

## 所属学会

	学会名 1	2
	抗ウイルス療法学会	エイズ学会

## 研究分野・キーワード

	専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3	専門分野 4	専門分野 5
	アウトブレイク	薬剤耐性	創薬	抗ウイルス薬	抗菌薬

## 委員会・ワーキンググループ

## 全学・他部局の委員会での委員

	部局名	委員会名	役職	開始年月日
1	医学研究科	教室委員会	委員	

## B. 研究活動

## 研究活動の概要

新型コロナウイルスが示したようにウイルス感染症が一旦アウトブレイクを起こすと世界規模での災害となる。現在進行形で発生しているパンデミックの早期終息と新たな発生の予防のため、新規抗ウイルス薬および抗菌薬開発を行った。抗ウイルス薬開発に関しては、麻疹ウイルスの膜融合阻害剤の研究を実施すると共に、東京の国立国際医療研究センター研究所と連携して新型コロナウイルスのプロテアーゼ阻害剤開発を行った。主に結晶構造解析を担当し、新規化合物と標的タンパクの相互作用様式の解明を目的とした。抗菌薬開発に関しては、新たな薬剤標的として葉酸サイクルを介した1炭素代謝関連酵素に着目した抗菌薬開発を実施した。

## 研究課題

	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	2019	1	現在		葉酸サイクルを介した1炭素代謝関連酵素を標的とする抗菌薬開発	国内
2	2019	3	現在		新型コロナウイルス(SARS-CoV-2)によるパンデミックの早期終息を目的とした新規SARS-CoV-2治療薬の構造解析	両方
3	2018	8	2021	3	Staphylococcus aureusに対するゲムシタピン(dFdC)の抗菌活性機序の解明とdFdC耐性獲得に伴う代償の検討	国内
4	2018	4	現在	3	麻疹ウイルスの薬剤耐性獲得機構に基づく新規膜融合阻害ペプチドの設計指針	国内

論文

単著	0	筆頭共著	0	その他の共著	6	合計	6	うち	国際査読有	6	国際査読無	0	国内査読有	0	国内査読無	0
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

記述言語	区分	所外連携	国際学術誌	種別	査読	招待論文	論文題目名(原語)	著者氏名(共著者含)	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日
1	英語	共著	両方	はい	学術雑誌	有	いいえ	A small compound with an indole moiety inhibits the main protease of SARS-CoV-2 and blocks virus replication,	Nature Communications	12	1	668	679	
2	英語	共著	両方	はい	学術雑誌	有	いいえ	Mitochondrial dysfunction underlying sporadic inclusion body myositis is ameliorated by the mitochondrial homing drug MA-5.	PloS one	15	12		e0231064	
3	英語	共著	両方	はい	学術雑誌	有	いいえ	Single atom changes in newly synthesized HIV protease inhibitors reveal structural basis for extreme affinity, high genetic barrier, and adaptation to the HIV protease plasticity.	Scientific. Reports	10		10664	10675	
4	英語	共著	両方	はい	学術雑誌	有	いいえ	Application of human lymphoid cells for the evaluation of antivirals against human adenovirus type 19: Zalcitabine has superior activity compared to cidofovir.	Antiviral chemistry & chemotherapy	28		1	5	
5	英語	共著	両方	はい	学術雑誌	有	いいえ	Synthetic biology based construction of biological activity-related library of fungal decalin-containing diterpenoid pyrones.	Nature Communications	11		1830	1841	
6	英語	共著	両方	はい	学術雑誌	有	いいえ	Pyrimidine analogs as a new class of Gram-positive antibiotics, mainly targeting thymineless-death related proteins.	ACS Infectious Diseases	6		1490	1500	

C. 教育活動

教育活動の概要

抗ウイルス薬や抗菌薬の開発研究を通して、創薬研究における基礎的な知識と必要となる実験技術、特に薬剤のスクリーニング技術を中心に細胞増殖の基礎的技術、分子生物学的思考法などを習得できるように指導した。また、実験を通して、研究に対する考え方や研究テーマをどのように発展させていくかなどを教えた。さらに、投稿論文がどのような過程を経て雑誌に掲載されるかを実際に経験してもらった。

D. 社会活動

社会活動の概要

コロナ禍における避難時の注意点に関するポスター作製。

一般向けセミナー・講演等の主催・共催・運営等(研究活動以外)

合計 1 件

	国内 国際	主催団体名・ 運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場名	開催 都市名	開催 国名	担当	参加 人数	IRIDeSの 関与	講演会・セミナー等
				開始年月日	終了年月日							
1	国内	感染制御インテリ ジェンスネットワーク 寄附講座	第12回感染制御インテリジェンスネット ワーク寄附講座セミナー	20201118	20201118	インターネット 開催	仙台市	日本	運営委員	20	なし	講演会

# 千田 浩一 教授

## CHIDA Koichi

災害医学研究部門 災害放射線医学分野

### A. 基本情報・略歴

#### 出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1					東北大学大学院	医学系研究科	2003	3	博士(障害科学)	2003	3

#### 職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	2000	4	2003	3	東北大学医療技術短期大学部 診療放射線技術学科	助手
2	2003	4	2007	3	東北大学医学部保健学科 放射線技術科学専攻	助手
3	2007	10	2008	3	東北大学大学院医学系研究科 放射線技術科学専攻	准教授
4	2008	4	2009	9	東北大学大学院医学系研究科 保健学専攻放射線技術科学コース	准教授
5	2009	10	2012	3	東北大学大学院医学系研究科 保健学専攻放射線技術科学コース	教授
6	2012	4	2013	3	東北大学災害科学国際研究所 教授兼任	教授
7	2013	4	現在		東北大学災害科学国際研究所 教授(東北大学大学院医学系研究科兼任)	教授

#### 学会活動

##### 所属学会

	学会名 1	2	3	4	5	6	7	8	9
	日本放射線技術学会	日本医学放射線学会	日本医学物理学会	医用画像情報学会	日本アイトープ協会	医学物理士会	日本消化器がん検診学会	日本放射線影響学会	日本放射線安全管理学会

##### 学会・委員会等での役職

	学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
1	日本放射線技術学会	評議員会	評議員	20050000
2	日本放射線技術学会	理事会	理事	20150000
3	日本放射線技術学会	東北部会	副支部長・理事	20130000
4	医学物理学会	試験委員会	委員	20130000
5	日本血管撮影・インターベンション専門診療放射線技師認定機構	試験委員会	委員	20130000
6	American Journal of Roentgenology	査読委員	査読委員	20130000
7	日本放射線技術学会	編集委員会	副委員長(統括)	20170000
8	日本放射線技術学会	秋季学術大会	大会長	20180000

##### 研究分野・キーワード

	専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3	専門分野 4	専門分野 5
	放射線医学	放射線技術科学	災害放射線医学	医用工学・物理学	内部障害学

##### 委員会・ワーキンググループ

##### 全学・他部局の委員会での委員

	部局名	委員会名	役職名	開始年月日
1	全学	放射線取扱主任者専門部会	専門部員	20130000
2	医学系研究科	安全衛生委員会	委員	20130000
3	医学系研究科	放射線障害予防委員会	放射線(RI)取扱主任者	20130000
4	医学系研究科	放射線障害予防委員会	X線取扱主任者	20130000
5	医学系研究科	ラジオアイソトープセンタ運営委員会	委員	20130000
6	メディカルメガバンク	運営委員会	委員	20130000
7	保健学科	放射線管理実務部会	責任者	20130000
8	保健学科	放射線技術科学専攻キャリア支援	担当者	20130000
9	全学	研究教育基盤技術センター運営専門委員会	委員	20150000
10	病院	緊急被ばく医療専門委員会	委員	20150000
11	全学	放射線安全管理責任者	責任者	20130000
12	全学	研究倫理相談窓口	担当者	20160000
13	全学	研究公正アドバイザ	担当者	20160000
14	全学	研究推進・支援機構研究設備マネジメント専門委員会	委員	20150000
15	全学	東北大学附属図書館医学分館運営委員会	運営委員	20190401
16	全学	東北大学附属図書館医学分館学術情報整備委員会	委員	20190401
17	全学	原子科学安全専門委員会	放射線等安全取扱全学講習会担当者	20190401

B. 研究活動

研究活動の概要

当分野教授の千田は、大学院医学系研究科放射線検査学分野及び同医学部保健学科を兼務し、研究教育等を担当している。1. 患者・術者等の被曝評価防護研究、2. 放射線機器の最適化研究、3. 災害放射線医学関連研究、特に「医療被曝関連研究」を今年度も多く行っている。医学に利用される放射線は、大部分が低線量被曝であるため、よって医療被曝関連研究は原子力災害時における低線量被曝研究を行う上で重要な基盤となると考える。さらに「災害放射線医学関連研究」として、①福島原発事故に起因した医用X線写真上に生じた黒点に関する研究。②原発事故相談窓口での電話相談内容の分析や対応策の検討。③低線量被曝スクリーニング法の開発等を継続して実施した（「産総研マッチング研究支援事業」も実施）。加えて水晶体被曝関連研究及び不均等被曝研究も精力的に行っており、厚労省検討会にて研究成果が活用されたり、規制庁ガイドライン作成出版に寄与し、関係法令改正に貢献した。

研究課題

	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	1990	4	現在		放射線被曝研究	国内
2	1990	4	現在		医用機器QC・QA	国内
3	2000	4	現在		リンMRS研究	なし
4	2012	4	現在		災害放射線医学研究	国内

論文

単著	0	筆頭共著	0	その他の共著	15	合計	15
----	---	------	---	--------	----	----	----

うち	国際査読有	10	国際査読無	0	国内査読有	5	国内査読無	0
----	-------	----	-------	---	-------	---	-------	---

	記述言語	区分	所外連携	国際学術誌	種別	査読	招待論文	論文題目名(原語)	著者氏名(共著者含)	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	
1	英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Evaluation of novel X-ray protective eyewear in reducing the eye dose to interventional radiology physicians.	Endo M, Haga Y, Sota M, Tanaka A, Otomo K, Murabayashi Y, Abe M, Kaga Y, Inaba Y, Suzuki M, Meguro T, Chida K.	Journal of Radiation Research 2021,	62	3	1	6	2021	
2	日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	有	いいえ	X線防護壁付掛布による心臓IVR術者の被ばく低減に関する基礎的検討。	曾田 真宏, 芳賀 喜裕, 荒井 剛, 鈴木 新一, 加賀 勇治, 阿部 美津也, 千田 浩一	臨床放射線	66					2021
3	英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Radioprotection of eye lens using protective material in neuro cone-beam computed tomography: Estimation of dose reduction rate and image quality.	Kawauchi S, Chida K, Moritake T, Hamada Y, Tsuruta W.	Physica medica,	82	2	192	199	2021	
4	英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Evaluation of radiation protection methods for assistant staff during CT imaging in high-energy trauma.	Ota J, Yokota H, Kawasaki T, Taoka J, Kato H, Chida K, Masuda Y, Uno	Health Physics	120	6	635	640	2021	
5	英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Fetal radiation dose of four tube voltages in abdominal CT examinations during pregnancy: a phantom study	Yuta Matsunaga, Tomonobu Haba, Masanao Kobayashi, Shoichi Suzuki, Yasuki Asada, Koichi Chida	The Journal of Applied Clinical Medical Physics (JACMP)	22	2	178	184	2021	
6	日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	有	いいえ	肝動脈化学療法施行肝細胞癌患者の累積被ばく線量の実態調査	増淵 裕介, 千田 浩一, 稲葉 洋平, 中野 繁明, 山下 明, 水沼 仁孝	日本IVR学誌,	35	1	51	57	2020	
7	日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	有	いいえ	手術室におけるモバイルCアームX線装置使用時の空間線量測定	新田見耕太, 千田浩一, 竹井泰孝, 小林秀夫, 吉田秀義,	IVR学会Jpn J Intervent Radiol	35	2	140	144	2020	
8	日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	有	いいえ	ポータブルX線撮影における放射線技師の被曝防護意識に関する調査	大友一輝, 遠藤美芽, 村林優樹, 安部圭亮, 小野寺真奈, 鈴木友裕, 高橋拓己, 一ツ木康晶, 稲葉洋平, 千田浩一	日本放射線安全管理学会誌	19	1	2	10	2020	
9	日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	有	いいえ	「空間線量測定用新型サーベイメータの性能評価」	森島貴顕 千田浩一 稲葉洋平 千葉昌弘 千葉浩生	臨床放射線	65	12	1327	1333	2020	
10	英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Radiation eye dose to medical staff during respiratory endoscopy under X-ray fluoroscopy.	Yoshihiro Haga, Koichi Chida, Yuichiro Kimura, et al.	Journal of Radiation Research,	61	5	691	696	2020	
11	英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Hybrid Operating Room System for the Treatment of Thoracic and Abdominal Aortic Aneurysms: Evaluation of the Radiation Dose Received by Patients.	Yoshihiro Haga, Koichi Chida, Masahiro Sota, et al.	Diagnostics 2020,	10	(10)	846		2020	
12	英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Reducing the Breast Cancer Risk and Radiation Dose of Radiography for Scoliosis in Children: A Phantom Study.	Manami Nemoto, Koichi Chida	Diagnostics 2020,	10	(10)	753		2020	
13	英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Total body irradiation causes a chronic decrease in antioxidant levels.	Sun L, Inaba Y, Koichi Chida	Sci Rep	11		6716		2021	
14	英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	An initial investigation of a wireless patient radiation dosimeter for use in interventional radiology.	Inaba Y, Koichi Chida	Radiol Phys Technol.	13	3	321	326	2020	
15	英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Development of Novel Real-Time Radiation Systems Using 4-Channel Sensors.	Inaba Y, Koichi Chida	Sensors	20	9	2741		2020	

著書(監修・編集・単著・共著)

監修	0	単著	0	筆頭共著	0	共著	3	合計	3	うち	国際	0	国内	3
----	---	----	---	------	---	----	---	----	---	----	----	---	----	---

記述言語	著書名および担当執筆題名	種別	発行年月日	著者・監修者氏名	区分	出版社名	所外連携	発行部数
1	日本語 放射線・医療安全管理学	編集本(著者・Author)	2020/10/1	藤淵俊王、杜下淳次、千田浩一	共著	南山堂	国内	
2	日本語 「放射線災害と健康影響」(『東日本大震災からのスタート:災害を考える51のアプローチ』第42章, pp.171-174)	編集本(著者・Author)	20210311	鈴木正敏、千田浩一(東北大学災害科学国際研究所)	共著	東北大学出版会	国内	1400
3	日本語 新編 内部障害のリハビリテーション 第2版	編集本(著者・Author)	20200801	上月正博、千田浩一	共著	医歯薬出版	両方	

学会発表

単名	2	筆頭連名	0	その他の連名	14	合計	16
----	---	------	---	--------	----	----	----

	国内国際	会議名称	会議のチェア	区分	招待	講演・発表の形態	会場名	開催都市名	開催国名	開催期間		発表年月日	題目名(原語)	連名者名(発表者に下線)
										開始年月	終了年月			
1	国内	京都大学複合原子力科学研究所専門研究会		その他の連名		口頭(一般)	オンライン	大阪	日本	202012		202012	不溶性セシウム粒子による細胞影響解析	鈴木正敏、遠藤暁、松谷祐輝、二宮和彦、稲葉洋平、千田浩一、福本学、
2	国内	日本保健物理学会第53回研究発表会		その他の連名		口頭(一般)	オンライン		日本	202006		202006	診療放射線技師の被曝防護の実態調査:ポータブルX線撮影に関するアンケートによる検討。	大友一輝、遠藤美芽、村林優樹、安部圭亮、小野寺真奈、鈴木友裕、高橋拓己、一ツ木康晶、稲葉洋平、千田浩一、
3	国内	第40回日本核医学技術学会総会学術大会		その他の連名		口頭(一般)	神戸国際会議場	神戸	日本	20201112	20201114	20201112	心臓専用半導体SPECTを用いた体位変換による左室容量解析変化の検討	貝本葉子、稲波宏、細野佑果、浅沼雅康、福原幸規、山本篤志、中尾梨沙子、松尾有香、福島賢慈、長尾充展、千田浩一
4	国内	日本放射線技術学会第77回総会学術大会		その他の連名		口頭(一般)	オンライン		日本	202005	202006	202005	コンビームCT撮影における水晶体防護具の試作 -防護具に用いる遮蔽物質の検討。	川内 堂、千田 浩一、盛武 敬、濱田 祐介、依田 彰吾、佐久間 秀之、澤山 慧、時森 貴央、阿部 凌那、鶴田 和太郎、細尾 久幸、藤谷 茂太、田野 政勝
5	国内	第36回NPO法人日本脳神経血管内治療学会。		その他の連名		口頭(一般)	オンライン		日本	202011	202011	202011	脳血管内治療における患者水晶体線量-水晶体被ばくの変遷と線量低減の試み-	川内 堂、千田 浩一、盛武 敬、濱田 祐介、依田 彰吾、佐久間 秀之、澤山 慧、時森 貴央、阿部 凌那、鶴田 和太郎、細尾 久幸、藤谷 茂太、田野 政勝
6	国内	日本放射線影響学会第63回大会		その他の連名		口頭(一般)	オンライン	福島	日本	20201015	20201031	20201015	福島原発事故による動物・環境試料を用いた放射線被ばく影響解析、	鈴木正敏、遠藤暁、松谷祐輝、岡壽崇、小野拓実、光安優典、木野康志、高橋温、篠田壽、漆原佑介、中島裕夫、二宮和彦、三浦富智、稲葉洋平、千田浩一、福本学
7	国際	RSNA2020		その他の連名		口頭(一般)	オンライン	シカゴ	アメリカ	202011	202011	202011	Hysterosalpingography (HSG): Reducing Physician Exposure and Optimization of the Patient Radiation Dose	Kota Nitami, Makoto Chihara, Koichi Chida, Junya Okui
8	国際	RSNA2020		その他の連名		口頭(一般)	オンライン	シカゴ	アメリカ	202012	202012	202012	Occupational Exposure of the Eye in Interventional Radiology Laboratory Staff	Endo M, Chida K, Haga Y, Sota M, Otomo K, Murabayashi Y.
9	国際	RSNA2020		その他の連名		口頭(一般)	オンライン	シカゴ	アメリカ	オンライン	シカゴ	アメリカ	Radiation Exposure of Physicians in Brachytherapy of the Tongue Using Au-198 Grains	Murabayashi Y, Jingu K, Endo M, Otomo K, Ishii H, Chida K.
10	国際	ECR2020		その他の連名		口頭(一般)	オンライン	ウィーン	オーストリア	202007	202007	202007	Occupational eye lens dose measurement using direct eye dosimeters in interventional cardiac electrophysiology procedures	Mamoru Kato, PhD, Koichi Chida, PhD, Takato Ishida, BS, Fumiaki Sasaki, BS, Hajime Osaka, BS, and Toshibumi Kinoshita, MD, PhD
11	国際	JRC2020		その他の連名		口頭(一般)	オンライン	横浜	日本	202005	202005	202005	Evaluation of usefulness of neurovascular interventional radiology procedure supported using MR-3D road-mapping.	Mamoru Kato, PhD, Koichi Chida, PhD, Takato Ishida, BS, Kazunori Matsumoto, BS, Fumiaki Sasaki, BS, and Hajime Osaka, BS.

12	国際	JRC2020		その他の連名		口頭(一般)	オンライン	横浜	日本	202005	202005	202005	Evaluation of Patient Radiation Dose in Percutaneous Coronary Intervention Using Radiophotoluminescence Dosimeter.	Kentaro Sakamoto, Mamoru Kato, Noriyuki Takahashi, Koichi Chida, Takeshi Kasamatsu, Toshihiko Onodera, Hiroto Atsumi.
13	国内	The 76th Annual Meeting of the Japanese Society of Radiological Technology(JSRT)		その他の連名		口頭(一般)	オンライン	横浜	日本	202004	202004	202004	Analysis of coronary calcification and epicardial fat tissue using low-dose chest CT: association with lifestyle-related disease.	Yukako Izoé, Michinobu Nagao, Akimasa Ueda, Tomohiro Ohno, Toshiaki Kawakami, Chida Koichi.
14	国際	RSNA(2020)		その他の連名		口頭(一般)	オンライン	シカゴ	アメリカ	オンライン		202012	Radiation Protection Effect of Novel Pb Plate in Videofluoroscopic Swallowing Study	Morishima.Y, Chida.K, Inaba.Y.
15	国内	2020JSRT九州支部放射線防護・計測セミナー		単名	はい	口頭(招待)	オンライン		日本	オンライン		2020.11	放射線医療従事者の水晶体被ばくの実態	千田浩一
16	国内	第36回日本診療放射線技師学術大会		単名	はい	口頭(基調)	オンライン		日本	オンライン		2021.1	水晶体の被ばく限度の見直しについて	千田浩一

特許・実用新案・その他の産業財産権(国内・海外)

合計 3 件

	種別	国内 国外	発明の名称	発明者 (申請者)	出願番号 (特願 or PCT)	出願日	公開番号	公開日	研究の成果	所外 連携
1	特許	国内	放射線被ばくによる皮膚炎発生の予測	千田浩一	特願2020-072182	20200404			学外共同の成果	国内
2	特許	国内	線量計及びシステム	千田浩一	特願2019-182073	20191002	特開2021-056181	20210408	学外共同の成果	国内
3	特許	国内	放射線検出装置及び線量計	千田浩一	特願2017-151013	20170803	特開2019-028034	20190221	学外共同の成果	国内

C. 教育活動

教育活動の概要

21名の大学院生(研究生含む)と5名の卒業研究学生を直接指導している。東北大学大学院講義の放射線検査学特論(集中講義)にて、災害放射線に関する講義を毎年行っている。東北大学大学院講義の放射線検査学セミナー(集中講義)にて、災害放射線に関する講義を毎年行っている。千田は、大学院医学系研究科放射線検査学分野及び同医学部保健学科を兼務し、多数の大学院講義や学部講義や学生実験などを担当している。また放射線技術科学専攻キャリア支援責任者として、学生面談やマッチングや書類添削や面接指導等々を指導した。

担当授業科目(他大学を含む)

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・学期	コマ数 90分/コマ
1	基礎ゼミ	東北大学	全学		1	1セメ	15
2	カレントトピックス	東北大学	全学		1	1セメ	1
3	応用セミナーI	東北大学	医学研究科	医学研究科			2
4	分野セミナー	東北大学	医学研究科	医学研究科			15
5	分野特論	東北大学	医学研究科	医学研究科			15
6	放射線計測学I	東北大学	医学部	保健学科	2	4セメ	15
7	放射線計測学II	東北大学	医学部	保健学科	3	5セメ	15
8	放射線基礎医学 物理	東北大学	医学部	医学科	2	3セメ	3
9	医用工学	東北大学	医学部	保健学科	4	7セメ	2
10	放射線計測学実験I	東北大学	医学部	保健学科	3	5セメ	15
11	放射線計測学実験II	東北大学	医学部	保健学科	3	6セメ	15
12	医用工学実習	東北大学	医学部	保健学科	4	7セメ	2
13	放射線機器工学I	東北大学	医学部	保健学科	2	4セメ	15
14	放射線機器工学II	東北大学	医学部	保健学科	3	5セメ	15
15	放射線機器工学実験I	東北大学	医学部	保健学科	3	5セメ	15
16	放射線機器工学実験II	東北大学	医学部	保健学科	4	8セメ	15
17	基礎セミナー	東北大学	医学研究科	医学研究科			2
18	応用セミナー	東北大学	医学研究科	医学研究科			2
19	Paper research & Basic seminar	東北大学	医学研究科	医学研究科			2
20	Doctoral Dissertation Research	東北大学	医学研究科	医学研究科			2
21	Clinical Radiological Technique Seminar I	東北大学	医学研究科	医学研究科			15
22	Technique of clinical Imaging	東北大学	医学研究科	医学研究科			2
23	Clinical Radiological Technique Seminar II	東北大学	医学研究科	医学研究科			15
24	Radiation Dosimetry	東北大学	医学研究科	医学研究科			15
25	Radiation Equipment Engineering	東北大学	医学研究科	医学研究科			15
26	Laws and Regulations for Radiologic Technologist	東北大学	医学研究科	医学研究科			15
27	Radiological Examination and Technology	東北大学	医学研究科	医学研究科			15
28	放射線関係法規	東北大学	医学部	保健学科	3	6セメ	15
29	卒業研究	東北大学	医学部	保健学科	4	8セメ	15
30	災害の科学	東北大学	全学		1	2セメ	1
31	放射線工学概論	東北文化学園大学	科学技術学部	臨床工学科	2	4セメ	15

D. 社会活動

社会活動の概要

原子力規制庁の水晶体被ばく検討会委員としてガイドライン作成出版に貢献した(医療スタッフの放射線安全に係るガイドライン～水晶体の被ばく管理を中心に～)。厚労省検討会にて法令改正(水晶体線量限度等)に関する意見申や提言を行った。仙台市防災会議専門委員(及び原子力防災部会委員)として防災計画作成活動を行っている。JST研究成果最適展開支援専門委員やJSTマッチングプランナー専門委員を担当した。放射線の知識の普及のための講演活動等、放射線等に対する正しい知識の普及などのためのパンフレット改良と電子教材作成開発改良やその他の社会活動を行った。

講演・講義等(研究活動以外)

合計 4 件

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	連携	主催者	会場名	開催都市名	開催国名	参加人数
				開始年月日	終了年月日							
1	講演会	宮城県原子力防災基礎研修	招待講演	20200827	20200827	放射線と放射能の基礎知識	行政	原子力安全技術センター・宮城県	石巻合同庁舎	石巻市	日本	100
2	セミナー	JSRT九州支部 放射線防護・計測セミナー	招待講演	20201100	20201100	放射線医療従事者の水晶体被ばくの実態	なし	JSRT九州支部	オンライン	オンライン	日本	オンライン
3	講演会	第36回日本診療放射線技師学術大会	招待講演	20210100	20210100	水晶体の被ばく限度の見直しについて	なし	日本診療放射線技師会	オンライン	オンライン	日本	オンライン
4	セミナー	国立病院機構北海道東北グループ放射線管理研修	講義	20200703	20200703	DRLs2020について、CT検査・血管造影検査の放射線量の最適化について、線量測定の実際	行政	独立行政法人国立病院機構	オンライン	オンライン	日本	オンライン

自治体・民間等での委員

	区分	組織・団体名	委員会名	委員・役職名	開始年月日
1	地方自治体	仙台市防災会議専門委員(及び原子力防災部会委員)	仙台市防災会議専門委員(及び原子力防災部会委員)	委員	20120000
2	国・政府	JST研究成果最適展開支援専門委員	JST研究成果最適展開支援専門委員	委員	20150000
3	国・政府	JSTマッチングプランナー専門委員	JSTマッチングプランナー専門委員	委員	20150001
4	国・政府	厚労省	厚労省検討会	有識者	20190000
5	国・政府	原子力規制庁	水晶体被ばくガイドライン作成班	班員	20190000
6	国・政府	厚労省	厚労省放射線防護分野合同連絡会議	委員	20200000

その他、他機関等との交流実績(国内に限る)

合計 4 件

	交流機関名称	交流者	交流年月日	交流目的	会場名	開催都市名	主な担当内容	参加人数
1	産総研	孫 略	2020	共同研究	東北大学	仙台	その他	30
2	産業医大	盛武 敬ほか	2020	共同研究	東北大学	仙台	講演・発表	40
3	福島学院大	杉浦 広幸	2020	共同研究	東北大学	仙台	その他	5
4	九州大	藤瀬 俊王	2020	共同研究	東北大学	福岡	その他	5

鈴木 正敏 講師

SUZUKI Masatoshi

災害医学研究部門 災害放射線医学分野

A. 基本情報・略歴

出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	茨城県立医療大学	保健医療学部	2000	3	長崎大学	大学院医歯薬学総合研究科	2006	3	博士(学術)	2006	3

職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	2006	4	2008	1	テキサス大学 サウスウェスタンメディカルセンターダラス校	博士研究員
2	2008	2	2012	3	長崎大学 大学院医歯薬学総合研究科 原爆後障害医療研究施設	博士研究員
3	2011	11	2011	12	オーストラリアクイーンズランド医科学研究所	特別研究員
4	2012	4	2012	6	長崎大学 大学院医歯薬学総合研究科 原爆後障害医療研究施設	助教
5	2012	7	2017	3	東北大学 加齢医学研究所	助教
6	2017	4	2019	3	東北大学 災害復興新生研究機構	助教
7	2019	4	2019	4	東北大学 災害復興新生研究機構	講師
8	2019	5	現在		東北大学 災害科学国際研究所	講師

学会活動

所属学会

	学会名 1	2
	日本放射線影響学会	日本癌学会

学会・委員会等での役職

	学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
1	日本放射線影響学会		学術評議員	20130000
2	日本放射線影響学会	広報出版委員会	委員	20160900
3	日本放射線影響学会	論文紹介企画小委員会	委員長	20160000

研究分野・キーワード

	専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3	専門分野 4
	放射線生物学	放射線影響学	分子細胞生物学	分子イメージング

B. 研究活動

研究活動の概要

福島第一原発事故による低線量・低線量率放射線の長期被ばく影響を明らかにするために、旧警戒区域で被ばくをしている野生ニホンザルの試料を継続的に収集してきた。収集した試料を測定・分析して外部被ばく、内部被ばく線量を評価するとともに、生物影響解析によって確認された変化については、被ばく線量との相関を調べて放射線被ばくとの関連性を検討した。収集した試料は取り直しができず、動物実験で再現することも困難であるために、現在ではとらえられない変化を将来の科学技術の進展で解明することに役立てることを目的として、収集した試料を解析結果などと紐付けて長期保管する被災動物試料アーカイブを構築してきた。

研究課題

	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	2000	4	現在		放射線被ばくによる分子・細胞生物学的影響解析	国内
2	2012	7	現在		福島原発事故で被災した野生動物試料を用いた被ばく線量評価と生物影響解析	国内
3	2013	4	現在		トリチウムによる細胞影響評価	国内
4	2015	4	現在		放射性微粒子による被ばく線量評価と生物影響解析	国内
5	2018	4	現在		放射性セシウム飲水マウス試料を用いた酸化ストレスを中心とする被ばく影響解析	国内



論文

単著	0	筆頭共著	0	その他の共著	5	合計	5
----	---	------	---	--------	---	----	---

うち	国際査読有	4	国際査読無	0	国内査読有	1	国内査読無	0
----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

記述言語	区分	所外連携	国際学術誌	種別	査読	招待論文	論文題目名(原語)	著者氏名(共著者含)	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日
英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Internal exposure rate conversion coefficients and absorbed fractions of mouse for 137Cs, 134Cs and 90Sr contamination in body	Satoru Endo, Yuki Matsutani, Tsuyoshi Kajimoto, Kenichi Tanaka, Masatoshi Suzuki	Journal of Radiation Research	61	4	535	545	20200606
英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	External exposure dose estimation by electron spin resonance technique for wild Japanese macaque captured in Fukushima Prefecture	Toshitaka Oka, Atsushi Takahashi, Kazuma Koarai, Yusuke Mitsuyasu, Yasushi Kino, Tsutomu Sekine, Yoshinaka Shimizu, Mirei Chiba, Toshihiko Suzuki, Ken Osaka, Keiichi Sasaki, Yusuke Urushihara, Satoru Endo, Masatoshi Suzuki, Hisashi Shinoda, Manabu Fukumoto	Radiation Measurements	134		106315		20200600
日本語	共著	国内	いいえ	その他	有	いいえ	野生ニホンザルにおける放射性セシウム体内動態解析	漆原佑介、鈴木敏彦、清水良央、鈴木正敏、桑原義和、木野康志、関根勉、篠田壽、青野辰雄、福本学	KEK Proceedings of the 21st Workshop on Environmental Radioactivity	2020	4	69	74	20200900
英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Hybrid operating room system for the treatment of thoracic and abdominal aortic aneurysms: Evaluation of the radiation dose received by patients	Yoshihiro Haga, Koichi Chida, Masahiro Sota, Yuji Kaga, Mitsuya Abe, Yohei Inaba, Masatoshi Suzuki, Taiichiro Meguro, Masayuki Zuguchi	Diagnostics	10	10	846		20201019
英語	共著	国外	はい	学術雑誌	有	いいえ	Morphological reproductive characteristics of testes and fertilization capacity of cryopreserved sperm after the Fukushima accident in raccoon (Procyon lotor)	Kazuki Komatsu, Tsugumi Iwasaki, Kosuke Murata, Hideaki Yamashiro, Valeric Swee Ting Goh, Ryo Nakayama, Yohei Fujishima, Takumi Ono, Yasushi Kino, Yoshinaka Simizu, Atsushi Takahashi, Hisashi Shinoda, Kentaro Ariyoshi, Kosuke Kasai, Masatoshi Suzuki, Maria Grazia Palmerini, Manuel Belli, Guido Macchiarelli, Toshitaka Oka, Manabu Fukumoto, Mitsuaki A. Yoshida, Akifumi Nakata, Tomisato Miura	Reproduction in Domestic Animals	56	3	484	497	20201229

著書(監修・編集・単著・共著)

監修編集	0	単著	0	筆頭共著	1	共著	0	合計	1
------	---	----	---	------	---	----	---	----	---

うち	国際	0	国内	1
----	----	---	----	---

記述言語	著書名および担当執筆題名	種別	発行年月日	著者・監修者氏名	区分	出版社名	所外連携	発行部数
日本語	「放射線災害と健康影響」『東日本大震災からのスタート:災害を考える51のアプローチ』第42章, pp.171-174)	編集本(著者・Author)	20210311	鈴木正敏、千田浩一(東北大学災害科学国際研究所)	共著	東北大学出版会	国内	1400

学会発表

単名	0	筆頭連名	2	その他の連名	4	合計	6
----	---	------	---	--------	---	----	---

国内国際	会議名称	会議のテーマ	区分	招待	講演・発表の形態	会場名	開催都市名	開催国名	開催期間		発表年月日	題目名(原語)	連名者名(発表者に下線)
									開始年月	終了年月			
国内	日本放射化学会第64回討論会	篠原 厚	その他の連名	いいえ	ポスター(一般)	オンライン	大阪	日本	20200909	20200911	20200910	野生動物の歯を用いたESR線量計測のための試料前処理法の検討	岡 壽崇、光安 優典、高橋 温、小荒井 一真、木野 康志、関根 勉、奥津 賢一、山下 琢磨、清水 良央、千葉 美麗、鈴木 敏彦、小坂 健、佐々木 啓一、藤嶋 洋平、漆原 佑介、Valeric Swee Ting Goh、有吉 健太郎、中田 章史、山城 秀昭、鈴木 正敏、福本 学、三浦 富智、篠田 壽
国内	日本放射線影響学会第63回大会	鈴木義行	筆頭連名	はい	口頭(招待)	オンライン	福島	日本	20201015	20201016	20201015	福島原発事故による動物・環境試料を用いた放射線被ばく影響解析	鈴木正敏、遠藤 暁、松谷 祐輝、岡 壽崇、小野 拓実、光安 優典、木野 康志、高橋 温、篠田 壽、漆原 佑介、中島 裕夫、二宮 和彦、三浦 富智、福嶋 洋平、千田 浩一、福本 学
国内	日本放射線影響学会第63回大会	鈴木義行	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	オンライン	福島	日本	20201015	20201016	20201015	福島県浪江町に生息する野生動物の臓器の放射性セシウム濃度測定と内部被ばく線量推定	小野 拓実、木野 康志、高橋 温、鈴木 敏彦、清水 良央、千葉 美麗、藤嶋 洋平、Valeric GOH、有吉 健太郎、中田 章史、鈴木 正敏、山城 秀昭、関根 勉、篠田 壽、三浦 富智

4	国内	京都大学複合原子力科学研究所専門研究会	篠原 厚	筆頭連名	いいえ	口頭(一般)	オンライン	大阪	日本	20201224	20201224	20201224	不溶性セシウム粒子による細胞影響解析	鈴木正敏、遠藤晁、松谷祐輝、二宮和彦、稲葉洋平、手田造二、福本 学
5	国内	第22回環境放射能研究会	別所光太郎	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	オンライン	つくば	日本	20210310	20210312	20210310	野生動物の菌を用いた低線量被ばく推定法の開発	光安優典、岡 壽崇、高橋温、小荒井一真、木野康志、奥津賢一、関根 勉、山下琢磨、清水良央、千葉美麗、鈴木敏彦、小坂健、佐々木啓一、漆原佑介、鈴木正敏、福本 学、篠田 壽
6	国内	第22回環境放射能研究会	別所光太郎	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	オンライン	つくば	日本	20210310	20210312	20210310	福島原発事故後の放射線生物影響調査のための野生アライグマの被ばく線量評価	小野拓実、木野康志、清水良央、高橋 温、藤嶋洋平、Valerie Sweet Ting Goh、有吉健太郎、中田章史、鈴木正敏、中川貴美子、高橋常男、山田良広、遠藤 晁、山城秀昭、関根 勉、篠田 壽、三浦富智

C. 教育活動

教育活動の概要

全学教育カレントボックスを担当し、放射線災害事故に関する講義を行った。

担当授業科目(他大学を含む)

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・学期	コマ数 90分/コマ
1	災害の科学(災害の発生と波及)	東北大学	全学			2セメ	1

D. 社会活動

社会活動の概要

福島第一原子力発電所のALPS処理水の海洋汚染に関する取材1件と、放射線災害に関する講演1件を行い、放射線災害に関する解説を通じた社会活動を行なった。

講演・講義等(研究活動以外)

合計 1 件

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	連携	主催者	会場名	開催都市名	開催国名	参加人数
				開始年月日	終了年月日							
1	講演会	原子力施設の立地に関する理解促進活動と原子力地域の地域振興支援事業	講義	20210209	20210209	放射性物質災害に対する防御戦術や活動事例に学ぶ消火方法	なし	山形県消防学校	山形県消防学校	三川町	日本	50

# 稲葉 洋平 助教

## INABA Yohei

災害医学研究部門 災害放射線医学分野

### A. 基本情報・略歴

#### 出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	東北大学	医学部保健学科	2008	3	東北大学大学院	医学系研究科保健学専攻	2015	3	保健学博士	2015	3

#### 職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	2007	12	2012	12	東北大学病院診療技術部放射線部門	診療放射線技師
2	2013	1	2016	4	東北大学 災害科学国際研究所	助手
3	2016	5	現在		東北大学 災害科学国際研究所	助教

#### 学会活動

##### 所属学会

	学会名 1	2	3	4	5	6	7	8
	日本放射線技術学会	日本放射線安全管理学会	日本磁気共鳴医学会	日本医学物理学会	日本IVR学会	日本災害医学会	日本診療放射線学教育学会	日本診療放射線技師会

##### 学会・委員会等での役職

	学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
1	日本医学物理学会	広報委員会	広報委員	20200401
2	日本放射線技術学会	プログラム委員会	演題審査委員	20200401

##### 研究分野・キーワード

	専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3
	放射線技術学	医学物理学	災害医学

### B. 研究活動

#### 研究活動の概要

原子力事故など、放射線が関与する事故や災害の発生時には、多くの市民の中から直ちに治療措置が必要な被曝者の選定が必要である。しかし、大量のスクリーニングが可能なバイオドシメトリー法(生物学的線量測定法)は存在しないのが現状である。我々はこれまでに、電子スピン共鳴(ESR)を利用し、血液サンプル中のフリーラジカルや酸化能を総合的に定量することで、簡便に急性被曝をスクリーニングする今までにない新手法の開発を試みてきた。今年度は、去年に引き続き放射線災害で想定される慢性放射線被ばくストレスに着目して定量を試み、発展させた。また、原子力規制庁採択の水晶体の等価線量限度の国内規制取入れ・運用のための研究が2017年度から開始し、国内法令取入れのための研究を継続して進めた。さらに、震災から10年がたったが、放射線被ばくの正しい理解への普及活動を継続して行った。今年度から、災害研共同研究として「経時活動記録のテキストマイニングによるリアルタイム災害対策予測法の確立」を福島県立医大と遂行した。

#### 研究課題

	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	2007	12	現在		各種放射線線量計を用いた患者及び術者の線量測定に関する研究	国内
2	2008	4	現在		多施設心臓IVRにおける患者及び術者の被曝線量調査に関する研究	国内
3	2012	4	現在		MRIによる前交通動脈穿通枝描出に関する研究	国内
4	2013	1	現在		大規模放射線災害時におけるESRを用いた個人被曝線量の推定に関する研究	国内
5	2014	4	現在		CTガイド下生検における術者被曝線量に関する研究	国内
6	2015	11	現在		SLE患者に対する非侵襲的MRI脳機能画像診断法に関する研究	国内
7	2016	7	現在		放射線被ばくの正しい理解への普及活動	国内
8	2017	4	現在		放射線検査機器のQA・QC手法の開発	国内
9	2017	10	現在		水晶体の等価線量限度の国内規制取入れ・運用のための研究	国内
10	2018	4	現在		医療従事者や介助者に資する多機能型水晶体被曝防護機器の開発	国内
11	2018	4	現在		原子力災害における次世代への放射線防護に関する防災教育への提案	国内
12	2019	4	現在		水晶体被曝を可視化する医療用ウェアラブル防護デバイスの開発	国内
13	2020	4	現在		経時活動記録のテキストマイニングによるリアルタイム災害対策予測法の確立	国内

論文

単著	0	筆頭共著	2	その他の共著	7	合計	9	うち	国際査読有	6	国際査読無	0	国内査読有	3	国内査読無	0
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

	記述言語	区分	所外連携	国際学術誌	種別	査読	招待論文	論文題目名(原語)	著者氏名(共著者含)	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日
1	日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	有	いいえ	ボータブルX線撮影装置における放射線技師の被曝防護意識に関する調査	大友 一輝、遠藤 美芽、村林 優樹、安部 圭亮、小野寺真奈、鈴木友裕、高橋 拓己、一ツ木康晶、稲葉洋平、千田浩一	日本放射線安全管理学会誌	19	1	2	10	20200617
2	日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	有	いいえ	肝動脈化学塞栓療法施行肝細胞癌患者の累積被ばく線量の実態調査	増淵 裕介、千田 浩一、稲葉 洋平、中野 繁明、山下 明、水沼 仁孝	日本インターベンショナルラジオロジー学会雑誌	35	1	51	57	20200826
3	英語	筆頭共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Development of Novel Real-Time Radiation Systems Using 4-Channel Sensors	Inaba Y, Nakamura M, Chida K, Zuguchi M	Sensors	20	9	2741		20200511
4	英語	筆頭共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	An initial investigation of a wireless patient radiation dosimeter for use in interventional radiology	Inaba Y, Chida K, Murabayashi Y, Endo M, Otomo K, Zuguchi M	Radiological Physics and Technology	13	3	321	326	20200726
5	英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Hybrid Operating Room System for the Treatment of Thoracic and Abdominal Aortic Aneurysms: Evaluation of the Radiation Dose Received by Patients	Haga Y, Chida K, Sota M, Kaga Y, Abe Y, Inaba Y, Suzuki M, Meguro T, Zuguchi M	Diagnostics	10		846		20201019
6	日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	有	いいえ	空間線量測定用新型サーベイメータの性能評価	森島 貴顕、千田 浩一、稲葉 洋平、千葉 昌弘、千葉 浩生	臨床放射線	65	12	1327	1333	20201110
7	英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Predictors of SARS-CoV-2 Positivity Based on RT-PCR Swab Tests at a Drive-Through Outpatient Clinic for COVID-19 Screening in Japan	Ishii T, Kushimoto S, Katori Y, Kure S, Igarashi K, Fujita M, Takayama S, Abe M, Tanaka J, Kikuchi A, Abe Y, Imai H, Inaba Y, Kobayashi Y, Nishioka T, Onodera K, Akaishi T	The Tohoku Journal of Experimental Medicine	253		101	108	20210204
8	英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Evaluation of novel X-ray protective eyewear in reducing the eye dose to interventional radiology physicians	Endo M, Haga Y, Sota M, Tanaka A, Otomo K, Murabayashi Y, Abe M, Kaga Y, Inaba Y, Suzuki M, Meguro T, Chida K	Journal of Radiation Research					20210213
9	英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Total body irradiation causes a chronic decrease in antioxidant levels	Lue Sun, Yohei Inaba, Yu Sogo, Atsuo Ito, Mahesh Bekal, Koichi Chida, Takashi Moritake	Scientific reports	11	1	6716		20210324

学会発表

単名	0	筆頭連名	4	その他の連名	2	合計	6
----	---	------	---	--------	---	----	---

	国内国際	会議名称	会議のチェア	区分	招待	講演・発表の形態	会場名	開催都市名	開催国名	開催期間		発表年月日	題目名(原語)	連名者名(発表者に下線)
										開始年月	終了年月			
1	国内	第59回日本消化器がん検診学会総会		筆頭連名	いいえ	口頭(一般)	Virtual	福岡	日本	20200930	20201001	20200930	胃X線透視検査における被検者被曝線量の推定は可能か?	稲葉 洋平、渡邊 晃成、板橋 裕禎、松田 夏枝、穴戸 玲奈、藤原 実
2	国際	EPSM2020		筆頭連名	いいえ	ポスター(一般)	Virtual	Brisbane	Australia	20201102	20201104	20201102	Occupational Dose During CT-Guided Interventions	Inaba Y, Hitachi S, Chida K
3	国際	RSNA2020		その他の連名	いいえ	ポスター(一般)	Virtual	Chicago	America	20201129	20201204	20201129	Radiation Protection Effect of Novel Pb Plate in Videofluoroscopic Swallowing Study	Morishima Y, Chida K, Inaba Y
4	国際	RSNA2020		その他の連名	いいえ	ポスター(一般)	Virtual	Chicago	America	20201129	20201204	20201129	Occupational Exposure of the Eye in Interventional Radiology Laboratory Staff	Endo M, Chida K, Haga Y, Sota M, Otomo K, Murabayashi Y, Ohmori Y, Maki S, Inaba Y, Zuguchi M
5	国際	RSNA2020		筆頭連名	いいえ	ポスター(一般)	Virtual	Chicago	America	20201129	20201204	20201129	Managing and Reducing the Scattered Radiation Dose in Dental Radiology	Inaba Y, Takane Y, Suzuki T, Nishihara T, Ono K, Ishizuka M, Sakamoto H, Chida K
6	国際	RSNA2020		筆頭連名	いいえ	ポスター(一般)	Virtual	Chicago	America	20201129	20201204	20201129	Monitoring and Protection of the Lens of Eye Dose in CT-guided Interventions Using MDCT-fluoroscopy	Inaba Y, Otomo K, Murabayashi Y, Endo M, Chida K

特許・実用新案・その他の産業財産権(国内・海外)

合計 1 件

種別	国内 国外	発明の名称	発明者 (申請者)	出願番号 (特願 or PCT)	出願日	公開番号	公開日	研究の成果	所外 連携
1 特許	国内	放射線被ばくによる皮膚炎発生の予測	稲葉洋平、千田浩一	特願2020-072182	20200414			学外共同の成果	国内

C. 教育活動

教育活動の概要

兼務の医学系研究科保健学専攻放射線検査学分野を合わせると博士大学院生10名(内災害研所属2名)、修士大学院生13名(内災害研4名)、研究生1名、学部卒研究生5名の計29名が所属していた。大学院生に対しては、研究・教育指導として学会発表(国内・国外)や論文指導を行ってきた。また、東北大学医学部保健学科放射線技術科学専攻の学部生に対しては、2,3年時の放射線領域に関する授業・学生実験や4年時の放射線検査学領域における卒業研究に関わった。

担当授業科目(他大学を含む)

科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・学期	コマ数 90分/コマ
1 放射線計測学実験	東北大学	医学部	保健学科	2-4	458セメ	40
2 放射化学実験	東北大学	医学部	保健学科	2-4	458セメ	40
3 卒業研究	東北大学	医学部	保健学科	4	8セメ	
4 臨床撮影技術学Ⅱ	東北大学	医学部	保健学科	2	4セメ	8
5 核医学検査技術学	東北大学	医学部	保健学科	3	5セメ	6
6 核医学物理学	東北大学	医学部	保健学科	3	5セメ	6
7 画像工学Ⅱ	東北大学	医学部	保健学科	3	6セメ	6
8 RI検査技術学	東北大学	医学部	保健学科	3	6セメ	2
9 放射線検査学特論	東北大学大学院	医学系研究科	保健学専攻		前期	1
10 放射線検査学トレーニング	東北大学大学院	医学系研究科	保健学専攻		後期	1
11 医用情報学セミナーⅠ	東北大学大学院	医学系研究科	保健学専攻		通年	15
12 医用情報学セミナーⅡ	東北大学大学院	医学系研究科	保健学専攻		通年	15
13 生体応用科学セミナーⅠ	東北大学大学院	医学系研究科	保健学専攻		通年	15
14 生体応用科学セミナーⅡ	東北大学大学院	医学系研究科	保健学専攻		通年	15
15 医用情報技術科学セミナーⅠ	東北大学大学院	医学系研究科	保健学専攻		前期	15
16 医用情報技術科学セミナーⅡ	東北大学大学院	医学系研究科	保健学専攻		後期	15
17 生体応用技術科学セミナーⅠ	東北大学大学院	医学系研究科	保健学専攻		前期	15
18 生体応用技術科学セミナーⅡ	東北大学大学院	医学系研究科	保健学専攻		後期	15
19 保健学論文研究	東北大学大学院	医学系研究科	保健学専攻		通年	

D. 社会活動

社会活動の概要

今年度は、金曜フォーラムWGとして年間5件のIRIDeS金曜フォーラムを企画運営した。コロナ禍による社会活動としては、4月よりドライブスルー型PCR検査(平日毎日)を宮城県や仙台市と協働しながら事務局として運営業務を担っている。2021年1月からは、新型コロナウイルス感染症重症者等宿泊療養施設における療養者のエックス線撮影業務も行っている。さらに2021年4月からは、高齢者施設等に対する感染制御・業務継続の支援チームとしてクラスター高齢者施設等への派遣も行う予定であり、行政と協働しながら多数社会活動を実施した。

一般向けセミナー・講演等の主催・共催・運営等(研究活動以外)

合計 5 件

	国内 国際	主催団体名・ 運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場名	開催 都市名	開催 国名	担当	参加 人数	IRIDeSの 関与	講演会・セミナー等
				開始年月日	終了年月日							
1	国内	東北大学災害科学国際研究所	第67回IRIDeS金曜フォーラム	20200515	20200515	災害科学国際研究所	仙台市	日本	オンライン運営	35	IRIDeS主催・共同主催	セミナー
2	国内	東北大学災害科学国際研究所	2019年度共同研究成果報告会およびプロジェクトエリア・ユニット報告会	20200718	20200718	災害科学国際研究所	仙台市	日本	オンライン運営	93	IRIDeS主催・共同主催	セミナー
3	国内	東北大学災害科学国際研究所	第69回IRIDeS金曜フォーラム	20201002	20201002	災害科学国際研究所	仙台市	日本	オンライン運営	66	IRIDeS主催・共同主催	セミナー
4	国内	東北大学災害科学国際研究所	第70回IRIDeS金曜フォーラム	20201120	20201120	災害科学国際研究所	仙台市	日本	オンライン運営	55	IRIDeS主催・共同主催	セミナー
5	国内	東北大学災害科学国際研究所	第71回IRIDeS金曜フォーラム	20210219	20210220	災害科学国際研究所	仙台市	日本	オンライン運営	60	IRIDeS主催・共同主催	セミナー

## その他、他機関等との交流実績(国内に限る)

合計 3 件

	交流機関名称	交流者	交流年月日	交流目的	会場名	開催都市名	主な担当内容	参加人数
1	産業医科大学、産総研、九州大学	櫻田尚樹、盛武敬、孫略、藤淵俊王	20210319	共同研究	東北大学大学院医学系研究科保健学専攻	仙台	運営	20
2	福島県立医科大	田代雅実	20210302	会議	東北大学大学院医学系研究科保健学専攻	仙台	運営	5
3	福島県立医科大	田代雅実	20201221	会議	東北大学大学院医学系研究科保健学専攻	仙台	運営	5

# 國井 泰人 准教授

## KUNII Yasuto

災害医学研究部門 災害精神医学分野

### A. 基本情報・略歴

#### 出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	福島県立医科大学	医学部	2001	3	福島県立医科大学	医学研究科	2010	3	M.D.,Ph.D.	2010	3

#### 職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	2001	5	2002	7	福島県立医科大学附属病院 神経精神科	研修医
2	2002	8	2002	9	福島県立矢吹病院 精神科	医員
3	2002	10	2002	12	福島赤十字病院 内科	医員
4	2003	1	2003	3	福島県立医科大学附属病院 神経精神科	研修医
5	2003	4	2003	12	いわき市立常磐病院 神経科	医員
6	2004	1	2004	3	医療法人済精会長橋病院 精神科	医員
7	2004	4	2008	3	医療法人篤仁会富士病院 精神科	医員
8	2008	4	2011	3	福島県立医科大学 神経精神医学講座	助教
9	2011	4	2011	5	福島県立医科大学附属病院 心身医療科	病院助手
10	2011	5	2012	5	米国国立衛生研究所 (NIH)	特別研究員
11	2012	6	2013	9	福島県立医科大学 神経精神医学講座	助教
12	2013	10	2016	3	福島県立医科大学 神経精神医学講座	講師
13	2016	4	2020	3	福島県立医科大学会津医療センター 精神医学講座	准教授
14	2020	4	現在		東北大学災害科学国際研究所 災害精神医学分野	准教授

#### 学会活動

##### 所属学会

	学会名 1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	日本精神神経学会	日本生物学的精神医学学会	日本統合失調症学会	日本神経精神薬理学会	日本老年精神医学会	日本社会精神医学会	日本神経病理学会	日本神経精神医学学会	日本児童青年期精神医学学会	米国神経科学学会

##### 学会・委員会等での役職

	学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
1	日本生物学的精神医学学会	ブレインバンク委員会	副委員長	20190601
2	日本生物学的精神医学学会		評議員	20150000
3	日本生物学的精神医学学会	ディッシュリソース整備タスクフォース委員会	副委員長	20160601
4	双極性障害研究ネットワーク(BDRNJ)		参加研究者	20130000
5	日本神経病理学会	ブレインバンク委員会	委員	20150000
6	日本ブレインバンクネット(JBBN)	運営費委員会	委員	20160400
7	日本ブレインバンクネット(JBBN)	学術委員会	委員	20160400
8	日本ブレインバンクネット(JBBN)	精神疾患リソースデータベースワーキンググループ	リーダー	20160900
9	日本統合失調症学会		評議員	20190000
10	日本精神神経学会	災害支援委員会	委員	20200600

##### 研究分野・キーワード

	専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3
	災害精神医学	臨床精神医学	分子精神病態

### B. 研究活動

#### 研究活動の概要

東日本大震災及び福島第一原子力発電所事故後の避難住民のメンタルヘルス及び心理社会的支援の検討、原発事故後の精神疾患入院患者の強制避難転院者の帰還支援プロジェクト、感染症流行を含めたCBRNEによる緊急事態下におけるメンタルヘルスと心理社会的支援の検討の他、ストレス脆弱性の基盤研究として、医学系研究科精神神経学分野と連携し、死後脳を用いて、心的外傷後ストレス障害、気分障害、統合失調症などの精神疾患病態解明のための基礎的な生物学研究などの研究課題に取り組んだ。

研究課題

No.	期間		研究課題(内容)	所外連携
	開始年	終了年		
1	2004	2005	統合失調症死後脳におけるDARPP-32の免疫組織化学的検討	国内
2	2006	2007	統合失調症死後脳を用いたドパミン・グルタミン酸仮説の検討	国内
3	2008	2009	統合失調症上側頭回におけるDARPP-32のプロフィールー死後脳研究	国内
4	2011	2012	統合失調症における痛覚閾値異常の分子基盤の解明ー統合失調症死後脳研究	国内
5	2011	2013	統合失調症死後脳における異常タンパクの半網羅的定量的プロフィール解析	国内
6	2013	2014	統合失調症脳内タンパク質多項目同時測定解析及び関連遺伝子発現解析	国内
7	2013	2015	統合失調症脳内タンパク質群の発現解析ータンパク質多項目同時測定システムを用いてー	国内
8	2013	2016	双極性障害の神経病理学に基づく診療法の開発	国内
9	2014	2015	統合失調症脳内タンパク質多項目同時測定解析及び関連遺伝子発現解析	国内
10	2014	2015	統合失調症脳内分子の多元解析ージェネティックニューロパソロジー	国内
11	2015	2016	統合失調症脳内タンパク質多項目同時測定解析及び関連遺伝子発現解析	国内
12	2015	2019	ジェネティックニューロパソロジーによる精神疾患脳内分子表現型解析	国内
13	2016	2021	死後脳リソースを活用した統合失調症における代謝・ダイナミクス制御関連分子の解析	国内
14	2017	2020	プロジェクトリターン2017:原発事故後に避難した精神科入院患者の帰還支援の試み	国内
15	2019	2021	統合失調症死後脳における Pro to Glu 経路の分子プロフィール解析	国内
16	2019	2020	死後脳マルチオミクス・プロフィールに基づく統合失調症病態の構成的理解	国内
17	2019	2021	精神疾患死後脳分子プロフィール解析	国内
18	2019	現在	脳ゲノム情報解析による精神疾患関連神経回路の同定と機能解明	国内
19	2020	現在	新型コロナウイルス感染症(COVID-19)流行下におけるメンタルヘルス実態に関する包括的検討	国内

論文

単著	0	筆頭共著	0	その他の共著	8	合計	8	
うち	国際査読有	8	国際査読無	0	国内査読有	0	国内査読無	0

No.	記述言語	区分	所外連携	国際学術誌	種別	査読	招待論文	論文題目名(原語)	著者氏名(共著者名)	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日
1	英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	ALDH4A1 expression levels are elevated in postmortem brains of patients with schizophrenia and are associated with genetic variants in enzymes related to proline metabolism	Atsuko Nagaoka, Yasuto Kunii, Mizuki Hino, Ryuta Izumi, Chisato Nagashima, Akari Takeshima, Makoto Sainouchi, Hiroyuki Nawa, Akiyoshi Kakita, Hirooki Yabe	Journal of Psychiatric Research	123		119	127	20200400
2	英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Does Treatment Response With Antidementia Drugs After 6 Months in Alzheimer's Disease Predict Long-term Treatment Outcome?	Horikoshi S, Kunii Y, Matsumoto J, Gotoh D, Miura I, Yabe H	Journal of Clinical Psychopharmacology	40	2	195	197	20200400
3	英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Characteristics of Disaster-Related Suicide in Fukushima Prefecture After the Nuclear Accident	Takebayashi Y, Hoshino H, Kunii Y, Niwa SI, Maeda M	Crisis	41	6	475	482	20200400
4	英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Ethnicity-Dependent Effects of Schizophrenia Risk Variants of the OLIG2 Gene on OLIG2 Transcription and White Matter Integrity.	Komatsu H, Takeuchi H, Kikuchi Y, Ono C, Yu Z, Iizuka K, Takano Y, Kakuto Y, Funakoshi S, Ono T, Ito J, Kunii Y, Hino M, Nagaoka A, Iwasaki Y, Yamamori H, Yasuda Y, Fujimoto M, Azechi H, Kudo N, Hashimoto R, Yabe H, Yoshida M, Saito Y, Kakita A, Fuse N, Kawashima R, Taki Y, Tomita H.	Schizophrenia Bulletin	46	6	1619	1628	20200414
5	英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Markedly higher mortality among psychiatric inpatients mandatorily evacuated after the Fukushima Daiichi Nuclear Power Plant accident	Daisuke Gotoh, Yasuto Kunii, Toshihiro Terui, Hiroshi Hoshino, Takeyasu Kakamu, Tomoo Hidaka, Tetsuhito Fukushima, Hirooki Yabe	Psychiatry and Clinical Neurosciences					20201012
6	英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Impact of the Great East Japan Earthquake on the Employment Status and Mental Health Conditions of Affected Coastal Communities.	Mitsuaki Katayanagi, Moe Seto, Naoki Nakaya, Tomohiro Nakamura, Naho Tsuchiya, Akira Narita, Mana Kogure, Yumi Sugawara, Akira Kodaka, Yusuke Utsumi, Hitomi Usukura, Yasuto Kunii, Atsushi Hozawa, Ichiro Tsuji, Hiroaki Tomita	International journal of environmental research and public health	17	21	online		20201103
7	英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Serotonin/5-HT1A Signaling in the Neurovascular Unit Regulates Endothelial CLDN5 Expression.	Kotaro Sugimoto, Naoki Ichikawa-Tomikawa, Keisuke Nishiura, Yasuto Kunii, Yasuteru Sano, Fumitaka Shimizu, Akiyoshi Kakita, Takashi Kanda, Tetsuya Imura, Hideki Chiba	International journal of molecular sciences	22	1	E254		20201229
8	英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Detailed Postmortem Profiling of Inflammatory Mediators Expression Revealed Post-inflammatory Alteration in the Superior Temporal Gyrus of Schizophrenia	Ryuta Izumi; Mizuki Hino; Akira Wada; Atsuko Nagaoka; Takashi Kawamura; Tsutomu Mori; Makoto Sainouchi; Akiyoshi Kakita; Kiyoto Kasai; Yasuto Kunii; Hirooki Yabe	Frontiers in Psychiatry	12				20210318



著書(監修・編集・単著・共著)

監修 編集	0	単著	0	筆頭 共著	0	共著	2	合計	2	うち	国際	0	国内	2
----------	---	----	---	----------	---	----	---	----	---	----	----	---	----	---

記述 言語	著書名および担当執筆題名	種別	発行年月日	著者・監修者氏名	区分	出版社名	所外 連携	発行 部数
1 日本語	「講座」精神疾患の臨床 2.統合失調症, 第5章Topics—変革に向けて (ブレイクバンク)	編集本 (著者・ Author)	20200600	國井泰人(神庭重信)	共著	中山書店	国内	
2 日本語	「災害とメンタルヘルス」(『東日本大震災からのスタート:災害を考える 51のアプローチ』第36章, pp.147-150)	編集本 (著者・ Author)	20210311	國井泰人、富田博秋 (東北大学災害科学国際研究所)	共著	東北大学出版会	国内	1400

総説・解説(大学紀要・学術雑誌・学会誌・商業雑誌など)

単著	2	筆頭共著	0	その他の 共著	5	合計	7	うち	国際 査読有	0	国際 査読無	0	国内 査読有	0	国内 査読無	7
----	---	------	---	------------	---	----	---	----	-----------	---	-----------	---	-----------	---	-----------	---

記述 言語	題目名(原語)	種別	査読	招待 論文	論文掲載誌名 (原語)	巻	号	開始 ページ	終了 ページ	発行年月日	著者氏名 (共著者含)	区分	所外 連携
1 日本語	統合失調症死後脳における Pro to Glu 経路の分子プロフィール解析	学術雑誌	無	はい	Medical Science Digest	46	6	362	365	20200600	國井 泰人	単著	国内
2 日本語	統合失調症死後脳における分子プロフィール解析—Pro to Glu 経路に着目して—	学術雑誌	無	はい	地域ケアリング	22	10	48	51	20200900	國井 泰人	単著	国内
3 日本語	【精神科における脳回路研究の最前線】統合失調症におけるミスマッチ陰性電位(MMN)発生異常	学術雑誌	無	はい	日本生物学的精神医学会誌	31	3	127	133	20200900	矢部 博興, 刑部 有佑, 落合 晴香, 和田 知絢, 森 湧平, 佐藤 彩, 鍋谷 研, 羽金 裕也, 平山 緑香, 高橋 雄一, 菅野 和子, 星野 大, 日野 瑞城, 戸田 亘, 堀越 翔, 志賀 哲也, 國井 泰人, 三浦 至	共著	国内
4 日本語	宮城県精神科医療機関新型コロナウイルス感染症対策ネットワークにおける対策指針策定の経緯と意義 ～コロナ禍が精神医療にもたらした教訓～	学術雑誌	無	はい	日本精神科病院協会雑誌	39	11	771	776	20201100	富田 博秋, 佐藤 博俊, 角藤 芳久, 國井 泰人, 佐久間 篤, 牧野 祐子, 児玉 栄一, 徳田 浩一, 鈴木 陽, 吉田 眞紀子, 賀来 満夫, 押谷 仁, 小坂 健	共著	国内
5 日本語	新型コロナウイルス感染症(COVID-19)に係るメンタルヘルス危機とその脳科学に基づく対策の必要性	その他	無	いいえ	日本脳科学関連学会連合					20200625	山脇 成人, 伊佐 正, 高橋 良輔, 荒木 信夫, 岡部 繁男, 川人 光男, 斎藤 延人, 和田 圭司, 神尾 陽子, 池田 和隆, 神庭 重信, 富田 博秋, 國井 泰人, 尾崎 紀夫, 袖崎 通介, 松田 哲也	共著	国内
6 日本語	精神科医療現場における新型コロナウイルス感染症対策事例集 第1版	その他	無	いいえ	令和2年度厚生労働行政推進調査事業費補助金(厚生労働科学研究事業) 新型コロナウイルス感染症 領域別感染予防策					20201207	相澤 明憲, 上野 修一, 河島 謙, 来住 由樹, 岸本年史, 國井 泰人, 齋藤 正彦, 佐久間 篤, 白江 浩, 曾我 洋二, 田口 寿子, 田中 究, 鳥塚 通弘, 福田 正人, 福田 陽明, 中村 朗, 林 典子, 原見 律子, 藤崎 進, 牧徳彦, 牧之段 学, 山岸 拓也, 富田 博秋	共著	国内
7 日本語	障害者施設における新型コロナウイルス感染症対策事例集 第1版	その他	無	いいえ	令和2年度厚生労働行政推進調査事業費補助金(厚生労働科学研究事業) 新型コロナウイルス感染症 領域別感染予防策					20210119	相澤 明憲, 上野 修一, 河島 謙, 来住 由樹, 岸本年史, 國井 泰人, 齋藤 正彦, 佐久間 篤, 白江 浩, 曾我 洋二, 田口 寿子, 田中 究, 鳥塚 通弘, 福田 正人, 福田 陽明, 中村 朗, 林 典子, 原見 律子, 藤崎 進, 牧徳彦, 牧之段 学, 山岸 拓也, 富田 博秋	共著	国内

学会発表

単名	2	筆頭連名	4	その他の連名	11	合計	17
----	---	------	---	--------	----	----	----

No.	国内 国際	会議名称	会議の チュエ	区分	招待	講演・発表の形態	会場名	開催 都市名	開催 国名	開催期間		発表 年月日	題目名(原語)	連名者名 (発表者に下線)
										開始年月	終了年月			
1	国内	第42回日本生物学的精神医学会(NPBPPP合同年会2020)	大隅典子 吉川武男 吉尾隆	その他の連名	いいえ	ポスター(一般)	東北大学	仙台	日本	20200821	20200823	20200821	死後脳を用いた統合失調症Elevated inflammatory biotypeにおける補体C4の関与についての検討	泉 竜太, 穴戸 理紗, 日野 瑞城, 長岡 敦子, 國井 泰人, 矢部 博興
2	国内	第42回日本生物学的精神医学会(NPBPPP合同年会2020)	大隅典子 吉川武男 吉尾隆	その他の連名	いいえ	ポスター(一般)	東北大学	仙台	日本	20200821	20200823	20200821	近交系マウスを用いたパイオマーカークの探求から発見された統合失調症における酸化水素産生過剰	井出 征行, 大西 哲生, 豊島 学, 岩山 佳美, 大羽 尚子, 渡邊 明子, 加藤 忠史, 糸川 昌成, 森川 桃, 廣川 信隆, 國井 泰人, 矢部 博興, 岩本 和也, Dean Brian, 内田 和彦, 木村 英雄, 吉川 武男
3	国内	第42回日本生物学的精神医学会(NPBPPP合同年会2020)	大隅典子 吉川武男 吉尾隆	筆頭連名	いいえ	公募/シンポジウム・ワークショップ・パネル	東北大学	仙台	日本	20200821	20200823	20200821	死後脳研究, 精神疾患ブレインバンクと死後脳研究の現在	國井 泰人, 長岡 敦子, 日野 瑞城, 泉 竜太, 穴戸 理紗, 矢部 博興
4	国内	第42回日本生物学的精神医学会(NPBPPP合同年会2020)	大隅典子 吉川武男 吉尾隆	その他の連名	いいえ	公募/シンポジウム・ワークショップ・パネル	東北大学	仙台	日本	20200821	20200823	20200821	死後脳研究, 統合失調症死後脳におけるタンパク定量化解析-ALDH4A1とその発現に影響する遺伝子多型	長岡 敦子, 國井 泰人, 日野 瑞城, 泉 竜太, 穴戸 理紗, 齊ノ内 信, 那波 宏之, 柿田 明美, 矢部 博興
5	国内	第116回日本精神神経学会学術総会	矢部博興	筆頭連名	いいえ	公募/シンポジウム・ワークショップ・パネル	仙台国際センター	仙台	日本	20200928	20200930	20200929	精神科ブレインバンク各拠点からの成果と今後の臨床への展望-精神科ブレインバンクへの期待 その4-	國井 泰人, 長岡敦子, 泉竜太, 日野瑞城, 矢部博興
6	国内	第116回日本精神神経学会学術総会	矢部博興	筆頭連名	いいえ	ポスター(一般)	仙台国際センター	仙台	日本	20200928	20200930		統合失調症脳病態における脂質シグナル伝達の意義-死後脳研究	國井 泰人, 松本 純弥, 泉 竜太, 長岡 敦子, 日野 瑞城, 赤津 裕康, 橋詰 良夫, 齊ノ内 信, 柿田 明美, 矢部 博興
7	国内	第116回日本精神神経学会学術総会	矢部博興	筆頭連名	はい	ポスター(一般)	仙台国際センター	仙台	日本	20200928	20200930		新規クロザピン結合タンパク質の探索- $\alpha\beta$ チュープリンに対する相互作用	國井 泰人, 日野 瑞城, 近藤 豪, 和田 明, 松本 純弥, 丹羽 真一, 菊地 哲郎, 佐藤 慎二, 橋本 徹哉, 瀬藤 光利, 矢部 博興
8	国内	第116回日本精神神経学会学術総会	矢部博興	その他の連名	いいえ	ポスター(一般)	仙台国際センター	仙台	日本	20200928	20200930		身体急性期の摂食障害患者の臨床特徴の検討-身体重症度と医療連携の必要性について-	泉 竜太, 國井 泰人, 刑部 有祐, 野崎 途也, 森 湧平, 木村 聡, 後藤 将之, 鈴木 二紗香, 板垣 俊太郎, 三浦 至, 矢部 博興
9	国内	第116回日本精神神経学会学術総会	矢部博興	その他の連名	いいえ	ポスター(一般)	仙台国際センター	仙台	日本	20200928	20200930		福島第一原子力発電所事故により強制避難となった精神科入院患者の死亡率について	後藤 大介, 國井 泰人, 星野 大, 各務 竹康, 福島 哲仁, 矢部 博興
10	国内	第74回東北精神神経学会	富田博秋	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	星陵会館オーデトリウム	仙台	日本	20201011	20201011	20201011	動物のImaginary Companionを持った対人恐怖症の中年期女性の一例	照井 登宏, 泉 竜太, 鈴木 二紗香, 穴戸 理紗, 刑部 有祐, 國井 泰人, 板垣 俊太郎, 三浦 至, 矢部 博興
11	国内	第74回東北精神神経学会	富田博秋	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	星陵会館オーデトリウム	仙台	日本	20201011	20201011	20201011	血中カフェイン高濃度下における向精神薬の使用についての一考察-カフェイン過量服薬で透析治療を要した統合失調症例を通して	穴戸 理紗, 國井 泰人, 泉 竜太, 板垣 俊太郎, 三浦 至, 矢部 博興
12	国内	第61回日本児童青年期精神医学会	田中究	その他の連名	いいえ	ポスター(一般)	WEB	神戸	日本	20201024	20201024		難渋する昏迷に対して絵本の読み聞かせが重要な転機となった重症摂食障害女児例-「眠り姫」の精神病理についての一考察-	佐藤 亜希子, 板垣 俊太郎, 松本 貴智, 和田 知純, 横倉 俊也, 木村 聡, 赤間 孝洋, 伊瀬 陽子, 國井 泰人, 増子 博文, 矢部 博興
13	国内	第31回日本疫学会学術総会	田中恵太郎	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	WEB	佐賀	日本	20210127	20210129		福島第一原子力発電所事故による精神科避難病院患者の転院後死亡に関する検討	照井 登宏, 國井 泰人, 星野 大, 各務 竹康, 日高 友郎, 福島 哲仁, 安西 信雄, 後藤 大介, 三浦 至, 矢部 博興
14	国内	第32回福島県精神医学会学術大会	矢部博興	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	WEB	福島	日本			20210221	レビー小体型認知症にウエルニッケ・コルサコフ症候群が合併した一例-コロナ禍における老老介護への警鐘-	長岡 敦子, 刑部 有祐, 戸田 亘, 後藤 将之, 佐藤 彩, 鍋谷 研, 平山 緑香, 國井 泰人, 後藤 大介, 板垣 俊太郎, 三浦 至, 矢部 博興
15	国内	第32回福島県精神医学会学術大会	矢部博興	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	WEB	福島	日本			20210221	カフェイン過量服薬後に著しい不穏を呈した統合失調症例における薬剤選択について	穴戸 理紗, 國井 泰人, 泉 竜太, 後藤 将之, 落合 晴香, 刑部 有祐, 板垣 俊太郎, 三浦 至, 矢部 博興
16	国内	第13回東北大学精神科・拡大卒後研修会(仙台)	富田博秋	単名	はい	口頭(招待)	WEB	仙台	日本	20210222	20210222		CBRNE災害におけるメンタルヘルス-原発事故の教訓とコロナ禍の実態	國井 泰人
17	国内	仙台防災未来フォーラム2021東北大学災害科学国際研究所シンポジウム	今村文彦	単名	いいえ	指名/シンポジウム・ワークショップ・パネル	WEB	仙台	日本			20210307	10年後の社会のありようを見据えて、今後どのような研究に取り組んでいきたいか。	國井 泰人

特許・実用新案・その他の産業財産権(国内・海外)

合計 1 件

	種別	国内 国外	発明の名称	発明者 (申請者)	出願番号 (特願 or PCT)	出願日	公開番号	公開日	研究の成果	所外 連携
1	その他の産業財産権	国内	KIF3モーターに基づく精神疾患の治療又は予防、及び薬物スクリーニング	國井泰人	PCT/JP2020/42733	20201117	WO/2021/100685	20210527	学外共同の成果	国内

C. 教育活動

教育活動の概要

本学の医学部医学科3年生の基礎医学修練のテーマとして、分野で取り組んでいるいずれかの研究に参画してもらい指導を行った。また、大学院生の研究指導、学会発表、論文作成なども積極的に行った。さらに、学生に防災・減災に関連する知識を啓発し、災害復興のための人材育成に向けて積極的に推進した。その他、外国人留学生を主とする大学院生に英語での講義を行い、他学の医学部学生に対しても学生講義を行った。

担当授業科目(他大学を含む)

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・ 学期	コマ数 90分1コマ
1	巨大災害に対する健康と社会のレジリエンス「Disaster and mental health」	東北大学	医学部	医科学・公衆衛生学専攻		後期	1
2	「心身症」「脳の構造・機能と精神・行動」	福島県立医科大学	医学部		2	前期	2
3	「解離性障害」	福島県立医科大学	医学部		3	後期	1

D. 社会活動

社会活動の概要

主として得られた研究成果について、国内外の学会での発表や国内誌、国際誌での論文発表を通して社会に積極的に発信する。その他、当分野が有する東日本大震災後の被災住民の健康状態、生活習慣や就労状況などの変化に関する有用な調査データを解析し、その成果を地域に還元することで被災地の住民や自治体への健康増進や復興・復旧に役立つような配布物を作成・配布し、被災地のこころの健康増進に寄与することを目指す。

講演・講義等(研究活動以外)

合計 11 件

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	連携	主催者	会場名	開催 都市名	開催 国名	参加人数
				開始年月日	終了年月日							
1	講演会	Webフォーラム	招待講演	20200514	20200514	「新型コロナウイルス感染症(COVID-19)流行下におけるメンタルヘルス対策指針の策定について」	企業	大塚製薬	Web	福島	日本	15
2	講演会	2020年度第1回年輪の会 研修会	招待講演	20200927	20200927	「新型コロナウイルス感染症(COVID-19)流行下におけるメンタルヘルス対策について」(東京)	なし	品川区精神障害者当事者会	スクエア荏原3F大会議室	東京	日本	20
3	講演会	Skill up Seminar for Psychiatrist	招待講演	20201019	20201019	抗精神病薬持続性注射剤の臨床的ニーズを再考する	企業	大塚製薬	Web	仙台	日本	40
4	講演会	Mental Health Web Seminar	招待講演	20201102	20201102	新型コロナウイルス感染症(COVID-19)流行下におけるメンタルヘルス対策	企業	大塚製薬	Web	仙台	日本	70
5	講演会	ヒト剖検脳研究に関する 勉強会	招待講演	20201217	20201217	精神疾患ブレインバンクと死後脳研究の現状と課題	なし	群馬大学	Web	群馬	日本	60
6	講演会	仙台市薬剤師会学術研 修会	招待講演	20210204	20210204	新型コロナウイルス感染症(COVID-19)流行下におけるメンタルヘルス対策について	企業	田辺三菱製薬株式会社	Web	仙台	日本	60
7	講演会	神奈川県社会福祉協議 会経営者部会	招待講演	20210225	20210225	コロナ禍におけるメンタルヘルスの実態と対策ーうつ病増加への懸念ー	行政	神奈川県社会福祉協議会	Web	仙台	日本	50
8	講演会	宮城県精神神経科診療 所協会・宮城県精神科 病院協会 合同WEB講演 会	招待講演	20210305	20210305	コロナ禍におけるメンタルヘルスの現状ーうつ病増加への懸念ー	なし	宮城県精神神経科診療所協会・宮城県精神科病院協会	Web	仙台	日本	50
9	講演会	Mental Health Web Seminar	招待講演	20210315	20210315	新型コロナウイルス感染症(COVID-19)流行下におけるメンタルヘルス対策	企業	大塚製薬	Web	仙台	日本	40
10	講演会	Iwakiメンタルヘルスマネ ジメントセミナー	招待講演	20210322	20210322	コロナ禍に求められる心のケア;新規抗うつ薬トリンテリックス(S-RIM)への期	企業	武田薬品工業	Web	仙台	日本	40
11	講演会	精神科臨床薬学研究会 東北ブロックオンライン講 演会	招待講演	20210325	20210325	最新の脳科学研究に基づく双極性障害治療の再考	企業	大塚製薬	Web	仙台	日本	50

## その他、他機関等との交流実績(国内に限る)

合計 14 件

	交流機関名称	交流者	交流年月日	交流目的	会場名	開催都市名	主な担当内容	参加人数
1	熊本大学	岩本和也	20200400	共同研究	WEB		その他	3
2	順天堂大学	加藤忠史	20200400	共同研究	WEB		その他	3
3	福島県立医科大学	矢部博興	20200400	共同研究	WEB等		その他	7
4	福島県立医科大学	日野瑞城	20200400	共同研究	WEB等		その他	7
5	福島県立医科大学	川勝忍	20200400	共同研究	WEB		その他	2
6	国立研究開発法人理化学研究所	吉川武男	20200400	共同研究	WEB		その他	4
7	東京大学	廣川信隆	20200400	共同研究	WEB		その他	4
8	新潟大学脳研究所	柿田明美	20200400	共同研究	WEB		その他	2
9	富山大学	新田 淳美	20200400	共同研究	WEB		その他	2
10	広島大学	山脇成人	20200400	会議	WEB		その他	10
11	名古屋大学	尾崎紀夫	20200400	共同研究	WEB		その他	3
12	藤田医科大学	池田匡志	20200400	共同研究	WEB		その他	2
13	慶応義塾大学	久保健一郎	20200400	共同研究	WEB		その他	7
14	福島県立医科大学	照井稔宏	20200400	共同研究	WEB		その他	2

# 俞志前 助教

YU Zhiqian

災害医学研究部門 災害精神医学分野

## A. 基本情報・略歴

出身大学・大学院

出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
		年	月			年	月		年	月
1 首都医科大学	歯学部	1999	8	東北大学	歯学研究科	2006	3	Ph.D	2006	3

## 職歴

開始年	月	終了年	月	勤務先	職名	
						開始年
1	2006	4	2006	9	東北大学大学院 歯学研究科 口腔診断学分野	博士研究員
2	2006	10	2008	3	東北大学 先進医工学研究機構	特任助教
3	2008	4	2012	3	東北大学大学院 医学研究科 精神神経生物学分野	博士研究員
4	2012	4	現在		東北大学 災害科学国際研究所 災害医学研究部門 災害精神医学分野	助教

## 学会活動

所属学会

学会名 1	2	3	4	5	6	7
日本神経科学大会	日本生物学的精神医学学会	Society for Neuroscience	日本統合失調症学会	日本精神神経薬理学会	日本精神神経学会	日本免疫学会

## 研究分野・キーワード

専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3
神経科学	精神免疫	災害精神医学

## B. 研究活動

研究活動の概要

産後うつ病の血漿メタボローム解析について、三世代コホートデータから各250人の健康女性 (EPDS ≤ 2) および産後うつ病症状を呈する女性 (EPDS ≥ 9) を対象に、ガスクロマトグラフィー質量分析 (GC-MS) を用いて計170個の代謝物の変動を分析した。その結果、①健康女性の妊娠中後期から産後1ヶ月までに133個の代謝物の有意な増加、2個の代謝物の有意な減少がみられた。一方、②産後うつ病症状を呈する女性のみで39個の代謝物の変動がみられ、これらの代謝物は産後うつ病に寄与することが示唆された。さらに、③機械学習により3個の妊娠中の血漿代謝物が産後うつ病の予測マーカーとして特定された。バスクウェイ解析により、産後うつ病症状を呈する女性のみで変動した代謝物はアミノ酸、単糖、脂肪酸およびTCA回路に関与することが明らかになった。

## 研究課題

開始年	月	終了年	月	研究課題(内容)	所外連携
1	2016	4	現在	うつ病の発症メカニズムの解明	国外
2	2016	4	現在	統合失調症における環境要因のエピゲノム解析と分子病態の解明	国内
3	2020	4	現在	オートファジーを介したうつ病の分子機構解明と新規治療法の開発	国内

## 論文

単著	0	筆頭共著	0	その他の共著	4	合計	4	うち	国際査読有	4	国際査読無	0	国内査読有	0	国内査読無	0
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

記述言語	区分	所外連携	国際学術誌	種別	査読	招待論文	論文題目名(原語)	著者氏名(共著者含)	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日
1	英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Effect of the interaction between BDNF Val66Met polymorphism and daily physical activity on mean diffusivity	Brain imaging and behavior	14	3	806	820	202006
2	英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Ethnicity-Dependent Effects of Schizophrenia Risk Variants of the OLIG2 Gene on OLIG2 Transcription and White Matter Integrity	Schizophrenia bulletin	46	6	1619	1628	202011

3	英語	共著	国外	はい	学術雑誌	有	いいえ	Wrist pulse signal analysis on traditional Chinese medicine using long short-term memory	Xue Li, Peng Qian, Zhiyue Fu, Wenqiang Zhang, Zhiqian Yu, Hiroaki Tomita, Fufeng Li, Xiaofang Zhou, Weifei Zhang, Shuai Yang	BASIC & CLINICAL PHARMACOLOGY & TOXICOLOGY	128		5		20210101
4	英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Sex-Dependent Effects of the APOE ε4 Allele on Behavioral Traits and White Matter Structures in Young Adults	Hikaru Takeuchi, Hiroaki Tomita, Ryan Browne, Yasuyuki Taki, Yoshie Kikuchi, Chiaki Ono, Zhiqian Yu, Rui Nouchi, Ryoichi Yokoyama, Yuka Kotozaki, Seishu Nakagawa, Atsushi Sekiguchi, Kumio Iizuka, Sugiko Hanawa, Tsuyoshi Araki, Carlos Makoto Miyachi, Kohei Sakaki, Takayuki Nozawa, Shigeyuki Ikeda, Susumu Yokota, Daniele Magistro, Yuko Sassa, Ryuta Kawashima	Cerebral Cortex	31	1	672	680	202101

学会発表

単名	0	筆頭連名	2	その他の連名	0	合計	2
----	---	------	---	--------	---	----	---

	国内国際	会議名称	会議のチェア	区分	招待	講演・発表の形態	会場名	開催都市名	開催国名	開催期間		発表年月日	題目名(原語)	連名者名(発表者に下線)
										開始年月	終了年月			
1	国内	第43回日本神経科学大会	北澤 茂	筆頭連名	いいえ	ポスター(一般)	オンライン	オンライン	日本	20200729	20200801	期間中	Maternal infection alters the epigenome of schizophrenia risk loci in the female brain	<u>Zhiqian Yu</u> , Mai Sakai, Chiaki Ono, Yoshie Kikuchi, Hiroaki Tomita
2	国内	NPBPPP2020合同年会	大隅 典子、吉川 武男、吉尾 隆	筆頭連名	いいえ	口頭(一般)	オンライン	オンライン	日本	20200821	20200823	期間中	産後うつ病の予測と予防のための血漿サイトカインレベルの検証	<u>俞志前</u> 、小野千晶、小原拓、菊地沙耶、小林奈津子、菅原謙一、栗山達一、山本雅之、八重樫伸生、富田博秋

C. 教育活動

教育活動の概要

医学科2年および3年の基礎修練を担当し、実験手技習得のための指導を行った。また、大学院生の学位論文の執筆指導を行った。

# 白倉 瞳 助教

## USUKURA Hitomi

災害医学研究部門 災害精神医学分野

### A. 基本情報・略歴

#### 出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
	早稲田大学	教育学部	2011	3	筑波大学大学院	人間総合科学研究科ヒューマン・ケア科学専攻	2016	3	Ph.D	2016	3

#### 職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	2016	4	2017	3	東北大学大学院 医学系研究科 予防精神医学寄附講座	教育研究支援者
2	2017	4	2019	12	東北大学大学院 医学系研究科 予防精神医学寄附講座	助教
3	2019	1	現在		災害科学国際研究所 災害医学研究部門 災害精神医学分野	助教

#### 学会活動

##### 所属学会

	学会名 1	2	3	4	5	6	7	8
	日本心理学会	日本教育心理学会	日本カウンセリング学会	日本臨床心理士会	日本トラウマティック・ストレス学会	日本認知療法・認知行動療法学会	日本精神神経学会	日本精神保健・予防学会

##### 研究分野・キーワード

	専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3
	災害精神医学	臨床心理学	発達臨床心理学

### B. 研究活動

#### 研究活動の概要

七ヶ浜町被災者健康調査については9月に第10次調査を実施したほか、10年間にわたる精神的健康の長期経過について縦断解析を行い、国際誌への投稿に向けて論文執筆を進めた。同じく七ヶ浜町にて、身体に装着することで活動量や睡眠時間等の自動計測可能なウェアラブルデバイスを介した介入研究を11月に開始し、6名×21日分の睡眠・活動データを収集した。COVID-19パンデミック下におけるメンタルヘルスの実態解明に関する研究については、電話相談対応に従事している保健所職員を対象に9～11月にアンケート調査を実施し、職員のストレス状態やストレス内容をまとめた論文を国際誌に投稿した。また、大学本部と協力し、本学学生を対象に3月からメンタルヘルス調査を実施し、学生支援に役立てるほか知見の国内外への発信を計画している。九州大学ほかと共同で実施しているVR技術を用いた津波からの避難に関する研究については、開発された津波避難シミュレーションを用いて3月に予備実験を行い、津波からの逃げ遅れに影響する心理・行動的特徴の解明に向けて生理学的・心理学的データを収集した。津波災害によるメンタルヘルス増悪者の出現頻度の地域別予測に関する研究については、大学院生と共に予測モデルを作成し、その妥当性等を検証するために東日本大震災被災者健康調査および東北メディカル・メガバンク機構の地域住民コホートデータの利用申請手続きを行った。

#### 研究課題

	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	2011	11	現在		東日本大震災被災者の精神的健康の長期経過に関する研究(東北大学・七ヶ浜町共同事業「七ヶ浜健康増進プロジェクト」)	両方
2	2020	4	現在		バーチャルリアリティ(VR)を用いた津波に対する有効な避難のあり方に関する研究	国内
3	2020	8	現在		COVID-19パンデミック下におけるメンタルヘルスの実態解明に関する研究	国内
4	2020	10	現在		ウェアラブルデバイスを介した被災地域社会における心身の健康増進に関する研究	国内
5	2021	1	現在		津波災害によるメンタルヘルス増悪者の出現頻度の地域別予測に関する研究	なし

#### 論文

単著	0	筆頭共著	1	その他の共著	1	合計	2	うち	国際査読有	1	国際査読無	0	国内査読有	1	国内査読無	0
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

	記述言語	区分	所外連携	国際学術誌	種別	査読	招待論文	論文題目名(原語)	著者氏名(共著者含)	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日
1	日本語	筆頭共著	国内	いいえ	学術雑誌	有	いいえ	独居高齢者に対する情報通信技術(ICT)を介した認知行動療法的アプローチによる健康増進支援プログラム:実施可能性に関する予備的検討	白倉瞳, 東海林渉, 千葉柊作, 片柳光昭, 荒井祐子, 國井陽子, 山本弘樹, 梶山征央, 山口美峰子, 松本和紀	予防精神医学	5	1	76	86	20200000
2	英語	共著	なし	はい	学術雑誌	有	いいえ	Impact of the Great East Japan Earthquake on the Employment Status and Mental Health Conditions of Affected Coastal Communities	Mitsuaki Katayanagi, Moe Seto, Naoki Nakaya, Tomohiro Nakamura, Naho Tsuchiya, Akira Narita, Mana Kogure, Yumi Sugawara, Akira Kodaka, Yusuke Utsumi, Hitomi Usukura, Yasuto Kuni, Atsushi Hozawa, Ichiro Tsuji, Hiroaki Tomita	International Journal of Environmental Research and Public Health	17	21		8130	20201103

著書(監修・編集・単著・共著)

監修 編集	0	単著	0	筆頭 共著	0	共著	1	合計	1	うち	国際	0	国内	1
----------	---	----	---	----------	---	----	---	----	---	----	----	---	----	---

記述 言語	著書名および担当執筆題名	種別	発行年月日	著者・監修者氏名	区分	出版社名	所外 連携	発行 部数
1 日本語	新型コロナウイルス感染症(COVID-19)流行下におけるメンタルヘルス対策指針第1版	その他	20200625	相澤明憲, 安藤俊太郎, 井上幸紀, 臼倉瞳, 小川朝生, 加藤寛, 小平政基, 齋尾武郎, 重村淳, 宍倉久里江, 瀬戸萌, 國井泰人, 高橋晶, 高橋秀俊, 田中究, 種市椋子, 富田博秋, 松本英夫	共著	日本精神神経学会, 日本児童青年精神医学会, 日本災害医学会, 日本総合病院精神医学会, 日本トラウマティック・ストレス学会	国内	

C. 教育活動

教育活動の概要

「基礎医学修練」では2名の学生を担当し、8月末～12月下旬まで、研究法や統計解析に関する講義形式のレクチャーを交えながら、当分野が保有する被災者健康調査のデータを用いた解析およびレポート作成に関する指導を行った。また、富田博秋教授の指導学生である大学院生の指導補助を行った。

担当授業科目(他大学を含む)

科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・学期	コマ数 90分/コマ
基礎医学修練	東北大学	医学部	医学科	3		

D. 社会活動

社会活動の概要

愛知県精神保健福祉センターより依頼があり、保健師等を対象に、「災害時メンタルヘルス研修会」としてサイコソジカルファーストエイド(PFA)に関するオンライン講演会を行った。

講演・講義等(研究活動以外)

合計 1 件

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	連携	主催者	会場名	開催 都市名	開催 国名	参加人数
				開始年月日	終了年月日							
1	講演会	愛知県精神保健福祉センター「災害時メンタルヘルス研修会」	講義	20210212	20210212	サイコソジカル・ファーストエイド(PFA)	なし	愛知県精神保健福祉センター	愛知県東大手序舎	名古屋市	日本	82



## 伊藤 潔 教授

## ITO Kiyoshi

災害医学研究部門 災害産婦人科学分野

## A. 基本情報・略歴

## 出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	東北大学	医学部	1986	3					医学博士	1996	9

## 職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	1986	5	1986	6	東北大学医学部産科婦人科	医員
2	1986	7	1989	10	福島県郡山市太田総合病院産婦人科	医員(研修医)
3	1989	11	1992	3	東北大学医学部産科婦人科	助手
4	1992	4	1994	3	米国ジョージワシントン大学病理学教室	客員研究員
5	1994	4	1994	7	米国ヴァージニア医科大学病理学教室	客員研究員
6	1994	8	1996	3	東北大学産科婦人科	助手
7	1996	4	1997	3	青森県八戸市立市民病院 産婦人科	医長
8	1997	4	1998	12	青森県十和田市立中央病院 産婦人科	科長
9	1999	1	2002	3	東北大学 産科婦人科	講師
10	2001	2	2012	3	宮城県対がん協会細胞診センター所長(兼務 2012年3月まで)	所長(兼務)
11	2002	4	2009	8	東北大学大学院医学系研究科(婦人科学分野)	助教授
12	2009	9	2012	3	東北大学大学院医学系研究科(産科学分野)	准教授
13	2012	4	現在		東北大学災害科学国際研究所 災害医学研究部門 災害産婦人科学分野	教授

## 学会活動

## 所属学会

	学会名 1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	日本生殖内分泌学会	American Association for Cancer Research (AACR)	International Gynecologic Cancer Society (IGCS)	The Endocrine Society	日本産科婦人科学会	日本婦人科腫瘍学会	日本臨床細胞学会	日本婦人科がん検診学会	日本癌学会	日本内分泌学会

## 学会・委員会等での役職

	学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
1	日本産科婦人科学会		代議員	20030401
2	日本婦人科腫瘍学会		評議員	20030401
3	日本婦人科がん検診学会		理事	20030401
4	日本臨床細胞学会		理事	20130401
5	東北臨床細胞学会		理事長	20180701
6	宮城臨床細胞学会		会長	20161001
7	日本がん検診・診断学会		評議員	20110000
8	ホルモンと癌研究会		理事	20130801
9	ホルモンと癌研究会		理事長	20190801
10	日本婦人科腫瘍学会	ガイドライン作成委員会	委員	20130000
11	日本がん治療学会	産婦人科診療ガイドライン作成委員会	委員	20170401
12	日本生殖内分泌学会		理事	20150401
13	日本臨床細胞学会	地域連絡委員会	委員長	20190401
14	日本産科婦人科学会	災害・復興対策委員会	委員	20171210

## 研究分野・キーワード

	専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3	専門分野 4	専門分野 5
	災害産婦人科学	婦人科腫瘍学	婦人科内分泌学	がん疫学	婦人科病理学

## 委員会・ワーキンググループ

## 全学・他部局の委員会での委員

	部局名	委員会名	役職	開始年月日
1	医学部	大学院合同運営委員会	委員	20190401
2	医学部	医学部運営委員会	委員	20190401
3	医学部	男女共同参画委員会	委員	20140401
4	東北メディカル・メガバンク機構	人事委員会	委員	20130401
5	東北メディカル・メガバンク機構	運営委員会	委員	20130401

B. 研究活動

研究活動の概要

1. 東日本大震災が宮城県での婦人科がん検診体制に及ぼした影響の解析:最新の検査法、液状化検体法を従来法に代えて行うことで、精度の高い検診を被災地のみならず日本全国において提供できる可能性があることを明らかにした。また、沿岸部の被災地では、それ以外の地域に比べて検診受診率の回復率が低いことを明らかにした。
2. 災害時ストレスとその後の生活環境変化が婦人科疾患の発生進展に及ぼす影響の解析:ストレスホルモンに関連する様々な因子が、婦人科疾患の発生進展に及ぼす影響を解析した。
3. 医学系研究科と連携して、COVID-19規制下における研究者の研究環境とモチベーションへの影響について全国調査を行い、その結果をProgress in Disaster Scienceにて論文発表した。
4. 第25回日本生殖内分泌学会学術集会を主催し、全国の生殖内分泌関連の多彩な研究者(基礎系・臨床系)に災害研究を含めた学際コミュニケーションを行う機会を提供した。

研究課題

No.	期間			研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年		
1	1999	1	現在	婦人科腫瘍におけるホルモン調節機構の研究	両方
2	2001	2	現在	婦人科がん検診の精度管理・受診率向上などに関する研究	国内
3	2012	4	現在	災害時およびそれ以降の婦人科がん検診の精度管理・受診率向上などに関する研究	国内
4	2012	4	現在	災害ストレスが婦人科腫瘍のホルモン調節機構に及ぼす影響に関する研究	国内
5	2012	4	現在	災害時の母子保健に関する研究	国内
6	2012	4	現在	災害後の産婦人科疾患発生動向に関する研究	国内
7	2020	4	現在	新型コロナウイルス感染が今後のがん検診体制に及ぼす影響に関する研究	国内

論文

単著	0	筆頭共著	0	その他の共著	6	合計	6	
うち	国際査読有	6	国際査読無	0	国内査読有	0	国内査読無	0

記述言語	区分	所外連携	国際学術誌	種別	査読	招待論文	論文題目名(原語)	著者氏名(共著者含)	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日
英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Impact of COVID-19 restrictions on the research environment and motivation of researchers in Japan	Miki Y, Chubachi N, Imamura F, Yaegashi N, Ito K	Progress in Disaster Science	8		100128	100128	20201200
英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	WBF-2019 Core Research Cluster of Disaster Science Planning Session as Disaster Preparedness: Participation in a Training Program for Conductor-Type Disaster Healthcare Personnel	Okuyama J, Sasaki H, Seto S, Fukuda Y, Iwasaki T, Matsuzawa T, Ito K, Izumi T, Takakura H, Imamura F, Ishi T.	Journal of Disaster Research	15	7	900	912	20201201
英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Experiences of perinatal women and public healthcare providers in a community affected by the great east Japan earthquake and tsunami: Concerns that must be considered for the mental healthcare of perinatal women in postdisaster settings	Kobayashi N, Nemoto H, Seto M, Sato S, Kikuchi S, Honda N, Suzuki T, Sato K, Sugawara J, Ito K, Kayano R, Ozaki N, Beadling CW, Kelman I, Imamura F, Matsuoka H, Tomita H.	International Journal of Disaster Risk Reduction	51		101767	101767	20201200
英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Divergent metabolic responses dictate vulnerability to NAMPT inhibition in ovarian cancer	Kudo K, Nomura M, Sakamoto Y, Ito S, Morita M, Kawai M, Yamashita Y, Ito K, Yamada H, Shima H, Yaegashi N, Tanuma N.	FEBS Letter	594	9	1379	1388	20200500
英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Study Profile of the Tohoku Medical Megabank Community-Based Cohort Study	Hozawa A, Tanno K, Nakaya N, Nakamura T, Tsuchiya N, Hirata T, Narita A, Kogure M, Nochioka K, Sasaki R, Takahashi N, Otsuka K, Sakata K, Kuriyama S, Kikuya M, Tanabe O, Sugawara J, Suzuki K, Suzuki Y, Kodama EN, Fuse N, Kiyomoto H, Tomita H, Uruno A, Hamanaka Y, Metoki H, Ishikuro M, Obara T, Kobayashi T, Kitatani K, Takai-Igarashi T, Ogishima S, Satoh M, Ohmomo H, Tsuboi A, Egawa S, Ishii T, Ito K, Ito S, Taki Y, Minegishi N, Ishii N, Nagasaki M, Igarashi K, Koshihara S, Shimizu R, Tamiya G, Nakayama K, Motohashi H, Yasuda J, Shimizu A, Hachiya T, Shiwa Y, Tominaga T, Tanaka H, Oyama K, Tanaka R, Kawame H, Fukushima A, Ishigaki Y, Tokutomi T, Osumi N, Kobayashi T, Nagami F, Hashizume H, Arai T, Kawaguchi Y, Higuchi S, Sakaida M, Endo R, Nishizuka S, Tsuji I, Hitomi J, Nakamura M, Ogasawara K, Yaegashi N, Kinoshita K, Kure S, Sakai A, Kobayashi S, Sobue K, Sasaki M, Yamamoto M.	J Epidemiol.	31	1	65	76	20201015
英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Mental Health and Physical Activity among Children and Adolescents during the COVID-19 Pandemic	Okuyama J, Seto S, Fukuda Y, Funakoshi S, Amae S, Onobe J, Izumi S, Ito K, Imamura F.	Tohoku J Exp Med	253	3	203	215	20210300

著書(監修・編集・単著・共著)

監修	0	単著	0	筆頭共著	0	共著	1	合計	1	うち	国際	0	国内	1
----	---	----	---	------	---	----	---	----	---	----	----	---	----	---

記述言語	著書名および担当執筆題名	種別	発行年月日	著者・監修者氏名	区分	出版社名	所外連携	発行部数
1 日本語	「災害と女性の健康」(『東日本大震災からのスタート:災害を考える51のアプローチ』第37章, pp.151-154)	編集本(著者・Author)	20210311	三木康宏、伊藤潔 (東北大学災害科学国際研究所)	共著	東北大学出版会	なし	1400

学会発表

単名	0	筆頭連名	0	その他の連名	7	合計	7
----	---	------	---	--------	---	----	---

	国内国際	会議名称	会議のチャア	区分	招待	講演・発表の形態	会場名	開催都市名	開催国名	開催期間		発表年月日	題目名(原語)	連名者名(発表者に下線)
										開始年月	終了年月			
1	国内	第93回日本内分泌学会	緒方 勤	その他の連名	はい	指名/シンポジウム・ワークショップ・パネル	WEB		日本	20200720	20200831		ホルモン依存性癌におけるintracrineとホルモン受容体シグナルの可視化	<u>三木康宏</u> 、岩瀧英里奈、鈴木貴、笹野公伸、伊藤潔
2	国内	第62回日本婦人科腫瘍学会	渡部 洋	その他の連名	いいえ	ポスター(一般)	WEB		日本	20210129	20210211		婦人科領域の神経内分泌腫瘍に対するVAC-PE抗体両方の後方視的検討	<u>重田昌吾</u> 、徳永英樹、島田宗昭、辻 圭太、岡本聡、橋本千明、土岐麻美、工藤 敬、宮原周子、清水孝規、高野忠夫、伊藤 潔、八重樫伸生
3	国内	第72回日本産科婦人科学会	青木大輔	その他の連名	いいえ	ポスター(一般)	WEB		日本	20200423	20200428		Divergent metabolic responses dictate the vulnerability to NAMPT-inhibition in ovarian cancer	<u>Kudo K</u> , Ito K, Yaegashi N, et al
4	国内	第61回日本臨床細胞学会(春期大会)	佐藤之俊	その他の連名	はい	指名/シンポジウム・ワークショップ・パネル	WEB		日本	20200620	20200719		子宮頸部腺系系病変の早期発見に向けた取り組みと将来展望	<u>徳永英樹</u> 、岡本 聡、島田宗昭、石橋ますみ、志賀尚美、高野忠夫、伊藤 潔、八重樫伸生
5	国内	第25回日本生体内分泌学会	伊藤 潔	その他の連名	はい	口頭(招待)	WEB		日本	20201212	20201225		令和パンデミックの今、大正パンデミックを計量書誌学的に考察する	<u>三木康宏</u> 、中鉢奈津子、川内淳史、児玉栄一、伊藤 潔
6	国内	第25回日本生体内分泌学会	伊藤 潔	その他の連名	いいえ	公募/シンポジウム・ワークショップ・パネル	WEB		日本	20201212	20201225		子宮内膜癌におけるDehydroepiandrosteroneの直接作用に関する検討	<u>三木康宏</u> 、高木清司、鈴木貴、伊藤 潔
7	国内	第25回日本生体内分泌学会	伊藤 潔	その他の連名	いいえ	公募/シンポジウム・ワークショップ・パネル	WEB		日本	20201212	20201225		Heterogeneous nuclear ribonucleoprotein Kがエストロゲンシグナルに及ぼす影響の検討	<u>岩瀧英里奈</u> 、三木康宏、伊藤 潔、笹野公伸

学術会議・シンポジウム等の主催・共催・運営等

合計	2 件
----	-----

	国内国際	種別	主催団体名・運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場	開催都市名	開催国名	参加人数(おも外観人)	分野	担当	IRIDeSの関与	共催機関名	所外連携
					開始年月	終了年月									
1	国内	その他	宮城臨床細胞学会	第35回宮城臨床細胞学会学術集会	20210207	20210207	WEB	仙台	日本	150	臨床医学	学術集会長	なし		国内
2	国内	その他	日本生体内分泌学会	第25回日本生体内分泌学会学術集会	20201212	20201225	WEB	仙台	日本	300	臨床医学	学術集会長	なし	宮城産科婦人科学会	国内

C. 教育活動

教育活動の概要

東北大学や宮城教育大学で講義を行い、災害と産婦人科疾患あるいはがん検診との関連を講義に取り入れた教育活動を行い、災害科学あるいは災害医学への理解を深めるように指導している。

担当授業科目(他大学を含む)

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・学期	コマ数 90分/コマ
1	災害の科学(災害の発生と波及)題目:産婦人科医療・医学と大震災	東北大学	全学			後期	1
2	人間と健康	宮城教育大学	全学		1	前期	1

D. 社会活動

社会活動の概要

震災後の婦人科がんを中心としたがん検診事業を再構築し、さらに発展させるため、宮城県や仙台市のがん検診対策委員会あるいは宮城県対がん協会を始めとした多くの委員会で役職を務め、積極的に活動している。今年度より宮城県の生活習慣病検診管理指導協議会の子宮がん部会委員に就任し、県全体のがん検診推進政策に関与している。

一般向けセミナー・講演等の主催・共催・運営等(研究活動以外)

合計 1件

	国内 国際	主催団体名・ 運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場名	開催 都市名	開催 国名	担当	参加 人数	IRIDeSの 関与	講演会・セミナー等	備考
				開始年月日	終了年月日								
1	国内	東北大学、河北新報社、東北放送	第12回元気！健康！フェア in とうほく	20200404	20200405	仙台市・国際センター	仙台	日本	実行委員会委員		なし	講演会	コロナ感染拡大で中止

自治体・民間等での委員

	区分	組織・団体名	委員会名	委員・役職名	開始年月日
1	民間・NPO	宮城県対がん協会		理事	20020201
2	民間・NPO	宮城県対がん協会	婦人科検診診断委員会	委員長	20120401
3	地方自治体	宮城県医師会		予備代議員	20080401
4	地方自治体	宮城県医師会	子宮がん検診精度管理委員会	委員	20080401
5	民間・NPO	宮城県医師会	細胞診検査精度管理委員会	委員	20130401
6	民間・NPO	仙台市医師会	子宮がん検診委員会	委員	20080401
7	民間・NPO	NPO法人婦人科腫瘍関連支援機構		副理事長	20060401
8	地方自治体	宮城県生活習慣病検診管理指導協議会	子宮がん検診部会	委員	20200401

## 三木 康宏 講師

MIKI Yasuhiro

災害医学研究部門 災害産婦人科学分野

### A. 基本情報・略歴

#### 出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	酪農学園大学	獣医学部	1998	3	東北大学大学院	医学系研究科	2007	3	博士(医学)	2007	3

#### 職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	1998	4	2001	3	ボソリサーチセンター 第3研究部	研究員
2	2006	4	2007	3	日本学術振興会	特別研究員DC2
3	2007	4	2010	3	東北大学大学院医学系研究科	助教
4	2007	5	現在		東北大学病院	兼務
5	2008	4	現在		東北大学薬学部	非常勤講師
6	2010	4	2012	10	東北大学大学院歯学研究科	助教
7	2012	4	現在		仙台青葉学院短期大学 リハビリテーション学科	非常勤講師

#### 学会活動

##### 所属学会

	学会名 1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	日本内分泌学会	日本ステロイドホルモン学会	日本癌学会	日本病理学会	日本組織細胞化学会	日本生殖内分泌学会	科学技術社会論学会	米国内分泌学会	災害動物医療研究会	ホルモンと癌研究会

##### 学会・委員会等での役職

	学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
1	日本ステロイドホルモン学会	評議員会	評議員	20071101
2	日本内分泌学会	評議員会	評議員	20090301
3	日本組織細胞化学会	評議員会	評議員	20200100
4	International Journal of Molecular Sciences	Editorial Board	Guest Editor	20170000
5	Cancers	Editorial Board	Guest Editor	20180000
6	International Journal of Molecular Sciences	Editorial Board	Editorial Board	20200300
7	Endocrine Oncology	Editorial Board	Associate editor	20210100

##### 研究分野・キーワード

	専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3	専門分野 4
	腫瘍学	内分泌学	毒性学	災害動物医療学

##### 委員会・ワーキンググループ

##### 全学・他部局の委員会での委員

	部局名	委員会名	役職	開始年月日
1	遺伝子実験センター		遺伝子組換え実験安全主任者	20190000

### B. 研究活動

#### 研究活動の概要

子宮内臓癌を対象に行った検討において、ストレスホルモンであるコルチゾールや関連ホルモン、関連因子の発現について検討した。特にDHEAは子宮内臓癌の抑制に関与することを明らかにし、正常組織においてストレス防御的に作用するのではと示唆される。ステロイドホルモン濃度をもとにした階層クラスター解析によって、ストレスホルモンの作用を追求するためには、他のホルモン(男性・女性ホルモンおよびその前駆ホルモン)の機能を加味し、包括的な検討が必要であると考えられる。

#### 研究課題

	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	2001	4	現在		ヒト組織および疾患(乳癌、肺癌)におけるステロイドホルモン合成・代謝に関する研究	国内
2	2012	8	現在		ストレスホルモンの婦人科疾患におよぼす影響に関する研究	国内
3	2012	10	現在		基礎研究者の研究モチベーションに対する震災の影響に関する研究	国内
4	2013	4	現在		災害とワーキング・ドッグに関する研究	国内
5	2019	10	現在		災害・パンデミックに関する文理連携研究	国内

論文

単著	0	筆頭共著	1	その他の共著	1	合計	2	うち	国際査読有	2	国際査読無	0	国内査読有	0	国内査読無	0
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

記述言語	区分	所外連携	国際学術誌	種別	査読	招待論文	論文題目名(原語)	著者氏名(共著者含)	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	
1	英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Rac1 activation in human breast carcinoma as a prognostic factor associated with therapeutic resistance.	Mio Yamaguchi, Kiyoshi Takagi, Ai Sato, Yasuhiro Miki, Minoru Miyashita, Hironobu Sasano & Takashi Suzuki	Breast Cancer	27	5	919	928	20200420
2	英語	筆頭共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Impact of COVID-19 restrictions on the research environment and motivation of researchers in Japan	Yasuhiro Miki, Natsuko Chubachi, Fumihiko Imamura, Nobuo Yaegashi, Kiyoshi Ito	Progress in Disaster Science	8		100128		20201021

著書(監修・編集・単著・共著)

監修編集	0	単著	0	筆頭共著	0	共著	1	合計	1	うち	国際	0	国内	1
------	---	----	---	------	---	----	---	----	---	----	----	---	----	---

記述言語	著書名および担当執筆題名	種別	発行年月日	著者・監修者氏名	区分	出版社名	所外連携	発行部数
1	日本語 「災害と女性の健康」『東日本大震災からのスタート:災害を考える51のアプローチ』第37章, pp.151-154)	編集本(著者・Author)	20210311	三木康宏, 伊藤潔 (東北大学災害科学国際研究所)	共著	東北大学出版会	なし	1400

総説・解説(大学紀要・学術雑誌・学会誌・商業雑誌など)

単著	2	筆頭共著	0	その他の共著	0	合計	2	うち	国際査読有	1	国際査読無	0	国内査読有	0	国内査読無	1
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

記述言語	題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	区分	所外連携	
1	英語	New Insights into Breast and Endometrial Cancers	学術雑誌	有	はい	Cancers (Basel)	12	9	2595	2600	20200911	Yasuhiro Miki	単著	なし
2	日本語	災害とワンヘルス:ヒトと動物との関係	その他	無	はい	ワンヘルスサイエンティスト	1	2	1		20201201	三木康宏	単著	なし

学会発表

単名	2	筆頭連名	6	その他の連名	3	合計	11
----	---	------	---	--------	---	----	----

	国内国際	会議名称	会議のチェア	区分	招待	講演・発表の形態	会場名	開催都市名	開催国名	開催期間		発表年月日	題目名(原語)	連名者名(発表者に下線)
										開始年月	終了年月			
1	国内	超異分野学会 関西フォーラム2020	井上 浄	単名	いいえ	ポスター(一般)	神戸国際会議場	神戸	日本	20200601	20200601	20200601	災害を契機に「なぜ研究をするのか」を考える	三木康宏
2	国内	第93回 日本内分泌学会学術集会	緒方 勤	筆頭連名	はい	口頭(招待)	WEB	WEB	日本	20200720	20200831	20200720	ホルモン依存性癌におけるintracrineとホルモン受容体シグナルの可視化	三木康宏, 岩渕英里奈, 鈴木 貴, 笹野公伸, 伊藤 潔
3	国内	第61回日本組織細胞化学会総会・学術集会	松野 彰	筆頭連名	いいえ	ポスター(一般)	WEB	WEB	日本	20201207	20201218	20201207	子宮内膜癌におけるMAP2の発現とDHEAとの関係	三木康宏, 岩渕英里奈, 高木清司, 鈴木 貴, 笹野公伸, 伊藤 潔
4	国内	第25回 日本生殖内分泌学会学術総会	伊藤 潔	筆頭連名	はい	その他	WEB	WEB	日本	20201212	20201225	20201212	令和パンデミックの今、大正パンデミックを計量書誌的に考察する	三木康宏, 中鉢奈津子, 川内淳史, 児玉栄一, 伊藤 潔
5	国内	第25回 日本生殖内分泌学会学術総会	伊藤 潔	筆頭連名	いいえ	口頭(一般)	WEB	WEB	日本	20201212	20201225	20201212	子宮内膜癌におけるDehydroepiandrosteroneの直接作用に関する検討	三木康宏, 高木清司, 鈴木 貴, 伊藤 潔
6	国内	第25回 日本生殖内分泌学会学術総会	伊藤 潔	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	WEB	WEB	日本	20201212	20201225	20201212	Heterogenous nuclear ribonucleoprotein Kがエストロゲンシグナルに及ぼす影響の検討	岩渕英里奈, 三木康宏, 伊藤 潔, 笹野公伸
7	国内	第25回 日本生殖内分泌学会学術総会	伊藤 潔	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	WEB	WEB	日本	20201212	20201225	20201212	子宮内膜症及び腺筋症におけるエストロゲン合成・代謝酵素の発現	近藤悠人, 青藤涼子, 三木康宏, Matti Poutanen, Risto Lammintausta, 八重樫伸生, 伊藤 潔, 笹野公伸
8	国内	歴史が導く災害科学の新展開IV - 先人の疫病文化に学ぶ -	蝦名裕一	単名	はい	指名/シンポジウム・ワークショップ・パネル	WEB	WEB	日本	20200211	20200211	20200211	One Health: ヒトと動物の感染症	三木康宏
9	国内	第28回日本ステロイドホルモン学会学術集会	武田 仁勇	筆頭連名	いいえ	口頭(一般)	WEB	WEB	日本	20210227	20210227	20210227	子宮内膜癌における組織中ステロイドホルモン濃度とTRINβ球サブタイプ	三木康宏, 大沼楓佳, 高木清司, 岩渕英里奈, 鈴木 貴, 笹野公伸, 伊藤 潔
10	国際	ENDO 2021: The 103th Annual Meeting of The Endocrine Society	Frank Pallone Jr.	筆頭連名	いいえ	ポスター(一般)	WEB	WEB	USA	20210320	20210323	20210320	Microtubule-Associated Protein 2 as a DHEA Binding Protein in Endometrial Cancer	Yasuhiro MIKI, Erina IWABUCHI, Kiyoshi TAKAGI Takashi SUZUKI, Hironobu SASANO, Kiyoshi ITO
11	国際	ENDO 2021: The 103th Annual Meeting of The Endocrine Society	Frank Pallone Jr.	その他の連名	いいえ	ポスター(一般)	WEB	WEB	USA	20210320	20210323	20210320	Heterogeneous Nuclear Ribonucleoprotein K Is Involved in the Estrogen-Signaling Pathway	Erina IWABUCHI, Yasuhiro MIKI, Kiyoshi ITO, Takanoishi ISHIDA, Hironobu SASANO

**C. 教育活動**

**教育活動の概要**

医学系研究科博士課程のアドバイザー教員として、学位論文作成指導(医学科2名、内留学生1名)、保健学科1名)および学位審査(2名、内留学生2名)に携わった。また、協力教員として医学系研究科修士論文、非常勤講師として薬学部学士論文の指導にそれぞれ携わった。

**担当授業科目(他大学を含む)**

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・学期	コマ数 90分/1コマ
1	病理学	東北大学	薬学部	薬学科	4	6セメ	2
2	病理学	仙台青葉学院短期大学	リハビリテーション学科	理学療法学専攻/理学療法学専攻	1	後期	9
3	災害の科学	東北大学	全学		1	2セメ	1
4	病理検査学	東北大学	医学部	保健学科	3	5セメ	1

**D. 社会活動**

**社会活動の概要**

ワーキング・ドッグに関する学会、団体に参加し、災害時におけるペットの同行避難に関する議論を行った。また、それらの情報を補助犬情報センターに提供し、身体障害者補助犬の同伴避難に関する議論を行った。

# 栗山 進一 教授

## KURIYAMA Shinichi

災害医学研究部門 災害公衆衛生学分野

### A. 基本情報・略歴

出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	東北大学	理学部物理学科	1987	3					理学士	1987	3
2	大阪市立大学	医学部医学科	1993	3					医学士	1993	3
3	東北大学				東北大学	大学院医学系研究科			博士(医学)	2003	3

### 職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	1993	5	1993	7	大阪市立大学医学部付属病院第3内科	医師
2	1993	8	2003	3	大同生命保険相互会社	産業医(診査医長)
3	2003	4	2005	5	東北大学大学院医学系研究科公衆衛生学分野	助手
4	2005	6	2006	6	東北大学大学院医学系研究科公衆衛生学分野	講師
5	2006	7	2007	3	東北大学大学院医学系研究科公衆衛生学分野	助教授
6	2007	4	2010	7	東北大学大学院医学系研究科公衆衛生学分野	准教授
7	2010	8	2012	6	東北大学大学院医学系研究科環境遺伝医学総合研究センター 分子疫学分野	教授
8	2012	7	現在		東北大学災害科学国際研究所災害公衆衛生学分野	教授

### 学会活動

所属学会

	学会名 1	2	3	4	5
	日本災害医学会	日本公衆衛生学会	日本疫学会	日本人類遺伝学会	日本小児神経学会

### 学会・委員会等での役職

	学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
1	日本疫学会	理事会	理事	20180201
2	日本疫学会	奨励賞選考委員会	委員	20180524
3	日本疫学会	疫学リソース利用促進委員会倫理問題検討WG	委員長	20180524

### 研究分野・キーワード

	専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3	専門分野 4
	災害公衆衛生学	大規模災害と健康に関する疫学研究	生活習慣病の疫学	神経疾患の分子疫学研究

### 委員会・ワーキンググループ

全学・他部局の委員会での委員

	部局名	委員会名	役職	開始年月日
1	医学部	環境遺伝医学総合研究センター運営委員会	委員	20110201
2	本部	研究大学強化促進事業実施委員会	委員	20150401
3	医学部	ビックデータメディスンセンター委員会	委員	20150000
4	東北メディカル・メガバンク機構	建物管理委員会	委員長	20150401
5	東北メディカル・メガバンク機構	東北メディカル・メガバンク運営委員会	委員	20130000
6	東北メディカル・メガバンク機構	情報システム構築委員会	委員	20190000
7	東北メディカル・メガバンク機構	災害交通医療情報学寄附研究部門運営委員会	委員	20180000

### B. 研究活動

研究活動の概要

2020年度の研究活動においては、東日本大震災の曝露と体重増加および不眠と関連する遺伝要因に関する研究を主として行った。2013年～2017年に東北メディカル・メガバンク計画三世代コホート調査に参加した成人14,271人を対象とした。最近1年間の体重増加が+5kgの場合を肥満と定義し、アテネ不眠尺度(AIS)を用いて6点以上を「不眠症の疑いあり」とした。その結果、被災と体重増加に関連する遺伝子としてANKRD44が同定された。また、不眠と関連する遺伝要因としては、LOC101927123などが関連する傾向があった。本研究結果は、被災者の健康管理においては遺伝要因からハイリスクの方々を同定し、強力な介入を行う必要性のあることを示唆している。
---

### 研究課題

	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	2020	4	2021	3	アドオンゲノムコホートによるアトピー性皮膚炎と自閉スペクトラム症の戦略的病態解明	国内
2	2020	4	2021	3	被災後に肥満または不眠をきたす遺伝要因の解明	国内



論文

単著	0	筆頭共著	0	その他の共著	14	合計	14
----	---	------	---	--------	----	----	----

うち	国際査読有	14	国際査読無	0	国内査読有	0	国内査読無	0
----	-------	----	-------	---	-------	---	-------	---

記述言語	区分	所外連携	国際学術誌	種別	査読	招待論文	論文題目名(原語)	著者氏名(共著者含)	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日
英語	共著		はい	学術雑誌	有	いいえ	Public Relations and Communication Strategies in Construction of Large-Scale Cohorts and Biobank: Practice in the Tohoku Medical Megabank Project	Nagami F, Kuriki M, Koreeda S, Kageyama M, Shimizu O, Toda S, Hozawa A, Kuriyama S, Osumi N, Yamamoto M.	TOHOKU JOURNAL OF EXPERIMENTAL MEDICINE	250	4	253	262	20200424
英語	共著		はい	学術雑誌	有	いいえ	Design and Progress of Oral Health Examinations in the Tohoku Medical Megabank Project	Tsuboi A, Matsui H, Shiraishi N, Murakami T, Otsuki A, Kawashima J, Kiyama T, Tamahara T, Goto M, Koyama S, Sugawara J, Kodama EN, Metoki H, Hozawa A, Kuriyama S, Tomita H, Kikuya M, Minegishi N, Suzuki K, Koshiba S, Tamiya G, Fuse N, Aoki Y, Takai-Igarashi T, Ogishima S, Nakamura T, Sakurai-Yageta M, Nagami F, Kinoshita K, Kure S, Shimizu R, Sasaki K, Yamamoto M.	TOHOKU JOURNAL OF EXPERIMENTAL MEDICINE	251	2	97	115	20200601
英語	共著		はい	学術雑誌	有	いいえ	Association of maternal home blood pressure trajectory during pregnancy with infant birth weight: the BOSHI study	Iwama N, Oba MS, Satoh M, Ohkubo T, Ishikuro M, Obara T, Sasaki S, Saito M, Murakami Y, Kuriyama S, Yaegashi N, Hoshi K, Imai Y, Metoki H; BOSHI Study Group.	HYPERTENSION RESEARCH	43	6	550	559	20200601
英語	共著		はい	学術雑誌	有	いいえ	Plasma Homocysteine Concentration is Associated with the Expression Level of Folate Receptor 3	Yoshitomi R, Nakayama K, Yamashita S, Kumazoe M, Lin TA, Mei CY, Marugame Y, Fujimura Y, Maeda-Yamamoto M, Kuriyama S, Tachibana H.	SCIENTIFIC REPORTS	10	1	10283		20200624
英語	共著		はい	学術雑誌	有	いいえ	Fruit and vegetable consumption before and during pregnancy and birth weight of new-borns in Japan: the Tohoku medical megabank project birth and three-generation cohort study	Yonezawa Y, Obara T, Yamashita T, Sugawara J, Ishikuro M, Murakami K, Noda A, Ueno F, Suzuki S, Suganuma H, Kuriyama S.	NUTRITION JOURNAL	19	1	80		20200803
英語	共著		はい	学術雑誌	有	いいえ	Clustering by phenotype and genome-wide association study in autism	Narita A, Nagai M, Mizuno S, Ogishima S, Tamiya G, Ueki M, Sakurai R, Makino S, Obara T, Ishikuro M, Yamanaka C, Matsubara H, Kuniyoshi Y, Murakami K, Ueno F, Noda A, Kobayashi T, Kobayashi M, Usuzaki T, Ohseto H, Hozawa A, Kikuya M, Metoki H, Kure S, Kuriyama S.	Translational Psychiatry	10	1	290		20200819
英語	共著		はい	学術雑誌	有	いいえ	Associations between glycosylated hemoglobin level at less than 24 weeks of gestation and adverse pregnancy outcomes in Japan: The Japan Environment and Children's Study (JECS)	Iwama N, Sugiyama T, Metoki H, Saito M, Hoshiai T, Watanabe Z, Tanaka K, Sasaki S, Sakurai K, Ishikuro M, Obara T, Tatsuta N, Nishigori H, Kuriyama S, Arima T, Nakai K, Yaegashi N; Japan Environment and Children's Study Group.	Diabetes Research and Clinical Practice	169		108377		20200821
英語	共著		はい	学術雑誌	有	いいえ	Questionnaire survey on nurses and speech therapists regarding dysphagia rehabilitation in Japan	Kato K, Ikeda R, Suzuki J, Hirano-Kawamoto A, Kamakura Y, Fujii-Kurachi M, Hyodo M, Izumi SI, Koyama S, Sasaki K, Nakajima J, Karaho T, Kimura Y, Kumai Y, Fujimoto Y, Nito T, Oku Y, Kurosawa H, Kuriyama S, Katori Y.	Auris Nasus Larynx	S0385-8146	20	30206		20200825
英語	共著		はい	学術雑誌	有	いいえ	How can we evaluate whether an association is truly inter-generational?	Usuzaki T, Ishikuro M, Murakami K, Noda A, Ueno F, Obara T, Kuriyama S.	JOURNAL OF HYPERTENSION	38	9	1866	1868	20200901
英語	共著		はい	学術雑誌	有	いいえ	Low birth weight and abnormal pre-pregnancy body mass index were at higher risk for hypertensive disorders of pregnancy	Wagata M, Ishikuro M, Obara T, Nagai M, Mizuno S, Nakaya N, Nakamura T, Hirata T, Tsuchiya N, Metoki H, Ogishima S, Hozawa A, Kinoshita K, Kure S, Yaegashi N, Yamamoto M, Kuriyama S, Sugawara J.	Pregnancy Hypertension	22	1	119	125	20201001
英語	共著		はい	学術雑誌	有	いいえ	Hypertensive disorders of pregnancy, obesity, and hypertension in later life by age group: a cross-sectional analysis	Wagata M, Kogure M, Nakaya N, Tsuchiya N, Nakamura T, Hirata T, Narita A, Metoki H, Ishikuro M, Kikuya M, Tanno K, Fukushima A, Yaegashi N, Kure S, Yamamoto M, Kuriyama S, Hozawa A, Sugawara J.	HYPERTENSION RESEARCH	43	11	1277	1283	20201101
英語	共著		はい	学術雑誌	有	いいえ	Folic acid prescribed to prenatal and postpartum women who are also prescribed antiepileptic drugs in Japan: Data from a health administrative database	Ishikawa T, Obara T, Jin K, Nishigori H, Miyakoda K, Akazawa M, Nakasato N, Yaegashi N, Kuriyama S, Mano N.	BIRTH DEFECTS RESEARCH	112	16	1224	1233	20201001

13	英語	共著	はい	学術雑誌	有	いいえ	The prevalence and risk factors for postpartum depression symptoms of fathers at one and 6 months postpartum: an adjunct study of the Japan Environment & Children's Study	Nishigor H, Obara T, Nishigori T, Metoki H, Mizuno S, Ishikuro M, Sakurai K, Hamada H, Watanabe Z, Hoshiai T, Arima T, Nakai K, Kuriyama S, Yaegashi N; Miyagi Regional Center of Japan Environment & Children's Study Group.	JOURNAL OF MATERNAL-FETAL & NEONATAL MEDICINE	33	16	2797	2804	20201001
14	英語	共著	はい	学術雑誌	有	いいえ	Comparison among research, home, and office blood pressure measurements for pregnant women: The TMM BirThree Cohort Study	Utsuzaki T, Ishikuro M, Metoki H, Murakami K, Noda A, Ueno F, Kikuya M, Obara T, Kuriyama S.	JOURNAL OF CLINICAL HYPERTENSION	22	11	2004	2013	20201101

著書(監修・編集・単著・共著)

監修	0	編集	0	単著	2	筆頭共著	0	共著	0	合計	2	うち	国際	0	国内	2
----	---	----	---	----	---	------	---	----	---	----	---	----	----	---	----	---

記述言語	著書名および担当執筆題名	種別	発行年月日	著者・監修者氏名	区分	出版社名	所外連携	発行部数	
1	日本語	分子疫学入門～精密医療の基礎知識～	単行本	20200407	栗山進一	単著	東北大出版会	国内	
2	日本語	「災害と公衆衛生学」(『東日本大震災からのスタート:災害を考える51のアプローチ』第38章, pp.155-158)	編集本(著者・Author)	20210311	栗山進一 (東北大学災害科学国際研究所)	単著	東北大学出版会		1400

学会発表

単名	1	筆頭連名	0	その他の連名	11	合計	12
----	---	------	---	--------	----	----	----

	国内国際	会議名称	会議のチェア	区分	招待	講演・発表の形態	会場名	開催都市名	開催国名	開催期間		発表年月日	題目名(原語)	連名者名(発表者に下線)
										開始年月	終了年月			
1	国内	第79回日本公衆衛生学会総会	今中雄一	単名	はい	指名/シンポジウム・ワークショップ・パネル	京都大学(オンライン)	京都	日本	20201020	20201022	20201000	出生コホート連携に基づく胎児期から乳幼児期の環境と母親の子後との関連に関する研究	栗山進一
2	国内	第79回日本公衆衛生学会総会	今中雄一	その他の連名	いいえ	ポスター(一般)	京都大学(オンライン)	京都	日本	20201020	20201022	20201000	妊婦の配偶者における喫煙継続・屋内喫煙に関連する社会的要因:三世代コホート調査	村上慶子, 栗山進一
3	国内	第31回日本疫学会学術総会	田中恵太郎	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	佐賀大学(オンライン)	佐賀	日本	20210127	20210129	20210100	東北メディカル・メガバンク計画三世代コホート調査の進捗	小原拓, 石黒真美, 村上慶子, 上野史彦, 野田あおい, 大沼ともみ, 松崎美実子, 菊谷昌浩, 目時弘仁, 栗山進一
4	国内	第31回日本疫学会学術総会	田中恵太郎	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	佐賀大学(オンライン)	佐賀	日本	20210127	20210129	20210129	両親と児の血圧値の関連についての横断的検討:三世代コホート調査	石黒真美, 小原拓, 村上慶子, 上野史彦, 野田あおい, 大沼ともみ, 目時弘仁, 菊谷昌浩, 栗山進一
5	国内	第31回日本疫学会学術総会	田中恵太郎	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	佐賀大学(オンライン)	佐賀	日本	20210127	20210129	20210100	東日本大震災後の被災地における小児のアトピー性皮膚炎の有病率:三世代コホート調査	上野史彦, 小澤麻紀, 日高高德, 小原拓, 石黒真美, 村上慶子, 野田あおい, 大沼ともみ, 松崎美実子, 栗山進一, 相場節也
6	国内	第31回日本疫学会学術総会	田中恵太郎	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	佐賀大学(オンライン)	佐賀	日本	20210127	20210129	20210100	母親のパーソナリティと産後ボンディング障害との関連:三世代コホート調査	村上慶子, 上野史彦, 中村伊吹, 石黒真美, 野田あおい, 大沼ともみ, 小原拓, 栗山進一
7	国内	第31回日本疫学会学術総会	田中恵太郎	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	佐賀大学(オンライン)	佐賀	日本	20210127	20210129	20210100	出生三世代ゲノムコホート研究における妊婦の妊娠前および妊娠中の医薬品の使用状況:三世代コホート調査	野田あおい, 城田松之, 上野史彦, 松崎美実子, 石黒真美, 村上慶子, 大沼ともみ, 栗山進一, 小原拓
8	国内	第31回日本疫学会学術総会	田中恵太郎	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	佐賀大学(オンライン)	佐賀	日本	20210127	20210129	20210128	妊娠前および妊娠中の穀物摂取量と出生時体重・低出生体重:三世代コホート調査	米沢祐大, 小原拓, 山下貴宏, 石黒真美, 村上慶子, 上野史彦, 野田あおい, 大沼ともみ, 菅原準一, 鈴木重徳, 菅沼大行, 栗山進一
9	国内	第31回日本疫学会学術総会	田中恵太郎	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	佐賀大学(オンライン)	佐賀	日本	20210127	20210129	20210100	東北メディカル・メガバンク計画三世代コホート調査:母子のベースライン調査プロフィール	菅原準一, 石黒真美, 大沼ともみ, 村上慶子, 上野史彦, 野田あおい, 菊谷昌浩, 目時弘仁, 小原拓, 栗山進一
10	国内	第31回日本疫学会学術総会	田中恵太郎	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	佐賀大学(オンライン)	佐賀	日本	20210127	20210129	20210100	Small for gestational age児を予測するリスクスコアの検討:三世代コホート調査	岩間憲之, 小原拓, 石黒真美, 村上慶子, 上野史彦, 野田あおい, 大沼ともみ, 星合哲郎, 齋藤昌利, 目時弘仁, 菅原準一, 八重樫伸生, 栗山進一
11	国内	第31回日本疫学会学術総会	田中恵太郎	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	佐賀大学(オンライン)	佐賀	日本	20210127	20210129	20210100	後期早産児の乳幼児期における精神運動発達の縦断的推移	小林美佳, 石黒真美, 大沼ともみ, 村上慶子, 上野史彦, 野田あおい, 小原拓, 小原拓, 奥繁夫, 栗山進一

12	国内	第31回日本疫学会学術総会	田中恵太郎	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	佐賀大学(オンライン)	佐賀	日本	20210127	20210129	20210128	Dietary calcium intake was related to preeclampsia onset - the TMM BirThree Cohort Study	Hisashi Ohseto I, Mami Ishikuro, Taku Obara, Keiko Murakami, Tomomi Onuma, Aoi Noda, Fumihiko Ueno, Noriyuki Iwama, Masahiro Kikuya, Hirohito Metoki, Junichi Sugawara, Shinichi Kuriyama
----	----	---------------	-------	--------	-----	--------	-------------	----	----	----------	----------	----------	--	---

C. 教育活動

教育活動の概要

教育活動については、医学部から医学系研究科まで、「災害の科学」、「公衆衛生学」、「臨床推論・EBM演習・医療統計」、「巨大災害に対する健康と社会のレジリエンス(Health and social resilience for large-scale disaster)」、「ゲノム医学」、「疫学概論」、「分子疫学」、「Topics and Discussions(Precision Medicine and Risk Estimation of Multifactorial diseases)」、「社会医学」などの講義を行い、大学院生5名、医学部学生4名の指導を行った。

担当授業科目(他大学を含む)

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・学期	コマ数 90分/1コマ
1	災害の科学(災害の発生と波及)	東北大学	全学		1	2セメ	1
2	公衆衛生学	東北大学	医学部	医学科	3	通年	4
3	臨床推論・EBM演習・医療統計	東北大学	医学部	医学科	4	通年	4
4	巨大災害に対する健康と社会のレジリエンス(Health and social resilience for large-scale disaster)	東北大学	大学院医学系研究科	医科学専攻・公衆衛生学専攻 修士課程		後期	1
5	ゲノム医学	東北大学	大学院医学系研究科	医科学専攻・公衆衛生学専攻 修士課程		前期	1
6	疫学概論	東北大学	大学院医学系研究科	公衆衛生学専攻修士課程		前期	1
7	分子疫学	東北大学	大学院医学系研究科	公衆衛生学専攻修士課程		後期	8
8	Topics and Discussions(Precision Medicine and Risk Estimation of Multifactorial diseases)	東北大学	大学院医学系研究科				1
9	社会・環境医学	東北大学	大学院医学系研究科	医科学専攻博士課程(医学履修課程)		通年	1

D. 社会活動

社会活動の概要

学外での社会活動においては、公益財団法人宮城県対がん協会の宮城県新生物レジストリー委員会委員、独立行政法人国立成育医療研究センター成育医療研究開発費評価部会委員会委員、プライムアースEVエナジー株式会社及び株式会社ネクストール東北の産業医などを務めている。

講演・講義等(研究活動以外)

合計 2 件

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	連携	主催者	会場名	開催都市名	開催国名	参加人数
				開始年月日	終了年月日							
1	講演会	web講演会「震災被災と健康問題について」	講演	20201114	20201114	「三世代コホート調査の結果からみえてきたライプスにわたる震災後の健康課題」	なし	宮城県民主医療機関連合会	オンライン	仙台市	日本	80
2	講演会	加美町の健康データと生活習慣について	研修会	20201209	20201209	三世代コホート調査の結果からみえてきた加美町の健康と生活習慣	行政	加美町役場保健福祉課	中新田公民館	加美町	日本	60

自治体・民間等での委員

	区分	組織・団体名	委員会名	委員・役職名	開始年月日
1	その他	一般財団法人 宮城県公衆衛生協会	研修部門企画運営委員会	委員	20130401
2	その他	独立行政法人 国立成育医療研究センター	成育医療研究開発費評価部会委員会	委員	20140401
3	地方自治体	宮城県保健福祉部健康推進課がん対策班	宮城県がん登録情報利用権審議会	委員	20180701

# 藤井 進 准教授

## FUJII Susumu

災害医学研究部門 災害医療情報学分野

### A. 基本情報・略歴

#### 出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	産業能率大学	経営情報学部	1990	3	国立大学法人佐賀大学	医科学系医科学科	2016	4	博士(医学)	2016	4

#### 職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	1990	4	1990	9	帝人システムテクノロジー株式会社	エンジニア
2	1990	10	2004	5	電通工業株式会社	エンジニア
3	2004	6	2005	4	FFC(Freelance)	エンジニア
4	2005	5	2007	3	医療法人社団成仁	情報システム開発室室長
5	2007	4	2008	3	株式会社BMC	CEO
6	2008	4	2008	10	株式会社デインソフトウェア	開発部長
7	2008	11	2017	12	国立大学法人佐賀大学医学部附属病院 医療情報部	講師
8	2018	1	2019	3	久留米大学医学部 医療情報学寄付講座	准教授
9	2018	1	現在		慶応義塾大学大学院 政策メディア研究科	特任講師
10	2018	6	2021	3	国立病院機構九州医療センター	客員研究員
11	2019	4	2019	9	株式会社日本ユニシス ストラテジックアライアンス 特命推進室	SIP担当オブザーバー
12	2019	11	現在		国立大学法人東北大学災害科学国際研究所 災害医療情報学分野	准教授

#### 学会活動

##### 所属学会

	学会名 1	2	3
	日本医療情報学会	日本医療マネジメント学会	日本診療録学会

##### 学会・委員会等での役職

	学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
1	日本医療情報学会	評議員・個人情報保護・倫理委員会	評議員・委員	20150600
2	日本医療情報学会九州支部	九州支部幹事会	幹事	20150400

##### 研究分野・キーワード

	専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3	専門分野 4	専門分野 5
	医療情報学	災害医療情報学	医療経済学	医療経営学	医用システム

##### 委員会・ワーキンググループ

##### 全学・他部局の委員会での委員

	部局名	委員会名	役職	開始年月日
1	東北大学病院	BCP委員会	委員	20191100

### B. 研究活動

#### 研究活動の概要

医療情報を利用した個人向けBCPの在り方とPHRシステムの構築と利活用方法の研究。  
 民間企業との共同研究を開始し、初年度成果として特許出願を行った。またSIPにおけるAIホスピタルとの連携を推進し、厚生労働大臣と経産大臣の認可による技術組合の立ち上げとそれに参加するスキームを構築。  
 当該年度は東北大学着任の事実上の初年度として資金獲得並びに特許出願に重点をおいた。

#### 研究課題

	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	2012	4	現在		大規模医療情報データベース構築	国内
2	2012	4	現在		医療情報の標準化方法に関する研究	国内
3	2012	4	現在		医療情報のバリエーション手法に関する研究	国内
4	2012	4	現在		PHRシステム構築	国内
5	2019	4	現在		SIP:AIホスピタルでの医療におけるAI利用に関する研究	国内
6	2019	6	現在		個人向けBCPとPHR利用方法に関する研究	国内

著書(監修・編集・単著・共著)

監修	0	編集	0	筆頭共著	0	共著	2	合計	2	うち	国際	0	国内	2
----	---	----	---	------	---	----	---	----	---	----	----	---	----	---

記述言語	著書名および担当執筆題名	種別	発行年月日	著者・監修者氏名	区分	出版社名	所外連携	発行部数
1 日本語	データ駆動型医学研究のためのデータ標準化・品質管理のススメ	編集本(著者・Author)	20200925	執筆者:木村道男,川上純一,藤井進,康東大,増田智先,徳永章二,堀田多恵子,富士通株式会社,株式会社NTTデータ東海 編集者:中島直樹,山下貴範	共著	株式会社masterpeace	国外	
2 日本語	「災害と医療情報(診療記録)」(『東日本大震災からのスタート:災害を考えるS1のアプローチ』第39章, pp.159-162)	編集本(著者・Author)	20210311	藤井進, 中山雅晴 (東北大学災害科学国際研究所)	共著	東北大学出版会	国内	1400

特許・実用新案・その他の産業財産権(国内・海外)

合計	2 件
----	-----

種別	国内/国外	発明の名称	発明者(申請者)	出願番号(特願 or PCT)	出願日	公開番号	公開日	研究の成果	所外連携
1 特許	国内	データ構造、データ生成装置、その方法及びプログラム	藤井進	特許第6245571号		東北大学に特許の移転			国内
2 特許	国内	情報システム、情報処理方法及びコンピュータプログラム	藤井進	2021-051718	20210325			学内共同の成果	国内

学術会議・シンポジウム等の主催・共催・運営等

合計	1 件
----	-----

国内/国際	種別	主催団体名・運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場	開催都市名	開催国名	参加人数(うち外国人)	分野	担当	IRIDESの関与	共催機関名	所外連携
				開始年月	終了年月									
1 国際	シンポジウム	WADEM2020	WADEM Tokyo 2021(延期)	予定			tokyo	japan		臨床医学	プログラム委員会	なし		

C. 教育活動

教育活動の概要

医学部 医学情報学と連携し、医科学系分野で情報システム、災害対応を担当し講義や指導を行った。またIRIDESとして災害対応の講義を行った。

担当授業科目(他大学を含む)

科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	semester・学期	コマ数 90分/1コマ
1 医学情報学	東北大学	医学部	医科学科		後期	1
2 保健医療福祉情報ネットワーク論	東北大学	医学部	医科学科		後期	4
3 災害保健医療	東北大学	医学部	医科学科		前期	1
4 巨大災害に対する健康と社会のレジリエンス特論	東北大学	医学部	医科学科		後期	1
5 ヘルスケアデザイン	慶應義塾大学大学院		政策メディア研究科		前期	1

D. 社会活動

社会活動の概要

医療機関向けセミナーはコロナ禍事情で開催せず、企業向けに医療情報の利活用や医療経済を中心にセミナー活動を行った。

講演・講義等(研究活動以外)

合計	2 件
----	-----

学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	連携	主催者	会場名	開催都市名	開催国名	参加人数
			開始年月日	終了年月日							
1 セミナー	ヘルスケアシステムセミナー	講演	20200609	20200609	ヘルスケアシステムデザイン概論	企業	三菱UFJリース株式会社	オンライン			20
2 セミナー	病院経営セミナー	講演	20200731	20200731	病院経営セミナー	企業	三菱UFJリース株式会社	オンライン			20

その他、他機関等との交流実績(国内に限る)

合計	1 件
----	-----

交流機関名称	交流者	交流年月日	交流目的	会場名	開催都市名	主な担当内容	参加人数
1 NTT宇宙環境エネルギー研究所	複数名	2021015	その他	オンライン	東京	その他	20

# 柴山 明寛 准教授

## SHIBAYAMA Akihiro

情報管理・社会連携部門 災害アーカイブ研究分野

### A. 基本情報・略歴

#### 出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	東海大学	工学部	1999	3	工学院大学大学院	工学研究科	2006	3	博士(工学)	2006	3

#### 職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	2006	4	2007	3	東北大学大学院 工学研究科 附属災害制御研究センター	教育研究支援者
2	2007	4	2008	11	独立行政法人情報通信研究機構 情報通信セキュリティ研究センター 防災・減災基盤技術グループ	専攻研究員
3	2008	12	2012	3	東北大学大学院 工学研究科 附属災害制御研究センター	助教
4	2012	4	2012	5	東北大学 災害科学国際研究所 情報管理・社会連携部門 災害アーカイブ研究分野	助教
5	2012	6	現在		東北大学 災害科学国際研究所 情報管理・社会連携部門 災害アーカイブ研究分野	准教授

#### 学会活動

##### 所属学会

	学会名 1	2	3	4
	日本デジタルアーカイブ学会	日本建築学会	日本地震工学会	日本自然災害学会

##### 学会・委員会等での役職

	学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
1	日本自然災害学会	編集委員会	委員	20190000
2	デジタルアーカイブ学会	学会誌編集委員会	委員	20190000
3	京都大学防災研究所自然災害研究協議会		6号委員	20200401

##### 研究分野・キーワード

専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3	専門分野 4
災害情報学	地震工学	地域防災	建築工学

##### 委員会・ワーキンググループ

##### 全学・他部署の委員会での委員

	部局名	委員会名	役職	開始年月日
1	全学	災害対策推進室	副室長補	20130000
2	全学	研究推進・支援機構テクニカルサポートセンター運営委員会	委員	20170401
3	全学	情報システム	部局技術担当者	20120401
4	工学研究科建築学専攻	ネットワーク・ホームページ管理	委員	20080000
5	工学研究科建築学専攻	オープンキャンパス担当	委員	20200000

### B. 研究活動

#### 研究活動の概要

研究活動としては、東日本大震災アーカイブプロジェクト「みちのく震録伝」を中心的に実施し、東日本大震災デジタルアーカイブから自然災害デジタルアーカイブへの転換に関する研究を実施した。震災アーカイブの構築支援として、熊本大学や岐阜大学などの継続的に支援を行った。さらに、岩手県陸前高田市復興記念公園内の震災遺構などの施設関係の監修し、防災観光などの震災アーカイブの利活用などを研究を実施した。さらに、令和元年東日本台風の丸森町などの災害調査や支援なども実施をした。

#### 研究課題

	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	2017	4	現在		震災アーカイブから自然災害アーカイブへの転換に関する研究	両方
2	2017	4	現在		東日本大震災における防災観光に関する研究	両方
3	2018	4	現在		震災アーカイブの三者間連携システムの構築に関する研究	両方

論文

単著	0	筆頭共著	0	その他の共著	1	合計	1	うち	国際査読有	0	国際査読無	0	国内査読有	0	国内査読無	1
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

記述言語	区分	所外連携	国際学術誌	種別	査読	招待論文	論文題目名(原語)	著者氏名(共著者含)	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	
1	日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	無	いいえ	防災ワークショップを活用した災害写真の収集とデータベース化: 災害アーカイブの取り組みから	小山真紀, 柴山明寛, 平岡守, 荒川宏, 伊藤三枝子, 井上透, 村岡治道	デジタルアーカイブ学会誌	4	2	136	139	20200425

著書(監修・編集・単著・共著)

監修編集	0	単著	1	筆頭共著	0	共著	0	合計	1	うち	国際	0	国内	1
------	---	----	---	------	---	----	---	----	---	----	----	---	----	---

記述言語	著書名および担当執筆題名	種別	発行年月日	著者・監修者氏名	区分	出版社名	所外連携	発行部数
1	日本語 「アーカイブ学」(『東日本大震災からのスタート: 災害を考える51のアプローチ』第31章, pp.125-128)	編集本(著者・Author)	20210311	柴山明寛 (東北大学災害科学国際研究所)	単著	東北大学出版会		1400

総説・解説(大学紀要・学術雑誌・学会誌・商業雑誌など)

単著	6	筆頭共著	0	その他の共著	0	合計	6	うち	国際査読有	0	国際査読無	0	国内査読有	0	国内査読無	6
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

記述言語	題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	区分	所外連携	
1	日本語	特集: 災害に備える 災害記録を活かすためには	学術雑誌	無	はい	情報の科学と技術	70	9	458	463	20200901	柴山明寛	単著	なし
2	日本語	令和元年台風15号・19号(2)台風19号による丸森町の被災状況と課題	学術雑誌	無	はい	消防防災の科学		141	31	35	20200901	柴山明寛	単著	なし
3	日本語	【エッセイ】自然と共生するためには? ~防災研究者がやるべきこと~	その他	無	はい	月刊フェスク			40	42	20200501	柴山明寛	単著	なし
4	日本語	【防災見聞録】アーカイブ「みちのく震録伝」	その他	無	はい	月刊フェスク			32	35	20200901	柴山明寛	単著	なし
5	日本語	東日本大震災から10年 東日本大震災津波伝承館(いわてTSUNAMIメモリアル)	学術雑誌	無	はい	建築防災	518	41	45	20210301	柴山明寛	単著	国内	
6	日本語	犠牲者ゼロ目指し震災記録の発展を——デジタルアーカイブ「みちのく震録伝」の歩み	その他	無	はい	新聞研究	833			20210300	柴山明寛	単著	なし	

学会発表

単名	1	筆頭連名	0	その他の連名	1	合計	2
----	---	------	---	--------	---	----	---

国内国際	会議名称	会議のチェア	区分	招待	講演・発表の形態	会場名	開催都市名	開催国名	開催期間		発表年月日	題目名(原語)	連名者名(発表者に下線)	
									開始年月	終了年月				
1	国内	令和2年度東北地域災害科学研究集会	柴山明寛	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	オンライン	オンライン	日本	20201225	20201226	20201226	中国武漢における水害の発生原因と対策	周晋, 柴山明寛, 佐藤睦
2	国内	第116回日本精神神経学会学術総会		単名	いいえ	口頭(一般)	オンライン	オンライン	日本	20200928	20200930	20200929	災害情報のアーカイブ	柴山明寛

学術会議・シンポジウム等の主催・共催・運営等

合計	2件
----	----

国内国際	種別	主催団体名・運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場	開催都市名	開催国名	参加人数(名)	分野	担当	IRIDeSの関与	共催機関名	所外連携
				開始年月	終了年月									
1	国内	シンポジウム 東北大学災害科学国際研究所, 国立国会図書館	令和2年度東日本大震災アーカイブシンポジウム	20210111	20210111	東北大学災害科学国際研究所	仙台	日本	200	工学	幹事	IRIDeS主催・共同主催	国立国会図書館	国内
2	国内	研究会 自然災害研究協議会東北地区部会, 日本自然災害学会東北支部	令和2年度東北地域災害科学研究集会	20201225	20201226	オンライン	オンライン	日本	100	工学	運営	なし		国内

C. 教育活動

教育活動の概要

教育活動については、兼任である都市・建築学専攻の授業の実施を実施した。また、国際共同大学院の授業において、ハーバード大学との共同授業を実施した。
--

担当授業科目(他大学を含む)

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・学期	コマ数 90分/コマ
1	災害危機管理論	東北大学	工学研究科	建築学専攻	1	前期	6
2	海外研修	東北大学	災害科学・安全学国際共同大学院プログラム			後期	
3	災害アーカイブラボ	東北大学	変動地球共生学卓越大学院プログラム			後期	

D. 社会活動

社会活動の概要

令和元年東日本台風による被災にあった丸森町において、災害検証及び地域防災計画の改訂を実施した。震災記録関係については、北海道厚真町、岩手県、岩手県大船渡市、福島県大熊町などの支援を実施した。伝承関係については、岩手県東日本大震災津波伝承館及び復興記念公園内の震災遺構について展示作成支援を実施した。

一般向けセミナー・講演等の主催・共催・運営等(研究活動以外)

合計 3 件

	国内 国際	主催団体名・ 運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場名	開催 都市名	開催 国名	担当	参加 人数	IRIDeSの 関与	講演会・セミナー等	備考
				開始年月日	終了年月日								
1	国内	多賀城市、東北大学 災害科学国際研究 所	東日本大震災語りベンジウム「かたり つぎ in 多賀城市」	20210306	20210306	多賀城文化セ ンター	多賀城市	日本	実行委員長	400	IRIDeS主催・ 共同主催	シンポジウム	
2	国内	三陸&東海防災 フォーラム「伝」	第6回三陸&東海防災フォーラム「伝」	20201010	20201010	災害科学国際 研究所	仙台市	日本	運営	10	IRIDeS後援・ 名義後援	セミナー	みちのく震 録伝として の後援
3	国内	三陸&東海防災 フォーラム「伝」実 行委員会	第7回三陸&東海 防災フォーラム「伝」	20210207	20210207	ウイングあい ち及びオンライ ン	名古屋市	日本	運営	50	IRIDeS後援・ 名義後援	セミナー	みちのく震 録伝として の後援

講演・講義等(研究活動以外)

合計 20 件

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	連携	主催者	会場名	開催 都市名	開催 国名	参加人数
				開始年月日	終了年月日							
1	公開講座	Fw:東北 Fan Meeting [Vol.5] 東日本大震災を 伝える「みちのく震録伝」 ～日本の未来に伝えたい あなたの記憶は?～	招待講演	20200827	20200827	東日本大震災を伝える「みちのく震録伝」	行政	復興庁	オンライン	オンライン	日本	50
2	講演会	第3回 東北大学大学院医 学系研究科 公衆衛生看護 学分野 研究会	招待講演	20200917	20200917	実践に結びつける、震災データ活用	なし	東北大学大学院 医学系研究科 公衆衛生看護 学分野 研究会	オンライン	オンライン	日本	50
3	小中高との連携	岐阜県高山市東山中学 校	講義	20200923	20200923	災害から命を守るために必要なこと	小中高	岐阜県高山市 東山中学校	オンライン	オンライン	日本	100
4	講演会	兵庫県立教育研修所・防 災教育研修	講義	20201008	20201008	災害から命を守るために必要なこと	小中高	兵庫県立教育 研修所	兵庫県立教育 研修所	兵庫県 加東市	日本	150
5	セミナー	第6回 三陸&東海防災 フォーラム「伝」	招待講演	20201010	20201010	東日本大震災「みちのく震録伝」	なし	三陸&東海防災 フォーラム「伝」	災害研2階演 習室A	仙台市	日本	10
6	講演会	令和2年度岩手県図書館 職員・図書館協議会委員 合同研修会	基調講演	20201028	20201028	図書館における災害記録と伝承	なし	岩手県図書館 協会 岩手県教 育委員会	いわて県民情 報交流セン ター「アイーナ」	盛岡市	日本	40
7	公開講座	坂町地区自主防災会議 講話	招待講演	20201128	20201128	坂町地区自主防災会議講話	なし	丸森町金山地 区坂町自主防 災会	丸森町金山コ ミュニティセ ンター	丸森町	日本	50
8	公開講座	みやぎ防災フォーラム 2020 in 大崎	パネルディス カッションコー ディネーター	20201205	20201205	風水害から身を守るために地域でできること	行政	宮城県・大崎市	バレットおおさ き	大崎市	日本	100
9	講演会	岩手県自主防災組織リー ダー研修	招待講演	20201204	20201204	自主防災組織の重要性	行政	岩手県	オンライン	オンライン	日本	50
10	セミナー	次世代に“つなぐ”新しい 防災・復興ソリスムの確 立。～コロナ禍において震 災を風化させないために ～「防災・復興ソリスム」 オンラインセミナー	講演	20210118	20210118	「防災・復興ソリスム」とは	なし	観光庁 日本旅行	災害科学国際 研究所及びオ ンライン	仙台市	日本	40
11	講演会	矢巾町防災士フォロー アップ講座	招待講演	20210129	20210129	自主防災組織の重要性	行政	岩手県矢巾町	岩手県矢巾町	矢巾町	日本	50
12	講演会	第7回三陸&東海 防災 フォーラム「伝」	講演	20210207	20210207	東日本大震災から10年で残った教訓とは?	なし	三陸&東海防災 フォーラム「伝」 実行委員会	ウイングあい ち及びオンライ ン	名古屋市	日本	50
13	講演会	報道資料研究会	招待講演	20210203	20210203	東日本大震災から10年 震災とメディアのデジタルアーカイブについて	なし	日本新聞協会	オンライン	オンライン	日本	50
14	講演会	東日本大震災を忘れない つどい	招待講演	20210219	20210219	東日本大震災の教訓とは?	企業	日本生活協同 組合連合会	オンライン	オンライン	日本	300



15	セミナー	東日本大震災津波伝承館解説員研修会	招待講演	20210208	20210208	東日本大震災から10年	行政	岩手県 東日本大震災津波伝承館	東日本大震災津波伝承館	陸前高田市	日本	20
16	セミナー	次世代に“つなぐ”新しい防災・復興ツーリズムの確立へ～コロナ禍において震災を風化させないために～「防災・復興ツーリズム」オンラインセミナー	講演	20210225	20210225	「防災・復興ツーリズム」とは？およびその意義	なし	観光庁 日本旅行	災害科学国際研究所及びオンライン	仙台市	日本	50
17	その他	東日本大震災から10年の歩み	招待講演	20210301	20210301	東日本大震災から10年の歩み	行政	東北経済産業局	オンライン	オンライン	日本	150
18	講演会	東日本大震災語りベンチウム「かたりつぎ in 多賀城市」	講演	20210306	20210306	かたりつぎとは	なし	多賀城市 東北大学災害科学国際研究所	多賀城市文化センター	多賀城市	日本	400
19	講演会	東日本大震災から10年大船渡津波伝承館ウェブセミナー「未来への提言～奇跡の集落・吉浜に学ぶ～」	パネルディスカッションコーディネーター	20210307	20210307	津波伝承館からの提言④ 防災・減災パネルディスカッション	なし	一般社団法人 大船渡津波伝承館	オンライン	オンライン	日本	200
20	講演会	すくっぴーひろば【多賀城市子育てサポートセンター】	招待講演	20210318	20210318	多賀城市の防災について	行政	多賀城市	すくっぴーひろば【多賀城市子育てサポートセンター】	多賀城市	日本	20

自治体・民間等での委員

区分	組織・団体名	委員会名	委員・役職名	開始年月日
1 国・政府	国, 岩手県, 陸前高田市	高田松原津波復興祈念公園有識者懇談会	委員	20170401
2 地方自治体	岩手県	東日本大震災津波伝承館運営協議会	副会長	20190922
3 地方自治体	岩手県	自主防災組織活性化検討会議	委員	20170401
4 地方自治体	岩手県	東日本大震災津波関連行政文書保存検討委員会	委員	20200225
5 地方自治体	岩手県大船渡市	大船渡市防災観光交流センターアドバイザーボード	委員	20180000
6 地方自治体	岩手県大船渡市	(仮称)防災学習センター等整備検討官民会議	委員長	20190000
7 地方自治体	宮城県丸森町	丸森町防災計画改訂検討委員会	委員長	20200401
8 地方自治体	宮城県丸森町	丸森町復興推進委員会	副委員長	20200000
9 地方自治体	宮城県丸森町	丸森町令和元年台風19号災害検証委員会	委員長	20200000
10 地方自治体	福島県大熊町	大熊町アーカイブズ施設等整備検討委員会委員	委員	20200819

自治体・研究機関との協定締結実績

年月日	締結式会場	国内 海外	協定名称	締結機関	締結相手	期間	
						開始年月日	年数
1 20201109	岩手県庁舎・岩手県	国内	東北大学災害科学国際研究所と東日本大震災津波伝承館との連携に関する協定締結式	自治体	東日本大震災津波伝承館	20201109	1

その他、他機関等との交流実績(国内に限る)

合計 2 件

交流機関名称	交流者	交流年月日	交流目的	会場名	開催都市名	主な担当内容	参加人数
1 熊本大学	竹内 裕希子他	20201029	共同研究	災害科学国際研究所	仙台	その他	15
2 中部大学	終和佑他	20210301	共同研究	災害科学国際研究所	仙台	その他	5

## ゲルスタ ユリア 助教

## GERSTER Julia

情報管理・社会連携部門 災害アーカイブ研究分野

## A. 基本情報・略歴

## 出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	Freie Universitaet Berlin	B.A East Asian Studies/ Cultural Anthropology	2012	10	Freie Universitaet Berlin	Japanese Studies	2015	7	M.A	2016	1
2					Freie Universitaet Berlin	Japanese Studies	2019	2	Ph.D	2019	4

## 職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	2011	9	2015	9	“Lernwerk” 塾、ベルリン	先生
2	2012	3	2013	9	NHKベルリン支局	記者、編集スタッフ、アナウンサー
3	2014	8	2015	9	ベルリン自由大学、国際センター	Student Assistant、アジア留学プログラム担当
4	2019	1	2019	9	東北大学 災害アーカイブ	学術研究院
5	2019	10	現在		東北大学 災害アーカイブ	助教

## 学会活動

## 所属学会

	学会名 1	2	3	4
	European Association for Japanese Studies (EAJS)	Ernst-Reuter Gesellschaft	Japan Anthropology Association (JASCA)	Japan Anthropology Workshop (JAWS)

## 学会・委員会等での役職

	学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
1	ASIEN International Journal	German Association for Asian Studies	Editorial Board Member	20210101
2	Kataribe World Network	Kataribe World Network	Board Member	20200401

## 研究分野・キーワード

	専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3	専門分野 4	専門分野 5
	アイデンティティ、Collective Memory	コミュニティづくり	災害伝承	文化と復興	原子力災害

## 委員会・ワーキンググループ

## 全学・他部署の委員会での委員

	部局名	委員会名	役職	開始年月日
1	災害科学国際研究所	金曜フォーラムワーキンググループ	メンバー	20191001
2	災害文化アーカイブ研究分野	日本デジタルアーカイブ学会第6回研究大会実行委員会	実行委員	00000000
3	災害文化アーカイブ研究分野	地球システム・倫理学会 第17回学術大会 実行委員会	実行委員	00000000

## B. 研究活動

## 研究活動の概要

I continued research on collective memory on the GEJE. Research activities included the analysis of exhibitions at disaster museums and disaster heritage sites, interviews with local stakeholders such as survivors, residents, evacuees, exhibition planners, guides, kataribe, and museum principals. I further started analyzing the preservation process of disaster heritage sites and their promotion for disaster education and tourism. I joined several research groups on cultural memory and disasters in Japan that are preparing to publish the research results. First research results were presented at online international conferences and workshops.

## 研究課題

	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	2013	9	2019	10	SNSとフィールドワーク	両方
2	2015	10	現在		東日本大震災後、浪江町と名取市のコミュニティづくりの中のローカル的な文化の役割とつながりの変化	両方
3	2015	10	現在		災害リスクのコミュニケーション	両方
4	2016	4	2020	3	写真撮影を作った研究方法	両方
5	2019	10	現在		東日本大震災の伝承と負の遺産	両方
6	2019	3	現在		演劇と災害の伝承	両方
7	2019	10	現在		福島原発災害の伝承	両方
8	2020	1	現在		東日本大震災と総合的記憶	両方

論文

単著	0	筆頭共著	2	その他の共著	1	合計	3	うち	国際査読有	3	国際査読無	0	国内査読有	0	国内査読無	0
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

記述言語	区分	所外連携	国際学術誌	種別	査読	招待論文	論文題目名(原語)	著者氏名(共著者含)	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	
1	英語	筆頭共著	両方	はい	国際会議 Proceedings	有	いいえ	Kataritsugi: Storytelling as a method in disaster risk education.	Gerster Julia, Shibayama Akihiro and Ono Madoka					20200917	
2	英語	共著	両方	はい	国際会議 Proceedings	有	いいえ	Social lives of Tsunami Walls in Japan: Concrete Culture, Social Innovation and Coastal Communities.	Boret, Sebastien and Gerster Julia					20210112	
3	英語	筆頭共著	国外	はい	学術雑誌	有	いいえ	Picturing Translocal Matters in a Mobile World. Photography as a method of ethnographic research at a Japanese gathering in Berlin.	Gerster Julia and Natalia Morokhova	Contemporary Japan.	32	2	150	137	20200402

著書(監修・編集・単著・共著)

監修編集	0	単著	1	筆頭共著	0	共著	0	合計	1	うち	国際	1	国内	0
------	---	----	---	------	---	----	---	----	---	----	----	---	----	---

記述言語	著書名および担当執筆題名	種別	発行年月日	著者・監修者氏名	区分	出版社名	所外連携	発行部数	
1	英語	Chapter 12.3. Coding: Mapping the mountains of ethnographic post-disaster data, in: 335-338 (Studying Japan. Research Designs, Fieldwork and Methods.)	編集本(著者・Author)	2020.12.17	Gerster, Julia	単著	Baden-Baden, Nomos:	国外	

学会発表

単名	7	筆頭連名	1	その他の連名	1	合計	9
----	---	------	---	--------	---	----	---

国内国際	会議名称	会議のチエア	区分	招待	講演・発表の形態	会場名	開催都市名	開催国名	開催期間		発表年月日	題目名(原語)	連名者名(発表者に下線)	
									開始年月	終了年月				
1	国際	Borders of Memory Workshop	Edward Boyle	筆頭連名	いいえ	公募/シンポジウム・ワークショップ・パネル	九州大学・オンライン	福岡	日本	20200731	20200801	20200731	Framing negative heritage in disaster risk education: school memorials after 3.11	Gerster Julia, and Fulco Flavia
2	国際	International Kamishibai Festival Piran	Jelena Sitar, Igor Cvetko	単名	はい	口頭(招待)	Piran, Online	Piran	スロベニア	20200820	20200823	20200823	Kamishibai after the Great East Japan Earthquake, Tsunami, and Nuclear Disaster. Dealing with traumatic experiences through art	Gerster Julia
3	国際	Association of Asian Studies in Asia Conference	Joseph Haldane, Christine R. Yano	単名	いいえ	公募/シンポジウム・ワークショップ・パネル	神戸大学・オンライン	神戸	日本	20200831	20200904	20200902	Varieties of Justice and Hierarchies of Affectedness	Gerster Julia
4	国内	総務省の外郭団体のシンポジウム	Yanai Masaya	単名	はい	口頭(招待)	地域活性化センター	青森	日本	20200918	20200918	20200918	地方を元気に。ドイツのリンダウ市の事例	Gerster Julia
5	国際	Learning from disasters for a resilient society: Experiences from the Great East Japan earthquake and tsunami and COVID-19 pandemic. Berlin Science Week	Imamura Fumihiko, Uppasri Anawat, Chen I.Ching, Gerster Julia, Maeda Yoshiaki	単名	はい	指名/シンポジウム・ワークショップ・パネル	ベルリン、オンライン	ベルリン	ドイツ	20201101	20201110	20201102	School Memorials and disaster risk education after the 2011 Great East Japan Earthquake.	Gerster Julia
6	国内	第6回東北大学若手研究者アンサンブルワークショップ	Hiroyuki Kai	その他の連名	はい	ポスター(一般)	東北大学、オンライン	仙台	日本	20210222	20210222	20210222	東日本大震災から10年・ジェンダー平等と多様性の視点から見た災害伝承の課題と可能性	Lee, Sunhee; Ogawa, Mariko; Sakaguchi, Naotaka; Gerster, Julia, Delaney, Alyne
7	国際	Remembering the 3.11 triple disasters in Japan	Cornelia Reiher, Julia Gerster	単名	はい	口頭(Plenary)	ベルリン自由大学、東北大学、オンライン	ベルリン、仙台	ドイツ、日本	20210225	20210225	20210225	Ten years after the Great East Japan Earthquake, tsunami and nuclear disaster. On a decade of recovery and the current situation in Tohoku.	Gerster Julia
8	国際	A decade to the Great East Japan Earthquake	Rotem Kowner	単名	はい	口頭(招待)	Haifa University,		イスラエル	20210311	20210311	20210311	Kizuna: Implications of Branding Social Cohesion After the Great East Japan Earthquake	Gerster Julia
9	国際	Continuity and Change ten years after 3.11. VSJF annual conference,	Florentine Koppenborg, Anna Wiemann, Tobias Weiss	単名	はい	口頭(招待)	JDZB Berlin, オンライン	Berlin	ドイツ	20210319	20210319	20210319	Institutionalization and Representations of Disaster Memory in Tohoku: Disaster Museums and Exhibitions on the Great East Japan Earthquake, Tsunami, and Nuclear Disaster	Gerster Julia

学術会議・シンポジウム等の主催・共催・運営等

合計 5 件

	国内 国際	種別	主催団体名・運営 団体名等	イベント名称	開催期間		会場	開催 都市名	開催 国名	参加人数 (うち外国人)	分野	担当	IRIDeSの 関与	共催機関名	所外 連携
					開始年月	終了年月									
1	国内	研究会	金曜フォーラムワー キングスグループ	被災地のバトン・支援の継承～令 和元年東日本台風から1年～	20201002	20201002	Tohoku University, Online	Sendai	Japan	70	人文社 会系	Organizing Committee	IRIDeS主催・共同 主催	IRIDeS	
2	国際	シンポジウム	International Research Institute of Disaster Science (IRIDeS), Tohoku University & Harvard University	Teaching the Japan Disasters Digital Archive. Perspectives from Japan.	20201209	20201209	Harvard University, Online	Boston	USA	60	人文社 会系	Organizing Committee	IRIDeS主催・共同 主催	Harvard University	
3	国際	講演会	International Research Institute of Disaster Science (IRIDeS), Tohoku University & Free University Berlin	Learning from disasters for a resilient society: Experiences from the Great East Japan earthquake and tsunami and COVID-19 pandemic. Berlin Science Week	20201102	20201102	Tohoku University, Online	Sendai, Berlin	Japan, Germany	200	人文社 会系	Organizing Committee	IRIDeS主催・共同 主催	Freie Universitaet Berlin	
4	国際	ワークショップ	International Research Institute of Disaster Science (IRIDeS), Tohoku University & Free University Berlin	Remembering the 3.11 triple disasters in Japan	20210225	20210225	Freie Universitaet Berlin, Online	Sendai, Berlin	Japan, Germany	80	人文社 会系	Organizing Committee	IRIDeS主催・共同 主催	Freie Universitaet Berlin	
5	国内	シンポジウム	若手アンサンブル、 ジェンダと多様性研 究グループ	記憶する、伝える、繋がる ～東日 本大震災から10年後の災害伝承に おける多様性と男女共同参画～	20210227	20210227	IRIDeS, Online	Sendai	Japan	70	人文社 会系	Organizing Committee	IRIDeS主催・共同 主催	Tohoku University	

C. 教育活動

教育活動の概要

From October to December 2020, I instructed a seminar on the usage of the Japan Disasters Digital Archive in preparation for the Harvard RIJS JDA Workshop. From December 2020 to February 2021, I co-instructed a seminar and a translation workshop on the 3.11 disasters with students of Free University Berlin. I further taught a Masterclass on the 3.11 disasters told through Kamishibai at the International Kamishibai Festival in Piran, Slovenia (Online).

担当授業科目(他大学を含む)

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・ 学期	コマ数 90分/コマ
1	Teaching the Japan Disaster Digital Archive	東北大学、ハーバード大学	GPRSS, SYDE, Disaster Digital Archive	Disaster Digital Archive Studies		前期	12
2	Remembering the 3.11 triple disasters. Translation Workshop, learning from survivor stories	Freie Universitaet Berlin	Japan Studies, Freie Universitaet Berlin	Japan Studies		後期	12

D. 社会活動

社会活動の概要

I held several open seminars and presentations on disasters and Japan for an open public and disseminated information about the recovery status of Tohoku through domestic news and news abroad.

一般向けセミナー・講演等の主催・共催・運営等(研究活動以外)

合計 3 件

	国内 国際	主催団体名・ 運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場名	開催 都市名	開催 国名	担当	参加 人数	IRIDeSの 関与	講演会・セミナー等
				開始年月日	終了年月日							
1	国際	SLOGI	Masterclass: The Power of Kamishibai Masterclass of the 3rd International Kamishibai Festival White Dolphin	20200820	20200823	Online	Piran	Slovenia	発表	200	なし	講演会
2	国内	地域づくり団体全国 協議会	地域づくりコーディネーター研修会「豊 かな中山間地域が出現しつつある！ー Hintは健康、スポーツ、起業ー」 令和2年9月18日(金) 青森県観光物産館 アスバム6階八甲田 《主催》地域づくり団体全国協議会 《後援》総務省 ー	20200918	20200919	青森県観光物 産館 アスバム	Aomori	Japan	発表	20	なし	講演会
3	国際	IRIDeS	Sanriku Tsunami Webinar	20201200	20201200	Online	Rikuzenta kata	Japan	Comment	Youtube	IRIDeS主催・ 共同主催	セミナー

# 佐藤 健 教授

## SATO Takeshi

情報管理・社会連携部門 災害復興実践学分野

## A. 基本情報・略歴

出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	豊橋技術科学大学	建設工学課程	1987	3	東北大学大学院	工学研究科	1989	3	修士(工学)	1989	3

## 職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	1989	4	1994	3	株式会社フジタ 建築設計部	研究
2	1994	4	1996	3	株式会社フジタ 技術研究所	研究
3	1996	4	1997	3	宮城工業高等専門学校建築学科	助手
4	1997	4	1999	3	宮城工業高等専門学校建築学科	講師
5	1999	4	2001	3	宮城工業高等専門学校建築学科	助教授
6	2001	4	2007	3	東北大学大学院工学研究科	講師
7	2007	4	2012	3	東北大学大学院工学研究科	准教授
8	2012	4	現在		東北大学災害科学国際研究所	教授
9	2012	4	現在		静岡大学防災総合センター	客員教授
10	2012	4	現在		大阪教育大学学校危機メンタルサポートセンター	共同研究員
11	2019	6	現在		宮城教育大学防災教育研修機構	客員教授

## 学会活動

所属学会

	学会名 1	2	3	4	5	6	7	8
	日本建築学会	日本自然災害学会	日本安全教育学会	日本災害医学会	日本地震工学会	地域安全学会	日本災害情報学会	歴史地震研究会

## 学会・委員会等での役職

	学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
1	日本安全教育学会		常任理事	20110000
2	日本建築学会東北支部	災害調査連絡会	委員長	20170000
3	日本自然災害学会		評議員	20200400

## 研究分野・キーワード

	専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3
	自然災害科学	地震工学	安全教育学

## 委員会・ワーキンググループ

全学・他部局の委員会での委員

	部局名	委員会名	役職	開始年月日
1	全学	災害対策推進室	副室長(総長特別補佐)	20140400
2	工学部・工学研究科	入試広報企画室 運営委員会	委員	20160400
3	工学部	入試検討委員会	委員	20160400
4	工学部 人間・環境系	学部入試委員会	委員	20140400
5	工学研究科 都市・建築学専攻	入学試験実施本部	委員	20160400
6	工学研究科 都市・建築学専攻	将来計画タスクフォース	委員	20160400
7	青葉工学振興会		監事	20190613
8	青葉工業会		常任理事(災害研)	20170000
9	工学部・工学研究科	低温センター運営委員会	委員	20200400

## B. 研究活動

研究活動の概要

自然科学と社会科学の融合に基づいた防災教育モデルの開発、被災地における復興教育モデルの実践、防災教育支援システムの開発など、都市・建築学を基盤とし周辺学問領域との学際的研究に取り組んでいる。

研究課題

	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	2012	4	現在		復興教育モデルの開発と実践	国内
2	2012	4	現在		東日本大震災における避難者の発生と推移に関する空間分析	国内
3	2011	4	現在		東日本大震災における学校の被害と対応に関する調査研究	国内
4	2012	4	現在		学校防災に関する研究	国内

論文

単著	1	筆頭共著	3	その他の共著	9	合計	13	うち	国際査読有	4	国際査読無	0	国内査読有	3	国内査読無	6
----	---	------	---	--------	---	----	----	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

記述言語	区分	所外連携	国際学術誌	種別	査読	招待論文	論文題目名(原語)	著者氏名(共著者含)	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日
日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	無	いいえ	LocalWikiを活用した地域版防災教育サイトの作成 その2 2019年台風19号時の仙台市福住町の防災行動	草野 敏夫、森 太郎、 <u>定池 祐季</u> 、 <u>佐藤 健</u>	日本建築学会北海道支部研究報告集(93)			337	340	20200600
英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Impact evaluation of a school-based disaster education program in a city affected by the 2011 great East Japan earthquake and tsunami disaster	<u>Aiko Sakurai</u> , <u>Takeshi Sato</u> , <u>Yoshiyuki Murayama</u>	International Journal of Disaster Risk Reduction	47				20200800
日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	有	いいえ	教員の地図リテラシー育成とハザード理解に向けた学校防災研修－宮城県石巻市における試行から－	小田隆史、 <u>桜井愛子</u> 、村山良之、 <u>佐藤 健</u> 、北浦早苗、加賀谷 碧	安全教育学研究	20	1	27	36	20200900
日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	有	いいえ	津波記録を活用した被災地の学校での防災教育－災害伝承と命を守る防災教育の推進に向けて－	<u>桜井愛子</u> 、 <u>佐藤 健</u> 、北浦早苗、村山良之、 <u>柴山明寛</u>	防災教育学研究	1	1	53	65	20200900
日本語	単著	国内	いいえ	学術雑誌	無	いいえ	持続可能な防災まちづくりと防災人材育成に関する研究～コミュニティ・スクールを核とした防災まちづくり～	<u>佐藤 健</u>	第57回自然災害科学総合シンポジウム講演論文集			53	58	20200900
日本語	筆頭共著	国内	いいえ	学術雑誌	無	いいえ	仙台市の「がんばる避難施設」の有効性と可能性	<u>佐藤 健</u> 、 <u>桜井愛子</u> 、 <u>定池祐季</u>	日本安全教育学会第21回静岡大会プログラム・予稿集			56	57	20201000
日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	無	いいえ	山形県の学校における令和2年7月豪雨災害時の対応	村山良之、 <u>佐藤 健</u> 、 <u>桜井愛子</u> 、北浦早苗、小田隆史、林田由那、熊谷 誠	東北地理学会2020年度秋季学術大会発表要旨					20201000
英語	筆頭共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Sustainable Community Development for Disaster Resilience Using the Fukuzumi-Machi Method and Human Resources Development for Disaster Risk Reduction	<u>Takeshi Sato</u> , <u>Aiko Sakurai</u> , <u>Yuki Sadaike</u> , <u>Yukiko Ouchi</u> , <u>Yasuo Sugawara</u>	Journal of Disaster Research	15	7	919	930	20201200
英語	筆頭共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Sustainable Community Development for Disaster Resilience and Human Resources Development for Disaster Risk Reduction – Growth and Community Contribution of the Katahira Children’s Board for Community Development –	<u>Takeshi Sato</u> , <u>Aiko Sakurai</u> , <u>Yuki Sadaike</u> , <u>Risa Yanagiya</u> , and <u>Hitoshi Konno</u>	Journal of Disaster Research	15	7	931	942	20201200
日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	無	いいえ	LocalWikiを利用した防災教育情報のアーカイブ 2019年台風19号時の防災行動	森 太郎、 <u>定池祐季</u> 、 <u>佐藤健</u> 、草野敏夫	2020年地域安全学会梗概集	46		147	150	20200000
英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Linking geomorphological features and disaster risk in a school district: The development of an in-service teacher training programme	<u>Aiko Sakurai</u> , <u>Takashi Oda</u> , <u>Yoshiyuki Murayama</u> , <u>Takeshi Sato</u>	IOP Conference Series: Earth and Environmental Science			630		20210000
日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	無	いいえ	地形とハザードマップに関するオンライン教員研修	村山良之、 <u>桜井愛子</u> 、 <u>佐藤 健</u> 、北浦早苗、小田隆史、熊谷 誠	日本地理学会発表要旨集2021S			103	103	20210300
日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	有	いいえ	宮城県の学校における避難訓練の評価手法の開発に向けた実践報告	林田由那、戸田芳雄、 <u>佐藤健</u>	安全教育学研究	20	2	39	50	20210300

著書(監修・編集・単著・共著)

監修	0	編集	0	単著	1	筆頭共著	0	共著	1	合計	2	うち	国際	0	国内	2
----	---	----	---	----	---	------	---	----	---	----	---	----	----	---	----	---

記述言語	著書名および担当執筆題名	種別	発行年月日	著者・監修者氏名	区分	出版社名	所外連携	発行部数
日本語	「教師のための防災学習帳」第7章 学校と家庭・地域との連携・協働の仕組みづくり	単行本	20210301	小田隆史、林田由那、村山良之、松多信尚、齊藤 玲、 <u>邑本俊亮</u> 、 <u>桜井愛子</u> 、 <u>佐藤 健</u> 、森本晋也、諏訪清二	共著	朝倉書店	国内	
日本語	「コミュニティの防災」(『東日本大震災からのスタート:災害を考える51のアプローチ』第30章, pp.121-124)	編集本(著者・Author)	20210311	<u>佐藤健</u> (東北大学災害科学国際研究所)	単著	東北大学出版会	国内	1400

総説・解説(大学紀要・学術雑誌・学会誌・商業雑誌など)

単著	1	筆頭共著	0	その他の共著	4	合計	5	うち	国際査読有	0	国際査読無	0	国内査読有	0	国内査読無	5
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

記述言語	題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	区分	所外連携	
1	日本語	国際都市新宿区の成城学校避難所地域住民にむけた新型コロナウイルスCOVID-19予防疫	学術雑誌	無	いいえ	地域ケアリング	22	4	68	73	20200400	坪内暁子, 内藤俊夫, 佐藤 健, 佐々木宏之, 全村文彦, 仲田悦教, Chia-Kwung Fan, 奈良武司	共著	両方
2	日本語	国際都市新宿区の成城学校避難所地域住民にむけた新型コロナウイルスCOVID-19予防疫(続報)	学術雑誌	無	いいえ	地域ケアリング	22	6	72	75	20200600	坪内暁子, 内藤俊夫, 佐藤 健, 佐々木宏之, 全村文彦, 仲田悦教, Chia-Kwung Fan, 奈良武司	共著	両方
3	日本語	気候変動で高まる災害リスク:感染症教育と災害教育の重要性	学術雑誌	無	いいえ	アグリバイオ	4	9	71	76	20200600	坪内暁子, 内藤俊夫, 佐藤 健, 佐々木宏之, 全村文彦, 仲田悦教, 范家望, 奈良武司	共著	両方
4	日本語	災害時の避難施設となる学校が受ける影響	学術雑誌	無	はい	独立行政法人教職員支援機構メールマガジン	145				20200900	佐藤 健	単著	なし
5	日本語	国際都市新宿区の成城学校避難所地域住民にむけた新型コロナウイルスCOVID-19予防疫(No.3)	学術雑誌	無	いいえ	地域ケアリング	23	2	42	45	20210200	坪内暁子, 内藤俊夫, 佐藤 健, 佐々木宏之, 全村文彦, 仲田悦教, 范家望, 奈良武司	共著	両方

学会発表

単名	2	筆頭連名	2	その他の連名	5	合計	9
----	---	------	---	--------	---	----	---

	国内国際	会議名称	会議のチュア	区分	招待	講演・発表の形態	会場名	開催都市名	開催国名	開催期間		発表年月日	題目名(原語)	連名者名(発表者に下線)
										開始年月	終了年月			
1	国内	第46回(2020年度)地域安全学会春季研究発表大会		その他の連名	いいえ	口頭(一般)	オンライン		日本	20200523	20200523	20200523	LocalWikiを利用した防災教育情報のアーカイブ 2019年台風19号時の防災行動	森 太郎, 定池祐季, 佐藤 健, 草薙敏夫
2	国内	第57回自然災害科学総合シンポジウム		単名	いいえ	口頭(一般)	オンライン		日本	20200901	20200901	20200901	持続可能な防災まちづくりと防災人材育成に関する研究～コミュニティ・スクールを核とした防災まちづくり～	佐藤 健
3	国内	日本安全教育学会第21回静岡大会		筆頭連名	いいえ	口頭(一般)	オンライン		日本	20201010	20201011	20201011	仙台市の「がらがる避難施設」の有効性と可能性	佐藤 健, 桜井愛子, 定池祐季
4	国内	東北地理学会2020年度秋季学術大会		その他の連名	いいえ	口頭(一般)	オンライン		日本	20201010	20201010	20201010	山形県の学校における令和2年7月豪雨災害時の対応	村山良之, 佐藤 健, 桜井愛子, 北浦早苗, 小田隆史, 林田由那, 熊谷 誠
5	国内	令和2年度日本安全教育学会第5回WEB研修会		単名	いいえ	口頭(一般)	オンライン		日本	20201031	20201031	20201031	「地球規模の視点で災害のメカニズムを解明し、国境、文化を超えて世界の災害軽減に貢献する～東北大学による災害科学国際研究所の活動～」	佐藤 健
6	国内	令和2年度東北地域災害科学研究会学術講演会		その他の連名	いいえ	口頭(一般)	オンライン		日本	20201225	20201226	20201225	令和2年7月豪雨災害時の学校の対応ー山形県内小中学校ー	村山良之, 佐藤 健, 桜井愛子, 北浦早苗, 小田隆史, 林田由那, 熊谷 誠
7	国内	日本学術会議主催学術フォーラム・第11回防災学術連携シンポジウム 東日本大震災からの十年とこれからー58学会、防災学術連携体の活動ー		筆頭連名	いいえ	口頭(一般)	オンライン		日本	20210114	20210114	20210114	東日本大震災発生後の学校安全の推進に関する研究と実践	佐藤 健, 藤岡達也, 矢崎良明, 戸田芳雄
8	国内	令和2年度日本安全教育学会第8回WEB研修会		その他の連名	いいえ	口頭(一般)	オンライン		日本	20210313	20210313	20210313	「防災教育国際協働センターを核とした地域に根ざした防災教育の推進ー石巻モデルの開発と展開ー」	桜井愛子, 佐藤 健
9	国内	日本地理学会2021年春季学術大会		その他の連名	いいえ	口頭(一般)	オンライン		日本	20210326	20210328	20210326	地形とハザードマップに関するオンライン教員研修	村山良之, 桜井愛子, 佐藤 健, 北浦早苗, 小田隆史, 熊谷 誠

学術会議・シンポジウム等の主催・共催・運営等

合計 1 件

国内 国際	種別	主催団体名・運営 団体名等	イベント名称	開催期間		会場	開催 都市名	開催 国名	参加人数 (6名未満)	分野	担当	IRiDeSの 関与	共催機関名	所外 連携	
				開始年月	終了年月										
1	国内	その他	日本安全教育学会	日本安全教育学会「東日本大震災10周年メモリアル行事」第8回WEB研修会	20210313	20210313	災害科学国際研究所	仙台市	日本		人文社会系		IRiDeS共催	日本安全教育学会	国内

C. 教育活動

教育活動の概要

東日本大震災発生時における避難者数の空間分析、都市部における避難抑制効果の評価、福祉避難所に関する防災上の課題等について学生の研究指導を行っている。

担当授業科目(他大学を含む)

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・ 学期	コマ数 90分1コマ
1	地震と建築	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	3	5セメ	6
2	構造動力学	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	4	7セメ	
3	災害危機管理論	東北大学	工学研究科	都市・建築学専攻			6
4	建築構造工学特論	東北大学	工学研究科	都市・建築学専攻			1
5	建築防災学	静岡大学		ふじのくに防災フェロー養成講座			
6	地域防災論 I	東北福祉大学		地域減災論			
7	学校防災教育概論	宮城教育大学			2		1

D. 社会活動

社会活動の概要

コミュニティベースの地域防災と学校防災の融合に関する実践と学校教育、生涯学習等の場面における防災啓発に取り組んでいる。

一般向けセミナー・講演等の主催・共催・運営等(研究活動以外)

合計 7 件

国内 国際	主催団体名・ 運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場名	開催 都市名	開催 国名	担当	参加 人数	IRiDeSの 関与	講演会・セミナー等	備考	
			開始年月日	終了年月日									
1	国内	宮城県教育委員会 防災教育国際協 働センター	令和2年度「未来へつなぐ学校と地域の 安全フォーラム」	20201100	20201100	オンライン	仙台市	日本	実行委員	597	IRiDeS主催・ 共同主催	その他	
2	国内	宮城県危機対策課 /災害科学国際研 究所	令和2年度防災スペシャリスト養成「地域 研修」	20201105	20201105	オンライン	仙台市	日本	運営委員	61	IRiDeS主催・ 共同主催	セミナー	
3	国内	宮城県教育委員会	災害時学校支援チームみやぎ養成研修 会	20200818	20200818	石巻市河北総 合センター	石巻市	日本	運営委員	43	IRiDeS共催	セミナー	
4	国内	石巻市教育委員会 /災害科学国際研 究所	第4回石巻市復興・防災マップコンクール	20210120	20210120	石巻市防災セ ンター	石巻市	日本	運営委員		IRiDeS共催	その他	表彰式は COVID-19 のため中 止、受賞 作品のみ 決定
5	国内	宮城県危機対策課 /災害科学国際研 究所	【第3期】宮城県自主防災組織育成・活 性化支援モデル事業成果報告会	20210210	20210210	災害科学国際 研究所	仙台市	日本	運営委員	42	IRiDeS共催	その他	オンライン 参加:17
6	国内	宮城県教育委員会	災害時学校支援チームみやぎフォロー アップ講習会	20210217	2021.2.17	宮城県庁	仙台市	日本	運営委員	26	IRiDeS共催	セミナー	
7	国内	大阪教育大学	第1回学校安全推進センターフォーラム	20210302	20210302	大阪教育大学	大阪市	日本	運営委員	50	IRiDeS後援・ 名義後援	その他	オンライン 参加:80

講演・講義等(研究活動以外)

合計 10 件

学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	連携	主催者	会場名	開催 都市名	開催 国名	参加人数	
			開始年月日	終了年月日								
1	講演会	令和2年度「地域と共に 創る放射線・防災教育推 進事業」地区別研究協 議会	講演	20200820	20200820	「地元学こそ防災教育～土地に根ざした学 びの魅力と波及効果～」	行政	福島県教育 委員会	福島県環境 創造セン ター交流館 「コミュタン福 島」	三春町	日本	105
2	講演会	内閣府防災スペシャリス ト養成研修 第1期「災害 への備え」コース	講演	20200921	20201004	「防災教育・災害教訓の伝承」	行政	内閣府	オンライン		日本	54



3	小中高との連携	令和2年度「地域と共に創る放射線・防災教育推進事業」防災教育実践協力校講演会	講演	20201126	20201126	「地元学こそ防災教育～地域の自然や社会を学び、地域の災害リスクを知る～」	小中高	江川小学校	江川小学校	下郷町	日本	40
4	セミナー	サロンde防災	講演	20201118	20201118	「地名と災害リスク」	企業	NPO法人防災白熱アカデミー	オンライン		日本	10
5	セミナー	令和2年度学校安全指導者養成研修	講演	20201110	20201217	「災害安全」	行政	独立行政法人教職員支援機構	オンライン		日本	252
6	講演会	WEBシンポジウム「災害研の減災デザイン・実装の成果と活動の展望」	講演	20201130	20201130	「人材育成」	なし	東北大学災害科学国際研究所	オンライン	仙台市	日本	100
7	セミナー	第1回災害対応空間の設営・運営に関する研究会	講演	20201226	20201226	「避難所と学校ー仙台市の「がんばる避難施設」とその整備状況ー」	なし	東北大学災害科学国際研究所国際防災戦略研究分野	東北大学災害科学国際研究所	仙台市	日本	20
8	公開講座	わかまち防災減災実践講座④	講演	20201205	20201205	「災害時の避難行動を考える」	なし	太白区中央市民センター	太白区中央市民センター	仙台市	日本	30
9	講演会	内閣府防災スペシャリスト養成研修 第2期「災害への備え」コース	講演	20210125	20210207	「防災教育・災害教訓の伝承」	行政	内閣府	オンライン		日本	50
10	講演会	災害科学国際研究所シンポジウム「東日本大震災から10年とこれから」	講演	20210307	20210307	第1部 災害研設立後の実績と今後10年④教育・情報	なし	東北大学災害科学国際研究所	仙台国際センター／オンライン	仙台市	日本	194

自治体・民間等での委員

区分	組織・団体名	委員会名	委員・役職名	開始年月日
1	国・政府 内閣府	防災教育チャレンジプラン実行委員会	委員	20150623
2	地方自治体 石巻市	石巻市学校防災推進会議	委員長	20150428
3	地方自治体 仙台市	仙台市社会福祉整備審議会	副会長	20200900
4	民間・NPO NPO法人防災白熱アカデミー	NPO法人防災白熱アカデミー	理事	20140000
5	地方自治体 宮城県	宮城県行政評価委員会	委員	20170401
6	地方自治体 宮城県	宮城県行政評価委員会政策評価部会	部会長	20180401
7	地方自治体 宮城県	宮城県行政評価委員会政策評価第3分科会	分科会長	20180401
8	その他 宮城県多賀城高等学校	スーパーサイエンスハイスクール運営指導委員会	委員長	20180000
9	地方自治体 仙台市	仙台市役所本庁舎建替基本計画検討委員会	副委員長	20181000
10	地方自治体 宮城県	未来へつなぐ学校と地域の安全フォーラム実行委員会	委員	20180400
11	地方自治体 宮城県	学校安全総合支援事業 推進委員会	委員	20190700
12	地方自治体 仙台市	令和2年度災害に強いコミュニティのための市民フォーラム実行委員会	委員	20190401
13	地方自治体 仙台市	仙台版防災教育副読本作成委員会	編集アドバイザー	20190000
14	地方自治体 宮城県	宮城県国土強靱化地域計画	アドバイザー	20200800
15	その他 大阪府立箕面支援学校	防災に関するアドバイザー	アドバイザー	20201116
16	地方自治体 岩手県	岩手県自主防災組織活性化検討会議	委員	20170000

その他、他機関等との交流実績（国内に限る）

合計	1 件
----	-----

交流機関名称	交流者	交流年月日	交流目的	会場名	開催都市名	主な担当内容	参加人数
1 一般社団法人防災教育普及協会	澤野次郎	20210313	その他	東北大学災害科学国際研究所	仙台市	運営	20

## 平野 勝也 准教授

### HIRANO Katsuya

情報管理・社会連携部門 災害復興実践学分野

#### A. 基本情報・略歴

##### 出身大学・大学院

No.	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	東京大学	工学部	1991	3	東京大学大学院	工学系研究科	1993	3	博士(工学)	2000	2

##### 職歴

No.	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	1993	4	1994	3	北海道開発局 札幌開発建設部 札幌道路事務所 工事一課 工務二係	係員
2	1994	4	1995	1	北海道開発局 石狩川開発建設部 札幌河川事務所 工務一課 計画係	係員
3	1995	2	2001	8	東北大学 工学部 土木工学科	助手
4	2000	2	2000	12	英国マンチェスター大学 人文学部 計画・造園学科	客員研究員
5	2001	9	2008	3	東北大学 大学院 情報科学研究科 人間社会情報科学専攻	講師
6	2008	4	2012	3	東北大学 大学院 情報科学研究科 人間社会情報科学専攻	准教授
7	2012	4	現在		東北大学 災害科学国際研究所 情報管理・社会連携部門	准教授

##### 学会活動

##### 所属学会

学会名 1	2	3
土木学会	日本都市計画学会	造園学会

##### 学会・委員会等での役職

No.	学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
1	土木学会	土木計画学委員会・海岸工学委員会 減災アセスメント小委員会	委員	20140000
2	土木学会	遺産土木遺産選考委員会	委員	20170000
3	土木学会	東北支部 遺産土木遺産選考委員会	委員	20010000
4	土木学会	景観・デザイン委員会	幹事長	20200000

##### 研究分野・キーワード

専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3
都市景観	土木デザイン	復興まちづくり

##### 委員会・ワーキンググループ

No.	部局名	委員会名	役職	開始年月日
1	工学研究科土木工学専攻	国際交流・ネットワーク委員会	委員	20130401
2	工学研究科土木工学専攻	教育改善委員会	委員	20160400
3	工学研究科土木工学専攻	入試担当WG	委員	20190400

#### B. 研究活動

##### 研究活動の概要

震災前から培ってきた、都市空間認識や土木デザインの蓄積、さらには行政経験を元に、復興まちづくりに対して、そのあるべき姿を論考しつつ、制度的な問題・課題を実体的に把握し、その解決策を現実の復興計画に反映させ、復興計画のクオリティを高めるとともに、実践的な復興まちづくりのあり方を探求している。また、その基礎となる都市空間の認識研究も継続している。

##### 研究課題

No.	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	1995	2	2000	12	街並みメッセージ論による街路景観に関する研究	なし
2	2000	4	2011	2	記憶から見た街路空間認識に関する研究	なし
3	2008	4	現在		相対性の観点から見た街路空間イメージに関する研究	なし
4	2011	3	現在		復興まちづくりにおける実践的研究	国内
5	2011	3	現在		防潮堤の計画論に関する研究	国内

論文

単著	1	筆頭共著	0	その他の共著	4	合計	5	うち	国際査読有	0	国際査読無	0	国内査読有	0	国内査読無	5
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

記述言語	区分	所外連携	国際学術誌	種別	査読	招待論文	論文題目名(原語)	著者氏名(共著者含)	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	
1	日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	無	いいえ	東日本大震災復興まちづくりにおける市街地構造分析	鈴木優里, 平野勝也	景観・デザイン研究講演集		16	60	65	202012005
2	日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	無	いいえ	災害遺構をはじめとした退廃空間の印象特性とそのメッセージ性	中田直輝, 平野勝也	景観・デザイン研究講演集		16	185	192	202012005
3	日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	無	いいえ	意識的な街歩き視点における平面分布形状とエリアイメージの関係	池田智, 平野勝也	景観・デザイン研究講演集		16	193	198	202012005
4	日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	無	いいえ	生活景観における変動要素の影響	戸谷百萌, 平野勝也	景観・デザイン研究講演集		16	228	233	202012005
5	日本語	単著	国内	いいえ	学術雑誌	無	いいえ	人口減少下の国土の安全性に関する緒論	平野勝也	景観・デザイン研究講演集		16	341	344	202012005

著書(監修・編集・単著・共著)

監修編集	0	単著	1	筆頭共著	0	共著	0	合計	1	うち	国際	0	国内	1
------	---	----	---	------	---	----	---	----	---	----	----	---	----	---

記述言語	著書名および担当執筆題名	種別	発行年月日	著者・監修者氏名	区分	出版社名	所外連携	発行部数
1	日本語 「復興まちづくりの現実とその課題」(『東日本大震災からのスタート: 災害を考える51のアプローチ』第20章, pp.81-84)	編集本(著者・Author)	20210311	平野勝也 (東北大学災害科学国際研究所)	単著	東北大学出版会	国内	1400

総説・解説(大学紀要・学術雑誌・学会誌・商業雑誌など)

単著	6	筆頭共著	1	その他の共著	0	合計	7	うち	国際査読有	0	国際査読無	0	国内査読有	1	国内査読無	6
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

記述言語	題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	区分	所外連携
1	日本語 新しい価値	その他	無	はい	(一財)建設物価調査会 建設物価2020年5月号			記事8	記事9	20200501	平野勝也	単著	なし
2	日本語 技術力	その他	無	はい	(一財)建設物価調査会 建設物価2020年9月号			記事8	記事9	20200901	平野勝也	単著	なし
3	日本語 性能設計型まちづくり	その他	無	はい	(一財)建設物価調査会 建設物価2020年12月号			記事8	記事9	20201201	平野勝也	単著	国内
4	日本語 復興の中で見えたもの ～石巻・女川の現場から～	その他	無	はい	(一社)計画・交通研究会 会報 2021年1月号			10	11	20210108	平野勝也	単著	国内
5	日本語 座談会4 震災復興の最前線から見る専門家の姿	その他	無	はい	JIA MAGAZINE	383		14	17	20210201	平野勝也, 今野 亨, 伊藤義之, 安本賢司, 末祐介, 手島浩之	筆頭共著	国内
6	日本語 現場から見た土木の光と影	その他	無	はい	新建築(2021年3月号)	96	3	166	167	20210301	平野勝也	単著	国内
7	日本語 復興の10年間から考えたこれからの地域づくり	その他	有	はい	橋梁と基礎	55	3	14	17	20210301	平野勝也	単著	国内

学会発表

単名	1	筆頭連名	0	その他の連名	0	合計	1
----	---	------	---	--------	---	----	---

	国内国際	会議名称	会議のテーマ	区分	招待	講演・発表の形態	会場名	開催都市名	開催国名	開催期間		発表年月日	題目名(原語)	連名者名(発表者に下線)
										開始年月	終了年月			
1	国内	第16回景観・デザイン研究発表会	星野裕司	単名	いいえ	口頭(一般)	オンライン		日本	20201205	20201206	20201205	人口減少下の国土の安全性に関する緒論	平野勝也

学術会議・シンポジウム等の主催・共催・運営等

合計	2件
----	----

	国内国際	種別	主催団体名・運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場	開催都市名	開催国名	参加人数(%) (%以外個人)	分野	担当	IRIDeSの関与	共催機関名	所外連携
					開始年月	終了年月									
1	国内	シンポジウム	災害研	実践的防災学シンポジウム	20201130	20201130	災害研	仙台市	日本	60	工学	企画・発表	IRIDeS主催・共同主催	IRIDeS	国内
2	国内	シンポジウム	土木学会景観・デザイン委員会	景観・デザイン委員会シンポジウム「災害と景観・デザイン～東日本大震災から10年、そして頻発する災害～」	20200115	20200115	web		日本	300	工学	企画・運営・配信	なし		国内

C. 教育活動

担当授業科目(他大学を含む)

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・学期	コマ数 90分/1コマ
1	土木史	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	2	3セメ	7.5
2	基礎設計A	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	2	3セメ	45
3	都市と交通のシステム	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	2	3セメ	2
4	環境工学序説	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	1	1セメ	1
5	環境学序説	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	2	3セメ	1
6	景観デザイン演習	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	2	4セメ	30
7	都市システム計画演習Ⅱ	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	4	7セメ	30
8	都市システム計画研修A	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	4	7セメ	
9	都市システム計画研修B	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	4	8セメ	
10	都市景観論	東北大学大学院	工学研究科	土木工学専攻		前期	15
11	地域システム学セミナー	東北大学大学院	工学研究科	土木工学専攻		通年	
12	プランナー研修	東北工業大学	工学部	都市マネジメント学科	2	後期	1

D. 社会活動

社会活動の概要

復興まちづくりの実践を中心に、景観まちづくり及び土木デザインの実践を展開している。また、積極的に土木の魅力若者に伝える活動も行っている。

一般向けセミナー・講演等の主催・共催・運営等(研究活動以外)

合計 2 件

	国内 国際	主催団体名・ 運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場名	開催 都市名	開催 国名	担当	参加 人数	IRIDeSの 関与	講演会・セミナー等	備考
				開始年月日	終了年月日								
1	国内	景観開花実行委員会	景観開花, 2020	20200707	20201121	web		日本	実行委員長	100	なし	その他	学生主体のデザインコンペ
2	国内	仙台市	仙台防災未来フォーラムシンポジウム「東日本大震災から10年 復興施策の評価と次の10年への展望:テーマセッション1」住まいとインフラの復旧・復興	20210306	20210306	仙台市国際センター	仙台市	日本	企画協力、セッションコーディネーター	200	IRIDeS協力	シンポジウム	

講演・講義等(研究活動以外)

合計 3 件

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	連携	主催者	会場名	開催 都市名	開催 国名	参加人数
				開始年月日	終了年月日							
1	講演会	3.11東日本大震災復興リレーシンポジウム	パネルディスカッション	20200704	20200704	討論「3.11津波復興の教訓とは?～生活、生業、安全の観点から」	なし	土木学会	東北地方整備局からweb配信	仙台市	日本	500
2	講演会	土木学会デザイン賞20周年記念 Talk sessions「土木発・デザイン実践の現場から」	パネルディスカッション	20201111	20201111	まちづくりの戦略としての公共空間デザインー女川町の実践	なし	土木学会	女川町まちなか交流センターからweb配信	女川町	日本	200
3	講演会	全国まちづくり会議 東日本大震災からの復興10年を考える 石巻分科会 石巻で震災10年を振り返る	パネルディスカッション	20210227	20210227	中心市街地の復興事業を振り返る～再開発事業とまちづくり～	なし	日本都市計画家協会	石巻IRORIからweb配信	石巻市	日本	200

自治体・民間等での委員

	区分	組織・団体名	委員会名	委員・役職名	開始年月日
1	国・政府	環境省	「まち・暮らし創生」FS委託業務(審査委員会)	委員	20190401
2	国・政府	東北地方整備局	道路計画研究会	座長	20080401
3	国・政府	東北地方整備局 山形河川国道事務所	最上川水系流域委員会専門小委員会	委員	20100401
4	国・政府	東北地方整備局 北上川下流河川事務所	旧北上川かわまちづくり検討会	委員	20120000
5	国・政府	東北地方整備局 北上川下流河川事務所	旧北上川かわまちづくり検討会ワーキンググループ	委員	20120000
6	国・政府	東北地方整備局 北上川下流河川事務所	旧北上川かわまちづくり検討会市民検討部会	アドバイザー	20120000
7	国・政府	東北地方整備局・岩手県・陸前高田市	高田松原津波復興祈念公園 景観検討調整会議	委員	20170400
8	地方自治体	宮城県	環境影響評価技術審査会	会長	20100000
9	地方自治体	宮城県	行政評価委員会 大規模事業評価部会	委員	20140000
10	地方自治体	仙台市	土地利用審査会	委員	20140000
11	地方自治体	仙台市	建築審査会	委員	20190400
12	地方自治体	石巻市	半島拠点検討会	委員	20170400

13	地方自治体	石巻市	中瀬公園検討会	委員	20170400
14	地方自治体	石巻市	名称検討委員会	委員	20170400
15	地方自治体	石巻市	新蛇田南地区被災市街地復興土地区画整理審議会	会長	20130000
16	地方自治体	石巻市	新蛇田南第二地区被災市街地復興土地区画整理審議会	会長	20130000
17	地方自治体	名取市	かわまち保全活用会議	アドバイザー	20200000
18	地方自治体	名取市	関上ベイエリア協議会	委員	20200000
19	地方自治体	陸前高田市	景観審議会	会長	20180000
20	地方自治体	女川町	復興まちづくりデザイン会議	委員長	20130000
21	地方自治体	女川町	復興まちづくりデザイン会議高台検討部会	委員	20130000
22	地方自治体	女川町	復興まちづくりデザイン会議シンボル空間検討部会	委員	20130000
23	地方自治体	女川町	復興まちづくりデザイン会議清水公園検討部会	委員	20140000
24	地方自治体	女川町	復興まちづくりデザイン会議川まちづくり検討部会	委員	20140000
25	地方自治体	女川町	女川町立保育所設計業務プロポーザル評価委員会	委員長	20140000
26	地方自治体	南三陸町	南三陸町道の駅整備推進協議会	委員	20160000
27	地方自治体	平泉町	景観形成審議会	委員	20060000
28	地方自治体	平泉町	平泉町社会教育施設整備・運営事業者選定委員会	委員長	20171018
29	地方自治体	平泉町	平泉町空家等対策協議会	副会長	20171018
30	地方自治体	平泉町	重要公共施設デザイン会議	会長	20060000
31	地方自治体	平泉町	おくのほそ道の風景地保存活用計画策定委員会	副委員長	20150400
32	民間・NPO	石巻まちなか創成協議会		委員	20110000
33	民間・NPO	エンジニア・アーキテクト協会	東北支部	支部長	20100000
34	民間・NPO	公益信託オオバまちづくり基金	運営委員会	委員	20150900

## その他、他機関等との交流実績(国内に限る)

合計 8 件

	交流機関名称	交流者	交流年月日	交流目的	会場名	開催都市名	主な担当内容	参加人数
1	千葉大学 他	秋田 典子 教授 他	20200827	共同研究	web		企画	5
2	千葉大学 他	秋田 典子 教授 他	20210201	共同研究	web		企画	5
3	北海道大学 他	高橋 浩晃 教授 他	20201110	共同研究	女川町役場他	女川	企画	7
4	北海道大学 他	高橋 浩晃 教授 他	20210224	共同研究	web		企画	15
5	東京海洋大学 他	岡安 章夫 教授 他	20200804	共同研究	web		企画	20
6	東京海洋大学 他	岡安 章夫 教授 他	20200914	共同研究	web		企画	20
7	東京海洋大学 他	岡安 章夫 教授 他	20201221	共同研究	web		企画	20
8	東京海洋大学 他	岡安 章夫 教授 他	20210330	共同研究	web		企画	20

# 定池 祐季 助教

SADAIKE Yuki

情報管理・社会連携部門 災害復興実践学分野

## A. 基本情報・略歴

### 出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	北海道大学	文学部	2002	3	北海道大学大学院	文学研究科	2004	3	修士(文学)	2004	3
2					北海道大学大学院	文学研究科	2011	3	博士(文学)	2011	3

### 職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	2004	4	2005	3	旭川市役所 市民部 資産税課 家屋第1係	事務吏員
2	2006	9	2009	3	特定非営利活動法人 環境防災総合政策研究機構 北海道支部	研究員
3	2007	4	2008	3	北海道大学大学院文学研究科	リサーチアシスタント
4	2010	4	2011	3	公益財団法人 ひょうご震災記念21世紀研究機構 人と防災未来センター	研究員
5	2011	4	2014	3	北海道大学 大学院 理学研究院 附属地震火山研究観測センター	助教
6	2014	4	2015	3	北海道大学 大学院 理学研究院 附属地震火山研究観測センター	招へい教員
7	2014	4	2017	3	東京大学大学院情報学環総合防災情報研究センター	特任助教
8	2015	4	2015	9	山形大学	非常勤講師
9	2015	4	2015	9	東京理科大学	非常勤講師
10	2015	10	2016	3	兵庫教育大学	非常勤講師
11	2016	10	2017	3	兵庫教育大学	非常勤講師
12	2017	4	現在		東北大学 災害科学国際研究所	助教
13	2017	4	2017	9	茨城大学	非常勤講師
14	2017	10	2018	1	兵庫教育大学	非常勤講師

### 学会活動

#### 所属学会

学会名 1	2	3	4	5	6	7	8	9
日本社会学会	地域社会学会	日本災害復興学会	日本災害情報学会	日本自然災害学会	地域安全学会	日本安全教育学会	日本民具学会	日本建築学会

#### 学会・委員会等での役職

学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
1 日本災害復興学会	学術推進委員会	委員	20210300

#### 研究分野・キーワード

専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3
災害社会学	地域社会学	防災教育

## B. 研究活動

### 研究活動の概要

継続的な研究テーマとして、①「被災地における復興と生活再建に関する研究」、②「地域社会に根ざした防災教育の実践研究」、③「災害情報の伝達と住民行動に関する研究」に取り組んでいるほか、④「災害文化の形成・継承・変質過程に関する社会学的研究」では科研費(若手B)最終年度として、北海道奥尻島、有珠山周辺地域などでの継続的なフィールドワークを実施した。また、福島大学のメンバーと防災教育教材「さすけなふる」の改善とファシリテーター養成に参画した。2020年度は①に関わる内容で日本災害復興学会・日本自然災害学会で発表を行い、②は共著で地域安全学会・日本建築学会北海道支部の発表に関わった。

### 研究課題

	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	2012	4	現在		被災地における復興と生活再建に関する研究	国内
2	2011	4	現在		地域社会に根ざした防災教育の実践研究	国内
3	2014	4	現在		災害情報の伝達と住民行動に関する研究	国内
4	2017	4	現在		災害文化の形成・継承・変質過程に関する社会学的研究	国内

### 論文

単著	2	筆頭共著	0	その他の共著	4	合計	6	うち	国際査読有	2	国際査読無	0	国内査読有	0	国内査読無	4
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

記述言語	区分	所外連携	国際学術誌	種別	査読	招待論文	論文題目名(原語)	著者氏名(共著者含)	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	
1	英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Sustainable Community Development for Disaster Resilience Using the Fukuzumi-Machi Method and Human Resources Development for Disaster Risk Reduction	Takeshi Sato, Aiko Sakurai, Yuki Sadaike, Yukiko Ouchi, and Yasuo Sugawara	JDR	15	7	919	930	20201201

2	英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Sustainable Community Development for Disaster Resilience and Human Resources Development for Disaster Risk Reduction - Growth and Community Contribution of the Katahira Children's Board for Community Development -	Takeshi Sato, Aiko Sakurai, Yuki Sadaike, Risa Yanagiya, and Hitoshi Konno	JDR	15	7	931	942	20201201
3	日本語	共著	国内	いいえ	その他	無	いいえ	LocalWikiを活用した地域版防災教育サイトの作成 その2 2019年台風19号時の仙台市福住町の防災行動	草薙 敏夫, 森 太郎, 定池 祐季, 佐藤 健	日本建築学会北海道支部研究報告集	93		337	340	202006
4	日本語	共著	国内	いいえ	その他	無	いいえ	LocalWikiを利用した防災教育情報のアーカイブ 2019年台風19号時の防災行動	森 太郎, 定池祐季, 佐藤 健, 草薙敏夫	2020年地域安全学会梗概集	46		147	150	202005
5	日本語	単著	なし	いいえ	その他	無	いいえ	北海道胆振東部地震に関する復興報道-北海道新聞の内容分析から-	定池祐季	日本災害復興学会2020年度遠隔大会 予稿集			35	38	202012
6	日本語	単著	なし	いいえ	その他	無	いいえ	北海道胆振東部地震被災地における生活再建支援制度	定池祐季	第39回 日本自然災害学会学術講演会 講演梗概集			69	70	202003

総説・解説(大学紀要・学術雑誌・学会誌・商業雑誌など)

単著	1	筆頭共著	0	その他の共著	3	合計	4	うち	国際査読有	0	国際査読無	0	国内査読有	0	国内査読無	4
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

記述言語	題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	区分	所外連携
1	日本語	センターゼミナール「厚真町支援の現場から」	無	いいえ	センターレポート 2020年	213	6	9	20210700	定池祐季	単著	なし
2	日本語	奥尻復興の秘けつを聞き出す:高台移転事業の概要と実務当事者へのインタビュー(2)-災害復興を考えるシンポジウムの記録-	無	いいえ	北星学園大学経済学部北星論集	60	1	31	20200930	竹田恒規・足立清人・定池祐季・神谷裕一・竹田彰・宮田康宏・渡部和正	共著	国内
3	日本語	奥尻復興の秘けつを聞き出す:高台移転事業の概要と実務当事者へのインタビュー(3)-災害復興を考えるシンポジウムの記録-	無	いいえ	北星学園大学経済学部北星論集	60	2	19	20210315	竹田恒規・足立清人・定池祐季・神谷裕一・竹田彰・宮田康宏・渡部和正	共著	国内
4	日本語	「防災教育」と「心のケア」のセットで支える子どもサポート・ハンドブック	無	いいえ					20210300	富永良喜, 定池祐季, 柿原久仁佳, 田中英三郎, 佐藤 健	共著	国内

学会発表

単名	2	筆頭連名	0	その他の連名	2	合計	4
----	---	------	---	--------	---	----	---

国内国際	会議名称	会議のチェア	区分	招待	講演・発表の形態	会場名	開催都市名	開催国名	開催期間		発表年月日	題目名(原語)	連名者名(発表者に下線)
									開始年月	終了年月			
1	国内	第93回日本建築学会北海道支部研究発表会	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	誌上開催	誌上開催		2020	2020	2020	LocalWikiを活用した地域版防災教育サイトの作成 その2 2019年台風19号時の仙台市福住町の防災行動	草薙 敏夫, 森 太郎, 定池祐季, 佐藤 健
2	国内	2020年地域安全学会春季研究発表大会	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	論文掲載・オンライン	論文掲載・オンライン		2020	2020	20200523	LocalWikiを利用した防災教育情報のアーカイブ 2019年台風19号時の防災行動	森 太郎, 定池祐季, 佐藤 健, 草薙敏夫
3	国内	日本災害復興学会2020年度遠隔大会	単名	いいえ	口頭(一般)	オンライン	オンライン		20201219	20201220	20201220	北海道胆振東部地震に関する復興報道-北海道新聞の内容分析から-	定池祐季
4	国内	第39回日本自然災害学会学術講演会	単名	いいえ	口頭(一般)	オンライン	オンライン		20200320	20200319	20200320	北海道胆振東部地震被災地における生活再建支援制度」, 2021年3月20日、オンライン	定池祐季

学術会議・シンポジウム等の主催・共催・運営等

合計	3件
----	----

国内国際	種別	主催団体名・運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場	開催都市名	開催国名	参加人数(うち外国人)	分野	担当	IRIDEsの関与	共催機関名	所外連携
				開始年月	終了年月									
1	国内	その他	東北大学災害科学国際研究所	第68回 2019年度共同研究成果報告会およびプロジェクトエリア・ユニット報告会	20200718	20200718	オンライン	仙台市	日本	100	工学	運営	IRIDEs主催・共同主催	国内
2	国内	セミナー	東北大学災害科学国際研究所	第69回金曜フォーラム 支援のレビュー～令和元年度台風19号から1年～	20201002	20201002	オンライン	仙台市	日本	70	人文社会系	企画・司会	IRIDEs主催・共同主催	なし
3	国内	セミナー	東北大学災害科学国際研究所	第71回金曜フォーラム 災害科学研究者～それぞれの原点、それぞれの3.11～	20210219	20210219	オンライン	仙台市	日本	60	人文社会系	司会	IRIDEs主催・共同主催	なし

D. 社会活動

社会活動の概要

①防災教育の実践、②被災地支援、③研究成果発信・調査対象地への成果還元、④その他防災・減災社会実現に向けた活動を軸に、行事の企画運営、行政等の委員、各種研修などに携わった。①では、福島大学のプロジェクトに継続して参画している。②については、北海道胆振東部地震の被災地厚真町にて支援活動を継続している。③については、セミナーやメディア対応で②に関する内容を中心に発信した。

一般向けセミナー・講演等の主催・共催・運営等(研究活動以外)

合計 4 件

	国内 国際	主催団体名・ 運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場名	開催 都市名	開催 国名	担当	参加 人数	IRIDeSの 関与	講演会・セミナー等	備考
				開始年月日	終了年月日								
1	国内	さすけなぶる研究会	さすけなぶる認定ファシリテーター 第1回緊急勉強会	20200808	20200808	オンライン	福島市	日本	実行委員	20	なし	セミナー	
2	国内	さすけなぶる研究会	さすけなぶる認定ファシリテーター 第2回緊急勉強会	20200822	20200822	オンライン	福島市	日本	ファシリテーター	20	なし	ワークショップ	
3	国内	宮城県、東北地方整備局、仙台管区気象台、東北大学災害科学国際研究所防災教育国際協働センター	令和2年度防災対応等に関する説明会	20200828	20200910	書面開催	仙台市	日本	実行委員	36	IRIDeS共催	セミナー	共催期間は東北大学災害科学国際研究所防災教育国際協働センター、対面開催が延期となったため、書面にて資料送付をして質問等を受け付ける形式に変更した。
4	国内	福住町内会	第2回 福住町町内会防災まちあるき	20201018	20201018	福住町集会所	仙台市	日本	実行委員	15	なし	ワークショップ	

講演・講義等(研究活動以外)

合計 9 件

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	連携	主催者	会場名	開催 都市名	開催 国名	参加人数
				開始年月日	終了年月日							
1	小中高との連携	上小防災の日	授業	20200904	20200904	「避難所でできることを考えよう」他	小中高	厚真町立上厚真小学校	厚真町立上厚真小学校	厚真町	日本	90
2	セミナー	みんなの家「防災の日」イベント	講演	20201004	20201106	暮らしの中の防災～備蓄の考え方を見直そう～	なし	NPO法人とあさ村	みんなの家	安平町	日本	30
3	その他	古平町津波防災訓練事前ワークショップ	講演	20201005	20201005	「将来の津波災害に備えるために」	行政	内閣府	古平町文化会館	古平町	日本	40
4	セミナー	厚真町震災学習ガイド研修	ワークショップ	20201030	20201030	「厚真町版HUGIについて考える」	企業	厚真町観光協会	厚真町観光協会	厚真町	日本	10
5	セミナー	厚真町職員研修	ファシリテーター	20201106	20201106	「町民主体の復興まちづくりとその支援のあり方」	行政	厚真町まちづくり推進課	厚真町総合福祉センター	厚真町	日本	40
6	小中高との連携	厚真高校防災学習	授業	20210122	20210122	「自ら備える、周りを助ける」	小中高	北海道立厚真高等学校	北海道立厚真高等学校	厚真町	日本	60
7	セミナー	日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震・津波のオンライン勉強会	講義	20210215	20210218	「災害のフェーズと被災者支援」(概論)	行政	釧路・室蘭・函館各地方気象台、帯広測候所、北海道大学大学院理学研究院附属地震火山研究観測センター	オンライン	オンライン	日本	60
8	セミナー	東京管区気象台 談話会	講義	20210302	20210302	「災害支援の基本姿勢」	行政	東京管区気象台	オンライン	オンライン	日本	100
9	セミナー	2020年度 災害支援者養成研修会	講義	20210327	20210327	「災害支援の実践現場に開いて～伴走する社会学者の視点から～」	なし	公益社団法人北海道社会福祉士会	オンライン	オンライン	日本	30

自治体・民間等での委員

	区分	組織・団体名	委員会名	委員・役職名	開始年月日
1	国・政府	北海道開発局	石狩川流域委員会	委員	20170500
2	国・政府	国土交通省	水防活動活性化調査会	委員	20180300
3	地方自治体	徳島県	復興指針検討委員会	委員	20180901
4	民間・NPO	厚真町社会福祉協議会		スーパーバイザー	20181101
5	地方自治体	北海道厚真町		厚真町地域防災アドバイザー	20190401
6	国・政府	水産庁	水産政策審議会	委員	20190700
7	地方自治体	北海道厚真町	まちづくり委員会	アドバイザー	20190800
8	地方自治体	北海道厚真町	厚真町心のサポート・防災学習推進協議会	委員	20191100

その他、他機関等との交流実績(国内に限る)

合計 1 件

	交流機関名称	交流者	交流年月日	交流目的	会場名	開催 都市名	主な担当 内容	参加 人数
1	北海道大学大学院理学研究院附属地震火山研究観測センター、北海道大学大学院工学研究科	高橋弘晃、高井信雄	20210224	共同研究	白糠町役場	白糠町	その他	50



## 小野 裕一 教授

### ONO Yuchi

情報管理・社会連携部門 社会連携オフィス

#### A. 基本情報・略歴

##### 出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	宇都宮大学	教育学部	1989	3	米国セントステイト大学大学院	地理学研究科	2001	12	地理学博士	2001	12

##### 職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	1997	1	2000	2	米国セントステイト大学	非常勤講師
2	2002	1	2003	2	世界気象機関(スイス・ジュネーブ)世界気象観測部	アソシエート・エキスパート
3	2003	2	2004	2	国連国際防災戦略事務局本部(スイス・ジュネーブ)	プログラム・オフィサー
4	2004	6	2007	6	国連国際防災戦略事務局早期警戒事務所(ドイツ・ボン)	所長補
5	2007	6	2009	9	国連国際防災戦略事務局本部(スイス・ジュネーブ)防災科学技術担当	プログラム・オフィサー
6	2009	10	2012	10	国連アジア太平洋経済社会委員会本部(タイ・バンコク)	防災課・課長
7	2012	11	現在		東北大学災害科学国際研究所 情報管理・社会連携部門 社会連携オフィス	教授
8	2014	3	2016	3	京都大学防災研究所 水資源環境センター	客員教授

##### 学会活動

##### 所属学会

	学会名 1	2	3	4
	日本地理学会	アメリカ地理学会	日本風工学会	地域安全学会

##### 学会・委員会等での役職

	学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
1	日本学術会議	国際委員会防災・減災に関する国際研究のための東京会議分科会	特任連携会員	20140423
2	日本学術会議	土木工学・建築学委員会IRDR分科会	特任連携会員	20130628
3	日本地理学会	交流専門委員会	委員長	20130401
4	日本学術会議	科学技術を生かした防災・減災に政策の国際的展開に関する検討委員会	会員	20180426
5	2020世界災害語り継ぎフォーラム	2020世界災害語り継ぎフォーラム実行委員会	委員	20180530
6	国立研究開発法人 科学技術振興機構(SATREPS)	地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム防災分野評価会	評価会委員	20180401

##### 研究分野・キーワード

	専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3
	国際防災政策	竜巻災害	早期警報システム

##### 委員会・ワーキンググループ

##### 全学・他部署の委員会での委員

	部署名	委員会名	役職	開始年月日
1	国際交流課	国際連携推進機構国際交流委員会	委員	20190401
2	理学部・理学研究室	変動地球共生学卓越大学院プログラム	運営委員	20180000

#### B. 研究活動

##### 研究活動の概要

コロナ感染拡大によって災害統計グローバルセンターの活動は抑制せざるを得なかったが、国連開発計画が日本政府からこの分野への支援が決定したので、オンライン会議を通して災害被害統計とその効果について脆弱性の観点からプロジェクトを形成した。このプロジェクトは2021年度に展開される見通しである。一方で、国内活動はJST支援による「包括的な災害リスクのプロアクティブアラートに基づくインクルーシブ防災の実現」を陸前高田市の竹駒地区と仙台市の平井地区を対象に行い、災害研の教員に分野横断的に参加してもらい富士通総研の開発しているアラートシステムをツールとして、世帯別リスク評価と避難行動のあり方について研究活動を行った。

##### 研究課題

	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	1994	4	2001	12	米国、バングラデッシュ、日本の竜巻災害の研究	両方
2	2002	1	2012	10	国連で国際防災政策立案に従事、早期警報システムや科学技術の政策への統合システムの構築など	国外
3	2012	11	現在		災害科学国際研究所の実践的防災学の知見を国際防災政策に反映させるための研究	両方
4	2012	11	現在		バングラデッシュの竜巻等の突風災害の軽減に関する研究	国外
5	2015	4	現在		各国でエビデンスに基づいた防災政策立案の支援をすべく国連開発計画(UNDP)と共同で構築した災害統計グローバルセンターの活動	両方
6	2020	4	現在		仙台防災枠組を含んだ国際開発アジェンダの進捗状況を研究し、2030年に向けた有効な提言を行う研究	両方

論文

単著	0	筆頭共著	1	その他の共著	4	合計	5	うち	国際査読有	5	国際査読無	0	国内査読有	0	国内査読無	0
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

記述言語	区分	所外連携	国際学術誌	種別	査読	招待論文	論文題目名(原語)	著者氏名(共著者含)	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	
英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Implementation of evacuation measures during natural disasters under conditions of the novel coronavirus(COVID-19)pandemic based on a review of previous responses to complex disasters in Japan	Masashi Sakamoto, <u>Daisuke Sasaki</u> , <u>Yuichi Ono</u> , <u>Yuko Makino</u> , <u>Eiichi N.Kodama</u>	Progress in Disaster Science	8				100127	20201016
英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Measurement of Disaster Damage Utilizing Disaster Statistics:A Case Study Analyzing the Date of Indonesia	<u>Daisuke Sasaki</u> , <u>Makoto Okumura</u> , and <u>Yuichi Ono</u>	Journal of Disaster Research	15	7	970	974	202012	
英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Recent Progress Achieved by the Global Centre for Disaster Statistics (GCDS)	<u>Daisuke Sasaki</u> , and <u>Yuichi Ono</u>	Journal of Disaster Research	15	7	913	918	202012	
英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Disaster storytelling and volcanic eruptions caused by debris avalanches on Mt. Bandai in Aizu and Mt. Unzendake and Mt. Mayuyama in Shimabara	Hiroshi Sato and <u>Yuichi Ono</u>	Journal of Disaster Research	16	2	141	145	202101	
英語	筆頭共著	国外	はい	学術雑誌	有	いいえ	The Role of Museums in Telling Live Lessons	<u>Yuichi Ono</u> , Marlene Murray, Makoto Sakamoto, Hiroshi Sato, Pornthum Thumwimol, Vipakorn Thumwimol, and Ratchaneekorn Thongthip	Journal of Disaster Research	16	2	135	140	202101	

著書(監修・編集・単著・共著)

監修編集	0	単著	1	筆頭共著	0	共著	0	合計	1	うち	国際	0	国内	1
------	---	----	---	------	---	----	---	----	---	----	----	---	----	---

記述言語	著書名および担当執筆題名	種別	発行年月日	著者・監修者氏名	区分	出版社名	所外連携	発行部数
日本語	「仙台防災枠組と災害統計グローバルセンター」(『東日本大震災からのスタート:災害を考える51のアプローチ』第44章, pp.181-184)	編集本(著者・Author)	20210311	小野裕一(東北大学災害科学国際研究所)	単著	東北大学出版会	なし	1400

総説・解説(大学紀要・学術雑誌・学会誌・商業雑誌など)

単著	3	筆頭共著	0	その他の共著	0	合計	3	うち	国際査読有	0	国際査読無	1	国内査読有	1	国内査読無	1
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

記述言語	題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	区分	所外連携
日本語	語り継ぎとミュージアムの役割	その他	有	いいえ	DRI調査研究レポート2020-01 2020世界災害語り継ぎフォーラムー災害の記憶とつなぐー	46		21	27	202012	小野裕一	単著	国内
英語	Values of the Sendai Framework for Disaster Risk Reduction	学術雑誌	無	はい	재난안전 Disaster&Safety	22	2	61	69	202006	Yuichi Ono	単著	国外
日本語	防災力強化に向けて災害科学と世界をつなぐ	その他	無	はい	季刊DBJ 47号	47		16	18	202102	小野裕一	単著	国内

C. 教育活動

教育活動の概要

後期に卓越大学院で「変動地球共生学特別講義Ⅰ」をJICAの竹谷先生に依頼して開講した。この卓越大学院の中で、博士課程を修了後に国際機関にキャリアパスを求める学生のために、国際機関人材養成コース(仮)を新設すべく準備を開始した。国連勤務時代に培った経験と人脈をいかして、後継の人材の発掘をし関心のある学生の後押しをしていきたい。

担当授業科目(他大学を含む)

科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・学期	コマ数 90分/コマ
1 日本の人道支援政策入門I	国際基督教大学	大学院				2
2 変動地球共生学特別講義Ⅰ	東北大学	卓越大学院 理学研究科			後期	16

D. 社会活動

社会活動の概要

2021年11月には一般財団法人の世界防災フォーラムが、第3回世界防災フォーラムを仙台で実施する予定であったが、コロナ感染拡大が国内外で収束しない状況を鑑み延期とした。代替のイベントである「World BOSAI Walk Tohoku+10」を2021年9月から10月にかけて開催する準備にあたった。被災地の復興10年の現状や課題について、福島から青森までの沿岸を走破し国内外に発信していく予定である。

一般向けセミナー・講演等の主催・共催・運営等(研究活動以外)

合計	3件
----	----

国内国際	主催団体名・運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場名	開催都市名	開催国名	担当	参加人数	IRIDeSとの関与	講演会・セミナー等
			開始年月日	終了年月日							
国内	東北大学災害科学国際研究所	竹駒地区 第1回リスク座談会	20201101	20201101	竹駒地区コミュニティセンター	陸前高田市	日本	議長	30	IRIDeS主催・共同主催	講演会・ワークショップ
国内	東北大学災害科学国際研究所	片平地区 第1回リスク座談会	20201107	20201107	仙台市立片平小学校	仙台市	日本	議長	30	IRIDeS主催・共同主催	講演会・ワークショップ
国内	東北大学災害科学国際研究所	片平地区 第2回リスク座談会	20201226	20201226	片平市民センター	仙台市	日本	議長	30	IRIDeS主催・共同主催	講演会・ワークショップ

# 佐々木 大輔 助教

## SASAKI Daisuke

情報管理・社会連携部門 社会連携オフィス

### A. 基本情報・略歴

#### 出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	東京大学	理学部	2004	3	東京大学大学院	新領域創成科学研究科	2015	9	博士(国際協力学)	2015	9

#### 職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	2008	2	2014	3	株式会社浜銀総合研究所	研究員
2	2014	4	2017	8	横浜市役所	事務職員
3	2016	2	2017	8	東京大学 大学院新領域創成科学研究科 国際協力学専攻	客員連携研究員

#### 学会活動

##### 所属学会

	学会名 1	2	3	4	5
	国際開発学会	水文・水資源学会	土木学会	公益事業学会	International Studies Association

##### 学会・委員会等での役職

	学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
1	水文・水資源学会	編集出版委員会	編集出版委員	20180900
2	土木学会	ACECC TC21国内支援委員会	委員兼幹事	20190900

##### 研究分野・キーワード

	専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3	専門分野 4
	国際関係論	地域研究	自然災害科学・防災学	環境政策・環境社会システム

##### 委員会・ワーキンググループ

##### 全学・他部局の委員会での委員

	部局名	委員会名	役職	開始年月日
1	全学	研究所長会議「研究所連携若手交流会」JWG	委員	20190401

### B. 研究活動

#### 研究活動の概要

2020年度は、計7篇の査読付き論文(英文誌)を公刊した。そのうち、2篇は災害統計に関連した研究に係る論文である。  
2020年度も引き続き、当研究所に設置された災害統計グローバルセンターに所属し、災害統計の整備、及び科学的根拠に基づく防災政策に係る研究に従事した。

#### 研究課題

	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	2012	10	現在		国際インフラプロジェクト等におけるリスクマネジメント	両方
2	2012	10	現在		国家間の電力貿易における経済性評価	両方
3	2016	2	現在		気候変動が太平洋島嶼国に与える影響評価	両方
4	2017	9	現在		災害統計の整備、科学的根拠に基づく防災政策に係る研究	両方

#### 論文

単著	0	筆頭共著	3	その他の共著	4	合計	7	うち	国際査読有	7	国際査読無	0	国内査読有	0	国内査読無	0
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

	記述言語	区分	所外連携	国際学術誌	種別	査読	招待論文	論文題目名(原題)	著者氏名(共著者含)	論文掲載誌名(原題)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日
1	英語	共著	なし	はい	学術雑誌	有	いいえ	Implementation of evacuation measures during natural disasters under conditions of the novel coronavirus (COVID-19) pandemic based on a review of previous responses to complex disasters in Japan	Masashi Sakamoto, <u>Daisuke Sasaki</u> , Yuichi Ono, Yuko Makino, Eiichi N. Kodama	Progress in Disaster Science	8			100127	20201016
2	英語	筆頭共著	なし	はい	学術雑誌	有	いいえ	Recent Progress Achieved by the Global Centre for Disaster Statistics (GCDS)	<u>Daisuke Sasaki</u> , Yuichi Ono	Journal of Disaster Research	15	7	913	918	20201201
3	英語	筆頭共著	なし	はい	学術雑誌	有	いいえ	Measurement of Disaster Damage Utilizing Disaster Statistics: A Case Study Analyzing the Data of Indonesia	<u>Daisuke Sasaki</u> , Makoto Okumura, Yuichi Ono	Journal of Disaster Research	15	7	970	974	20201201
4	英語	共著	国外	はい	学術雑誌	有	いいえ	Implementation of Post Disaster Needs Assessment in Indonesia: Literature Review	Yasuhito Jibiki, Dicky Pelupessy, <u>Daisuke Sasaki</u> , Kanako Iuchi	Journal of Disaster Research	15	7	975	980	20201201

5	英語	筆頭共著	国外	はい	国際会議 Proceedings	有	いいえ	Stakeholder Behavior in Disaster Risk Reduction at the Time of Rehabilitation and Reconstruction in Aceh	Daisuke Sasaki, Muhammad Iqbal, Hizir Sofyan, Nizamuddin Nizamuddin, Muzailin Affan	IOP Conference Series: Earth and Environmental Science	630			012015	20210113
6	英語	共著	両方	はい	学術雑誌	有	いいえ	Towards Integration of Climate Disaster Risk and Waste Management: A Case Study of Urban and Rural Coastal Communities in the Philippines	Nagisa Yoshioka, Marlon Era, Daisuke Sasaki	Sustainability	13	4		1624	20210203
7	英語	共著	両方	はい	学術雑誌	有	いいえ	People's Response to Potential Natural Hazard-Triggered Technological Threats after a Sudden-Onset Earthquake in Indonesia	Fatma Lestari, Yasuhito Jibiki, Daisuke Sasaki, Dicky Pelupessy, Agustino Zulys, Fumihiko Imamura	International Journal of Environmental Research and Public Health	18	7		3369	20210324

学会発表

単名	2	筆頭連名	1	その他の連名	0	合計	3
----	---	------	---	--------	---	----	---

	国内 国際	会議名称	会議の チエア	区分	招待	講演・発表の形態	会場名	開催 都市名	開催 国名	開催期間		発表 年月日	題目名(原語)	連名者名 (発表者に下線)
										開始年月	終了年月			
1	国際	The 16th IMT-GT International Conference on Mathematics, Statistics and Their Applications (ICMSA 2020)	Ts Dr Teoh Lay Eng	単名	はい	口頭(基調)	Universiti Tunku Abdul Rahman (UTAR)	(Virtual)	(Virtual)	20201123	20201124	20201124	Possibility of Utilizing Disaster Statistics	<u>Daisuke Sasaki</u>
2	国内	国際開発学会第31回全国大会	大野泉	単名	いいえ	口頭(一般)	津田塾大学	(オンライン)	(オンライン)	20201205	20201206	20201205	アチエにおける災害復興で現地の学術研究機関が果たす媒介機能について	<u>佐々木 大輔</u>
3	国内	第6回東北大学若手研究者アンサンブルワークショップ	甲斐洋行	筆頭連名	いいえ	ポスター(一般)	東北大学	(オンライン)	(オンライン)	20210212	20210222	20210218	観光客の火山防災に関する知識構造の解明—九州阿蘇山を事例に—	<u>佐々木 大輔</u> , 地引 泰人

学術会議・シンポジウム等の主催・共催・運営等

合計	1件
----	----

	国内 国際	種別	主催団体名・運営 団体名等	イベント名称	開催期間		会場	開催 都市名	開催 国名	参加人数 (うち非属人)	分野	担当	IRIDeSの 関与	共催機関名	所外 連携
					開始年月	終了年月									
1	国内	ワークショップ	東北大学附属研究所若手アンサンブルプロジェクト	第6回東北大学若手研究者アンサンブルワークショップ	20210212	20210222	東北大学	(オンライン)	(オンライン)		人文社会系	運営、連絡・調整等	IRIDeS協賛・資金提供		国内

C. 教育活動

教育活動の概要

2020年度については、講義を担当しなかった。

D. 社会活動

社会活動の概要

2020年度は、引き続き、他大学(東京大学など)やJICA緒方研究所等に所属する研究者との共同研究等を積極的に推進した。2021年度以降も、これらの共同研究等については、継続的に実施する予定である。

一般向けセミナー・講演等の主催・共催・運営等(研究活動以外)

合計	2件
----	----

	国内 国際	主催団体名・運営 団体名等	イベント名称	開催期間		会場名	開催 都市名	開催 国名	担当	参加 人数	IRIDeSの 関与	講演会・セミナー等
				開始年月日	終了年月日							
1	国内	東北大学災害科学国際研究所	IRIDeS 金曜フォーラム 2019年度共同研究成果報告会兼プロジェクトエリア・ユニット報告会	20200718	20200718	東北大学災害科学国際研究所	(オンライン)	(オンライン)	運営、連絡・調整等		IRIDeS主催・共同主催	研究会
2	国内	東北大学災害科学国際研究所	第71回IRIDeS金曜フォーラム	20210219	20210219	東北大学災害科学国際研究所	(オンライン)	(オンライン)	運営、連絡・調整等		IRIDeS主催・共同主催	研究会

自治体・研究機関との協定締結実績

	年月日	締結式会場	国内 海外	協定名称	締結機関	締結相手	期間	
							開始年月日	年数
1	20200929	JICA緒方研究所	国内	研究プロジェクト「アジアのインフラ需要推計にかかる研究」	研究機関	JICA緒方研究所	20201001	1.5

その他、他機関等との交流実績(国内に限る)

合計	2件
----	----

	交流機関名称	交流者	交流年月日	交流目的	会場名	開催 都市名	主な担当 内容	参加 人数
1	東京大学新領域創成科学研究科	石渡幹夫	20200916	共同研究	東北大学災害科学国際研究所	(オンライン)	企画	
2	笹川平和財団海洋政策研究所	吉岡浩	20210217	共同研究	笹川平和財団海洋政策研究所	(オンライン)	その他	

## ボレー ペンメレン セバスチャン 准教授

### BORET Penmellen Sébastien

情報管理・社会連携部門 国際研究推進オフィス

#### A. 基本情報・略歴

出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	Oxford Brookes University	Department of Anthropology	2003	1	Oxford University	Institute of Social and Cultural Anthropology	2005	6	M.Phil. Social Anthropology	2005	6
2					Oxford Brookes University	Department of Anthropology	2011	3	PhD	2011	3

#### 職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	2012	10	2014	7	Japan Society for the Promotion of Science, Tohoku University	Post-doctoral fellow
2	2014	8	2018	12	International Research Institute of Disaster Science, Tohoku University	Assistant Professor

#### 学会活動

所属学会

	学会名 1	2	3	4	5	6
	日本文化人類学会	東北民俗の会	Society of Applied Anthropology (US)	Japan Anthropology Workshop	European Association of Social Anthropologists	ISCRAM

#### 学会・委員会等での役職

	学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
1	International Journal of Disaster Risk Reduction, Elsevier		associate editor	20150120
2	International Journal of Disaster Management, Universitas Syiah Kuala		board member	20120401
3	Human Remains and Violence (Manchester University Press)		board member	20210301

#### 研究分野・キーワード

	専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3
	社会人類学	災害科学	死生学

#### B. 研究活動

研究活動の概要

<p>My research investigates the way in which individuals and societies manage death, grief and memories of the loss of communities and individuals during disasters. The earlier part of my research focuses on green funerals and burials in the wake of new environmental consciousness and changes in the approach to death. Since, I included the study of death and collective memories in relation to disasters. I studied the construction of memorial monuments and ceremonies in Jaapan, Indonesia and France. I am currently researching the management of mass death (i.e. a great number of fatalities and bodies) during great disasters to understand their impact on society. I also hope to develop a framework improving the management of mass death in future disasters and thus reduce the impacts of large disasters in the long term.</p>
---

#### 研究課題

	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	2005	9	現在		The Anthropology of Death: Funerals, Burials and Grief	両方
2	2011	8	現在		The Memorialization of Disasters	両方
3	2014	2	現在		Disaster Digital Archives	両方
4	2016	8	現在		The Revitalization of Fishing Communities in Tsunami-hit Areas	国内
5	2017	4	現在		Collective Memory, Narrative and Education in Large Scale Disaster	両方
6	2018	4	現在		Managing Mass Death and Grief in Disaster Communities	

論文

単著	0	筆頭共著	1	その他の共著	2	合計	3	うち	国際査読有	3	国際査読無	0	国内査読有	0	国内査読無	0
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

記述言語	区分	所外連携	国際学術誌	種別	査読	招待論文	論文題目名(原語)	著者氏名(共著者含)	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日
英語	共著	国外	はい	学術雑誌	有	いいえ	The Value of Visual Disaster Records from Digital Archives and Films in Post- 3/11 Japan	Hiroki Takakura, Sébastien P. Boret	International Journal Sustainable Future for Human Security	7	3	58	65	20201201
英語	筆頭共著	国外	はい	国際会議 Proceedings	有	いいえ	Social lives of tsunami walls in Japan: Concrete culture, social innovation and coastal communities	Sébastien P. Boret, Julia Gerster	12th ACEH International Workshop on Sustainable Tsunami Disaster Recovery	630	1	1	9	20210112
英語	共著	国外	はい	学術雑誌	有	いいえ	Perceptions of the COVID-19 pandemic in Japan with respect to cultural, information, disaster and social issues	Anawat Suppasri, Miwako Kitamura, Haruka Tsukuda, Sébastien P. Boret, Gianluca Pescaroli, Yasuaki Onoda, Fumihiko Imamura, David Alexander, Natt Leelawat, Syamsidik	Progress In Disaster Science	10	1	1	6	20210302

著書(監修・編集・単著・共著)

監修編集	0	単著	1	筆頭共著	2	共著	1	合計	4	うち	国際	3	国内	1
------	---	----	---	------	---	----	---	----	---	----	----	---	----	---

記述言語	著書名および担当執筆題名	種別	発行年月日	著者・監修者氏名	区分	出版社名	所外連携	発行部数
英語	Preserving, Learning and Transmitting the Experiences of the 2011 Tohoku Earthquake to Enhance Disaster Risk Reduction	編集本(著者・Author)	20200905	Sébastien Pennmellen Boret, Akihiro Shibayama, Julia Gerster, Fumihiko Imamura	共著	UNESCO	国外	
日本語	「防災の枠組みで遺体と遺族を考える」(『東日本大震災からのスタート: 災害を考える51のアプローチ』第48章, pp.197-200)	編集本(著者・Author)	20210311	ボレー・ペンメレン・セバスチャン(東北大学災害科学国際研究所)	単著	東北大学出版会	国内	1400
英語	12th ACEH International Workshop on Sustainable Tsunami Disaster Recovery: Sharing Experience, Knowledge and Culture	編集本(著者・Author)	20210112	Sébastien P. Boret, Anawat Suppasri, Erick Mas, Elizabeth Maly	共著	IOP Publishing	国外	
英語	Advances of Disaster Risk Reduction and Climate Change in Adaptation in Asia Pacific Countries	編集本(著者・Author)	20201120	Syamsidik, Anawat Suppasri, Sébastien Pennmellen Boret	共著	International Journal of Disaster Risk Reduction, Elsevier	国外	

学会発表

単名	3	筆頭連名	0	その他の連名	0	合計	3
----	---	------	---	--------	---	----	---

国内国際	会議名称	会議のチェア	区分	招待	講演・発表の形態	会場名	開催都市名	開催国名	開催期間		発表年月日	題目名(原語)	連名者名(発表者に下線)
									開始年月	終了年月			
国際	日本宗教学会第79回学術大会	鶴岡賀雄	単名	はい	口頭(一般)	駒澤大学	東京	日本	20200918	20200920	20200920	日本の樹木葬ーエコロジーの思想を取り入れた寺院ー	<u>Boret, Sébastien Pennmellen</u>
国際	第116回日本精神神経学会学術総会	矢部博興	単名	はい	口頭(一般)	東北大学	仙台	日本	20200928	20200930	20200929	文化の多様性と災害	<u>Boret, Sébastien Pennmellen</u>
国際	The History and Anthropology of Death	Anne Carole, Elisabeth Anstett	単名	はい	口頭(招待)	Aix Marseille University	Marseille	フランス	20210317	20210317	20210317	The Bodies of the 2011 Tsunami	<u>Boret, Sébastien Pennmellen</u>

C. 教育活動

教育活動の概要

Boret holds an appointment as associate professor 兼任教員@環境科学研究科. He co-supervise masters and phd students. Boret teaches a one-year graduate seminar course 文化生態保全学ゼミ, a one-semester course on 東北アジア比較社会組織論 and lectures for 環境科学概論. In addition, Boret is 非常教員 at the laboratory of Cultural Anthropology where he teaches a one-semester course on 災害人類学 to graduate students. I also lectured on disaster archives for a course on basic training lead by the International Research Institute of Disaster Science. Boret is 審査員 for masters thesis .

担当授業科目(他大学を含む)

科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・学期	コマ数 90分/コマ
1 災害人類学	東北大学	文学部	文化人類学研究科	1	後期	
2 東北アジア比較社会組織論	東北大学	環境科学研究科	文化生態保全学分野	2	後期	
3 文化生態保全学セミナー	東北大学	環境科学研究科	文化生態保全学分野	2	通年	30

## マリ エリザベス 准教授

### MALY Elizabeth

情報管理・社会連携部門 国際研究推進オフィス

#### A. 基本情報・略歴

##### 出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	Reed College	B.A. Art	2000	5	University of Washington-Seattle	建築	2008	6	Masters of Architecture	2008	6
2					神戸大学大学院工学部	建築	2013	3	学術博士(建築)	2013	3

##### 職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	2006	6	2006	8	ワシントン大学 大学ジャーナル紙 編集委員	編集委員
2	2009	10	2012	3	International Recovery Platform (IRP)	アシスタント研究員
3	2012	4	2014	3	人と防災未来センター	研究員(2013～主任研究員)
4	2014	4	2018	12	東北大学 災害科学国際研究所 人間・社会対応研究部門 防災社会国際比較研究分野	助教
5	2019	1	現在		東北大学 情報管理・社会連携部門 国際研究推進オフィス	准教授

##### 学会活動

##### 所属学会

	学会名 1	2	3	4	5
	日本建築学会	日本都市計画学会	日本住宅会議	災害復興学会	地域安全学会

##### 学会・委員会等での役職

	学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
1	日本都市計画学会	国際用語辞典改訂検討小委員会	委員	20180401
2	International Journal of Disaster Risk Reduction		Associate Editor	20180000

##### 研究分野・キーワード

	専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3	専門分野 4	専門分野 5
	住宅復興	住まい環境	国際比較	土地利用	災害復興政策

##### 委員会・ワーキンググループ

##### 全学・他部署の委員会での委員

	部署名	委員会名	役職	開始年月日
1	仙台市	中心部震災メモリアル拠点検討委員会	委員	20190100

#### B. 研究活動

##### 研究活動の概要

International comparisons of pre-disaster community resilience and recovery planning, and housing recovery and land use after mega disasters in the United States and Japan, was a main focus of my research this year. This included related international research collaborations and published research results. Other international research investigations continued collaborative research with international counterparts in Taiwan, Indonesia, and the U.S. Research in Japan continued to follow the recovery process after the GEJE, with a focus on housing recovery and residential displacement, with several contributions to international and Japanese conferences and publications. Overall, research this year continued to focus on themes of post disaster housing recovery and relocation, and the role of NGOs and governments in housing provision, including continued research funded by a JSPS Kaken Grant in Aid (Kiban C), which builds on past research on the roles of NGOs in housing recovery in Philippines and the U.S., to explore a similar topic of NGOs' role in housing recovery in Palu after the Sulawesi tsunami and Houston, Texas after Hurricane Harvey in the U.S.
--

##### 研究課題

	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	2011	4	現在		東日本大震災後の木造仮設住宅	国内
2	2011	4	現在		東日本大震災後の復興計画と高台移転や土地利用	国外
3	2012	4	現在		自然災害の復興に関する土地利用や移転の国際比較研究	国外
4	2012	10	現在		ハリケーンサンディ後の住宅復興と土地利用 (アメリカ)	国外
5	2012	4	現在		メラビ火山噴火後の住宅復興 (インドネシア)	国外
6	2012	4	現在		ハリケーンサンディ後の住宅復興 (アメリカ)	国外
7	2014	4	現在		インド洋津波後の住宅復興 (インドネシア, タイ)	国外
8	2014	4	現在		台風ハイヤンの復興 (フィリピン)	国外
9	2015	4	現在		住宅復興と教育復刻の連携; 国際比較的研究 (フィリピン, インドネシア)	国外
10	2016	4	現在		住宅復興の起るNGO役割	国外

論文

単著	1	筆頭共著	4	その他の共著	4	合計	9
----	---	------	---	--------	---	----	---

うち	国際査読有	8	国際査読無	0	国内査読有	1	国内査読無	0
----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

記述言語	区分	所外連携	国際学術誌	種別	査読	招待論文	論文題目名(原語)	著者氏名(共著者含)	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	
1	英語	共著	両方	はい	学術雑誌	有	はい	Growth and Shrinkage Pre and Post Tsunami in Fukushima Prefecture, Japan	Zhu, R., Tao, Z., Newman, G., Counts, M., Meyer, M., Kim, Y., Kuriyama, N., Kondo, T., Maly, E., Pinheiro, A., Ghezelloo, Y., & Offer, E.	Landscape Research Record	9	1	132	147	20200000
2	英語	筆頭共著	国外	はい	学術雑誌	有	はい	The Sendai Framework for Disaster Risk Reduction at Five: Lessons from the 2011 Great East Japan Earthquake and Tsunami	Maly, E. and Suppasri, A.	International Journal of Disaster Risk Science	11	2	167	178	20200420
3	日本語	共著	両方	いいえ	学術雑誌	有	いいえ	低頻度メガリスク型沿岸域災害の復興減災期における土地利用管理—カンタベリー地震、ハリケーン・サンディ、東日本大震災を事例として—	近藤 民代、井内 加奈子、馬場美智子、マリ エリザベス	日本都市計画学会都市計画報告集	19	5	5	12	20200531
4	英語	筆頭共著	国外	はい	学術雑誌	有	いいえ	Advances of International Collaboration on M9 Disaster Science: Scientific Session Report	E. Maly, K. Terada, R. LeVeque, N. Kuriyama, D. Abramson, L. Nguyen, A. Bostrom, J. León, M. Motley, P. Catalan, S. Koshimura, S. Moriguchi, Y. Yamaguchi, C. Garrison-Lancy, A. Suppasri, E. Mas	Journal of Disaster Research	15	7	890	899	20201201
5	英語	共著	両方	はい	学術雑誌	有	いいえ	Towards a Comparative Framework of Adaptive Planning and Anticipatory Action Regimes in Chile, Japan, and the US: An Exploration of Multiple Contexts Informing Tsunami Risk-Based Planning and Relocation	N. Kuriyama, E. Maly, J. León, D. Abramson, L. Nguyen, and A. Bostrom	Journal of Disaster Research	15	7	878	889	20201201
6	英語	単著	国外	はい	学術雑誌	有	はい	Ten Years into Recovery after the Great East Japan Earthquake: Evaluation by Post-2015 Frameworks	E. Maly	International Journal Sustainable Future for Human Security	7	3	44	57	2020
7	英語	筆頭共著	国外	はい	学術雑誌	有	いいえ	Voices from communities relocated to Tacloban North after Typhoon Yolanda	E. Maly, A. Sakurai, F. Aure, M. C. I. Caintic and K. Iuchi	IOP Conference Series: Earth and Environmental Science	630				20210112
8	英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Impacts of collective housing relocation in the Ogatsu area of Ishinomaki City after the 2011 Great East Japan Earthquake and Tsunami	A. Miyasada and E. Maly	IOP Conference Series: Earth and Environmental Science	630				20210112
9	英語	筆頭共著	国内	はい	学術雑誌	有	はい	Disaster Museums in Japan: Telling the Stories of Disasters Before and After 3.11	E. Maly and M. Yamazaki	Journal of Disaster Research	16	2	146	156	202102

著書(監修・編集・単著・共著)

監修編集	0	単著	1	筆頭共著	0	共著	0	合計	1
------	---	----	---	------	---	----	---	----	---

うち	国際	0	国内	1
----	----	---	----	---

記述言語	著書名および担当執筆題名	種別	発行年月日	著者・監修者氏名	区分	出版社名	所外連携	発行部数
1	日本語 「よりよい住宅復興とは—国際比較」(『東日本大震災からのスタート:災害を考える51のアプローチ』第47章, pp193-196)	編集本(著者・Author)	20210311	マリ エリザベス (東北大学災害科学国際研究所)	単著	東北大学出版会	なし	1400

総説・解説(大学紀要・学術雑誌・学会誌・商業雑誌など)

単著	2	筆頭共著	0	その他の共著	0	合計	2
----	---	------	---	--------	---	----	---

うち	国際査読有	0	国際査読無	2	国内査読有	0	国内査読無	0
----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

記述言語	題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	区分	所外連携
1	英語	Locating the Risk on Foreign Shores: The Making of "Covid-Safe" Japan	その他	無	はい	Teach 3.11+ Covid 19				20200709	E. Maly	単著	国外
2	英語	Invisible half-lives and mutating viruses: Japan's response to risk and (un)knowability after 3.11 and during the COVID-19 pandemic	その他	無	はい	Teach 3.11+ Covid 19				20210311	E. Maly	単著	国外

学会発表

単名	4	筆頭連名	0	その他の連名	0	合計	4
----	---	------	---	--------	---	----	---

国内国際	会議名称	会議のチェア	区分	招待	講演・発表の形態	会場名	開催都市名	開催国名	開催期間		発表年月日	題目名(原語)	連名者名(発表者に下線)		
									開始年月	終了年月					
1	国内	災害復興の研究会(大阪弁護会)		斎藤浩	単名	はい	指名/シンポジウム・ワークショップ・パネル	オンライン	大阪	日本	2020806	2020806	2020806	アメリカに起きる災害後の支援:歴史、論理、事例	<u>マリ エリザベス</u>
2	国内	Webinar: International Dialogue on Disasters and Community Resilience		Shumei Huang	単名	はい	指名/シンポジウム・ワークショップ・パネル	オンライン	台北	台湾	20201215	20201215	20201215	Community based disaster reconstruction after 2010 Mt Merapi volcanic eruption in Yogyakarta	<u>マリ エリザベス</u>
3	国内	第15回災害復興支援に関する全国協賛会(日本弁護士連合会)		津久井 進	単名	はい	口頭(Keynote)	仙台弁護士会館	仙台	日本	20210301	20210301	20210301	アメリカの住宅復興に向かう災害ケースマネージメント	<u>マリ エリザベス</u>
4	国内	災害語り継ぎフォーラム2021		小林郁雄	単名	はい	指名/シンポジウム・ワークショップ・パネル	人と防災未来センター	神戸	日本	20210314	20210314	20210314	パネルディスカッション:語り継ぎをつなぐために	<u>マリ エリザベス</u>



学術会議・シンポジウム等の主催・共催・運営等

合計 5 件

	国内 国際	種別	主催団体名・運営 団体名等	イベント名称	開催期間		会場	開催 都市名	開催 国名	参加人数 (のち人数)	分野	担当	IRIDeSの 関与	共催機関名	所外 連携
					開始年月	終了年月									
1	国際	シンポジウム	IRIDeS and UCLA (ArcDR3)	ArcDR3 Forum Vol.1: New Agendas for Regenerative Urbanism	20200626	20200626	オンライン			200	工学	Organizing Committee, Session Chair	IRIDeS共催	UCLA (ArcDR3)	国外
2	国際	セミナー	APRU	Bottom-up Community Resilience during and beyond COVID-19: Part 1	20200706	20200706	オンライン			60	人文社 会系	Co-Organizer	なし	APRU	国外
3	国際	セミナー	APRU	Bottom-up Community Resilience during and beyond COVID-19: Part 2	20200707	20200707	オンライン			50	人文社 会系	Co-Organizer	なし	APRU	国外
4	国際	セミナー	IRIDeS, Berlin Free University, Tohoku Forum for Creativity	Pre-Event 1 (Collaboration with Berlin Science Week): Learning from disasters for a resilience society: Experiences from the Great East Japan earthquake and tsunami and COVID-19 pandemic	20201102	20201102	オンライン			70	人文社 会系	Organizing Committee	IRIDeS共催	Berlin Free University, Tohoku Forum for Creativity	国外
5	国際	シンポジウム	IRIDeS and UCLA (ArcDR3)	ArcDR3 Vol. 2 "Learning from Tohoku"	20210306	20210306	オンライン			80	人文社 会系	Organizer, Moderator, Session Chair	IRIDeS共催	UCLA (ArcDR3)	国外

C. 教育活動

教育活動の概要

This year I taught and organized multiple lectures and classes, including within Tohoku University and at other universities in Japan and in other countries. At Tohoku University, I gave one lecture for students in the JYPE program, and one lecture in the disaster science course. In addition, I coordinated a one-day seminar and lectured as part of the GP professional development class for medical practitioners offered in collaboration with Tohoku University Faculty of Medicine and IRIDeS. In addition to guest lectures in other universities in Japan (Hitotsubashi University) and abroad (Chiang Mai University, Thailand), I was also involved in various activities related to architecture studio courses as part of the ArcDR3 collaboration. This included a lecture for the ArcDR3 studio at UCLA, and being a guest instructor for the ArcDR3 studio at the University of Washington in Seattle, from Jan 2021-March 2021.

担当授業科目(他大学を含む)

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・学 期	コマ数 90分/コマ
1	自然災害科学の基礎と防災への適用	東北大学	工学部		3	1セメ	1
2	災害国際協力セミナー	東北大学	医療			1セメ	2
3	Architecture Studio (ARCDR3)	UCLA	建築物	建築物		1セメ	1
4	災害研全学教育科目「災害の科学」	東北大学	全学			1セメ	1
5	Architecture Doctoral Seminar	Chiang Mai University	Architecture Dept	建築物		1セメ	1
6	Architecture Studio (ARCDR3)	ワシントン大学	College of Built Environment	建築物・都市計画		後期	8
7	Comparative Culture	一橋大学	全学			1セメ	2

D. 社会活動

社会活動の概要

In the past year, I coordinated, organized and participated in various events, including public symposiums and research meetings. Through these events, various information was shared about disaster mitigation and recovery, from experiences in Japan and other countries. I had many occasions to exchange information about Japan and Tohoku recovery with international audiences and colleagues through various public and academic events and lectures, especially on the occasion of the 10 year anniversary of the Great East Japan Earthquake. In addition, I was engaged in many activities focusing on building stronger connections between researchers from inside and outside Japan with IRIDeS.

一般向けセミナー・講演等の主催・共催・運営等(研究活動以外)

合計 1 件

	国内 国際	主催団体名・ 運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場名	開催 都市名	開催 国名	担当	参加 人数	IRIDeSの 関与	講演会・セミナー等
				開始年月日	終了年月日							
1	国際	IRIDeS・いわて TSUNAMIメモリアル	三陸TSUNAMIウェビナー	20201212	20201212	いわて TSUNAMI メモリアル	陸前高田市	日本	運営委員、 司会者	10	IRIDeS主催・ 共同主催	シンポジウム

講演・講義等(研究活動以外)

合計 4 件

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	連携	主催者	会場名	開催 都市名	開催 国名	参加人数
				開始年月日	終了年月日							
1	公開講座	市民のためのサイエンス 講座2020	招待講演	20201211	20201211	震災10年 災害科学からの知見を未来に ——レジリエント社会構築のために	なし	読売新聞・東 北大学	オンライン・ IRIDeS	仙台	日本	500
2	公開講座	21世紀文明シンポジウム 「東日本大震災から10年 ～復興の教訓と未来への 展望」	パネリスト	20210121	20210121	東日本大震災からの復興 最初の10年について	なし	兵庫21世紀研 究機構	オンライン・ 東北大学萩 ホール	仙台	日本	500
3	公開講座	東日本大震災から10年と これから	パネリスト	20210307	20210307	東日本大震災 10年シンポジウム	なし	IRIDeS	オンライン・ 仙台国際セン ター	仙台	日本	100
4	セミナー	第6回首都直下地震時の 災害ボランティア活動 2021連携ワークショップ	コメンテ ーター	20210221	20210221	コメント	なし	東京都ボラン ティアセン ター	オンライン	東京	日本	200

# 山下 啓 准教授

## YAMASHITA Kei

寄附部門 地震津波リスク評価(東京海上日動) 寄附研究部門

### A. 基本情報・略歴

#### 出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	鹿児島大学	工学部	2009	3	鹿児島大学大学院	理工学研究科	2014	3	博士(工学)	2014	3

#### 職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	2014	4	2015	9	東北大学 災害科学国際研究所 災害リスク研究部門	産学官連携研究員
2	2015	10	2018	1	東北大学 災害科学国際研究所 地震津波リスク評価(東京海上日動) 寄附研究部門	助教
3	2018	2	2018	7	ハワイ大学 Department of Ocean & Resources Engineering	客員研究員
4	2018	8	2018	9	徳島大学 大学院社会産業理工学研究部	学術研究員
5	2018	10	2021	3	東北大学 災害科学国際研究所 地震津波リスク評価(東京海上日動) 寄附研究部門	准教授

#### 学会活動

##### 所属学会

	学会名 1	2	3
	土木学会	自然災害学会	AGU

##### 学会・委員会等での役職

	学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
1	土木学会海岸工学委員会	津波作用に関する研究レビューおよび活用研究小委員会WG4	委員	20160304
2	土木学会海岸工学委員会	津波作用に関する研究レビューおよび活用研究小委員会WG2	委員	20181001

##### 研究分野・キーワード

	専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3	専門分野 4	専門分野 5
	海岸工学	津波工学	自然災害科学	非線形波動	数値シミュレーション

### B. 研究活動

#### 研究活動の概要

1) 津波と土砂移動の研究では、従来の津波土砂移動モデルの流体モデルを混合流体場へ拡張するための新たな定式化によりモデルを高度化した。また、混合流体流れの津波土砂移動モデルと船舶漂流モデル、ならびにオイルタンク漂流モデルを統合して、従来の津波統合モデルの機能拡張および高度化を図った。新たな津波統合モデルを東日本大震災の気仙沼湾で生じた津波氾濫・土砂移動・船舶漂流・オイルタンク漂流の四連成計算に適用して、複数の物理現象が干渉する被害波及プロセスを数値的に評価することができた。2) SIPではリアルタイム高潮高波浸水予測システムの構築と効果的なシステム社会実装に向けた産学官連携の研究開発を推進した。

#### 研究課題

	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	2014	4	現在		津波による土砂移動に関する研究	国内
2	2015	4	現在		津波氾濫-土砂移動-漂流物移動に関する津波統合モデルの開発・高度化に関する研究	国内
3	2016	4	現在		津波による建物群の破壊過程を考慮した実用的な津波氾濫モデルに関する研究	国内
4	2018	4	現在		分散性波動モデルと土砂移動モデルのカップリングに関する研究	両方
5	2015	8	現在		沿岸生態系(藻場・養殖施設)の津波リスク評価手法の構築に関する研究	国内
6	2019	4	現在		リアルタイム高潮高波浸水予測システムの開発に関する研究	国内

#### 論文

単著	0	筆頭共著	1	その他の共著	7	合計	8	うち	国際査読有	2	国際査読無	0	国内査読有	4	国内査読無	2
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

	記述言語	区分	所外連携	国際学術誌	種別	査読	招待論文	論文題目名(原語)	著者氏名(共著者含)	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日
1	日本語	筆頭共著	国内	いいえ	学術雑誌	有	いいえ	海底基盤データを利用した津波移動床解析の改善の試み-仙沼湾での事例-	山下 啓・菅原大助・有川太郎・高橋智幸・今村文彦	土木学会論文集B2(海岸工学)	76	2	1_427	1_432	20200727
2	日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	有	いいえ	巨大津波特性と津波堆積物の土砂供給源に関する数値解析-2004年インド洋大津波と2011年東北地方太平洋沖地震津波-	疋谷亮太・山下 啓・Suppassri Anawat・今村文彦	土木学会論文集B2(海岸工学)	76	2	1_409	1_414	20200727

3	日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	有	いいえ	東日本大震災におけるアマモ場の被害実態と津波外力との関係	木村裕行・Suppasri Anawat・山下 啓・阿部洋士・今村文彦	土木学会論文集B2(海岸工学)	76	2	1_937	1_942	20200727
4	日本語	共著	両方	いいえ	学術雑誌	有	いいえ	米国ワシントン州ディスカバリー湾における1964年アラスカ地震津波による地形変化	渡邊凌生・Suppasri Anawat・今村文彦・山下 啓・Pakoksung Kwanchai・Carrie Garrison-Lancy	土木学会論文集B2(海岸工学)	76	2	1_937	1_942	20200727
5	日本語	共著	国内	いいえ	その他	無	いいえ	徳島県蒲生田大池の津波堆積物に着目した津波シミュレーション	齋藤琢也・武田達・山下啓・馬場俊孝	JpGU-AGU Joint Meeting 2020概要集					HDS08-P16 20200700
6	英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	A numerical solution for the coexisting field of surface and internal solitary waves	Taro Kakinuma, Kei Yamashita	Global Journal of Researches in Engineering: E, Civil and Structural Engineering	20	3	1	11	20200925
7	英語	共著	両方	はい	学術雑誌	有	いいえ	Investigating beach erosion related with its recovery at Phra Thong Island, Thailand caused by the 2004 Indian Ocean tsunami	Ryota Masaya, Anawat Suppasri, Kei Yamashita, Fumihiko Imamura, Chris Gouramanis, and Natt Leclawat	Natural Hazards and Earth System Sciences	20		2823	2841	20201028
8	日本語	共著	国内	いいえ	その他	無	いいえ	満潮位を仮定した徳島県蒲生田大池の津波土砂移動シミュレーション	齋藤琢也・武田達・山下啓・馬場俊孝	日本地震学会2020年度秋季大会講演概要集					S17P-04 20201029

## 著書(監修・編集・単著・共著)

監修	0	編集	0	筆頭共著	0	共著	1	合計	1	うち	国際	0	国内	1
----	---	----	---	------	---	----	---	----	---	----	----	---	----	---

記述言語	著書名および担当執筆題名	種別	発行年月日	著者・監修者氏名	区分	出版社名	所外連携	発行部数
1 日本語	「産業界との連携」『東日本大震災からのスタート:災害を考える51のアプローチ』第51章, pp.209-212	編集本(著者・Author)	20210311	山下啓, サッパシー・アナワット (東北大学災害科学国際研究所)	共著	東北大学出版会	国内	

## 学会発表

単名	1	筆頭連名	2	その他の連名	2	合計	5
----	---	------	---	--------	---	----	---

国内国際	会議名称	会議のチェア	区分	招待	講演・発表の形態	会場名	開催都市名	開催国名	開催期間		発表年月日	題目名(原語)	連名者名(発表者に下線)
									開始年月	終了年月			
1 国際	JpGU-AGU Joint Meeting 2020		その他の連名	いいえ	ポスター(一般)	オンライン	-	日本	20200712	20200716	20200700	徳島県蒲生田大池の津波堆積物に着目した津波シミュレーション	齋藤琢也・武田達・山下啓・馬場俊孝
2 国内	津波解析ハッカソン	高橋智幸	筆頭連名	いいえ	口頭(一般)	オンライン	-	日本	20200901	20200903	20200901-20200903	津波週上に伴う陸域堆積物の形成	山下啓・榎谷亮太・渡邊凌生
3 国内	日本地震学会2020年度秋季大会		その他の連名	いいえ	ポスター(一般)	オンライン	-	日本	20201029	20201031	20201029	満潮位を仮定した徳島県蒲生田大池の津波土砂移動シミュレーション	齋藤琢也・武田達・山下啓・馬場俊孝
4 国内	第67海岸工学講演会	後藤仁志	筆頭連名	いいえ	口頭(一般)	オンライン	-	日本	20201110	20201113	20201113	海底基盤データを利用した津波移動床解析の改善の試みー仙沼湾での事例ー	山下啓・菅原大助・有川太郎・高橋智幸・今村文彦
5 国内	第10回巨大津波災害に関する合同研究会	今村文彦	単名	いいえ	口頭(一般)	オンライン	-	日本	20201217	20201118	20201218	土砂輸送を伴う混合流体の密度変化と運動量輸送を考慮した津波移動床解析	山下啓

## 学術会議・シンポジウム等の主催・共催・運営等

合計 2 件

国内国際	種別	主催団体名・運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場	開催都市名	開催国名	参加人数(%)	分野	担当	IRIDeSの関与	共催機関名	所外連携
				開始年月	終了年月									
1 国内	ワークショップ	土木学会海岸工学委員会津波作用に関する研究レビューおよび活用研究小委員会	津波解析ハッカソン	20200901	20200903	オンライン	-	日本	150	工学	解析班	IRIDeS後援・名義後援	海洋研究開発機構, 京都大学防災研究所	国内
2 国内	研究会	東北大学災害科学国際研究所	第10回巨大津波災害に関する合同研究会	20201217	20201218	オンライン	-	日本	100	工学	実行委員	IRIDeS主催・共同主催	-	なし

## C. 教育活動

## 教育活動の概要

津波による土砂移動をテーマとする修士研究指導を行なった。これまで、陸上津波堆積物の土砂供給源の違い(海起源 or 陸起源)が何に由来するのか不明であったが、卒業研究成果にヒントを得た類似性の高い津波イベントに着目した比較研究を継続して、その因子に関わる重要な知見を得ることができ、古津波復元の高度化に資すると期待される。成果は査読付論文として掲載される他、学会発表された。

## 担当授業科目(他大学を含む)

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・学期	コマ数 90分/コマ
1	沿岸海洋環境工学	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	3	5セメ	1

D. 社会活動

社会活動の概要

防災推進国民大会や仙台防災未来フォーラムでは津波リスク研究や防災教育活動等に関する当部門の取組内容を防災に関心のある多くの方々に広く発信した。津波による土砂移動に関する研究から得られた知見や教訓をテレビ企画(震災特番)に提供して防災啓発に貢献した。また、川崎市で初となる台風高潮災害に関する災害対応訓練(SIPリアルタイム高潮高波浸水予測システムの実証実験)で現場との意見交換を行ない連携を図った。

一般向けセミナー・講演等の主催・共催・運営等(研究活動以外)

合計 4 件

	国内 国際	主催団体名・ 運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場名	開催 都市名	開催 国名	担当	参加 人数	IRIDeSの 関与	講演会・セミナー等
				開始年月日	終了年月日							
1	国内	川崎市総務企画局 危機管理室	SIP「リアルタイム高潮ハザード予測システム」の実証実験	20200728	20200728	川崎市役所	川崎市	日本	オブザーバ	100	なし	その他
2	国内	川崎市・富士通株式会社・東北大学 災害科学国際研究所・東京大学地震 研究所	AIを活用し3密リスクを低減する新型コロナ ウイルス禍での避難所運営の実証実験	20200831	20200831	川崎市立殿 町小学校	川崎市	日本	広報補佐	60	IRIDeS共催	その他
3	国内	防災推進国民大会 2020実行委員会	第5回防災推進国民大会	20201003	20201003	オンライン	広島市	日本	出展		なし	その他
4	国内	主催:仙台市 後援:東北大学災 害科学国際研究 所・宮城県	仙台防災未来フォーラム	20210307	20210307		仙台市	日本	出展		IRIDeS後援・ 名義後援	その他

その他、他機関等との交流実績(国内に限る)

合計 5 件

	交流機関名称	交流者	交流年月日	交流目的	会場名	開催 都市名	主な担当 内容	参加 人数
1	中央大学・関西大学・ 徳島大学・防衛大学 校・気象研究所・富士 通研究所	有川太郎, 高橋智 幸, 馬場俊孝, 嶋 原良典, 大石裕介	20200625	共同研究	オンライン	-	企画	10
2	中央大学	有川太郎	20200718	共同研究	オンライン	-	その他	50
3	川崎市・国技術研究 センター・富士通研究 所	三原宜輝, 岡安徹 也, 有村盾一, 大 石裕介, 竹内駿	20200728	共同研究	川崎市役所	神奈川	その他	100
4	中央大学・関西大学・ 徳島大学・防衛大学 校・気象研究所・富士 通研究所	有川太郎, 高橋智 幸, 馬場俊孝, 嶋 原良典, 大石裕介	20210305	共同研究	オンライン	-	その他	10
5	国技術研究セン ター・沿岸研究セン ター・日本気象協会・ 富士通研究所	岡安徹也, 有村盾 一, 大石裕介, 竹 内駿	多数	共同研究	オンライン	-	その他	10

# 内田 典子 助教

## UCHIDA Noriko

寄附部門 地震津波リスク評価(東京海上日動) 寄附研究部門

### A. 基本情報・略歴

出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	北海道大学	工学部	2015	3	東北大学	工学研究科	2017	3	MSc	2017	3
2					東北大学	工学研究科	2020	3	Ph.D	2020	3

### 職歴

1	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	2020	4	現在		東北大学 災害科学国際研究所 地震津波リスク評価(東京海上日動) 寄附研究部門	助教

### 学会活動

所属学会

	学会名 1	2	3	4
	土木学会	応用生態工学会	日本生態学会	環境DNA学会

### 研究分野・キーワード

	専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3	専門分野 4
	河川工学	Eco-DRR	環境DNA	無脊椎動物

### B. 研究活動

研究活動の概要

災害研所属前に実施した研究の論文化、および災害研所属後にスタートした研究課題のセットアップを主に行った。後者については、採択された3件の研究課題に加え、宮城県沿岸部におけるインフラおよび地域社会と生態系回復の関係を検討する研究デザインを設計した。具体的には、沿岸域に存在する多様な生態系(河口、干潟、塩生湿地、砂浜、波打ち際)を対象とした調査地点の選定、水や砂・堆積物サンプルからの環境DNAを抽出・検出する手法の検討を主に行った。また、研究デザインにおいては、同地域を対象に砂浜植物・昆虫の研究を実施している北海道大学農学部の協力を得た。

### 研究課題

1	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	2020	10	現在		環境DNAを用いた陸・水域の無脊椎動物の多様性および陸域-水域間相互利用度の評価	国内
2	2020	10	現在		ベーシック・インフラ型社会を基盤としたエコタウン構築のための超学際実践研究	国内
3	2020	10	現在		出水時の環境DNA動態に着目した河川水域と河川域の生物相モニタリング手法の開発	国内

### 論文

単著	0	筆頭共著	2	その他の共著	0	合計	2	うち	国際査読有	1	国際査読無	0	国内査読有	1	国内査読無	0
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

	記述言語	区分	所外連携	国際学術誌	種別	査読	招待論文	論文題目名(原語)	著者氏名(共著者含)	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日
1	英語	筆頭共著	なし	はい	学術雑誌	有	いいえ	Aquatic insect community structure revealed by eDNA metabarcoding derives indices for environmental assessment	Uchida, N., Kubota, K., Aita, S., Kazama, S.	PeerJ	8			e9176	20200611
2	日本語	筆頭共著	なし	いいえ	学術雑誌	有	いいえ	水生昆虫群集構造の時系列遷移観測手法としての環境DNAメタバーコーディング解析の可能性	内田典子, 久保田健吾, 会田俊介, 風間聡	応用生態工学	23	1	21	36	20200928

### 学会発表

単名	1	筆頭連名	1	その他の連名	0	合計	2
----	---	------	---	--------	---	----	---

1	国内国際	会議名称	会議のチェア	区分	招待	講演・発表の形態	会場名	開催都市名	開催国名	開催期間		発表年月日	題目名(原語)	連名者名(発表者に下線)
										開始年月	終了年月			
1	国内	環境DNA学会		筆頭連名	いいえ	ポスター(一般)	オンライン	仙台	日本	20201114	20201116	20201115	Estimating the abundance of multiple taxa in the macroinvertebrate community using metabarcoding and quantitative PCR	Noriko UCHIDA, Kengo KUBOTA, Shunsuke AITA, So KAZAMA
2	国際	1er Encuentro Internacional "Construcción y uso de indicadores biológicos de calidad de agua en base a macroinvertebrados acuáticos en el sistema TDPS: Experiencias y desafíos"		単名	はい	口頭(招待)	オンライン	ラバス	ボリビア	20200909	20200909	20200909	Can environmental DNA targeting macroinvertebrate provide the environmental assessment index?	Noriko UCHIDA

## D. 社会活動

## 社会活動の概要

国立研究開発法人産業技術総合研究所が継続して調査・研究を行ってきたフィールド(廃鉱山下流河川)において、内田がもっている水生昆虫を対象とした環境DNA分析の手法を適用し、新たな河川金属影響評価方法の開発および河川生態学研究の推進に向けた共同研究を開始した。2020年度はオンラインによる研究ミーティングおよび現地踏査を兼ねたサンプリングを行った。

## その他、他機関等との交流実績(国内に限る)

合計 1 件

	交流機関名称	交流者	交流年月日	交流目的	会場名	開催都市名	主な担当内容	参加人数
1	国立研究開発法人 産業技術総合研究所	内田典子	20201109	共同研究	岩手県西和賀市 和賀川流域(現地踏査・サンプリング)	岩手県西和賀町	その他	2

# 宮本 龍 助手

## MIYAMOTO Ryu

寄附部門 地震津波リスク評価(東京海上日動) 寄附研究部門

### A. 基本情報・略歴

出身大学・大学院

1	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
	慶應義塾大学	理工学部	2006	3	慶應義塾大学大学院	理工学研究科	2008	3	修士(工学)	2008	3

### 職歴

1	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	2008	4	2011	3	東京海上日動リスクコンサルティング株式会社 自然災害リスクグループ	研究員
2	2011	4	2014	3	東京海上日動リスクコンサルティング株式会社 企業財産事業部 リスクモデリンググループ	主任研究員
3	2014	4	2017	3	Tokio Marine Insurance (Thailand) PCL. Commercial Lines Underwriting Dept.	Senior Risk Engineer
4	2017	4	2017	6	東京海上日動リスクコンサルティング株式会社 企業財産本部 リスク定量化ユニット	シニアリスクアナリスト
5	2017	7	2019	3	東京海上日動リスクコンサルティング株式会社 企業財産本部 リスク定量化ユニット	エキスパートリスクアナリスト
6	2019	4	2021	3	東北大学災害科学国際研究所 地震津波リスク評価(東京海上日動) 寄附研究部門	助手

### 学会活動

所属学会

学会名 1	2	3	4
土木学会	日本建築学会	自然災害学会	Asia Oceania Geosciences

### 研究分野・キーワード

専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3
地震津波リスク	フラジリティ評価	確率論的リスク定量化

### B. 研究活動

研究活動の概要

産業を対象とした津波リスクの定量評価手法の高度化として、①企業の建物以外の資産を対象とした津波損傷度曲線に関する17WCEEへの投稿が受理されProceedingsに掲載された。②建築年代を考慮した津波被害関数に関する土木学会論文集への投稿が受理・掲載され、11月に発表した。③建築年代を考慮可能な津波損傷度評価手法について、巨大津波災害に関する合同研究会において成果を発表した。④地震動を考慮した津波被害関数を構築し、自然災害学会学術講演会において成果を発表した。⑤防災推進国民大会、巨大津波災害に関する合同研究会、仙台防災未来フォーラムでのブース出展につき、それぞれ企画・運営・展示対応を担当した。

### 研究課題

1	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
	2019	4	現在		産業を対象とした津波リスクの定量評価手法の高度化	国内

### 論文

単著	0	筆頭共著	2	その他の共著	1	合計	3	うち	国際査読有	2	国際査読無	0	国内査読有	1	国内査読無	0
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

記述言語	区分	所外連携	国際学術誌	種別	査読	招待論文	論文題目名(原語)	著者氏名(共著者含)	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日
英語	筆頭共著	国内	はい	国際会議 Proceedings	有	いいえ	TSUNAMI FRAGILITY ANALYSIS FOR INDUSTRIAL AND COMMERCIAL PROPERTIES	Ryu Miyamoto, Ichiro Sato, Satoru Masuda, Anawat Suppasri, Fumihiko Imamura	2020 17WCEE Proceedings				54-0012	20200917
英語	共著	国外	はい	国際会議 Proceedings	有	いいえ	FRAGILITY FUNCTIONS OF BUILDINGS UNDER ONLY TSUNAMI LOAD IN INDONESIA: A CASE STUDY OF THE 2018 SUNDA STRAIT TSUNAMI	Anawat Suppasri, Kwanchai Pakoksung, Syamsidik Syamsidik, Panon Latcharote, Ryu Miyamoto, Fumihiko Imamura	2020 17WCEE Proceedings				54-0001	20200917
日本語	筆頭共著	なし	いいえ	学術雑誌	有	いいえ	建築年代を含めた建物津波被害の実態分析とそれを考慮した津波被害関数	宮本 龍, Anawat SUPPASRI, 今村文彦	土木学会論文集B2(海岸工学)	76	2	709	714	20201104

### 学会発表

単名	1	筆頭連名	2	その他の連名	0	合計	3
----	---	------	---	--------	---	----	---

国内国際	会議名称	会議のチェア	区分	招待	講演・発表の形態	会場名	開催都市名	開催国名	開催期間		発表年月日	題目名(原語)	連名者名(発表者に下線)
									開始年月	終了年月			
国内	土木学会第67回海岸工学講演会	小竹康夫	筆頭連名	いいえ	口頭(一般)	オンライン	岐阜	日本	20201110	20201113	20201112	建築年代を含めた建物津波被害の実態分析とそれを考慮した津波被害関数	宮本龍, Anawat SUPPASRI, 今村文彦
国内	第10回巨大津波災害に関する合同研究会	楠本聡	単名	いいえ	口頭(一般)	オンライン	仙台	日本	20201217	20201218	20201218	建築年代を考慮可能な津波ベース係数を利用した津波損傷度評価の手法	宮本龍
国内	第39回日本自然災害学会学術講演会	竹之内健介	筆頭連名	いいえ	口頭(一般)	オンライン	熊本	日本	20210319	20210320	20210320	地震動の大きさを考慮した津波被害関数に関する一検討	宮本龍, サッパシーアナワット, 今村文彦

学術会議・シンポジウム等の主催・共催・運営等

合計 3 件

	国内 国際	種別	主催団体名・運営 団体名等	イベント名称	開催期間		会場	開催 都市名	開催 国名	参加人数 (うち外国人)	分野	担当	IRIDeSの 関与	共催機関名	所外 連携
					開始年月	終了年月									
1	国内	シンポジウム	内閣府	防災推進国民大会2020	20201003	20201003	オンライン	広島	日本	9,936	工学	Webコンテンツ 作成、展示説明	IRIDeS展示	東京海上日動火災 保険株式会社・ 東京海上日動リス クンサルティン グ株式会社	国内
2	国内	研究会	「第10回巨大津波 災害に関する合同 研究会」実行委 員会	第10回巨大津波災害に関する合 同研究会	20201217	20201218	オンライン	仙台	日本	138 (9)	工学	セッション座長	IRIDeS主催・共 同主催		国内
3	国内	シンポジウム	仙台市	仙台防災未来フォーラム	20191110	20191110	仙台国際センター	仙台	日本	3700	工学	展示説明	IRIDeS展示	東京海上日動火災 保険株式会社・ 東京海上日動リス クンサルティン グ株式会社	国内

C. 教育活動

教育活動の概要

本年度は直接的な指導学生はいなかったが、論文指導の一部を実施した学部学生の成果につき、土木学会東北支部で連名で発表を行った。

D. 社会活動

社会活動の概要

①5つのイベントで企画運営等を担当した。②東京海上日動火災保険「防災・減災サイト」の監修を務めた。④経産省・防災ISO事業について、提案・入札対応業務、受託後の事務局業務（事業の趣旨説明と理解を得るための学内外調整、議事・情報共有、WBFプレイベント参画、WBF企画セッション開催支援、外注対応、防災ISO委員会の企画運営、調査報告書作成、等）を担当した。

一般向けセミナー・講演等の主催・共催・運営等(研究活動以外)

合計 5 件

	国内 国際	主催団体名・ 運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場名	開催 都市名	開催 国名	担当	参加 人数	IRIDeSの 関与	講演会・セミナー等
				開始年月日	終了年月日							
1	国内	東北大学災害科学国 際研究所	第1回防災ISO委員会	20200603	20200603	オンライン	仙台	日本	企画・運営事務局	69	IRIDeS主催・ 共同主催	その他
2	国内	東北大学災害科学国 際研究所	第2回防災ISO委員会	20201022	20201022	オンライン	仙台	日本	企画・運営事務局	93	IRIDeS主催・ 共同主催	その他
3	国内	東北大学災害科学国 際研究所	第3回防災ISO委員会 第二部:防災ISO 個別規格・関連活動連絡会	20201210	20201210	オンライン	仙台	日本	企画・運営事務局	102	IRIDeS主催・ 共同主催	その他
4	国内	東北大学災害科学国 際研究所	防災ISO委員会 広報・地域連携TG第2 回会合	20201224	20201224	オンライン	仙台	日本	企画・運営事務局	39	IRIDeS主催・ 共同主催	その他
5	国内	東北大学災害科学国 際研究所	第4回防災ISO委員会 第二部:防災ISO 個別規格・関連活動連絡会	20210218	20210218	オンライン	仙台	日本	企画・運営事務局	100	IRIDeS主催・ 共同主催	その他

自治体・民間等での委員

	区分	組織・団体名	委員会名	委員・役職名	開始年月日
1	民間・NPO	東京海上日動火災保険	東京海上日動火災保険「防災・減災サイト」監修	監修担当	20200601

その他、他機関等との交流実績(国内に限る)

合計 28 件

	交流機関名称	交流者	交流年月日	交流目的	会場名	開催 都市名	主な担当 内容	参加 人数
1	東京海上日動火災保険	長村フェロー、他	20200414	会議	オンライン	東京	企画	15
2	仙台市産業振興課	神倉課長、他	20200422	会議	オンライン	仙台	その他	7
3	内閣府防災担当	山田参事官、他	20200424	会議	オンライン	東京	その他	12
4	博報堂	辻田様、他	20200430	会議	オンライン	東京	その他	7
5	東京海上日動火災保険	飯豊様、他	20200513	会議	オンライン	東京	その他	7
6	経済産業省	吉田様、他	20200515	会議	オンライン	東京	その他	11
7	三菱商事インシュアラン ス、他	小野様、他	20200820	会議	オンライン	仙台	運営	21
8	日本規格協会	内田理事、他	20200824	会議	オンライン	仙台	企画	11



9	博報堂	辻田様、他	20200908	会議	オンライン	東京	企画	6
10	三菱商事インシュアランス、他	小野様、他	20200917	会議	オンライン	仙台	運営	21
11	JERA	中川様、他	20200918	会議	オンライン	仙台	企画	11
12	三菱商事インシュアランス、他	小野様、他	20201015	会議	オンライン	仙台	運営	21
13	東京海上日動火災保険	嶋田様、他	20201020	会議	オンライン	仙台	企画	4
14	三菱商事インシュアランス、他	小野様、他	20201119	会議	オンライン	仙台	運営	23
15	UNDRR	松岡様、他	20201127	会議	オンライン	東京	その他	6
16	経済産業省	森山様、他	20201201	会議	オンライン	東京	企画	4
17	経済産業省	俣野様、他	20201216	会議	経済産業省本館	東京	企画	8
18	経済産業省	高桑様、他	20201216	会議	経済産業省別館	東京	企画	17
19	日本経済新聞	渡辺様、他	20201201	会議	オンライン	仙台	その他	3
20	UNDRR	サンジャヤ様、他	20201216	会議	オンライン	東京	その他	7
21	三菱商事インシュアランス、他	小野様、他	20201217	会議	オンライン	仙台	運営	23
22	JERA	中川様、他	20210126	会議	オンライン	仙台	運営	7
23	東京海上日動火災保険	嶋田様、他	20210126	会議	オンライン	仙台	運営	5
24	東京海上日動火災保険	室谷様、他	20210128	会議	東京海上日動仙台支店	仙台	運営	4
25	日本政策投資銀行	蛭間様、他	20210210	会議	オンライン	東京	運営	7
26	経済産業省	森山様、他	20210218	会議	オンライン	仙台	運営	8
27	日本政策投資銀行	蛭間様、他	20210225	会議	オンライン	仙台	運営	8
28	日本規格協会	山崎様、他	20210304	会議	オンライン	仙台	運営	8

## 保田 真理 プロジェクト講師

YASUDA Mari

寄附部門 地震津波リスク評価(東京海上日動) 寄附研究部門

## A. 基本情報・略歴

## 出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	甲南大学	文学部	1980	3					学士		3

## 職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	1980	4	1982	12	(株)関西総合電子計算センター 総務部	社員
2	1999	9	2012	9	東北大学大学院工学研究科 附属災害制御研究センター	研究支援員
3	2012	10	2017	3	東北大学災害科学国際研究所	助手
4	2017	4	現在		東北大学災害科学国際研究所	シニア研究員

## 学会活動

## 所属学会

	学会名 1
	日本自然災害学会

## 研究分野・キーワード

	専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3	専門分野 4	専門分野 5
	自然災害科学	コミュニケーション心理学	児童教育	国際連携	教育ツール開発

## B. 研究活動

## 研究活動の概要

国内外で減災意識啓発活動に取り組んでいる。今年度はコロナ禍で出前授業は静岡県内3校と宮城県大崎市1校にとどまっているが、オンライン教育時代への対応も必要視される中、オンデマンド教材の作成に着手した。また、これまでの実施効果を検証する論文に取り組み現在論文は投稿中。

## 研究課題

	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	2012	10	現在		減災社会構築を促進する意識啓発教育の効果的な手法に関する研究	両方
2	2015	4	現在		効果的な防災教育ツール開発に関する研究	両方
3	2017	4	現在		減災社会を促進する女性の役割に関する研究	両方
4	2019	4	現在		防災活動に従事する集団をシティズンサイエンティストとして定義する研究	国内
5	2020	4	現在		減災教育プログラムのオンデマンド化	両方

## 著書(監修・編集・単著・共著)

監修	0	編集	0	単著	1	筆頭共著	0	共著	0	合計	1	うち	国際	0	国内	1
----	---	----	---	----	---	------	---	----	---	----	---	----	----	---	----	---

	記述言語	著書名および担当執筆題名	種別	発行年月日	著者・監修者氏名	区分	出版社名	所外連携	発行部数
1	日本語	「次世代に伝える減災教育」(『東日本大震災からのスタート:災害を考える51のアプローチ』第29章, pp117-120)	編集本(著者・Author)	20210311	保田真理 (東北大学災害科学国際研究所)	単著	東北大学出版会	なし	1400

## 学会発表

単名	1	筆頭連名	1	その他の連名	0	合計	2
----	---	------	---	--------	---	----	---

	国内 国際	会議名称	会議の チェア	区分	招待	講演・発表の形態	会場名	開催 都市名	開催 国名	開催期間		発表 年月日	題目名(原語)	連名者名 (発表者に下線)
										開始年月	終了年月			
1	国内	巨大津波災害に関する合同研究会2020		単名	いいえ	口頭(一般)	東北大学	仙台	日本	20201217	20201218	20201218	サステイナブルな減災意識の向上を目指す教育手法	保田真理
2	国内	自然災害学会第39回大会	矢守	筆頭連名	いいえ	口頭(一般)	熊本大学	熊本	日本	20200319	20200320	20200320	減災意識向上と減災行動につながる教育手法の改善-withコロナの時代でも持続性を保持するために-	保田真理, 邑本俊亮

## D. 社会活動

## 社会活動の概要

男女共同参画の視点から、全国の女性防災士ネットワークの構築を図るとともに、女性防災士が地区防災計画に積極的に参加できるように助言を行なっている。

## 一般向けセミナー・講演等の主催・共催・運営等(研究活動以外)

合計 1 件

No.	国内 国際	主催団体名・ 運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場名	開催 都市名	開催 国名	担当	参加 人数	IRIDeSの 関与	講演会・セミナー等
				開始年月日	終了年月日							
1	国内	特定非営利法人 日本防災士会	第1回女性防災推進局オンラインシン ポジウム	20200227	20200227	オンライン	仙台市	日本	議長	170	IRIDeS協力	シンポジウム

## 講演・講義等(研究活動以外)

合計 9 件

No.	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	連携	主催者	会場名	開催 都市名	開催 国名	参加人数
				開始年月日	終了年月日							
1	小中高との連携	「結」プロジェクト	講義	202020201105	20201105	減災ってなあに？	小中高	下田市教育 委員会	下田市立稲生 沢小学校	下田市	日本	28
2	小中高との連携	「結」プロジェクト	講義	202020201105	20201105	減災ってなあに？	小中高	下田市教育 委員会	下田市立下田 小学校	下田市	日本	35
3	小中高との連携	「結」プロジェクト	講義	202020201106	20201106	減災ってなあに？	小中高	下田市教育 委員会	下田市立朝日 小学校	下田市	日本	46
4	小中高との連携	「結」プロジェクト	講義	202020201127	20201127	減災ってなあに？	小中高	大崎市教育 委員会	古川南中学校	下田市	日本	150
5	講演会	令和2年度山形県防 災フォーラム	講演	20200928	20200928	地域の減災力 ー住民全員の意識で高めるー	行政	山形県	山形県庁	山形市	日本	250
6	講演会	「三金会」7月例会	講演	20200717	20200717	わかりやすく伝える ー防災意識と減災行動ー	企業	在仙メディア	江陽グランドホ テル	仙台市	日本	30
7	セミナー	令和2年度 山元町総合防災訓 練事前研修	講義	20200930	20200930	コロナ禍での避難所運営について	行政	山元町	山元町中央公 民館	山元町	日本	120
8	セミナー	令和2年度 大崎市岩出山地区 公民館防災研修	講義	20201023	20201023	ハザードマップを避難行動に活かす	行政	大崎市立公 民館	大崎市岩出山 地区公民館	大崎市	日本	22
9	講演会	令和2年度 オール甲南の集い	講演	20201025	20201025	「いざ」に備えて「いま」を生きる	なし	甲南大学同 窓会	ボートピアホテ ル(オンライン)	神戸市	日本	8600

## 自治体・民間等での委員

No.	区分	組織・団体名	委員会名	委員・役職名	開始年月日
1	地方自治体	多賀城市	多賀城市立小・中学校防災主任会	委員	201506
2	地方自治体	岩沼市	岩沼市立保育園・小学校・中学校防災主任会	委員	201606
3	民間・NPO	特定非営利法人 日本防災士会	倫理審査委員会	委員	202008

## その他、他機関等との交流実績(国内に限る)

合計 1 件

No.	交流機関名称	交流者	交流年月日	交流目的	会場名	開催 都市名	主な担当 内容	参加 人数
1	中部サイエンスネット ワーク	保田真理	20200822	講演	静岡県地震防災センター	静岡市	講演・発表	50

# 吉見 瑤子 助手

## YOSHIMI Yoko

寄附部門 都市直下地震災害(応用地質) 寄附研究部門

## A. 基本情報・略歴

出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	九州大学	理学部	2013	3	京都大学	理学研究科	2015	3			

## 職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	2015	4	2019	10	応用地質株式会社 エネルギー事業部	主担
2	2019	11	現在		東北大学 災害科学国際研究所 都市直下地震災害(応用地質) 寄附研究部門	助手

## 学会活動

所属学会

学会名 1	2
応用地質学会	日本活断層学会

## 研究分野・キーワード

専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3
活断層研究	地震地質学	第四紀学

## B. 研究活動

研究活動の概要

都市直下地震災害(応用地質) 寄附研究部門の助手として活動。2016年熊本地震の既往研究をレビューし、各研究の主張、方向性を取りまとめた。既往文献をレビューする上で、地震が引き起こす建物被害の要因について地表地震断層位置や地質分布との関係性に焦点を当てGISを用いた解析を実施した。その成果については2020年日本活断層学会秋季大会にてポスター発表をし若手優秀講演賞を受賞した。現在は論文投稿に向けてGIS解析、文献のとりまとめの作業を実施している。

## 研究課題

	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	2019年	4	現在		平成28年(2016年)熊本地震における建物被害と要因の検討	国内

## 学会発表

単名	0	筆頭連名	1	その他の連名	0	合計	1
----	---	------	---	--------	---	----	---

	国内国際	会議名称	会議のチェア	区分	招待	講演・発表の形態	会場名	開催都市名	開催国名	開催期間		発表年月日	題目名(原語)	連名者名(発表者に下線)
										開始年月	終了年月			
1	国内	日本活断層学会2020年度秋季学術大会	なし	筆頭連名	いいえ	ポスター(一般)	富山大学	富山	日本	20201122	20201123	20201123	平成28年(2016年)熊本地震における建物被害と地表地震断層分布の関係について	吉見瑤子・遠田晋次

## C. 教育活動

教育活動の概要

当研究部門には学生が配属されないため教育活動はなし。自然災害ゼミに参加。

## 乗松 君衣 助手

## NORIMATSU Kimie

寄附部門 都市直下地震災害(応用地質) 寄附研究部門

## A. 基本情報・略歴

## 出身大学・大学院

出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
		年	月			年	月		年	月
1 京都文教大学	人間学部	2004	3	京都大学大学院	理学研究科	2008	3	修士(理学)	2008	3

## 職歴

開始年	期間		終了年	月	勤務先	職名
	開始年	月				
1	2012	4	2016	3	応用地質株式会社 震災復興本部	職員
2	2016	4	2019	11	応用地質株式会社 地震防災事業部	主担
3	2019	11	現在		東北大学災害科学国際研究所 都市直下地震災害(応用地質) 寄附研究部門	助手

## 学会活動

## 所属学会

学会名	1	2
日本地震学会	日本地球惑星科学連合	

## 研究分野・キーワード

専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3
地球物理学	地震学	強震動

## B. 研究活動

## 研究活動の概要

内陸活断層地震の震源近傍の強震動予測手法の高度化をすすめるにあたり、2016年熊本地震を例に、断層モデルの設定方法および強震動計算手法の検討を行っている。今年度は主に断層モデルの設定手法の検討を行い、断層近傍の強震動には断層浅部の構造や形状が大きく影響しており、断層モデル形状の推定には地表地震断層や活断層のような地質学・地形学的情報が有効であることが示唆された。これらの検討および成果について、2020年11月の日本地震学会秋季大会にて学会発表を行った。

## 研究課題

開始年	期間		終了年	月	研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月				
1	2019	11	現在		内陸活断層による永久変位をともなう強震動に対する断層ごく近傍の強震動予測手法の高度化の検討	国内

## 学会発表

単名	0	筆頭連名	1	その他の連名	0	合計	1
----	---	------	---	--------	---	----	---

国内	国際	会議名称	会議の	区分	招待	講演・発表の形態	会場名	開催都市名	開催国名	開催期間		発表年月日	題目名(原語)	連名者名(発表者に下線)
										開始年月	終了年月			
1	国内	日本地震学会2020年度秋季学術大会	綿田辰吾	筆頭連名	いいえ	ポスター(一般)	オンライン	オンライン	日本	20201029	20201031	20201030	浅部構造を考慮した断層近傍の強震動予測モデルの設定方法の検討 - 2016年熊本地震を例として	<u>乗松君衣</u> , 遠田晋次

## D. 社会活動

## 社会活動の概要

応用地質株式会社との連携により内陸活断層による断層ごく近傍の強震動予測に関する研究をすすめている。おおよそ1か月に1回の頻度で研究の進捗に関する報告を行い、2020年9月には応用地質株式会社社長ほか役員への報告を行った。なお、会議の日程調整、議事録のとりまとめ等、運営の補助を行っている。

## その他、他機関等との交流実績(国内に限る)

合計	13 件
----	------

交流機関名称	交流者	交流年月日	交流目的	会場名	開催都市名	主な担当内容	参加人数
1 応用地質株式会社	大山洋一, 曾根好徳, 松山尚典, 岡田真介	20200417	会議	オンライン	仙台・埼玉ほか	講演・発表	7
2 応用地質株式会社	大山洋一, 曾根好徳, 松山尚典, 岡田真介	20200519	会議	オンライン	仙台・埼玉ほか	講演・発表	7
3 応用地質株式会社	大山洋一, 曾根好徳, 松山尚典, 岡田真介	20200617	会議	オンライン	仙台・埼玉ほか	講演・発表	7

4	応用地質株式会社	大山洋一, 曾根好徳, 松山尚典	20200717	会議	オンライン	仙台・埼玉ほか	講演・発表	6
5	応用地質株式会社	曾根好徳, 松山尚典	20200818	会議	オンライン	仙台・埼玉ほか	講演・発表	5
6	応用地質株式会社	大山洋一, 曾根好徳, 松山尚典	20200909	会議	オンライン	仙台・埼玉ほか	講演・発表	6
7	応用地質株式会社	成田賢, 五十嵐崇博, 中川渉, 市川八州夫, 松山尚典, 大山洋一, 曾根好徳	20200917	会議	災害科学国際研究所	仙台	講演・発表	12
8	応用地質株式会社	大山洋一, 曾根好徳, 松山尚典	20201013	会議	オンライン	仙台・埼玉ほか	講演・発表	6
9	応用地質株式会社	大山洋一, 曾根好徳, 松山尚典, 甲斐田康弘, 稲垣賢亮, 鈴木晴彦, 市川八州夫, 岡田真介	20201118	会議	オンライン	仙台・埼玉ほか	講演・発表	11
10	応用地質株式会社	大山洋一, 曾根好徳, 松山尚典, 甲斐田康弘, 鈴木晴彦, 市川八州夫, 岡田真介	20201222	会議	オンライン	仙台・埼玉ほか	講演・発表	10
11	応用地質株式会社	石井伸明, 曾根好徳, 松山尚典, 稲垣賢亮, 岡田真介	20210120	会議	オンライン	仙台・埼玉ほか	講演・発表	8
12	応用地質株式会社	曾根好徳, 松山尚典, 稲垣賢亮, 岡田真介	20210219	会議	オンライン	仙台・埼玉ほか	講演・発表	7
13	応用地質株式会社	曾根好徳, 松山尚典, 甲斐田康弘, 鈴木晴彦, 市川八州夫	20210323	会議	オンライン	仙台・埼玉ほか	講演・発表	8

# 中鉢 奈津子 特任准教授

## CHUBACHI Natsuko

広報室

### A. 基本情報・略歴

出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	京都大学	文学部	1997	3	カナダ クイーンズ大学大学院	地理学研究所	2009	4	Ph.D.	2009	6

### 職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	2001	8	2001	12	アリゾナ州立大学大学院 地理学部	非常勤講師
2	2004	6	2004	7	国際移住機関ジュネーブ本部 移住問題総合政策局	インターン
3	2005	2	2008	2	在ホノルル日本国総領事館 広報文化班	外務省専門調査員
4	2014	4	2020	5	東北大学 災害科学国際研究所 広報室 (広報)	特任助教
5	2020	6	現在		東北大学 災害科学国際研究所 広報室 (広報・URA)	特任准教授

### 学会活動

所属学会

学会名 1	2
人文地理学会	アメリカ地理学会

### 研究分野・キーワード

専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3	専門分野 4	専門分野 5
広報	研究成果の社会発信	学術-メディア連携	人文地理学	文理連携

### B. 研究活動

#### 研究活動の概要

不確実性を伴う災害リスクの市民とのコミュニケーションをテーマに、「南海トラフ地震の事前情報発表時における組織の対応計画作成支援パッケージの開発」プロジェクトに前年度に引き続き参加し、臨時情報によりよく対応するためのワークショップに関するペーパーを執筆し、かつ、IRiDeSおよび京都大学研究者と協働でオンラインで実際にワークショップをマルチステークホルダー対象に実施した。スペイン・インフルエンザ文理解連携勉強会のモデレーターとして毎月1回勉強会を開催した。

#### 研究課題

	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	2014	4	現在		災害研究の広報・社会発信について	両方
2	2015	5	現在		学術-メディア連携について	両方
3	2016	12	現在		不確実性を伴う災害リスクの市民とのコミュニケーション	国内
4	2020	4	現在		感染症文理連携研究	国内

#### 論文

単著	0	筆頭共著	1	その他の共著	1	合計	2	うち	国際査読有	1	国際査読無	0	国内査読有	1	国内査読無	0
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

記述言語	区分	所外連携	国際学術誌	種別	査読	招待論文	論文題目名(原語)	著者氏名(共著者含)	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日
日本語	筆頭共著	国外	いいえ	学術雑誌	有	いいえ	複眼学習アプローチ手法を用いた仙台市におけるワークショップの試み	中鉢奈津子, 福島洋, 久利美和	自然災害科学	39	1	18	22	20200500
英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Impact of COVID-19 restrictions on the research environment and motivation of researchers in Japan	Miki Y., Chubachi N., Imamura E., Yaegashi N., Ito K.	Progress in Disaster Science	8		100128	100128	20201200

#### 著書(監修・編集・単著・共著)

監修	0	編集	0	単著	1	筆頭共著	0	共著	0	合計	1	うち	国際	0	国内	1
----	---	----	---	----	---	------	---	----	---	----	---	----	----	---	----	---

記述言語	著書名および担当執筆題名	種別	発行年月日	著者・監修者氏名	区分	出版社名	所外連携	発行部数
日本語	「災害科学のコミュニケーション」(『東日本大震災からのスタート: 災害を考える51のアプローチ』第50章, pp.205-208)	編集本(著者・Author)	20210311	中鉢奈津子 (東北大学災害科学国際研究所)	単著	東北大学出版会	なし	1400

総説・解説(大学紀要・学術雑誌・学会誌・商業雑誌など)

単著	0	筆頭共著	0	その他の共著	1	合計	1	うち	国際査読有	0	国際査読無	0	国内査読有	0	国内査読無	1
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

記述言語	題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	区分	所外連携
日本語・英語	東北大学災害科学国際研究所ニュースレター IRDeS NEWS 2021	その他	無	いいえ			1	14	20210300	中鉢奈津子(主著者)	共著	なし

D. 社会活動

社会活動の概要

広報担当として、IRIDeS活動の国内外への発信に携わった。具体的には、(11) 広報誌IRIDeS NEWSの取材・記事執筆・編集、メディアから所内研究者への取材依頼調整、プレスリリース、年次活動報告書編集、(5) 災害研ウェブサイト(英語および日本語の一部)リニューアルの実務を担当し、災害科学の社会発信を行うプラットフォームの整備を行った。B.でも記載したが、IRIDeSおよび京都大学研究者と協働でオンラインワークショップ(マルチステークホルダー、市民も対象)を開催した。

一般向けセミナー・講演等の主催・共催・運営等(研究活動以外)

合計	1 件
----	-----

	国内 国際	主催団体名・ 運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場名	開催 都市名	開催 国名	担当	参加 人数	IRIDeSの 関与	講演会・セミナー等	備考
				開始年月日	終了年月日								
1	国内	IRIDeS、京都大学	オンラインワークショップ「コロナ時代の不確実性と地震リスク:複眼学習の視点から見直そう」(計3回)	20201002 20211016 20201030	20201002 20211016 20201030	オンライン	仙台	日本	企画・運営・司会	34	IRIDeS主催・共同主催	ワークショップ	京都大学研究者と協働実施。対象者はマルチステークホルダー

講演・講義等(研究活動以外)

合計	1 件
----	-----

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	連携	主催者	会場名	開催 都市名	開催 国名	参加人数
				開始年月日	終了年月日							
1	セミナー	南海トラフ地震臨時情報プロジェクト2年目報告会	発表	20210312	20210312	非専門家と災害リスクの不確実性-課題と対応方法-(ワークショップ報告)	行政	IRIDeS	オンライン	仙台	日本	



## 5 教育活動

## 教育活動

### 1. 教育活動の目標と概要

本研究所は、東日本大震災の経験と教訓を踏まえ、わが国の自然災害対策・災害対応策や国民・社会の自然災害への処し方そのものを刷新し、巨大災害への新たな備えへのパラダイムを作り上げることを設立理念としている。このため、本研究所の教員のすべては、災害に強い社会を醸成するための市民力の向上に寄与する教育活動を推進する責務を有している。このことに関して、小・中学校および高等学校との連携を含む学外での教育・啓発活動は4章の「専任教員の活動報告」の中に紹介しているほか、次章の「研究成果の社会発信」において総括している。本章では、学内の教育活動の計画と現状を述べる。

学内の教育活動について、本研究所の中期計画では以下のような内容を定めている。

#### (1) 教育内容および教育の成果等に関する目標を達成するための措置

○全学教育、関連部局の学部や大学院の科目において、災害科学に関する基礎的な知識を提供する。

○災害科学に関する実践的研究の成果を紹介するフォーラムを定期的に開催し、これを大学院の学生に公開する。

#### (2) 教育の実施体制等に関する目標を達成するための措置

○災害科学に関する基礎知識を教育する全学教育科目を提供する。

○災害科学・実践的防災学に関する大学院科目を提供し、災害対応を担う人材育成を行う。

#### (3) 学生の支援に関する目標を達成するための措置

○大学院の学生が、災害科学に関する最新の研究発表・聴講ができる支援体制をつくる。

○国際連携のための仕組みをつくり、大学院の学生の海外における災害科学に関する研修を支援する。

上記の目標に対して、令和元年度に新規募集を終えたリーディング大学院の後継プログラムである災害科学・安全学国際共同大学院プログラム(GP-RSS)、変動地球共生卓越大学院プログラム(SyDE)の立ち上げや運営に協力している。また、2022年度から実施予定の全学教育新カリキュラムに向けて、地球規模課題、SDGs、安全学など本研究所の専門性に合致した科目提供について議論を行った。

### 2. 全学教育の実施状況

東北大学では、初年次学生に大学での勉学・研究の意義を理解させる導入科目として、少人数形式の「基礎ゼミ」科目を設定しており、各部局が専任教員数に応じて複数のゼミを提供することとなっている。2020年度は新型コロナウイルス感染症拡大により本研究所から提供を予定していたテーマの実施は見送られた。

他方、全学教育講義科目として、本研究所設立時の振替定員に基づき8科目以上の提供が要請されている。このうち6科目はカリキュラムの連続性を維持する観点から、心理学、教育学を2科目(人間・社会対応研究部門: 邑本俊亮教授)、歴史学を1科目(人間・社会対応研究部門: 佐藤大介准教授)、そしてBCPを1科目(人間・社会対応研究部門: 丸谷浩明教授)提供し、残る2科目は本研究所の教育目標に従う講義科目を開講した。

東日本大震災被災地の中心に存在する東北大学では、自然災害の基本的なメカニズムと対応の考え方について、すべての学生が基本的な知識と自ら考える能力を持つことが望まれる。この目的を達成するため、カレントトピックス科目として「災害の科学」を開講し、「災害の科学－災害の発生と波及－」、「災害の科学－災害対応－」の2科目を提供した。

### 3. 学生の支援と研究指導

東北大学学生生活支援審議会は毎年4回を目標としてFDを開催している。2020年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響で開催回数は3回であった。本研究所からは教務委員会のメンバーと若手教員が中心となってこれらFDに出席した。

第1回 新型コロナウイルス影響下での東北大学における学生支援

第2回 本学におけるハラスメント防止体制および実際の相談への対応について

### 第3回 大学における障害学生への配慮・支援について

これら FD では、新型コロナウイルス影響下における学生支援、ハラスメント防止、障害学生への配慮と支援に関して理解を深めた。

また、本研究所が月に1回主催している「IRIDeS 金曜フォーラム」は、研究所の専任・兼任教員が各分野の研究視点やプロジェクト研究の成果を報告し討論する場であるが、これを大学院生にも公開し、災害研究の多様な研究方法や研究成果を学ぶ機会として提供している。2020年度は、国内 119 件、国外 27 件の大学院生に対する学会やワークショップへの参加および発表の支援を行った。また、国外の学術機関と協力協定を締結し、経済的負担を減らすと同時に研修先の情報を得やすくした。

以上の結果、2020年度の本研究所の教員の学生への研究指導とその成果は、以下のとおりである。

博士論文指導(主査・副査):	35 件
修士論文指導(主査・副査):	83 件
卒業論文指導:	57 件
博士学位取得(学内・学外):	52 件
留学生受け入れ:	34 名

## 6 研究成果の社会発信

## (1) 刊行物

○『東日本大震災からのスタート ―災害を考える 51 のアプローチ』(2021 年 3 月 発行) 日本語

東日本大震災から10年の節目に出版した同書は、災害科学国際研究所の研究者を中心とする災害に携わってきた専門家が、工学・理学・医学・社会科学等、それぞれの専門分野に即し、東日本大震災が明らかにした問題・その後10年間の進展・今日も残る課題を総括するもの。「災害評価と防災」「人間と社会」「健康」「国内外との連携」に関する4つの大きなテーマのもと、全51章(1章1トピック)と4つのコラムで構成されており、専門家や防災関係者のみならず、広く一般の方々(高校生以上)にも向けた内容である。また、同書により、東日本大震災とその後の歩みを学際的・多角的に捉えられる。



○ IRIDeS NEWS 2021 印刷版(2021年3月発行) 日本語・英語

2020年度も、IRIDeS NEWSを日・英両語、印刷版・ウェブ版で発出した。基本方針は引き続き「災害研ならではの情報かつ社会が求める内容を、国内外へ向けて平易な言葉で発信する」と定め、基本的に記事は広報室で執筆した。



- ・お知らせ IRIDeSで新部門体制が発足
- ・報告 感染症に関するさまざまな研究・実践活動を開始
- ・特集 IRIDeS研究者が復興と震災教訓の継承について話し合う
- ・研究紹介
  - 東日本大震災の教訓から学び、病院の事業継続計画(BCP)の本質的要素を追求する
  - 世界各国は、防災をどう捉えているか?
    - ―2018年アジア防災閣僚級会議における声明からの分析―
  - 堆積物のきめ細やかな分析により、過去に北海道東部へ襲来した津波の年代をより正確に測定する
- ・活動紹介
  - DMATとしてドライブスルーPCR検査に従事
  - 2019年台風19号災害に関する最終報告会を開催
  - 「山元町震災遺構中浜小学校」のデザインディレクションを担当
- ・広報室コラム

## (2)IRIDeS 金曜フォーラム

### 概要

IRIDeS 金曜フォーラムは、2012 年度より災害科学国際研究所で行われている研究・活動の情報を所内のみならず学内外・一般の方々と広く共有し、研究の連携・融合を図ることを目的に開催する、定期的な発表・討論の場である。

### 発表テーマ

主に研究所の教員・スタッフから、各部門・分野での国際的・学際的な研究テーマについて発表するほか、災害発生時の調査報告や大型研究プロジェクトの成果報告なども随時紹介する。

### 参加方法

新型コロナウイルス（COVID-19）の影響を考慮し、オンライン会議場で Web 開催。専用オンラインフォームより要参加申込、参加費無料。

### 第67回『新任教員が携わる災害科学研究①』 2020 年 5 月 15 日(金)16 時 30 分～18 時 05 分 オンライン会議場

1. 司会・進行より趣旨および Web 開催上の留意点のご説明
2. 3.11 後の負の遺産と防災観光。ドイツの視点から見えてくるもの。  
ゲルスタ ユリア(情報管理・社会連携部門 災害アーカイブ研究分野)
3. Recent research and applications of vision-based seismic monitoring technology for high-rise Structures  
郭 佳(災害リスク研究部門 最適減災技術研究分野)
4. 災害語り部と教訓の海外発言  
フルコ フラヴィア(人間・社会対応研究部門 防災社会システム研究分野)

### 第68回『東北大学災害科学国際研究所 2019 年度共同研究成果報告会およびプロジェクトエリア・ユニット報告会』 2020 年 7 月 18 日(土)9 時 00 分～16 時 10 分 オンライン会議場

#### 共同研究 口頭発表（午前の部）セッション A:ホール A

1. 被災した紙媒体資料を対象とした安定的な保全技術活用の検討  
研究代表者 天野 真志(国立歴史民俗博物館 研究部)
2. 川崎臨海部における災害デジタルツインによる次世代防災システムの検討  
研究代表者 大石 裕介(富士通研究所 人工知能研究所)
3. 津波発生時の局所避難情報伝達手段の基礎検討  
研究代表者 山崎 達也(新潟大学)
4. 巨大地震津波を対象とした津波統合モデル解析の展開  
研究代表者 高橋 智幸(関西大学 社会安全学部)
5. 災害研の設備を活用した古津波履歴・規模評価の高精度化  
研究代表者 菅原 大助(ふじのくに地球環境史ミュージアム 学芸課)
6. 津波統合モデルを用いた津波による地形変化の確率的評価手法の構築  
研究代表者 有川 太郎(中央大学 理工学部)
7. 蔵王・御釜における水・熱・化学物質収支から見た地下水流動系の解明  
研究代表者 知北 和久(北海道大学 北極域研究センター)
8. 東日本太平洋側に冷夏をもたらす気候場の長期復元に向けた基礎研究  
研究代表者 市野 美夏(情報・システム研究機構 データサイエンス共同利用基盤施設人文オープンデータ共同利用センター)

**共同研究 口頭発表（午後の部） セッション A:ホール A**

9. 火山地域で生じる地震動による斜面崩壊の規模予測に関する比較研究  
研究代表者 奥野 充(福岡大学 理学部)
10. X-GIS による三陸沖北部地震の津波に対する八戸市のレジリエンスデザイン分析  
研究代表者 高瀬 慎介(八戸工業大学 工学部 土木建築工学科)
11. 被災地間連携による歴史・災害資料の保存・活用技術の比較検討と共有  
研究代表者 奥村 弘(神戸大学 大学院人文学研究科)
12. 保健師の防災対策ガイドラインの有効性に関する考察～「みちのく震録伝」とフィールドワークを組み合わせた日タイの情報学的地域間比較研究～  
研究代表者 松田 正己(東京家政学院大学 人間栄養学科)
13. 利活用を踏まえた震災アーカイブの自立的運用モデルに関する研究  
研究代表者 廣内 大助(信州大学 学術研究院教育学系)
14. 地域での活用を前提とした災害アーカイブの開発と活用プラットフォームの構築  
研究代表者 小山 真紀(岐阜大学 流域圏科学研究センター)
15. 東日本大震災における災害対応に関する災害アーカイブスの社会実装方法に関する研究  
研究代表者 田中 聡(常葉大学 大学院環境防災研究科)
16. 自然災害伝承碑アーカイブの構築  
研究代表者 上相 英之(国文学研究資料館 古典籍共同研究事業センター)

**共同研究 口頭発表（午前の部） セッション B:ホール B**

1. 原子力災害における次世代への放射線防護に関する防災教育の在り方  
研究代表者 大葉 隆(福島県立医科大学 医学部 放射線健康管理学講座)
2. 放射線災害で想定される慢性放射線被ばくストレスの定量  
研究代表者 盛武 敬(産業医科大学 産業生体科学研究所)
3. 原子力災害によりサクラ樹皮に付着した含放射性セシウム粒子による被ばくリスク研究  
研究代表者 杉浦 広幸(福島学院大学 短期大学部 保育学科)
4. 記者と研究者は、「被災者」とどうかかわるかーみやぎ「災害とメディア」研究会での討議を通じてー  
研究代表者 小田 隆史(宮城教育大学)
5. 東日本大震災後の水産加工業の早期復旧・復興への事業・制度的な支障とその軽減  
研究代表者 寅屋敷 哲也(ひょうご震災記念 21 世紀研究機構 人と防災未来センター)
6. 多次元統合可視化システムを用いた防災教育効果の検証ー短期大学幼児教育科における正統的周辺参加論を基調とした学習を中心にー  
研究代表者 田久 昌次郎(いわき短期大学 生涯教育研究所)
7. 避難訓練の持続可能な評価・改善に向けた学校・行政・研究者による協働モデル構築  
研究代表者 林田 由那(早稲田大学)
8. 学校区の災害リスク理解のための地図を活用した教員研修・評価モデルの開発  
研究代表者 桜井 愛子(東洋英和女学院大学 国際社会学部)

**共同研究 口頭発表（午後の部） セッション B:ホール B**

9. 「防災ミニマム・エッセンシャルズ研修」確率にむけた国際共同研究:東京・台北における私立校教職員への調査  
研究代表者 坪内 暁子(順天堂大学 大学院医学研究科 研究基盤センター)
10. 地域住民によるワークショップを通じた災害情報のアーカイブ化を行う防災教育プログラムの開発  
研究代表者 森 太郎(北海道大学 大学院工学研究科)

11. 災害時要配慮者の避難移動・避難生活・生活再建の各過程をヨコ串にした災害時ケアプラン作成・実施のための福祉防災人材育成プログラムの開発と実践  
研究代表者 立木 茂雄(同志社大学 社会学部)
12. 防災教育教材・郷土災害資料と災害教育実践事例の収集・分析  
研究代表者 西山 昭仁(東京大学地震研究所 地震予知研究センター)
13. 被災地の学校における心のケアと防災教育の融合プログラムの有効性と課題 -東日本大震災と北海道胆振東部地震被災地での実践から  
研究代表者 富永 良喜(兵庫県立大学 大学院 減災復興政策研究科)
14. 東日本大震災と熊本地震の比較分析による精神科病棟における災害時感染症対策の実態に関する研究  
研究代表者 野崎 裕之(大東文化大学 スポーツ・健康科学部 看護学科)
15. VR 津波体験装置による「逃げ遅れ」解消に向けた心理学的侵襲性モニタリング  
研究代表者 浅井 光輝(九州大学)
16. 震災復興に寄与する災害を生きる力因子とその原理の解明  
研究代表者 本多 明生(静岡理工科大学 情報学部 情報デザイン学科)

**【プロジェクトエリア・ユニット報告】**

各ユニット(以下)の報告をポスターでウェブ掲載した。

**【場】**災害の発生メカニズム解明・予測 エリア長:木戸元之

ハザード評価ユニット/被害予測と軽減ユニット

**【情報】**自然災害アーカイブシステムの構築・運用 エリア長:佐藤健

アーカイブユニット/災害統計ユニット/防災教育・人材育成ユニット

**【組織】**被災地支援・受援を効率化する組織と技術 エリア長:越村俊一

減災・復興支援技術ユニット/災害空間情報解析ユニット

**【もの】**構造制御技術と多重防衛技術による地域・都市レジリエンスの向上 エリア長:寺田賢二郎

人的・物的被害軽減ユニット/レジリエント社会基盤ユニット

**【健康】**広域・複合災害・マルチハザード対応型災害医学・医療の確立 エリア長:児玉栄一

災害と健康ユニット

**【総合減災】**総合的減災システムのデザインと社会実装 エリア長:丸谷浩明

減災・復興デザインユニット/減災社会実装ユニット

**第69回『被災地のバトン・支援のリレー ～令和元年東日本台風から1年～』**

2020年10月2日(金)16時30分～18時15分 オンライン会議場

1. 司会・進行より Web 開催上の留意点の説明と趣旨説明
2. 多様性のある災害ボランティアセンターのあり方について  
北村育美氏(福島大学うつくしまふくしま未来支援センター 客員研究員)
3. 災害に対する地元まちづくり NPO としての関わり  
八巻真由氏(一般社団法人 YOMOYAMA COMPANY 代表理事)
4. 様々な被災地同士での「バトン」の受け渡し・「リレー」の展開について  
肥田 浩氏(一般社団法人 OPEN JAPAN 副代表)
5. 質疑/総合討論
6. 閉会・事務連絡等



第70回『新任教員が携わる災害科学研究②』 2020年11月20日(金)16時30分～18時10分 オンライン会議場

1. 司会・進行より Web 開催上の留意点の説明と趣旨説明
2. 地質記録から読み解く災害の履歴—地質年代学の重要性について—  
石澤 堯史(災害理学研究部門 活断層研究分野)
3. 東日本大震災における被災者の心のケア  
白倉 瞳(災害医学研究部門 災害精神医学分野)
4. 文化遺産と防災～「仙台防災枠組み 2015-2030」を読み直す  
モリス ジョン(人間・社会対応研究部門 災害文化研究分野)
5. 閉会・事務連絡等

第71回『災害科学研究者 ～それぞれの原点、それぞれの 3.11～』 2021年2月19日(金)16時30分～18時00分  
オンライン会議場

1. 司会・進行より趣旨説明、事務連絡
2. オーラルヒストリーの説明
3. 災害科学研究者による体験談(1人 5-10分程度)※後述(7名)
4. フロアを交えた質疑応答、意見交換
5. 閉会・事務連絡等

※発表者(7名)

今村 文彦(所長、災害リスク研究部門 津波工学研究分野)

岩田 司(地域・都市再生研究部門 都市再生計画技術分野)

フルコ フラヴィア(人間・社会対応研究部門 防災社会システム研究分野)

安田 容子(人間・社会対応研究部門 歴史資料保存研究分野)

石澤 堯史(災害理学研究部門 活断層研究分野)

佐々木 大輔(情報管理・社会連携部門 社会連携オフィス)

稲葉 洋平(災害医学研究部門 災害放射線医学分野)

### (3) 展示

本研究所の研究活動を明快・平易に伝えるための展示スペースを 2015 年に開始して以来、スペースや展示内容は拡充を重ね、所内教職員および幅広い来訪者に活用されてきた。しかし、2020 年度は、新型コロナウイルス感染症に対応するため見学団体の受け入れは休止し、また、個人の見学者に向けて感染対策への協力を呼びかけるポスターを作成してスペースに掲示した。

2018 年度～2019 年度にかけて朝日小学生新聞「地球防災ラボ」紙上において、本研究所の研究者を中心にリレー連載を行ったが、2020 年度は同連載全記事の A0 パネルの作成が完了した。同パネルの一部を展示スペースで常設としたほか、公開イベントやスリーエム仙台市科学館、そなエリア東京などでも展示した。



展示スペース利用者に  
感染対策への協力を呼びかけるポスター

(4) 各種メディアでの紹介(報道・執筆・出演・資料提供など)

(同一記事非表示)

Table with columns: No., Date, Media, Title, Author/Contributor, Category. Contains 106 rows of media appearances and contributions related to the 2020 earthquake and pandemic.

	配信日	媒体	配信社	タイトル	掲載教員	分類
107	2020/6/17	テレビ	NHK・仙台放送局	おはようみやぎ:水害の防災教育6割にとどまる	佐藤翔輔	報道・コメント
108	2020/6/17	ラジオ	NHKラジオ第一(仙台)	<新型コロナ>ゴジだっちゃ! :防災研究最前線「新型コロナで見直そう避難行動」	佐藤翔輔	出演
109	2020/6/17	新聞(地方紙)	河北新報社(他1社)	1964年の新潟地震の余震か 昨年の新潟・山形地震 東北大、遠田教授「空白域で発生」	遠田晋次	報道・コメント
111	2020/6/18	その他	夕刊フジ(他3社)	高い?低い?新型コロナの交代検査結果、東京は「0.1%」	児玉栄一	報道・コメント
115	2020/6/18	テレビ	東北放送(他1社)	Nスタみやぎ:謎の飛行物体「専門家「海外から飛来した気象観測装置か」	小野裕一	報道・コメント
117	2020/6/19	ラジオ	NHKラジオ第一(福島)	<新型コロナ>こでらん5:新型コロナウィルスの影響下での避難~非常持ち出し品~	佐藤翔輔	出演
118	2020/6/19	テレビ	NHK(東北)	てれまさむね:丸森町 台風踏また提言 審議会が提出	柴山明寛	報道・コメント
119	2020/6/19	テレビ	仙台放送(他1社)	<新型コロナ>Live News it! 今一度、災害への備えを...大雨警戒レベル「変更点」は?避難場所や方法の再確認を	佐藤翔輔	報道・コメント
121	2020/6/19	テレビ	東日本放送	ニュース:コロナ後は?専門家「過剰に恐れず予防策継続を」	小坂健	報道・コメント
122	2020/6/20	新聞(地方紙)	河北新報社(他1社)	避難所増設を検討 宮城・丸森、災害検証委が提言	柴山明寛	報道・コメント
124	2020/6/20	新聞(全国紙・地方版)	毎日新聞社	災害対策改善を提言 丸森町、台風19号で検証委	柴山明寛	報道・コメント
125	2020/6/20	新聞(地方紙)	三陸新報	防災学習が本格始動 陸上中開き取り調査の方法学ぶ	佐藤翔輔	報道・コメント
126	2020/6/20	新聞(全国紙・地方版)	読売新聞社	台風対応 町役場孤立時 代替拠点を 丸森町に検証委提言書	柴山明寛	報道・コメント
127	2020/6/21	ラジオ	FM仙台・Date fm	SUNDAY MORNING WAVE:防災ワンポイント情報「被災体験を後世にどう繋ぐ」	小野裕一	出演
128	2020/6/26	ラジオ	NHKラジオ第一(福島)	<新型コロナ>こでらん5:新型コロナウィルスの影響下での避難~避難所での注意点を	佐藤翔輔	出演
129	2020/6/28	新聞(全国紙・地方版)	朝日新聞社	台風教訓、丸森検証委が提言 地区ごとの警戒発令・役場代替拠点を宮城県	柴山明寛	報道・コメント
130	2020/6/29	その他	夕刊フジ(他1社)	東京コロナ封じ込め失敗か「早期解除」がアタ、キャパクラ、メイド喫茶でも感染者	児玉栄一	報道・コメント
132	2020/6/29	テレビ	東日本放送	ニュース:東北大学 台風19号の住民避難行動を調査	佐藤翔輔	報道・コメント
133	2020/6/30	新聞(地方紙)	河北新報社	台風19号の災害対応を教訓に 宮城15市町村の首長ら参加して大郷で迅速避難へ 減災対策協議会	佐藤翔輔	報道・コメント
134	2020/6/30	テレビ	ミヤギテレビ	OH!パデス:大郷 中粕川地区堤防決壊も死者ゼロ「避難準備段階での避難」専門家評価	佐藤翔輔	報道・コメント
135	2020/6/30	その他	大学ジャーナル	東日本が合計特殊出生率を再計算 岩手など4県が過去最低に	吉田浩	報道・コメント
136	2020/7/1	雑誌・機関誌	北海道開発技術センター	dec monthly:インタビュー北海道ならではの包摂の形を	池田祐季	その他
137	2020/7/1	雑誌・機関誌	北海道建築指導センター	センターレポート:2020年夏号「厚真町支援の現場から」	池田祐季	執筆
138	2020/7/2	その他	日経BP	新・公民連携最前線:第14回「ワークコーディネーター」~新たな公園マネジメントの担い手~(3)	災害科学国際研究所	その他
139	2020/7/3	その他	夕刊フジ(他1社)	東京で2日連続100人超感染...夜の街に「戒厳令」発令を「強制休業など具体策を」増加が止められないレベルに!	児玉栄一	報道・コメント
141	2020/7/4	その他	夕刊フジ	東京感染124人...「医療崩壊」も第2波か「夜の街」で拡大!危ないゼダン型タクシー	児玉栄一	報道・コメント
142	2020/7/4	新聞(地方紙)	河北新報社(他1社)	町の都、仙台の顔「勾当台リニューアル 市懇話会、将来策定スタート」	藤浦道生	報道・コメント
144	2020/7/6	テレビ	東日本放送(他1社)	チャージ:記録的大雨 高齢者施設どう守る?「避難確保計画」宮城で4割未作成	佐藤翔輔	報道・コメント
146	2020/7/6	テレビ	ミヤギテレビ	熊本豪雨について	橋本雅和	報道・コメント
147	2020/7/6	新聞(全国紙・地方版)	読売新聞社	【水害に備える】(下)中粕川川 監視強化半ば(連載)	佐藤翔輔	報道・コメント
148	2020/7/6	テレビ	毎日放送	ミント! :被災地における新型コロナ対応	児玉 栄一	出演
149	2020/7/7	ラジオ	NHKラジオ第一(福島)	こでらん5:新型コロナウィルスの影響下での避難~九州豪雨を受けて~	佐藤翔輔	出演
150	2020/7/7	テレビ	東日本放送(他1社)	チャージ:豪雨 専門家 雨量の予測難しく被害拡大 線状降水帯は宮城でも...備えを	橋本雅和	報道・コメント
152	2020/7/7	テレビ	仙台放送(他5社)	Live News it:もし宮城県内で「大雨特別警報」が出たら...自分の命を守るためにできること 専門家に聞く	佐藤翔輔	報道・コメント
158	2020/7/7	新聞(全国紙・地方版)	読売新聞社	伝える。復興に向けて	ゲルスタ・ユリア	報道・コメント
159	2020/7/8	テレビ	東日本放送(他2社)	チャージ:急務 支流対象のハザードマップ作成に時間 岐阜・長野に一時大雨特別警報	橋本雅和、柴山明寛	報道・コメント
162	2020/7/8	テレビ	仙台放送(他1社)	Live News it:浸水被害も全員救った高齢者施設「避難確保計画」の重要性とは豪雨	佐藤翔輔	報道・コメント
164	2020/7/9	その他	夕刊フジ	豪雨災害「その後」も怖い「避難所」3密リスク「コロナ」の「複合」も警戒...専門家「食中毒や、大腸菌感染の懸念も」	児玉栄一	報道・コメント
165	2020/7/9	テレビ	岩手めんこいテレビ	ミント! :「大雨警戒レベル」命を守るために 理解しておこう	佐藤翔輔	報道・コメント
166	2020/7/9	新聞(その他)	建設通信新聞	総合体育館、市民会館、プール/9月下旬までに方針検討/横手市の公共施設再配置市民検討委	木江正茂	報道・コメント
167	2020/7/10	新聞(地方紙)	河北新報社	東日本大震災10年目 語り部・伝承施設 河北新報社アンケート 世間の関心「低下」7割	災害科学国際研究所、佐藤翔輔	報道・コメント
168	2020/7/10	新聞(地方紙)	河北新報社	NOW IS. Vol.30:CASE 1 SNSとコミュニティ コロナ時代を乗り越える東日本大震災の知見	佐藤翔輔	報道・コメント
169	2020/7/11	雑誌・機関誌	宮城県			その他
170	2020/7/12	新聞(全国紙)	読売新聞社	「防災ニッポン」風水害(4) 災害シナリオ 豪雨で避難勧告が近所は無事か?	佐藤翔輔	報道・コメント
171	2020/7/14	テレビ	NHK	ニュースウォッチ9:豪雨被害の熊本「過去の経験」を超える災害	佐藤翔輔	報道・コメント
172	2020/7/14	テレビ	NHK・熊本放送局	クマログ! :球磨川流域 過去の経験が避難の足かぜに	佐藤翔輔	報道・コメント
173	2020/7/14	その他	大学ジャーナル	災害時、病院機能を維持するために必須の3要素とは 東北大学が提唱	江川新一、佐々木宏之	報道・コメント
174	2020/7/15	新聞(地方紙)	石巻まほく	IoT活用し局地雷量計測 東松島で実証実験	森口周二	報道・コメント
175	2020/7/15	テレビ	九州朝日放送	アサデス:福岡大雨 災害時に注目されるSNS	佐藤翔輔	報道・コメント
176	2020/7/15	その他	夕刊フジ	新型コロナの市中感染、高齢者急増! 2週間後に「再自粛」も? 専門家「時間差で重症化...医療破綻しかたない」	児玉栄一	報道・コメント
177	2020/7/16	テレビ	NHK・仙台放送局	おはよう宮城:高校生が防災学ぶワークショップ	佐藤翔輔	出演
178	2020/7/16	新聞(全国紙)	読売新聞社	「防災ニッポン」風水害・共助(2) 住民組織 活性化が急務	佐藤翔輔	報道・コメント
179	2020/7/16	新聞(全国紙)	日本経済新聞社	AIで洪水浸水域を即座に推定 東北大	越村俊一、マスエリック	報道・コメント
180	2020/7/16	新聞(地方紙)	河北新報社	仙台・泉区役所建て替へ 実施方針を年内に策定 事業者選定委初会合	増田聡	報道・コメント
181	2020/7/16	ウェブ	Yahooニュース	仙台・泉区役所建て替へ 実施方針を年内に策定 事業者選定委初会合	増田聡	報道・コメント
182	2020/7/16	新聞(その他)	時事通信社	「新型コロナウィルス感染症:拡大防止活動基金」第4期助成採択結果について	小坂健	報道・コメント
183	2020/7/17	テレビ	NHK・仙台放送局	とくばん! てれまさむね:災害から命をどう守る~新型コロナ禍での備えは~(第1部)	佐藤翔輔	出演
184	2020/7/17	テレビ	NHK・仙台放送局	とくばん! てれまさむね:災害から命をどう守る~新型コロナ禍での備えは~(第2部)	佐藤翔輔	出演
185	2020/7/17	新聞(地方紙)	河北新報社	<新型コロナ>「コロナは社会災害」東北大オンラインセミナーで備えの重要性訴え	今村文彦、丸谷浩明、川内淳史	報道・コメント
186	2020/7/17	その他	OLiEpre	東日本大震災後の睡眠障害、リスク因子「60歳以上」「女性」などを特定~東北大	江川新一、佐々木宏之	報道・コメント
187	2020/7/17	テレビ	東日本放送	ニュース:県内の感染状況 感染症の専門家も警鐘「第2波が起きているかも」	小坂健	報道・コメント
188	2020/7/17	新聞(全国紙)	日本経済新聞社	浸水範囲を高精度推定 東北大が計算手法構築 被害把握、AI使い迅速に	越村俊一、マスエリック	報道・コメント
189	2020/7/19	ウェブ	日刊工業新聞社(他1社)	ニュースインツ:AIでハザードマップを高度化! 洪水浸水域を推定し避難に役立てる	越村俊一、マスエリック	報道・コメント
191	2020/7/19	テレビ	テレビ朝日	テレメンタリー2020:「犠牲者0の町」決壊 大郷の奇跡-1	災害科学国際研究所、佐藤翔輔、橋本雅和	出演
192	2020/7/20	新聞(その他)	建設通信新聞	AIで洪水浸水域推定/将来被害迅速・高精度に把握/東北大災害科学国際研	越村俊一、マスエリック	報道・コメント
193	2020/7/20	その他	Itmedia	過去の水害データを基にAIで浸水範囲を推定 東北大学の研究グループがアルゴリズムを構築	越村俊一、マスエリック	報道・コメント
194	2020/7/20	ウェブ	環境ビジネスオンライン	東北大、未知の水害の浸水域を推定するアルゴリズムを開発	越村俊一、マスエリック	報道・コメント
195	2020/7/21	テレビ	東日本放送	テレメンタリー2020:「犠牲者0の町」決壊 大郷の奇跡-1	災害科学国際研究所、佐藤翔輔、橋本雅和	出演
196	2020/7/22	新聞(全国紙・地方版)	毎日新聞社	東日本大震災:震災復興の知見共有へ ネットでシンポ 東北大、サイト開設	今村文彦、須賀利雄	報道・コメント
197	2020/7/22	その他	気仙沼高等学校	気仙SGH通信:震災・防災講演会を実施しました!		出演
198	2020/7/26	新聞(地方紙)	河北新報社	洪水浸水域をAIで推定 東北大災害研、人工衛星の実測値活用	佐藤翔輔	報道・コメント
199	2020/7/27	新聞(その他)	共同通信社(他21社)	コロナうつ、初の厚労省実態調査 1万人規模、8月にもネットで	國井泰人	報道・コメント
221	2020/7/29	テレビ	NHK・山形放送局	おはよう山形:「大雨警戒レベル」命を守るために 理解しておこう	佐藤翔輔	報道・コメント
222	2020/7/29	テレビ	テレビ朝日	スーパーJチャンネル:山形・最上川氾濫 特有の原因が水害が起りやすい地形? 複数箇所で氾濫 専門家は	橋本雅和	報道・コメント
223	2020/7/29	テレビ	NHK	ニュース7:人的被害を最小限に 球磨川教訓に迅速対応	佐藤翔輔	報道・コメント
224	2020/7/29	テレビ	NHK・山形放送局	ニュース:早めの避難で人的被害を最小限に	佐藤翔輔	報道・コメント
225	2020/7/30	新聞(地方紙)	西日本新聞(他1社)	SNSで救助要請...自治体で対応に差 デマや埋没、確認に難題残る	佐藤翔輔	報道・コメント
227	2020/7/30	テレビ	東日本放送(他1社)	復興工事で地形変わる 津波の浸水想定区域を改定へ	今村文彦	報道・コメント
229	2020/7/30	テレビ	NHK・仙台放送局	津波浸水想定区域の検討会始まる	今村文彦	報道・コメント
230	2020/7/30	テレビ	仙台放送	Live News it:震災上回る「最大クラスの津波」想定「新たな浸水想定区域」公表へ<宮城>	今村文彦	報道・コメント
231	2020/7/31	新聞(地方紙)	河北新報社(他2社)	宮城県、最大級の津波浸水想定区域を策定へ	今村文彦	報道・コメント
234	2020/7/31	新聞(全国紙・地方版)	毎日新聞社	山形大最上川氾濫 人的被害、最小限に 他県の例参考に 東北大災害科学国際研究所の佐藤翔輔准教授の話	佐藤翔輔	報道・コメント

	配信日	媒体	配信社	タイトル	掲載教員	分類
235	2020/8/1	新聞(全国紙)	産経新聞(他2社)	災害時に医療どう維持 九州豪雨で被災の施設「業務継続計画」に課題 人手・費用の壁	佐々木宏之	報道・コメント
238	2020/8/2	ラジオ	FM仙台・Date fm	SUNDAY MORNING WAVE:防災ワンポイント情報 令和2年7月豪雨について	森口周二	出演
239	2020/8/3	新聞(地方紙)	河北新報社(他1社)	災害情報発信で広がるSNS 県内24市町 ツイッター・FB・LINE活用 HPや無線補完高齢者を含め避難迅速化	佐藤翔輔	報道・コメント
241	2020/8/4	新聞(全国紙・地方版)	読売新聞社	大雨1週間 豪雨教訓に人的被害出す 現場の機転で避難迅速	佐藤翔輔	報道・コメント
242	2020/8/4	新聞(全国紙・地方版)	朝日新聞社	災害見知 SNSでいち早くAIがツイート解析...行政や企業で活用の動き	佐藤翔輔	報道・コメント
243	2020/8/4	新聞(その他)	共同通信社	教訓生かして早期避難/山形 最上川氾濫、犠牲者ゼロ	佐藤翔輔	報道・コメント
244	2020/8/4	新聞(地方紙)	神奈川新聞	教訓生かして早期避難/山形 最上川氾濫、犠牲者ゼロ	佐藤翔輔	報道・コメント
245	2020/8/4	テレビ	山形放送	東北大:災害研 水位上昇の原因を探る	災害科学国際研究所、橋本雅和	報道・コメント
246	2020/8/4	テレビ	NHK・山形放送局	ニュース:専門家が氾濫発生原因を調査	橋本雅和	報道・コメント
247	2020/8/4	テレビ	仙台放送(他1社)	Live News it:いのちを守る 熊本豪雨1カ月 現地取材報告...本格的台風シーズンへ家庭ごとに備える必要性 マイタイムライン	佐藤翔輔	報道・コメント
249	2020/8/4	新聞(その他)	夕刊フジ	コロナは「弱毒化」しているのか? 欧米でも死亡率低下 専門家「無症状多く、判別困難」	児玉栄一	報道・コメント
250	2020/8/5	新聞(地方紙)	河北新報社(他1社)	親子向け防災教室など特別イベント開催 気仙沼・伝承館	森口周二	報道・コメント
252	2020/8/5	新聞(地方紙)	信濃新聞	避難所 大幅な見直し進む	柴山明寛	報道・コメント
253	2020/8/5	新聞(地方紙)	下野新聞	対策見直し進む 豪雨頻発 避難所に変化	柴山明寛	報道・コメント
254	2020/8/5	新聞(地方紙)	岩手日報	避難所に変化 計画見直しも	柴山明寛	報道・コメント
255	2020/8/5	新聞(地方紙)	神奈川新聞	避難所に変化も	柴山明寛	報道・コメント
256	2020/8/5	新聞(地方紙)	長崎新聞	避難計画 各地で見直し	柴山明寛	報道・コメント
257	2020/8/5	新聞(地方紙)	河北新報	県民への説明分りやすく 行政評価委 県に要求	佐藤 健	報道・コメント
258	2020/8/8	テレビ	仙台放送(他3社)	FNNニュース:ベトナムで「液状化」を再現実験 親子で学ぶ防災教室<宮城・気仙沼市>	森口周二	報道・コメント
262	2020/8/8	新聞(全国紙)	朝日新聞社	浸水700棟でも死者ゼロ 地域ごと避難勧告/早めに水位予測メール 山形・最上川氾濫	佐藤翔輔、森口周二	報道・コメント
263	2020/8/8	テレビ	仙台放送	FNNニュース:「学校防災」体制構築のための基本方針3項目を提示 県の検討会議<宮城>	今村文彦	報道・コメント
264	2020/8/8	新聞(その他)	夕刊フジ	新型コロナウイルスは「全国問題」へ 新規感染者数、東京は頭打ちの兆しも...愛知や大阪、沖縄では感染加速	児玉栄一	報道・コメント
265	2020/8/10	新聞(その他)	日本物流新聞	今、策定すべきBCP	江谷浩明	執筆
266	2020/8/12	新聞(地方紙)	石巻まほく	第2次石巻市総合計画審議会「具体的な将来像を」基本構想案に意見	岩田司	報道・コメント
267	2020/8/12	ウェブ	SankeiBiz	災害時に診療どう維持 九州豪雨で課題浮き彫り「業務継続計画」	佐々木宏之	報道・コメント
268	2020/8/16	ラジオ	FM仙台・Date fm	SUNDAY MORNING WAVE:防災ワンポイント情報 令和元年東日本台風(台風19号)の振り返り	森口周二	出演
269	2020/8/18	テレビ	日本テレビ	情報ライブ ミヤネ屋:歯医者で診察を断られた理由「怖いのが...」	小坂健	報道・コメント
270	2020/8/19	その他	QLifePro	DNA多型情報からうつ病発症のリスク予測、STMGP法が有用な可能性-東北大ほか	富田博秋	その他
271	2020/8/19	新聞(全国紙)	日本経済新聞社	再生エネ普及、広域送電カギ 電源構成最適化への課題	佐々木大輔	執筆
272	2020/8/19	新聞(全国紙)	日本経済新聞社	東北大、AIで浸水範囲推定	災害科学国際研究所	報道・コメント
273	2020/8/19	テレビ	東北放送	Nスタみやぎ:「無理町」災害に備え 打ち打ち訓練 見えてきた課題は	佐藤翔輔	出演
274	2020/8/19	テレビ	ミヤギテレビ	news every:職員の初動対応確認 無理町で「打ち打ち」防災訓練	佐藤翔輔	出演
275	2020/8/20	新聞(地方紙)	河北新報社	初期初動の打ち打ち防災訓練 初動重要200人動く	佐藤翔輔	報道・コメント
276	2020/8/20	テレビ	NHK・山形放送局	やままろ:東北大調査チーム豪雨の人的被害の軽減理由を調査・分析を報告	災害科学国際研究所、佐藤翔輔	報道・コメント
277	2020/8/21	新聞(地方紙)	河北新報社(他3社)	山形豪雨 氾濫「最上川逆流か」東北大報告 避難行動は評価	災害科学国際研究所、橋本雅和、佐藤翔輔	報道・コメント
281	2020/8/21	新聞(全国紙・地方版)	毎日新聞社(他1社)	宮城・無理町でゲリラ型地震訓練 切迫した状況、肌で実感 新たな課題、防災計画改善へ	佐藤翔輔	報道・コメント
283	2020/8/21	新聞(地方紙)	山形新聞(他3社)	死者の木や砂の除去、急務 東北大災害研が県内豪雨の調査報告	災害科学国際研究所、橋本雅和、佐藤翔輔、森口周二	報道・コメント
287	2020/8/21	新聞(その他)	共同通信社(他3社)	死者・不明者なしに「早めの避難」効果 山形の大雨調査	災害科学国際研究所、佐藤翔輔、森口周二	報道・コメント
291	2020/8/21	新聞(その他)	夕刊フジ	大阪のコロナ重症者「ナゼ増える 東京上回る水準 識者は高齢者の「意識や行動の差」の関連指摘	児玉栄一	報道・コメント
292	2020/8/21	テレビ	NHK・山形放送局	豪雨被害の現地調査を報告	橋本雅和	報道・コメント
293	2020/8/21	新聞(地方紙)	京都新聞	早期呼び掛け、山形豪雨で命救う 東北大調査	橋本雅和	報道・コメント
294	2020/8/21	新聞(地方紙)	海井新聞	早期避難呼び掛け死者なかった原因 山形大調査	橋本雅和	報道・コメント
295	2020/8/22	新聞(地方紙)	河北新報社	健康情報やDNAなど6万人超データ新たに提供 東北大メディカル・メガバンク	栗山進一	報道・コメント
296	2020/8/23	新聞(全国紙・地方版)	朝日新聞社	豪雨被害など分析 東北大災害研調査報告会	災害科学国際研究所、橋本雅和、森口周二、佐藤翔輔	報道・コメント
297	2020/8/23	新聞(全国紙・地方版)	読売新聞社	7月豪雨の避難誘導 自治体など対応適切 東北大が調査報告	災害科学国際研究所、佐藤翔輔	報道・コメント
298	2020/8/23	新聞(地方紙)	北海道新聞	<胆振東部地震から2年>復興支援 薄れる関心*地場産品、ふるさと納税の人気 販*専門家「再注目される工本も」	佐藤翔輔	報道・コメント
299	2020/8/24	新聞(全国紙)	日本経済新聞社	東北大・東大・富士通、川崎臨海部で新型コロナウイルス禍での避難所運営の実証実験を実施	災害科学国際研究所	その他
300	2020/8/24	新聞(全国紙)	朝日新聞社(他7社)	東北大学災害科学国際研究所・東大・東大震災研究所・富士通・川崎市、AIを活用し3割リスクを低減する新型コロナウイルス禍での避難所運営の実証実験を実施	災害科学国際研究所	その他
308	2020/8/24	ウェブ	クラウドwatch	コロナ禍での自然災害を想定した避難所運営の実証実験、富士通などが川崎市にて実施	災害科学国際研究所	その他
309	2020/8/27	ウェブ	日経ビジネス	30年間7万人調査「親子3代健康情報」でバイオ宝探し	栗山進一	報道・コメント
310	2020/8/27	新聞(全国紙・地方版)	朝日新聞社	水害含む防災教育、実施率は6割程度 県内小中高など調査	災害科学国際研究所、佐藤翔輔	報道・コメント
311	2020/8/27	新聞(全国紙・地方版)	日本経済新聞、他多数	東北大、自閉スペクトラム症が異種の疾患の集合体である可能性を発見	栗山進一	報道・コメント
312	2020/8/29	新聞(地方紙)	北海道新聞	<新型コロナ>聞きたい:災害時支援 自治体連携を	定池祐季	報道・コメント
313	2020/8/30	新聞(地方紙)	河北新報社	降雨データ、精緻に収集 被害に収集 被害者目撃し証実実験	森口周二	報道・コメント
314	2020/8/31	ウェブ	SankeiBiz	災害時の避難所、コロナ感染を想定 富士通などが業務運営実験	災害科学国際研究所	報道・コメント
315	2020/8/31	テレビ	NHK(北海道)	胆振東部地震:仮設の入居期限迫る 自宅再建は	定池祐季	報道・コメント
316	2020/9/1	テレビ	NHK(北海道)	胆振東部地震:被災者の半数が心身の影響続く	定池祐季	報道・コメント
317	2020/9/1	新聞(地方紙)	河北新報社(他3社)	水害タムラン簡単に 東北大災害研・今村所長監修キット発売 図解多用、作成手順を紹介	今村文彦	報道・コメント
321	2020/9/1	ウェブ	ABEMA TIMES(他2社)	台風で全住宅が被害も「死傷者ゼロ」激甚化する豪雨災害、宮城・大郷町中粕川地区の住民の行動と教訓とは	佐藤翔輔	報道・コメント
324	2020/9/1	テレビ	東日本放送	チャージ:<特集>災害時の新たな情報伝達手段「LINE」自治体活用	佐藤翔輔	報道・コメント
325	2020/9/1	テレビ	東日本放送	チャージ:<特集>災害把握にSNS活用 AIが被災状況を可視化	佐藤翔輔	報道・コメント
326	2020/9/1	その他	はしかみタイムズ	語り部活動勉強会 どのくらい伝わっている?	佐藤翔輔	その他
327	2020/9/2	テレビ	NHK・北海道放送局	胆振東部地震:被災者4割この1年で交流減少	定池祐季	報道・コメント
328	2020/9/2	新聞(全国紙)	産経新聞(他1社)	ウェブに刻む災害教訓 紀伊半島豪雨9年で奈良	災害科学国際研究所	報道・コメント
330	2020/9/3	新聞(地方紙)	石巻まほく	石巻市総合計画審議会、基本構想の原案議論 年度内に取りまとめ	岩田司	報道・コメント
331	2020/9/3	テレビ	NHK・北海道放送局	胆振東部地震:被災地以外で記憶薄れる「6割	定池祐季	出演
332	2020/9/4	テレビ	NHK・北海道放送局	胆振東部地震:隣町でも安心して避難できる場に	定池祐季	出演
333	2020/9/4	新聞(その他)	朝日小学生新聞	家族の命を守るために 知っておきたい土砂災害	森口周二	報道・コメント
334	2020/9/4	新聞(地方紙)	北海道新聞	胆振東部地震の被災地支援を続ける 東北大助教 駆け足で進む復旧・復興、住民の暮らし見つめ寄り添う	定池祐季	報道・コメント
335	2020/9/4	テレビ	NHK・北海道放送局	ニュース:「北海道地震」から2年 被災者の半数「今も心身への影響続く」	定池祐季	報道・コメント
336	2020/9/4	テレビ	NHK・北海道放送局	胆振東部地震:厚良町「歴史や文化残したい」多	定池祐季	報道・コメント
337	2020/9/4	テレビ	仙台放送	Live news it!:新型コロナウイルス感染症について	児玉 栄一	出演
338	2020/9/5	新聞(地方紙)	山形新聞	酒田市 津波被害への対応学ぶ 協議会 日頃からの備えを	今村文彦、佐藤翔輔	報道・コメント
339	2020/9/5	新聞(地方紙)	苦小牧民報	感染症対策を念頭に 仕切り設置や翻訳アプリ提案 重要 重厚真小で防災学習	定池祐季	報道・コメント
340	2020/9/6	新聞(全国紙・地方版)	毎日新聞社	胆振東部地震2年:仮設住宅、実情に合った対応を	定池祐季	報道・コメント
341	2020/9/6	ラジオ	FM仙台・Date fm	SUNDAY MORNING WAVE:新型コロナウイルスの現状	江川新一	出演
342	2020/9/7	新聞(全国紙)	日本経済新聞社	海底地滑りで大津波発生 関東大震災や駿河湾の地震で痕跡「対象外」の脅威、対策急務	今村文彦	報道・コメント
343	2020/9/7	新聞(全国紙・地方版)	朝日新聞社	津波・異常気象・感染症 災害と生じる社会探る	今村文彦、須賀利雄	報道・コメント
344	2020/9/7	テレビ	NHK	シニア時:東日本大震災で被害の歴史資料修復 新型コロナウイルスなどで大幅遅れ	災害科学国際研究所、川内厚史	報道・コメント
345	2020/9/7	テレビ	NHK(東北)	震災9年:津波被害の古文書修復いまま、作業遅れる見通し	災害科学国際研究所、川内厚史	報道・コメント
346	2020/9/8	テレビ	NHK	生誕! 宇治BOSSI:地震の声を聞こう 津波はどのように起きる?	俣田真理	出演
347	2020/9/8	テレビ	仙台放送	Live News it!:台風の備え コロナで変わる 必要な防災用品とは	児玉栄一	報道・コメント
348	2020/9/9	ラジオ	ラジオ第一(仙台)	ゴジラちゃん! :「防災研究最前線」7月山形豪雨の調査報告	佐藤翔輔	出演
349	2020/9/11	テレビ	NHK(関西)	ニュース:坂茂さん 考案の間仕切りを導入へ	坂茂	報道・コメント
350	2020/9/11	新聞(全国紙)	日本経済新聞社	東日本大震災10年へ、津波避難タワー、計画の2割未完了 用地や予算が壁に	増田聡	報道・コメント
351	2020/9/11	テレビ	ミヤギテレビ	<新型コロナ>ニュース:過去最多新規感染者15人 東北大の専門家に聞く	小坂健	報道・コメント
352	2020/9/13	テレビ	NHK(総合)	【明日へつなげよう】あの日をつなぐ「思い出レター」	今村文彦	出演
353	2020/9/14	テレビ	東日本放送	ニュース:新型コロナウイルス 県内感染者最多ペースで専門家分析	小坂健	報道・コメント
354	2020/9/15	その他	科学技術振興機構	産学官連携ジャーナル:「防災ISO規格活動の開始-防災イノベーションに向けて」	今村文彦	執筆
355	2020/9/15	テレビ	東北放送	Nスタみやぎ:シリアス防災・減災#32 特集 大雨に備えるマイタイムラインとは	佐藤翔輔	出演

	配信日	媒体	配信社	タイトル	掲載教員	分類
356	2020/9/15	その他	東北大学大学院医学系研究科	プロモーションビデオ	坂茂	出演
357	2020/9/16	新聞(地方紙)	京都新聞	飛沫防止の関わり、災害時に避難所で 坂茂さん代表NPOと京都・長岡京市が供給に関する協定	坂茂	報道・コメント
358	2020/9/16	新聞(その他)	時事通信社	誰もが快適に使用できる公共トイレ「THE TOKYO TOILET」7カ所が完成、来年夏までに全17カ所を設置	坂茂	報道・コメント
359	2020/9/19	新聞(全国紙)	毎日新聞社	鍵がけると壊れない?! 渋谷にガラス張りの公共トイレ 坂茂さんらデザイン	坂茂	報道・コメント
360	2020/9/19	新聞(地方紙)	東京新聞	AEDは複数疾患の集合体か? グラム解析とAIで発見、東北大	栗山進一	報道・コメント
361	2020/9/19	新聞(全国紙)	朝日新聞社	細る海岸	有働恵子	報道・コメント
362	2020/9/20	ラジオ	FM仙台・Date fm	SUNDAY MORNING WAVE: 災害医療人材育成の国際協力	江川新一	出演
363	2020/9/23	テレビ	東日本放送	<新型コロナ>ニュース:県内で陰性後の検査で陽性判明相次ぐ9月に5人	小坂健	報道・コメント
364	2020/9/25	新聞(全国紙)	日本経済新聞社	坂茂の透ける公園トイレ デザインで課題を解決	坂茂	報道・コメント
365	2020/9/26	新聞(その他)	建設通信新聞	【トイレのイメージ覆す】デザインと創造力で“脱4K”「THE TOKYO TOILET」プロジェクト	坂茂	報道・コメント
366	2020/9/26	新聞(全国紙)	毎日新聞社	豊田市美術館を一体整備 市郷土資料館を一新 愛知	坂茂	報道・コメント
367	2020/9/27	新聞(全国紙)	日本経済新聞社	【書評】「心をなもつヒント」76人が語る「コロナ」共同通信社編著	坂茂	その他
368	2020/9/30	テレビ	東日本放送	コロナとどう向き合うか? 探る 東北大学が感染症の歴史研究「疫病退散プロジェクト」スタート	災害科学国際研究所	報道・コメント
369	2020/9/30	新聞(地方紙)	山形新聞	「洪水は起きる」を前提に 流域治水 県民の当事者意識 不可欠	橋本雅和	報道・コメント
370	2020/9/30	テレビ	東北放送	Nスタみやぎ、石碑で感染症の歴史を調査へ	蝦名裕一	出演
371	2020/10/1	新聞(全国紙・地方版)	朝日新聞社	疫病の歴史文化を地域調査、新型コロナ対応で 東北大	災害科学国際研究所	報道・コメント
372	2020/10/4	テレビ	NHK(北海道)	ニュース:交流サロンで防災ワークショップ	定池祐季	報道・コメント
373	2020/10/4	新聞(全国紙・地方版)	毎日新聞社(他1社)	疫病流行、実態に迫る 石碑・習俗から文化や歴史を 地域住民に情報募る 東北大が調査	災害科学国際研究所、蝦名裕一	報道・コメント
375	2020/10/5	新聞(その他)	日刊工業新聞社	社説「防災ISO 主導で技術革新の好循環を」	災害科学国際研究所、今村文彦	報道・コメント
376	2020/10/5	新聞(全国紙・地方版)	読売新聞社(他2社)	「牛頭天王」など疫病にまつわる信仰・習俗からコロナ対応探る…東北大がプロジェクト	災害科学国際研究所	報道・コメント
379	2020/10/5	新聞(地方紙)	河北新報社	疫病退散、歴史に学んで 東北大災害研、石碑や習俗の情報募る	災害科学国際研究所、蝦名裕一	報道・コメント
380	2020/10/6	新聞(その他)	夕刊フジ	「肥満はコロナに強い」は本当か? 死亡単で持病ない患者と連色ないデータ、重症化率では上回る 専門家「直接的な疾患ではないからか」	児玉栄一	報道・コメント
381	2020/10/6	新聞(その他)	建設通信新聞	10月半の公募へ審査基準審議/DBサッカースタジアム事業者 広島市	小野田泰明	報道・コメント
382	2020/10/7	その他	気仙沼市立豊折中学校	校長室より	佐藤翔輔	その他
383	2020/10/8	テレビ	東日本放送	ニュース:仙台飲食店 感染者21人は過去最多のクラスター 改めて対策の徹底を	小坂健	報道・コメント
384	2020/10/8	ラジオ	NHKラジオ(大阪)	<新型コロナ>関西ラジオワイド:東日本大震災 あれからそして未来へ「コロナ禍の震災伝承」	佐藤翔輔	出演
385	2020/10/9	新聞(全国紙・地方版)	毎日新聞社	台風19号1年一早期避難、いかに促すかが鍵 事前準備、行動計画、知識学び被害を最小に/宮城	柴山明寛	報道・コメント
386	2020/10/9	新聞(全国紙・地方版)	毎日新聞社	台風被災の古文書、修復遅れ コロナで作業中断、応急処置2割 仙台のNPO「貴重な資料 守りたい」/宮城	佐藤大介	報道・コメント
387	2020/10/9	テレビ	NHK・福島放送局	はまなみあすToday:台風19号からの1年 南相馬市職員死亡 遺族は 市は	丸谷浩明	報道・コメント
388	2020/10/9	新聞(全国紙)	読売新聞社	土砂災害 低い危機意識	森口周二	報道・コメント
389	2020/10/10	新聞(全国紙・地方版)	読売新聞社	台風19号1年(3)避難所運営 感染対策も/宮城	佐藤翔輔	報道・コメント
390	2020/10/10	ラジオ	NHKラジオ第一	<新型コロナ>NHK東日本大震災音声アーカイブス:あれからそして未来へ「コロナ禍の震災伝承」	佐藤翔輔	出演
391	2020/10/10	新聞(全国紙)	読売新聞社	台風19号1年 災害時 危険な車移動「勤務時間に配慮」	丸谷浩明	報道・コメント
392	2020/10/10	新聞(地方紙)	河北新報	台風19号1年/取り戻す 日常	柴山明寛	報道・コメント
393	2020/10/11	新聞(全国紙・地方版)	読売新聞社	台風19号1年 被災 住民も主体的に 田んぼダム「協力未知数」	橋本雅和	報道・コメント
394	2020/10/11	新聞(全国紙・地方版)	河北新報	むすび繋	保田真理	その他
395	2020/10/13	テレビ	仙台放送(他1社)	Live News it: いのちを守る206台 大郷町 犠牲者ゼロの理由	佐藤翔輔	報道・コメント
397	2020/10/13	新聞(地方紙)	河北新報	新型コロナ:東北の感染者1000人超す	小坂健	報道・コメント
398	2020/10/13	新聞(全国紙・地方版)	日本経済新聞社	<台風19号災害>被災古文書の修復2割 個人所蔵、コロナで遅れ	佐藤大介	報道・コメント
399	2020/10/13	新聞(その他)	日本経済新聞社	歯科医院でのコロナ感染率356日で1.06%	小坂健	報道・コメント
400	2020/10/14	テレビ(海外)	RBB (Berlin)	Press Conference Berlin Science Week	グルスタ・ユリア	出演
401	2020/10/15	新聞(地方紙)	河北新報	3.11大震災:被災と復興、10年の歩みたどる 仙台が特設サイト	今村文彦	報道・コメント
402	2020/10/15	テレビ	東日本放送	ニュース:宮城県内初の医療機関クラスター なせ院内で?	小坂健	報道・コメント
403	2020/10/16	新聞(全国紙・地方版)	読売新聞社	台風19号:白河の「車中死」 道路の規制 消防団任せ/福島	佐藤翔輔	報道・コメント
404	2020/10/19	新聞(その他)	時事通信社	コンサルテイング会社はくむ、食×学び×対話をテーマにし、世界で活躍する建築家坂茂氏が空間デザインをした新形態コミュニケーション「はくむ湖畔」を10/20にオープン	坂茂	報道・コメント
405	2020/10/19	新聞(全国紙)	朝日新聞社	細る海岸 砂の供給減:海面上昇、浸食進む 車で走れる石川・千里浜	有働恵子	報道・コメント
406	2020/10/20	テレビ	東北放送	Nスタみやぎ:台風19号を教訓に 特集 災害時の情報伝達の在り方は	佐藤翔輔	報道・コメント
407	2020/10/20	新聞(地方紙)	河北新報社(他1社)	名取:閉上「ベイエリア」 交流人口拡大へ 官民連携組織が始動	平野勝也	報道・コメント
409	2020/10/20	テレビ	仙台放送(他1社)	Live News it: 災害関連死を防ぐ「ムービングハウス」とは? 災害後の避難生活の負担を減らす	岩田司	報道・コメント
411	2020/10/20	新聞(地方紙)	大分経済新聞	大分県立美術館OPAMが開館5周年イベント 国道の歩行者天国にブースざらり	坂茂	報道・コメント
412	2020/10/22	テレビ	東日本放送(他1社)	ニュース:国際津波シミュレーション仙台で来年7月に開催 最先端の研究発表	今村文彦	報道・コメント
414	2020/10/24	新聞(全国紙・地方版)	毎日新聞社	国際津波シミュ、40年ぶり仙台で 来年7月/宮城	今村文彦	報道・コメント
415	2020/10/24	テレビ	NHK・仙台放送局	国際津波シミュ 仙台で開催へ	災害科学国際研究所、今村文彦	報道・コメント
416	2020/10/26	その他	国土交通省	2020年濱口相模国際賞(国土交通大臣賞)の受賞者が決定へ 国外から1名・団体、国内から1名が受賞	今村文彦	その他
417	2020/10/26	新聞(地方紙)	大分合同新聞社	大分県立美術館5周年 設計の坂さんらがアート語る	坂茂	報道・コメント
418	2020/10/26	新聞(その他)	みんなの経済新聞(他1社)	秋の夕下、「芸術の一日」満喫 大分県立美術館OPAMで開館5周年イベント	坂茂	報道・コメント
420	2020/10/27	新聞(その他)	建設通信新聞	「若い世代の人材育成へ」3・11伝承ロープ推進機構 福島県双葉町で防災・伝承セミナー開催	今村文彦	報道・コメント
421	2020/10/28	テレビ	東日本放送(他1社)	県内最大のクラスター なぜ専門学校で感染拡大?	小坂健	報道・コメント
423	2020/10/28	テレビ	仙台放送(他1社)	FNNニュース:宮城県内新型コロナ感染者数「急増中」...県内の現状どう見る? 「冬」への警戒は? 専門家に聞く	小坂健	報道・コメント
425	2020/10/28	新聞(地方紙)	河北新報	災害時心理状況学 東北大生 小中学生に授業	邑本俊亮	報道・コメント
426	2020/10/29	テレビ	仙台放送	ニュース:学校防災を見直す 県の検討会が「報告書案」 大川小の教訓を生かせるか/宮城	今村文彦	報道・コメント
427	2020/10/29	新聞(全国紙・地方版)	読売新聞社	公文書保存 自治体で差 震災・原発関連 対象や期間	川内洋彦	報道・コメント
428	2020/10/30	新聞(地方紙)	静岡新聞	内閣府想定は「過小評価」地農学会研究発表 一部割れ、数十倍が妥当	福島洋	報道・コメント
429	2020/10/30	新聞(地方紙)	河北新報	学校防災、現場で進化した 宮城県教委検討会議	今村文彦	報道・コメント
430	2020/10/31	新聞(全国紙・地方版)	朝日新聞社	学校防災、専門機関との連携課題 県教委が調査	今村文彦	報道・コメント
431	2020/10/31	テレビ	NHK(総合)(他1社)	ニュース:トルコ・ギリシャ沖地震27人死亡800人以上けが 余震続く	今村文彦	報道・コメント
433	2020/11/1	その他	Berlin Science Week	Highlights Berlin Science Week	Shimichi Egawa	報道・コメント
434	2020/11/2	テレビ	NHK(東北)	クラスター発生の専門学校で何が	小坂健	報道・コメント
435	2020/11/2	新聞(その他)	朝日小学生新聞	見るみる分かる! 津波から命を守る仕組みづくり多くの施設を使って防ぎ/情報伝達や訓練を工夫	佐藤翔輔	報道・コメント
436	2020/11/2	新聞(全国紙・地方版)	朝日新聞社	「復興2020:人とまち、再建バランスは 現場知る専門家らシゴト/宮城県	蛭田道生、平野勝也	報道・コメント
437	2020/11/3	新聞(地方紙)	福島民友新聞(他2社)	災害に強い「組織力」YMC郡山セミナー、丸谷浩明教授講演	丸谷浩明	報道・コメント
440	2020/11/3	新聞(地方紙)	河北新報	防災教育 若者の視点から 今年度の「学校と地域 安全フォーラム」パネル討論を配信	防災教育国際協働センター	報道・コメント
441	2020/11/4	ウェブ	Dream News	東北大学MOOC講座<東北大学サイエンスシリーズ第5弾>「放射線安全社会入門」の知見を暮らしに〜オンライン講座「gacco(R)」にて2021年11月27日(水)開講予定	細井義夫	報道・コメント
442	2020/11/5	ウェブ	ウェザーニュース(他1社)	11月5日は「津波防災の日」 「世界津波の日」	今村文彦	報道・コメント
444	2020/11/5	テレビ	東日本放送	<新型コロナ>ニュース:寒冷地が増える感染者数「換気・手洗い徹底を」	小坂健	報道・コメント
445	2020/11/6	新聞(その他)	夕刊フジ(他1社)	冬のコロナ、感染爆発の危険 専門家に聞く 防壁「暖房と加湿器はウイルスにも快適、15分毎に換気を」「自粛疲れで予防おろそかになる懸念も」	児玉栄一	報道・コメント
447	2020/11/6	新聞(全国紙・地方版)	読売新聞	津波教訓 連携/海外へ 伝承館・東北大災害研 協定	柴山明寛	報道・コメント
448	2020/11/8	テレビ	NHK・NEWS WEB	ニュース:水害発生時のSNS情報 動画など地図に示すウェブサイト公開開始	災害科学国際研究所、佐藤翔輔	出演
449	2020/11/9	その他	東日本大震災津波伝承館	いわてTSUNAMIメモリアル:東北大学災害科学国際研究所と連携協定を締結しました	災害科学国際研究所、丸谷浩明	その他
450	2020/11/9	新聞(全国紙・地方版)	日本経済新聞社	東北大災害研、岩手の津波伝承館と連携協定	災害科学国際研究所、今村文彦、丸谷浩明、柴山明寛	報道・コメント
451	2020/11/9	テレビ	NHK(岩手)	津波伝承館が東北大と連携協定	災害科学国際研究所、丸谷浩明	報道・コメント
452	2020/11/9	テレビ	岩手めんこいテレビ	FNNニュース:東北大学と津波伝承館が協定 伝承や研究の連携図る<岩手県>	災害科学国際研究所、今村文彦、丸谷浩明	報道・コメント
453	2020/11/9	テレビ	岩手放送(他1社)	教訓を世界に発信 東北大と津波伝承館が連携協定/岩手	災害科学国際研究所、丸谷浩明	報道・コメント
455	2020/11/10	ウェブ	PR TIMES	街中で起こる水害「内水氾濫」を、SNSデータから解析して 防災につなげる 東北大学IX通信社の産学連携プロジェクト開始	災害科学国際研究所、佐藤翔輔、マセウリック	報道・コメント
456	2020/11/10	新聞(地方紙)	岩手日報(他3社)	教訓発信へ 東北大と協定 津波伝承館、学術研究の情報共有	災害科学国際研究所、今村文彦、丸谷浩明、柴山明寛	報道・コメント
460	2020/11/10	新聞(全国紙)	朝日新聞社	津波伝承館、震災の事実・教訓発信へ連携 東北大と協定	災害科学国際研究所、丸谷浩明、柴山明寛	報道・コメント

	配信日	媒体	配信社	タイトル	掲載教員	分類
461	2020/11/10	その他	exciteニュース	街中で起こる水害「内水氾濫」を、SNSデータから解析して防災につなげる東北大×JX通信社の産学連携プロジェクト開始	災害科学国際研究所、佐藤翔輔、マツエリツク	報道・コメント
462	2020/11/10	新聞(地方紙)	岩手日日新聞	震災教訓 海外へ発信 陸前高田・津波伝承館 東北大と連携協定	災害科学国際研究所、丸谷浩明、柴山明寛	報道・コメント
463	2020/11/11	ウェブ	TEAM防災ジャパン	震災教訓 海外へ発信 陸前高田・津波伝承館 東北大と連携協定【岩手】	災害科学国際研究所、丸谷浩明	報道・コメント
464	2020/11/10	新聞(地方紙)	岩手日報	教訓発信へ連携強化 東北大と津波伝承館が協定	災害科学国際研究所、丸谷浩明、柴山明寛	報道・コメント
465	2020/11/10	新聞(地方紙)	河北新報	震災の記録活用 災害研と連携へ	災害科学国際研究所、丸谷浩明、柴山明寛	報道・コメント
466	2020/11/11	テレビ	TBSテレビ	【ひるおび!】米国製大手ファイザー開発・コロナワクチン9割に効果	小坂健	報道・コメント
467	2020/11/12	テレビ	東日本放送	宮城県内コロナ第3波か? 専門家はどう見る...対策の継続を	小坂健	報道・コメント
468	2020/11/12	ウェブ	Yahoo!ニュース	宮城県内コロナ第3波か? 専門家はどう見る...対策の継続を	小坂健	報道・コメント
469	2020/11/13	テレビ	東北放送(他2社)	Nスタみやぎ;地域防災に活用をSNS上の水害情報を地図上に掲載	災害科学国際研究所、佐藤翔輔	出演
472	2020/11/13	テレビ	NHK(東北)	ニュース:東北大医師「負担増している」対策の再認識を	小坂健	報道・コメント
473	2020/11/14	テレビ	東日本放送	チャージン!;東北大の新たな歴史研究 石碑や古文書から読み解く疾病	蝦名裕一	出演
474	2020/11/16	新聞(その他)	毎日工業新聞	施設室から日本発「防災ISO」の意義 地域産業創生のトリガーに	今村文彦	報道・コメント
475	2020/11/16	新聞(全国紙・地方版)	毎日新聞社	新型コロナウイルス:県内感染1000人に迫る1カ月で倍増 各地でクラスター	小坂健	報道・コメント
476	2020/11/19	新聞(全国紙・地方版)	毎日新聞社	「児童生徒の命を確実に守る覚悟」促す 宮城県教委の有識者会議が提言	今村文彦	報道・コメント
477	2020/11/19	新聞(全国紙)	日本経済新聞社	東北大、新型コロナウイルス感染症対策としての行動規制(COVID-19規制)が研究者に及ぼした影響の実態調査結果を発表	三木康宏	報道・コメント
478	2020/11/19	新聞(地方紙)	河北新報	国際的な防災協力 講演 東北大が地球共生シンポ	小野裕一	報道・コメント
479	2020/11/19	テレビ	東日本放送	チャージン!;災害科学研「疫病退散プロジェクト」歴史研究で新型コロナ対策探る	蝦名裕一	出演
480	2020/11/19	テレビ	ミヤギテレビ	News Every:東北大学が研究中 石碑からコロナとの向き方を学ぶ	三木康宏、中鉢奈津子、今村文彦、伊藤潔	報道・コメント
481	2020/11/20	ウェブ	QLifePro	COVID-19対策の行動規制は研究者にも負の影響 - 東北大	三木康宏、中鉢奈津子、今村文彦、伊藤潔	報道・コメント
482	2020/11/20	新聞(その他)	夕刊フジ	GoogleのAI予測 コロナ死、危ない自治体は? 感染者数少ない地域に意外なリスク	児玉栄一	報道・コメント
483	2020/11/20	ラジオ	Tokyo FM(他5社)	津波到達までの1時間で準備・避難を...東京湾内を対象に、専門家指「命を守る4つのポイント」とは?	今村文彦	出演
489	2020/11/24	その他	大学ジャーナル(他1社)	新型コロナ対策の行動規制、研究者にも大きな影響 東北大学が調査	三木康宏、中鉢奈津子、今村文彦、伊藤潔	報道・コメント
491	2020/11/24	新聞(その他)	建設新聞	東北学術合同調査団 台風19号災害調査の最終報告会 気候変動を踏まえた対策を水害・土砂災害などの要因分析	東北学術合同調査団、今村文彦	報道・コメント
492	2020/11/24	新聞(その他)	観光経済新聞	水田に浮かぶ木造ホテル「スイデンテラス」、美と健康のヴェルジッパ「ヘルジアンウット」と水田姉妹施設協定を締結	坂茂	報道・コメント
493	2020/11/25	新聞(地方紙)	河北新報	無人艇い海底地震変動を長期観測 東北大と海洋機構が成功、「ゆっくり滑り」検出期待	日野亮太	報道・コメント
494	2020/11/25	テレビ	東北放送	Nスタみやぎ;台風19号豪雨災害犠牲者ゼロの地域比較早く避難	今村文彦、佐藤翔輔	報道・コメント
495	2020/11/26	新聞(地方紙)	河北新報	【復興ロードの行方 三陸道・仙台-気仙沼直結】2本の「横割」待たれる整備	奥村誠	報道・コメント
496	2020/11/27	ウェブ	MedicalTribune	コロナ禍の行動規制が研究者への不安を煽る	三木康宏	報道・コメント
497	2020/11/27	雑誌・機関誌	日経XTECH	SNSの写真を防災に生かす、住民参加で内水氾濫の被害を記録	災害科学国際研究所、佐藤翔輔	報道・コメント
498	2020/11/27	ラジオ	Tokyo FM(他1社)	海水の約1.5倍の破壊力...「黒い津波」の脅威を専門家が解説	今村文彦	出演
500	2020/11/27	テレビ	NHK-静岡放送局	防災ボイス:家族を守る連絡確認 編(通年放送配信)	定池祐季	出演
501	2020/11/28	新聞(地方紙)	河北新報	東日本大震災10年:被災社会へ「復興」検証 1月21日オンラインシンポ	災害科学国際研究所	報道・コメント
502	2020/11/29	新聞(全国紙・地方版)	朝日新聞社	犠牲者ゼロ、水害の町の教訓は 吉田川決壊の宮城・大野	佐藤翔輔、橋本雅和	報道・コメント
503	2020/11/30	ラジオ	Tokyo FM(他2社)	も「津波が発生したら...」専門家が教える、身近で「安全な避難場所」とは?	今村文彦	出演
506	2020/12/1	新聞(地方紙)	河北新報	被災研究 社会に還元/東北大災害研/オンラインでシンポ	平野勝也、井内加奈子、今村文彦、佐々木宏之	報道・コメント
507	2020/12/1	ラジオ	FM沼沼	減災研究 社会に還元/東北大災害研/オンラインでシンポ	保田真理	出演
508	2020/12/3	新聞(地方紙)	河北新報	東日本大震災10年へ:津波被災の古文書、修復が完了 仙台のNPOが9年半作業	佐藤大介	報道・コメント
509	2020/12/4	新聞(全国紙・地方版)	毎日新聞社	東日本大震災10年へ:県伝承活動研修会、開始 次代の語り部たちへ/宮城	佐藤翔輔	報道・コメント
510	2020/12/4	新聞(地方紙)	河北新報	仙台市美術館廃止、県民会館移転...中心部活性化に反する?市検討懇話会で懸念の声	姥浦道生	報道・コメント
511	2020/12/4	新聞(全国紙)	日本経済新聞社	小松マテル、抗ウイルス生地の間仕切り	坂茂	報道・コメント
512	2020/12/4	テレビ	東日本放送	ニュース:今週の県内の感染者 感染経路不明者の割合が増加	小坂健	報道・コメント
513	2020/12/6	新聞(全国紙・地方版)	読売新聞社	震災10年 災害科学講座	災害科学国際研究所、今村文彦	報道・コメント
514	2020/12/7	ウェブ	PR TIMES	ウイルスからあなたを守りたい! 建築家・坂茂氏監修 抗ウイルス加工の新型パーテーション「PPSA」誕生	坂茂	報道・コメント
515	2020/12/7	ラジオ	NHKラジオ第一(仙台)	ゴッパつちゃ! :「防災研究最前線」震災体験の「語り」が及ぼす影響とSNSマッピングプロジェクト	佐藤翔輔	出演
516	2020/12/8	新聞(全国紙・地方版)	読売新聞社	東北大学X読売新聞 サイエンス講座 講師は語る1 震災10年 脅威再認識を	今村文彦	報道・コメント
517	2020/12/8	新聞(その他)	夕刊フジ	病床数「世界一」なのに医療体制逼迫のなぜ	児玉栄一	報道・コメント
518	2020/12/9	新聞(全国紙・地方版)	読売新聞社	東北大学X読売新聞 サイエンス講座 講師は語る2 復興への選択肢学ぶ	マリエリザベス	報道・コメント
519	2020/12/9	新聞(全国紙)	日本経済新聞社	防災産業 仙台から世界へ 避難経路アプリや国際規格化 市や東北大など連携始動	災害科学国際研究所	報道・コメント
520	2020/12/10	新聞(全国紙・地方版)	読売新聞社	東北大学X読売新聞 サイエンス講座 講師は語る3 震災犠牲者の死因分析	門庭充侍	報道・コメント
521	2020/12/11	新聞(全国紙・地方版)	読売新聞社	東北大学X読売新聞 サイエンス講座 講師は語る4 被災地の伝承例紹介	佐藤翔輔	報道・コメント
522	2020/12/11	ウェブ	文部科学省MEXT FB	大臣報道官通信vol.637 萩生田大臣が東北大学を視察	災害科学国際研究所	その他
523	2020/12/11	新聞(その他)	夕刊フジ	コロナワクチン確保戦争 韓国出遅れで「敗戦濃厚」、開発情報を狙うサイバー攻撃	児玉栄一	報道・コメント
524	2020/12/11	新聞(全国紙)	読売新聞社	震災10年の教訓「第1報でアクションを」...東北大と読売新聞がオンライン講座	災害科学国際研究所、今村文彦、佐藤翔輔、マリエリザベス、門庭充侍	報道・コメント
525	2020/12/11	テレビ	東日本放送	ニュース:今週の県内の感染状況 仙台と登米でクラスター4件 感染広がる	小坂健	報道・コメント
526	2020/12/12	新聞(全国紙・地方版)	読売新聞社	東北大学X読売新聞 サイエンス講座 次世代にリスクへの備え 震災10年 研究者の視点で大学の知見 社会へ届ける	災害科学国際研究所、今村文彦、佐藤翔輔、マリエリザベス、門庭充侍	報道・コメント
527	2020/12/12	新聞(地方紙)	河北新報	外国人にも教訓発信 陸前高田・津波伝承館職員が英語研修	マリエリザベス、ゲルスタ・ユリア、ボレー・セバスチャン、柴山明寛	報道・コメント
528	2020/12/12	新聞(全国紙)	産経新聞社	【復興日本 序章 コロナと災害】(下)進化する避難所	島田明夫	報道・コメント
529	2020/12/12	新聞(全国紙・地方版)	読売新聞社	東北大学X読売新聞 サイエンス講座 講演要旨①「災害後 第1報で行動を」	今村文彦	報道・コメント
530	2020/12/12	新聞(地方紙)	読売新聞社	教える 英語解読力	マリエリザベス、ゲルスタ・ユリア、ボレー・セバスチャン、柴山明寛	報道・コメント
531	2020/12/12	新聞(地方紙)	東海新報	解説の語学力向上を	マリエリザベス、ゲルスタ・ユリア、ボレー・ペンメルン、セバスチャン	その他
532	2020/12/13	新聞(地方紙)	東海新報	災害の記憶をどう伝える? ウェビナー収録 海外2博物館と結ぶ	マリエリザベス、ゲルスタ・ユリア、ボレー・セバスチャン、柴山明寛	報道・コメント
533	2020/12/15	新聞(その他)	夕刊フジ	PCR検査規模拡大で忍び寄る(偽陰性クラスター) 検査時の一瞬だけ...実際は「陽性」1厘劣劣劣・木村盛世氏「やみくもに広げること疑問」	児玉栄一	報道・コメント
534	2020/12/16	ウェブ	Bloomberg	経済の先行き懸るシニア消費に陰り、コロナ不安で「原宿」も閉店	吉田浩	報道・コメント
535	2020/12/16	新聞(全国紙・地方版)	読売新聞社	東北大学X読売新聞 サイエンス講座 講演要旨②「まちづくり視点 復興に」	マリエリザベス	報道・コメント
536	2020/12/17	新聞(全国紙・地方版)	読売新聞社	東北大学X読売新聞 サイエンス講座 講演要旨③「災害からの生存を追求」	門庭充侍	報道・コメント
537	2020/12/18	新聞(全国紙・地方版)	読売新聞社	東北大学X読売新聞 サイエンス講座 講演要旨④「語り部への認識 変革を」	佐藤翔輔	報道・コメント
538	2020/12/21	新聞(地方紙)	岩手日報	復興最前線 第90部 大型公共事業の検証(3) 建築系 施設 細る財源 維持に	佐藤翔輔	報道・コメント
539	2020/12/21	新聞(全国紙・地方版)	産経新聞社	【防災より情報】防災教育の実践や研究報告	坂井愛子	報道・コメント
540	2020/12/23	テレビ	NHK-仙台放送	てれまさむね:避難行動を記録 あの日の教訓を伝える	佐藤翔輔	報道・コメント
541	2020/12/23	新聞(その他)	夕刊フジ	新型コロナウイルス、本当に効く薬はない? 「レムデシビル」デキサメタゾン「アビガン」 震災「効く」という報告も、その逆もある。具体的な特効薬はない	児玉栄一	報道・コメント
542	2020/12/24	新聞(地方紙)	河北新報	震災の教訓 成果を共有/気仙沼・鹿折中 全校生徒/避難行動、住民に聞き取り/経路 前もって確認必要	佐藤翔輔	報道・コメント
543	2020/12/24	テレビ	NHK-仙台放送局	てれまさむね:感染症の歴史から見るものは	蝦名裕一	出演
544	2020/12/28	テレビ	NHK-仙台放送局	おはよう東北:震災の教訓を伝える「中学生の防災学習」	佐藤翔輔	報道・コメント
545	2020/12/28	新聞(地方紙)	中日新聞	> 新型コロナウイルス 東日本大震災10年 コロナ かすむ語り部 来訪者激減 オンラインに活路 宮城など被災3県	佐藤翔輔	報道・コメント
546	2020/12/28	雑誌・機関誌	日経コンストラクション	SNSの写真を内水氾濫の被害を記録	佐藤翔輔	報道・コメント
547	2021/1/1	雑誌・機関誌	ナガセランダウア	NLだより 517号:病院を止めるな! 災害時にも機能を維持するために病院BCM導入を/病院BCPの概要	佐々木宏之	執筆
548	2021/1/1	新聞(全国紙)	毎日工業新聞	東北大、震災10年で新生 新型コロナ対応	児玉栄一	報道・コメント
549	2021/1/3	新聞(全国紙)	朝日新聞社	テレビでは伝えられなかったこと 災害映像アーカイブに	佐藤翔輔	報道・コメント
550	2021/1/4	その他	まなびのめ	研究者インタビュー:災害によるコミュニティの移動を考る	井内加奈子	その他
551	2021/1/5	新聞(その他)	夕刊フジ	ワクチン開発企業へサイバー攻撃激化! 特許取得による収益狙いか/中国から日本に「闇ワクチン」持ち込みも	児玉栄一	報道・コメント
552	2021/1/6	雑誌・機関誌	週刊朝日(他1社)	迫る南極ラフ巨大地震と富士山噴火「密」環境で避難所パンクも	遠田晋次	報道・コメント
554	2021/1/6	ウェブ	毎日工業新聞社	ニュースイッチ:東大、京大に次ぐ存在感、東北大の変化を東日本大震災10年から探る	災害科学国際研究所	報道・コメント

	配信日	媒体	配信社	タイトル	掲載教員	分類
555	2021/1/7	新聞(全国紙)	朝日新聞社	Media Times:防風化、放送局が災害映像公開 撮りためた生々しい実態「社会の財産」	佐藤翔輔	報道・コメント
556	2021/1/7	新聞(全国紙)	産経新聞	「コロナに克つ」衛生的に暮らせる場所へ 避難所にAI技術活用	災害科学国際研究所	報道・コメント
557	2021/1/7	新聞(地方紙)	河北新報社(他1社)	震災10年:復興を考えるオンラインシンポ、21日開催	災害科学国際研究所	報道・コメント
559	2021/1/9	ウェブ	夕刊フジ	「ザル入国」厳格化、これで十分? 全入国者にPCR検査もビジネス往來止めず...佐藤正久氏「すり抜ける可能性ある」	児玉栄一	報道・コメント
560	2021/1/9	テレビ	NHK(総合)	NHKスペシャル2030 未来への岐点(1) 暴走する温暖化脱炭素への挑戦	有働恵子	資料提供
561	2021/1/9	新聞(地方紙)	北海道新聞	<被災地を見つめる>在宅被災者 置き去りのまま少ない修繕費 仮設にも入れず	定池祐季	報道・コメント
562	2021/1/11	新聞(全国紙)	毎日新聞社	東日本大震災10年へ:教訓はどこに? 5災害救援 SNSの功罪	佐藤翔輔	報道・コメント
563	2021/1/12	新聞(地方紙)	東京新聞	<新型コロナ>>コロナ禍で震災体験をどう伝承していくか 各地で来訪者減少、オンラインでリモート語り部も	佐藤翔輔	報道・コメント
564	2021/1/13	新聞(その他)	夕刊フジ(他1社)	変異ウイルス「日本人狙い撃ち」の凶暴性 クラスター誘発の恐れも「特徴的な免疫、特有の家具や習慣に適合する可能性」専門家	児玉栄一	報道・コメント
566	2021/1/13	新聞(全国紙)	朝日新聞社	震災10年「防潮堤も」防波堤も...消えぬ津波の不安 浸水地域取り高台へ	今村文彦	報道・コメント
567	2021/1/14	新聞(地方紙)	三陸新報	<新型コロナ>>コロナ禍の避難所運営は オンラインで防災フォーラム 気仙沼	佐藤翔輔、佐々木宏之	報道・コメント
568	2021/1/14	テレビ	東日本放送	「緊急事態宣言」宮城で発出は? 専門家「安心できる状況ではない」	小坂健	報道・コメント
569	2021/1/15	新聞(全国紙・地方版)	朝日新聞社	東日本大震災3.11震災・復興・震災の教訓、中学生から小学生へ伝承 気仙沼で発表会	佐藤翔輔	報道・コメント
570	2021/1/17	新聞(全国紙)	産経新聞	論説:「日曜」に書く「平成」の大地震を省みて	今村文彦	報道・コメント
571	2021/1/17	テレビ	NHK(大阪)	NHKスペシャル「阪神淡路大震災26年」	江川新一	企画協力
572	2021/1/19	新聞(その他)	共同通信社(他3社)	津波で活動の消防団退避基準どう明示 到達早い山形・新潟 時間明記が「即座に」か「説明重要」と指摘	佐藤翔輔	報道・コメント
576	2021/1/20	ウェブ	マイナビニュース	産後うつは出産による血中中性ホルモン量の低下が原因か? 東北大などが調査	富田博秋	報道・コメント
577	2021/1/20	テレビ	日本テレビ	スギヤリ:コロナ後遺症、深刻さは伝わっているか? 「若いから軽症ですむ」は大間違いだ!?	小坂健	報道・コメント
578	2021/1/21	新聞(全国紙)	朝日新聞社	東日本大震災3.11震災・復興、「まず人の命を」東日本大震災テーマに御厨貴氏らシンポ	災害科学国際研究所、マリ・エリザベス	報道・コメント
579	2021/1/21	新聞(地方紙)	河北新報社	東日本大震災から10年 経験や知恵を未来へ! あなたの 声をお聞かせください	佐藤翔輔	報道・コメント
580	2021/1/21	新聞(地方紙)	河北新報社	気仙沼・鹿折中生が聞き取り 住民の教訓 後輩に伝承 鹿折小で発表会「冷静に逃げて身を守る」	佐藤翔輔	報道・コメント
581	2021/1/21	テレビ	東日本放送	ニュース:高校クラスター拡大 マスク外す場面に注意	小坂健	報道・コメント
582	2021/1/22	新聞(全国紙・地方版)	毎日新聞社	「防災環境都市も」柱 基本計画の答申書	奥村誠	報道・コメント
583	2021/1/22	新聞(地方紙)	河北新報社(他1社)	復興の教訓を未来へ 震災10年、仙台でオンラインシンポ	災害科学国際研究所	報道・コメント
585	2021/1/22	新聞(その他)	夕刊フジ	新型コロナ後遺症の深刻度と意外な事実 中国・武漢の退院患者7割が倦怠感などの症状訴え、英では「せん妄」報告も...「関連明確ではない」	児玉栄一	報道・コメント
586	2021/1/22	テレビ	東日本放送	ニュース:時短営業に一定の効果も...身近な場面で感染連鎖	小坂健	報道・コメント
587	2021/1/22	新聞(地方紙)	河北新報社	1月1000人超、宮城の感染高止まり 病院負担は「危機的状況」	小坂健	報道・コメント
588	2021/1/23	テレビ	NHK(東北)	震災10年 体験語り合う	佐藤翔輔	出演
589	2021/1/25	新聞(地方紙)	沖縄タイムズ	消防団員の退避 判断基準割れる/津波到達早い山形と新潟	佐藤翔輔	報道・コメント
590	2021/1/25	新聞(その他)	時事通信社	進む放送局の災害映像アーカイブ公開 教育などで利活用をー阪神大震災26年ー	佐藤翔輔	報道・コメント
591	2021/1/25	新聞(地方紙)	河北新報社	1のち1地域を守る。みやぎ防災・減災円卓会議 仙台で「とことんトーク」開催	今村文彦	報道・コメント
592	2021/1/25	新聞(全国紙・地方版)	朝日新聞社	震災10年、産官学が語り合う 仙台 体験・思いを共有するイベント	佐藤翔輔	報道・コメント
593	2021/1/25	新聞(地方紙)	沖縄タイムズ	消防団員の退避 判断基準割れる 津波到達早い山形と新潟	佐藤翔輔	報道・コメント
594	2021/1/25	ウェブ	Yahooニュース	「父との電話で涙があふれました...」コロナ禍で一人暮らしの大学生が追い込まれる孤独	園井泰人	報道・コメント
595	2021/1/25	新聞(その他)	夕刊フジ	感染者数は減り始めたのか... 東京都12日ぶり3ケタ 児玉氏「実態は不明、まだ高いレベル」	児玉栄一	報道・コメント
596	2021/1/26	新聞(全国紙・地方版)	毎日新聞社	東日本大震災10年:消防団退避 割れる基準 津波到達 早い新潟、山形沿岸 完了時間が指針に 避難優先し明記せず新潟	佐藤翔輔	報道・コメント
597	2021/1/27	テレビ	仙台放送	コロナ禍1年... 分かった始めたこと 専門家に聞く 新型コロナを「正しく恐れる」ことができるのか?	小坂健	報道・コメント
598	2021/1/27	新聞(全国紙・地方版)	朝日新聞社	それぞれ10年、産官学語らう 仙台で「防災・減災円卓会議」	佐藤翔輔	報道・コメント
599	2021/1/28	テレビ	仙台放送	FNNニュース:宮城で新たに27人の感染確認 仙台市11人、石巻市4人など 自宅療養51人 ホテル療養181人	小坂健	報道・コメント
600	2021/1/29	新聞(その他)	日刊工業新聞社	深層断面/震災10年、新研究拠点軌道に 東北大、地域と連携深化	災害科学国際研究所、今村文彦、越村俊一	報道・コメント
601	2021/1/29	テレビ	東日本放送	ニュース:宮城県内の今週の感染者 飲食店のクラスター無し 専門家「緊急事態宣言が人の移動を抑える効果につながっている」	小坂健	報道・コメント
602	2021/1/29	新聞(全国紙・地方版)	朝日新聞社	それぞれ10年、語らう 仙台でトークイベント 東日本大震災	佐藤翔輔	報道・コメント
603	2021/1/29	新聞(全国紙・地方版)	日本経済新聞社	宮城県津波被災地 震災の教訓伝承に磨き 語り部 研修で課題共有	佐藤翔輔	報道・コメント
604	2021/1/31	新聞(全国紙)	朝日新聞社	災害復興、あすへの備え 21世紀文明シンポジウム「東日本大震災から10年」	マリ・エリザベス	報道・コメント
605	2021/2/1	雑誌・機関誌	ナガセラダウア	NIJより518号:病院を止めるな! 災害時にも機能を維持するために病院BCM導入を/東北大病院のBCP策定ステップ	佐々木宏之	執筆
606	2021/2/1	新聞(地方紙)	筑波大学新聞	東日本大震災から10年:特集筑波大はいま 基礎研究と防災教育で貢献を	佐藤健	報道・コメント
607	2021/2/1	雑誌・機関誌	日本政策投資銀行	李丹DBJ:防災力強化に向けて災害科学と世界をつなぐ	小野 裕一	その他
608	2021/2/3	新聞(地方紙)	河北新報社	風船・鳴子の風力発電計画「景観に影響大」再考要望	平野勝也	報道・コメント
609	2021/2/3	新聞(全国紙・地方版)	毎日新聞社	追悼式ライブ中継へ、仙台市が詳細を発表	災害科学国際研究所	報道・コメント
610	2021/2/4	新聞(地方紙)	河北新報社	石巻市教委「復興・防災マップコンクール」誕生4年に最高賞	災害科学国際研究所	報道・コメント
611	2021/2/7	新聞(その他)	夕刊フジ	「中国製ワクチン」は変異加速させる恐れ? 科学的情報少なく効果不透明、「可能性は理論上ある」	児玉栄一	報道・コメント
612	2021/2/8	テレビ	NHK・仙台放送局	<新型コロナ>でれまきまね:ホテル療養者の部屋訪問 レントゲンで肺炎確認	佐々木宏之	出演
613	2021/2/9	テレビ	仙台放送	Live News it! :いのちを守る218、「内水氾濫」被害を防ぐために SNS情報から水害マップを作成	佐藤翔輔	報道・コメント
614	2021/2/10	新聞(その他)	農業共済新聞	経験と継承 住民の活力に 災害教訓を伝える語り部	佐藤翔輔	報道・コメント
615	2021/2/11	テレビ	仙台放送	Live News it!: 届いた支援 届かなかった支援 被災地支援のこれからの在り方 東日本大震災から10年(宮城)	奥村誠	出演
616	2021/2/11	新聞(全国紙)	朝日新聞社	地震予測 不確かさ含め生かす道	福島洋	報道・コメント
617	2021/2/12	新聞(地方紙)	信濃毎日新聞	震災の教訓、共有不十分「津波でんでんこ」聞いたことないー被災3県以外で4割読者アンケート	佐藤翔輔	報道・コメント
618	2021/2/12	ウェブ	SciencePortal(他1社)	多難な防災・減災 東北から世界へ<インタビュー>	今村文彦、小野裕一	その他
620	2021/2/12	テレビ	仙台放送	避難を妨げた人間の心理 3.11の記録 被害拡大の要因「正常性バイアス」とは?	島本俊彦	出演
621	2021/2/13	新聞(地方紙)	河北新報社	デスク日誌(2/13): 節目 東日本大震災から10年	今村文彦	報道・コメント
622	2021/2/13	テレビ	NHK	ニュース:福島・宮城で震度6強	佐藤翔輔	報道・コメント
623	2021/2/14	新聞(地方紙)	河北新報社	言葉の重み伝え考えて/草 貴子(仙台市泉区 市名坂東町内会長)	今村文彦	報道・コメント
624	2021/2/14	新聞(地方紙)	河北新報社	3月11日を「防災教育と災害伝承の日」に 専門家に呼び掛け	今村文彦	報道・コメント
625	2021/2/14	新聞(地方紙)	神奈川新聞	津波到達早い山形・新潟 退避ルール 割れる判断	佐藤翔輔	報道・コメント
626	2021/2/14	テレビ	NHK・仙台放送局	ニュース:福島・宮城で震度6強 震災10年を前に再び...今後の地震活動など 注意すべきことは?	遠田晋次	報道・コメント
627	2021/2/15	ラジオ	NHKラジオ第一(仙台)	ゴジラちゃん! :12月13日の福島県沖での地震について	佐藤翔輔	出演
628	2021/2/16	新聞(全国紙)	読売新聞社	防災ニッポン:被災後の復興、カギは「事業継続力」	丸谷浩明	報道・コメント
629	2021/2/16	新聞(その他)	夕刊フジ	コロナワクチン接種作戦成功の秘策「労働者層も同時に」 「医学生らも接種の担当に」	児玉栄一	報道・コメント
630	2021/2/16	新聞(地方紙)	神奈川新聞	風化、復興観に地域差 防災アンケート	佐藤翔輔	報道・コメント
631	2021/2/16	新聞(地方紙)	河北新報社	10年前の記憶まざまざと沿岸の被災者、高台に避難 スタンドには車列	今村文彦	報道・コメント
632	2021/2/16	新聞(全国紙)	朝日新聞社	富士通:スーパーコンピュータ「富岳」とAI活用により高解像度でリアルタイムな津波浸水予測を実現	災害科学国際研究所	報道・コメント
633	2021/2/16	ウェブ	ImpressWatch	PCでもスバコン並の津波浸水予測 富岳のAIモデル活用	災害科学国際研究所	報道・コメント
634	2021/2/16	ウェブ	AMP	富士通ら、スバコン「富岳」とAIを活用した津波浸水予測を実現 市街地の浸水を数秒で予測	災害科学国際研究所	報道・コメント
635	2021/2/16	ウェブ	lmedia	津波の浸水被害をリアルタイム予測するAI、富士通が富岳で開発 一般PCで動作	災害科学国際研究所	報道・コメント
636	2021/2/16	新聞(地方紙)	河北新報	津波深く津波小さく 東北大、震度6強のメカニズム解析	大野晋	報道・コメント
637	2021/2/16	新聞(その他)	赤旗	建物被害招く震動は小さく	大野晋	報道・コメント
638	2021/2/16	テレビ	東北放送	Nスタみやぎ:自動車を用いた津波避難の課題	奥村誠	出演
639	2021/2/16	新聞(全国紙)	朝日新聞社	強い揺れ10年前思い出す 県内で震度5弱	定池祐季	報道・コメント
640	2021/2/17	ウェブ	ZDNetJapan(他1社)	「富岳」とAIを用いて高解像度でリアルタイムな津波浸水予測	災害科学国際研究所	報道・コメント
642	2021/2/17	新聞(地方紙)	河北新報社	誘発地震に警戒必要 東北大災害研が報告会	遠田晋次、佐々木宏之、杉安和也	報道・コメント
643	2021/2/17	新聞(全国紙・地方版)	朝日新聞	大震災10年「余波終わらぬ」 東北大災害研報告会	遠田晋次、柴山明寛、佐々木宏之、杉安和也	報道・コメント
644	2021/2/18	ウェブ	SciencePortal(他1社)	スバコン「富岳」津波浸水予測AIに寄与、本格運用を前倒し	災害科学国際研究所	報道・コメント
646	2021/2/18	新聞(その他)	建設通信新聞	「富岳」使い津波予測/数秒で高解像度分析/東北大災害科学研、東大地震研、富士通	災害科学国際研究所	報道・コメント
647	2021/2/18	ラジオ	NHKラジオ第一(仙台)	Nらじ ニュースアップ:「先日の地震からこの10年の対策検証」	佐藤翔輔	報道・コメント
648	2021/2/21	新聞(全国紙)	日本経済新聞社	東日本大震災の余震、10年で1.4万回 福島・宮城の6強も	遠田晋次	報道・コメント



	配信日	媒体	配信社	タイトル	掲載教員	分類
649	2021/2/21	新聞(地方紙)	岩手日報(他4社)	東日本大震災 語り部や訴訟遺族に中傷 伝承活動に悪影響の恐れ	佐藤翔輔	報道・コメント
654	2021/2/21	新聞(地方紙)	北海道新聞	【あさ村日記】無理なく楽しく防災を	定池祐季	報道・コメント
655	2021/2/22	新聞(地方紙)	福井新聞	ハザードマップ、福井県民の浸透課題 東日本大震災10年、地方紙防災アンケート	佐藤翔輔	報道・コメント
656	2021/2/22	新聞(その他)	教育新聞	二度と犠牲者を出さない防災教育を被災地結びフォーラム	今村文彦	報道・コメント
657	2021/2/22	新聞(地方紙)	河北新報	沿岸部の復興考える 28日に仙台・若林区防災シンポ、動画同時配信も	佐藤翔輔	報道・コメント
658	2021/2/22	新聞(地方紙)	北海道新聞	<東日本大震災10年>第3部 復興のひびき*5*自治組織再生 道半ば	定池祐季	報道・コメント
659	2021/2/23	その他	大学ジャーナル	スパン(畜産)活用、津波浸水を数秒で予測するAI技術を開発	災害科学国際研究所	報道・コメント
660	2021/2/24	ウェブ	AERAドット	東日本震災6強 コロナ禍避難所で注意すべき「床とホコリ」	遠田晋次	報道・コメント
661	2021/2/24	新聞(地方紙)	西日本新聞	防災や復興「関心」被災地と差 地方紙協働調査	佐藤翔輔	報道・コメント
662	2021/2/24	新聞(全国紙)	産経新聞社	東日本大震災10年:【地震を学ぼうQ&A】余震は数年~数十年続く。100年継続も「南海トラフ地震は揺れが厳しい」	遠田晋次	報道・コメント
663	2021/2/24	テレビ	岩手放送	震災10年【忘れられない3.11】③風化させないよう後世へ語り継ぐ	柴山明寛	報道・コメント
664	2021/2/24	テレビ	NHK	ニュース:津波で高台に宅地整備 利用10戸未満が35% 4県でNHK調査	塚浦道生	報道・コメント
665	2021/2/24	新聞(地方紙)	岩手日報	津波でんでんこ「聞いたことない」38% 全国防災アンケート 被災3県と他地域で聞き	佐藤翔輔	報道・コメント
666	2021/2/25	新聞(全国紙・地方版)	毎日新聞社	災害伝承 関わり中傷 訴訟遺族や語り部を批判、脅迫「なぜ私たちに追い打ち」	佐藤翔輔	報道・コメント
667	2021/2/25	ウェブ	SciencePortal	2つの大震災を超えてー「タフ」なロボットで目指す災害に強い国づくり	出所論	報道・コメント
668	2021/2/25	テレビ	仙台放送	FNNニュース:【宮城発】避難を妨げる「正常性バイアス」の異 東日本大震災9割以上が「溺死」	邑本俊亮	報道・コメント
669	2021/2/25	新聞(その他)	建設通信新聞	藤本比介TVを特定/大分空港海上アクセス旅客ターミナル設計	坂茂	報道・コメント
670	2021/2/25	新聞(その他)	夕刊フジ	コロナワクチン「1回接種」でいいのか 確保と国産開発遅れの真相 識者「政府の失策、野党の慎重論で後手に回った」	児玉栄一	報道・コメント
671	2021/2/26	新聞(全国紙)	朝日新聞社	避難所に関任切りを 浦安市がNPOと協定	坂茂	報道・コメント
672	2021/2/26	新聞(地方紙)	河北新報	災害と仙台江戶時代・天保の古文書から(1)地震と水害 立て続けに城下襲う	佐藤大介	報道・コメント
673	2021/2/26	テレビ	ミヤギテレビ	news every:	鈴木正敏	出演
674	2021/2/27	新聞(その他)	時事通信社	BOSAI:国際規格を「被災地の経験値」にー東北大など	今村文彦	報道・コメント
675	2021/2/27	ラジオ	東京FM	防災FRONT LINE:首都直下地震、南海トラフ地震が起きたら...津波被害に備えて「予め、複数の避難場所を確認すること」	今村文彦	出演
676	2021/2/28	新聞(地方紙)	河北新報	震災の教訓を次の10年へ 防災フォーラム、仙台で3月6、7日開催	今村文彦	報道・コメント
677	2021/2/28	新聞(地方紙)	京都新聞	家族の集客場所 未定6割 読者調査 被災9県は過半数「津波でんでんこ」も共有 十分ハザードマップ「理解」4割	佐藤翔輔	報道・コメント
678	2021/3/1	その他	じゃらんリサーチセンター	VUCA時代に求められる観光リスクマネジメントとは	佐藤翔輔	その他
679	2021/3/1	ラジオ	FM東広島	あんぜん広場:13.11からの学びのデータベースについて	佐藤翔輔	出演
680	2021/3/1	新聞(地方紙)	河北新報	仙台沿岸部の復興探る 防災シンポ 課題と将来議論	佐藤翔輔	報道・コメント
681	2021/3/1	新聞(全国紙)	朝日新聞社	東日本大震災10年:3・11の現在地 原発事故、教訓どこに 県建設の伝承館「負の面、見えず」	佐藤翔輔	報道・コメント
682	2021/3/1	新聞(地方紙)	河北新報	災害と仙台江戶時代・天保の古文書から(2)飢饉 人心さみ疫病流行	佐藤大介	報道・コメント
683	2021/3/1	テレビ	NHK	そこはまるで「ボウリング」軒家へ震災後の集団移転で	塚浦道生	報道・コメント
684	2021/3/1	雑誌・機関誌	ナカセダウア	NIなど519号:病院を止めるな! 災害時にも機能を維持するために病院BCM導入を/東北大学病院のBCM	佐々木宏之	執筆
685	2021/3/1	新聞(地方紙)	岩手日報(他6社)	大震災「余震」判断難しく	遠田晋次、柴山明寛	報道・コメント
692	2021/3/1	新聞(地方紙)	神戸新聞	災禍にあてて 東日本大震災10年(4) 東北大災害科学国際研究所助教・定池祐季さん 他の被災地忘れないで	定池祐季	報道・コメント
693	2021/3/2	新聞(地方紙)	河北新報	災害と仙台江戶時代・天保の古文書から(3)民の力 力商人に支援要請	佐藤大介	報道・コメント
694	2021/3/2	ラジオ	ラジオNIKKEI	特別番組「聴く防災手帳〜大震災から子供の命を守れ〜」第1回「東日本大震災からの教訓」	佐藤翔輔	出演
695	2021/3/2	テレビ	NHK(総合)	おはよう日本:誰もが安心できる避難所へ 東日本大震災女性たちの願い	佐藤 健	報道・コメント
696	2021/3/3	新聞(全国紙)	読売新聞社	慰霊碑に名前 樺栗「若脱プレート」取納式も	佐藤翔輔	報道・コメント
697	2021/3/3	新聞(全国紙・地方版)	読売新聞社	東日本大震災10年被災3府の転出入の推移 仙台に人口流入再び	奥村誠	報道・コメント
698	2021/3/3	テレビ	ミヤギテレビ	news every:福島沖2/13の地震について	木戸元之	報道・コメント
699	2021/3/4	新聞(地方紙)	河北新報	災害と仙台江戶時代・天保の古文書から(4)お助け 藩が登用救済策々々	佐藤大介	報道・コメント
700	2021/3/4	新聞(その他)	建設通信新聞	伝承館に隣上地区の「あの日」再現 気仙沼市と東北大	佐藤翔輔	報道・コメント
701	2021/3/4	新聞(全国紙)	毎日新聞社	発言災害伝承の工夫が命を守る	佐藤翔輔	報道・コメント
702	2021/3/4	新聞(全国紙)	日本経済新聞社	東日本大震災10年:「転換のとき」司令塔消失、行政まひ 防災の重点項目7割未達	丸谷浩明	報道・コメント
703	2021/3/4	テレビ	東日本放送	ニュース:宮城でコロナ感染者再び増加 要因は「出歩く機会増加」	小坂健	報道・コメント
704	2021/3/5	新聞(地方紙)	河北新報	「でんでんこ」震災後に浸透被災3県6割、全国でも4割 地方紙15社共同アンケート	佐藤翔輔	報道・コメント
705	2021/3/5	新聞(海外)	The Mainichi	Pandemic proving a challenge to those keeping quake stories alive in Japan	佐藤翔輔	報道・コメント
706	2021/3/5	テレビ	東日本放送	ニュース:県内の今週のコロナ感染者「新規感染者が倍増」	小坂健	報道・コメント
707	2021/3/5	テレビ	NHK(総合)	ニュース:多少の潮位変化も津波心配なし	今村文彦	報道・コメント
708	2021/3/5	新聞(その他)	夕刊フジ	マスク生活はいつまで続く?2枚重ねでの着用は無意味、1枚装着と効果は変わらず 識者「ワクチンを打ち、効果が持続すれば早く1年」	児玉栄一	報道・コメント
709	2021/3/5	新聞(全国紙)	日本経済新聞社	眼界を知り、ともに備える	今村文彦	報道・コメント
710	2021/3/5	ラジオ(海外)	NHK World	Asian View: 10th anniversary of the Great East Japan Earthquake and tsunami	井内加奈子	出演
711	2021/3/6	新聞(全国紙)	朝日新聞社	東日本大震災:津波犠牲者、9527人の最期を調べる ある研究者の悔悟	今村文彦、門廻充侍	報道・コメント
712	2021/3/6	新聞(全国紙)	産経新聞	東日本大震災:低体温症の震災犠牲者、高齢者の割合多く	門廻充侍	報道・コメント
713	2021/3/6	新聞(地方紙)	中日新聞	低体温症、70代以上多く 東北大が東日本大震災犠牲者分析	門廻充侍	報道・コメント
714	2021/3/6	新聞(地方紙)	河北新報	施設検証:提言:復興推進委に「飛川静香さん 災害研」今村文彦	今村文彦	報道・コメント
715	2021/3/6	ラジオ	CBCラジオ	スーパーサタデー:防災特集東日本大震災から10年、見つめ続けたCBCラジオ「マイ・タイムライン」について	佐藤翔輔	出演
716	2021/3/6	テレビ	NHK	NHKスペシャル:津波避難 何が生死を分けたのか	佐藤翔輔	出演
717	2021/3/6	テレビ	NHK(総合)	津波避難 何が生死を分けたのか	今村文彦、サッパシー アナワット	資料提供
718	2021/3/6	新聞(全国紙・地方版)	毎日新聞社	岐路の風景:被災の歴史資料救出「史料ネット」(阪神)契機に活動、四半世紀 地域の記憶守り再建支える	佐藤大介	報道・コメント
719	2021/3/6	テレビ	TBSテレビ	つなぐ、つながるSP	山下啓	出演
720	2021/3/7	新聞(全国紙)	読売新聞社	【あすへの考】東日本大震災10年:災害伝承から培う避難力	佐藤翔輔	報道・コメント
721	2021/3/7	新聞(地方紙)	河北新報	宮城の津波犠牲者発見場所/名取・閉上最多 平野部多く/東北大グループ分析/低体温症死因 非浸水域でも	門廻充侍	報道・コメント
722	2021/3/7	テレビ	フジテレビ	地球HEROESー美し地球を救っちゃおうー	有働志子	資料提供
723	2021/3/7	新聞(地方紙)	北國新聞	日曜特番 千里浜の「病状」は	有働志子	報道・コメント
724	2021/3/7	ラジオ	FM仙台・Date fm	SUNDAY MORNING WAVE:2011年3月11日に起こったこと	福島洋	出演
725	2021/3/8	新聞(地方紙)	河北新報	災害と仙台江戶時代・天保の古文書から(5)将来へ記録と残す	佐藤大介	報道・コメント
726	2021/3/8	新聞(地方紙)	河北新報	震災10年 分野越え連携を 東北大災害研シンポ	災害科学国際研究所、今村文彦	報道・コメント
727	2021/3/8	新聞(全国紙)	読売新聞社	東日本大震災10年:かさ上げ地区の人口44%減、宅地の34%は空き地のまま... 調査発表	増田聡	報道・コメント
728	2021/3/8	新聞(全国紙)	朝日新聞社	研究現場に戻った地震学者「空振り」生かせる社会に	福島洋	報道・コメント
729	2021/3/8	新聞(その他)	日刊工業新聞社	連続 黒い津波が残した教訓: #1 10年前に押し寄せた「黒い津波」、凄まじい破壊力が生じた理由とは	今村文彦、門廻充侍	報道・コメント
730	2021/3/8	新聞(その他)	日刊工業新聞	東日本大震災10年 黒い津波が残した教訓(1) 人と街、全て飲み込む	門廻充侍	報道・コメント
731	2021/3/8	新聞(地方紙)	東奥日報	東日本大震災10年 生死分けたトップの決断 「早く逃げる」言えたか「きっと大丈夫」振り払って	邑本俊亮	報道・コメント
732	2021/3/9	新聞(その他)	日刊工業新聞社	連続 黒い津波が残した教訓(2) 解剖できず「溺死」とするしかない...津波が露呈させた人材不足と設備不足	門廻充侍	報道・コメント
733	2021/3/9	新聞(地方紙)	静岡新聞	NEXT特報 東日本大震災10年 地方紙協働企画をあの日を 忘れないために	佐藤翔輔	報道・コメント
734	2021/3/9	新聞(地方紙)	陸奥新報	住民の避難行動可視化 プロジェクション マッピングで隣上地区	佐藤翔輔	報道・コメント
735	2021/3/9	ウェブ	SciencePortal	東日本大震災の教訓を生かしてー【3.11】を防災教育と災害伝承の日にー	今村文彦	報道・コメント
736	2021/3/9	新聞(全国紙)	産経新聞	東日本大震災で歴史文書を「救出」存在感高まる「史料ネット」	佐藤大介	報道・コメント
737	2021/3/9	新聞(全国紙・地方版)	朝日新聞社	3月9日の「前震」、分けた明確「必ず避難」守り「まわりの空気一喝」	佐藤翔輔	報道・コメント
738	2021/3/9	新聞(全国紙・地方版)	毎日新聞社	低体温症「備えが重要」 県犠牲者22人、73%が70代以上	門廻充侍	報道・コメント
739	2021/3/9	新聞(全国紙)	読売新聞社	深層NEWS:震災教訓 世界が学ぶ	黒島公郎	報道・コメント
740	2021/3/9	テレビ	BS日テレ	深層NEWS:国連防災トップに直撃 日本の教訓どう生かす 命守る「想像力」とは	黒島公郎	出演
741	2021/3/9	テレビ	東日本放送	ニュース:8日連続で20人超 専門家「第4波の恐れ」指摘	小坂健	報道・コメント
742	2021/3/9	テレビ	NHK(テレビ)	視点:論点:東日本大震災10年 災害への実践的な知識を身につけるために	佐藤翔輔	出演
743	2021/3/9	テレビ	NHK(仙台放送局)	低体温症で死亡 8割近くが屋内	門廻充侍	報道・コメント
744	2021/3/9	テレビ	NHK	サイエンスZERO:3.11から10年「命を救うための挑戦「津波防災」最前線」	越村俊一、マリエリック	出演
745	2021/3/9	新聞(地方紙)	北日本新聞	東日本大震災10年 生死分けた決断 「逃げる」と言えたか 正常性バイアス振り払い冷静に	邑本俊亮	報道・コメント
746	2021/3/9	新聞(地方紙)	沖縄タイムズ	東日本大震災10年 管理職だった決断 「正常性バイアス」に注意せよ	邑本俊亮	報道・コメント
747	2021/3/9	新聞(地方紙)	東海新報	東日本大震災10年/吉浜の足跡 未来の防災に	柴山明寛	報道・コメント
748	2021/3/9	テレビ	TBSテレビ	NEWS23	山下啓	出演
749	2021/3/10	テレビ	NHK(総合)	視点:論点:東日本大震災10年 災害への実践的な知識を身につけるために	佐藤翔輔	出演
750	2021/3/10	新聞(全国紙)	読売新聞社	震災10年:教訓⑤災害列島の知見共有 日本発の防災規格	今村文彦	報道・コメント

配信日	媒体	配信社	タイトル	掲載教員	分類	
751	2021/3/10	新聞(地方紙)	河北新報社	「すぐ避難」映像で訴え CGや証言を展示 気仙沼・伝承館 気仙沼 震災の記憶つなぐ	災害科学国際研究所、佐藤翔輔	報道・コメント
752	2021/3/10	新聞(全国紙)	毎日新聞社	東日本大震災10年: 間仕切りで避難所改善	坂茂	報道・コメント
753	2021/3/10	新聞(その他)	夕刊フジ	出所不明の「第4の変異株」猛威! 子供への感染例も多くなる見直しの恐れ ワクチン接種が広がる「変異株」拡大の好都合も	児玉栄一	報道・コメント
754	2021/3/10	新聞(全国紙・地方版)	毎日新聞社	東日本大震災 被災3県 移転用地2%用途未定 土壌が点在、一体的利用困難	増田聡	報道・コメント
755	2021/3/10	新聞(その他)	電気新聞	東日本大震災10年: 記憶を紡ぐ<4>区切りではなく、通過点 災害後、しなやかな対応が鍵	今村文彦、平野勝也	報道・コメント
756	2021/3/10	ウェブ	ABEMATV	報道リアリティーショー#ABEMAPrime: 災害時にSNSどう活かす? 命が救われる成功例と「善意の拡散」の弊害も	佐藤翔輔	報道・コメント
757	2021/3/10	新聞(地方紙)	神奈川新聞	刻む 3.11から 弱者や住民いかに守るか 管理職「逃げる」言えたらか 正常性バイアスに注意を	邑山俊亮	報道・コメント
758	2021/3/10	新聞(地方紙)	河北新報	東日本大震災10年/被災の記憶 「たたびつき」10回目	北本由寛	資料提供
759	2021/3/11	テレビ(海外)	CNN	Fukushima 10 years later: Struggles to rebuild continue	ソリアエリザベス	報道・コメント
760	2021/3/11	新聞(地方紙)	北海道新聞	東日本大震災10年: 自治体庁舎の非常用電源 道南7町 コストや立地障壁 津波・洪水対策に課題	丸谷浩明	報道・コメント
761	2021/3/11	新聞(全国紙・地方版)	読売新聞社	東日本大震災10年: 帰宅困難者8万5000人 備えは万全か ビルやホテルに協力依頼	丸谷浩明	報道・コメント
762	2021/3/11	ラジオ	ラジオ石巻	石巻の未来を語り合うなんでも座談会: 東日本大震災10年	佐藤翔輔	出演
763	2021/3/11	テレビ	東日本放送	チャージ! 拡大スペシャル:	今村文彦、丸谷浩明	報道・コメント
764	2021/3/11	新聞(地方紙)	中日新聞	超巨大地震は「余震100年続く」専門家警鐘	遠田晋次	報道・コメント
765	2021/3/11	テレビ	仙台放送	FNNニュース: 東日本大震災と同等以上と予想される「新津波想定」 「避難を呼びかけるポスター」で命を守る備え	今村文彦	報道・コメント
766	2021/3/11	テレビ	NHK	ニュース: 津波の浸水被害を瞬時に予測 新技術開発	大石裕介	報道・コメント
767	2021/3/11	新聞(全国紙)	産経新聞	【復興日本】東日本大震災10年 第3部 未来へ(5) デジタル防災 命を救う	越村俊一	報道・コメント
768	2021/3/11	テレビ	仙台放送	FNNニュース: 明日への備え 被災地の未来は?	佐藤翔輔	出演
769	2021/3/11	新聞(全国紙・地方版)	毎日新聞社	全域で助け合う仕組みづくりを 被害にも意識 北海道の防災課題	定池祐季	報道・コメント
770	2021/3/11	新聞(地方紙)	河北新報社	震災の記憶、家庭で「話さず」4割 被災3県の若年層 民間調査	佐藤翔輔	報道・コメント
771	2021/3/11	テレビ	NHK	特集: 復興予算 被災地に残る空き地はなぜ	藤浦道生	報道・コメント
772	2021/3/11	テレビ	NHK(総合)	ニュース: 大津波の浸水範囲 短時間で予測するシステム開発進む	越村俊一、マズエリック	出演
773	2021/3/11	新聞(海外)	Estonia News	Life ten years after the triple disaster (estonian)	ゲルスタ・ユリア	報道・コメント
774	2021/3/11	新聞(地方紙)	山陰中央新報	山陰防災リーダー養成を	佐藤健	報道・コメント
775	2021/3/11	ラジオ	NHKラジオ第一	マイあさ! ワールドアイ 日本発世界の「BOSAI」	小野裕一	出演
776	2021/3/12	新聞(全国紙)	日本経済新聞社(他10社)	<新型コロナ>コロナ禍の被災伝承、非接触で「伝える側も変化を」	佐藤翔輔	報道・コメント
777	2021/3/12	テレビ	東日本放送	ニュース: 宮城県で感染拡大 専門家「来週増の懸念も」	小坂健	報道・コメント
778	2021/3/12	新聞(地方紙)	経伊民報	「産学連携東北地方企業意識調査」 コロナ禍の企業経営の意識調査について	吉田浩	報道・コメント
789	2021/3/12	テレビ	仙台放送	ニュース: 「みやぎ型」水道民営化 売却先 第一候補を20年間で287億円のコスト削減	増田聡	報道・コメント
790	2021/3/12	テレビ	東日本放送	ニュース: 宮城県の水道事業 売却先に「メタウォーター」選定	増田聡	報道・コメント
791	2021/3/12	新聞(地方紙)	河北新報社	水道みやり方式、「メタウォーター」グループに	増田聡	報道・コメント
792	2021/3/12	新聞(その他)	観光経済新聞	東北被災地語り部フォーラム、パネル討論や3分科会開催	川島芳一	報道・コメント
793	2021/3/12	新聞(地方紙)	沖縄タイムズ	東日本大震災10年: 伝える 命の尊さ	佐藤翔輔	報道・コメント
794	2021/3/12	雑誌・機関誌	MEDIUS HOLDINGS	トランプランナーに聴く スペシャルインタビュー	佐々木宏之	その他
795	2021/3/13	新聞(全国紙・地方版)	毎日新聞社	最優秀提案者を決定 水道事業運営権 検討委、県に答申	増田聡	報道・コメント
796	2021/3/13	テレビ	NHK(東北)(他2社)	3.11を「防災教育と伝承の日」に 研究者らが呼びかけ	今村文彦	報道・コメント
799	2021/3/13	テレビ	NHK(東北)	ワークエント東北: 震度6強1ヶ月「身を守った」15%余	佐藤翔輔	出演
800	2021/3/13	テレビ	NHK(総合)	証言記録スペシャル: いつか来る日のために「あなたを守る」体験者の言葉	佐藤翔輔	出演
801	2021/3/13	新聞(地方紙)	高知新聞	東日本大震災10年 脱原発望む層増加 全国地方紙協働「#211jp」アンケート	佐藤翔輔	報道・コメント
802	2021/3/14	新聞(地方紙)	河北新報社(他2社)	3月11日を「防災教育と伝承の日」に 14月で862団体が賛同	今村文彦	報道・コメント
805	2021/3/14	新聞(全国紙)	読売新聞社	災害から命を守る「ワンステージ」の伝承... 意思、行動を変え、瞬時に適切な判断	佐藤翔輔	報道・コメント
806	2021/3/14	新聞(全国紙)	日本経済新聞社	3.11を「防災教育と伝承の日」に 仙台から発信	今村文彦	報道・コメント
807	2021/3/14	新聞(その他)	夕刊フジ	中国のワクチンばら撒き、北京五輪ボイコットさせないための伏線	児玉栄一	報道・コメント
808	2021/3/15	新聞(その他)	建設通信新聞	メタウォーターグループに 上上下下水一体官民連携運営	増田聡	報道・コメント
809	2021/3/15	テレビ	仙台放送	ニュース: 「防災教育と伝承の日」の制定を 東日本大震災の教訓を風化させないために	今村文彦	報道・コメント
810	2021/3/16	新聞(全国紙)	日本経済新聞社	「防災教育と伝承の日」3月11日に制定要請へ	今村文彦	報道・コメント
811	2021/3/16	新聞(地方紙)	中日新聞	<次>が来たら 被災3原発のいま> (上) 福島第一 壊れた格納容器、大量の処理水	日野亮太	報道・コメント
812	2021/3/16	新聞(全国紙・地方版)	毎日新聞社	震災10年を語る: 防災投資、ソフト面にも復興フェーズ、新産業に	今村文彦	報道・コメント
813	2021/3/16	新聞(全国紙・地方版)	朝日新聞社	9527の南ささ声、耳を傾ける 震災死、県警監視のデータ分析 東日本大震災(宮城・山形)	今村文彦、門畑充侍	報道・コメント
814	2021/3/17	新聞(地方紙)	三陸新聞	「経験積み伝える」気仙沼伝承語り部らがフォーラム	佐藤翔輔	報道・コメント
815	2021/3/17	ウェブ	マイナビニュース	二酸化塩素の新型コロナに対する不活化効果を大木製薬と東北大が確認	児玉栄一	報道・コメント
816	2021/3/17	テレビ	仙台放送	宮城で感染者「急増」の理由 専門家解説「宮城はババ」3月11日「行き来増え... 今後の見通しは？」	小坂健	報道・コメント
817	2021/3/17	テレビ	東日本放送	ニュース: 「早急に対策を」コロナ感染拡大の宮城県 専門家分析「GoToイート」との関連は？	小坂健	報道・コメント
818	2021/3/18	テレビ	東日本放送	ニュース: 加速度的に広がる可能性 専門家「深刻な状況」警鐘	小坂健	報道・コメント
819	2021/3/18	新聞(全国紙)	読売新聞社	【緊急NEWS】宣言解除方針、自民、下村氏「再拡大の防止策示すことが条件」	小坂健	報道・コメント
820	2021/3/18	新聞(その他)	スポーツコミッション	緊急事態宣言は「1回解除してまん防をすり抜ける」の対策を	小坂健	報道・コメント
821	2021/3/18	新聞(地方紙)	河北新報社	新型コロナ 宮城で107人が感染、過去最多を更新	小坂健	報道・コメント
822	2021/3/19	テレビ	東日本放送	宮城独自の緊急事態宣言 専門家「具体的に先手を」	小坂健	報道・コメント
823	2021/3/19	テレビ	NHK・仙台放送局	東日本大震災の教訓伝える「震災アーカイブ」閉鎖相次ぐ	柴山明寛	報道・コメント
824	2021/3/20	新聞(地方紙)	河北新報社	東日本大震災10年: 語り部活動「これからも」気仙沼・伝承館 開館2年フォーラム	佐藤翔輔	報道・コメント
825	2021/3/20	新聞(全国紙)	産経新聞社	【宮城の地震】震源がもっと浅い位置なら、大きな津波が起きた可能性	遠田晋次	報道・コメント
826	2021/3/20	新聞(全国紙)	朝日新聞社	「震災の影響続く」もともと地震多い 警戒促す専門家	遠田晋次	報道・コメント
827	2021/3/20	テレビ	NHK(総合)	ニュース: 宮城で震度5強、津波被害の心配なし	佐藤翔輔	報道・コメント
828	2021/3/20	テレビ	NHK(総合)	ニュース: 宮城で震度5強 引き続き注意が必要	今村文彦	報道・コメント
829	2021/3/21	新聞(全国紙)	朝日新聞社	宮城の地震、けが8人 続く東日本大震災の影響	遠田晋次	報道・コメント
830	2021/3/21	ラジオ	FM仙台・Date fm	SUNDAY MORNING WAVE: 2011年3月11日の地震とその後起こったこと	福島洋	出演
831	2021/3/22	新聞(全国紙)	読売新聞社	宮城震度5強、東日本大震災と同型、大きな津波が来なかった理由... 因果は「海底の変形」	今村文彦、遠田晋次	報道・コメント
832	2021/3/22	ウェブ	AERA dot	宮城で新型コロナ急拡大 「3.11」と「GoToイート再開」内外の出入急増で拍車の可能性	小坂健	報道・コメント
833	2021/3/22	テレビ	福島中央テレビ	ゴジて! Chul: 宮城沖3/17の地震について	木戸元之	報道・コメント
834	2021/3/22	テレビ	NHK・仙台放送局	てれまさむね: 宮城沖3/17の地震について	木戸元之	報道・コメント
835	2021/3/23	新聞(地方紙)	北國新聞	科学する人: 津波防災を研究、門畑充侍さん(⑤) 震災犠牲者見つめ直す	門畑充侍	報道・コメント
836	2021/3/23	テレビ	ミヤギテレビ	OH! ハンデス: 宮城沖「さらに強い地震の可能性も」	木戸元之	報道・コメント
837	2021/3/24	新聞(全国紙・地方版)	毎日新聞社	災害自衛隊として伝承館開館2年フォーラム 気仙沼	佐藤翔輔	報道・コメント
838	2021/3/24	新聞(全国紙・地方版)	読売新聞社	被災の史料 修復途上 人材不足 返却は3割 仙台のNPO	佐藤大介	報道・コメント
839	2021/3/26	テレビ	NHK・仙台放送局	てれまさむね: 津波避難 課題を検証	佐藤翔輔	出演
840	2021/3/27	新聞(地方紙)	北海道新聞	<フオーカス> 迫る大地震 対策に苦悩 *30年内予測	定池祐季	報道・コメント
841	2021/3/29	新聞(地方紙)	河北新報社	震災10年 地域のリーダー育成を 世銀がオンラインセミナー	今村文彦	報道・コメント
842	2021/3/30	新聞(地方紙)	河北新報社	宮城、震度5強「宮城沖 固着破壊」 震災の影響 ひずみ蓄積	遠田晋次	報道・コメント
843	2021/3/30	テレビ	仙台放送	Live News it! : なせ車での避難を選んだのか... 津波注意報」避難行動を考える	佐藤翔輔	報道・コメント
844	2021/3/30	ラジオ	NHKラジオ第一(仙台)	ゴジだっちゃ! : 防災クイズ(備えっす)	佐藤翔輔	出演
845	2021/3/30	新聞(地方紙)	北國新聞	科学する人: 津波防災を研究、門畑充侍さん(⑥) 小児がん闘病が原点に	門畑充侍	報道・コメント
846	2021/3/31	テレビ	NHK・BSプレミアム	英雄たちの選択スペシャル: フロガ選ぶ「最強」の戦国武将	堀名裕一	出演
847	2021/4/2	新聞(地方紙)	河北新報	ともに歩もう: 東日本大震災10年	ゲルスタ・ユリア	その他
848	2020/4/1 -2021/3/31	ラジオ	NHK北海道	防災スポット: 携帯ストラップ 編(通年放送配信)	定池祐季	出演
849	2020/4/1 -2021/3/31	ラジオ	NHK(北海道)	防災スポット: あめ チョコレート 編(通年放送配信)	定池祐季	出演
850	2020/4/1 -2021/3/31	ラジオ	NHK(北海道)	防災スポット: 防災袋 編(通年放送配信)	定池祐季	出演
851	2020/4/1 -2021/3/31	ラジオ	NHK(北海道)	防災スポット: 防災袋に入れておくことと意外と便利 編(通年放送配信)	定池祐季	出演
852	2020/4/1 -2021/3/31	ラジオ	NHK(北海道)	防災スポット: 備蓄品 編(通年放送配信)	定池祐季	出演
853	2020/4/1 -2021/3/31	ラジオ	NHK(北海道)	防災スポット: ペットについて考える 編(通年放送配信)	定池祐季	出演

新聞	
全国紙(含地方版・英語版)	158件
報道・コメント	153件
執筆	1件
その他	4件
地方紙	209件
報道・コメント	203件
執筆	3件
資料提供	1件
その他	2件
海外	2件
報道・コメント	2件
その他	66件
報道・コメント	61件
執筆	1件
その他	4件
テレビ/ラジオ	236件
報道・コメント	136件
出演	96件
資料提供	3件
企画協力	1件

雑誌・機関誌	11件
報道・コメント	3件
執筆	4件
その他	4件
ウェブ	141件
報道・コメント	124件
出演	10件
その他	7件
その他	30件
報道・コメント	18件
執筆	1件
出演	2件
その他	9件

報道・コメント	700件
執筆	10件
資料提供	4件
企画協力	1件
出演	108件
その他	30件

## 7 国際交流

## 国際交流

### (1) 国外の研究者と実施している共同研究実績

課題名・概要	本学研究代表者 所内実施者	相手方代表者	相手方代表者 所属機関名・国名
APRU Multi-Hazards Program APRUマルチハザードプログラムを通して大学間の災害関連研究を強化、国際レベルの協議へ貢献する。	泉貴子	Prof. John Rundle et al	UC Davis, Chulalongkorn university, National Taiwan University, Tsinghua University, University of Hawaii, University of Chili など
SATREPS「メキシコ沿岸部の巨大地震・津波災害の軽減に向けた総合的研究」 メキシコ太平洋側沈み込み帯の地震空白域における地震・測地観測による地震発生リスクの評価	木戸元之	Victor M. Cruz-Atienza	メキシコ国立自治大学・メキシコ
The Project for Technical Development to Upgrade Structural Integrity of Buildings in Densely Populated Urban Areas and its Strategic Implementation towards Resilient Cities ダッカにおける耐災害化を実現するために地震に対する建物の脆弱性評価を行う	前田匡樹 村尾修	ムハンマド アブ サデク	住宅建築研究所・バングラデシュ
噴火と原発事故からの広域避難をめぐる住民組織の役割と変容に関する比較社会学的研究 インドネシア・日本での火山噴火や原発事故からの広域避難時の住民組織の役割と変容に関して比較社会学の観点から研究する。	杉安和也	I Made Budiana	ウダヤナ大学・インドネシア
巨大津波後の長期的地形変化を考慮した沿岸防災機能強化 巨大津波後の長期的地形変化を考慮した沿岸防災機能強化	今村文彦 山下啓	ルアンラッサミー・アナット	モロツワ大学・スリランカ
Tsunami-induced sediment transport simulation 非静水圧津波モデルと土砂移動モデルのカップリングによる津波土砂移動解析の高度化	山下啓	Kwok Fai Cheung	ハワイ大学・米国
Implementation of Technology in Disaster Health Management モバイルデバイスによる災害医療教育、母子保健教育、ワクチン接種推進が災害医療啓発に果たす効果の検証	江川新一	Allya Koesoema	バンドン工科大学・インドネシア
ハーバード大学とのAPI連携に関する研究 国内の自然災害に関するアーカイブデータを東北大学のサーバシステムで集約し、それをハーバード大とのシステム連携を行う研究である。	柴山明寛	Prof. Andrew Gordon	ハーバード大学・米国
タイ・プラトーン島における津波堆積物に関する研究 タイ・プラトーン島における2004年スマトラ地震津波による津波堆積物に関する研究	サッパシー・アナワット 山下啓	Chris Gouramanis	シンガポール国立大学・シンガポール
地域コミュニティの安心と安全向上のための災害リスク理解に基づく防災強化プロジェクト マレーシアスランゴール州において、災害リスク理解とコミュニティ主体の防災体制の確立を目指す。	泉貴子	Dr. Khamarrul Azahari Razak	マレーシア工科大学・マレーシア
第二言語教育に関する認知神経科学研究 第二言語習得の専門家と認知神経科学の専門家の共同研究により、認知神経科学を応用した新しい教育技術を開発	ジョンヒョンジョン 杉浦元亮	Kazuya SAITO	University Collage London・英国
Cognitive and neural correlates of second language writing 第二言語(英語)の作文に関する認知処理とその能力の向上に関連する脳内メカニズムを解明する英国と日本の国際共同プロジェクトである。	ジョンヒョンジョン 杉浦元亮	Andrea Révész	University Collage London・英国
Health Emergency and Disaster Risk Management 健康危機・災害リスク管理に対する研究課題探索のためのワークショップ	江川新一	Jonathan Abraham, Ryoma Kayano	世界保健機構(WHO)
POD-based probabilistic disaster risk assessment 数値解析の結果に基づいて固有直交分解(POD)を用いた代理モデルを構築し、低コストで地震動による建物被害の確率的リスク評価手法を構築する。	寺田賢二郎 森口周二	Latcharote Panon	タマサート大学・タイ
アチェにおける災害復興で現地の学術研究機関が果たす媒介機能の活用に向けた新展開 アチェにおける災害復興で現地の学術研究機関が果たす媒介機能の活用方法等について明らかにする。	佐々木大輔	Dr. Hizir Sofyan	Syiah Kuala University・インドネシア
Architecture and Urban Design for Disaster Risk Reduction and Resilience Initiative (Arc-DR <sup>3</sup> Initiative) 災害のリスク低減とレジリエンス向上のための環境デザインに関する知識を生成し、国際的なプラットフォームを構築することにより、理論(研究)と実践(デザイン)のより効果的な統合を目的とする。	今村文彦 村尾修	阿部仁史	カリフォルニアロサンゼルス校・米国
気候変動による移住の動機に関する研究 マーシャル諸島共和国の人々が気候変動の影響により国外へ移住を決断する際の動機等について明らかにする。	佐々木大輔	Dr. Irene Taafaki	The University of the South Pacific (USP) Marshall Islands Campus・マーシャル諸島
中部スラウェシ地震後の移転・再定住に関する研究 中部スラウェシ地震後のコミュニティ移転・再定住、復興に関わる研究	井内加奈子	Robert Olshansky	イリノイ大学・米国
MOST Project: Upper Holocene marine event stratigraphic study on Taiwan's southern coast and offshore islands 台湾・澎湖諸島での古津波履歴解明	菅原大助	游能梯	清華大学・台湾
生きる力質問紙英語版作成 生きる力質問紙(Sugiura et al., 2015)の英語版作成と妥当性検証を行い、質問紙の英語圏活用と文化間比較を目指す	杉浦元亮	Yuichi SHODA	University of Washington・米国

課題名・概要	本学研究代表者 所内実施者	相手方代表者	相手方代表者 所属機関名・国名
Health workforce development strategy in health-EDRM: evidence from literature review, case studies and expert consultations 健康危機・災害リスク管理に対する保健医療人材育成に関する国際共同研究 災害時に活躍できる保健医療人材育成に関するデルファイ法を用いた国際的コンセンサスを形成しようとする研究	江川新一 佐々木宏之	Kevin Hung, Luca Ragazzoni, Gregory Ciottonne	Chinese University of Hong Kong, University of Piemonte Orientale, Harvard University
レジリエントな復興のガバナンスに関する研究 国際的な被災地域での再建時のガバナンスに関する共同研究	井内加奈子	John Mutter	コロンビア大学・米国
Placemaking in Displacement Co-editors of edited book on Placemaking in Displacement after Disasters	マリ・エリザベス	Shumei Huang	National Taiwan University・台湾
Earthquake Early Warning international comparison Co-authored paper on EEW comparing Sendai and Seattle	マリ・エリザベス	Ann Bostrom	University of Washington・米国
Coastal resilience and anticipatory planning Various international comparative research on coastal resilience	マリ・エリザベス	Dan Abramson	University of Washington・米国
被災沿岸地域から学ぶ移転復興計画論の構築: 台風ハイアン・スラウエシ島地震を対象に 途上国の沿岸部の復興において、よりよい生活環境を創出するために重要な計画内容と実践のあり方について探ることを目的とした研究	井内加奈子	Dicky Pelulessy	インドネシア大学・インドネシア
Data-driven approach for microstructure characterization and mechanical performance assessment of composite materials (JSPS二国間交流事業共同研究) 不確実性を考慮した数値解析の結果に基づく複合材料の材料特性評価について、設計・開発に対して有益な枠組みを提案する。	寺田賢二郎 森口周二	Tong-Seok Han	延世大学校・韓国
Multiscale analysis and optimization for composite materials and structures with decoupling scheme 繊維強化複合材料の分離型マルチスケール解析およびトポロジー最適化に関する新手法の開発。	寺田賢二郎	Michael Kaliske	TU Dresden・ドイツ
Response surface-based probabilistic tsunami risk assessment 数値解析から得られる応答曲面を用いたモンテカルロシミュレーションにより、低コストで津波の確率論的リスク評価手法を実現する手法を構築する。	寺田賢二郎 森口周二	Randall J. LeVeque	ワシントン大学・米国
ハワイ太平洋津波博物館との共同展示に関する研究 東日本大震災10周年の企画展示をハワイ太平洋津波博物館で実施するため。	柴山明寛 ボレー・セバスチャン マリ・エリザベス ゲルスタ・ユリア	マーリーン・スー・ムリー館長 Alfi Rahman	ハワイ太平洋津波博物館・米国 Syiah Kuala University・インドネシア
アチェ津波博物館との共同展示に関する研究 東日本大震災10周年の企画展示をアチェ津波博物館で実施するため。	柴山明寛 ゲルスタ・ユリア	ハフニダール館長	アチェ津波博物館・インドネシア
フィリピンにおける統合的沿岸コミュニティレジリエンスの検討ー気候変動・防災・廃棄物問題への総合的アプローチに向けて フィリピンの沿岸域におけるコミュニティレジリエンスに係る3つの課題(気候変動・防災・ごみ)への統合的アプローチに向けた提言を目指す。	佐々木大輔	Marlon de Luna Era, Ph.D, LPT	De La Salle University・フィリピン
SEGADRES ICT技術を用いた災害対応能力向上技術の開発を目指す10カ国共同研究プロジェクトとしてH2020申請を行った	杉浦元亮	Jörgen Sparf	Risk and Crisis Research Centre Mid Sweden University・スウェーデン
途上国の組積造建物耐震化に向けた滑り免震機構の開発と社会実装基盤の整備 組積造を対象とした安価なすべり免震機構を開発し、そのネパールでの実装を目指す。	五十子幸樹 榎田竜太	Schildkamp Martijn	Smart Shelter Foundation・オランダ
復興期間限定組織のありかたに関する研究 災害後に期間限定で設立される復興機関の評価手法の検討	井内加奈子	Beth Tamayose	カルフォルニア大学・米国
Architecture and Urban Design for DRR and Resilience (ArcDR3) カリフォルニア大学ロサンゼルス校(UCLA) Architecture and Urban Design xLAB、東北大災害科学国際研究所(IRIDeS)および日本科学未来館が、環太平洋大学協会マルチハザードプログラムの一環としてArcDR3 イニシアチブ(災害リスク軽減とレジリエンスのための建築と都市デザインイニシアチブ)を設立した。	村尾修 泉貴子	Prof. Hitoshi Abe	UCLA・米国
治水投資額と被害軽減効果の将来予測における新展開 災害統計データを活用し、災害の規模・特徴等が防災投資に与えるインパクトを明らかにする。	佐々木大輔	Dicky Pelulessy, Ph.D.	Universitas Indonesia・インドネシア
Paleoseismic exploration along the Mexican subduction coastal stretch and the inferred La Venta fault eastern Guerrero and Oaxaca extent: Do large ruptures occurred in the past?" メキシコ合衆国グレロ州～オアハカ州での古地震・古津波履歴解明	菅原大助	Maria-Teresa Ramirez-Herrera	メキシコ国立自治大学・メキシコ
Learning from disasters for a resilient society: Experiences from the Great East Japan earthquake and tsunami and COVID-19 pandemic. Berlin Science Week Berlin Science Weekというイベントで一般向けの災害や防災を様々な視点から議論する分科会	サッパシー・アナワット ボレー・セバスチャン ゲルスタ・ユリア	Martin Voss	Freie Universitaet Berlin・ドイツ
東南アジアにおける「オールハザード型」防災枠組構築のための共同研究 東南アジア地域の防災対策の現状と課題を検証し、今後想定される様々な新しい形の災害にも対応できる「オールハザード型」防災対策の枠組構築を試みる。	泉貴子	Prof. Fatma Lestari	University of Indonesia・インドネシア
東日本大震災被災地の歴史再生に関する研究 江戸時代の近江商人・中井源左衛門家が仙台から近江に発した書簡の解説による歴史情報の収集と解析	佐藤大介	Joho D'amico	イェール大学・米国

課題名・概要	本学研究代表者 所内実施者	相手方代表者	相手方代表者 所属機関名・国名
Project for Strengthening the ASEAN Regional Capacity on Disaster Health Management (ARCH Project) ASEAN加盟国における災害医療の標準化と各国の災害医療対応能力向上プロジェクト	江川新一	Shuichi Ikeda, Taro Kita, Tatsuhiko Kubo, Ryoma Kayano, Phumin Silapunt, Prasit	JICA、タイ災害救急医療研究所・タイ
Using Japan Disasters Digital Archive (JDA) geolocation function in visits to disaster-related sites in Tohoku. デジタルアーカイブと防災観光の連携についてのアンケート調査	柴山明寛 ボレー・セバスチャン ゲルスタ・ユリア	Andrew Gordon, Ryo Morimoto	Harvard University, Princeton University・米 国
RISTEX (Doshisha University) インクルーシブ防災のためのアプリケーション統合に関するワークショップ	佐藤翔輔	Bill Ho	Asian Disaster Preparedness Center
Investigation of the neurocognitive mechanisms of oral communication during emergency situations 緊急事態における言語コミュニケーションの神経基盤を解明する	杉浦元亮	Andrea Révész	University Collage London・英国
Community Resilience and Disaster Multiple projects related to disaster resilience and international comparative collaboration between UW/TU	マリ・エリザベス	Cynthia Chen	University of Washington・米国
Remembering the 3.11 triple disasters in Japan 日本で震災時に作られたテキストや演劇をドイツの日本学に訳してもらい、復興の歩みを議論し、ワークショップを行った	ゲルスタ ユリア	Cornelia Reiher	Freie Universitaet Berlin・ドイツ
新型コロナウイルス感染症対策における人間・社会対応の文化差 新型コロナウイルス感染症対策における人間・社会対応の文化差について5つの文化圏(日・米・中・台・韓)を比較する。	杉浦元亮	Yuichi SHODA	University of Washington・米国
コロナ感染予防行動への社会規範意識の影響に関する認知神経科学研究 マスク装着等のコロナ感染予防行動に、社会規範意識が影響する過程について脳メカニズムを明らかにする	杉浦元亮	Antonia Hamilton	University Collage London・英国
Teaching the Japan Disasters Digital Archive. Perspectives from Japan. デジタルアーカイブを使った日本における災害について学べるシンポジウム	柴山明寛 ゲルスタ・ユリア	Andrew Gordon	Harvard University・米国
JST SATREPS Project 日本・ベルギーの国際共同研究のための研究打ち合わせ	越村俊一	Miguel Estrada	ベルギー国立工科大学・ベルギー
生きる力質問紙韓国語版作成 生きる力質問紙(Sugiura et al., 2015)の韓国語版作成と妥当性検証を行い、質問紙の韓国語圏活用と文化間比較を目指す	杉浦元亮	李在永	東儀大学・韓国
自我体験の神経基盤解明 自我体験(I-am-me experience)の神経基盤を検討する。	杉浦元亮	Rudiger Seitz	デュッセルドルフ大学・ドイツ
生きる力質問紙中国語(繁体字)語版作成 生きる力質問紙(Sugiura et al., 2015)の中国語(繁体字)版作成と妥当性検証を行い、質問紙の中国語(繁体字)圏活用と文化間比較を目指す	杉浦元亮	戴伸峰	中正大学・台湾
Machine learning-based probabilistic tsunami risk assessment 数値解析と機械学習アルゴリズムを利用した津波ゲージデータから即時に浸水深を予測するリアルタイム津波被害評価システムの開発。	寺田賢二郎	Randall J. LeVeque	ワシントン大学・米国
バングラデシュにおける早期地震警報システムの予備研究 バングラデシュに早期地震警報を導入するにあたっての予備調査	大野晋	A.F.M. Saiful Amin	バングラデシュ工科大学・ バングラディッシュ

国際交流

(2) 国司交流実績(受入・訪問)

共同研究

開始日	終了日	受入・訪問	交流活動の名称(活動の概要)	開催都市	開催国	相手方代表者	代表相手方の機関名称	研究代表者実施者
20200522	20200522	オンライン	SEGADRESプロジェクト(ICT技術を用いた災害対応能力向上技術の開発を目指す10カ国共同研究プロジェクト)	Östersund	Sweden	Jörgen Sparf	Mid Sweden University	杉浦
20201005	20201005	受入	気候変動の砂浜への影響評価に関する研究打ち合わせ	トロント	カナダ	Andrew Zajch	トロント大学	有働
20201019	20210312	受入	海底測地観測技術交流(GNSS-音響結合方式による海底地殻変動観測に基づく沈み込み帯の地殻変動に関する研究)	仙台市	日本	唐啓賢	台湾中央研究院	木戸
20201121	20201121	オンライン	Investigation of the neurocognitive mechanisms of oral communication during emergency situations(緊急事態における言語コミュニケーションの神経基盤の解明)	仙台	日本	Andrea Révész	University Collage London	杉浦
20201124	20201124	受入	共同研究及び震災デジタルアーカイブに関する打ち合わせ	オンライン	オンライン	Prof. Andrew Gordon	ハーバード大学	柴山
20201204	20201204	オンライン	新型コロナウイルス感染症対策における人間・社会対応の文化差(5つの文化圏(日・米・中・台・韓)の比較)	仙台	日本	Yuichi SHODA	University of Washington	杉浦
20201208	20201208	受入	気候変動の砂浜への影響評価に関する研究打ち合わせ	トロント	カナダ	Andrew Zajch	トロント大学	有働
20201209	20201209	オンライン	生きる力質問紙英語版作成(妥当性検証を行い、質問紙の英語圏活用と文化間比較)	仙台	日本	Yuichi SHODA	University of Washington	杉浦
20201209	20201209	オンライン	コロナ感染予防行動への社会規範意識の影響に関する認知神経科学研究(マスク装着等のコロナ感染予防行動に、社会規範意識が影響する過程の脳メカニズムの解明)	仙台	日本	Antonia Hamilton	University Collage London	杉浦
20201210	20201210	受入	共同研究及び震災デジタルアーカイブに関する打ち合わせ	オンライン	オンライン	Prof. Andrew Gordon	ハーバード大学	柴山
20201215	20201215	受入	共同研究及び震災デジタルアーカイブに関する打ち合わせ	オンライン	オンライン	Prof. Andrew Gordon	ハーバード大学	柴山
20201218	20201218	オンライン	生きる力質問紙中国語(繁体字)版作成(妥当性検証、質問紙の中国語(繁体字)圏活用と文化間比較)	仙台	日本	戴伸峰	中正大学	杉浦
20201218	20201218	オンライン	自我体験の神経基盤解明	仙台	日本	Rudiger Seitz	デュッセルドルフ大学	杉浦
20201220	20201220	オンライン	生きる力質問紙韓国語版作成(妥当性検証、質問紙の韓国語圏活用と文化間比較)	仙台	日本	李在永	東儀大学	杉浦
20210107	20210107	受入	共同研究及び震災デジタルアーカイブに関する打ち合わせ	オンライン	オンライン	Prof. Andrew Gordon	ハーバード大学	柴山
20210107	20210107	受入	沿岸災害リスクに関する共同研究打ち合わせ	仙台	日本	Yi Zhang	清華大学	有働
20210121	20210121	受入	共同研究及び震災デジタルアーカイブに関する打ち合わせ	オンライン	オンライン	Prof. Andrew Gordon	ハーバード大学	柴山
20210203	20210203	受入	共同研究及び震災デジタルアーカイブに関する打ち合わせ	オンライン	オンライン	Prof. Andrew Gordon	ハーバード大学	柴山
20210219	20210219	受入	共同研究及び震災デジタルアーカイブに関する打ち合わせ	オンライン	オンライン	Prof. Andrew Gordon	ハーバード大学	柴山
20210225	20210331	訪問	Using Japan Disasters Digital Archive (JDA) geolocation function in visits to disaster-related sites in Tohoku.	Sendai	Japan	Prof Andrew Gordon	ハーバード大学	今村・ボレー
20210302	20210302	訪問	SATREPS ADAP-T Prenary Meeting(共同研究報告会)	オンライン		Thanya Kiatiwat	Kasetsart University, 東京大学	有働



国際会議(研究発表以外)

開始日	終了日	受入・訪問	交流活動の名称(活動の概要)	開催都市	開催国	相手方代表者	代表相手方の機関名称	研究代表者実施者
20200520	20200520	訪問	EERI: Learning from the Earthquake のウェビナー (Preliminary Observations and Findings from the EERI Palu, Indonesia Earthquake and Tsunami Resilience Reconnaissance Team)	オークランド	アメリカ	Maggie Ortiz	アメリカ地震工学会 (EERI)	井内
20200611	20200611	オンライン	Global Risk Assessment Framework (GRAF) Working Group Orientation Meeting (UNDRRが開催したリスク評価に係るワーキングに参加)	Geneva	Switzerland	Mami Mizutori	United Nations Office for Disaster Risk Reduction (UNDRR)	佐々木(大)
20200727	20200907	オンライン	フィリピンマニラ大学との共同研究(COVID-19によるメンタルヘルスへの影響に関する共同研究についてのWEBミーティング)	マニラ	フィリピン	Timothy John R. Dizon	Research Institute for Tropical Medicine Ateneo de Manila University	富田・國井・白倉
20201008	20201008	オンライン	GCDS Tripartite Meeting (災害統計グローバルセンター(GCDS)とUNDP等の共同研究者との定例会議)	Bangkok	Thailand	Sanny Ramos Jegillos	United Nations Development Programme (UNDP)	佐々木(大)

学会・シンポジウム

開始日	終了日	受入・訪問	交流活動の名称(活動の概要)	開催都市	開催国	相手方代表者	代表相手方の機関名称	研究代表者実施者
20200716	20200716	受入	Exploring the brain bases of antisocial behavior (the 12th Human Brain Science Seminar)(conduct disorder の最新の脳画像研究成果共有と議論)	仙台	日本	Dr. Stephane De Brito	University of Birmingham	杉浦
20200916	20200916	オンライン	ペルー・ボリビア二国主催「淡水底生動物による生物学的な水質評価指標に関する国際学会」(水生昆虫の環境DNAを用いた河川水質評価の展望に関する招待講演)	ボリビア	ボリビア	Lic. Juan Jose Ocola Salazar	Autoridad Binacional del Lago Titicaca (ALT)	内田

フィールドワーク

開始日	終了日	受入・訪問	交流活動の名称(活動の概要)	開催都市	開催国	相手方代表者	代表相手方の機関名称	研究代表者実施者
20201110	20201111	受入	交通に関連したエネルギー・低炭素化の取り組みに関するインタビュー(宮城県庁・東松島市・仙台市)	仙台市	日本	Hiro Iseki	メリーランド大学	井内

教育

開始日	終了日	受入・訪問	交流活動の名称(活動の概要)	開催都市	開催国	相手方代表者	代表相手方の機関名称	研究代表者実施者
20200428	20200428	訪問	Infrastructure and Environment Design の授業 (Rebuilding from the 3.11 Tsunami - Planning concept, decisions, and current status)	デルフト	オランダ	Fransje Hooimeijer	デルフト工科大学	井内
20200618	20200618	訪問	Resilient States, NYC Program Online Summer Studioの授業(After the Great Tsunami of 2011: Planning rationales, implementation, and current status toward a "safer" space)	シラキュース	アメリカ	Amy Chester	Rebuild by Design	井内
20200908	20200908		Tohoku-Yonsei Student Seminar: Infrastructure Systems Joint Workshop 2020 (計算力学および災害シミュレーションに関する発表)	オンライン	日本	Tong-Seok Han	延世大校	寺田
20201209	20201209	受入	ハーバード大学と東北大の震災アーカイブを用いた発表会	オンライン	オンライン	Prof. Andrew Gordon	ハーバード大学	柴山
20210209	20210209	訪問	Global Changes and Society の授業 (Environmental change and community relocation)	ソルトレークシティ	アメリカ	Meghan Dovick	ユタ大学	井内
20210226	20210226	訪問	Humanitarian Action の授業 (Natural Hazards and Disasters)	オタワ	カナダ	Christine Gibb	オタワ大学	井内

その他

開始日	終了日	受入・訪問	交流活動の名称(活動の概要)	開催都市	開催国	相手方代表者	代表相手方の機関名称	研究代表者実施者
20201227	20201227	受入	アジアにおける災害リスクに関する意見交換	仙台	日本	Budianto Ontowirjo Md. Tauhid-Ur Rahman Mohammad Farid Farman Ullah 呉 修一	Bakrie University (BU) Military Institute of Science & Technology (MIST) Institut Teknologi Bandung (ITB) The Università del Piemonte Orientale (UPO) 富山県立大学	有働

## 8 関係・協力団体

## 関係・協力団体一覧

本研究所全体として連携・協力していただいている団体は以下のとおりである（締結年月日順）。  
教員各自の活動のなかでの連携組織・団体については教員の自己評価報告書の項を参照のこと。

### 地方公共団体

締結年月日	団体名
平成25年 2月 8日	宮城県多賀城市
平成25年 6月25日	宮城県亘理町
平成25年 7月12日	宮城県岩沼市
平成25年 7月13日	宮城県気仙沼市
平成25年 8月21日	宮城県東松島市
平成25年12月24日	宮城県山元町
平成26年 1月 9日	宮城県仙台市
平成26年 2月 7日	岩手県陸前高田市
平成27年 8月 5日	宮城県名取市
平成29年 5月29日	宮城県石巻市
平成31年 1月21日	宮城県丸森町
令和 2年 4月 9日	岩手県大槌町

### 学校

締結年月日	団体名
平成26年 9月 8日	独立行政法人国立高等専門学校機構福島工業高等専門学校
平成28年 6月 1日	宮城県多賀城高校
平成30年 3月11日	国立大学法人宮城教育大学附属防災教育未来づくり総合研究センター
平成30年 7月31日	八戸工業大学インフラ・防災技術社会システム研究センター
令和 2年 3月26日	国立大学法人新潟大学災害・復興科学研究所

### その他（国立機関）

締結年月日	団体名
平成24年 4月 1日	独立行政法人科学技術振興機構（JST）
平成25年 4月24日	国立国会図書館
平成26年 9月10日	独立行政法人港湾空港技術研究所
平成27年 4月 1日	国立保健医療科学院
平成29年 2月 1日	国立研究開発法人防災科学技術研究所
平成29年 6月 7日	国立大学法人神戸大学大学院人文学研究科及び 大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館

2020 年度 東北大学 災害科学国際研究所 活動報告書

Annual Report 2020

International Research Institute of Disaster Science (IRIDeS)

Tohoku University

〒980-8572 仙台市青葉区荒巻字青葉 468-1 (事務局)

電話 022-752-2049 Fax 022-752-2013

令和 3 年 (2021 年) 9 月 1 日 発行

発行 東北大学災害科学国際研究所 所長 今村 文彦

編集 東北大学災害科学国際研究所 木戸元之

中鉢奈津子・鈴木通江・福島愛子・小森光

印刷 有限会社明倫社

